

## 医学部

第一内科学教室 (呼吸器内科)	3	放射線腫瘍学教室	100
第一内科学教室 (腎臓・リウマチ膠原病内科)	7	麻酔科学教室	101
第一内科学教室 (神経内科)	11	臨床検査医学教室	104
第二内科学教室 (循環器内科)	14	総合医療学教室	105
不整脈先進治療学研究講座	21	リハビリテーション医学教室	108
第二内科学教室 (血液内科)	22	リハビリテーション室	
第三内科学教室 (消化器内科)	23	(リハビリテーション医学教室)	109
第三内科学教室 (糖尿病・内分泌・代謝内科)	32	脳卒中医学教室	109
腫瘍内科学教室	35	医学教育学教室	113
高齢医学教室	42	解剖学教室 (肉眼解剖学)	114
精神神経科学教室	44	解剖学教室 (顕微解剖学)	115
小児科学教室	47	統合生理学教室	117
外科学教室 (消化器・一般外科)	49	細胞生理学教室	117
外科学教室 (呼吸器・甲状腺外科)	57	生化学教室 (1)	120
外科学教室 (乳腺外科)	59	生化学教室 (2)	120
小児外科学教室	60	薬理学教室	120
救急医学教室	60	病理学教室	121
脳神経外科学教室	63	感染症学教室 (微生物学)	125
心臓血管外科学教室	65	感染症学教室 (寄生虫学)	126
整形外科学教室	66	衛生学公衆衛生学教室	126
皮膚科学教室	73	法医学教室	128
形成外科学教室	76	共同研究施設 RI部門	129
泌尿器科学教室	79	フローサイトメトリー部門	129
遺伝性腎疾患研究講座	84	実験動物施設部門	129
眼科学教室	85	生物学教室	130
耳鼻咽喉科学教室	92	物理学教室	130
産科婦人科学教室	95	化学教室	130
放射線医学教室	99	英語学教室	130

第一内科学教室  
(呼吸器内科)

## 講演

1. 渡辺雅人, 滝澤始: 可溶性IL-33受容体 (sST2) は難治性好中球性喘息のフェノタイプマーカーである. 第37回気道分泌研究会, 札幌, 2018年4月7日.
2. 本多紘二郎, 石井晴之, 小川ゆかり, 田村仁樹, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 滝澤始: エベロリムスによる薬剤性肺障害の臨床的特徴. 第115回日本内科学会総会・講演会, 京都, 2018年4月13-15日.
3. 皿谷健: 循環器疾患との鑑別を含めた胸部聴診教育の実践. 第115回日本内科学会総会・講演会, 京都, 2018年4月13-15日.
4. 布川寛樹, 石井晴之, 中本啓太郎, 乾俊哉, 佐田充, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 滝澤始: 閉塞性換気障害(成人)におけるImpulse Oscillometry System (IOS) 有用性の検討. 第115回日本内科学会総会・講演会, 京都, 2018年4月13-15日.
5. 皿谷健, 大熊康介, 渡邊崇靖, 三倉直, 小林史, 麻生純平, 布川寛樹, 小川ゆかり, 田村仁樹, 本多紘二郎, 佐田充, 小田未来, 井上真奈美, 横山琢磨, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始: 胸水貯留とサイトカインに関するProspective study: VEGF, IL-8, TGF- $\beta$ の各疾患での検討. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018年4月27-29日.
6. 小林史, 横山琢磨, 石川周成, 佐久間翔, 平田彩, 小川ゆかり, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: STCLCにおける検体毎のPD-L1高発現となる因子の検討. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018年4月27-29日.
7. 小川ゆかり, 横山琢磨, 森田喜久子, 石川周成, 小林史, 石井晴之, 滝澤始: 進行・再発非小細胞肺癌に対するドセタキセル+ラムシルマブ併用療法の有効性および忍容性に関する検討. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018年4月27-29日.
8. 石田学, 石井晴之, 田澤立之, 小田未来, 麻生純平, 福田のぞみ, 半田知宏, 大河内眞也, 富井啓介, 井上義一, 中田光, 滝澤始: 肺胞蛋白症における肺胞マクロファージの細胞形態の評価. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018年4月27-29日.
9. 石井晴之, 中田光, 半田知宏, 大河内眞也, 石田学, 小田未来, 小出卓, 田澤立之, 富井啓介, 井上義一: 続発性肺胞蛋白症における臨床的特徴の解明. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018年4月27-29日.
10. 新井徹, 杉本親寿, 中田光, 山口悦郎, 瀬戸口靖弘, 一和多俊男, 海老名雅仁, 長和俊, 田澤立之, 石井晴之, 内田寛治, 木田博, 森本浩之輔, 松室昭子, 広瀬雅樹, 審良正則, 笠井孝彦, 北市正則, 井上義一: 感染症合併の自己免疫性肺胞蛋白症 (APAP) の全国調査報告. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018年4月27-29日.
11. 渡辺雅人, 中本啓太郎, 佐田充, 乾俊哉, 布川寛樹, 麻生純平, 田村仁樹, 小田未来, 小川ゆかり, 本多紘二郎, 横山琢磨, 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始: sST2/IL-33バランスは気管支上皮での好中球ケモカイン産生を制御する. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018年4月27-29日.
12. 倉井大輔, 田村仁樹, 皿谷健, 渡辺雅人, 石井晴之, 滝澤始: 肺炎球菌菌血症患者の特徴 敗血症の基準をみたくない患者の予後について. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018年4月27-29日.
13. 麻生純平, 石井晴之, 布川寛樹, 渡邊崇靖, 小川ゆかり, 本多紘二郎, 田村仁樹, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 滝澤始: びまん性肺疾患におけるインパルスオシレーション法の有用性の検討. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018年4月27-29日.
14. 井上義一, 新井徹, 杉本親寿, 中田光, 山口悦郎, 瀬戸口靖弘, 一和多俊男, 海老名雅仁, 長和俊, 田澤立之, 石井晴之, 内田寛治, 木田博, 森本浩之輔, 松室昭子, 広瀬雅樹, 審良正則, 笠井孝彦, 北市正則: 肺胞蛋白症難治化要因: 間質性肺疾患, 膠原病関連疾患合併に関する全国調査. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018年4月27-29日.
15. 渡邊崇靖, 石井晴之, 横田広佑, 鈴木末佳, 山田嘉仁, 滝澤始: 両側上葉の線維化が進行し, びまん性すりガラス影を呈した1例. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018年4月27-29日.
16. Watanabe M, Sada M, Nakamoto K, Inei T, Ogawa Y, Yokoyama T, Hond K, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: ST2 (sST2)/IL-33 balance regulates neutrophil-chemokine release from bronchial epithelial cells. American Thoracic Society 2018, USA, May 19th-24th, 2018.
17. Morita K, Watanabe M, Tamura M, Sada M, Nakamoto K, Inui T, Ogawa Y, Yokoyama T, Honda K, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: High Platelet Counts Predict Mortality Risk In Patients With Community-Acquired Pneumonia. American Thoracic Society 2018, USA, May 19th-24th, 2018.
18. Fukuda N, Watanabe M, Tamura M, Sada M, Nakamoto K, Inui T, Ogawa Y, Yokoyama T, Honda K, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: High Serum IgA Levels Predict Mortality Risk in Patients with Community-Acquired Pneumonia. American Thoracic Society 2018, USA, May 19th-24th, 2018.
19. Sada M, Watanabe M, Inei T, Nakamoto K, Takizawa H: Upregulation of CCL5 Production in the Airway Epithelium at the Time of the Viral Infection. American Thoracic Society 2018, USA, May 19th-24th, 2018.
20. Saraya T: Relationships among clinical features, HRCT findings, and a visual scoring system in patients with *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia. 第7回アジアマイコプラズマ学会 (AOM) 第45回日本マイコプラズマ学会 (JSM) 合同学会, 東京, 2018年5月18-20日.
21. Saraya T, Kinura H, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: The molecular epidemiology of respiratory pathogens associated with asthma attacks: a single-center observational study in Japan. 第7回アジアマイコプラズマ学会 (AOM) 第45回日本マイコプラズマ学会 (JSM) 合同学会, 東京, 2018年5月18-20日.
22. 小林史, 横山琢磨, 麻生純平, 渡邊崇靖, 大熊康介, 本多紘二郎, 石井晴之, 滝澤始: 超高精細CTを用いた仮想気管鏡の実臨床における有用性の検討. 第41回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2018年5月24-25日.
23. Ogawa Y, Umenura S, Murakami H, Shingoji M, Kobarashi N, Shimokawaji T, Daga H, Seto T, Okamoto N, Aono H, Fujiwara Y, Hara S, Kanaji N, Matsumoto S, Udagawa H, Yoh K, Goto K: Large-scale nationwide genomic screening system for small cell lung cancer in Japan. 2018 ASCO ANNUAL MEETING, USA, June 1st-5th, 2018.
24. 皿谷健: 呼吸音について. 第1回聴診のススメin東京, 東京, 2018年6月3日.
25. 石井晴之: 私の胸部エックス線写真の読影法. 中野胸部レントゲン読影会, 東京, 2018年6月8日.
26. 渡辺雅人: 呼吸器感染症におけるPCT測定の臨床的意義. PCT WEB SEMINAR, 東京, 2018年6月13日.
27. 渡辺雅人: 難治性喘息の新展開: 新規治療戦略の構築を目指した当科の試み. 三鷹市呼吸器病研究会, 三鷹, 2018年6月27日.

28. 皿谷健:呼吸器診療のクリニカルパール. 第88回多摩呼吸器懇話会, 三鷹, 2018年6月28日.
29. 宮岡智花, 横山琢磨, 齊藤正興, 福田のぞみ, 佐久間翔, 三倉直, 小川ゆかり, 田村仁樹, 石井晴之, 滝澤始, 藤原正親:扁平上皮癌成分の再発でT790M陽性を認めた腺扁平上皮肺癌の1例. 第182回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2018年7月7日.
30. 皿谷健:日常診療に潜む肺高血圧症. 5th Actelion Academic Forum on Pulmonary Hypertension, 東京, 2018年7月8日.
31. 皿谷健:肺音(呼吸音)を聞いて、身体所見を見て考える内科診療. 第151回呼吸器疾患の知識をふやす会, 横浜, 2018年7月10日.
32. 井上真奈美, 皿谷健, 小田未来, 布川寛樹, 藤原正親, 滝澤始:家族内発症した夏型過敏性肺炎の検討. 第49回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会, 横浜, 2018年7月20-21日.
33. 齊藤正興, 三倉直, 横山琢磨, 福田のぞみ, 吉田悠貴, 宮岡智花, 江本かおり, 佐久間翔, 小川ゆかり, 石井晴之, 滝澤始:Osimertinib+Bevacizumab併用治療中に難治性下腿潰瘍を呈した肺腺癌の一例. 第230回日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 2018年7月21日.
34. 皿谷健:当院における深在性真菌症の治療について. 第91回 Tokyo Infection Conference, 東京, 2018年8月3日.
35. 皿谷健:呼吸器診療のクリニカルパール 身体所見(聴診)を中心に. 感染症アドバンス・サマースクール2018, 東京, 2018年8月3日.
36. 皿谷健:呼吸器科医が知っておくと役立つ身体所見. 第58回臨床呼吸機能講習会, 東京, 2018年8月29-31日.
37. 下田真史, 皿谷健, 大熊康介, 平田彩, 田村仁樹, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 藤原正親, 石井晴之, 滝澤始:肺炎を契機にカルタゲナー症候群と診断した高齢男性の1例. 第174回日本結核病学会関東支部学会 第231回日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 東京, 2018年9月1日.
38. 三倉直, 福田のぞみ, 小田未来, 本多紘二郎, 田村仁樹, 小川ゆかり, 渡辺雅人, 横山琢磨, 皿谷健, 岡部直太, 大窪泰弘, 藤原正親, 石井晴之, 滝澤始:両側肺野に多発結節影を呈した急性好酸球肺炎の1例. 第174回日本結核病学会関東支部学会 第231回日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 東京, 2018年9月1日.
39. 工藤智大, 大熊康介, 中島裕美, 江本かおり, 井上真奈美, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始:ペムプロリズマブによる薬剤性肺障害治療中に脾摘後重症感染を併発し死亡した1例. 第174回日本結核病学会関東支部学会 第231回日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 東京, 2018年9月1日.
40. 春日啓介, 高倉祐樹, 大熊康介, 三倉直, 小田未来, 本多紘二郎, 田村仁樹, 小川ゆかり, 横山琢磨, 皿谷健, 藤原正親, 石井晴之, 滝澤始:ステロイド不応性で、胸腔鏡下肺生検後に急性増悪を呈した剥離性間質性肺炎の一例. 第174回日本結核病学会関東支部学会 第231回日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 東京, 2018年9月1日.
41. 石井晴之:慢性咳嗽〜私の診断アプローチ〜. 調布市呼吸器疾患病診断連携の会, 調布, 2018年9月7日.
42. 皿谷健:肺高血圧症を見つけよう 呼吸器疾患に合併した肺高血圧症. 第66回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018年9月7-9日.
43. 皿谷健:基礎編 肺音と身体所見から考える内科診療. 第66回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018年9月7-9日.
44. 皿谷健:呼吸器診療のクリニカルパール. 第6回 Yamaguchi Clinical Infectious Disease Form, 宇部, 2018年9月10日.
45. Ishii H, Tazawa R, Saraya T, Inoue Y, Nakata K: Prognostic analysis of secondary pulmonary alveolar proteinosis: Inspection by one of the world's largest data. European Respiratory Society International Congress 2018, France, September 15th-19th, 2018.
46. 横山琢磨:肺がん治療の進歩 自分に適した治療を選択する. 杏林大学公開講演会, 三鷹, 2018年9月15日.
47. Ishii H: New insights and projects on secondary PAP. PAP Update and Guideline Meeting, Germany, September 22th, 2018.
48. 皿谷健:呼吸器のフィジカルアセスメント. フィジカルアセスメント研修会, 東京, 2018年9月29日.
49. Watanabe M, Inui T, Sada M, Nakamoto K, Oda M, Ogawa Y, Yokoyama T, Honda K, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: sST2/IL-33 balance regulates neutrophilic inflammation in the human airways. World Congress of Asthma 2018, Tokyo, October 3rd-6th, 2018.
50. 皿谷健:呼吸器診療のクリニカルパール Focus on physical examination. 第28回九州ウフィーチ会, 長崎, 2018年10月5日.
51. 石井晴之:骨髄異形成症候群に合併した続発性肺胞蛋白症における新たな知見. 第98回間質性肺炎疾患研究会, 東京, 2018年10月19日.
52. 石井晴之:初めて肺胞蛋白症と言われた方のための基本事項. 第10回肺胞蛋白症勉強会, 東京, 2018年10月23日.
53. 皿谷健:歴史から振り返るマイコプラズマ感染症. 第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第65回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2018年10月24-26日.
54. 皿谷健:第24回症例から学ぶ感染症セミナー. 第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第65回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2018年10月24-26日.
55. 渡辺雅人:咳嗽診療のエッセンス. 調布市耳鼻科医会, 東京, 2018年10月30日.
56. 皿谷健:呼吸のフィジカルアセスメントを極める フィジカルアセスメントによる診断. 第28回呼吸セミナー, 福岡, 2018年11月4日.
57. 皿谷健:循環器疾患との鑑別を含めた実際の胸部聴診. 第28回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 千葉, 2018年11月9-10日.
58. 皿谷健:インフルエンザ感染症のトピック case based discussion. 第83回町田市薬剤師会学術講演会, 町田, 2018年11月15日.
59. 皿谷健:呼吸器疾患の診方/ピットフォール 実際の肺音を中心に. 田園調布呼吸器勉強会, 東京, 2018年11月16日.
60. 福田のぞみ, 渡辺雅人, 田村仁樹, 佐田充, 三倉直, 大熊康介, 小田未来, 小川ゆかり, 高倉祐樹, 本多紘二郎, 横山琢磨, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始:市中肺炎における重症度と血清IgA値との関連について. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
61. 春日啓介, 高倉祐樹, 三倉直, 大熊康介, 小田未来, 小川ゆかり, 田村仁樹, 渡辺雅人, 横山琢磨, 皿谷健, 藤原正親, 石井晴之, 滝澤始:ステロイド不応性で、胸腔鏡下肺生検後に急性増悪を呈した剥離性間質性肺炎の一例. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
62. 宮岡智花, 横山琢磨, 齊藤正興, 福田のぞみ, 佐久間翔, 三倉直, 小川ゆかり, 大熊康介, 小田未来, 高倉祐樹, 本多紘二郎, 田村仁樹, 渡辺雅人, 皿谷健, 藤原正親, 大塚弘毅, 菅間博, 石井晴之, 滝澤始:扁平上皮癌成分の再発でT790M陽性を認めた. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
63. 三倉直, 福田のぞみ, 大熊康介, 小田未来, 小川ゆかり, 高倉祐樹, 本多紘二郎, 田村仁樹, 渡辺雅人, 横山琢磨, 皿谷健, 石井晴之, 田村仁樹, 滝澤始:両側肺野に多発結節影を呈した急性好酸球肺炎の1例. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.

64. 齊藤正興, 三倉直, 横山琢磨, 福田のぞみ, 大熊康介, 小田未来, 小川ゆかり, 高倉祐樹, 田村仁樹, 渡辺雅人, 皿谷健, 藤原正親, 大塚弘毅, 石井晴之, 滝澤始: Osimertinib + Bevacizumab併用療法中に難治性腿潰瘍を呈したEGFR陽性肺腺癌の1例. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
65. 高倉祐樹, 春日啓介, 三倉直, 大熊康介, 小田未来, 本多紘二郎, 田村仁樹, 横山琢磨, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: 自宅の清掃が不十分なために引き起こされた慢性過敏性肺臓炎の1例. 第232回日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 2018年11月17日.
66. Ishii H, Tazawa R, Saraya T, Ishida M, Nakamoto K, Inoue Y, Nakata K, Takizawa H: Morphological analysis of alveolar macrophage in patients with pulmonary alveolar proteinosis: Let's reflect the cell on a bronchoalveolar lavage fluid (BALF) specimen-part1. 23rd Congress of the Asia Pacific Society of Respiriology, Taiwan, November 29th–December 2th, 2018.
67. 小川ゆかり, 横山琢磨, 中島裕美, 佐久間翔, 小林史, 皿谷健, 藤原正親, 菅間博, 石井晴之, 滝澤始: 当院における原発性肺癌に合併した癌性髄膜炎患者の臨床的検討. 第59回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018年11月29日–12月1日.
68. 皿谷健: 経静脈拍動の同定と経静脈圧の評価. 経静脈拍動の評価. 多摩循環器診察講習会, 三鷹, 2018年12月22日.
69. 皿谷健: 胸部X線写真を駆使する. 第16回胸部レントゲン勉強会学術講演会, 沖縄, 2019年1月18日.
70. 皿谷健: 呼吸器疾患. 循環器Physical Examination 講習会, 神戸, 2019年1月19–20日.
71. 石井晴之: 呼吸器疾患における消化器診療の有用性. 学術講演会～呼吸器疾患と消化器疾患を考える～, 東京, 2019年2月14日.
72. 石井晴之: 抗線維化薬の治療～Nintedanibの使用経験から～. IPF Meet the Expert, 東京, 2019年2月23日.
73. 皿谷健: 呼吸器疾患. 総合診療スキルアップセミナー2018, 東京, 2019年2月24日.
74. 石井晴之: 外来診療におけるピットフォール—慢性咳嗽の鑑別診断をもとに—. 小金井市医師会医療安全講習会, 小金井, 2019年2月27日.
75. 皿谷健: 肺音(呼吸音)を聞いて、身体所見を見て考える内科診療. 第539回医療技術セミナー, 東京, 2019年3月3日.
76. 石井晴之: 抗線維化薬の治療～Nintedanibの使用経験から～. 城南呼吸器疾患講演会, 東京, 2019年3月8日.
77. 小川ゆかり: 肺がんを知ろう 進化する肺がん治療. 市民公開講座, 武蔵野, 2019年3月23日.
- patients with eosinophilic granulomatosis with polyangiitis. *Respir Med* 139:101-105, 2018.
4. Saraya T, Ohkuma K, Tsukahara Y<sup>1</sup>, Watanabe T, Kurai D, Ishii H, Kimura H<sup>2</sup>, Goto H<sup>3</sup>, Takizawa H (<sup>1</sup>Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>National Institute of Infectious Diseases, <sup>3</sup>Fukujuji Hospital): Correlation between clinical features, high-resolution computed tomography findings, and a visual scoring system in patients with pneumonia due to *Mycoplasma pneumoniae*. *Respir Investig* 56(4):320-325, 2018.
5. Saraya T, Fukuoka K<sup>1</sup>, Maruno H<sup>2</sup>, Komagata Y<sup>1</sup>, Fujiwara M<sup>3</sup>, Kaname S<sup>1</sup>, Arimura Y<sup>1</sup>, Yamada A<sup>1</sup>, Takizawa H (<sup>1</sup>Department of Rheumatology and Nephrology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Orthopedics, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Tenosynovitis with Rice Body Formation Due to *Mycobacterium Intracellulare* Infection After Initiation of Infliximab Therapy. *Am J Case Rep* 7:19:656-662, 2018.
6. Saraya T, Light RW<sup>1</sup>, Fujiwara M<sup>2</sup>, Takizawa H (<sup>1</sup>Vanderbilt University Medical Center <sup>2</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Diagnostic clue for pleural metastasis of malignant melanoma. *J Gen Fam Med* 19(6):217-218, 2018.
7. Inui T, Watanabe M, Nakamoto K, Sada M, Hirata A, Nakamura M, Honda K, Ogawa Y, Takata S, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Wada H, Ishii H, Takizawa H: Bronchial epithelial cells produce CXCL1 in response to LPS and TNF $\alpha$ : A potential role in the pathogenesis of COPD. *Exp Lung Res* 44(7):323-331, 2018.
8. Saraya T, Nunokawa H, Ohkuma K, Watanabe T, Sada M, Inoue M, Honda K, Oda M, Ogawa Y, Tamura M, Yokoyama T, Kurai D, Kimura H<sup>1</sup>, Ishii H, Goto H<sup>2</sup>, Takizawa H (<sup>1</sup>National Institute of Infectious Diseases, <sup>2</sup>Fukujuji Hospital): A Novel Diagnostic Scoring System to Differentiate between *Legionella pneumophila* Pneumonia and *Streptococcus pneumoniae* Pneumonia. *Intern Med* 1;57(17):2479-2487, 2018.
9. Saraya T, Fujiwara M<sup>1</sup>, Kimura H<sup>2</sup>, Takei H<sup>3</sup>, Takizawa H (<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>National Institute of Infectious Diseases, <sup>3</sup>Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University School of Medicine): A 17-year-old woman with a solitary, mixed squamous cell and glandular papilloma of the bronchus. *Respirol Case Rep* 30:7(2):e00393, 2018.
10. Watanabe M, Nakamoto K, Inui T, Sada M, Honda K, Tamura M, Ogawa Y, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: Serum sST2 levels predict severe exacerbation of asthma. *Respir Res* 3:19(1):169, 2018.
11. Inoue M, Saraya T, Oda M, Fujiwara M<sup>1</sup>, Takizawa H (<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): A Case of Choroidal Metastasis from Small-Cell Lung Carcinoma. *Openventio publishers*, 2018. DOI: <http://dx.doi.org/10.17140/CSMMOJ-4-124>.
12. Saraya T, Shimura C<sup>1</sup>, Inaoka S<sup>1</sup>, Takizawa H (<sup>1</sup>Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine): Bilateral Symmetric Thalamic Metastasis in a Patient with Small Cell Lung Cancer. *Openventio publishers*, 2018. DOI: <http://dx.doi.org/10.17140/CSMMOJ-4-123>.
13. Oda M, Saraya T, Shirai T, Ishikawa N, Fujiwara M<sup>1</sup>, Takizawa H (<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Multiple huge "cluster"

## 論文

1. Saraya T, Ohkuma K, Watanabe T, Mikura S, Kobayashi F, Aso J, Nunokawa H, Honda K, Ogawa Y, Tamura M, Sada M, Oda M, Inoue M, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Kimura H, Takizawa H: Diagnostic Value of Vascular Endothelial Growth Factor, Transforming Growth Factor- $\beta$ , Interleukin-8, and the Ratio of Lactate Dehydrogenase to Adenosine Deaminase in Pleural Effusion. *Lung* 196(2):249-254, 2018.
2. Shimoda M, Saraya T, Yonetani S<sup>1</sup>, Araki K<sup>1</sup>, Takizawa H (<sup>1</sup>Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): The significance of bacterial engulfment in Gram-stained sputum in patients with respiratory infections. *Medicine (Baltimore)* 97(14):e0150, 2018.
3. Nakamoto K, Saraya T, Ogawa Y, Ishii H, Takizawa H: Comparison of findings on thoracic computed tomography with the severity and duration of bronchial asthma in

- and "galaxy" signs on chest radiography in a patient with pulmonary tuberculosis. *Respirol Case Rep* 25;7(3): e00398, 2019.
14. Saraya T, Fujiwara M<sup>1</sup>, Mikura S, Fukuda N, Ishii H, Takizawa H (1Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Answer Found in a Blowing Sound: Amphoric Breathing Due to Cyst Formation in Pulmonary Adenocarcinoma. *Intern Med* 58(3):423-425, 2019.
  15. Saraya T, Tamura M, Kasuga K, Fujiwara M, Takizawa H: Lung adenocarcinoma and anti-transcriptional intermediary factor 1-gamma positive dermatomyositis complicated with spontaneous oesophageal rupture. *Respirol Case Rep* 4;7(3):e00403, 2019.
  16. Saraya T, Ohkuma K, Koide T, Goto H<sup>1</sup>, Takizawa H, Light RW<sup>2</sup>.(1Fukujiji Hospital, 2Vanderbilt University Medical Center): A novel diagnostic method for distinguishing parapneumonic effusion and empyema from other diseases by using the pleural lactate dehydrogenase to adenosine deaminase ratio and carcinoembryonic antigen levels. *Medicine (Baltimore)* 98(13):e15003, 2019.
  17. Kitamura N<sup>1</sup>, Ohkouchi S<sup>2</sup>, Tazawa R<sup>1</sup>, Ishii H, Takada T<sup>1</sup>, Sakagami T<sup>3</sup>, Tanaka T<sup>1</sup>, Nakata K<sup>1</sup> (1 Niigata University Medical and Dental Hospital, 2 Tohoku University, 3 Kumamoto University Hospital): Incidence of autoimmune pulmonary alveolar proteinosis estimated using Poisson distribution. *ERJ Open Res* 18;5(1): pii: 00190-2018, 2019.
  18. 麻生純平, 石井晴之: びまん性肺疾患における末梢気道病変 関節リウマチに合併した気管支拡張症を中心に. *呼吸器内科* 33(4): 421-429, 2018.
  19. 乾俊哉, 滝澤始: IOS、MostGraphによる評価. *呼吸器内科* 33(4): 387-393, 2018.
  20. 皿谷健: 【明日のために解くべし! 総合内科問題集】(Question27)58歳の男性 主訴 顔面の紅斑, 咳嗽. *Medicina* 55(5): 619-620, 2018.
  21. 皿谷健: 【明日のために解くべし! 総合内科問題集】(Question24)72歳の男性 主訴 労作時息切れ, 湿性咳嗽. *Medicina* 55(5): 612-614, 2018.
  22. 皿谷健: 【明日のために解くべし! 総合内科問題集】(Question23)60歳の男性 主訴 6ヵ月前から続く咳嗽. *Medicina* 55(5): 609-610, 2018.
  23. 皿谷健: 【特殊病態における呼吸器感染症】 免疫抑制状態に合併する呼吸器感染症 画像所見を含めて. *呼吸器内科* 33(6): 564-569, 2018.
  24. 武内朝子<sup>1</sup>, 加藤峰幸<sup>1</sup>, 下田由莉江<sup>1</sup>, 唐帆健浩<sup>2</sup>, 滝澤始, 大山 学<sup>1</sup> (1杏林大学・医・皮膚科学, 2杏林大学・医・耳鼻咽喉科学): 頸部食道穿孔による嚥下障害を認めた抗TIF-1γ抗体陽性皮膚筋炎の1例. *臨床皮膚科* 72(7): 493-498, 2018.
  25. 皿谷健, 倉井大輔, 下田真史, 大熊康介, 滝澤始: 【特殊病態における呼吸器感染症】 免疫抑制状態に合併する呼吸器感染症 画像所見を含めて. *呼吸器内科* 33(6): 564-569, 2018.
  26. 渡辺雅人, 滝澤始: 喘息におけるバイオマーカー. *呼吸器内科* 34(1): 47-54, 2018.
  27. 皿谷健: 【抗菌薬選択の実際-AMR(薬剤耐性)対策は日々の診療から】 起因菌と有効な抗菌薬をあわせて理解する グラム染色で染色されない菌 *Legionella pneumophila*, *Mycoplasma pneumoniae*, *Chlamydia pneumoniae* グラム染色で見えない呼吸器系感染症の起因菌. *内科* 122(1): 131-138, 2018.
  28. 渡辺雅人, 滝澤始: 呼気ガス測定の将来 気管支喘息における呼気NO (FeNO) の位置付け. *Medical Gases* 20(1): 15-16, 2018.
  29. 小田未来, 滝澤始: 【COPD 最新の知見に基づく実地診療の進め方】 セミナー 最新のCOPD実地診療のポイント整理と活用 COPDにおける予防の話題. *Medical Practice* 35(8): 1247-1250, 2018.
  30. 皿谷健: 【喘息・COPD新薬、新ガイドラインキャッチアップ!】 喘息・COPDの病態と治療 喘息・COPD患者のみかた. *薬事* 60(12): 2197-2202, 2018.
  31. 皿谷健: 【クリニカル・パールPremium! 憧れのカリスマ医師はかく語りき】 シニアカリスマ医師はかく語りき リチャード・W・ライト先生はかく語りき. *総合診療* 28(10): 1390-1393, 2018.
  32. 滝澤始: 「呼吸器感染症の分子メカニズム」呼吸器感染症における炎症の分子病態とその治療戦略. *日本化学療法学会雑誌* 67(2): 161-168, 2019.
  33. 滝澤始: 気管支喘息診療の最前線. *東京都医師会雑誌* 72(1): 9-12, 2019.
  34. 滝澤始, 西沢知剛: 【肉芽腫形成と呼吸器疾患: 診断と治療の最前線】 原因不明の肉芽腫症 EGPA (好酸球性多発血管炎性肉芽腫症). *呼吸器内科* 35(2): 136-141, 2019.
  35. 皿谷健: 胸膜疾患の鑑別. *呼吸器内科* 35(2): 173-176, 2019.
  36. 皿谷健: 【あなたも名医! 最新 侮れない肺炎に立ち向かう! 改題改訂 非専門医のための肺炎診療指南書】 (2章) 病院での市中肺炎の治療 症例に応じたベストチョイスを! 非感染性肺炎を疑ったらどうする? 特発性間質性肺炎、薬剤性肺炎など. *jmed mook*(60): 94-102, 2019.
  37. 横山琢磨: 【肺癌 免疫・ゲノム医療で急展開する肺癌治療】 最新の实地診療のポイントと整理 高齢者の肺癌治療. *Medical Practice* 36(2): 223-227, 2019.
- ### 著書
1. 皿谷健: 電話口から見えた疾患 歴史は繰り返す. 病歴と診察で診断する感染症 system1とsystem2. 志水太郎, 忽那賢志編集. 東京, 医学書院, 2018. p.43-48.
  2. 皿谷健: 呼吸器感染症. 成人看護学9 感染症/アレルギー/免疫/膠原病. 内藤俊夫, 伊藤道子, 岡崎仁昭, 宗村美江子, 佐藤健夫, 新藤悦子編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.58-56.
  3. 皿谷健: 疾病の成り立ちと回復の促進10, 疾病と治療7. 成人看護学9 感染症/アレルギー/免疫/膠原病. 内藤俊夫, 伊藤道子, 岡崎仁昭, 宗村美江子, 佐藤健夫, 新藤悦子編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.50-55.
  4. 皿谷健: 臨床泌尿器科. 診断力が高まる解剖 x 画像所見 x 身体診察マスターブック. Sagar Dugani / Jeffrey E. Alfonsi / Anne M. R. Agur / Arthur F. Dalley編集. 東京, 医学書院, 2018. p.67.
  5. 皿谷健: 慢性呼吸器疾患の感染症. *内科*(Vol.123 No.2). 東京, 南江堂, 2019. p.193-196.
  6. 皿谷健: 第2章 病院での市中肺炎の治療—症例に応じたベストチョイスを! 日感染症肺炎を疑ったらどうする?—特発性間質性肺炎、薬剤性肺炎など. *Jmedmook60* あなたも名医! 最新 侮れない肺炎に立ち向かう! 改題改訂. 山本舜悟編者. 東京, 日本医事新報社, 2019. p.94-102.
- ### その他
1. 皿谷健: 英文でのCase Reportの書き方. 基礎臨床 共通講義II, 三鷹, 2018年8月1日.
  2. 滝澤始: 第58回臨床呼吸機能講習会主催, 東京, 2018年8月29-31日.
  3. 皿谷健: 第8回肺音(呼吸音)研究会主催, 東京, 2018年11月11日.

4. 渡辺雅人: Presidential Award受賞. World Congress of Asthma 2018, Tokyo, October 3rd-6th, 2018.
5. 桂秀樹, 國近尚美, 皿谷健, 濱口俊一, 黒沼幸治: 呼吸器コモンディーズ診療における多面的アプローチの重要性】呼吸器コモンディーズ診療の医療連携. 日本内科学会雑誌 107(6): 1056-1069, 2018.
6. 皿谷健: 肺音(呼吸音)は疾患を想定した聴診を行う! 聴診部位にもこだわろう!. 聴くぞう ニュースレターNO3, [https://3sportal.telemedica.co.jp/nl\\_003](https://3sportal.telemedica.co.jp/nl_003).

**第一内科学教室  
(腎臓・リウマチ膠原病内科)**

**講演**

1. 軽部美穂: ループス腎炎に対する腎移植(内科からの提言). 多摩エリア腎移植勉強会, 立川, 2018年4月24日.
2. 軽部美穂, 内田裕子, 窪田沙也加, 石出崇, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也: 高齢発症の抗リン脂質症候群 (APS) 腎症2症例の検討. 第62回日本リウマチ学会総会, 東京, 2018年4月26-28日.
3. 石出崇, 福岡利仁, 兵動智夏, 前園知宏, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: 皮疹と血清CK上昇で発症し、皮膚筋炎と鑑別を要した抗HMGCR抗体陽性壊死性筋炎の一例. 第62回日本リウマチ学会総会, 東京, 2018年4月26-28日.
4. 前園知宏, 福岡利仁, 兵動智夏, 石出崇, 駒形嘉紀, 要伸也: 強直性脊椎炎へのIgA腎症とIgA血管炎の合併. 第62回日本リウマチ学会総会, 東京, 2018年4月26日-28日.
5. 福岡利仁, 兵動智夏, 石出崇, 前園知宏, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: 高齢発症関節リウマチ (EORA) 患者に対する生物学的製剤治療に関する臨牀的検討. 第62回日本リウマチ学会総会, 東京, 2018年4月26-28日.
6. 兵動智夏, 福岡利仁, 石出崇, 竹森愛, 前園知宏, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: 皮膚筋炎再燃時に乳糜胸水を来した1例. 第62回日本リウマチ学会総会, 東京, 2018年4月26-28日.
7. 駒形嘉紀: 最新の関節リウマチ治療. 多摩・城西リウマチ治療連携フォーラム, 東京, 2018年5月19日.
8. 福岡利仁: CKD (慢性腎臓病) とは. 三鷹市民公開講座腎臓について考えるフォーラム, 三鷹, 2018年5月19日.
9. 川上貴久, 兵動智夏, 軽部美穂, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也: ANCA陽性のループス腎炎の一例. Autoimmune Disease Seminar in TAMA, 立川, 2018年5月24日.
10. Kaname S, Sada K: A nation-wide prospective cohort study in Japanese patients with ANCA-associated vasculitis (AAV). ERA-EDTA-JSN joint symposium, 55th ERA-EDTA Congress, Denmark, May 25, 2018.
11. 川嶋聡子, 李恵怜, 久木元光, 高橋孝幸, 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 下山田博明, 柴原純二, 窪田博, 駒形嘉紀, 要伸也: 鎖骨下動脈瘤破裂から診断に至ったIgG4関連動脈炎の治療経験. 第61回多摩リウマチ研究会, 武蔵野, 2018年6月2日.
12. 遠藤彰子, 駒形嘉紀, 山岸好実, 川嶋聡子, 福岡利仁, 軽部美穂, 有村義宏, 要伸也: 好中球が放出するNeutrophil Extracellular Traps (NETs) は腎糸球体内皮細胞との共培養により内皮細胞を障害する. 第61回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018年6月8-10日.
13. 軽部美穂, 小澤裕子, 池谷紀子, 増古紳太郎, 駒形嘉紀, 要伸也: 難治性多発血管炎性肉芽腫性に対するリツキシマブの維持療法におけるB細胞抑制と血管炎の再燃. 第61回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018年6月8-10日.
14. 川嶋聡子, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: MPO-ANCA関連腎炎における糸球体毛細血管障害の病理組織学的検討- MPO-CD20-Plasma Cellの関与-. 第61回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018年6月8-10日.
15. 福岡利仁, 兵動智夏, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也: 血清Na濃度は肺炎の予後予測因子になるか. 第61回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018年6月8-10日.
16. 要伸也, 針谷正祥: 難治性血管炎に関する調査研究班の研究成果と課題. 公的研究報告 (AMED等) -3. 第61回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018年6月8-10日.
17. 加藤秀樹, 宮川義隆, 日高義彦, 井上徳光, 伊藤秀一, 香美祥二, 要伸也, 松本雅則, 水野正司, 松田貴久, 下野明彦, 丸山彰一, 藤村吉博, 南学正臣, 岡田浩一: 成人aHUS患者に対するエクリズマブ市販後調査の中間解析. 第61回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018年6月8-10日.
18. 李恵怜, 高橋孝幸, 久木元光, 駒形嘉紀, 要伸也: 病理所見からIgG4関連疾患の診断に至った右鎖骨下動脈瘤破裂に一例. 第59回関東リウマチ研究会, 東京, 2018年6月9日.
19. Endo A, Komagata Y, Yamagishi K, Ikegaya N, Fukuoka M, Karube M, Arimura Y, Kaname S: TWO DISTINCT SUBSETS OF LOW DENSITY GRANULOCYTES IN ANCA ASSOCIATED VASCULITIS, EULAR2018, Netherlands, June 16, 2018.
20. 下田佐知子, 軽部美穂, 鈴木裕子, 山田裕信, 西川あや子, 濱井章, 駒形嘉紀, 要伸也: 難治性関節リウマチに対する白血球除去療法 (LCAP) の有効性に関する検討. 第63回日本透析医学会, 神戸, 2018年6月29日-7月1日.
21. 軽部美穂, 山田裕信, 鈴木裕子, 浜井章, 西川あや子, 要伸也: 維持透析患者における血中可溶性CD40リガンド (sCD40L) 濃度の検討. 第63回日本透析医学会, 神戸, 2018年6月29日-7月1日.
22. 小西文晴, 和久昌幸, 佐々木豪, 三宅伸之, 本田恒雄, 山田明, 要伸也: 血液透析導入後に巨大腹直筋鞘血腫を合併したネフローゼ症候群の1例. 第63回日本透析医学会, 神戸, 2018年6月29日-7月1日.
23. 早川哲, 小路仁, 内田裕子, 駒形嘉紀, 要伸也: 当院で急速進行性糸球体腎炎と診断し血液透析導入となった5例. 第63回日本透析医学会, 神戸, 2018年6月29日-7月1日.
24. 増古紳太郎, 軽部美穂, 久木元光, 駒形嘉紀, 要伸也: NSAIDsによる薬剤性急性尿細管壊死により急性腎障害を呈し、一時的に血液透析を要した一例. 第63回日本透析医学会, 神戸, 2018年6月29日-7月1日.
25. 兵動智夏, 福岡利仁, 石出崇, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也: 悪性関節リウマチ (MRA) に合併したRheumatoid neutrophilic dermatitis (RND) に対し血漿交換 (PE) が奏効した1例. 第63回日本透析医学会, 神戸, 2018年6月29日-7月1日.
26. 要伸也: 腎臓病療養指導士制度について 保存期から透析に至るCKDのトータルケア. 第63回日本透析医学会, 神戸, 2018年6月29日-7月1日.
27. 李恵怜, 池谷紀子, 國友理恵, 小林知志, 久木元光, 石出崇, 小澤裕子, 片岡郁穂, 高橋孝幸, 清水英樹, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也: 血球貧血症候群を合併した難治性成人発症Still病に対し血漿交換療法が有効であった2症例. 第63回日本透析医学会, 神戸, 2018年6月29日-7月1日.
28. 駒形嘉紀: 関節リウマチにおけるT細胞の役割. 第155回阪神合同C.P.C., 大阪, 2018年6月30日.
29. 要伸也: 妊娠関連TMAに関与するaHUSの鑑別と管理. ランチョンセミナー9, 第54回日本周産期・新生児医学会学術集会, 東京, 2018年7月9日.
30. 要伸也: ANCA関連腎炎の病態. 第19回東京腎炎・ネフローゼ研究会, 東京, 2018年7月14日. (口頭発表)
31. 要伸也: 膠原病・血管炎に伴う腎障害の診断と治療. 日本内科学会関東支部主催 第58回生涯教育講演会プログラム, 東京, 2018年7月15日.
32. 要伸也: 腎臓病療養指導士制度について. 日本腎臓病協会設立記念式典, 東京, 2018年7月16日.

33. 要伸也：難治性腎疾患と分子標的薬（リツキサンなど）：ANCA関連腎炎.第61回日本腎臓学会学術総会 サテライトシンポジウム, さいたま, 2018年7月29日.
34. 軽部美穂：脊椎性関節炎について. 第9回リウマチ・膠原病教室, 三鷹, 2018年9月1日.
35. 駒形嘉紀：膠原病ってどんな病気?. 第9回リウマチ・膠原病教室, 三鷹, 2018年9月1日.
36. Hydo C, Fukuoka K, Mori K, Kunitomo R, Ishide T, Maesono T, Kawakami T, Komagata Y, Kaname S: A case of rheumatoid neutrophilic dermatitis complicated with rheumatoid vasculitis successfully treated with plasma exchange and glucocorticoid. 20th Asia pacific league of associations for rheumatology congress (APLAR2018) 台湾. 2019年9月6日.
37. 増古紳太郎, 軽部美穂, 小林知志, 池谷紀子, 下山田博明, 駒形嘉紀, 要伸也：巨細胞性動脈炎治療中に不明熱と腎腫大を来した一例.第22回腎臓病質障害研究会, 東京, 2018年9月8日.
38. Hyeryong Lee, Kawashima S, Takahashi T, Kukimoto H, Inaba Y, Endo H, Shimoyamada H, Shibahara J, Kubota H, Komagata Y, Kaname S: A case of IgG4 related disease diagnosed by pathological findings of ruptured subclavian aneurysm. APLAR 2018, Taiwan. September 8, 2018.
39. 福岡利仁, 兵動智夏, 要伸也：肺炎における血清Na値についての臨床的検討.第50回臨床体液研究会, 東京, 2018年9月22日.
40. 要伸也：aHUSの疾患概念と治療の実際. 第48回日本腎臓学会西部学術大会, 徳島, 2018年9月29日.
41. 要伸也：ANCA関連血管炎・腎炎の病態と治療.第26回北陸腎疾患・血液浄化療法研究会, 金沢, 2018年10月13日.
42. 駒形嘉紀：関節リウマチの最新の薬物治療.三鷹市薬剤師会学術講演会, 三鷹, 2018年10月17日.
43. 山本陣, 兵動智夏, 川上貴久, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也：内視鏡検査にてランタン沈着症を認めた血液透析患者の1例.第48回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2018年10月20-21日.
44. 竹森愛, 軽部美穂, 川上貴久, 高橋孝幸, 中林公正, 駒形嘉紀, 要伸也：抗リウマチ薬使用後に膜性腎症と著明なポドサイト障害を認めた1例.第48回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2018年10月20-21日.
45. 兵動智夏, 福岡利仁, 石出崇, 駒形嘉紀, 要伸也：尿毒症症状として急性関節炎を認めた3例.第48回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2018年10月20-21日.
46. 要伸也：二次性腎疾患の最近の知見：ANCA関連血管炎・腎炎の最新知見. 第48回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2018年10月20-21日.
47. 李恵怜, 兵動智夏, 久木元光, 石出崇, 前園知宏, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也：心アミロイドーシスによる低心機能により透析困難となった一例 第48回日本腎臓学会東部学術大会, 東京,2018年10月20-21日.
48. 國沢恭平, 池谷紀子, 宮本彩子, 國友理恵, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也：急性腎障害の経過をたどった肉芽腫性間質性腎炎を伴うIgA腎症の一例. 第48回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2018年10月20-21日.
49. 國友理恵, 軽部美穂, 兵動智夏, 石出崇, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也：長期関節炎後に壊死性血管炎を合併したMPO-ANCA陽性ループス腎炎の1例.第48回日本腎臓学会東部学術大会, 東京,2018年10月20-21日.
50. 福岡利仁：高尿酸血症とDKD(diabetic kidney disease)の関連について.日医生涯教育協力講座セミナー「これからの高尿酸血症・痛風の治療戦略」, 東京,2018年10月20日.
51. Kawashima S, Sano K, Fukuoka K, Karube M, Kudoh A, Komagata Y, Kaname S: The role of MPO, Plasma cell and CD20 in the pathogenesis of human MPO-ANCA-associated glomerulonephritis. The American Society of Nephrology annual meeting, USA, Oct 25-28, 2018.
52. Karube M, Kawashima S, Kaname S: B cell suppression and relapse of vasculitis in maintenance therapy of rituximab for granulomatosis with polyangiitis. The American Society of Nephrology annual meeting, USA, Oct 25-28, 2018.
53. Okada H, Kato K, Miyakawa Y, Hidaka Y, Inoue N, Ito S, Kagami S, Kaname S, Matsumoto M, Mizuno M, Matsuda T, Shimono A, Maruyama S, Fujimura Y, Nangaku M: aHUS safety and effectiveness of eculizumab for adult patients with atypical hemolytic uremic syndrome in Japan: Interim analysis of post-marketing surveillance. Am Soc Nephrol Meeting, USA, Oct 25,2018.
54. Karube M, Yamada Y, Suzuki Y, Hamai A, Nishikawa A, Kawashima S, Kaname S: Investigation of Concentration of Blood Solubilized CD40 Ligand (sCD40L) in Maintenance Dialysis Patients. Kidney Week-ASN 2018, USA, Oct 23-28, 2018.
55. 要伸也：腎臓病療養指導士とCKDチーム医療の未来.第12回CKDチーム医療研究会, 東京, 2018年11月3日.
56. 川上貴久：糖尿病性腎臓病というDisease Entity. Diabetes Forum in こだいら, 小平, 2018年11月6日.
57. 駒形嘉紀：関節リウマチにおけるT細胞の役割.第10回横須賀リウマチフォーラム, 横須賀, 2018年11月22日.
58. 要伸也：高齢者の慢性腎臓病の治療について.第27回白河腎疾患フォーラム, 福島, 2018年11月27日.
59. 李恵怜, 川嶋聡子, 佐世光, 内田裕子, 駒形嘉紀, 要伸也：関節炎を来した神経ペーチェット病の1例. 第11回多摩RA病診連携の会,三鷹,2018年12月1日.
60. 駒形嘉紀：最新の関節リウマチ治療 ～医師から薬剤師に期待すること～.東京都病院薬剤師会臨床薬学研究会, 東京,2018年12月4日.
61. 要伸也：日本腎臓学会による糖尿病対策の取り組みについて.第6回日本糖尿病対策推進会議総会,東京,2018年12月6日.
62. 久木元光, 軽部美穂, 内田裕子, 窪田沙也花, 田村仁樹, 駒形嘉紀, 要伸也:ROS-1遺伝子陽性肺癌の多発肺内転移に対する分子標的薬治療にてSLEの病勢が軽快した一例. 第29回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 東京,2018年12月8日.
63. 要伸也：慢性腎臓病(CKD)の正しい知識と予防法を身につけよう～重症化させない早めの気づきと早期受診のために～.平成30年度健康づくり事業推進指導者育成研修, 東京, 2018年12月14日.
64. 駒形嘉紀：関節リウマチにおけるT細胞の役割.第9回茨城T細胞研究会, つくば,2019年1月30日.
65. 要伸也：腎疾患対策検討会とCKD患者の重症化予防.第32回日本医工学治療学会,東京,2019年2月23日.
66. 柿沼めぐみ, 兵動智夏, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也：TAFRO症候群と診断し、血液透析となった1例.第649回日本内科学会・関東地方会, 東京, 2019年3月2日.
67. 川上貴久：糖尿病性腎症へのアプローチ. 糖尿病性腎症を考える会, 金沢, 2019年3月6日.
68. 田中弦, 福岡利仁, 櫻井裕之：イグラチモド投与による血清尿酸値降下の機序の検討Exploring the mechanism of uric acid loweinf effect of iguratimod. 第92回日本薬理学会年会,大阪, 2019年3月14日.

## 論文

- Ito S<sup>1</sup>, Hidaka Y<sup>2</sup>, Inoue N<sup>3</sup>, Kaname S<sup>4</sup>, Kato H<sup>5</sup>, Matsumoto M<sup>6</sup>, Miyakawa Y<sup>7</sup>, Mizuno M<sup>8</sup>, Okada H<sup>9</sup>, Shimono A<sup>10</sup>, Matsuda T<sup>10</sup>, Maruyama S<sup>8</sup>, Fujimura Y<sup>11</sup>, Nangaku M<sup>5</sup>, Kagami S<sup>12</sup> ( <sup>1</sup>Yokohama City University, <sup>2</sup>Shinshu University Hospital, <sup>3</sup>Osaka International Cancer Institute, <sup>4</sup>Kyorin University School of Medicine, <sup>5</sup>The University of Tokyo, <sup>6</sup>Nara Medical University, <sup>7</sup>Saitama Medical University Hospital, <sup>8</sup>Nagoya University Graduate School of Medicine, <sup>9</sup>Saitama Medical University, <sup>10</sup>Alexion Pharma GK, <sup>11</sup>Japanese Red Cross Kinki Block Blood Center, <sup>12</sup>The University of Tokushima Graduate School) : Safety and effectiveness of eculizumab for pediatric patients with atypical hemolytic-uremic syndrome in Japan: interim analysis of post-marketing surveillance. Clin Exp Nephrol 2018. doi: 10.1007/s10157-018-1610-2. [Epub ahead of print]
- Yakushiji H, Hashimura C, Fukuoka K, Kaji A, Miyahara H, Kaname S, Horiuchi T: A missense mutation of the plasminogen gene in hereditary angioedema with normal C1 inhibitor in Japan. Allergy 2018 Jul 10. doi: 10.1111/all.13550. [Epub ahead of print]
- Higashihara E, Yamamoto K, Kaname S, Okegawa T, Tanbo M, Yamaguchi T, Shigemori K, Miyazaki I, Yokoyama K, Nutahara K: Age- and height-adjusted total kidney volume growth rate in autosomal dominant polycystic kidney diseases. Clin Exp Nephrol 2018. doi: 10.1007/s10157-018-1617-8. [Epub ahead of print]
- Kato H, Miyakawa Y, Hidaka Y, Inoue N, Ito S, Kagami S, Kaname S, Matsumoto M, Mizuno M, Matsuda T, Shimono A, Maruyama S, Fujimura Y, Nangaku M, Okada H: Safety and effectiveness of eculizumab for adult patients with atypical hemolytic-uremic syndrome in Japan: interim analysis of post-marketing surveillance. Clin Exp Nephrol 2018. doi: 10.1007/s10157-018-1609-8. [Epub ahead of print]
- Saraya T, Fukuoka K, Maruno H, Komagata Y, Fujiwara M, Kaname S, Arimura Y, Yamada A, Takizawa H: Tenosynovitis with Rice Body Formation Due to Mycobacterium Intracellulare Infection After Initiation of Infliximab Therapy. Am J Case Rep 2018;19:656-662.
- Higashihara E, Horie S, Kinoshita M, Harris PC, Okegawa T, Tanbo M, Hara H, Yamaguchi T, Shigemori K, Kawano H, Miyazaki I, Kaname S, Nutahara K: A potentially crucial role of the PKD1 C-terminal tail in renal prognosis. Clin Exp Nephrol 2018; 22:395-404.
- Japanese Society of Nephrology : Essential points from Evidence-based Clinical Practice Guidelines for Chronic Kidney Disease 2018. Japanese Society of Nephrology. Clin Exp Nephrol. 2018 Dec 1. doi: 10.1007/s10157-018-1648-1. [Epub ahead of print]
- Watanabe M, Yamada C, Komagata Y, Kikuchi H, Hosono H, Itagaki F : New low-dose liquid pilocarpine formulation for treating dry mouth in Sjogren's syndrome: clinical efficacy, symptom relief, and improvement in quality of life. J Pharm Health Care Sci. 4:4, 2018.
- Endo A, Komagata Y, Yamagishi K, Ikegaya N, Fukuoka K, Karube M, Arimura Y, Kaname S : Two distinct subsets of low density granulocytes in anca associated vasculitis. Annals of the Rheumatic Diseases 77 (Sup 2):1113-1114, 2018.
- 要伸也:急速進行性腎炎症候群 (RPGN) .エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン. 日本腎臓学会誌 60:1185-1189, 2018.
- 要伸也 : 急速進行性腎炎症候群の診療ガイドライン2017. わが国の血管炎診療ガイドラインの要点. 血管炎(第2版) - 基礎と臨床のクロストーク- 76:38-44, 2018.
- 要伸也 : 急速進行性腎炎症候群 (RPGN) 診療ガイドライン 2017. 最新医学73 (12) :77-83, 2018.
- 小林知志, 要伸也 : カリウム代謝異常の鑑別と治療. 診断と治療106 (9) : 1090-1095.2018.
- 要伸也 : CKD診療水準の向上を目指し地域医療の一翼を担う (視点200) .CLINIC magazine9 (591) : 6-7.2018.
- 要伸也 : 腎臓病療養指導士に期待される役割. 週刊日本医事新報 (4907) : 8-9.2018.
- 駒形嘉紀 : 膠原病の最新治療. 病理と臨床 36: 524-527, 2018.
- 駒形嘉紀 : 顕微鏡的多発血管炎 診断. 日本臨床増刊号 血管炎 (第2版) 76:226-231, 2018.
- 駒形嘉紀 : 顕微鏡的多発血管炎 治療. 日本臨床増刊号 血管炎 (第2版) 76:232-237, 2018.
- 駒形嘉紀 : 結節性多発動脈炎. 最新医学別冊 診断と治療のABC 139 リウマチ膠原病:90-198, 2018.
- 川上貴久, 要伸也 : CKDの薬物治療 ステロイド. 薬事 60:3093-3097, 2018.
- 柏原直樹, 伊藤孝史, 内田治仁, 要伸也 : 日本腎臓病協会設立の目的と展望—腎臓病の克服を目指して—. 循環器内科85 (1) : 4-10.2019.
- 要伸也 : 腎臓病療養指導士制度. Current Therapy37 (5) : 85.2019.
- 要伸也 : 腎臓病療養指導士. 腎臓内科・泌尿器科9 (1) : 49-52.2019.

## 著書

- 要伸也 (編集) : 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018.
- 要伸也 (分担執筆) : 腎臓の機能と構造. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.14-25.
- 要伸也 (分担執筆) : 水・電解質の異常. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.43-49.
- 要伸也 (分担執筆) : 尿細管機能の異常. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.156-160.
- 駒形嘉紀 (分担執筆) : 膠原病による腎障害. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.143-147.
- 駒形嘉紀 (分担執筆) : 免疫複合性小型血管炎Cogan症候群. 今日の治療指針 2018. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編集. 東京, 医学書院, 2018. p.854-855.
- 駒形嘉紀 (分担執筆) : III章. C.免疫抑制薬 1)アルキル化剤 シクロフォスファミド. リウマチ・膠原病治療薬ハンドブック. 川畑仁人編集. 東京, 文光堂, 2018. p154-159.
- 軽部美徳 (分担執筆) : 腎機能検査. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.84-89.
- 軽部美徳 (分担執筆) : 腎組織検査. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.103-104.
- 軽部美徳 (分担執筆) : 薬物療法 副腎皮質ステロイド薬, ステロイドパルス療法 免疫抑制剤. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.107-108.

11. 軽部美穂 (分担執筆) : 1次性糸球体疾患. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.132-139.
12. 軽部美穂 (分担執筆) : ネフローゼ症候群. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.139-141.
13. 軽部美穂 (分担執筆) : アミロイド腎症 (腎アミロイドーシス), 多発性骨髄腫, 感染症による腎障害. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.147-151.
14. 軽部美穂 (分担執筆) : 妊娠高血圧症候群, 尿細管間質疾患. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.160-165.
15. 軽部美穂 (分担執筆) : 遺伝性腎疾患. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.177-178.
16. 福岡利仁 (分担執筆) : 浮腫, 脱水, 発熱, 循環器系の異常. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.36-43.
17. 福岡利仁 (分担執筆) : 血液の異常. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.51-53.
18. 福岡利仁 (分担執筆) : 尿毒症. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.67-68.
19. 福岡利仁 : 透析療法. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.111-119.
20. 福岡利仁 : 糖尿病性腎症. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.142-143.
21. 福岡利仁 (分担執筆) : 高尿酸血症による腎障害. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.151-152.
22. 福岡利仁 (分担執筆) : そのほかの腎血管性疾患. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.155-156.
23. 福岡利仁 (分担執筆) : 慢性腎臓病. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.172-176.
24. 池谷紀子 (分担執筆) : そのほかの尿性状の異常. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.65.
25. 池谷紀子 (分担執筆) : 視力の異常. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.70.
26. 池谷紀子 (分担執筆) : 尿検査. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.79-83.
27. 池谷紀子 (分担執筆) : 高血圧に伴う腎障害, 腎血管性高血圧症. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.153-155.
28. 池谷紀子 (分担執筆) : 急性腎障害. 新体系看護学全書 成人看護学7 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.165-172.
29. 要伸也 (編集) : 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018.
30. 要伸也 (分担執筆) : 腎臓の構造と機能. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.4-15.
31. 要伸也 (分担執筆) : 電解質の異常, 酸-塩基平衡の障害. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.33-41.
32. 要伸也 (分担執筆) : 尿細管機能の異常, 酸-塩基平衡の障害. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.146-150.
33. 軽部美穂 (分担執筆) : 腎機能検査. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.74-79.
34. 軽部美穂 (分担執筆) : 腎組織検査. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.93-94.
35. 軽部美穂 (分担執筆) : 薬物療法 副腎皮質ステロイド薬, ステロイドパルス療法, 免疫抑制剤. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.97-98.
36. 軽部美穂 (分担執筆) : 1次性糸球体疾患. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.122-129.
37. 軽部美穂 (分担執筆) : ネフローゼ症候群. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.129-132.
38. 軽部美穂 (分担執筆) : アミロイド腎症 (腎アミロイドーシス), 多発性骨髄腫, 感染症による腎障害. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.137-139.
39. 軽部美穂 (分担執筆) : 妊娠高血圧症候群, 尿細管間質疾患. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.150-155.
40. 軽部美穂 (分担執筆) : 遺伝性腎疾患. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.167-168.
41. 福岡利仁 (分担執筆) : 浮腫, 脱水, 発熱, 循環器系の異常. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.26-33.
42. 福岡利仁 (分担執筆) : 血液の異常. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.41-43.
43. 福岡利仁 (分担執筆) : 尿毒症. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器.

生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.57-58.

44. 福岡利仁 (分担執筆): 透析療法. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.101-109.
45. 福岡利仁 (分担執筆): 糖尿病性腎症. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.132-133.
46. 福岡利仁 (分担執筆): 高尿酸血症による腎障害. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.141-142.
47. 福岡利仁 (分担執筆): そのほかの腎血管性疾患. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.145-146.
48. 福岡利仁 (分担執筆): 慢性腎臓病. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.162-166.
49. 池谷紀子 (分担執筆): 尿量の異常 たんぱく尿. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.50-51.
50. 池谷紀子 (分担執筆): そのほかの尿性状の異常. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.55-55.
51. 池谷紀子 (分担執筆): 視力の異常. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.60-60.
52. 池谷紀子 (分担執筆): 尿検査. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.69-73.
53. 池谷紀子 (分担執筆): 高血圧に伴う腎障害、腎血管性高血圧症. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.143-145.
54. 池谷紀子 (分担執筆): 急性腎障害. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進12 疾病と治療9 腎・泌尿器/女性生殖器. 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 恩田貴志編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.155-162.
55. 軽部美穂, 要伸也 (分担執筆): HIV腎症. 「今日の疾患辞典～検査処方例付き～」. 東京, 株式会社プレジジョン, 2018.
56. 軽部美穂, 要伸也 (分担執筆): 肝炎ウイルス関連腎炎. 「今日の疾患辞典～検査処方例付き～」. 東京, 株式会社プレジジョン, 2018.
57. 軽部美穂, 要伸也 (分担執筆): 関節リウマチに伴う腎障害. 「今日の疾患辞典～検査処方例付き～」. 東京, 株式会社プレジジョン, 2018.
58. 軽部美穂, 要伸也 (分担執筆): 腎サルコイドーシス. 「今日の疾患辞典～検査処方例付き～」. 東京, 株式会社プレジジョン, 2018.

## 報告書

1. 軽部美穂, 要伸也: 重篤副作用疾患別対応マニュアル. 腎臓. 血管炎 (ANCA関連含む). 厚生労働省2018年6月改定.

## 第一内科学教室 (神経内科)

## 講演

1. Oishi C, Mizoi Y, Chiba A, Sonoo M: The utility of tibial nerve SEPs in diagnosing lumbar spinal stenosis, comparison with NCS and F-waves. 31st International Congress of Clinical Neurophysiology, USA, May 1st-6th, 2018
2. 千葉厚郎, 内堀歩, 行田敦子:  $Ca^{2+}$ /脂質相互作用の検討: disialosyl糖鎖構造分子の傍絞輪部集積の生物学的意義. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
3. 大石知瑞子: 教育コース「ルーチン神経伝導検査を覚えた次に覚えると役に立つtips: ルーチン検査のpitfalls」. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
4. 岡野晴子, 天野達雄, 河野浩之, 鈴木理恵子, 海野佳子, 本田有子, 鳥居正剛, 塩川芳昭, 千葉厚郎, 平野照之: 抗リン脂質抗体症候群における脳卒中の検討. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
5. 内堀歩, 千葉厚郎: 解糖系酵素TPIに対する抗体陽性症例と小脳失調、治療反応性. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
6. Tokushige S, Matsumoto H, Matsuda S, Inomata-Terada S, Hamada M, Tsuji S, Ugawa Y, Terao Y: Impaired top-down visual attention in Alzheimer's disease detected by visual scanning tasks. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
7. 中島昌典, 岡野晴子, 市川弥生子, 平野照之, 千葉厚郎: 若年者の潜因性脳卒中における脳アミロイドアンギオパチー検索の必要性. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
8. 綾野水樹, 蛭沢志織, 川井田善太郎, 河野浩之, 岡野晴子, 鳥居正剛, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 他疾患で入院中に発症した脳梗塞に対する急性期血管再開通療法の阻害となる因子の検討. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
9. 永井健太郎, 大石知瑞子, 綾野水樹, 上月直樹, 白鳥嵩之, 茂呂直紀, 澁谷裕彦, 中島昌典, 徳重真一, 内堀歩, 宮崎泰, 市川弥生子, 千葉厚郎: 重症疾患経過中に四肢筋力低下を呈した5例の臨床的検討. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
10. 澁谷裕彦, 内堀歩, 永井健太郎, 徳重真一, 市川弥生子, 高橋利幸, 千葉厚郎: 当院におけるMOG抗体関連疾患5例の臨床的検討. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
11. 白鳥嵩之, 綾野水樹, 上月直樹, 茂呂直紀, 澁谷裕彦, 永井健太郎, 中島昌典, 徳重真一, 内堀歩, 大石知瑞子, 市川弥生子, 千葉厚郎: 片側優位の大脳半球皮質病変を呈した髄膜脳炎例の検討. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
12. 茂呂直紀, 内堀歩, 中島昌典, 大石知瑞子, 千葉厚郎: 当院で測定した抗CV2/CRMP5陽性例の臨床的特徴. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
13. Naoki Kotsuki, Ayumi Uchibori, Hiroto Ito, Yuki Hatanaka, Atsuro Chiba: Anti-glycolipid antibodies and clinical features in recurrent Guillain-Barré syndrome. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
14. 宮地洋輔, 大石知瑞子, 溝井令一, 田中章景, 園生雅弘: 手根管症候群の神経伝導検査は「感覚優位の障害」ではない:

- 適正な重症度分類について. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
15. Inomata-Terada S, Tokushige S, Matsuda S, Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S, Terao Y: Eye-hand coordination in hereditary spinocerebellar degeneration. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
  16. 杉山雄亮, 福田秀樹, 寺尾安生, 徳重真一, 星野恭子, 濱田雅, 宇川義一, 戸田達史: Tourette症候群におけるサッカー下. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23-26日.
  17. 中島昌典, 上月直樹, 永井健太郎, 綾野水樹, 内堀歩, 島田大輔, 柴原純二, 千葉厚郎: 再発性脳梗塞とびまん性くも膜肥厚を呈した55歳男性例. 第68回三鷹ニューロ研究会, 三鷹, 2018年5月31日.
  18. 上月直樹, 中島昌典, 永井健太郎, 綾野水樹, 内堀歩, 島田大輔, 柴原純二, 千葉厚郎: 再発性脳梗塞とびまん性くも膜肥厚を呈し, 抗リン脂質抗体症候群と診断した55歳男性例第225回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2018年6月2日.
  19. 大石知瑞子, 園生雅弘, 千葉厚郎: 突然発症の下垂手を繰り返す脳梗塞との鑑別を要した症例. 第32回日本神経救急学会学術集会, 相模原, 2018年6月30日.
  20. 中島昌典, 岡野晴子, 傳法倫久, 平野照之, 千葉厚郎, 遠藤英仁, 窪田博, 磯村杏耶, 下山田博明, 大倉康男, 塩川芳昭: 大動脈原性脳塞栓症を発症し, 上行大動脈置換術を施行した80歳男性例. 第32回日本神経救急学会学術集会, 相模原, 2018年6月30日.
  21. 永井健太郎, 内堀歩, 大石知瑞子, 市川弥生子, 千葉厚郎: 胸腺腫合併重症筋無力症 (MG) 経過中に心停止となり非運動症状である心筋炎と考えられた52歳女性例. 第32回日本神経救急学会学術集会, 相模原, 2018年6月30日.
  22. Inomata-Terada S, Tokushige S-I, Matsuda S, Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S, Terao Y: Eye-Hand coordination in hereditary spinocerebellar degeneration. 第41回神経科学大会, 神戸, 2018年7月26-29日.
  23. 茂呂直紀, 澁谷裕彦, 永井健太郎, 宮崎泰, 市川弥生子, 千葉厚郎: 不安・動悸発作にて発症し, 大脳基底核病変を呈した抗LGI-1抗体陽性脳炎の41歳女性例. 第226回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2018年9月1日.
  24. 宮地洋輔, 大石知瑞子, 溝井令一, 田中章景, 園生雅弘: 手根管症候群の神経伝導検査による既存の重症度分類における問題点: 手根管症候群は「感覚神経優位の障害」とは限らない. 第29回日本末梢神経学会学術集会, 下関, 2018年9月7-8日.
  25. 千葉厚郎, 白鳥嵩之, 内堀歩, 綾野水樹, 中島昌典, 大石知瑞子, 市川弥生子: GD1a/GT1a複合体抗体単独陽性の純粋運動型Guillain-Barre症候群の1例: 症例報告とGD1a/GT1a分子間相互作用の検討. 第29回日本末梢神経学会学術集会, 下関, 2018年9月7-8日.
  26. 内堀歩, 行田敦子, 千葉厚郎: Seronegative Guillain-Barré症候群におけるCa<sup>2+</sup>依存性抗ガングリオンド抗体. 第29回日本末梢神経学会学術集会, 下関, 2018年9月7-8日.
  27. 山岸裕子, 桑原基, 寒川真, 鈴木秀和, Japanese GBS study group (千葉厚郎), 楠進: 本邦のGuillain-Barré syndromeにおける抗糖脂質抗体と予後および予測ツールの関連後方視的多施設共同研究. 第29回日本末梢神経学会学術集会, 下関, 2018年9月7-8日.
  28. 千葉厚郎: 脳神経内科に来ていただきたい「しびれ」のお話し. 第29回日本末梢神経学会学術集会・市民公開講座, 下関, 2018年9月9日.
  29. 内堀歩, 千葉厚郎: 急性小脳炎とtriosephosphate isomerase抗体. 第30回日本神経免疫学会学術集会, 郡山, 2018年9月20-21日.
  30. Oishi C, Mizoi Y, Chiba A, Sonoo M: The utility of tibial nerve SEPs in diagnosing lumbar spinal stenosis, comparison with NCS and F-waves. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 64th Annual Meeting. USA, October 10th-13th. 2018.
  31. 澁谷裕彦, 中島昌典, 茂呂直紀, 永井健太郎, 徳重真一, 市川弥生子, 小林啓一, 千葉厚郎: 幻臭・立毛発作で発症し, 経過中に甲状腺乳頭癌が判明した抗LGI-1抗体陽性辺縁系脳炎の36歳女性例. 第69回三鷹ニューロ研究会, 三鷹, 2018年11月1日.
  32. Inomata-Terada S, Tokushige S, Matsuda S, Hamada M, Tsuji S, Ugawa Y, Terao Y: The interaction of eye and hand movements in visual reaching task in hereditary spinocerebellar degeneration. The 48th Annual Meeting of The Society for Neuroscience, USA, November 3rd-7th, 2018.
  33. Terao Y, Tokushige S-I, Inomata-Terada S, Ugawa Y: Eye voice coordination in Parkinson's disease. 48th Annual Meeting of The Society for Neuroscience 2018, USA, November 3rd-7th, 2018.
  34. 徳重真一, 松本英之, 松田俊一, 寺田さとみ, 濱田雅, 辻省次, 宇川義一, 寺尾安生: 視線解析を用いたアルツハイマー病の視覚注意障害の評価. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  35. 永井健太郎, 大石知瑞子, 綾野水樹, 上月直樹, 白鳥嵩之, 茂呂直紀, 澁谷裕彦, 中島昌典, 徳重真一, 内堀歩, 宮崎泰, 市川弥生子, 園生雅弘, 千葉厚郎: 重症疾患経過中に筋力低下を呈した6例の臨床的検討. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  36. 上月直樹, 大石知瑞子, 白鳥嵩之, 永井健太郎, 宮地洋輔, 畑中裕己, 千葉厚郎, 園生雅弘: 腓骨神経伝導検査における、膝窩部での脛骨神経へのcurrent spreadの影響についての検討. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  37. 白鳥嵩之, 大石知瑞子, 宮地洋輔, 上月直樹, 永井健太郎, 千葉厚郎, 園生雅弘: 正中神経伝導検査において、手首および肘部での尺骨神経へのcurrent spreadの影響についての検討. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  38. 寺田さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生: 純粋小脳型症状を呈する遺伝性脊髄小脳変性症における眼球と指の運動協調について. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  39. 寺尾安生, 徳重真一, 寺田さとみ, 宇川義一: 音読の際の視線と声の協調関係 -パーキンソン病における検討-. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  40. 千葉隆司, 大石知瑞子, 小林正人, 東原真奈, 園生雅弘: 複合筋活動電位 (CMAP) の遠隔電場電位 (FFP) 振幅の再現性. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  41. 溝井令一, 山本真一, 大石知瑞子, 三上容司, 園生雅弘: 徒手筋力テストと神経伝導検査から腕神経叢外側神経束に病変局在してきた1例. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  42. 高橋和沙, 濱田雄一, 大石知瑞子, 園生雅弘: 脛骨神経SEPにおけるCe電極の左右つけ間違いの影響. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  43. 松倉清司, 大石知瑞子, 宮地洋輔, 千葉隆司, 古川裕一, 濱田雄一, 園生雅弘: 腰部脊柱管狭窄症診断における脛骨神経SEPの有用性の検討~F波を含めたNCSとの比較~. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  44. 木崎直人, 大石知瑞子, 山崎聡子, 大西宏明, 渡邊卓, 園生雅弘: 浅腓骨神経伝導検査における2-step法の有用性について

- て. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
45. 大石知瑞子: ベーシックレクチャー2 (LA2) NCS波形からわかること. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  46. 大石知瑞子, 園生雅弘: シンポジウム14: 神経伝導検査: 古典的検査の新しい発見, NCSのpitfallとしてのcurrent spread. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
  47. 岡崎太一, 永井健太郎, 徳重真一, 池田憲祐, 白鳥嵩之, 茂呂直紀, 澁谷裕彦, 市川弥生子, 千葉厚郎: 非集積地における家族性アミロイドポリニューロパチー (FAP) の2例. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
  48. 大石知瑞子: 教育講演7 NCS/EMGのピットフォール. 第36回日本神経治療学会学術大会, 東京, 2018年11月23-25日.
  49. 白鳥嵩之, 綾野水樹, 上月直樹, 内堀歩, 市川弥生子, 飯塚高浩, 千葉厚郎: 大脳皮質に特徴的な画像所見を示さず, 早期から神経機能回復を認めたcryptogenic NORSEの25歳女性例. 第227回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2018年12月1日.
  50. 千葉厚郎: 自己抗体の探索とその先の風景: GQ1b抗体とCa<sup>2+</sup>依存性. 第20回神奈川県神経免疫フォーラム, 横浜, 2018年12月5日.
  51. 光武明彦, 松川敬志, 岩田淳, 石浦浩之, 三井純, 平賢一郎, 徳重真一, 寺尾安生, 清水潤, 遠矢嵩, 黒川峰夫, 酒井規夫, 辻省次: 特徴的な脊髄MRI所見を認め, 同種造血幹細胞移植を実施した遅発型Krabbe病の一例. 第23回日本ライソゾーム病研究会, 東京, 2018年12月7-8日.
  52. Tokushige S, Matsuda S, Oyama G, Shimo Y, Umemura A, Sasaki T, Inomata-Terada S, Yugeta A, Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S, Hattori N, Terao Y: Effect of subthalamic nucleus deep brain stimulation on visual scanning. Takeda Parkinson's Disease Symposium, 東京, 2019年1月12日.
  53. 千葉厚郎: 自己抗体検討の意義を考える. 第12回多摩神経免疫研究会, 三鷹, 2019年2月14日.
  54. 茂呂直紀, 綾野水樹, 上月直樹, 白鳥嵩之, 永井健太郎, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: 頭部MRIにて側脳室周囲に扇状の多発線状造影病変を認め, 原発性中枢神経系血管炎を疑った75歳男性例. 第70回三鷹ニューロ研究会, 三鷹, 2019年2月26日.
  55. 茂呂直紀, 綾野水樹, 上月直樹, 白鳥嵩之, 永井健太郎, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: 頭部MRIにて側脳室周囲に扇状の多発線状造影病変を認め, 抗GFAP抗体陽性髄膜脳炎と診断した75歳男性例. 第228回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2019年3月2日.
  56. 上月直樹, 中島昌典, 永井健太郎, 綾野水樹, 内堀歩, 島田大輔, 柴原純二, 千葉厚郎: 再発性脳梗塞とびまん性くも膜肥厚を呈し, 抗リン脂質抗体症候群と診断した55歳男性例. 第649回日本内科学会関東地方会, 東京, 2019年3月2日.
  57. 徳重真一, 平山健次, 澁谷裕彦, 永井健太郎, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: 抗甲状腺抗体が陽性であったオプソクロノス・ミオクロノス症候群の30歳男性例. 若手神経内科医のためのShort Clinical Conference, 東京, 2019年3月8日.
  58. 徳重真一: イムセラ®による肝障害を来しテクフィデラ®を導入した21歳男性. MSクリニカルカンファレンス, 東京, 2019年3月11日.
  59. 寺尾安生, 徳重真一, 寺田さとみ, 宇川義一: 眼球運動の速度波形から大脳基底核, 小脳の機能異常を調べる - 多系統萎縮症とパーキンソン病での検討 -. 第21回日本ヒト脳機能マッピング学会, 東京, 2019年3月15-16日.
  60. 綾野水樹, 河野浩之, 蛭沢志織, 小松由佳, 小河百合子, 天野達雄, 本田有子, 鳥居正剛, 岡野晴子, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 院内発症脳卒中への初期対応に関する講習実施による看護師への教育効果. 第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2018年3月21日.
- ### 論文
1. 千葉厚郎, 内堀歩, 行田敦子: ギラン・バレー症候群における糖脂質抗体の展開: Fisher症候群関連病態とCa<sup>2+</sup>依存性糖脂質抗体. *Brain and Nerve* 70: 405-417, 2018. DOI: 10.11477/mf.1416201013.
  2. Ito H<sup>1</sup>, Hatanaka Y<sup>2</sup>, Fukami Y<sup>3</sup>, Harada Y<sup>1</sup>, Kobayashi R<sup>1</sup>, Okada H<sup>1</sup>, Uchibori A, Chiba A, Okuda S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Neurology, National Hospital Organization Nagoya Medical Center, <sup>2</sup> Department of Neurology, Teikyo University, <sup>3</sup>Department of Neurology, Nagoya University Hospital) : Anti-ganglioside complex antibody profiles in a recurrent complicated case of GQ1b-seronegative miller fisher syndrome and Bickerstaff brainstem encephalitis: a case report. *BMC Neurol.* 18: 72, 2018. DOI:10.1186/s12883-018-1077-5.
  3. Nakajima M, Uchibori A, Ogawa Y, Miyazaki T, Ichikawa Y, Kaneko K<sup>1</sup>, Takahashi T<sup>2</sup>, Nakashima I<sup>3</sup>, Shiraiishi H<sup>4</sup>, Motomura M<sup>5</sup>, Chiba A (<sup>1</sup>Tohoku University, <sup>2</sup>National Hospital Organization, Yonezawa Hospital, <sup>3</sup>Tohoku Medical and Pharmaceutical University, <sup>4</sup>Nagasaki University Hospital, <sup>5</sup>Nagasaki Institute of Applied Science) : A Case of CV2/CRMP5-antibody-related Paraneoplastic Optic Neuropathy Associated with Small-cell Lung Cancer. *Intern Med.* 2018 Jan 11. doi: 10.2169/intermedicine.9736-17.
  4. Ishiura H<sup>1</sup>, Doi K<sup>2</sup>, Mitsui J<sup>1</sup>, Yoshimura J<sup>2</sup>, Matsukawa MK<sup>1</sup>, Fujiyama A<sup>3</sup>, Toyoshima Y<sup>4</sup>, Kakita A<sup>4</sup>, Takahashi H<sup>4</sup>, Suzuki Y<sup>2</sup>, Sugano S<sup>5</sup>, Qu W<sup>2</sup>, Ichikawa K<sup>2</sup>, Yurino H<sup>6</sup>, Higasa K<sup>7</sup>, Shibata S<sup>1</sup>, Mitsue A<sup>1</sup>, Tanaka M<sup>1</sup>, Ichikawa Y, Takahashi Y<sup>8</sup>, Date H<sup>1</sup>, Matsukawa T<sup>1</sup>, Kanda J<sup>1</sup>, Nakamoto FK<sup>1</sup>, Higashihara M<sup>9</sup>, Abe K<sup>10</sup>, Koike R<sup>11</sup>, Sasagawa M<sup>12</sup>, Kuroha Y<sup>11</sup>, Hasegawa N<sup>13</sup>, Kanesawa N<sup>14</sup>, Kondo T<sup>15</sup>, Hitomi T<sup>15,16</sup>, Tada M<sup>17</sup>, Takano H<sup>18</sup>, Saito Y<sup>19</sup>, Sanpei K<sup>20</sup>, Onodera O<sup>17</sup>, Nishizawa M<sup>21</sup>, Nakamura M<sup>22</sup>, Yasuda T<sup>23</sup>, Sakiyama Y<sup>24</sup>, Otsuka M<sup>25</sup>, Ueki A, Kaida K<sup>26</sup>, Shimizu J<sup>1</sup>, Hanajima R<sup>27</sup>, Hayashi T<sup>1</sup>, Terao Y<sup>28</sup>, Inomata-Terada S<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup>, Shirota Y<sup>1</sup>, Kubota A<sup>1</sup>, Ugawa Y<sup>29</sup>, Koh K<sup>30</sup>, Takiyama Y<sup>30</sup>, Ohsawa-Yoshida N<sup>31</sup>, Ishiura S<sup>31,32</sup>, Yamasaki R<sup>33</sup>, Tamaoka A<sup>34</sup>, Akiyama H<sup>35</sup>, Otsuki T<sup>36</sup>, Sano A<sup>22</sup>, Ikeda A<sup>37</sup>, Goto J<sup>38</sup>, Morishita S<sup>2</sup>, Tsuji S<sup>1,40,41</sup> (<sup>1</sup>Department of Neurology, The University of Tokyo Hospital, <sup>2</sup>Department of Computational Biology and Medical Sciences, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo, <sup>3</sup>Advanced Genomics Center, National Institute of Genetics, Shizuoka, <sup>4</sup>Department of Pathology, Brain Research Institute, Niigata University, <sup>5</sup>Department of Computational Biology and Medical Sciences, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo, <sup>6</sup>Department of Laboratory Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa University, <sup>7</sup>Human Disease Genomics, Center for Genomic Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>8</sup>Department of Neurology, National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>9</sup>Department of Neurology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, <sup>10</sup>Department of Neurology, Graduate School of Medicine, Dentistry, and Pharmaceutical Sciences, Okayama University, <sup>11</sup>Department of Neurology, Nishi-Niigata Chuo National Hospital, <sup>12</sup>Department of Psychiatry, Toyosato Hospital, <sup>13</sup>Department of Epilepsy, Nishi-Niigata Chuo National Hospital, <sup>14</sup>Division of Cardiology, National Hospital Organization Takasaki

General Medical Center, <sup>15</sup>Department of Neurology, Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>16</sup>Department of Clinical Laboratory Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>17</sup>Department of Neurology, Brain Research Institute, Niigata University, <sup>18</sup>Department of Neurology, Tachikawa General Hospital, <sup>19</sup>Department of Neurology, Sannocho Hospital, <sup>20</sup>Department of Neurology, Sado General Hospital, <sup>21</sup>Department of Neurology, Niigata Medical Center, <sup>22</sup>Department of Psychiatry, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, <sup>23</sup>Department of Neurology, Kurashikikinen Hospital, <sup>24</sup>Department of Neurology, Jichi Medical University, <sup>25</sup>Department of Neurology, International University of Health and Welfare, <sup>26</sup>Third Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, <sup>27</sup>Department of Neurology, School of Medicine, Kitasato University, Kanagawa, <sup>28</sup>Department of Cell Physiology, School of Medicine, Kyorin University, <sup>29</sup>Department of Neurology, Fukushima Medical University, <sup>30</sup>Department of Neurology, University of Yamanashi, <sup>31</sup>Department of Life Sciences, Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo, <sup>32</sup>Faculty of Life and Medical Sciences, Doshisha University, <sup>33</sup>Department of Neurology, Neurological Institute, Faculty of Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, <sup>34</sup>Department of Neurology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, <sup>35</sup>Hiratsuka Hospital, Kanagawa, <sup>36</sup>Epilepsy Hospital Bethel Japan, <sup>37</sup>Department of Epilepsy, Movement Disorders and Physiology, Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>38</sup>Department of Neurology, International University of Health and Welfare Mita Hospital, <sup>40</sup>Medical Genome Center, The University of Tokyo Hospital, <sup>41</sup>International University of Health and Welfare). : Expansions of intronic TTTCA and TTTTA repeats in benign adult familial myoclonic epilepsy. *Nat Genet.* 50:581-590, 2018. Doi: 10.1038/s41588-018-0067-2.

5. 中島昌典, 平野照之<sup>1</sup>, 塩川芳昭<sup>2</sup>, 栗田瑛里子, 岡野晴子, 千葉厚郎 (杏林大・医・<sup>1</sup>脳卒中医学, <sup>2</sup>脳神経外科学) : Cerebral amyloid angiopathy (CAA)に関連したCortical superficial siderosis (cSS)/convexity subarachnoid hemorrhage (cSAH)によるTransient focal neurological episodes (TFNE)を認めた83歳女性例. *CI研究*40: 141-146, 2018.
6. Tokushige SI<sup>1</sup>, Terao Y<sup>1,2</sup>, Matsuda S<sup>1</sup>, Furubayashi T<sup>3</sup>, Sasaki T<sup>1</sup>, Inomata-Terada S<sup>1</sup>, Yugeta A<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup>, Tsuji S<sup>1</sup>, Ugawa Y<sup>4</sup> (<sup>1</sup>University of Tokyo, <sup>2</sup>Department of Cell Physiology Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Tohoku Bunka Gakuen University, <sup>4</sup>Fukushima Medical University) : Does the clock tick slower or faster in Parkinson's disease? insights gained from the synchronized tapping task. *Front Psychol* 9:1178,2018. DOI: 10.3389/fpsyg.2018.01178.
7. Tokushige SI<sup>1</sup>, Matsuda SI<sup>1</sup>, Oyama G<sup>2</sup>, Shimo Y<sup>2</sup>, Umemura A<sup>2</sup>, Sasaki T<sup>1</sup>, Inomata-Terada S<sup>1</sup>, Yugeta A<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup>, Ugawa Y<sup>3</sup>, Tsuji S<sup>1</sup>, Hattori N<sup>2</sup>, Terao Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University of Tokyo, <sup>2</sup>Juntendo University, <sup>3</sup>Fukushima Medical University) : Effect of subthalamic nucleus deep brain stimulation on visual scanning. *Clin Neurophysiol* 129(11):2421-2432,2018. DOI: 10.1016/j.clinph.2018.08.003
8. Sasaki T<sup>1</sup>, Shiota Y<sup>1</sup>, Kodama S<sup>1</sup>, Togashi N<sup>1,2</sup>, Sugiyama Y<sup>1</sup>, Tokushige SI<sup>1</sup>, Inomata-Terada S<sup>1,3</sup>, Terao Y<sup>1,3</sup>, Ugawa Y<sup>4</sup>, Toda T<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University of Tokyo, <sup>2</sup>National Defense Medical College, <sup>3</sup>Department of Cell Physiology Kyorin University School of Medicine, <sup>4</sup>Fukushima

Medical University) : Modulation of motor learning by a paired associative stimulation protocol inducing LTD-like effects. *Brain Stimul* 11(6):1314-1321,2018.DOI:10.1016/j.brs.2018.07.054

9. 徳重真一 : 検査からみる神経疾患 タッピングテスト. *Clinical Neuroscience* 36(12):1492-1493,2018.

## 著書

1. 徳重真一 (分担執筆) : 第IV章 第2節 臨床症状 (4) 眼球運動. *日本臨牀* 76巻増刊号3 特集 パーキンソン病. 東京, 日本臨牀, 2018. p.245-249.
2. 千葉厚郎 : 神経疾患の血液浄化療法. 今日の治療指針2019. 福井次矢, 高木誠, 小室一誠総編集. 東京, 医学書院, 2019. p.905.

## 報告書

1. 寺田さとみ, 宇川義一, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 寺尾安生 : 脊髄小脳変性症の眼と手の協調関係. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業 運動失調症の医療基盤に関する調査研究班 班会議. 東京, 2019年1月11日.

## その他

1. 千葉厚郎 : 「ザ!世界仰天ニュース」ギラン・バレー症候群に関する番組監修, 日本テレビ, 2018年10月9日.
2. 千葉厚郎 : 「患者を生きる」ギラン・バレー症候群に関する解説, 朝日新聞, 2019年2月1日.

## 第二内科学教室 (循環器内科)

## 口演

1. 副島京子 : 心室頻拍アブレーションと医療被曝軽減. 房総不整脈カンファレンス, 鴨川, 2018年4月4日.
2. 副島京子 : 心房細動治療のこつ. Real World Meeting in Wakayama, 和歌山, 2018年4月7日.
3. 三輪陽介 : 持続性心房細動に対する取り組み. Arrhythmia Network Conference in TAMA. 調布, 2018年4月11日.
4. 富樫郁子 : リードレスペースメーカについて. Arrhythmia Network Conference in TAMA, 調布, 2018年4月11日.
5. Goda A, Takeuchi K, KikuchivH, Inami T, Satoh T, Yoshino H : Characteristics of cardiopulmonary exercise testing in patients with combined post-capillary and pre-capillary pulmonary hypertension (Cpc-PH) due to left heart disease. International Society of Heart and Lung Transplantation, France 11-14th April 2018.
6. Koyama K : Clinical practice of OCT. OCT Proctorship Program in Thailand, Bangkok and Khonkaen, Thailand, 2018年4月17-20日.
7. 重田洋平 : CTEPHと精神疾患. 第3回CTEPHサミット, 東京, 2018年4月20日.
8. 坂田好美 : あぶり出す心エコー図. 主訴毎の負荷エコーの使い方 : 労作時息切れ : 拡張型心筋症の予後を評価する. 日本心エコー図学会第29回学術集会.盛岡, 2018年4月26日.
9. 坂田好美, 古谷充史, 井坂葵, 松下健一, 吉野秀朗, 今井昌康, 横山健一, 似鳥俊明 : Speckle-tracking心エコーを用いた肥大型心筋症の心筋変性および心血管イベントのリスク評価. 日本心エコー図学会第29回学術集会, 盛岡, 2018年4月27日.
10. Koyama K : Impact of automated co-registration of OCT and angiography on "geographic miss". SLENDER CLUB JAPAN Live Demonstration & Annual Meeting 2018 in TOKYO, Tokyo, 2018年4月28日.
11. Sato T, Soejima K : Negative deep deflection of His-bundle potential as a marker for superior His-bundle pacing

- thresholds at implant. Heart Rhythm Society Scientific Conference, USA, May 9th-12th, 2018.
12. Yasumura Y, Sato T, Soejima K : Radiation Exposure Reduction for cardiac resynchronization therapy device implant using new wesor-based navigateon of MediGuide™. Heart Rhythm Society Scientific Conference, USA, May 9th-12th, 2018.
  13. Koyama K: OCT Educational Program. TMT Tokyo, 2018年5月14日.
  14. 伊波巧: 当院の肺高血圧症治療戦略. 肺高血圧症医療連携セミナー, 長野, 2018年5月18日.
  15. 副島京子: 不整脈治療Update. 京滋奈良ハートリズム研究会, 京都, 2018年5月19日.
  16. 副島京子: 心室頻拍治療Update. 第7回重症心疾患フロンティアカンファレンス, 横浜, 2018年5月29日.
  17. Matsushita K, Minamishima T, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Prognostic factors for one-year mortality in patients with acute heart failure with and without chronic kidney disease: Differential impact of beta-blocker and diuretic treatments. Heart Failure 2018 & World Congress on Acute Heart Failure (Annual Congress of the Heart Failure Association of the European Society of Cardiology), Austria, May 26 th-29th2018.
  18. 副島京子: 心室頻拍治療Update. 仙台EPフォーラム, 仙台, 2018年6月2日.
  19. 副島京子: 心房細動治療のこつ. 第7回開業医のためのわかりやすい心房細動治療勉強会, 東京, 2018年6月6日.
  20. 小山幸平: Lecture Meeting~不安定ブランクから不安定患者へ. アステラス・アムジェン・バイオファーマ社内講演会, 東京, 2018年6月6日.
  21. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症の最新の治療. 第8回静岡東部肺高血圧症研究会, 沼津, 2018年6月8日.
  22. 坂田好美, 伊藤準之助, 井坂葵, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: Quad Chamber Trackingによる3次元スペクトルトラッキング心エコーを用いた心機能評価. 日本超音波医学会第91回学術集会, 神戸, 2018年6月10日.
  23. 副島京子: 心房細動治療のこつ. Stroke Total Care Seminar, さいたま, 2018年6月13日.
  24. 佐藤徹: 日本医療安全調査機構 医療事故の再発防止に向けた提言 急性肺血栓塞栓症に係る死亡事例の分析. 第38日本静脈学会会長特別企画, 横須賀, 2018年6月14-15日.
  25. 三輪陽介: 不整脈に対する薬物療法. 井の頭ファーマ会, 東京, 2018年6月14日.
  26. 三浦陽平, 小山幸平, 樋口聡, 重田洋平, 山崎博之, 仁科善雄, 若林典弘, 田島幸佳, 福土圭, 三浦佑介, 金剛寺謙. Near Infrared Spectroscopy IVUS (NIRS-IVUS) にて責任病変を観察し得た急性冠症候群の2症例. 第48回 多摩地区虚血性心疾患研究会, 東京, 2018年6月16日.
  27. 佐藤徹: 心臓診察法一肺高血圧症の所見も含めて. 膠原病フィジカルセミナー, 東京, 2018年6月18日.
  28. 坂田好美: 日常診療で見る心肥大~画像診断とFabry病~. 第11 回最新プライマリ医療研究会, 立川, 2018年6月19日.
  29. 副島京子: 不整脈疾患の治療. 不整脈ラウンドミーティング, 千葉, 2018年6月20日.
  30. 伊藤準之助, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 伊波巧, 副島京子, 佐藤徹: 肺血管攣縮による一過性肺動脈性肺高血圧症の一例. 第3回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 豊中, 2018年6月22日.
  31. 伊波巧, 片岡雅晴, 伊藤準之助, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 副島京子, 佐藤徹: 慢性肺血栓塞栓症の運動時肺循環に対するBPAの効果. 第3回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 豊中, 2018年6月23日.
  32. 伊波巧: State-of-the-art BPA. 第3回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 豊中, 2018年6月23日.
  33. 坂田好美: 心エコーを用いた肺高血圧症の早期診断と治療効果判定~慢性肺血栓塞栓性肺高血圧症を含めて~. エリキューズインターネットシンポジウム, 東京, 2018年6月25日.
  34. 富樫郁子: CRT-DとCRT-Pの選択基準. BIOTRONIK CRT-D Discussion, 東京, 2018年6月27日.
  35. 副島京子: 不整脈治療の最前線. 循環器疾患研究会, 東京, 2018年6月30日.
  36. 三輪陽介: 心房細動の診断と治療 最近の話題を含めて. 不整脈勉強会, さいたま, 2018年7月3日.
  37. 副島京子: 心室頻拍治療のUpdate. 第3回不整脈を考える会, 長崎, 2018年7月4日.
  38. 坂田好美: HFpEF・HFrEFの病態と治療. 田辺三菱製薬株式会社循環器勉強会, 東京, 2018年7月11日.
  39. 松下紀子, 毛利崇人, 勝目有美, 長岡身佳, 百瀬裕一, 米田道嗣, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 佐藤俊明, 副島京子: Stellate Ganglion Phototherapy as a Rescue Therapy for Refractory Ventricular Arrhythmias. 第65回日本不整脈心電学会学術大会, 東京, 2018年7月11-14日.
  40. 伊波巧: 当院における急性肺血栓塞栓症の診断と治療. VTE治療を考える会, 東京, 2018年7月11日.
  41. 副島京子: リードレスペースメーカを安全に植込むために. 第65回日本不整脈心電学会学術大会, 東京, 2018年7月11-14日.
  42. Kongoji K : How to treat SFA, Crosser. Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2018, 東京, 2018年7月12-14日.
  43. Kongoji K : EVT course, ガイディングシースの使い分け. Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2018, 東京, 2018年7月12-14日.
  44. Fukushi K, Koyama K, Miura Y, Tashima Y, Wakabayashi N, Nishina Y, Yamazaki H, Shigeta Y, Higuchi S, Inami T, Kongoji K : Successful Balloon Dilatation Of A Severe Calcified Lesion In Which The Presence Of Lipid Core Was Suggested By Near Infrared Spectroscopy . Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2018. Tokyo, 2018年7月12-14日.
  45. Sato T, Soejima S, Maeda A, Nagaoka M, Momose Y, Takeuchi S, Komeda M, Matsushita N, Hoshida K, Miwa Y, Togashi I, Ueda A : Negative Deep Deflection of His-Bundle Potential as a Marker for Superior His Bundle Pacing Thresholds at Implant. 第32回日本不整脈学会学術大会, 横須賀, 2018年7月13-15日.
  46. 合田あゆみ, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 佐藤徹: 肺高血圧症に対する運動療法の現状-当院における重症度に応じた介入. 第24回日本心臓リハビリテーション学会, 横浜, 2018年7月14-15日.
  47. 伊波巧: What is the endpoint?. TOPIC 2018シンポジウム, 東京, 2018年7月14日.
  48. Miwa Y, Soejima K, Komeda M, Takeuchi S, Momose Y, Nagaoka M, Nonoguchi N, Hoshida K, Togashi I, Ueda A, Hagiwara Y, Yoshino H: Atrial Tachycardia Originated from Right Atrial Appendage using Non-Fluoroscopic Catheter Visualization System (MediGuide™). The 65th Japanese Heart Rhythm Society Scientific Session 2018. Tokyo, July 14th, 2018.
  49. Nagaoka M, Ueda A, Mouri T, Kastume Y, Momose Y, Komeda M, Matsushita N, Hoshida K, Miwa Y, Togashi I, Sato T, Soejima K: Efficient and Effective Mapping of Multiple Ventricular Premature Complexes at one time - Utility of EnSite Turbomap™ Feature. The

- 65th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society, Tokyo, July 11th-14th 2018.
50. 飛田和基, 合田あゆみ, 桜井俊光, 増田桃子, 佐藤徹, 岡島康友: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者においてmPAP正常化後の運動耐容能, QOLの検討. 第24回日本心臓リハビリテーション学会, 横浜, 2018年7月14-15日.
  51. 金剛寺謙: Global Vascular Intervention, 全身動脈硬化性疾患に対する治療戦略. 城東地区講演会, 東京, 2018年7月24日.
  52. 佐藤徹: PAH治療戦略におけるInitial combination therapy. アデムパスPHフォーラム, 東京, 2018年7月28日.
  53. 佐藤徹: PAHエキスパート招聘勉強会(講師). 東京, 2018年7月28日.
  54. 坂田好美: 心エコーを用いた肺高血圧症の診断と治療効果評価. 第10回青森肺高血圧症研究会, 青森, 2018年7月28日.
  55. Miwa Y, Sato T, Togashi I, Hagiwara Y, Maeda A, Soejima K: Detection of arrhythmia using Reveal LINQ. The joint meeting of the 45th Congress of the International Society of Electrocardiology and the 18th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology. Chiba, July 28, 2018.
  56. 副島京子: 心室頻拍治療のUpdate. 第4回西三河ハートリズム, 名古屋, 2018年7月20日.
  57. 金剛寺謙: 循環器治療 Up to Date. 三鷹市医師会, 三鷹, 2018年7月31日.
  58. 樋口聡: 低侵襲PCIを極める(slender PCI) どのようにして見えない脅威を回避するべきか?. 日本心血管インターベンション治療学会シンポジウム, 神戸, 2018年8月2-4日.
  59. Kongoji K, Miura Y, Niina Y, Wakabayashi N, Tashima Y, Fukushi K, Nishina Y, Higuchi S, Koyama K, Yoshino H, Soejima K, Ooura N: Usefulness of laser speckle flowgraphy as an endpoint parameter of endovascular therapy in critical limb ischemia. CVIT2018, Kobe, 2018年8月2-4日.
  60. 佐藤徹, 吉野秀朗, 赤木美智男: 厳選された筆記試験の成績は, 即時の習得能力を示す 心臓診察実地試験の結果から. 第50回日本医学教育学会, 東京, 2018年8月3-4日.
  61. Koyama K: Conquering complex bifurcations with Xience and the role of OCT. APAC Great Minds Complex Lesions Symposium, Singapore, 2018年8月17-20日.
  62. Soejima K: Cure the ventricular tachycardia, Beside shodk, ablation can do more?. 胸腔心臓疾病治療の最新発展国際研討會, Taiwan, August 24th, 2018.
  63. Taniai S, Ito J, Yorozu T, Yoshino H: Cardiovascular preoperative screening system for non-cardiac surgery modified from ACC/AHA guideline can provide effective evaluation. Germany, August 25th-29th, 2018.
  64. Taniai S, Ito J, Yorozu T, Yoshino H: Is exercise capacity above 4METs good enough to screen pre-operative patients with non-cardiac surgery? Germany, August 25th-29th, 2018.
  65. 伊波巧: 当院におけるAPTE治療戦略. がんと血栓症を考える会, 東京, 2018年9月3日.
  66. 坂田好美: 心エコーを用いた肺高血圧症の診断と治療効果評価. 肺高血圧セミナー, 東京, 2018年9月4日.
  67. 佐藤徹: 肺動脈性背弧血圧症の治療方針. 第66回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018年9月7日.
  68. 谷合誠一, 伊藤準之助, 森山久美, 萬知子, 吉野秀朗, 副島京子: 非心臓手術の周術期における心血管イベントの発症の特徴. 第66回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018年9月7-9日.
  69. 菊池華子, 竹内かおり, 合田あゆみ, 伊波巧, 副島京子, 佐藤徹: CTEPH治療後患者における運動誘発性肺高血圧症の予測因子解析. 第66回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018年9月7-9日.
  70. 合田あゆみ, 伊藤準之助, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 佐藤徹: Macitentanの効果-血行動態改善を中心とした1 expert centerの経験. 第66回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018年9月7-9日.
  71. 合田あゆみ, 伊藤準之助, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 副島京子, 佐藤徹: 前毛細血管性肺高血圧症と後毛細血管性肺高血圧症合併例に対する治療戦略. 安静時正常血行動態膠原病患者における運動誘発性前毛細血管性肺高血圧症と運動誘発性後毛細血管性肺高血圧症の鑑別と治療戦略. 第66回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018年9月7-9日.
  72. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 日本心臓血管麻酔学会第23回学術大会, 東京, 2018年9月15日.
  73. 佐藤徹: 周術期における肺高血圧症の管理指針, 肺高血圧診療の進歩-肺高血圧症の病態とどんな治療が行われているか. 日本心臓血管麻酔学会第23回学術大会, 東京, 2018年9月15日.
  74. 副島京子: 不整脈に対する薬物治療と最新の話. 道東不整脈セミナー2018, 帯広, 2018年9月21日.
  75. 佐藤徹: ニース会議後の肺高血圧症診療. 神戸肺循環フォーラム, 神戸, 2018年9月21日.
  76. 伊波巧: 当院の中枢型CTEPHに対するBPA治療. CTEPH summit 2018, 東京, 2018年9月22日.
  77. 伊波巧: CTEPH診療におけるUnmet Needsとこれからの研究. Structure Club Japan Live Demonstration 2018シンポジウム, 岡山, 2018年9月28日.
  78. 伊波巧: CTEDにおけるBPAの効果. CCCT 2018, 東京, 2018年9月29日.
  79. 副島京子: 心室頻脈治療のこつ. 次世代不整脈エキスパート講座 in 盛岡, 盛岡, 2018年9月30日.
  80. 佐藤徹: ニース会議後の呼吸器疾患に伴う肺動脈性肺高血圧症の治療について. 第8回東京肺循環セミナー, 東京, 2018年10月4日.
  81. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 第56回静岡県不整脈カンファレンス, 浜松, 2018年10月6日.
  82. 田島幸佳, 三浦裕介, 三浦陽平, 福土圭, 若林典弘, 仁科善雄, 山崎博之, 樋口聡, 重田洋平, 小山幸平, 金剛寺謙: 抜去困難となった診断カテーテルを回収するのに難渋した一例. 第49回多摩地区虚血性心疾患研究会, 東京, 2018年10月6日.
  83. 副島京子: 医師のオンゴト. ミライデアフォーラム2018, 東京, 2018年10月8日.
  84. 佐藤徹: 身体所見による心不全診断のコツ. 第22回日本心不全学会学術集会, 東京, 2018年10月11日.
  85. 合田あゆみ, 伊藤準之助, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 副島京子, 佐藤徹: 肺高血圧症に対する運動療法の現状-当院における重症度に応じた介入. 第22回日本心不全学会学術集会, 東京, 2018年10月11-13日.
  86. 伊藤準之助, 合田あゆみ, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 副島京子, 佐藤徹: Leg raise can help a diagnosis of exercise-induced left ventricular diastolic dysfunction. 第22回日本心不全学会学術集会, 東京, 2018年10月11-13日.
  87. Soejima K: CARE & TREAT/AF Management. The 11th Asia Pacific Heart Rhythm Society 2018, Taiwan, October 16th-20th, 2018.
  88. Soejima K: New Technology Focus Workshop. The 11th Asia Pacific Heart Rhythm Society 2018, Taiwan, October 16th-20th, 2018.

89. Soejima K : Appropriate Patient Selection for Leadless PPM. The 11th Asia Pacific Heart Rhythm Society 2018, Taiwan, October 16th-20th, 2018.
90. Soejima K : Clinical Aspects of Ablation and Management in Specific Population. The 11th Asia Pacific Heart Rhythm Society 2018, Taiwan, October 16th-20th, 2018.
91. Soejima K : Live demonstration(Ablation). The 11th Asia Pacific Heart Rhythm Society 2018, Taiwan, October 16th-20th, 2018.
92. 金剛寺謙 : Video Live 2, BTK. Complex Cardiovascular Therapeutics 2018. 神戸, 2018年10月25-27日.
93. Sato T : Leadless Pacemaker Implantation Without Complication: Learning from the Patients. The 11th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Conference, Taiwan, Oct 17th -20th, 2018.
94. Sato T : Cardiac-Resynchronization Therapy in HF with a Narrow QRS Complex. The 11th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Conference, Taiwan, Oct 17th -20th, 2018.
95. 副島京子 : 不整脈治療の最前線. Arrhythmia Research Conference, 東京, 2018年10月23日.
96. Togashi I : New Device: Leadless and Subcutaneous Device. 11th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. Taiwan, Oct.17th-20th 2018.
97. 坂田好美 : 進化した3D Trackingによる心機能評価. 日本超音波医学会第48回北海道地方会学術集会, 札幌, 2018年10月27日.
98. 小山幸平 : OCTガイド下PCIの新たなアプローチと可能性. Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT)2018, 神戸, 2018年10月26日.
99. 三輪陽介 : 心室頻拍・心室期外収縮. 不整脈治療関連指定講習会. 大阪, 2018年10月28日.
100. 副島京子 : 最新不整脈治療. 西多摩心臓病講演会, 東京, 2018年10月31日.
101. 伊波巧 : PAH治療のUpdate. PAH WEB講演会”重症PAHの治療戦略”, 東京, 2018年10月31日.
102. Soejima K : Case: VT ablation in patients with non-ischemic cardiomyopathy and non-inducible VT. My favorite approach for VT ablation in patients with non-ischemic cardiomyopathy and non-inducible VT. Discussion(Q&A). VT Symposium 2018, South Korea, November 2nd-4th, 2018.
103. 副島京子 : AF治療のこつ. 第8回みんなのハートカンファレンス, 東京, 2018年11月5日.
104. 重田洋平 : 急性冠症候群における脂質管理. 循環器病を考える会, 東京, 2018年11月6日.
105. 小山幸平 : 家族性高コレステロール血症を伴う急性冠症候群患者病変を近赤外線分光法にて評価した一例. 東京, 2018年11月9日.
106. 谷合誠一, 長谷川浩, 萬知子, 神崎恒一 : 高齢者外科手術の周術期における高齢者総合機能評価(CGA)を用いたフレイル・サルコペニアの評価. 第5回サルコペニア・フレイル学会, 東京, 2018年11月10-11日.
107. 小山幸平 : OCT Educational Program. TMT Winter Program 2018, 東京, 2018年11月13日.
108. 伊波巧 : CTEPHの最新治療-カテーテル治療(BPA)の進歩とその効果-. Vascular Disease Conference, 鹿島, 2018年11月14日.
109. 重田洋平, 小山幸平, 三浦陽平, 田島幸佳, 福士圭, 若林典弘, 仁科善雄, 山崎博之, 樋口聡, 金剛寺謙, 副島京子 : 急性冠症候群患者におけるエボロクマブの効果を近赤外線分光法にて観察した一例. 第32回日本冠疾患学会学術集会, 熊本, 2018年11月16-17日.
110. 三浦陽平, 小山幸平, 樋口聡, 重田洋平, 山崎博之, 仁科善雄, 若林典弘, 田島幸佳, 福士圭, 三浦佑介, 金剛寺謙 : Near Infrared Spectroscopy IVUS (NIRS-IVUS) にて責任病変を観察し得た急性冠症候群の2症例. 第32回日本冠疾患学会学術集会, 熊本, 2018年11月16-17日.
111. 副島京子 : 脈を知ることの大切さ 自己検脈でわかること. 第47回杏林医学会総会-市民公開講演会, 三鷹, 2018年11月17日.
112. 重田洋平, 小山幸平, 三浦陽平, 田島幸佳, 福士圭, 若林典弘, 仁科善雄, 山崎博之, 樋口聡, 金剛寺謙, 副島京子 : 急性冠症候群患者におけるエボロクマブの効果を近赤外線分光法にて観察した一例. 第32回冠疾患学会学術集会, 熊本, 2018年11月17日.
113. 副島京子 : 心房細動治療のこつ. 三鷹市医師会循環器研究会, 三鷹, 2018年11月20日.
114. 伊波巧 : BPAの新たな技術の進歩. ARIA 2018シンポジウム, 福岡, 2018年11月24日.
115. 副島京子 : Xa阻害薬に違いはあるのか? ~血中濃度とリアルワールドエビデンスからの考察~. EXCITE 2018, 東京, 2018年11月28日.
116. 佐藤徹 : ニース会議後の肺高血圧症診療. 第6回九州肺高血圧症研究会, 福岡, 2018年11月30日.
117. 副島京子 : 楽しく循環器医師を続ける方法. 第14回ダイバーシティ推進委員会セミナー, 仙台, 2018年12月1日.
118. Sakata K, Ito J, Isaka A, Mitsuda H, Minamishima T, Furuya M, Matsushita K, Satoh T, Soejima K, Yoshino H : Evaluation of left right atrial dysfunction in patients with atrial fibrillation using a novel three-dimensional speckle tracking echocardiographic system. EuroEcho-Imaging 2018. Italy, Dec.5th -8th, 2018.
119. Isaka A, Sakata K, Ito J, Mitsuda H, Minamishima T, Furuya M, Matsushita K, Satoh T, Soejima K, Yoshino H : Assessment of cardiac function using a novel progressive three-dimensional speckle tracking echocardiographic system. Euro Echo-Imaging 2018. Italy, Dec. 6th, 2018.
120. Ito J, Sakata K, Isaka A, Mitsuda H, Minamishima T, Furuya M, Matsushita K, Satoh T, Soejima K, Yoshino H : Evaluation of left right atrial dysfunction in patients with atrial fibrillation using a novel three-dimensional speckle tracking echocardiographic system. Echo-Imaging 2018, Italy. Dec 7th, 2018.
121. 副島京子 : 循環器留学のすすめ~不整脈治療の進歩のために~. Cardiac Arrhythmia Research Topics, 東京, 2018年12月7日.
122. 伊波巧 : 肺塞栓症からCTEPH治療の現状-カテーテル治療の進歩とその効果-. 肺血栓塞栓症を考える会, 東京, 2018年12月7日. 伊波巧 : PAH治療におけるInitial Combination Therapy~最新状況から当院の治療戦略に関して~. アデムパスWeb講演会, 東京, 2018年12月17日.
123. 谷合誠一, 伊藤準之助, 森山久美, 萬知子, 吉野秀朗 : 非心臓手術の周術期における心血管イベントの発症の特徴. 第53回 日本成人病(生活習慣病)学会学術集会, 東京, 2019年1月12-13日.
124. 合田あゆみ : 運動するとどうなる?. 多摩肺高血圧フォーラム, 東京, 2019年1月12日.
125. 伊波巧 : 慢性血栓性肺高血圧症は治るの?. 多摩肺高血圧症フォーラム2019, 三鷹, 2019年1月12日.
126. Koyama K : Leveraging Xience Sierra and OCT the perfect combination! Singapore LIVE 2019. 28th Singapore LIVE 2019, Singapore, 2019年1月17日.

127. 坂田好美: 明日から使える肺高血圧の評価. 日本新薬社内研修会, 東京, 2019年1月18日.
128. Koyama K: Latest on invasive physiology: FFR updates and emergence of resting indices. 28th Singapore LIVE 2019, Singapore, 2019年1月18日.
129. 三輪陽介: 持続性心房細動の治療. バイエル薬品工業循環器勉強会, 東京, 2019年1月30日.
130. 伊波巧: 循環器内科から診るPH~最新状況から当院の治療戦略に関して~. PH Master Program in 西北, 東京, 2019年2月1日.
131. 副島京子: 心室頻拍治療の変遷と未来. Ablation Kansai Wakate S47 year born, 大阪, 2019年2月2日.
132. 三輪陽介: 心房細動の診断と治療. 心房細動WEBセミナー, 東京, 2019年2月2日.
133. 坂田好美: 糖尿病と心疾患. アストラゼネカ社内レクチャー, 東京, 2019年2月7日.
134. 合田あゆみ: どうなっているの, 運動中の肺循環. 第24回関東ハートセミナー, 東京, 2019年2月8日.
135. 副島京子: VTアブレーション 最新の話. 若手医師のための循環器セミナー, 新潟, 2019年2月13日.
136. 富樫郁子: 皮下植込み型除細動器 (S-ICD) の除細動閾値テストで心室細動停止まで30秒以上要した1例. 第11回植込みデバイス関連冬季大会, 東京, 2019年2月14-16日.
137. 副島京子: 心房細動治療のこつ. 循環器講演会, 東京, 2019年2月20日.
138. Koyama K: Impact of automated co-registration of OCT and angiography on “geographic miss” Optimize PCI with OCT Shizuoka. Shizuoka, 2019年2月20日.
139. 副島京子: 不整脈治療の最新の話題. 東京心臓血管研究会, 東京, 2019年2月21日.
140. 小山幸平: Lecture Meeting~脂質低下療法と冠動脈内イメージング~. Bayer社内講演会, 2019年2月27日.
141. 富樫郁子: 不整脈~デバイス治療を中心に. 大塚製薬勉強会, 三鷹, 2019年2月27日.
142. 伊波巧: 当院の肺動脈性肺高血圧症の治療戦略. 北多摩地区肺高血圧症講演会, 東京, 2019年2月28日.
143. 永松佑基, 南島俊徳, 長岡身佳, 重田洋平, 松下紀子, 金剛寺謙, 松下健一, 坂田好美, 佐藤徹, 副島京子: nivolumabによる薬剤性心筋炎の1症例. 第649回日本内科学会関東地方会, 東京, 2019年3月2日.
144. 副島京子: 心房細動治療の“コツ”おさえておきたい“ポイント”. Arrhythmia Network Conference in TAMA, 多摩, 2019年3月6日.
145. 副島京子: 心室不整脈治療Update. 2019 Meet the Expert in 郡山, 郡山, 2019年3月9日.
146. Soejima K: Ablation of Ventricular Arrhythmias. EHRA 2019, Portugal, March 15th-21st, 2019.
147. 坂田好美: 糖尿病と循環器疾患. 田辺三菱製薬株式会社カナル勉強会, 東京, 2019年3月25日.
148. 副島京子: リードレスペースメーカーの現状と今後の展望. VT最前線. 第83回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2019年3月29-31日.
149. Sato T, Soejima S, Maeda, Nagaoka M, Momose Y, Takeuchi S, Komeda M, Matsushita N, Hoshida K, Miwa Y, Ueda A, Togashi I: Steep Negative Deflection in His-bundle Electrogram as a Marker of Excellent His-bundle Pacing Threshold post-implant. 第83回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2019年3月29-31日.
150. Mitsuda H, Goda A, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Sakata K, Soejima K, Satoh T: Exercise pulmonary hypertension is related with right ventricular dysfunction and exercise intolerance in chronic thromboembolic disease patients with normalized resting hemodynamics after pulmonary angioplasty. 第83回日本循環器病学会学術集会, 横浜, 2019年3月29-31日.
151. Goda A, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Soejima K, Satoh T: Comparison of pulmonary vascular resistance and pulmonary artery compliance during exercise between IPAH and CTEPH with normal pulmonary artery pressure. 第83回日本循環器病学会学術集会, 横浜, 2019年3月29-31日.
152. Koyama K: Expectation of High Definition IVUS. 第83回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2019年3月29日.

## 論文 (和文)

- 佐藤徹: 日本における肺高血圧症診療の歴史. 循環器ジャーナル66-3: 316-323, 2018.
- 佐藤徹: 慢性血栓性肺高血圧症の診療. 心臓 50: 1064-1067, 2018.
- 佐藤徹: 難病疾患-肺動脈性肺高血圧症の新規原因遺伝子同定を含めた発症機序全容解明研究. 杏林医学会雑誌49: 4:17-19, 2018.
- 佐藤徹: プライマリ・ケアでおさえておきたい 重要薬・頻用薬 循環器薬 肺高血圧症治療薬. Medicina55: 146-151, 2018.
- 佐藤徹: Physical Examinationを身につける 診る 右心不全はこう診. Heart View 22: 215-220, 2018.
- 瀧原圭子 (大阪大学大学院系研究科), 佐藤徹, 田村雄一, 花岡正幸: Pulmonary Hypertension Update. 肺動脈性肺高血圧症と各群における肺高血圧症の境界域の鑑別・診断ポイント41: 10-17, 2018.
- 磯貝俊明 (京都医療センター), 吉川勉, 上田哲郎, 前川裕一郎, 坂田好美, 山口徹雄, 井守洋一, 村上力, 寺岡邦彦, 望月宏樹, 長尾建, 山本剛, 高山守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会: たこつぼ心筋症患者におけるBody Mass Indexの院内予後への影響 多施設コホート研究. ICUとCCU (0389-1194)42別冊: S84-S88, 2018.
- 前川裕一郎, 吉川勉, 上田哲郎, 坂田好美, 磯貝俊明, 山口雄, 井守洋一, 寺岡邦彦, 村上力, 望月彦, 長尾建, 山本剛, 高山守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会: たこつぼ心筋症. たこつぼ心筋症における末梢血白血球数の増加と院内予後の関係. ICUとCCU (0389-1194)42別冊: S94-S96, 2018.
- 村上力, 吉川勉, 前川裕一郎, 上田哲郎, 望月宏樹, 山口徹雄, 磯貝俊明, 坂田好美, 井守洋一, 山本剛, 長尾建, 高山守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会: たこつぼ症候群の発生月の検討. ICUとCCU (0389-1194)42別冊: S91-S93, 2018.
- 坂田好美: 【心臓イメージング2018】心臓領域における超音波診断装置『Aplio i900』の使用経験. 映像情報Medical50-3: 22-28, 2018.
- 坂田好美: 【治療方針の決定と治療に活かす】肺高血圧症の治療方針と治療. (解説/特集)心エコー19-12: 1192-1204, 2018.
- 三輪陽介, 勝目有美, 竹内真介, 百瀬裕一, 長岡身佳, 米田道嗣, 野々口紀子, 星田京子, 富樫郁子, 吉野秀朗, 副島京子, 上田明子, 佐藤俊明: 心室中隔の広範な伝導遅延を有する回路に対して両側流出路からバイポーラ、左冠尖からユニポーラ通電を要した非虚血性心筋症リエントリー性心室頻拍. 臨床心臓電気生理41: 97-105, 2018.
- Goda A, Tobita K, Nishida Y, Yokoyama S, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Soejima K, Satoh T: 運動

- 時肺動脈圧上昇からみた肺高血圧症のリハビリテーション.  
日本心臓リハビリテーション学会誌 24: 202-6, 2018.
14. 金剛寺謙: 特集「末梢動脈疾患 (PAD)・肋骨骨髄炎・褥瘡」  
重症下肢虚血に対する血管内治療. 杏林医学会誌50(1): 11-14, 2018.
  15. 星田京子, 佐藤俊明, 前田明子, 毛利崇人, 長岡身佳, 竹内真介, 百瀬裕一, 米田道嗣, 松下紀子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 副島京子: ICD植込み後、心室頻拍により心臓突然死に至った1例. 心臓50(Suppl.1): 134-138, 2018.
  16. 佐藤徹: 血栓塞栓症の防止対策-抗凝固療法の最近の動向 急性肺塞栓症の病態. カレントセラピー 37: 234-238, 2019.
  17. 坂田好美: 【心臓イメージング2019】新しい3次元スペクトルトラッキング心エコー法を用いた心機能評価: 映像情報 Medical51-3 : 25-30. 2019.
- (英文)
1. Togashi I, Sato T, Hoshida K, Soejima K : Subclinical cardiac perforation caused by a Micra™ leadless pacemaker. *J Arrhythm*34(3):326-328,2018. doi:10.1002/joa3.12052.
  2. Shiraishi Y, Nagai T, Kohsaka S, Goda A, Nagatomo Y, Mizuno A, Kohno T, Rigby A, Fukuda K, Yoshikawa T, Clark AL, Cleland JGF : Outcome of hospitalised heart failure in Japan and the United Kingdom stratified by plasma N-terminal pro-B-type natriuretic peptide. *Clin Res Cardiol.* 2018 .
  3. Tanabe N, Kawakami T, Satoh T, Matsubara H, Nakanishi N, Ogino H, Tamura Y, Tsujino I, Ogawa A, Sakao S, Nishizaki M, Ishida K, Ichimura Y, Yoshida M, Tatsumi K: Balloon pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension: A systematic review. *Respir Investig.* 2018 Jul;56(4):332-341, 2018.
  4. Gamou S, Kataoka M, Aimi Y, Chiba T, Momose Y, Isobe S, Hirayama T, Yoshino H, Fukuda K, Satoh T : Genetics in pulmonary arterial hypertension in a large homogeneous Japanese population. *Clin Genet.* 2018 Jul;94(1):70-80, 2018.
  5. Miura Y, Kataoka M, Chiba T, Inami T, Yoshino H, Satoh T : Giant Fold Gastritis Induced by Epoprostenol Infusion in Patients With Pulmonary Arterial Hypertension. *Circ J.* 2018 Sep 25;82(10):2676-2677, 2018.
  6. Young A, Nagaraja V, Basilio M, Habib M, Townsend W, Gladue H, Badesch D, Gibbs JSR, Gopalan D, Manes A, Oudiz R, Satoh T, Torbicki A, Torres F, McLaughlin V, Khanna D : Update of screening and diagnostic modalities for connective tissue disease-associated pulmonary arterial hypertension . *Semin Arthritis Rheum.* pii: S0049-0172(18)30446-3, 2018 .
  7. Conte G, Soejima K, de Asmundis C, Chierchia GB, Badini M, Miwa Y, Caputo ML, Özkartal T, Maffessanti F, Sieira J, Degreef Y, Stroker E, Regoli F, Moccetti T, Brugada P, Auricchio A : Value of high-resolution mapping in optimizing cryoballoon ablation of atrial fibrillation. *Int J Cardiol.* 270:136-142, 2018.doi: 0.1016/j.ijcard.2018.05.135.
  8. Hiraide T, Kataoka M, Suzuki H, Aimi Y, Chiba T, Kanekura K, Satoh T, Fukuda K, Gamou S, Kosaki K : SOX17 Mutations in Japanese Patients with Pulmonary Arterial Hypertension. *Am J Respir Crit Care Med* : 198(9):1231-1233, 2018 .
  9. Nagaoka M, Goda A, Takeuchi K, Kikuchi H, Finger M, Inami T, Soejima K, Satoh T : Nocturnal Hypoxemia, But Not Sleep Apnea, Is Associated With a Poor Prognosis in Patients With Pulmonary Arterial Hypertension. *Circ J82(12)* : 3076-3081, 2018 .
  10. Suzuki H, Kataoka M, Hiraide T, Aimi Y, Yamada Y, Katsumata Y, Chiba T, Kanekura K, Isobe S, Sato Y, Satoh T, Gamou S, Fukuda K, Kosaki K : Genomic Comparison With Supercentenarians Identifies RNF213 as a Risk Gene for Pulmonary Arterial Hypertension. *Circ Genom Precis Med*11(12) : e13945, 2018 .
  11. Matsushita K, Harada K<sup>1</sup>, Miyazaki T<sup>1</sup>, Miyamoto T<sup>1</sup>, Iida K<sup>1</sup>, Tanimoto S<sup>1</sup>, Yagawa M<sup>1</sup>, Takei M<sup>1</sup>, Nagatomo Y<sup>1</sup>, Hosoda T<sup>1</sup>, Yoshino H, Yamamoto T<sup>1</sup>, Nagao K<sup>1</sup>, Takayama M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo CCU Network Scientific Committee) : Effects of glycemic control on in-hospital mortality among acute heart failure patients with reduced, mid-range, and preserved ejection fraction. *Heart Vessels* 33(9): 1022-1028 , 2018 . DOI: 10 . 1007/s00380-018-1152-2.
  12. Yamamoto MH, Maehara A, Kim SS, Koyama K, Kim SY, Ishida M, Fujino A, Haag ES, Alexandru D, Allen Jermias A, Sosa FA, Galougahi KK, Kirtane AJ, Moses JW, Ali ZA, Mintz GS, Shlofmitz RA : Effect of orbital atherectomy in calcified coronary artery lesions as assessed by optical coherence tomography. *Catheter Cardiovasc Interv.* Epub ahead of print 2018.
  13. Kim SS, Yamamoto MH, Maehara A, Sidik N, Koyama K, Berry C, Oldroyd KG, Gintz GS, Margaret McEntegart M : Intravascular ultrasound assessment of the effects of rotational atherectomy in calcified coronary artery lesions. *International Journal of Cardiovascular Imaging* 34 : 1365-137, 2018.
  14. Mizumi S, Goda A, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Soejima K, Satoh T : Effects of body position during cardiopulmonary exercise testing with right heart catheterization. *Physiol Rep* : 6(23):e13945, 2018 .
  15. Higuchi S, Kabeya Y<sup>1, 2</sup>, Uchida J<sup>3</sup>, Kato K<sup>3</sup>, Tsukada N<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Division of General Internal Medicine Department of Internal Medicine Tokai University, <sup>2</sup>Department of Home Care Medicine Saiyu Clinic, <sup>3</sup>Department of Internal Medicine Tokyo Saiseikai Central Hospital): Low Bilirubin Levels Indicate a High Risk of Cerebral Deep White Matter Lesions in Apparently Healthy Subjects. *Scientific Reports* 8(1) : 6473, 2018.
  16. Yamazoe M, Mizuno A, Kohsaka S, Shiraishi Y, Kohno T, Goda A, Higuchi S, Yagawa M, Nagatomo Y, Yoshikawa T, West Tokyo Heart Failure Registry Investigators Tokyo, Japan : Incidence of hospital-acquired hyponatremia by the dose and type of diuretics among patients with acute heart failure and its association with long-term outcomes. *J Cardiol*71(6) : 550-556, 2018 .
  17. Nagai T, Sundaram V, Shoaib A, Shiraishi Y, Kohsaka S, Rothnie KJ, Piper S, McDonagh TA, Hardman SMC, Goda A, Mizuno A, Sawano M, Rigby AS, Quint JK, Yoshikawa T, Clark AL, Anzai T, Cleland JGF : Validation of U. S. mortality prediction models for hospitalized heart failure in the United Kingdom and Japan. *Eur J Heart Fail.* 20(8):1179-1190, 2018 .
  18. Shiraishi Y, Kohsaka S, Nagai T, Goda A, Mizuno A, agatomo Y, Sujino Y, Fukuoka R, Sawano M, Kohno T, Fukuda K, Anzai T, Shadman R, Dardas T, Levy WC, Yoshikawa T : Validation and Recalibration of Seattle Heart Failure Model in Japanese Acute Heart Failure Patients. *J Card Fail,* 2018 .
  19. Nagai T, Sundaram V, Rothnie K, Quint JK, Shoaib A, Shiraishi Y, Kohsaka S, Piper S, McDonagh TA, Hardman

- SMC, Goda A, Mizuno A, Kohno T, Rigby AS, Yoshikawa T, Clark AL, Anzai T, Cleland JGF : Mortality after admission for heart failure in the UK compared with Japan. *Open Heart* 5(2) : e000811. 2018 .
20. Higuchi S, Miura Y, Nishina Y, Koyama K, Kongoji K, Matsushita K, Soejima K : Successful contemporary reverse controlled antegrade and retrograde subintimal tracking without contrast medium: a case report. *J Med Case Rep* 12:390, 2018.
  21. Higuchi S, Matsushita K, Niina Y, Sakata K, Satoh T, Yoshino H : Myocardial injury caused by severe blow: Importance of carefulness in accurate diagnosis. *Int Heart J* 59(4) : 845-847, 2018. DOI: 10.1536/ihj. 17-345
  22. Higuchi S, Suzuki M<sup>1</sup>, Horiuchi Y<sup>1</sup>, Tanaka H<sup>1</sup>, Saji M<sup>1</sup>, Yoshino H<sup>1</sup>, Nagao K<sup>1</sup>, Yamamoto T<sup>1</sup>, Takayama M<sup>1</sup> (Tokyo CCU Network Scientific Committee): Clinical Impact of Thrombus Aspiration on In-hospital Mortality in Each Culprit Lesion in the Setting of ST-segment Elevation Myocardial Infarction. *Heart and Vessels*. 33(10) : 1168–1174, 2018.
  23. Higuchi S, Kabeya Y<sup>1, 2</sup>, Matsushita K, Tachibana K<sup>3</sup>, Kawachi R<sup>4</sup>, Takei H<sup>3</sup>, Suzuki Y<sup>5</sup>, Abe N<sup>5</sup>, Imanishi Y<sup>6</sup>, Moriyama K<sup>7</sup>, Yorozu T<sup>7</sup>, Saito K<sup>8</sup>, Sugiyama M<sup>5</sup>, Kondo H<sup>3</sup>, Yoshino H (Division of General Internal Medicine Department of Internal Medicine Tokai University, <sup>2</sup>Department of Home Care Medicine Saiyu Clinic, <sup>3</sup>Department of General Thoracic Surgery, <sup>4</sup>Department of General Thoracic Surgery Nihon University School of Medicine, <sup>5</sup>Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, <sup>6</sup>Department of Otorhinolaryngology Head and Neck Surgery Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital; <sup>7</sup>Department of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>8</sup>Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine) : The study protocol for PREDICT AF RECURRENCE: a PROspective cohort study of surveillance for perioperative Atrial Fibrillation RECURRENCE in major non-cardiac surgery for malignancy. *BMC Cardiovasc Disord*. 18(1) : 127, 2018.
  24. Higuchi S, Miura Y, Nishina Y, Koyama K, Kongoji K, Matsushita K, Soejima K : Effects of body position during cardi controlled antegrade and retrograde subintimal tracking without contrast medium: a case report. *J ion RECURRENCE in major non-cardiac surgery for malignancy. BMC Cardiovasc Disord. Med Case Rep*18(1) : 127, 12(1):390, 2018.
  25. Conte G, Soejima K, de Asmundis C, Chierchia GB, Badini M, Miwa Y, Caputo ML, Özkartal T, Maffessanti F, Sieira J, Degreef Y, Stroker E, Regoli F, Moccetti T, Brugada P, Auricchio A : Value of high-resolution mapping in optimizing cryoballoon ablation of atrial fibrillation. *Int J Cardiol*270 : 136-142, 2018.
  26. Komeda M, Mwa Y, Ueda A, Soejima K : Ultra-high-density mapping of left atrial and pulmonary vein macroreentry using double conduction gaps. *J Cardiovasc Electrophysiol. Idiopathic Ventricular Arrhythmia* 29 : 630-631, 2018.
  27. Matsushita K, Sakata K, Satoh T, Yoshino H : Estimated Pulmonary Artery Systolic Pressure and Mortality in Older-Elderly Heart Failure Patients. *J Am Geriatr Soc* 67 : 323-328, 2018.
  28. Higuchi S, Matsushita K, Niina Y, Sakata K, Satoh T, Yoshino H : Myocardial Injury Caused by Severe Blow: Importance of Carefulness in Accurate Diagnosis. *Int Heart J*. 59:845-847, 2018.
  29. Yada H, Soejima K : Management of arrhythmias associated with cardiac sarcoidosis. *Korean Circ U49* : 119-133, 2019.
  30. Frost A, Badesch D, Gibbs JSR, Gopalan D, Khanna D, Manes A, Oudiz R, Satoh T, Torres F, Torbicki A : Diagnosis of pulmonary hypertension. *Eur Respir J* : 53(1), 2019 .
  31. Matsushita K, Sakata K, Satoh T, Yoshino H : Estimated pulmonary artery systolic pressure and mortality in older-elderly heart failure patients. *J Am Geriatr Soc* 67(2): 323-328, 2019. DOI: 10.1111/jgs.15663
  32. Matsushita K, Harada K<sup>1</sup>, Miyazaki T<sup>1</sup>, Miyamoto T<sup>1</sup>, Kohsaka S<sup>1</sup>, Iida K<sup>1</sup>, Tanimoto S<sup>1</sup>, Takei M<sup>1</sup>, Hosoda T<sup>1</sup>, Yamamoto Y<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>1</sup>, Yoshino H, Yamamoto T<sup>1</sup>, Nagao K<sup>1</sup>, Takayama M<sup>1</sup> (Tokyo CCU Network Scientific Committee) : Different prognostic associations of beta-blockers and diuretics in heart failure with preserved ejection fraction with versus without high blood pressure. *J Hypertens* 37(3): 643-649, 2019. DOI: 10. 1097/HJH. 0000000000001932
  33. El-Chami MF, Johansen JB, Zaidi A, Faerstrand S, Reynolds D, Garcia-Seara J, Mansourati J, Pasquie JL, McElderry HT, Roberts PR, Soejima K, Stromberg K, Piccini JP : Leadless pacemaker implant in patients with pre-existing infections: Results from the Micra postapproval registry. *J Cardiovasc Electrophysiol* 2019. doi: 10.1111/jce.13851. [Epub ahead of print]
  34. EL-Chami MF, Clementy N, Garweg C, Omar R, Duray GZ, Gornick CC, Leyva F, Sagi V, Piccini JP, Soejima K, Stromberg K, Roberts PR : Leadless pacemaker implantation in hemodialysis patients: experience with the Micra transcatheter pacemaker. *JACC Clin Electrophysiol* (5) :162-70, 2019.
  35. Ueda A, Soejima K, Miwa Y, Takeuchi S, Nagaoka M, Momose Y, Matsushita N, Hoshida K, Miyakoshi M, Togashi I, Maeda A, Hagiwara Y, Sato T, Yoshino H : Idiopathic Ventricular Arrhythmia Ablation Using Non-Fluoroscopic Catheter Visualization System. *Int Heart J*. 60(1) : 78-85, 2019 . Doi: 10. 1536/ihj. 18-122.
  36. Higuchi S, Kohsaka S<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>1</sup>, Katsuki T<sup>1</sup>, Nagatomo Y<sup>2</sup>, Mizuno A<sup>3</sup>, Sujino Y<sup>4</sup>, Kohno T<sup>1</sup>, Goda A, Yoshikawa T<sup>2</sup> (Department of Cardiology Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Cardiology Sakakibara Heart Institute, <sup>3</sup>Department of Cardiology St. Luke's International Hospital, <sup>4</sup>Department of Cardiology Saitama Medical University International Medical Center): Association of Renin-Angiotensin System Inhibitors with Long-Term Outcomes in Patients with Systolic Heart Failure and Moderate-to-Severe Kidney Function Impairment. *European Journal of Internal Medicine*62 : 58–66, 2019.
  37. Higuchi S, Kabeya Y<sup>1, 2</sup>, Matsushita K, Yamasaki S<sup>3</sup>, Ohnishi H, Yoshino H<sup>3</sup> (Division of General Internal Medicine Department of Internal Medicine Tokai University; <sup>2</sup>Department of Home Care Medicine Saiyu Clinic, <sup>3</sup>Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Urinary cast is a useful predictor of acute kidney injury in acute heart failure. *Scientific Reports* 13:9(1) : 4352, 2019.
  38. Higuchi S, Suzuki M<sup>1</sup>, Horiuchi Y<sup>1</sup>, Tanaka H<sup>1</sup>, Saji M<sup>1</sup>, Yoshino H<sup>1</sup>, Nagao K<sup>1</sup>, Yamamoto T<sup>1</sup>, Takayama M<sup>1</sup> (Tokyo CCU Network Scientific Committee) : Higher non-cardiac mortality and lesser impact of early revascularization in patients with type 2 compared to type 1 acute myocardial infarction: results from the Tokyo

不整脈先進治療学研究講座

講演

- CCU Network registry. Heart Vessels 2019. DOI: 10.1007/s00380-019-01350-z. Epub
39. Yamashita S, Takigawa M, Denis A, Derval N, Sakamoto Y, Masuda M, Nakamura K, Miwa Y, Tokutake K, Yokoyama K, Tokuda M, Matsuo S, Naito S, Soejima K, Yoshimura M, Haïssaguerre M, Jaïs P, Yamane T : Pulmonary vein-gap re-entrant atrial tachycardia following atrial fibrillation ablation: an electrophysiological insight with high-resolution mapping. Europace. 2019.
  40. Koyama K, Fujino A, Maehara A, Yamamoto MH, Alexandru D, Jennings J, Krug P, Santiago LM, Murray M, Bongiovanni L, Lee T, Kim S-Y, Wang X, Lin Y, Matsumura M, li ZA, Sosa F, Haag E, Mintz GS, Shlofmitz RA : A Prospective, Single-Center, Randomized Study to Assess Whether Automated Co-Registration of OCT with Angiography Can Reduce Geographic Miss. Catheter Cardiovasc Intervention 93(3):411-418, 2019.
  41. Koyama K, Mintz GS, Redfors B, Serruys PW, Bruyne BD, Erlinge D Stone GW, Maehara A : Impact of the Extent of Circumferential Plaque on Non-Culprit Lesion-Related Events ; A PROSPECT Substudy. Journal of American College of Cardiology Cardiovascular Imaging. Epub ahead of print, 2019.
  42. Isogai T, Yoshikawa T, Ueda T, Yamaguchi T, Imori Y, Maekawa Y, Sakata K, Murakami T, Mochizuki H, Arai K, Kimura A, Nagao K, Yamamoto T, Takayama M : Takotsubo syndrome versus anterior acute myocardial infarction: findings from the Tokyo Cardiovascular Care Unit network registry. Eur Heart J Acute Cardiovasc Care8:86-89, 2019.
- 著書**
1. 副島京子 : カテーテルアブレーションにおけるマッピング・統合画像処理の進歩. Precision Medicine. 今井靖. 東京, 北隆館, 2018.
  2. 佐藤俊明, 副島京子 (分担執筆) : 巻頭トピックス: 心臓植込みデバイスの新たな選択肢-リードレスペースメーカ. S-ICD. 循環器疾患 最新の治療 2018-2019. 永井良三監修, 東京, 南江堂, 2018. p.22-25.
  3. 佐藤俊明 (分担執筆) : 心電図検定公式問題集&ガイド 改訂3版, 池田隆徳監修, 大阪, メディカ出版, 2018.
  4. 副島京子 (単著) : 第6章循環器疾患 洞不全症候群. 今日の治療指針 私はこう治療している. 東京, 医学書院, 2019.
  5. 副島京子 : 心房細動とフレイル. THERAPEUTIC RESEARCH. 東京, ライフサイエンス出版, 2019. p.9-10.
  6. 伊波巧, 金剛寺謙 (分担執筆) : CTEPHに対するEVT-経皮的肺動脈形成術の可能性. TOPIC 2018 Syllabus.
  7. 三輪陽介 : 上室性不整脈の患者にアミオダロンの低用量療法. 医師が語る処方箋の裏側. 日経ドラッグインフォメーション. 東京, 日経BP社, 2018.P21.
- その他**
1. 小山幸平:コメンテーター. 神奈川PTCA研究会 2018年4月13日.
  2. 副島京子 : Welcome & Course Introduction. Welcome & First Speaker introduction. Meeting Close. Meet the Masters 2018, 大阪, 2018年7月21-22日.
  3. 小山幸平:コメンテーター NTT関東病院OCTワークショップ, 東京, 2018年8月16日.
  4. 小山幸平:IVUSコメンテーター. 総合東京病院LIVE2018, 東京, 2018年11月16-17日.
  5. 樋口聡 : 杏林医学会第七回研究奨励賞.
1. 上田明子:当院における心房細動治療の現状と今後. 循環器疾患と医療連携, 三鷹, 2018年4月27日.
  2. Sato T, Soejima K : Negative deep deflection of His-bundle potential as a marker for superior His-bundle pacing thresholds at implant. Heart Rhythm Society Scientific Conference, USA, May 9th-12th, 2018.
  3. Yasumura Y, Sato T, Soejima K : Radiation Exposure Reduction for cardiac resynchronization therapy device implant using new wesor-based navigateon of MediGuide™ . Heart Rhythm Society Scientific Conference, USA, May 9th-12th, 2018.
  4. Shoda M, Paule S, Sato T, and Hagiwara N : Implant-based intracardiac stroke impedance as a novel hemodynamic surrogate to foresee patients with upcoming heart failure event. Heart Rhythm Society Scientific Conference, USA, May 9th-12th, 2018.
  5. 上田明子 : Utility of Ensite Precision System. アボットジャパンラウンドテーブルディスカッション, 東京, 2018年7月5日.
  6. 松下紀子, 毛利崇人, 勝目有美, 長岡身佳, 百瀬裕一, 米田道嗣, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 佐藤俊明, 副島京子 : Stellate Ganglion Phototherapy as a Rescue Therapy for Refractory Ventricular Arrhythmias. 第65回日本不整脈心電学会学術大会, 東京, 2018年7月11-14日.
  7. 上田明子 : カテーテルアブレーション(VT). Case-Based Conference 困難症例をエキスパートに聞け 1. JHRS 2018, 東京, 2018年7月12日.
  8. Sato T, Soejima S, Maeda A, Nagaoka M, Momose Y, Takeuchi S, Komeda M, Matsushita N, Hoshida K, Miwa Y, Togashi I, Ueda A : Negative Deep Deflection of His-Bundle Potential as a Marker for Superior His Bundle Pacing Thresholds at Implant. 第32回日本不整脈学会学術大会, 横須賀, 2018年 7月13-15日.
  9. Miwa Y, Sato T, Togashi I, Hagiwara Y, Maeda A, Soejima K : Detection of arrhythmia using Reveal LINQ. The joint meeting of the 45th Congress of the International Society of Electrocardiology and the 18th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology. Chiba, July 28, 2018.
  10. 上田明子 : 持続性心房細動. 循環器Up to Date, 三鷹, 2018年9月10日.
  11. Sato T : Leadless Pacemaker Implantation Without Complication: Learning from the Patients. The 11th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Conference, Taipei, Oct 17th -20th, 2018.
  12. Sato T : Cardiac-Resynchronization Therapy in HF with a Narrow QRS Complex. The 11th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Conference, Taipei, Oct 17th -20th, 2018.
  13. 上田明子 : 速い脈のはなし. 杏林医学会市民公開講座, 三鷹, 2018年11月17日.
  14. 上田明子 : 女性循環器医師のキャリアパス, JCS-JJCセッション, 第83回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2019年3月30日.
  15. Sato T, Soejima S, Maeda A, Nagaoka M, Momose Y, Takeuchi S, Komeda M, Matsushita N, Hoshida K, Miwa Y , Ueda A, Togashi I : Steep Negative Deflection in His-bundle Electrogram as a Marker of Excellent His-bundle Pacing Threshold post-implant第83回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2019年3月29- 31日.

## 論文

(和文)

1. 佐藤俊明: 【心臓デバイスの進歩】 リードレスペースメーカー. 医学のあゆみ 265(8): 667-670, 2018.
2. 三輪陽介<sup>1</sup>, 勝目有美<sup>1</sup>, 竹内真介<sup>1</sup>, 百瀬裕一<sup>1</sup>, 長岡身佳<sup>1</sup>, 米田道嗣<sup>1</sup>, 野々口紀子<sup>1</sup>, 星田京子<sup>1</sup>, 富樫郁子<sup>1</sup>, 吉野秀朗<sup>1</sup>, 副島京子<sup>1</sup>, 上田明子, 佐藤俊明: (杏林大学医学部第2内科) 心室中隔の広範な伝導遅延を有する回路に対して両側流出路からバイポーラ、左冠尖からユニポーラ通電を要した非虚血性心筋症リエントリー性心室頻拍. 臨床心臓電気生理41: 97-105, 2018.
3. 星田京子<sup>1</sup>, 佐藤俊明, 前田明子, 毛利崇人<sup>1</sup>, 長岡身佳<sup>1</sup>, 竹内真介<sup>1</sup>, 百瀬裕一<sup>1</sup>, 米田道嗣<sup>1</sup>, 松下紀子<sup>1</sup>, 三輪陽介<sup>1</sup>, 富樫郁子<sup>1</sup>, 上田明子, 副島京子<sup>1</sup>: (杏林大学医学部第2内科) ICD植込み後、心室頻拍により心臓突然死に至った1例. 心臓50(Suppl.1): 134-138, 2018.
4. 長岡身佳, 佐藤俊明: (杏林大学医学部第2内科) 循環器の現場からの検証: そのエビデンスを日本で活用するには. 不整脈疾患 わが国のICDの適応でペースとなるのはSCDHeFT試験か? それともDANISH試験か. 循環器ジャーナル 67(1): 134-139, 2019.

(英文)

1. Togashi I, Sato T, Hoshida K, Soejima K: Subclinical cardiac perforation caused by a Micro™ leadless pacemaker. J Arrhythm 34(3):326-328, 2018 Apr 6 doi: 10.1002/joa3.12052.
2. Ueda A, Soejima K, Miwa Y, Takeuchi S, Nagaoka M, Momose Y, Matsushita N, Hoshida K, Miyakoshi M, Togashi I, Maeda A, Hagiwara Y, Sato T, Yoshino H: (Department of Cardiology): Idiopathic Ventricular Arrhythmia Ablation Using Non-Fluoroscopic Catheter Visualization System. Int Heart J. 60(1):78-85, 2019 . Doi: 10. 1536/ihj. 18-122.

## 著書

1. 佐藤俊明 (分担執筆): 心電図検定公式問題集&ガイド 改訂3版, 池田隆徳監修. 大阪. メディカ出版, 2018.

## 第二内科学教室 (血液内科)

## 講演

1. 高山信之: 血液検査技師が知っておくべき悪性リンパ腫の基礎知識. Abbott Hematology Seminar, 東京, 2018年5月18日.
2. 高山信之: T-cell lymphomaの治療. 第38回多摩悪性リンパ腫研究会, 立川, 2018年6月8日.
3. 吉森恵未, 小林誠, 桑原彩子, 関雅史, 佐藤範英, 高山信之: 2回の臍帯血移植後の再発に対し, ネララビンが有効であったT細胞性急性リンパ性白血病. 第9回日本血液学会関東甲信越地方会, 所沢, 2018年7月4日.
4. 高山信之: 濾胞性リンパ腫における最新治療. Hematology Forum in TAMA, 立川, 2018年8月30日.
5. Kobayashi M, Yoshimori E, Seki M, Kuwabara A, Satoh N, Takayama N: Aggressive NK-cell leukemia as other immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorders. 第80回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018年10月12-14日.
6. Takayama N, Kobayashi M, Seki M, Kuwabara A, Yoshimori E, Momose E, Satoh N: SCT for acute myeloid leukemia in our institute: Favorable result of cord blood as a stem cell donor. 第80回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018年10月12-14日.

7. Nakagawa N, Tanabe M, Mizuno I, Morishige S, Matsuzawa S, Ito T, Sumi M, Takayama N, Ishiyama K, Yamazaki H, Nakao S: Response to IST in PNH(+) BMF patients with a history of chemo- or radiotherapy. 第80回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018年10月12-14日.
8. 小林誠, 吉森恵未, 関雅史, 桑原彩子, 佐藤範英, 高山信之: Double-hit lymphomaに対して臍帯血移植を施行した症例. 多摩血液エリアフォーラム2018, 府中, 2018年11月2日.
9. 吉森恵未, 小林誠, 関雅史, 桑原彩子, 佐藤範英, 高山信之: 当院で施行した初回治療としてのBR療法の治療成績. 悪性リンパ腫セミナー in TAMA, 立川, 2018年11月8日.
10. 関雅史, 高山信之: MGUSの診断から約20年を経て104歳で症候性骨髄腫を発症した1例. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
11. 小林誠, 吉森恵未, 関雅史, 桑原彩子, 佐藤範英, 高山信之: Aggressiveな経過を示した難治性多発性骨髄腫の1例. MITAKA Hematology Seminar, 三鷹, 2019年1月25日.
12. 佐藤範英, 吉森恵未, 小林誠, 関雅史, 桑原彩子, 高山信之: 腎障害と多発骨病変を有する高齢者BJP型多発性骨髄腫の症例. MITAKA Hematology Seminar, 三鷹, 2019年1月25日.
13. 高山信之: 真性多血症の経過中に多発性骨髄腫を発症し, ERd療法が有効であった1例. 第11回西東京血液セミナー, 立川, 2019年2月1日.
14. 小林誠, 佐藤範英, 吉森恵未, 桑原彩子, 関雅史, 百瀬恵美, 高山信之: 臍帯血移植後, 生着前免疫反応の出現とともに急速な腫瘍の縮小がみられた難治性末梢性T細胞リンパ腫の1例. 第10回日本血液学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年3月23日.
15. 吉森恵未, 小林誠, 関雅史, 桑原彩子, 佐藤範英, 高山信之: リンパ節腫大, 汎血球減少, 肺高血圧など多彩な症状を認められた多発性骨髄腫の1例. 第3回Myeloma Strategic Seminar, 立川, 2019年3月29日.

## 論文

1. Ogura M<sup>1,2</sup>, Yamamoto K<sup>3</sup>, Morishima Y<sup>3</sup>, Wakabayashi M<sup>4</sup>, Tobinai K<sup>5</sup>, Ando K<sup>6</sup>, Uike N<sup>7</sup>, Kurosawa M<sup>8</sup>, Gomyo H<sup>9</sup>, Taniwaki M<sup>10</sup>, Nosaka K<sup>11</sup>, Tsukamoto N<sup>12</sup>, Shimoyama T<sup>13</sup>, Fukuhara N<sup>14</sup>, Yakushijin Y<sup>15</sup>, Ohnishi K<sup>16</sup>, Miyazaki K<sup>17</sup>, Sawada K<sup>18</sup>, Takayama N, Hanamura I<sup>19</sup>, Nagai H<sup>20</sup>, Kobayashi H<sup>21</sup>, Usuki K<sup>22</sup>, Kobayashi N<sup>23</sup>, Ohyashiki K<sup>24</sup>, Utusmi T<sup>25</sup>, Kumagai K<sup>26</sup>, Maruyama D<sup>5</sup>, Ohmachi K<sup>6</sup>, Matsuno Y<sup>27</sup>, Nakamura S<sup>28</sup>, Hotta T<sup>29</sup>, Tsukasaki K<sup>30</sup> (1Kasugai Municipal Hospital, 2Nagoya Daini Red Cross Hospital, 3Aichi Cancer Center Hospital, 4JCOG Data Center, National Cancer Center, 5National Cancer Center Hospital, 6Tokai University School of Medicine, 7National Kyushu Cancer Center, 8Hokkaido Cancer Center, 9Hyogo Cancer Center, 10Kyoto Prefectural University of Medicine, 11Kumamoto University Hospital, 12Gunma University Hospital, 13Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, 14Tohoku University Hospital, 15Ehime University Graduate School of Medicine, 16Hamamatsu University School of Medicine, 17Mie University Graduate School of Medicine, 18Akita University Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine, 19Aichi Medical University, 20Nagoya Medical Center, 21Saitama Cancer Center, 22NTT Medical Center, 23Sapporo Hokuyu Hospital, 24Tokyo Medical University, 25Shiga General Hospital, 26Chiba Cancer Center, 27Hokkaido University Hospital, 28Nagoya University School of Medicine, 29Foundation for Promotion of Cancer Research, 30National Cancer Center Hospital East): R-high-CHOP/CHASER/LEED with autologous stem cell transplantation in newly diagnosed mantle cell

- lymphoma: JCOG0406 study. *Cancer Sci* 109 (9): 2830-2840, 2018.
- Iijima S<sup>1</sup>, Chiba T<sup>2</sup>, Maruyama K<sup>1</sup>, Saito K<sup>1</sup>, Kobayashi K<sup>1</sup>, Yamagishi Y<sup>1</sup>, Shibahara J<sup>2</sup>, Takayama N, Shiokawa Y<sup>1</sup>, Nagane M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Neurosurgery, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>2</sup>Department of Pathology, Kyorin University Faculty of Medicine) : Hepatosplenicy&T-cell lymphoma involving the brain. *World Neurosurgery* 118: 139-142, 2018.
  - 菅野秀美<sup>1</sup>, 佐藤洋平<sup>1</sup>, 早川順<sup>1</sup>, 桑原彩子, 高山信之, 大山学<sup>1</sup> (杏林大・医・皮膚科学) : 骨髄異形成症候群に合併し腋窩に広範な潰瘍を形成した壊疽性膿皮症の1例. *臨床皮膚科* 72: 1101-1105, 2018.

## 著書

- 高山信之(分担執筆) : エノシタピン. *がん化学療法の薬はや調ベノート プロフェッショナルがんナーシング別冊* 2019・2020年度版. 大阪, メディカ出版, 2019, p144-145.
- 高山信之(分担執筆) : シタラピン. *がん化学療法の薬はや調ベノート プロフェッショナルがんナーシング別冊* 2019・2020年度版. 大阪, メディカ出版, 2019, p146-147.
- 高山信之(分担執筆) : メルカプトプリン水和物. *がん化学療法の薬はや調ベノート プロフェッショナルがんナーシング別冊* 2019・2020年度版. 大阪, メディカ出版, 2019, p150-151.
- 高山信之(分担執筆) : フルダラビンリン酸エステル. *がん化学療法の薬はや調ベノート プロフェッショナルがんナーシング別冊* 2019・2020年度版. 大阪, メディカ出版, 2019, p152-153.
- 高山信之(分担執筆) : クラドリピン. *がん化学療法の薬はや調ベノート プロフェッショナルがんナーシング別冊* 2019・2020年度版. 大阪, メディカ出版, 2019, p154-155.
- 高山信之(分担執筆) : ダウノルビシン塩酸塩. *がん化学療法の薬はや調ベノート プロフェッショナルがんナーシング別冊* 2019・2020年度版. 大阪, メディカ出版, 2019, p202-203.

第三内科学教室  
(消化器内科)

## 講演

## 国際学会・シンポジウム発表

- Tokunaga S, Saito D, Kikuchi O, Sato T, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hayashida M, Hisamatsu T: Risk factors for surgery in patients with ulcerative colitis. The 6<sup>th</sup> Annual meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, China, June 21-23, 2018.
- Miura M, Saito D, Ozaki R, Kikuchi O, Sato T, Tokunaga S, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Sakuraba A, Hayashida M, Hisamatsu T: Predictive factors of clinical remission by infliximab in ulcerative colitis. The 6<sup>th</sup> Annual meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, China, June 21-23, 2018.
- Saito D, Hayashida M, Ozaki R, Kikuchi O, Sato T, Tokunaga S, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Nakase H, Hisamatsu T: Investigation of IBD unclassified with MEFV gene analysis. FALK Symposium, Kyoto, September 7th, 2018.
- Hisamatsu T: APAGE/AOCC SYMPOSIUM (with interactive voting system) -Screening for Infection-Screening and prophylaxis for chronic hepatitis B in patients on biologic therapy. APAGE 2018, Philippines, Sep 20-22, 2018.
- Lichtenstein GR, Tinsley A, Roblin X, Hisamatsu T, Vong C, Tsuchiwata S, Tsilkos K, Zhang H, Mukherjee A, Su C, Rubin DT: Baseline albumin level is not a significant predictor of tofacitinib efficacy in patients with ulcerative colitis: Results of multivariate exposure-response analysis. ACG 2018. U.S.A., Oct 5-10, 2018.
- Okuyama S, Kawamura N, Hisamatsu T: A study on pruritus in patients with primary biliary cholangitis (PBC) based on a survey. UEG Week 2018, Austria, October 20 - 24, 2018.
- Watanabe S, Toki M, Goto T, Yoshida T, Ota H, Ochiai K, Gondo K, Kurata I, Nakamura K, Yamaguchi Y, Hisamatsu T: Usefulness of procore 20G needle for diagnosis of pancreatic solid tumor. UEG Week 2018, Austria, October 20 - 24, 2018.
- Lichtenstein GR, Tinsley A, Roblin X, Hisamatsu T, Vong C, Tsuchiwata S, Tsilkos K, Zhang H, Mukherjee A, Su C, Rubin DT: Baseline albumin level is not a significant predictor of tofacitinib efficacy in patients with ulcerative colitis: Results of multivariate exposure-response analysis. UEG Week 2018, Austria, October 20 - 24, 2018.
- Sands BE, Sandborn WJ, Panaccione R, O'Brien C, Zhang H, Johanns J, Peyrin-Biroulet L, van Assche G, Danese S, Targan S, Abreu MT, Hisamatsu T, Szapary P, Marano CW: Safety and efficacy of sutekinumab induction therapy in patients with moderate to severe ulcerative colitis: Results from the phase 3 UNIFI study. UEG Week 2018, Austria, October 20 - 24, 2018.
- Adedokun OJ, Xu Z, Marano C, O'Brien CD, Szapary P, Zhang H, Johanns J, Leong RW, Hisamatsu T, Van Assche G, Danese S, Abreu MT, Sands BE, Sandborn WJ: Pharmacokinetics and exposure-response relationships of intravenously administered ustekinumab during induction treatment in patients with ulcerative colitis: Results from the UNIFI induction study. 14th Congress of ECCO, Denmark, Mar 6-9, 2019.
- Nemoto N, Sakuraba A, Ozaki R, Sato T, Tokunaga S, Kikuchi O, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Saito D, Hayashida M, Yoneyama M, Mori H, Ohnishi H, Hisamatsu T: Value of faecal biomarkers are affected by extension of inflammation in ulcerative colitis. 14th Congress of ECCO, Denmark, Mar 6-9, 2019.
- Van Assche G, Targan SR, Baker T, O'Brien CD, Zhang H, Johanns J, Szapary P, Marano C, Leong RW, Rowbotham D, Hisamatsu T, Danese S, Sands BE, Peyrin-Biroulet L: Sustained remission in patients with moderate to severe ulcerative colitis: Results from the Phase 3 UNIFI maintenance study. 14th Congress of ECCO, Denmark, Mar 6-9, 2019.
- Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata M, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T, DIAMOND2 Study Group: Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2). 14th Congress of ECCO, Denmark, Mar 6-9, 2019.
- Sandborn WJ, Sands BE, Panaccione R, O'Brien CD, Zhang H, Johanns J, Peyrin-Biroulet L, Van Assche G, Danese S, Targan SR, Abreu MT, Hisamatsu T, Szapary TP, Marano C: Efficacy and safety of ustekinumab as maintenance therapy in ulcerative colitis: Week 44 results from UNIFI. 14th Congress of ECCO, Denmark, Mar 6-9, 2019.

## 国内学会発表，厚生労働省班会議等発表

- 久松理一：IBD治療の新時代における抗TNF製剤の意義  
全身性炎症性疾患としての潰瘍性大腸炎～腸管外合併症の  
マネジメントも含めて～. 第104回日本消化器病学会総会，  
東京，2018年4月20日.
- 後藤知之，渡邊俊介，神林孔明，荻原良太，吉田翼，太田博  
崇，落合一成，権藤興一，倉田勇，土岐真朗，山口康晴，森  
秀明，高橋信一，久松理一，山内芳也，岡野尚弘，古瀬純司，  
立石秀勝，千葉知宏，藤原正親，柴原純二：胆嚢原発神経内  
分泌癌の診断にEUS-FNAが有用であった1例. 第349回日本  
消化器病学会関東支部例会，東京，2018年4月28日.
- 田中昭文，徳永健吾，高橋信一，森秀明，久松理一：ペニシ  
リンアレルギー症例に対するボノプラザン，メトロニダ  
ゾール，およびシタフロキサシン三剤併用H.pylori除菌療法  
の検討. 第104回日本消化器病学会総会，東京，2018年4月30  
日.
- 森秀明，西川かおり，關里和，川村直弘，塚田幾太郎，峯佳  
毅，岸野智則，黒岩紀子，久松理一：残留エコーの検討. 日  
本超音波医学会第91回学術集会，神戸，2018年6月8-10日.
- 川村直弘，關里和，小樽二世，松本茂登子，西川かおり，岸  
野智則，黒岩紀子，久松理一，森秀明：Shear Wave  
Elastographyを用いた粘性，減衰の測定による線維化，炎症  
反応および脂肪肝化の検討. 日本超音波医学会 第91回学術  
集会，神戸，2018年6月8-10日.
- 大野亜希子，楠原光謹，新井健介，神保陽子，久松理一：ESD  
における粘膜下層線維化を安全に突破するための工夫：  
Dual ナイフ格納状態での剥離. 第106回日本消化器内視鏡  
学会関東支部例会，東京，2018年6月16-17日.
- 斎藤大祐，三浦みき，櫻庭彰人，林田真理，久松理一：MEFV  
遺伝子解析を実施したIBD unclassifiedの検討 - 内視鏡所  
見を中心に. 第106回日本消化器内視鏡学会関東支部例会，  
東京，2018年6月16-17日.
- 八谷隆仁，楠原光謹，田邊秀聡，新井健介，神保陽子，大野  
亜希子，森秀明，小林敬明，長島文夫，古瀬純司，岡部直太，  
菅間博，久松理一：診断に苦慮した非色素性悪性黒色腫の1  
例. 第106回日本消化器内視鏡学会関東支部例会，東京，2018  
年6月16-17日.
- 土岐真朗，仲田大輔，後藤知之，吉田翼，太田博崇，落合一  
成，権藤興一，渡邊俊介，倉田勇，岡野尚弘，小暮正晴，松  
木亮太，横山政明，立石秀勝，鈴木裕，柴原純二，古瀬純司，  
杉山政則，森秀明，久松理一：新規膵臓癌診断マーカーであ  
る糖鎖修飾リボスクレアゼ1(RNase1)の有用性の検討. 第  
49回日本膵臓学会大会，和歌山，2018年6月30日.
- 横山政明，鈴木裕，金翔哲，百瀬博一，松木亮太，小暮正晴，  
中里哲矢，倉田勇，土岐真朗，阿部展次，森俊幸，杉山政則：  
ERCP後膵炎の重症化予測因子 内臓脂肪との関連. 第49回  
日本膵臓学会大会，和歌山，2018年6月30日.
- 徳永健吾，大崎敬子，中村正彦，田中昭文，大森嘉彦，米澤  
英雄，岡本晋，高橋信一，神谷茂，久松理一：胃MALTリン  
パ腫におけるHHLO感染率および胃内マイクロビオータの  
検討. 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会，大分，2018  
年7月1日.
- 足立綾佳，川村直弘，萩原良太，菊地翁輝，渡邊俊介，關里  
和，佐藤悦久，西川かおり，森秀明，久松理一，下山田博明，  
船田さやか，柴原純二：イレウスを契機に診断された腸間膜  
デスマイドの1例. 第350回日本消化器病学会関東支部例会，  
東京，2018年7月14日.
- 久松理一，長堀正和，井上詠：腸管型ペーチェットガイドラ  
イン作成の経過報告. ペーチェット病に関する調査研究班  
(平成30年度第1回)，東京，2018年7月20日.
- 細江直樹，緒方晴彦，水野慎大，長沼誠，金井隆典，渡辺守，  
小林拓，中野雅，日比紀文，吉田篤史，遠藤豊，上野文昭，  
大森鉄平，林田真理，竹内健，松岡克善，鈴木康夫：潰瘍性  
大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡アトラス作成，大腸カ  
プセル内視鏡による炎症判定スコアの作成. 厚生労働科学  
研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害  
に関する調査研究」平成30年度第1回総会，東京，2018年7  
月26-27日.
- 久松理一，三浦みき，清水泰岳，新井勝大，清水俊明，岩間  
達，仲瀬裕志：本邦の炎症性腸疾患患者におけるEBウィル  
ス感染状況に関する多施設共同研究. 厚生労働科学研究費  
難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関す  
る調査研究」平成30年度第1回総会，東京，2018年7月26-27  
日.
- 角田洋一，木内喜孝，中村志郎，高川哲也，花井洋行，池谷  
賢太郎，櫻庭裕丈，西田淳史，佐々木誠人，岡庭紀子，久  
松理一，小林拓，仲瀬裕志，石黒陽，篠崎大，長沼誠，平岡  
佐規子，荒木寛司，佐々木悠，志賀永嗣，本谷聡，松岡克善，  
藤谷幹浩，佐藤雄一郎，桂田武彦，梁井俊一，穂苺量太，石  
原俊治，新井勝大，野口光徳，中川倫夫，松浦稔，遠藤克哉，  
諸井林太郎，黒羽正剛，金澤義丈，志賀永嗣，安藤明，下瀬  
川徹，正宗淳，鈴木康夫：チオプリン不耐症を判別する  
NUDT15遺伝子検査の開発を軸とした炎症性腸疾患治療薬  
に關係する遺伝子マーカーの探索と臨床応用研究  
(MENDEL Study). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政  
策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成  
30年度第1回総会，東京，2018年7月26-27日.
- 冬野雄太，平野敦士，梅野淳嗣，江崎幹宏，角田洋一，仲瀬  
裕志，久松理一，櫻庭裕丈，国崎玲子，平井郁仁，松本主之：  
腸管ペーチェット病および単純性潰瘍におけるGenome  
Wide Association Study (GWAS). 厚生労働科学研究費難  
治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する  
調査研究」平成30年度第1回総会，東京，2018年7月26-27日.
- 渡辺憲治，松本主之，仲瀬裕志，久松理一，平井郁仁，小林  
清典，国崎玲子，長堀正和，竹内健，大藤さとこ，福島若葉，  
梁井俊一，林田真理，稲場勇平，藤谷幹浩，櫻庭裕丈，角田  
洋一，勝野達郎，大森鉄平，小林拓，秋山純一，本田穰，佐  
藤公，佐々木誠人，谷田論史，加賀谷尚史，馬場重樹，安藤  
朗，深田憲将，岡崎和一，細見周平，湯川知洋，鎌田紀子，  
山上博一，宮寄孝子，樋田信幸，中村志郎，松浦稔，平田敬，  
石田哲也，松本吏弘，金城福則，金城徹，上野義隆，田中信  
治，渡辺知佳子，穂苺量太，高橋索真，進士明宏，北村和哉，  
辻川知之，山下真幸，長沼誠，櫻井俊之，猿田雅之，田中浩  
紀，本谷聡，邊見慎一郎，宮川一平，田中良哉，日暮琢磨，  
中島淳，桐野洋平，水木信久，鈴木康夫，上野文昭，日比紀  
文，渡辺守：特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとス  
テロイドの前向き無作為化比較試験Castle Study：国内多施  
設共同試験. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事  
業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第  
1回総会，東京，2018年7月26-27日.
- 細江直樹，緒方晴彦，長沼誠，金井隆典，久松理一，大宮直  
木，安川重義，平井郁仁，田邊寛，岩下明德，平野敦士，梅  
野淳嗣，江崎幹宏，松本主之：Chronic enteropathy  
associated with SLC2A1 gene (CEAS)の胃粘膜病変の内  
視鏡像と病理学的な特徴の解明. 厚生労働科学研究費難治  
性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調  
査研究」平成30年度第1回総会，東京，2018年7月26-27日.
- 久松理一，井上詠，渡辺憲治，谷田論史，国崎玲子，小林清  
典，長堀正和，新井勝大，内野基，小金井一隆，小林拓，岳  
野光洋，上野文昭，松本主之，鈴木康夫：腸管型ペーチェ  
ット診療ガイドライン作成プロジェクト(鈴木班・水木班合同  
プロジェクト). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究  
事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度  
第1回総会，東京，2018年7月26-27日.
- 梅野淳嗣，冬野雄太，松野雄一，江崎幹宏，梁井俊一，大宮  
直木，久松理一，渡辺憲治，細江直樹，緒方晴彦，平井郁仁，  
松井敏幸，八尾恒良，松本主之，CEAS study group：非特  
異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候について. 厚生労働科学  
研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害

- に関する調査研究」平成30年度第1回総会, 東京, 2018年7月26-27日.
22. 仲瀬裕志, 飯田智也, 平山大輔, 三橋慧, 櫻井晃弘, 久松理一, 松本主之, 江崎幹宏, 国崎玲子, 松浦稔, 大宮美香, 荒木寛司, 渡辺憲治, 田中浩紀, 柿本一城, 小林拓, 日比紀文, 竹内健, 鈴木康夫: 家族性地中海熱遺伝子関連腸炎の診断法の確立並びに病態解明. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第1回総会, 東京, 2018年7月26-27日.
  23. 畑啓介, 石原聡一郎, 杉田昭, 池内浩基, 福島浩平, 二見喜太郎, 楠正人, 小山文一, 水島恒和, 板橋道朗, 木村英明, 安藤朗, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 長堀正和, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 鈴木康夫: クロウン病再手術率の時代的変遷. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第1回総会, 東京, 2018年7月26-27日.
  24. 小林拓, 久松理一, 松本主之, 本谷聡, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 平井郁仁, 田中正則, 渡辺守, 日比紀文: インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究 (HAYABUSA). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第1回総会, 東京, 2018年7月26-27日.
  25. 畑啓介, 石原聡一郎, 杉田昭, 池内浩基, 福島浩平, 二見喜太郎, 楠正人, 小山文一, 水島恒和, 板橋道朗, 木村英明, 安藤朗, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 長堀正和, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎に合併した *dysplasia, cancer* の外科治療指針. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第1回総会, 東京, 2018年7月26-27日.
  26. 久松理一, 平井郁仁, 小金井一隆, 新井勝大, 長沼誠, 松浦稔, 松岡克善, 猿田雅之, 畑啓介, 加藤真吾, 加藤順, 仲瀬裕志, 中村志郎, 鈴木康夫: 治療の標準化を目指した潰瘍性大腸炎治療指針の改訂. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第1回総会, 東京, 2018年7月26-27日.
  27. 久松理一, 猿田雅之, 長堀正和, 池内浩基, 鈴木康夫: IBD の病診連携を構築するプロジェクト. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第1回総会, 東京, 2018年7月26-27日.
  28. 杉田昭, 小金井一隆, 内野基, 二見喜太郎, 根津理一郎, 藤井久男, 舟山裕士, 福島浩平, 池内浩基, 板橋道朗, 篠崎大, 荒木俊光, 高橋賢一, 水島恒和, 畑啓介, 小山文一, 亀山仁史, 木村英明, 久松理一: 本邦における腸管ペーチェット病に対する外科治療の現況調査 (多施設共同研究). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第1回総会, 東京, 2018年7月26-27日.
  29. 岡崎和一, 福井寿朗, 深田憲将, 大宮美香, 濱田円, 吉岡和彦, 仲瀬裕志, 妹尾浩, 松浦稔, 中村志郎, 渡辺憲治, 池内浩基, 金井隆典, 緒方晴彦, 久松理一, 平井郁仁, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎 (UC), クロウン病 (CD), 分類不能のIBD (IBD unclassified, IBDU), Indeterminate colitis (IC) における診断変遷症例の検討. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第1回総会, 東京, 2018年7月26-27日.
  30. 江崎幹宏, 松本主之, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 平野敦士, 冬野雄太, 平井郁仁, 二見喜太郎, 中村志郎, 池内浩基, 渡辺憲治, 大宮直木, 中村正直, 内藤藤二, 仲瀬裕志, 松浦稔, 藤谷幹浩, 角田洋一, 大森鉄平, 飯島英樹, 平岡佐規子, 蔵原晃一, 金城徹, 金城福則, 芦塚伸也, 山本章二郎, 竹島史直, 光山慶一, 猿田雅之, 石川大, 澁谷智義, 桜庭裕丈, 小山文一, 久松理一, 細江直樹, 緒方晴彦, 長沼誠, 金井隆典, 小林拓, 日比紀文, 長堀正和, 渡辺守, 竹内健, 松岡克善, 鈴木康夫: クロウン病術後再発に関するカプセル内視鏡評価の意義に関する検討. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第1回総会, 東京, 2018年7月26-27日.
  31. 畑啓介, 石原聡一郎, 味岡洋一, 安藤朗, 池内浩基, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 杉田昭, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 長堀正和, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 福島浩平, 二見喜太郎, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 日比紀文, 渡辺守, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立—Target vs Random生検のランダム化比較試験のフォローアップスタディー. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第1回総会, 東京, 2018年7月26-27日.
  32. 権藤興一, 土岐真朗, 後藤知之, 吉田翼, 落合一成, 太田博崇, 渡邊俊介, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 高橋信一, 森秀明, 久松理一: 高齢者胆石性胆嚢炎の転帰における問題点. 第21回日本高齢消化器病学会, 佐賀, 2018年8月3-4日.
  33. 徳永創太郎, 齋藤大祐, 三浦みき, 尾崎良, 菊池翁輝, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 正木忠彦, 久松理一: 潰瘍性大腸炎における外科手術の危険因子の検討—高齢者は危険因子となりうるか. 第21回日本高齢消化器病学会, 佐賀, 2018年8月3-4日.
  34. 久松理一: 炎症性腸疾患治療の新しい時代. 第12回日本消化管学会教育集会, 東京, 2018年9月9日.
  35. 小松悠香, 齋藤大祐, 日比則孝, 尾崎良, 菊池翁輝, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 柴原純二, 久松理一: 便潜血陽性を契機に診断された大腸限局型ALアミロイドーシスの1例. 第351回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2018年9月22日.
  36. 楠原光謹, 大野亜希子, 加藤敦士, 宮本尚彦, 八谷隆仁, 新井健介, 神保陽子, 森秀明, 磯谷一, 長濱清隆, 下山田博明, 柴原純二, 久松理一: 内視鏡的に切除した直腸リンパ嚢胞性ポリープの1例. 第351回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2018年9月22日.
  37. 荻原良太, 落合一成, 森久保拓, 北田修一, 徳永創太郎, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 権藤興一, 渡邊俊介, 土岐真朗, 山口康晴, 森秀明, 松木亮太, 鈴木裕, 阪本良弘, 長濱清隆, 下山田博明, 柴原純二, 久松理一: 自己免疫性脾炎に対するステロイド加療中に脾癌が判明した1例. 第351回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2018年9月22日.
  38. 細江直樹, 木村佳代子, 高林馨, 長沼誠, 關里和, 久松理一, 緒方晴彦, 金井隆典: 当院におけるChronic enteropathy associated with SLCO2A1 gene (CEAS) 症例の特徴. 第56回日本小腸学会学術集会, 東京, 2018年10月27日.
  39. 關里和, 林田真理, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 田中弦, 櫻庭彰人, 木村徹, 櫻井裕之, 久松理一: CEASにおける変異SLCO2A1 トランスポーターの機能解析. 第56回日本小腸学会学術集会, 東京, 2018年10月27日.
  40. 太田博崇, 渡邊俊介, 神林孔明, 後藤知之, 吉田翼, 落合一成, 権藤興一, 倉田勇, 蓮江智彦, 池内信人, 辻修二郎, 土岐真朗, 中村健二, 山口康晴, 高橋信一, 森秀明, 久松理一: 20mm以下の胃粘膜下腫瘍に対してもEUS-FNAは有用である. JDDW 2018, 神戸, 2018年11月1-4日.
  41. 渡邊俊介, 土岐真朗, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 倉田勇, 岡野尚弘, 蓮江智彦, 中村健二, 鈴木裕, 柴原純二, 山口康晴, 古瀬純司, 森秀明, 久松理一: 脾充実性腫瘍に対するEhco Tip ProCore 20G針の有用性と安全性の検討. JDDW 2018, 神戸, 2018年11月1-4日.

42. 徳永創太郎, 齋藤大祐, 三浦みき, 森久保拓, 菊池翁輝, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 久松理一: 入院潰瘍性大腸炎患者における外科手術の危険因子の検討. JDDW 2018, 神戸, 2018年11月1-4日.
43. 三浦みき, 齋藤大祐, 森久保拓, 菊池翁輝, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 久松理一: 潰瘍性大腸炎に対するInfliximabにおける臨床的寛解の予測因子の検討. JDDW 2018, 神戸, 2018年11月1-4日.
44. 土岐真朗, 仲田大輔, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 倉田勇, 岡野尚弘, 小暮正晴, 松木亮太, 横山政明, 立石秀勝, 鈴木裕, 古瀬純司, 阪本良弘, 森秀明, 久松理一: 新規膵臓癌診断マーカーである糖鎖修飾リボスクレアーズ1 (RNase1)の有用性の検討. JDDW2018, 神戸, 2018年11月1-4日.
45. 日比則孝, 齋藤大祐, 尾崎良, 菊池翁輝, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 久松理一: 潰瘍性大腸炎緩解維持療法の現状 潰瘍性大腸炎における寛解維持療法としてのInfliximabの有効性の予測因子および難治例における外科手術の危険因子の検討. 第73回日本大腸肛門病学会, 東京, 2018年11月9-10日.
46. 根本展希, 櫻庭彰人, 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 米山正芳, 大西宏明, 久松理一: 潰瘍性大腸炎における粘膜評価について罹患範囲を考慮した便中バイオマーカーの有用性. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
47. 梅野淳嗣, 冬野雄太, 松野雄一, 鳥巢剛弘, 江崎幹宏, 梁井俊一, 大宮直木, 久松理一, 渡辺憲治, 細江直樹, 緒方晴彦, 平井郁仁, 松井敏幸, 八尾恒良, 北園孝成, 松本主之, CEAS study group: 非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候について-全国調査報告-. 第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 京都, 2018年11月22日.
48. 森久保拓, 小林拓, 尾崎良, 清原裕貴, 淵上綾子, 松林真央, 左上晋太郎, 中野雅, 久松理一, 日比紀文: 潰瘍性大腸炎における5-ASA製剤とチオプリン製剤の相互作用に関する研究. 第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 京都, 2018年11月22日.
49. 菊池翁輝, 齋藤大祐, 日比則孝, 尾崎良, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 佐藤洋平, 櫻庭彰人, 林田真理, 大田学, 久松理一: 線状IgA水疱性皮膚症を合併した潰瘍性大腸炎の1例. 第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 京都, 2018年11月22日.
50. 櫻庭彰人, 根本展希, 尾崎良, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 菊池翁輝, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 米山正芳, 大西宏明, 森秀明, 久松理一: 潰瘍性大腸炎における便中バイオマーカーの罹患範囲を考慮した臨床活用について. 第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 京都, 2018年11月22日.
51. Hisamatsu T, Sands BE, Sandborn WJ, Panaccione R, O'Brien CD, Zhang H, Johans J, Peyrin-Biroulet L, van Assche G, Silvio Danese S, Targan S, Abreu MT, Szapary P, Colleen Marano C. Safety and efficacy of ustekinumab induction therapy in patients with moderate to severe ulcerative colitis: Results from the phase 3 UNIFI Study. 第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 京都, 2018年11月22日.
52. 権藤興一, 土岐真朗, 北田修一, 後藤知之, 吉田翼, 落合一成, 太田博崇, 渡邊俊介, 山口康晴, 森秀明, 長濱清隆, 下山田博明, 柴原純二, 久松理一: 診断に苦慮した自己免疫性膵炎の1例. 第352回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2018年12月1日.
53. 久松理一: エビデンスに基づく診療ガイドラインの作成-特殊型病変- 腸管病変. 第2回日本パーチェット病学会, 横浜, 2018年12月14日.
54. 加藤敦士, 大野亜希子, 神保陽子, 新井健介, 楠原光謹, 羽田裕, 八谷隆仁, 宮本尚彦, 森秀明, 久松理一: ESDで切除し診断し得た食道Pyogenic granulomaの1例. 第107回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2018年12月15日.
55. 久松理一: 日本から発信されたエビデンス アダリムマブとチオプリン製剤の併用について考える. 第107回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2018年12月15日.
56. 細江直樹, 緒方晴彦, 水野慎大, 長沼誠, 金井隆典, 渡辺守, 小林拓, 中野雅, 日比紀文, 吉田篤史, 遠藤豊, 上野文昭, 大森鉄平, 林田真理, 竹内健, 松岡克善, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡アトラス作成. 大腸カプセル内視鏡による炎症判定スコアの作成. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
57. 久松理一, 三浦みき, 清水泰岳, 新井勝大, 清水俊明, 岩間達, 仲瀬裕志: 本邦の炎症性腸疾患患者におけるEBウイルス感染状況に関する多施設共同研究. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
58. 角田洋一, 木内喜孝, 中村志郎, 高川哲也, 花井洋行, 池谷賢太郎, 櫻庭裕丈, 西田淳史, 佐々木誠人, 岡庭紀子, 久松理一, 小林拓, 仲瀬裕志, 石黒陽, 篠崎大, 長沼誠, 平岡佐規子, 荒木寛司, 佐々木悠, 志賀永嗣, 本谷聡, 松岡克善, 藤谷幹浩, 佐藤雄一郎, 桂田武彦, 梁井俊一, 穂苅量太, 石原俊治, 新井勝大, 野口光徳, 中川倫夫, 松浦稔, 遠藤克哉, 諸井林太郎, 黒羽正剛, 金澤義丈, 志賀永嗣, 安藤朗, 下瀬川徹, 正宗淳, 鈴木康夫: チオプリン不耐症を判別するNUDT15遺伝子検査の開発を軸とした炎症性腸疾患治療薬に関する遺伝子マーカーの探索と臨床応用研究 (MENDEL Study). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
59. 冬野雄太, 平野敦士, 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 角田洋一, 仲瀬裕志, 久松理一, 櫻庭裕丈, 国崎玲子, 平井郁仁, 松本主之: 腸管パーチェット病および単純性潰瘍におけるGenome Wide Association Study (GWAS). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
60. 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとこ, 福島若葉, 梁井俊一, 林田真理, 稲場勇平, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 角田洋一, 勝野達郎, 大森鉄平, 小林拓, 秋山純一, 本田穰, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田諭史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 深田憲将, 岡崎和一, 細見周平, 湯川知洋, 鎌田紀子, 山上博一, 宮崎孝子, 樋田信幸, 中村志郎, 松浦稔, 平田敬, 石田哲也, 松本吏弘, 金城福則, 金城徹, 上野義隆, 田中信仰, 渡辺知佳子, 穂苅量太, 高橋素真, 進士明宏, 北村和哉, 辻川知之, 山下真幸, 長沼誠, 櫻井俊之, 猿田雅之, 田中浩紀, 本谷聡, 邊見慎一郎, 宮川一平, 田中良哉, 日暮琢磨, 中島淳, 桐野洋平, 水木信久, 鈴木康夫, 上野文昭, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為化比較試験Castle Study: 国内多施設共同試験. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
61. 細江直樹, 緒方晴彦, 長沼誠, 金井隆典, 久松理一, 大宮直木, 安川重義, 平井郁仁, 田邊寛, 岩下明德, 平野敦士, 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 松本主之: Chronic enteropathy associated with SLCO2A1 gene (CEAS)の胃粘膜病変の内視鏡像と病理学的な特徴の解明. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
62. 久松理一, 井上詠, 渡辺憲治, 谷田諭史, 国崎玲子, 小林清典, 長堀正和, 新井勝大, 内野基, 小金井一隆, 小林拓, 岳

- 野光洋, 上野文昭, 松本主之, 鈴木康夫: 腸管型ペーチェット診療ガイドライン作成プロジェクト(鈴木班・水木班合同プロジェクト). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
63. 松野雄一, 梅野淳嗣, 冬野雄太, 江崎幹宏, 平井郁仁, 細見周平, 渡辺憲治, 細江直樹, 久松理一, 蔵原晃一, 八尾恒良, 梁井俊一, 松本主之: CEASとクローン病の鑑別における尿中プロスタグランジンE主要代謝産物の有用性について. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
64. 仲瀬裕志, 飯田智也, 平山大輔, 三橋慧, 櫻井晃弘, 久松理一, 松本主之, 江崎幹宏, 国崎玲子, 松浦稔, 大宮美香, 荒木寛司, 渡辺憲治, 田中浩紀, 柿本一城, 小林拓, 日比紀文, 竹内健, 鈴木康夫: 家族性地中海熱遺伝子関連腸炎(IL-1b関連腸炎)の診断法の確立ならびに病態解明. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
65. 畑啓介, 石原聡一郎, 杉田昭, 池内浩基, 福島浩平, 二見喜太郎, 楠正人, 小山文一, 水島恒和, 板橋道朗, 木村英明, 安藤朗, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 長堀正和, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 鈴木康夫: クローン病再手術率の時代的変遷. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
66. 小林拓, 久松理一, 松本主之, 本谷聡, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 平井郁仁, 田中正則, 渡辺守, 日比紀文: インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究(HAYABUSA)～最終データロック・研究終了に向けてのお願い～. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
67. 畑啓介, 石原聡一郎, 杉田昭, 池内浩基, 福島浩平, 二見喜太郎, 楠正人, 小山文一, 水島恒和, 板橋道朗, 木村英明, 安藤朗, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 長堀正和, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎に合併したdysplasia, cancerの外科治療指針. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
68. 久松理一, 平井郁仁, 小金井一隆, 新井勝大, 長沼誠, 松浦稔, 松岡克善, 猿田雅之, 畑啓介, 加藤真吾, 加藤順, 仲瀬裕志, 中村志郎, 鈴木康夫: 治療の標準化を目指した潰瘍性大腸炎治療指針の改訂. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
69. 久松理一, 猿田雅之, 長堀正和, 池内浩基, 鈴木康夫: IBDの病診連携を構築するプロジェクト. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
70. 杉田昭, 小金井一隆, 内野基, 二見喜太郎, 根津理一郎, 藤井久男, 舟山裕士, 福島浩平, 池内浩基, 板橋道朗, 篠崎大, 荒木俊光, 高橋賢一, 水島恒和, 畑啓介, 小山文一, 亀山仁史, 木村英明, 久松理一: 本邦における腸管ペーチェット病に対する外科治療の現況調査(多施設共同研究). 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
71. 岡崎和一, 福井寿朗, 深田憲将, 大宮美香, 濱田円, 吉岡和彦, 仲瀬裕志, 妹尾浩, 松浦稔, 中村志郎, 渡辺憲治, 池内浩基, 金井隆典, 緒方晴彦, 久松理一, 平井郁仁, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎(UC), クローン病(CD), 分類不能のIBD(IBD unclassified, IBDU), Indeterminate colitis(IC)における診断変遷症例の検討. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
72. 江崎幹宏, 松本主之, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 平野敦士, 冬野雄太, 平井郁仁, 二見喜太郎, 中村志郎, 池内浩基, 渡辺憲治, 大宮直木, 中村正直, 内藤裕二, 仲瀬裕志, 松浦稔, 藤谷幹浩, 角田洋一, 大森鉄平, 飯島英樹, 平岡佐規子, 蔵原晃一, 金城徹, 金城福則, 芦塚伸也, 山本章二朗, 竹島史直, 光山慶一, 猿田雅之, 石川大, 澁谷智義, 桜庭裕丈, 小山文一, 久松理一, 細江直樹, 緒方晴彦, 長沼誠, 金井隆典, 小林拓, 日比紀文, 長堀正和, 渡辺守, 竹内健, 松岡克善, 鈴木康夫: クローン病術後再発に関するカプセル内視鏡評価の意義に関する検討. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
73. 畑啓介, 石原聡一郎, 味岡洋一, 安藤朗, 池内浩基, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 杉田昭, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 長堀正和, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 福島浩平, 二見喜太郎, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 日比紀文, 渡辺守, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立—Target vs Random生検のランダム化比較試験のフォローアップスタディー. 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回総会, 東京, 2019年1月17-18日.
74. 三井達也, 斎藤大祐, 日比則孝, 尾崎良, 菊地翁輝, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 久松理一: 大腸憩室出血における臨床的特徴の年齢層別解析. 第15回日本消化管学会総会, 佐賀, 2019年2月1-3日.
75. 高木理子, 川村直弘, 關里和, 佐藤悦久, 西川かおり, 森秀明, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘, 大森嘉彦, 藤原正親, 久松理一: 肝細胞癌が疑われた横隔膜限局性悪性中皮腫の1手術例. 第353回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2019年2月23日.
76. 森秀明: 膵臓. 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部超音波研修委員会第7回千葉セミナー, 千葉, 2019年2月23日.
77. 藤麻武志, 川村直弘, 關里和, 佐藤悦久, 西川かおり, 長濱清隆, 柴原純二, 森秀明, 久松理一: 非アルコール性脂肪肝炎(NASH)に自己免疫性肝炎(AIH)を合併した1例. 第649回日本内科学会関東地方会, 東京, 2019年3月2日.

## 研究会等発表

- 久松理一: 炎症性腸疾患における病診連携. 多摩IBDネットワークセミナー, 調布, 2018年4月26日.
- 久松理一: 潰瘍性大腸炎の治療Up to Date. 日野市医師会学術講演会, 日野, 2018年5月7日.
- 森秀明: 知っておきたい超音波所見. 腹部エコー症例勉強会・超音波検査法フォーラム, 東京, 2018年7月5日.
- 久松理一: 鎮静薬使用時の留意点. 杏林大学医学部付属病院リスクマネージメント講習会, 三鷹, 2018年7月9日.
- 川村直弘: 肝疾患に於けるサルコペニア, 肝細胞癌の治療. バイエル薬品社内勉強会, 東京, 2018年7月12日.
- 大野亜希子: 消化器がんの内視鏡治療. Digestive Disease Conference, 東京, 2018年7月11日.
- 久松理一: 潰瘍性大腸炎の基本治療と医療連携における課題. 十勝地区IBD医療連携講演会, 帯広, 2018年8月1日.
- 久松理一: 特別講演 III 炎症性腸疾患治療の進歩～新薬を含めて～. 第15回 Digestive disease Osaka Meeting, 大阪, 2018年8月4日.

9. 久松理一：IBD医療連携の現状と課題。北多摩IBDミーティング，立川，2018年8月30日。
10. 久松理一：Bio製剤の作用メカニズムと特徴。Management of Crohn's disease 2018，東京，2018年9月1日。
11. 久松理一：5-ASAの使い方のコツとピットフォール。東葛地区IBDセミナー，浦安，2018年9月5日。
12. 久松理一：クローン病 初診患者への対応。CDワークショップセミナー 2018，三鷹，2018年9月14日。
13. 森秀明：アドバンスドエコーセミナー「腹部エコーマスター講座」。アスリードセミナー，東京，2018年9月23日。
14. 大野亜希子：深部大腸病変に対するシングルバルーンを用いた大腸ESDの検討。第31回多摩大腸疾患懇話会，東京，2018年10月6日。
15. 久松理一：腸管ペーチェット病の治療戦略。Academy of Crohn's & Colitis Young Expert (ACE) Round 7，東京，2018年10月6日。
16. 久松理一：生物学的製剤における免疫原性の重要性を考える～内科医の立場から～。Meet the Expert Seminar on UC，札幌，2018年10月11日。
17. 久松理一：IBD診断と治療のピットホールと病診連携の課題。北多摩開業医消化器内視鏡勉強会，三鷹，2018年10月13日。
18. 久松理一：潰瘍性大腸炎の最新の話。第13回八王子消化器科医会学術講演会，八王子，2018年10月16日。
19. 大野亜希子：ピロリ除菌後の胃癌の特徴と注意点。武蔵野消化器・肝疾患医療連携懇話会，東京，2018年10月23日。
20. 久松理一：CD治療の新しい展開～ウステキヌマブの特性と今後の展開～。Crohn's Disease Web Seminar，2018年11月8日。
21. 森秀明：びまん性肝疾患の超音波検査～新しい評価方法を含めて～。第298回多摩エコー研究会，武蔵野，2018年11月15日。
22. 久松理一：非特異性多発性小腸潰瘍症～原因遺伝子発見のストーリー～。第5回久留米消化器Seminar，久留米，2018年11月20日。
23. 川村直弘：慢性肝不全の病態。あすか製薬社内研修会，東京，2018年11月29日。
24. Hisamatsu T: Unmet medical needs for Crohn's disease in Japan and Necessity of Constant Evolvement of Science in IBD. GALAXI Investigators Meeting，東京，2018年12月2日。
25. 久松理一：接着分子を標的とした炎症性腸疾患治療薬について。エンタイビオ講演会 in Chiba，幕張，2018年12月4日。
26. 久松理一：UC治療における局所治療の新時代。レクタブルWeb講演会，2018年12月12日。
27. 久松理一：IBDの病態からみた抗TNF- $\alpha$ 阻害剤の有効性と課題～新しく登場する薬剤を含めて～。IBD in 倉敷，2018年12月13日。
28. 森秀明：USスクリーニングの重要所見『腎臓』。超音波スクリーニング研修講演会2018，東京，2018年12月15日。
29. 久松理一：日本から発信されたエビデンス・アダリムマブとチオプリン製剤の併用について考える。HUMIRA HOUR-IBDの最適な治療を求めて，京都，2019年1月12日。
30. 久松理一：UC治療における組織学的寛解の意義。Takeda Ulcerative Colitis 全国Webセミナー，2019年1月24日。
31. 久松理一：杏林大学医学部付属病院 消化器内科の特色と取りくみ。第38回多摩消化器シンポジウム，三鷹，2019年1月26日。
32. 藤麻武志，川村直弘，關里和，佐藤悦久，西川かおり，長濱清隆，柴原純二，森秀明，久松理一：非アルコール性脂肪

肝炎 (NASH) に自己免疫性肝炎 (AIH) を合併した1例。第59回第三多摩肝臓談話会，三鷹，2019年2月8日。

33. 久松理一：潰瘍性大腸炎治療の課題とエンタイビオへの期待。武田薬品社内セミナー，東京，2019年2月13日。
34. 久松理一：抗TNF $\alpha$ 抗体とチオプリン製剤併用のメリットとデメリット。OMC Gastroenterology & Hepatology Research Group，大阪，2019年2月22日。
35. 久松理一：IBDの病態からみた抗TNF- $\alpha$ 阻害剤の有効性と課題～新しく登場する薬剤も含めて～。Immunology Forum in 城南，東京，2019年3月11日。
36. 久松理一：接着分子を標的とした炎症性腸疾患治療薬 Vedolizumabの安全性・有効性について。Entyvio講演会，武蔵野，2019年3月27日。

## 論文

英文原著 (original article, review)

1. Wada H, Hayashida M, Sato T, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Ohmori Y<sup>1</sup>, Saito D, Sakuraba A, Kamiichi H<sup>1</sup>, Tokunaga K, Mochizuki M<sup>2</sup>, Shibahara J<sup>2</sup>, Mori H, Hisamatsu T (1National Disaster Medical Center, 2Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): A Caucasian American patient with celiac disease diagnosed in Japan and successfully treated with a gluten-free diet. Clin J Gastroenterol. 11(1):23-28, 2018.
2. Park DI<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Chen M<sup>2</sup>, Ng SC<sup>3</sup>, Ooi CJ<sup>4</sup>, Wei SC<sup>5</sup>, Banerjee R<sup>6</sup>, Hilmi IN<sup>7</sup>, Jeon YT<sup>8</sup>, Han DS<sup>9</sup>, Kim HJ<sup>10</sup>, Ran Z<sup>11</sup>, Wu K<sup>12</sup>, Qian J<sup>13</sup>, Hu PJ<sup>2</sup>, Matsuoka K<sup>14</sup>, Andoh A<sup>15</sup>, Suzuki Y<sup>16</sup>, Sugano K<sup>17</sup>, Watanabe M<sup>14</sup>, Hibi T<sup>18</sup>, Puri AS<sup>19</sup>, Yang SK<sup>20</sup> (1Sungkyunkwan University, 2Sun Yat-sen University, 3The Chinese University of Hong Kong, 4Gleneagles Medical Centre and Duke-NUS Medical School, 5National Taiwan University Hospital and College of Medicine, 6Asian Institute of Gastroenterology, 7University of Malaya, 8Korea University, 9Hanyang University Guri Hospital, 10Kyung Hee University, 11Shanghai Jiao Tong University, 12Fourth Military Medical University, 13Peking Union Medical College, 14Tokyo Medical and Dental University, 15Shiga University, 16Toho University, 17Jichi Medical University, 18Kitasato University, 19GB Pant Institute of Postgraduate Medical Education and Research, 20University of Ulsan College of Medicine): Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Park 1: risk assessment. J Gastroenterol Hepatol. 33(1):20-29, 2018.
3. Park DI<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Chen M<sup>2</sup>, Ng SC<sup>3</sup>, Ooi CJ<sup>4</sup>, Wei SC<sup>5</sup>, Banerjee R<sup>6</sup>, Hilmi IN<sup>7</sup>, Jeon YT<sup>8</sup>, Han DS<sup>9</sup>, Kim HJ<sup>10</sup>, Ran Z<sup>11</sup>, Wu K<sup>12</sup>, Qian J<sup>13</sup>, Hu PJ<sup>2</sup>, Matsuoka K<sup>14</sup>, Andoh A<sup>15</sup>, Suzuki Y<sup>16</sup>, Sugano K<sup>17</sup>, Watanabe M<sup>14</sup>, Hibi T<sup>18</sup>, Puri AS<sup>19</sup>, Yang SK<sup>20</sup> (1Sungkyunkwan University, 2Sun Yat-sen University, 3The Chinese University of Hong Kong, 4Gleneagles Medical Centre and Duke-NUS Medical School, 5National Taiwan University Hospital and College of Medicine, 6Asian Institute of Gastroenterology, 7University of Malaya, 8Korea University, 9Hanyang University Guri Hospital, 10Kyung Hee University, 11Shanghai Jiao Tong University, 12Fourth Military Medical University, 13Peking Union Medical College, 14Tokyo Medical and Dental University, 15Shiga University, 16Toho University, 17Jichi Medical University, 18Kitasato University, 19GB Pant Institute of Postgraduate Medical Education and Research, 20University of Ulsan College of Medicine): Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific

- Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Part 2: management. *J Gastroenterol Hepatol.* 33(1):30-36, 2018.
- Hisamatsu T, Ohno A, Chiba T<sup>1</sup> (Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Linked Color Imaging identified UC Associated Colorectal Cancer. A case report. *Dig Endosc.* 30(2):267, 2018.
  - Umeno J<sup>1</sup>, Esaki M<sup>1</sup>, Hirano A<sup>1</sup>, Fuyuno Y<sup>1</sup>, Ohmiya N<sup>2</sup>, Yasukawa S<sup>3</sup>, Hirai F<sup>3</sup>, Kochi S<sup>4</sup>, Kurahara K<sup>4</sup>, Yanai S<sup>5</sup>, Uchida K<sup>6</sup>, Hosomi S<sup>7</sup>, Watanabe K<sup>7,8</sup>, Hosoe N<sup>9</sup>, Ogata H<sup>9</sup>, Hisamatsu T, Nagayama M<sup>10</sup>, Yamamoto H<sup>10</sup>, Abukawa D<sup>11</sup>, Kakuta F<sup>11</sup>, Onodera K<sup>12</sup>, Matsui T<sup>3</sup>, Hibi T<sup>13</sup>, Yao T<sup>14</sup>, Kitazono T<sup>1</sup>, Matsumoto T<sup>1,5</sup>. CEAS study group (1Kyushu University, 2Fujita Health University School of Medicine, 3Fukuoka University Chikushi Hospital, 4Matsuyama Red Cross Hospital, 5Iwate Medical University, 6Mie University Graduate School of Medicine, 7Osaka City University Graduate School of Medicine, 8Hyogo College of Medicine, 9Keio University School of Medicine, 10Jichi Medical University, 11Miyagi Children's Hospital, 12Sapporo Medical University School of Medicine, 13Kitasato University, 14Sada Hospital): Clinical features of chronic enteropathy associated with SLCO2A1 gene: a new entity clinically distinct from Crohn's disease. *J Gastroenterol.* 53(8):907-915, 2018.
  - Park DI<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Chen M<sup>2</sup>, Ng SC<sup>3</sup>, Ooi CJ<sup>4</sup>, Wei SC<sup>5</sup>, Banerjee R<sup>6</sup>, Hilmi IN<sup>7</sup>, Jeon YT<sup>8</sup>, Han DS<sup>9</sup>, Kim HJ<sup>10</sup>, Ran Z<sup>11</sup>, Wu K<sup>12</sup>, Qian J<sup>13</sup>, Hu PJ<sup>2</sup>, Matsuoka K<sup>14</sup>, Andoh A<sup>15</sup>, Suzuki Y<sup>16</sup>, Sugano K<sup>17</sup>, Watanabe M<sup>14</sup>, Hibi T<sup>18</sup>, Puri AS<sup>19</sup>, Yang SK<sup>20</sup> (1Sungkyunkwan University, 2Sun Yat-sen University, 3The Chinese University of Hong Kong, 4Gleneagles Medical Centre and Duke-NUS Medical School, 5National Taiwan University Hospital and College of Medicine, 6Asian Institute of Gastroenterology, 7University of Malaya, 8Korea University, 9Hanyang University Guri Hospital, 10Kyung Hee University, 11Shanghai Jiao Tong University, 12Fourth Military Medical University, 13Peking Union Medical College, 14Tokyo Medical and Dental University, 15Shiga University, 16Toho University, 17Jichi Medical University, 18Kitasato University, 19GB Pant Institute of Postgraduate Medical Education and Research, 20University of Ulsan College of Medicine): Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Part 1: risk assessment. *Intest Res.* 16(1):4-16, 2018.
  - Park DI<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Chen M<sup>2</sup>, Ng SC<sup>3</sup>, Ooi CJ<sup>4</sup>, Wei SC<sup>5</sup>, Banerjee R<sup>6</sup>, Hilmi IN<sup>7</sup>, Jeon YT<sup>8</sup>, Han DS<sup>9</sup>, Kim HJ<sup>10</sup>, Ran Z<sup>11</sup>, Wu K<sup>12</sup>, Qian J<sup>13</sup>, Hu PJ<sup>2</sup>, Matsuoka K<sup>14</sup>, Andoh A<sup>15</sup>, Suzuki Y<sup>16</sup>, Sugano K<sup>17</sup>, Watanabe M<sup>14</sup>, Hibi T<sup>18</sup>, Puri AS<sup>19</sup>, Yang SK<sup>20</sup> (1Sungkyunkwan University, 2Sun Yat-sen University, 3The Chinese University of Hong Kong, 4Gleneagles Medical Centre and Duke-NUS Medical School, 5National Taiwan University Hospital and College of Medicine, 6Asian Institute of Gastroenterology, 7University of Malaya, 8Korea University, 9Hanyang University Guri Hospital, 10Kyung Hee University, 11Shanghai Jiao Tong University, 12Fourth Military Medical University, 13Peking Union Medical College, 14Tokyo Medical and Dental University, 15Shiga University, 16Toho University, 17Jichi Medical University, 18Kitasato University, 19GB Pant Institute of Postgraduate Medical Education and Research, 20University of Ulsan College of Medicine): Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Part 2: management. *Intest Res.* 16(1):17-25, 2018.
  - Morikubo H, Saito D, Miura M, Sato T, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Sakuraba A, Hayashida M, Fujiwara M<sup>1</sup>, Tokunaga K, Shibahara J<sup>1</sup>, Mori H, Masaki T<sup>2</sup>, Kawai S<sup>3</sup>, Hisamatsu T (1Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, 3Infectious Diseases of Pathology, Kyorin University School of Medicine): A Case of an HIV-infected Patient with Confirmed Overlapping Complications of Severe Amebic Colitis and CMV Enteritis. *Intern Med.* 57(13):1855-1860, 2018.
  - Kobayashi T<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Suzuki Y<sup>2</sup>, Ogata H<sup>3</sup>, Andoh A<sup>4</sup>, Araki T<sup>5</sup>, Hokari R<sup>6</sup>, Iijima H<sup>7</sup>, Ikeuchi H<sup>8</sup>, Ishiguro Y<sup>9</sup>, Kato S<sup>10</sup>, Kunisaki R<sup>11</sup>, Matsumoto T<sup>12</sup>, Motoya S<sup>13</sup>, Nagahori M<sup>14</sup>, Nakamura S<sup>8</sup>, Nakase H<sup>15</sup>, Tsujikawa T<sup>16</sup>, Sasaki M<sup>17</sup>, Yokoyama K<sup>1</sup>, Yoshimura N<sup>18</sup>, Watanabe K<sup>8</sup>, Katafuchi M<sup>19</sup>, Watanabe M<sup>14</sup>, Hibi T<sup>1</sup> (1Kitasato University, 2Toho University, 3Keio University, 4Shiga University of Medical Science, 5Mie University, 6National Defense Medical College, 7Osaka University, 8Hyogo College of Medicine, 9Hirosaki National Hospital, 10Saitama Medical University, 11Yokohama City University, 12Iwate Medical University, 13Sapporo-Kosei General Hospital, 14Tokyo Medical and Dental University, 15Sapporo Medical University, 16Higashi-Ohmi General Medical Center, 17Aichi Medical University, 18Tokyo Yamate Medical Center, 19AbbVie GK): Predicting outcomes to optimize disease management in inflammatory bowel disease in Japan: their differences and similarities to Western countries. *Intest Res.* 16(2):168-177, 2018.
  - Saito D, Hayashida M, Sato T, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hisamatsu T: Evaluation of the drug-induced lymphocyte stimulation test for diagnosing mesalazine allergy. *Intest Res.* 16(2):273-281, 2018.
  - Katayama K<sup>1</sup>, Kawaguchi T<sup>2</sup>, Shiraiishi K<sup>3</sup>, Ito T<sup>4</sup>, Suzuki K<sup>5</sup>, Koreeda C<sup>6</sup>, Ohtake T<sup>7</sup>, Iwasa M<sup>8</sup>, Tokumoto Y<sup>9</sup>, Endo R<sup>10</sup>, Kawamura N, Shiraki M<sup>11</sup>, Hanai T<sup>11</sup>, Habu D<sup>12</sup>, Tsuruta S<sup>13</sup>, Sakai H<sup>13</sup>, Miwa Y<sup>14</sup>, Kawada N<sup>15</sup>, Kato A<sup>16</sup>, Takei Y<sup>8</sup>, Mine T<sup>3</sup>, Kohgo Y<sup>7,17</sup>, Seki T<sup>6</sup>, Sata M<sup>2</sup>, Ito Y<sup>18</sup>, Fukui K<sup>18</sup>, Nishiguchi S<sup>19</sup>, Moriwaki H<sup>11</sup>, Suzuki K<sup>20</sup>. (Osaka International Cancer Institute, 2 Kurume University, 3Tokai University, 4JCHO Osaka Hospital, 5 Shuuwa General Hospital, 6 Kansai Medical University, 7 International University of Health and Welfare Hospital, 8 Mie University, 9 Ehime University, 10 Iwate Medical University, 11 Gifu University 12 Osaka City University, 13 NHO Beppu Medical Center, 14 Miwa Clinic, 15 Osaka City University, 16 Morioka Municipal Hospital, 17 International University of Health and Welfare Hospital, 18 Osaka International Cancer Institute, 19 Hyogo College of Medicine, 20 Morioka University.): The prevalence and implication of zinc deficiency in patients with chronic liver disease. *J Clin Med Res.* 2018;10(5):437-444
  - Kakuta Y<sup>1</sup>, Kawai Y<sup>1,2</sup>, Okamoto D<sup>1</sup>, Takagawa T<sup>3</sup>, Ikeya K<sup>4</sup>, Sakuraba H<sup>5</sup>, Nishida A<sup>6</sup>, Nakagawa S<sup>7</sup>, Miura M, Toyonaga T<sup>8</sup>, Onodera K<sup>9</sup>, Shinozaki M<sup>2</sup>, Ishiguro Y<sup>10</sup>, Mizuno S<sup>11</sup>, Takahara M<sup>12</sup>, Yanai S<sup>13</sup>, Hokari R<sup>14</sup>,

- Nakagawa T<sup>15</sup>, Araki H<sup>16</sup>, Motoya S<sup>17</sup>, Naito T<sup>1</sup>, Moroi R<sup>1</sup>, Shiga H<sup>1</sup>, Endo K<sup>1</sup>, Kobayashi T<sup>8</sup>, Naganuma M<sup>11</sup>, Hiraoka S<sup>12</sup>, Matsumoto T<sup>13</sup>, Nakamura S<sup>3</sup>, Nakase H<sup>9</sup>, Hisamatsu T, Sasaki M<sup>7</sup>, Hanai H<sup>4</sup>, Andoh A<sup>6</sup>, Nagasaki M<sup>1</sup>, Kinouchi Y<sup>1</sup>, Shimosegawa T<sup>1</sup>, Masamune A<sup>1</sup>, Suzuki Y<sup>18</sup>. MENDEL study group (<sup>1</sup>Tohoku University, <sup>2</sup>University of Tokyo, <sup>3</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>4</sup>Hamamatsu South Hospital, <sup>5</sup>Hirosaki University, <sup>6</sup>Shiga University of Medical Science, <sup>7</sup>Aichi Medical University, <sup>8</sup>Kitasato University, <sup>9</sup>Sapporo Medical University, <sup>10</sup>Hirosaki National Hospital, <sup>11</sup>Keio University, <sup>12</sup>Okayama University, <sup>13</sup>Iwate Medical University, <sup>14</sup>National Defense Medical College, <sup>15</sup>Chiba University, <sup>16</sup>Gifu University, <sup>17</sup>Sapporo-Kosei General Hospital, <sup>18</sup>Toho University): NUDT15 codon 139 is the best pharmacogenetic marker for predicting thiopurine-induced severe adverse events in Japanese patients with inflammatory bowel disease: a multicenter study. *J Gastroenterol.* 53(9):1065-1078, 2018.
13. Ozaki R, Kobayashi T<sup>1</sup>, Okabayashi S<sup>1</sup>, Nakano M<sup>1</sup>, Morinaga S<sup>1</sup>, Hara A<sup>1</sup>, Ohbu M<sup>1</sup>, Matsuoka K<sup>1</sup>, Toyonaga T<sup>1</sup>, Saito E<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Hibi T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Kitasato University): Histological Risk Factors to Predict Clinical Relapse in Ulcerative Colitis with Endoscopically Normal Mucosa. *J Crohns Colitis.* 12(11):1288-1294, 2018.
  14. Mori K<sup>1</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Mizuno S<sup>1</sup>, Suzuki H<sup>1</sup>, Kitazume MT<sup>1</sup>, Shimamura K<sup>1</sup>, Chiba S<sup>1</sup>, Sugita A<sup>2</sup>, Matsuoka K<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Kanai T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Yokohama Municipal Citizen's Hospital):  $\beta$ -(1,3)-Glucan derived from *Candida albicans* induces inflammatory cytokines from macrophages and lamina propria mononuclear cells derived from patients with Crohn's disease. *Intest Res.* 16(3):384-392, 2018.
  15. Hisamatsu T, Kunisaki R<sup>1</sup>, Nakamura S<sup>2</sup>, Tsujikawa T<sup>3</sup>, Hirai F<sup>4</sup>, Nakase H<sup>5</sup>, Watanabe K<sup>2,6</sup>, Yokoyama K<sup>7</sup>, Nagahori M<sup>8</sup>, Kanai T<sup>9</sup>, Naganuma M<sup>9</sup>, Michimae H<sup>7</sup>, Andoh A<sup>10</sup>, Yamada A<sup>11</sup>, Yokoyama T<sup>12</sup>, Kamata N<sup>13</sup>, Tanaka S<sup>14</sup>, Suzuki Y<sup>11</sup>, Hibi T<sup>7</sup>, Watanabe M<sup>8</sup>, CERISIER Trial group (<sup>1</sup>Yokohama City University, <sup>2</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>3</sup>Higashi-Ohmi Medical Center, <sup>4</sup>Fukuoka University Chikushi Hospital, <sup>5</sup>Sapporo Medical University, <sup>6</sup>Osaka City General Hospital, <sup>7</sup>Kitasato University, <sup>8</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>9</sup>Keio University, <sup>10</sup>Shiga University of Medical Science, <sup>11</sup>Toho University, <sup>12</sup>Yokoyama IBD Clinic, <sup>13</sup>Osaka City University, <sup>14</sup>Hiroshima University): Effect of elemental diet combined with infliximab dose escalation in patients with Crohn's disease with loss of response to infliximab: CERISIER trial. *Intest Res.* 16(3):494-498, 2018.
  16. Matsuoka K<sup>1</sup>, Hamada S<sup>1</sup>, Shimizu M<sup>1</sup>, Nanki K<sup>1</sup>, Mizuno S<sup>1</sup>, Kiyohara H<sup>1</sup>, Arai M<sup>1</sup>, Sugimoto S<sup>1</sup>, Iwao Y<sup>1</sup>, Ogata H<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Naganuma M<sup>1</sup>, Kanai T<sup>1</sup>, Mochizuki M<sup>1</sup>, Hashiguchi M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University): Factors predicting the therapeutic response to infliximab during maintenance therapy in Japanese patients with Crohn's disease. *PLoS One.* 2018 3(10): e0204632. doi: 10.1371/journal.pone.0204632.
  17. Sakurai T<sup>1</sup>, Fujimori S<sup>2</sup>, Hayashida M, Hanada R<sup>3</sup>, Akiyama J<sup>1</sup>, Sakamoto C<sup>2</sup> (<sup>1</sup>National Center for Global Health and Medicine, <sup>2</sup>Nippon Medical School, <sup>3</sup>Sumida Hospital, SOUEIKAI): Repeatability of small bowel transit time in capsule endoscopy in healthy subjects. *Biomed Mater Eng.* 29 (6): 839-848, 2018.
  18. Hosoe N<sup>1</sup>, Nakano M<sup>2</sup>, Takeuchi K<sup>3</sup>, Endo Y<sup>4</sup>, Matsuoka K<sup>5</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Omori T<sup>6</sup>, Hayashida M, Kobayashi T<sup>2</sup>, Yoshida A<sup>4</sup>, Mizuno S<sup>1</sup>, Nakazato Y<sup>1</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Kanai T<sup>1</sup>, Watanabe M<sup>5</sup>, Ueno F<sup>4</sup>, Suzuki Y<sup>3</sup>, Hibi T<sup>2</sup>, Ogata H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Kitasato University, <sup>3</sup>Toho University, <sup>4</sup>Ofuna Chuo Hospital, <sup>5</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>6</sup>Tokyo Women's Medical University): Establishment of a Novel Scoring System for Colon Capsule Endoscopy to Assess the Severity of Ulcerative Colitis-Capsule Scoring of Ulcerative Colitis. *Inflamm Bowel Dis.* 24 (12): 2641-2647, 2018.
  19. Miyoshi J<sup>1</sup>, Matsuoka K<sup>1</sup>, Yoshida A<sup>2</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Yajima T<sup>1</sup>, Inoue N<sup>1</sup>, Okamoto S<sup>1</sup>, Iwao Y<sup>1</sup>, Ogata H<sup>1</sup>, Ueno F<sup>2</sup>, Hibi T<sup>3</sup>, Kanai T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Ofuna Chuo Hospital, <sup>3</sup>Kitasato University): 5-Aminosalicylic acid aggravates colitis mimicking exacerbation of ulcerative colitis. *Intest Res.* 16(4):635-640, 2018.
  20. Minowa S, Saito D, Okabe N<sup>1</sup>, Sato T, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hayashida M, Tokunaga K, Tonari A<sup>2</sup>, Mochizuki M<sup>1</sup>, Shibahara J<sup>1</sup>, Mori H, Hisamatsu T (<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Radiation Oncology, Kyorin University School of Medicine): A case of acute radiation colitis -recommendation to perform colonoscopy together with histopathological examination- *J Kyorin Med Soc.* 49(3):229-233, 2018.
  21. Kiyohara H<sup>1</sup>, Sujino T<sup>1</sup>, Teratani T<sup>1</sup>, Miyamoto K<sup>1</sup>, Arai MM<sup>1</sup>, Nomura E<sup>1</sup>, Harada Y<sup>1</sup>, Aoki R<sup>1</sup>, Koda Y<sup>1</sup>, Mikami Y<sup>1</sup>, Mizuno S<sup>1</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Kanai T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University): Toll-Like Receptor 7 Agonist-Induced Dermatitis Causes Severe Dextran Sulfate Sodium Colitis by Altering the Gut Microbiome and Immune Cells. *Cell Mol Gastroenterol Hepatol.* 7(1):135-156, 2018.
  22. Yamamoto Y<sup>1,2</sup>, Masuda S<sup>2</sup>, Nakase H<sup>1,3</sup>, Matsuura M<sup>1</sup>, Maruyama S<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Suzuki Y<sup>4</sup>, Matsubara K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Kyoto University, <sup>2</sup>Kyushu University, <sup>3</sup>Sapporo Medical University, <sup>4</sup>Toho University): Influence of Pharmaceutical Formulation on the Mucosal Concentration of 5-Aminosalicylic Acid and N-Acetylmethanesulfonamide in Japanese Patients with Ulcerative Colitis. *Biol Pharm Bull.* 42(1):81-86, 2019.
  23. Yagisawa K<sup>1</sup>, Kobayashi T<sup>1</sup>, Ozaki R, Okabayashi S<sup>1</sup>, Toyonaga T<sup>1</sup>, Miura M, Hayashida M, Saito E<sup>1</sup>, Nakano M<sup>1</sup>, Matsubara H<sup>1</sup>, Hisamatsu T, Hibi T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Kitasato University): Randomized, crossover questionnaire survey of acceptabilities of controlled-release mesalazine tablets and granules in ulcerative colitis patients. *Intest Res.* 17(1):87-93, 2019.
  24. Hisamatsu T, Matsumoto T<sup>1</sup>, Watanabe K<sup>2</sup>, Nakase H<sup>3</sup>, Motoya S<sup>4</sup>, Yoshimura N<sup>5</sup>, Ishida T<sup>6</sup>, Kato S<sup>7</sup>, Nakagawa T<sup>8</sup>, Esaki M<sup>9</sup>, Nagahori M<sup>10</sup>, Matsui T<sup>11</sup>, Naito Y<sup>12</sup>, Kanai T<sup>13</sup>, Suzuki Y<sup>14</sup>, Nojima M<sup>15</sup>, Watanabe M<sup>10</sup>, Hibi T<sup>16</sup>, DIAMOND study group (<sup>1</sup>Iwate Medical University, <sup>2</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>3</sup>Sapporo Medical University, <sup>4</sup>Sapporo Kosei General Hospital, <sup>5</sup>Tokyo Yamate Medical Center, <sup>6</sup>Ishida Clinic of IBD and Gastroenterology, <sup>7</sup>Saitama Medical Center, <sup>8</sup>Chiba University, <sup>9</sup>Kyushu University, <sup>10</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>11</sup>Fukuoka University Chikushi Hospital, <sup>12</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>13</sup>Keio University, <sup>14</sup>Toho University, <sup>15</sup>University of Tokyo, <sup>16</sup>Kitasato University): Concerns and side effects of azathioprine during adalimumab induction and maintenance therapy for Japanese patients with Crohn's disease: a sub-analysis of a prospective randomized clinical trial (DIAMOND study). *J Crohns Colitis.* 2019 doi: 10.1093/ecco-jcc/jjz030. [Epub ahead of print]

25. Oguri N, Sakuraba A, Morikubo H, Kikuchi O, Sato T, Tokunaga S, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Saito D, Hayashida M, Mori H, Osaki T<sup>1</sup>, Kamiya S<sup>1</sup>, Senoh M<sup>2</sup>, Kato H<sup>2</sup>, Hisamatsu T (1Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, 2National Institute of Infectious Diseases): Community-acquired fulminant colitis caused by binary toxin-producing *Clostridium difficile* in Japan. Clin J Gastroenterol. 2019 Feb 14. doi: 10.1007/s12328-019-00949-z. [Epub ahead of print]

26. Fujimori S<sup>1</sup>, Fukunaga K<sup>2</sup>, Takahashi A<sup>2,3</sup>, Mushiroda T<sup>2</sup>, Kubo M<sup>2</sup>, Hanada R<sup>4</sup>, Hayashida M, Sakurai T<sup>5</sup>, Iwakiri K<sup>1</sup>, Sakamoto C<sup>1</sup> (1Nippon Medical School, 2RIKEN Center for Integrative Medical Sciences, 3National Cerebral and Cardiovascular Center, 4 Sumida Hospital, SOUEIKAI, 5National Center for Global Health and Medicine) : Bactericidal/Permeability-Increasing Fold-Containing Family B Member 4 May Be Associated with NSAID-Induced Enteropathy. Dig Dis Sci. 64(2): 401-408, 2019.

27. Ooi CJ<sup>1</sup>, Hilmi I<sup>2</sup>, Banerjee R<sup>3</sup>, Chuah SW<sup>4</sup>, Ng SC<sup>5</sup>, Wei SC<sup>6</sup>, Makharia GK<sup>7</sup>, Pisespongsa P<sup>8</sup>, Chen MH<sup>9</sup>, Ran ZH<sup>10</sup>, Ye BD<sup>11</sup>, Park DI<sup>12</sup>, Ling KL<sup>13</sup>, Ong D<sup>14</sup>, Ahuja V<sup>7</sup>, Goh KL<sup>15</sup>, Sollano J<sup>16</sup>, Lim WC<sup>17</sup>, Leung WK<sup>18</sup>, Raja Ali RA<sup>19</sup>, Wu DC<sup>20</sup>, Ong E<sup>16</sup>, Mustaffa N<sup>21</sup>, Limsrivilai J<sup>22</sup>, Hisamatsu T, Yang SK<sup>11</sup>, Ouyang Q<sup>23</sup>, Geary R<sup>24</sup>, De Silva JH<sup>25</sup>, Rerknimitr R<sup>26</sup>, Simadibrata M<sup>27</sup>, Abdullah M<sup>28</sup>, Leong RWL<sup>29</sup>, Asia Pacific Association of Gastroenterology (APAGE) Working Group on Inflammatory Bowel Disease and Asian Organization for Crohn's and Colitis (1Singapore General Hospital, 2University Malaya Medical Centre, 3Asian Institute of Gastroenterology, 4Gleneagles Medical Centre, 5The Chinese University of Hong Kong, 6National Taiwan University Hospital, 7All India Institute of Medical Sciences, 8Bumrungrad International University, 9Sun Yat-sen University, 10Shanghai Jiao Tong University, 11University of Ulsan College of Medicine, 12Sungkyunkwan University School of Medicine, 13Duke-NUS Medical School, 14National University Hospital of Singapore, 15University of Malaya Specialist Centre, 16University of Santo Tomas, 17Tan Tock Seng Hospital, 18University of Hong Kong, 19The National University of Malaysia, 20Kaohsiung Medical University, 21Universiti Sains, 22Mahidol University, 23Sichuan University, 24University of Otago, 25University of Kelaniya, 26Chulalongkorn University, 27Universitas Indonesia, 28Cipto Mangankusumo National Hospital, 29Concord Hospital): Best practices on immunomodulators and biological agents for Ulcerative colitis and Crohn's disease in Asia. J Gastroenterol Hepatol. 2019 doi: 10.1111/jgh.14648. [Epub ahead of print]

邦文総説 (学会誌等)

1. 久松理一, 齋藤大祐, 林田真理: 小腸疾患 (non-CD) を見直すー腫瘍・血管性病変・炎症・希少疾患までー. 日本消化器病学会雑誌 115(7): 575-586, 2018.

2. 久松理一, 尾崎良, 齋藤大祐: IBD治療における本邦からのエビデンス -クローン病に対するアダリムマブ, monotherapy かcombination therapy か? DIAMOND試験を中心に-. 日本消化器病学会雑誌 116(3):193-199,2019.

3. 林田真理: 新しい小腸の検査法 小腸内視鏡とカプセル内視鏡検査. 杏林医学会雑誌49: 235-237, 2018.

邦文総説 (商業誌)

1. 久松理一, 林田真理, 櫻庭彰人, 齋藤大祐, 三浦みき, 三井達也, 池崎修, 箕輪慎太郎, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 菊地翁

輝, 森久保拓: 『IBDの内視鏡的粘膜治療 - 評価法と臨床的意義』炎症性腸疾患における粘膜治療と長期経過. 胃と腸 53(2): 157-162, 2018.

- 久松理一: 特集『消化器疾患と代謝異常を考える』炎症性腸疾患とアミノ酸代謝異常. Modern Physician 38(2): 172-176, 2018.
- 久松理一: 「炎症性腸疾患 (第2版) -病因解明と診断・治療の最新知見-」I. 総論 炎症性腸疾患に対する内科治療の進歩と展望. 日本臨床2018年4月増刊号, 2018.
- 久松理一: 特集「病態から考え出されたIBD治療の進歩」V. SMAD7阻害剤. INTESTINE 22(3), 2018.
- 久松理一, 齋藤大祐, 三浦みき, 櫻庭彰人, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 佐藤太龍, 尾崎良, 池崎修, 三井達也, 林田真理: 特集I 一歩先を行くクローン病診療 鑑別すべき疾患の診断と臨床. 消化器肝臓内科4(2): 106-112, 2018.
- 久松理一: T2T戦略における内視鏡による病勢評価の重要性. IBD Research 13(1): 6-10, 2019.

著書

- 久松理一 (分担執筆): I総論 炎症性腸疾患に対する内科治療の進歩と展望. 炎症性腸疾患 (第2版) -病因解明と診断・治療の最新知見- 日本臨床76巻増刊3. 東京, 日本臨床社, 2018. p.27-32.
- 久松理一 (分担執筆): III章 消化管疾患 C.腸19.腸管Behcet 病, 非特異性多発性小腸潰瘍症. 消化器疾患の最新の治療 2019-2020. 小池和彦, 山本博徳, 瀬戸泰之編集. 東京, 南江堂, 2018. p.271-275.
- 川村直弘 (分担執筆): 第4章 5. 肝硬変のマネージメント. レジデントノート増刊Vol.20, No.14 研修医に求められる消化器診療のエッセンス. 矢島知治編. 東京, 羊土社, 2018. p.182-191.
- 土岐真朗, 矢島知治, 久松理一 (分担執筆): 第2章6.循環器疾患と呼吸器疾患 (腹部大動脈瘤・虚血性心疾患・肺炎・胸膜炎), レジデントノート増刊Vol.20, No.14 研修医に求められる消化器診療のエッセンス. 矢島知治編. 東京, 羊土社, 2018. p.97-101.
- 大野亜希子 (分担執筆): ナイス! な介助のために 一止血クリップの向き-, 教科書では教えてくれない! 私の消化器内視鏡Tips. 小野敏嗣編. 東京, 医学書院, 2018. p.22.
- 土岐真朗 (分担執筆): 「染色ムラ」の少ない食道ルゴール撒布法, 教科書では教えてくれない! 私の消化器内視鏡Tips. 小野敏嗣編. 東京, 医学書院, 2018. p.22.
- 大野亜希子, 久松理一 (分担執筆): 大腸がん死亡を減らすために~内視鏡医の立場から~ To reduce colon cancer death ~ From the perspective of endoscopist ~. NewsLetter No.98. 編集長 小林正伸. 北海道, Japanese Association for Cancer Prevention 一般社団法人日本がん予防学会, 2018. p.6-7.
- 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 603. 東京, 日経BP, 2018. p.81-82.
- 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編 第13回 限局性の壁肥厚では癌の存在を念頭に. Nikkei medical 603. 東京, 日経BP, 2018. p.70-71.
- 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編 第14回 大腸の壁肥厚では腸炎や悪性腫瘍を疑う. Nikkei medical 604. 東京, 日経BP, 2018. p.81-83.
- 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編 第15回 腎の腫瘍様所見では偽腫瘍との鑑別を. Nikkei medical 605. 東京, 日経BP, 2018. p.81-83.
- 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編 第16回 腎実質の異常はエコーレベルで判断. Nikkei medical 606. 東京, 日経BP, 2018. p.79-81.
- 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編 第

17回（最終回）腎血管筋脂肪腫は中心部エコーと比較.  
Nikkei medical 607. 東京, 日経BP, 2018. p.77-80.

14. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 610. 東京, 日経BP, 2018. p.65-66.
15. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 614. 東京, 日経BP, 2019. p.71-72.
16. 森秀明(監修): . 救急患者におけるエコー検査～心エコー&腹部エコー～. 山田博胤, 吉田尚康著. 東京, アスリード株式会社, 2019.

#### その他(座長等)

1. 土岐真朗: 司会. 第1部・悪性胆道狭窄(肝門部を除く)に対する術前ドレナージについて, 第2回多摩地区胆膵疾患連携カンファレンス, 東京, 2018年4月26日.
2. 久松理一: 口演69大腸-IBD. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2018年5月10-12日.
3. 森秀明: シンポジウム領域横断1超音波で全身を見る. 日本超音波医学会第91回学術集会, 神戸, 2018年6月8日.
4. 森秀明: びまん性肝疾患. 日本超音波医学会第91回学術集会, 神戸, 2018年6月10日.
5. 久松理一: ランチョンセミナー4潰瘍性大腸炎の治療～基本薬を中心に～. 第106回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2018年6月16-17日.
6. Hisamatsu T: Educational Workshop From MDT to treatment. The 6th Annual meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, China, June 21-23, 2018.
7. 渡邊俊介: 専門医IV(肝) 18-21. 日本消化器病学会関東支部例会第351回例会, 東京, 2018年9月22日.
8. 土岐真朗: 研修医セッション46-77評価者. 日本消化器病学会関東支部例会第351回例会, 東京, 2018年9月22日.
9. 久松理一: 一般演題1. 第56回日本小腸学会学術集会, 東京, 2018年10月27日.
10. 森秀明: 新人賞候補者口演. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第30回学術集会, 東京, 2018年10月27日.
11. 森秀明: 特別企画・消化器イメージリーディング: イメージリーディングセッション-この症例をどう撮るか, どう読むか?-2018. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第30回学術集会, 東京, 2018年10月28日.
12. 久松理一: ブラックファーストセミナー9. JDDW 2018, 神戸, 2018年11月1-4日.
13. Hisamatsu T: International Session (Symposium) 1: Recent Progress in IBD Research. JDDW 2018, 神戸, 2018年11月1-4日.
14. 久松理一: シンポジウム4生物学的免疫治療のタイミングと使い分け: 各領域の相違点から学ぶ. 第46回日本臨床免疫学会総会, 軽井沢, 2018年11月8-10日.
15. 久松理一: エキスパートと学ぶ若手のための症例検討. 第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 京都, 2018年11月22日.
16. 久松理一: コーヒーブレイクセミナー. 第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 京都, 2018年11月22日.
17. 久松理一: 炎症性腸疾患の治療薬. 日本炎症性腸疾患学会教育セミナー, 京都, 2018年11月23日.
18. 久松理一: 多摩炎症性腸疾患研究会, 2018年11月30日.
19. Hisamatsu T: JS-7 Bio-Medicine for Gastrointestinal Diseases. Tokyo-Moscow International Medical Forum 2018, Tokyo, Nov. 23-25, 2018.
20. 久松理一: イブニングセミナー免疫学の観点から抗TNF製剤の位置付けを考える. 第55回日本消化器免疫学会総会, 福岡, 2018年12月8日.
21. 久松理一: 免疫学の観点から抗TNF製剤の位置付けを考える. 低亜鉛血症Web講演会, 2018年12月12日.

22. 久松理一: Biologics Best Use on UC, 東京, 2018年12月15日.
23. 土岐真朗: 一般演題 その他1 O24-1-4. 第15回日本消化器学会総会学術集会, 佐賀, 2019年2月2日.
24. 森秀明: 総合診療セミナー3腹部. 第38回日本画像医学学会, 東京, 2019年3月8日.
25. 土岐真朗: 座談会討論者. 第2回胆膵治療に関する座談会, 東京, 2019年1月26日.
26. 大野亜希子: 多摩地区ESDハンズオンセミナー主催, 八王子, 2019年3月23日.

#### 第三内科学教室 (糖尿病・内分泌・代謝内科)

#### 口演

1. 石飛美紀, 保坂利男, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 石田均: 糖尿病患者における血清乳酸値増加の意義-インスリン抵抗性非侵襲代謝マーカーとしての可能性. 第115回日本内科学会総会, 京都, 2018年4月13-15日.
2. 保坂利男: DPP4阻害薬の最適な使用を再考する. 明日からの糖尿病治療を考える懇話会, 仙台, 2018年4月22日.
3. 保坂利男: 糖尿病を巡る冒険. 糖尿病学術講演会, 東京, 2018年4月24日.
4. 津村哲郎, 近藤琢磨, 樂得隆之, 嶋崎枝理, 七条裕孝, 鶴久大介, 近藤健, 石本麻衣, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 石田均: 診断までに10年以上を要したミトコンドリア糖尿病(MIDD)の2例. 第91回日本内分泌学会学術総会, 宮崎, 2018年4月26-28日.
5. 澤井梓, 炭谷由計, 佐々木有紀, 近藤健, 石本麻衣, 小沼裕寿, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 千葉宏宏, 菅間博, 平野浩一, 石田均: 副甲状腺癌と過形成が同時に併発したと考えられた稀な一例. 第91回日本内分泌学会学術総会, 宮崎, 2018年4月26-28日.
6. 高橋和人, 北原敦子, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 2型糖尿病における骨代謝異常進展に関与する機序の解明, ならびにそれに対する温熱処理の影響の検討. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
7. 竹脇史絵, 保坂利男, 金城真美, 石飛美紀, 石本麻衣, 近藤健, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 奴田原紀久雄, 石田均: 糖尿病患者における下部尿路機能障害とその背景との関連についての実態調査. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
8. 村嶋俊隆, 近藤琢磨, 北原敦子, 森田奈瑠, 近藤健, 石本麻衣, 小沼裕寿, 炭谷由計, 高橋和人, 田中利明, 保坂利男, 石田均: 膵β細胞への糖質コルチコイドの慢性大量投与が及ぼす核外でのnon-genomic effectとその病態生理学意義について. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
9. 近藤琢磨, 吉田敦行, 盛田路子, 近藤弘子, 石田均: インスリンデグルデグからインスリンデグ/インスリンアスパルト配合注1日1回投与への変更による効果の検討. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
10. 鈴木絹世, 中村未生, 小林庸子, 近藤琢磨, 保坂利男, 近藤由理香, 森田知子, 田中啓, 吉田美佳子, 塚田美裕, 小田浩之, 塚田芳枝, 石田均: 当院での糖代謝異常妊産婦に対する分割食の導入とその臨床効果について(第一報). 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
11. 石本麻衣, 炭谷由計, 勝又明彦, 野中麻衣, 山崎幸, 樂得隆之, 嶋崎枝理, 津村哲郎, 澤井梓, 七条裕孝, 鶴久大介, 竹脇史絵, 佐々木有紀, 永瀬惟, 箕輪久美, 近藤健, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 2型糖尿病患者における睡眠

- の実態とその病態解明に関する検討〜アディポサイトカインと睡眠との関連性について〜. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
12. 森田奈瑠, 保坂利男, 北原敦子, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 石田均: 肥大化3T3-L1脂肪細胞でのパルミチン酸誘導炎症性サイトカイン発現に対するAMPKの影響とその細胞内機構の検討. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
  13. 今野里美, 下田ゆかり, 高橋久子, 山田光洋, 小林庸子, 鈴木絹世, 塚田芳枝, 鈴木光一, 児玉優太, 炭谷由計, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 糖尿病療養指導チームによる災害対策ワーキング活動〜外来糖尿病教室「災害に備える」開催〜. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
  14. 志原伸幸, 山田祐一郎, 石田均, 貴岡正史, 佐藤謙, 清野進, 寺内康夫, 矢部大介, 清野裕: トホグリフロジンの安全性および有効性に関する大規模調査研究—AYUMI—中間解析(第1報). 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
  15. 石飛実紀, 保坂利男, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 高橋和人, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 石田均: 糖尿病患者における血清乳酸値増加の意義—インスリン抵抗性非侵襲代謝マーカーとしての可能性. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
  16. 北原敦子, 高橋和人, 村嶋俊隆, 森田奈瑠, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 近藤琢磨, 石田均: 膵β細胞障害下におけるアスタキサンチン作用の解析とこれに関連するオートファジー機構の意義の検討. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
  17. 児玉優太, 炭谷由計, 田中耕史, 水石裕, 廣瀬道宣, 須崎由香, 石飛実紀, 横山敏彦, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病症例の心理的負担度の変化に影響する因子の検討. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
  18. 田中耕史, 炭谷由計, 児玉優太, 廣瀬道宣, 須崎由香, 石飛実紀, 横山敏彦, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病症例における変時性不全の存在とその臨床的背景の検討. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
  19. 小林庸子, 保坂利男, 近藤琢磨, 五林可織, 高橋和人, 炭谷由計, 田中利明, 今野里美, 高橋久子, 下田ゆかり, 鈴木絹世, 鈴木光一, 田中耕史, 石田均: 糖尿病透析予防指導管理指導5年間の継続における持続的効果の検討. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
  20. 澤井梓, 炭谷由計, 勝又明彦, 野中麻衣, 山崎幸, 樂得隆之, 嶋崎枝里, 津村哲郎, 七条裕孝, 鶴久大介, 竹脇史絵, 佐々木有紀, 永瀬惟, 箕輪久美, 石本麻衣, 近藤健, 小沼裕寿, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: NAFLD合併2型糖尿病およびFib4 index高値患者の臨床的特徴と合併症との関連性についての検討. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
  21. 近藤琢磨: 歴史から学ぶ! 糖尿病治療のこれから. 千代田糖尿病セミナー, 東京, 2018年5月31日.
  22. 近藤琢磨: 基礎から学ぶ, 妊娠時の糖代謝異常①. 第1回薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会, 国分寺, 2018年6月1日.
  23. 石田均: 健康寿命を保つための炭水化物の意義について. 第7回CST研究会, 武蔵野, 2018年6月2日.
  24. 保坂利男: GLP-1アナログ使用マニュアル-トルリシティ注アテオスの適した患者像とは?. Incretin seminar in 小平, 小平, 2018年6月5日.
  25. 石田均: 日本人の健康寿命を保つために〜食事のなかの炭水化物の科学的意義〜. Expert Diabetes Meeting in 久留米, 久留米, 2018年6月8日.
  26. 近藤琢磨: 大人の1型糖尿病診療を考える. 第2回1型糖尿病治療を考える勉強会, 武蔵野, 2018年6月8日.
  27. 北原敦子: 症例から糖尿病を学ぼう. 川村女子学園大学講演会, 千葉, 2018年6月14日.
  28. 近藤琢磨: DKDを意識した糖尿病診療. 第6回糖尿病とCKD領域における地域医療連携の会, 小平, 2018年6月15日.
  29. 石田均: 糖尿病合併症は糖尿病・合併症あるいは糖尿病合併・症?〜骨代謝異常からの提言と糖尿病学/臨床栄養学への期待〜. 三糖会, 福岡, 2018年6月16日.
  30. 石田均: 日本人の健康寿命を保つために〜食事のなかの炭水化物の意義〜. 川崎市北部エリア糖尿病学術講演会, 川崎, 2018年6月20日.
  31. 保坂利男: 糖尿病腎症進展抑制を見据えた糖尿病治療とは. これからの糖尿病治療を考える会, 所沢, 2018年6月28日.
  32. 北原敦子: 糖質制限 v s カロリー; あなたならどっち?. 東京女子大学講演会, 東京, 2018年6月29日.
  33. 近藤琢磨: 糖代謝異常がもたらす膵β細胞の変化と病態進展のメカニズム. 中村区内内分泌セミナー, 名古屋, 2018年6月29日.
  34. 石田均: 日本人の健康生活をつくる食事の中の炭水化物の意義. 第11回日本生活協同組合連合会指定産地研修会, さいたま, 2018年7月3日.
  35. 石田均: 健康寿命を保つための食事における炭水化物の意義. 東海糖尿病代謝連携懇話会学術講演会, 名古屋, 2018年7月7日.
  36. 近藤琢磨: 診療所ができること, するべきこと〜糖尿病における病診連携の意義と方法を考える〜. Diabetes Solutions Seminar in Tama, 立川, 2018年7月17日.
  37. 保坂利男(web講演): メトフォルミンとDPP4-阻害薬併用の有用性について〜イニシング配合錠への期待〜. 三鷹, 2018年7月18日.
  38. 保坂利男: DPP4阻害薬の最適な使用を再考する. 明日からの糖尿病治療を考える懇話会 in Saitama, さいたま, 2018年7月21日.
  39. 保坂利男: 明日からの糖尿病治療を考える. A new treatment strategy for diabetes, 西東京, 2018年7月27日.
  40. 近藤琢磨: 糖尿病における病診連携の意義とその方法. 第12回中東京臨床糖尿病フォーラム, 武蔵野, 2018年8月22日.
  41. 近藤琢磨: DKDを意識した糖尿病診療の実践. TRF Meeting 2018, 札幌, 2018年8月30日.
  42. 石田均: 食事のなかの炭水化物の意義〜正しいカーボカウントへの流れ〜. 第18回豊田加茂糖尿病研究会, 豊田, 2018年9月1日.
  43. 近藤琢磨: 知って得する! 糖尿病に関するあれこれ. 杏林大学公開講演会, 三鷹, 2018年9月15日.
  44. 保坂利男: 明日からの糖尿病治療を考える. 西北部糖尿病懇話会, 川越, 2018年9月21日.
  45. 石本麻衣, 炭谷由計, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 2型糖尿病患者における睡眠の実態とその病態解明に関する検討. 第39回日本肥満学会, 神戸, 2018年10月7-8日.
  46. 石飛実紀, 保坂利男, 森田奈瑠, 近藤健, 村嶋俊隆, 高橋和人, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 石田均: 糖尿病患者における血清乳酸値増加の意義—インスリン抵抗性非侵襲代謝マーカーとしての可能性. 第39回日本肥満学会, 神戸, 2018年10月7-8日.
  47. 近藤琢磨: 糖尿病治療の実践 —治療効果を高めるための工夫—. 地域の糖尿病診療を考える会 in 武蔵野, 武蔵野, 2018年10月18日.
  48. 竹脇史絵, 保坂利男, 石飛実紀, 石本麻衣, 近藤健, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 金城真美, 福原浩, 石田均: 糖尿病患者における下部尿路機能障害とその背景との関連につ

- いての実態調査. 第33回日本糖尿病合併症学会・第24回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2018年10月19-20日.
49. 石飛実紀, 保坂利男, 森田奈瑠, 近藤健, 村嶋俊隆, 高橋和人, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 石田均: 乳酸の脂肪肝非侵襲マーカーの可能性; 糖尿病患者において空腹時乳酸値と肝脂肪化マーカーとが関連する. 第33回日本糖尿病合併症学会・第24回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2018年10月19-20日.
  50. 近藤琢磨: 薬物療法における「一期一会」. 第6回糖尿病三位一体セミナー, 武蔵野, 2018年10月25日.
  51. 近藤琢磨: 高齢者糖尿病治療を考える～個別化治療の必要性～. 北多摩北部循環器フォーラム, 東村山, 2018年10月30日.
  52. 勝又明彦, 近藤琢磨, 鶴久大介, 恩田智子, 山崎宰, 石本麻衣, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 石田均: 救急外来でDKAと鑑別が困難であったAKAの一例. 第28回臨床内分泌代謝Update, 福岡, 2018年11月2-3日.
  53. 石田均: 日本人の健康寿命を保つための食事とは?～皮膚科領域との関連も含めて～. Dermatology Diabetes Forum, 東京, 2018年11月8日.
  54. 近藤琢磨: 糖尿病治療の実践 —治療効果を高めるための工夫—. 地域の糖尿病診療を考える会 in 三鷹, 三鷹, 2018年11月8日.
  55. 近藤琢磨: フリースタイルリブレの使用経験. 西東京CSII普及啓発プロジェクト第15回研修会, 立川, 2018年11月20日.
  56. 近藤琢磨: 基礎から学ぶ, 妊娠時の糖代謝異常②. 第2回薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会, 国分寺, 2018年11月21日.
  57. 近藤琢磨: DPP-4阻害薬の立場から. Diabetes Treatment Seminar in Chofu, 調布, 2018年11月27日.
  58. 近藤琢磨: 糖尿病治療の実践 —治療効果を高めるための工夫—. 地域の糖尿病診療を考える会 in 小金井, 小金井, 2018年12月6日.
  59. 石田均: 糖尿病における骨代謝異常の病態からの新たな提言. 第4回食事を通して糖尿病治療を考える会, 京都, 2018年12月7日.
  60. 近藤琢磨: 症例検討. 北多摩北部医療圏糖尿病ネットワーク医療介護従事者向け研修会, 東村山, 2018年12月8日.
  61. 石田均: 食事のなかの炭水化物の意義を科学的に考える. 第2回静岡糖尿病学術カンファレンス, 静岡, 2018年12月13日.
  62. 近藤琢磨: メトホルミンの有用性と効果的な使用方法. 美波セミナー2019, 三鷹, 2019年1月10日.
  63. 北原敦子, 高橋和人, 森田奈瑠, 近藤健, 石飛実紀, 村嶋俊隆, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: アシル化グレリンは脂肪細胞を介してインスリン抵抗性を誘導する. 第22回病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2019年1月11-13日.
  64. 鈴木絹世, 小田浩之, 塚田芳枝, 石田均: 血糖コントロールのために入院した患者に対する栄養士の介入状況. 第22回病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2019年1月11-13日.
  65. 石田均: 食事のなかの炭水化物の意義を科学的に考える. 第226回東京通信病院 学術講演会, 東京, 2019年1月17日.
  66. 近藤琢磨: 糖尿病治療～内服薬と注射薬の使い分け. 第19回花小金井診々連携懇話会, 三鷹, 2019年1月22日.
  67. 恩田智子, 竹脇史絵, 近藤琢磨, 鶴久大介, 佐々木有紀, 永瀬惟, 箕輪久美, 石本麻衣, 炭谷由計, 田中利明, 石田均: 急性期に一過性の高度脂肪肝をきたした劇症1型糖尿病の二例. 第56回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2019年1月26日.
  68. 島政典, 東海俊史, 田中直見, 三橋順子, 村嶋俊隆, 田中利明, 石田均: 75歳以上の高齢者当院糖尿病外来通院患者のロコモティブシンドロームの実態(2) 第56回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2019年1月26日.
  69. 久場起志, 澤井梓, 山崎宰, 樂得隆之, 佐々木有紀, 箕輪久美, 永井健太郎, 中島昌典, 炭谷由計, 近藤琢磨, 石田均: 副鼻腔炎の既往がありステロイド治療を契機に眼窩先端症候群に至った2型糖尿病の一例. 第56回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2019年1月26日.
  70. 野中麻衣, 箕輪久美, 炭谷由計, 津村哲郎, 澤井梓, 三ツ間智也, 中里陽子, 千葉知宏, 菅間博, 平野浩一, 石田均: 上気道感染後に頸部リンパ節炎を経て感染性大動脈瘤切迫破裂を呈した2型糖尿病の一例. 第56回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2019年1月26日.
  71. 近藤琢磨: 糖尿病治療における薬物療法update～配合錠の使い方も含めて～. Meet the Expert for Patient, 三鷹, 2019年2月25日.
  72. 石田均: オーバービュー「正しいカーボカウントへの道」. 第53回糖尿病学の進歩, 青森, 2019年3月1-2日.
  73. 近藤琢磨: 今のうちに聞いておこう! 2型糖尿病の薬物療法について. 2<sup>nd</sup> DM Link Meeting, 三鷹, 2019年3月8日.
  74. 近藤琢磨: 2型糖尿病の薬物療法～配合錠の効果的な使い方も含めて～. 糖尿病webセミナー in 多摩, 多摩, 2019年3月26日.

## 論文

1. Ito S<sup>1</sup>, Hosaka T, Yano W<sup>1</sup>, Itou T<sup>1</sup>, Yasumura M<sup>1</sup>, Shimizu Y<sup>1</sup>, Kobayashi H<sup>1</sup>, Nakagawa T<sup>1</sup>, Inoue K<sup>1</sup>, Tanabe S<sup>1</sup>, Kondo T and Ishida H (1<sup>1</sup>Tokyo New Drug Research Laboratories, Kowa Company, LTD): Effects of tofogliflozin are efficiently enhanced with appropriate dietary carbohydrate ratio and are distinct from carbohydrate restriction. *Physiol Rep* 6(5): e13642, 2018.
2. Morita N, Hosaka T, Kitahara A, Murashima T, Onuma H, Sumitani Y, Takahashi K, Tanaka T, Kondo T and Ishida H: Novel mechanisms modulating palmitate-induced inflammatory factors in hypertrophied 3T3-L1 adipocytes by AMPK. *J Diab Res ID* 9256482, 11 pages, 2018.
3. Oikawa Y<sup>1</sup>, Kondo T, Shimada A<sup>1</sup>, Seinoand Y<sup>2</sup> and Kitaoka M<sup>3</sup> (1<sup>1</sup> Saitama Medical University, 2<sup>2</sup> Center for Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Kansai Electric Power Hospital and Kansai Electric Power Medical Research Institute, 3<sup>3</sup>Endocrinology and Metabolism Center, IMS Miyoshi General Hospital): Actual condition survey regarding mismatch of measurements between radioimmunoassay and enzyme-linked immunosorbent assay tests for anti-glutamic acid decarboxylase antibody in real-world clinical practice. *J Diabetes Investig*, e12955, 2018 [Epub ahead of print]
4. Ishitobi M, Hosaka T, Morita N, Kondo K, Murashima T, Kitahara A, Takahashi K, Sumitani Y, Tanaka T, Yokoyama T<sup>1</sup>, Kondo T and Ishida H (1<sup>1</sup>Nihon Wellness Chikuhoku High School): The levels of serum lactate are associated with the serum levels of ALT or total bilirubin in patients with type 2 diabetes. *Diabetes Res Clin Pract* 149: 1-8, 2019.
5. 金城真美, 竹脇史絵, 石飛実紀, 保坂利男, 石田均, 奴田原紀久男: 合同シンポジウム3[診療科チーム]少子高齢化を迎える社会を見据えた糖尿病合併症対策. JS3-5 糖尿病と下部尿路症状. *糖尿病合併症*32(1):70-73,2018.
6. 石田均: 「食品交換表」に準拠したカーボカウント—その方法と適切な糖質調整食の継続への道—. *DM Ensemble* 6(No.4):47-51, 2018.
7. 保坂利男: 健康補助食品と糖尿病. *ブラックティス* 35(4):426-428,2018.
8. 保坂利男: 微量元素と糖尿病. *ブラックティス* 35(5):553-555, 2018.

9. 近藤琢磨: 「診療所」から見た「病院」-連携の意義と方法を考える-. 糖尿病合併症32巻: 90-93, 2018.
10. 保坂利男, 石田均: そもそも「エネルギー」とは何のこと?、食べたものはすべてエネルギーになるの?. 糖尿病ケア15(9):770-771, 2019.
11. 保坂利男, 石田均: 炭水化物はすべてエネルギーになるの?どのように消費されてエネルギーになるの?. 糖尿病ケア15(9):772-773, 2019.
12. 保坂利男: 病態や合併症に応じた糖尿病治療薬の選択. 4章7肥満のある場合 jmed 57 あなたも名医! スキルアップを目指す糖尿病治療薬: 137-141, 2019.

## 著書

1. 石田均, 小田嶋晋, 菅野丈夫, 西村一弘, 細井孝之, 前田知絵, 吉村喜志夫, 吉村弘(執筆・取材協力): 栄養士・管理栄養士のためのなぜ? どうして? ③人体の構造と機能/臨床栄養学②第2版. 東京, メディックメディア, 2018.
2. 近藤琢磨: 2型糖尿病①. 内科122巻. 南江堂, 東京, 2018.p.626-628.
3. 近藤琢磨: 周術期の注射薬の使い方. 診断と治療107巻. 診断と治療社, 東京, 2019.p.281-285.
4. 近藤琢磨: 糖尿病治療薬により生じた低血糖. 内科123巻. 南江堂, 東京, 2019.p.987-988.

## その他

1. 石田均(巻頭言): チームで結ぶ輪と和. 糖尿病合併症32(1):5-6, 2018.
2. 石田均(司会のことば): 合併症学会シンポジウム4[臓器チーム](会長企画) 内科学的側面からの糖尿病の骨病変へのアプローチ. 糖尿病合併症32(2):232-233, 2018.

## 腫瘍内科学教室

## 講演

1. 古瀬純司: 膵・消化管神経内分泌腫瘍の薬物療法-多様な治療をどう使い分ける?. 膵・消化管神経内分泌腫瘍を考える, 新潟, 2018年4月12日.
2. Furuse J: Adjuvant therapy experience-including S-1. Pancreas 2018, USA, April 26th-28th, 2018.
3. 古瀬純司: 肝細胞がんの化学療法-新時代への展望. LENVIMA-HCC 適応追加記念講演会, 長崎, 2018年5月16日.
4. 古瀬純司: 消化器がんにおけるPrecision Medicine.GI-SCREENと多摩地区の現状と今後. 第6回KDOG meeting, 町田, 2018年5月19日.
5. 古瀬純司: 神経内分泌腫瘍に対する薬物療法-最新の情報と今後の展望. 第10回Tohoku-NET WORK, 仙台, 2018年5月26日.
6. Okano N, Kawai K, Kobayashi T, Nagashima F, Endou H, Furuse J: First-in-human phase I study of JPH203, L-type amino acids transporter 1 inhibitor, in patients with advanced solid tumors. ASCO 2018 annual meeting, USA, June 1st-6th, 2018.
7. Tsuji Y, Shitara K, Yamanaka T, Denda T, Shinozaki K, Komatsu Y, Kobayashi Y, Furuse J, Okuda H, Asayama M, Akiyoshi K, Kagawa Y, Kato T, Oki E, Ando T, Hagiwara Y, Ohashi A, Yoshino T: REVERCE: Randomized phase II study of regorafenib followed by cetuximab versus the reverse sequence for metastatic colorectal cancer patients previously treated with fluoropyrimidine, oxaliplatin, and irinotecan—Biomarker analysis. ASCO 2018 annual meeting, USA, June 1st-6th, 2018.

8. Ueno M, Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Katayama H, Ikeda M, Ozaka M, Sugimori K, Fukutomi A, Hara H, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Yukisawa S, Ishii H, Furuse J: Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 combination therapy versus gemcitabine plus cisplatin combination therapy in advanced biliary tract cancer: A Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1113, FUGA-BT). ASCO 2018 annual meeting, USA, June 1st-6th, 2018.
9. Kudo M, Ueshima K, Torimura T, Tanabe N, Ikeda M, Aikata H, Izumi N, Yamasaki T, Nojiri S, Hino K, Tsumura H, Isoda N, Yasui K, Kuzuya T, Okusaka T, Furuse J, Kokudo N, Okita K, Yoshimura K, Arai Y, TACTICS Trial Group: Randomized, open label, multicenter, phase II trial of transcatheter arterial chemoembolization (TACE) therapy in combination with sorafenib as compared with TACE alone in patients with hepatocellular carcinoma: TACTICS trial. ASCO 2018 annual meeting, USA, June 1st-6th, 2018.
10. Abou-Alfa GK, Chan SL, Furuse J, Galle PR, Kelley RK, Qin S, Armstrong J, Darilay A, Vlahovic G, Negro A, Sangro B: A randomized, multicenter phase 3 study of durvalumab (D) and tremelimumab (T) as first-line treatment in patients with unresectable hepatocellular carcinoma (HCC): HIMALAYA study. ASCO 2018 annual meeting, USA, June 1st-6th, 2018.
11. Okano N, Kawai K, Kobayashi T, Nagashima F, Endou H, Furuse J: First-in-human phase I study of JPH203, L-type amino acids transporter 1 inhibitor, in patients with advanced solid tumors. ASCO 2018 annual meeting, USA, June 1st-6th, 2018.
12. 古瀬純司, 奥坂拓志, 小西大: 胆道癌診療ガイドライン公聴会. 化学療法. 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018年6月7-9日.
13. 古瀬純司: 肝細胞癌の分子標的治療: ソラフェニブ単独から多様な治療選択へ. 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018年6月7-9日.
14. Furuse J: The 2nd line chemotherapy in Japan and future perspectives. The 11<sup>th</sup> International Pancreatic Cancer Conference, Commemorative Lecture of Pin-Wen Lin and 2018 Cancer Biology Symposium, Taiwan, June 8th-10th, 2018.
15. Furuse J: The experience of FOLFIRINOX in advanced pancreatic cancer. Japanese experience. Satellite Symposium in the 11<sup>th</sup> International Pancreatic Cancer Conference, Taiwan, June 8th-10th, 2018.
16. 古瀬純司: 特別講演. 肝細胞がんの薬物療法-新時代への展望. LENVIMA-HCC AE Management Forum in Dokkyo, 栃木, 2018年6月13日.
17. 長島文夫: 高齢者のがん患者を診療するにあたっての考え方. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月16日.
18. 古瀬純司: 特別講演. 肝細胞がんの薬物療法-新時代への展望. Lenvatinib適応追加記念講演会, 金沢, 2018年6月21日.
19. 岡部直太, 小林敬明, 千葉知宏, 大窪泰弘, 古瀬純司, 草間博: 食道悪性黒色腫に対するnivolumab治療中にリンパ球性下垂体炎を来した剖検症例の一例. 第107回日本病理学会総会, 札幌, 2018年6月21-23日.
20. 長島文夫: 高齢者に抗がん剤は効果なし? は本当なのか?. 日本臨床腫瘍学会市民公開講座, 大阪, 2018年6月24日.
21. 古瀬純司: 切除不能膵癌における治療方針-conversion surgeryの是非-. 第49回日本膵臓学会, 和歌山, 2018年6月29日.

22. 岡野尚弘, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司: 遠隔転移を有する膵癌における化学療法によるconversion surgery. 切除不能膵癌における治療方針—conversion surgeryの是非—. 第49回日本膵臓学会, 和歌山, 2018年6月29日.
23. 古瀬純司: 切除不能膵癌に対する化学療法-ガイドラインにおける課題. 特別企画2膵癌ガイドラインの諸問題と今後の課題. 第49回日本膵臓学会, 和歌山, 2018年6月29日.
24. 西岡真理子, 岡野尚弘, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司: FOLFIRINOXとGEM耐性後、GEM+na-PTX療法が奏効した肝転移を伴う膵癌の1例. 第49回日本膵臓学会, 和歌山, 2018年6月29日.
25. 前園知宏, 岡野尚弘, 西岡真理子, 河合桐男, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司: GEM+nab-PTX 不応後に modified FOLFIRINOXが著効したBRCA1遺伝子変異を有した切除不能膵癌の1例. 第49回日本膵臓学会, 和歌山, 2018年6月29日.
26. 山内芳也, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司: 切除不能・再発膵腺扁平上皮癌に対する併用薬物療法施行例の検討. 第49回日本膵臓学会, 和歌山, 2018年6月29日.
27. 古瀬純司: 特別講演.肝細胞がんの薬物療法—新時代への展望.鹿児島LENVIMA-HCC適応追加記念講演会, 鹿児島, 2018年7月4日.
28. Furuse J, Chan SL, Sangro B, Galle PR, Kelley RK, Qin S, Armstrong J, Darilay A, Vlahovic G, Xu Y, Negro A, Abou-Alfa GK, on behalf of the HIMALAYA investigators: HIMALAYA study: a randomized, multicenter phase 3 study of durvalumab (D) and tremelimumab (T) as first-line treatment in patients with unresectable hepatocellular carcinoma (HCC). the 9th Asia-Pacific Primary Liver Cancer Expert Meeting (APPLE 2018), Korea, July 6th-8th, 2018.
29. Furuse J, Hamauchi S, Takano T, Munemoto Y, Furuya K, Baba H, Takeuchi M, Choda Y, Higashiguchi T, Naito T, Muro K, Takayama K, Tamura K: A multicenter, open-label, uncontrolled study of ONO-7643/anamorelin in cachexia patients with gastrointestinal cancer. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018年7月19-21日.
30. 山内理海, 設楽紘平, 山中竹春, 傳田忠道, 辻靖, 小松嘉人, 小林良充, 古瀬純司, 加藤健志, 沖英次, 安藤高志, 萩原康博, 大橋靖雄, 吉野孝之: REVERCE: Randomized Phase II Study of Regorafenib Followed by Cetuximab Versus the Reverse Sequence for Metastatic Colorectal Cancer Patients Previously Treated with Fluoropyrimidine, Oxaliplatin, and Irinotecan: Quality of Life Analysis. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018年7月19-21日.
31. 奥坂拓志, 池田公史, 大野泉, 高橋秀明, 近藤俊輔, 森実千種, 古瀬純司: 肝細胞がん患者を対象としたGPC3, WDRPUH及びNEIL3由来ペプチドワクチンの第1相試験における最終解析. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018年7月19-21日.
32. 小山隆文, 清水俊雄, 藤原豊, 近藤俊輔, 北野滋久, 米盛勲, 下村昭彦, 飯泉桜, 佐々木達也, 古瀬純司, 山本昇: 新規FGFR選択的阻害薬E7090の進行固形癌患者を対象とした第1相臨床試験. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018年7月19-21日.
33. 工藤敏啓, 川本泰之, 奥坂拓志, 高橋秀明, 小林智, 古瀬純司, 伊藤心二, 清水怜, 中村和貴, 鎌田研, 衣斐寛倫, 伊藤直樹, 水野伸匡, 石井浩, 森実千種, 吉野孝之: The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan SCRUM-Japan GI-SCREEN (GI-SCREEN 2015-01-Non CRC) Advanced Biliary Tract Cancer Cohort. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018年7月19-21日.
34. 長島文夫, 古瀬純司: JSMO-SIOG symposium All oncologists are geriatric oncologists Geriatric Oncology in Japan. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018年7月19-21日.
35. 清水怜, 高橋秀明, 上野誠, 大場彬博, 村中徹人, 須藤研太郎, 岡野尚弘, 水上拓郎, 伊藤心二, 石井浩, 賀川義規, 鎌田研, 工藤敏啓, 森実千種, 吉野孝之: The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan, SCRUM-Japan GI-SCREEN: Advanced Pancreatic Cancer Cohort. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018年7月19-21日.
36. 山内芳也, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 岡野尚弘, 成毛大輔, 北村浩, 女屋博昭, 長島文夫, 古瀬純司: 高齢者膵がんにおけるCTを利用した筋肉の評価と薬物療法の臨床的アウトカムに関する研究. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018年7月19-21日.
37. 古瀬純司: 膵がんの基礎知識と治療の最新情報. ONCOLO Meets Cancer Experts eminar, 東京, 2018年7月27日.
38. 古瀬純司: 消化器癌化学療法の最新情報. ASCO 2018より. 三鷹キャンサーネット, 三鷹, 2018年8月2日.
39. 古瀬純司: 膵・消化管神経内分泌腫瘍の新たな展開—診断から治療まで. 膵・消化管神経内分泌腫瘍セミナー, 宮崎, 2018年8月3日.
40. 古瀬純司: 肝細胞がんの薬物療法—新時代への展望. 滋賀LENVIMA適正使用講演会, 草津, 2018年8月30日.
41. 北村浩, 長島文夫, 岡野尚弘, 中澤潤一, 有馬志穂, 古瀬純司: Gemcitabine baseの化学療法を行った高齢者膵がんにおける有害事象と高齢者機能評価について. 第3回日本がんサポーターケア学会, 福岡, 2018年8月31日.
42. 前野聡子, 長島文夫, 河合桐男, 前園知宏, 黒澤貴志, 小林敬明, 岡野尚弘, 北村浩, 有馬志穂, 古瀬純司: 海外高齢者がん診療ガイドライン活用の工夫 — 認知症をもつがん患者の実地症例から—. 第3回日本がんサポーターケア学会, 福岡, 2018年8月31日.
43. Sangro B, Chan SL, Furuse J, Galle PR, Kelley RK, Qin S, Armstrong J, Darilay A, Vlahovic G, Xu Y, Negro A, Abou-Alfa G: A Randomized, Multicenter Phase 3 Study of Durvalumab (D) and Tremelimumab (T) as First-line Treatment in Patients With Unresectable Hepatocellular Carcinoma (HCC): HIMALAYA Study. ILCA Annual Conference, UK, September 14th-16th, 2018.
44. Ueshima K, Kudo M, Ikeda M, Torimura T, Tanabe N, Aikata H, Izumi N, Yamasaki T, Nojiri S, Hino K, Tsumura H, Kuzuya T, Isoda N, Yasui K, Yoshimura K, Okusaka T, Furuse J, Kokudo N, Okita K, Arai Y and TACTICS study group: Randomized, open label, multicenter, phase II trial of transcatheter arterial chemoembolization (TACE) therapy in combination with sorafenib as compared with TACE alone in patients with hepatocellular carcinoma: TACTICS trial. ILCA Annual Conference, UK, September 14th-16th, 2018.
45. Kobayashi S, Terashima T, Shiba S, Yoshida Y, Yamada I, Iwadou S, Horiguchi S, Takahashi H, Suzuki E, Moriguchi M, Tsuji K, Otsuka T, Asagi A, Kojima Y, Takada R, Ueno M, Morizane C, Mizuno N, Ikeda M, Furuse J: Multicenter retrospective analysis of systemic chemotherapy for unresectable combined hepatocellular and cholangiocarcinoma. ILCA Annual Conference, UK, September 14th-16th, 2018.
46. 古瀬純司, 奥坂拓志, 小西大, 山崎秀哉: 胆道癌診療ガイドライン公聴会. 化学療法、放射線療法. 第54回日本胆道学会学術集会, 千葉, 2018年9月27-28日.

47. Furuse J: Systemic treatment for advanced HCC – Current status and future perspectives. Taiwan Digestive Disease Week 2018. Taiwan, September 29th-30th, 2018.
48. 古瀬純司: 最新のがん治療: ゲノム医療の幕開け. 杏林大学病院がんセンター「がんと共にすこやかに生きる」講演会シリーズ第4回, 三鷹, 2018年10月13日.
49. 古瀬純司, 岡野尚弘, 黒澤貴志: 初診時切除不能膵癌に対するconversion surgery –内科の立場から. 第56回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018年10月18-20日.
50. Furuse J: Cohort study of patients with initially unresectable pancreatic cancer of conversion surgery after FOLFIRINOX or GEM plus nab-PTX (PC-CURE-1). 6th International Conference of FACO. 第56回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018年10月18-20日.
51. Denda T, Shitara K, Yamanaka T, Tsuji Y, Shinozaki K, Komatsu Y, Kobayashi Y, Furuse J, Kato T, Ohashi Y, Yoshino T: REVERCE: A Randomized Phase II of Regorafenib- Cetuximab for mCRC previously treated with chemotherapy: serum protein biomarker analysis. 第56回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018年10月18-20日.
52. Kitamura H, Nagashima F, Andou M, Nakazawa J, Arima S, Okano N, Furuse J: Cancer-Specific Geriatric Assessment(CSGA)を用いた高齢者膵癌化学療法第二相試験. 第56回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018年10月18-20日.
53. Izawa N, Morizane C, Takahashi H, Ueno M, Kawamoto Y, Okano N, Shimizu S, Sudo K, Itoh S, Asagi A, Kagawa Y, Kamata K, Kudo T, Nomura S, Kuwata T, Fujii S, Okamoto W, Shitara K, Ohtsu A, Yoshino T: The nationwide cancer genome screening project in Japan, SCRUM Japan GISCREEN: Efficient identification of cancer genome alterations in advanced biliary tract cancer. ESMO 2018, Germany, October 19th-23rd, 2018.
54. Takahashi H, Morizane C, Nomura S, Okano N, Tsuda M, Mizuno N, Satake K, Tsuji K, Shioji K, Ishii H, Yasui K, Miyakawa H, Ishiguro A, Ogura T, Ueno M, Ikeda A, Terashima T, Ikeda M, Okusaka T, Furuse J: Phase II clinical trial of gemcitabine plus oxaliplatin combination therapy (GEMOX) in patients with advanced pancreatic adenocarcinoma with a family history of pancreatic/breast/ovarian/prostate cancer or personal history of breast/ovarian/prostate cancer (FABRIC study). ESMO 2018, Germany, October 19th-23rd, 2018.
55. Okuyama H, Ikeda M, Okusaka T, Furuse J, Furukawa M, Ohkawa S, Hosokawa A, Kojima Y, Yamaguchi K, Murohisa G, Shioji K, Ishii H, Mizuno N, Kojima M, Yamanaka T: A phase II study of everolimus in patients with unresectable pancreatic neuroendocrine carcinoma refractory or intolerant to platinum-contained chemotherapy. Germany, ESMO 2018, October 19th-23rd, 2018.
56. 長島文夫: 本当!? 「高齢者に抗がん剤は“効果なし?”」. ちゃやまちキャンサーフォーラム2018, 大阪, 2018年10月27日.
57. 古瀬純司: 膵癌治療の最前線—エビデンスとプラクティス. 第16回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2018年11月1-4日.
58. 古瀬純司: 切除不能肝内胆管癌の化学療法—現状と今後の展望. 第16回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2018年11月1-4日.
59. 古瀬純司: 膵癌の化学療法—最新の動向と今後の展望. Osaka GI Oncology Forum, 大阪, 2018年11月16日.
60. 古瀬純司: 膵癌の化学療法—最新の動向と今後の展望. 第15回京都消化器癌化学療法研究会, 京都, 2018年11月22日.
61. Furuse J: Chemotherapy for unresectable pancreatic cancer—Current status and future perspectives. The 8th Japan-China Hepato-Pancreato-Biliary Symposium, Tokyo, November 22nd-23rd, 2018.
62. 古瀬純司: 膵・胆道癌化学療法の最新情報—がんゲノム医療の導入は?. 第17回大阪消化器化学療法懇話会, 大阪, 2018年12月1日.
63. 古瀬純司: 特別講演. 膵癌化学療法の最新の知見. Pancreatic Cancer and Neuroendocrine tumor FORUM in Chiba, 千葉, 2018年12月14日.
64. 古瀬純司: 消化器癌化学療法の最近の話題-ESMO2018 in Munich. 三鷹キャンサーネット, 三鷹, 2018年12月20日.
65. 古瀬純司: 膵がん治療の最前線—新しいガイドラインと今後の期待. パンキャンジャパン膵がん勉強会クリスマス・スペシャル, 東京, 2018年12月22日.
66. Chow PKH, Li L, Li J, Jia F, Wang HJ, Hasegawa K, Yang JM, Tan PS, Qin S, Han KH, Goh B, Han HS, Furuse J, Zhu X, Ling JZJ, Gandhi M: Differences in Presentation and Management Patterns in Patients with Hepatocellular Carcinoma (HCC): Data from HCC Registry in Asia. 2019 Gastrointestinal cancers symposium, USA, January 17th-19th, 2019.
67. Kobayashi S, Ueno M, Ogawa G, Fukutomi A, Ikeda M, Okusaka T, Sato T, Ito Y, Kadota T, Ioka T, Sugimori K, Sata N, Nakamori S, Shimizu K, Mizuno N, Ishii H, Furuse J: Impact of renal function on the efficacy and safety of S-1 with concurrent radiotherapy for locally advanced pancreatic cancer: an integrated exploratory analysis of JCOG1106 and LAPC-S1RT. 2019 Gastrointestinal cancers symposium, USA, January 17th-19th, 2019.
68. Ikeda M, Ueno M, Morizane C, Kobayashi S, Ohno I, Kondo S, Okano N, Kimura K, Asada S, Namba Y, Okusaka T, Furuse J: A multicentre open-label, phase I study of nivolumab alone or in combination with gemcitabine plus cisplatin in patients with unresectable or recurrent biliary tract cancer. 2019 Gastrointestinal cancers symposium, USA, January 17th-19th, 2019.
69. Kudo M, Okusaka T, Motomura K, Ohno I, Morimoto M, Seo S, Wada Y, Sato S, Yamashita T, Furukawa M, Aramaki T, Nadano S, Ohkawa K, Fujii H, Kudo T, Furuse J, Takai H, Homma G, Yoshikawa R, Zhu AX: Ramucirumab as Second-Line Treatment in Patients With Advanced Hepatocellular Carcinoma and Elevated Alpha-Fetoprotein Following First-Line Sorafenib: Pooled Efficacy and Safety in Japanese Patients Across Two Global Randomized Phase 3 Studies (REACH-2 and REACH). 2019 Gastrointestinal cancers symposium, January 17th-19th, 2019.
70. Yamada I, Morizane C, Okusaka T, Ogawa G, Sato Y, Ueno M, Ikeda M, Sugimori K, Fukutomi A, Shimizu S, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Nishina T, Ishii H, Furuse J: The clinical outcomes of combination chemotherapy in elderly patients with advanced biliary tract cancer: An exploratory analysis of JCOG1113. 2019 Gastrointestinal cancers symposium, January 17th-19th, 2019.
71. Ueno M, Morizane C, Okusaka T, Ogawa G, Sato Y, Ikeda M, Ozaka M, Sugimori K, Fukutomi A, Hara H, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Nishina T, Ishii H, Furuse J: The influence of renal function on gemcitabine-based chemotherapy for advanced biliary tract cancer: An exploratory analysis of JCOG1113. 2019 Gastrointestinal cancers symposium, January 17th-19th, 2019.

72. Goyal L, Bahleda R, Furuse J, Valle J, Markus Moehler M, Oh DY, Chang HM, Kelley RK, Javle M, Borad M, Chen LT, Uboha N, Klumpen HJ, O'Dwyer PJ, Li D, Morizane C, Huang J, Bridgewater JA: FOENIX-CCA2 (FOENIX-101): A phase 2 trial of TAS-120 in patients with intrahepatic cholangiocarcinoma harboring FGFR2 gene fusions and other rearrangements. 2019 Gastrointestinal cancers symposium, January 17th-19th, 2019.
73. 長島 文夫：高齢者のがん治療。健康長寿講演会（三鷹市老人クラブ連合会），三鷹，2019年2月5日。
74. 長島 文夫：みんなで支えるがん医療「超高齢社会とがん、杏林CCRC研究所の取り組み」。杏林CCRCフォーラム公開講演会，三鷹，2019年2月23日。
75. 長島 文夫：高齢者のがん。杏林大学講演会シリーズ第7回「がんと共にすこやかに生きる」，三鷹，2019年3月2日。
76. 古瀬純司：消化器がんに対するがんゲノム医療。日本癌治療学会第18回アップデート教育コース，がん治療とゲノム医療，三鷹，2019年3月9日。
77. Furuse J: Consolidating the Treatment Guidelines of Chemotherapy for Cholangiocarcinoma between the East and West. Lecture. 3<sup>rd</sup> Asian-Pacific Cholangiocarcinoma Conference. Taiwan, March 15th-16th, 2019.
78. 長島 文夫：第2回老年腫瘍学セミナー。日本臨床腫瘍学会，東京，2019年3月21日。

## 論文 欧文

1. Kitahara H<sup>1</sup>, Honma Y<sup>1</sup>, Ueno M<sup>2</sup>, Kanemitsu Y<sup>1</sup>, Ohkawa S<sup>2</sup>, Mizusawa J<sup>1</sup>, Furuse J, Shimada Y<sup>3</sup>, Colorectal Cancer Study Group and Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group (1<sup>st</sup>National Cancer Center Hospital, 2<sup>nd</sup>Kanagawa Cancer Center, 3<sup>rd</sup>Kochi Health Sciences Center) : Randomized phase III trial of post-operative chemotherapy for patients with stage I/II/III small bowel adenocarcinoma (JCOG1502C, J-BALLAD). *Jpn J Clin Oncol*, 2018. DOI:10.1093/jcco/hyy188. [Epub ahead of print]
2. Doi T<sup>1</sup>, Yoh K<sup>1</sup>, Shitara K<sup>1</sup>, Takahashi H<sup>1</sup>, Ueno M<sup>2</sup>, Kobayashi S<sup>2</sup>, Morimoto M<sup>2</sup>, Okusaka T<sup>1</sup>, Ueno H<sup>1</sup>, Morizane C<sup>1</sup>, Okano N, Nagashima F, Furuse J (1<sup>st</sup>National Cancer Center Hospital East, 2<sup>nd</sup>Kanagawa Cancer Center) : First-in-human phase 1 study of novel dUTPase inhibitor TAS-114 in combination with S-1 in Japanese patients with advanced solid tumors. *Invest New Drugs*, 2018. DOI: 10.1007/s10637-018-069 7-3. [Epub ahead of print]
3. Shiba S<sup>1</sup>, Imaoka H<sup>2</sup>, Shioji K<sup>3</sup>, Suzuki E<sup>4</sup>, Horiguchi S<sup>5</sup>, Terashima T<sup>6</sup>, Kojima Y<sup>7</sup>, Okuno T<sup>8</sup>, Sukawa Y<sup>9</sup>, Tsuji K<sup>10</sup>, Umemoto K<sup>11</sup>, Asagi A<sup>12</sup>, Todaka A<sup>13</sup>, Ueno M<sup>14</sup>, Ikeda M<sup>11</sup>, Morizane C<sup>1</sup>, Furuse J (1<sup>st</sup>National Cancer Center Hospital, 2<sup>nd</sup>Aichi Cancer Center Hospital, 3<sup>rd</sup>Niigata Cancer Center Hospital, 4<sup>th</sup>Chiba University, 5<sup>th</sup>Okayama University Graduate School of Medicine, 6<sup>th</sup>Kanazawa University Hospital, 7<sup>th</sup>National Center for Global Health and Medicine, 8<sup>th</sup>Kinki University, 9<sup>th</sup>Keio University, 10<sup>th</sup>Teine Keijinkai Hospital, 11<sup>th</sup>National Cancer Center Hospital East, 12<sup>th</sup>Shikoku Cancer Center, 13<sup>th</sup>Shizuoka Cancer Center, 14<sup>th</sup> Kanagawa Cancer Center) : Clinical characteristics of Japanese patients with epithelioid hemangioendothelioma: a multicenter retrospective study. *BMC Cancer* 18(1) : 993,2018.
4. Tak WY<sup>1</sup>, Ryoo BY<sup>2</sup>, Lim HY<sup>3</sup>, Kim DY<sup>4</sup>, Okusaka T<sup>5</sup>, Ikeda M<sup>6</sup>, Hidaka H<sup>7</sup>, Yeon JE<sup>8</sup>, Mizukoshi E<sup>9</sup>, Morimoto M<sup>10</sup>, Lee MA<sup>11</sup>, Yasui K<sup>12</sup>, Kawaguchi Y<sup>13</sup>, Heo J<sup>14</sup>, Morita S<sup>15</sup>, Kim TY<sup>16</sup>, Furuse J, Katayama K<sup>17</sup>, Aramaki T<sup>18</sup>, Hara R<sup>19</sup>, Kimura T<sup>19</sup>, Nakamura O<sup>19</sup>, Kudo M<sup>20</sup>(1<sup>st</sup>Kyungpook National University, 2<sup>nd</sup>University of Ulsan College of Medicine, 3<sup>rd</sup>Sungkyunkwan University, 4<sup>th</sup>Yonsei University College of Medicine, 5<sup>th</sup>National Cancer Center Hospital, 6<sup>th</sup>National Cancer Center Hospital East, 7<sup>th</sup>Kitasato University Hospital, 8<sup>th</sup>Korea University Guro Hospital, 9<sup>th</sup>Kanazawa University Hospital, 10<sup>th</sup>Kanagawa Cancer Center, 11<sup>th</sup>The Catholic University of Korea, 12<sup>th</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, 13<sup>th</sup>Saga-ken Medical Centre Koseikan, 14<sup>th</sup>Pusan National University and Medical Research Institute, 15<sup>th</sup>Kochi Health Sciences Center, 16<sup>th</sup>Seoul National University Hospital, 17<sup>th</sup>Osaka International Cancer Institute, 18<sup>th</sup>Shizuoka Cancer Center, 19<sup>th</sup>Yakult Honsha, 20<sup>th</sup>Kindai University Hospital) : Phase I/II study of first-line combination therapy with sorafenib plus resminostat, an oral HDAC inhibitor, versus sorafenib monotherapy for advanced hepatocellular carcinoma in east Asian patients. *Invest New Drugs* 36(6) : 1072-1084, 2018.
5. Mizusawa J<sup>1</sup>, Fukutomi A<sup>2</sup>, Katayama H<sup>1</sup>, Ishii H<sup>3</sup>, Ioka T<sup>4</sup>, Okusaka T<sup>1</sup>, Ueno H<sup>1</sup>, Ueno M<sup>5</sup>, Ikeda M<sup>6</sup>, Mizuno N<sup>7</sup>, Ozaka M<sup>8</sup>, Fukuda H<sup>1</sup>, Furuse J, Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group (1<sup>st</sup>National Cancer Center Hospital, 2<sup>nd</sup>Shizuoka Cancer Center, Shizuoka, 3<sup>rd</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, 4<sup>th</sup>Osaka International Cancer Institute, 5<sup>th</sup>Kanagawa Cancer Center, 6<sup>th</sup>National Cancer Center Hospital East, 7<sup>th</sup>Aichi Cancer Center Hospital, 8<sup>th</sup>Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research) : Protocol digest of randomized phase II study of modified FOLFIRINOX versus gemcitabine plus nab-paclitaxel combination therapy for locally advanced pancreatic cancer: Japan clinical oncology group study (JCOG1407). *Pancreatology* 18(7) : 841-845,2018.
6. Morizane C<sup>1</sup>, Ueno M<sup>2</sup>, Ikeda M<sup>3</sup>, Okusaka T<sup>2</sup>, Ishii H<sup>4</sup>, Furuse J (1<sup>st</sup>National Cancer Center Hospital, 2<sup>nd</sup>Kanagawa Cancer Center, 3<sup>rd</sup>National Cancer Center Hospital East, 4<sup>th</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center) : New developments in systemic therapy for advanced biliary tract cancer. *Jpn J Clin Oncol* 48(8) : 703-711,2018.
7. Kobayashi S<sup>1</sup>, Terashima T<sup>2</sup>, Shiba S<sup>3</sup>, Yoshida Y<sup>4</sup>, Yamada I<sup>5</sup>, Iwadou S<sup>6</sup>, Horiguchi S<sup>7</sup>, Takahashi H<sup>8</sup>, Suzuki E<sup>9</sup>, Moriguchi M<sup>10</sup>, Tsuji K<sup>11</sup>, Otsuka T<sup>12</sup>, Asagi A<sup>13</sup>, Kojima Y<sup>14</sup>, Takada R<sup>15</sup>, Morizane C<sup>3</sup>, Mizuno N<sup>16</sup>, Ikeda M<sup>8</sup>, Ueno M<sup>1</sup>, Furuse J (1<sup>st</sup>Kanagawa Cancer Center, 2<sup>nd</sup>Kanazawa University Hospital, 3<sup>rd</sup>National Cancer Center Hospital, 4<sup>th</sup> Shizuoka Cancer Center, 5<sup>th</sup>Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, 6<sup>th</sup>Hiroshima City Hospital, 7<sup>th</sup>Okayama University, 8<sup>th</sup>National Cancer Center Hospital East, 9<sup>th</sup>Chiba University, 10<sup>th</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, 11<sup>th</sup>Ishikawa Prefectural Central Hospital, 12<sup>th</sup>Saga University Hospital, 13<sup>th</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, 14<sup>th</sup>National Center for Global Health and Medicine, 15<sup>th</sup>Osaka International Cancer Institute, 16<sup>th</sup>Aichi Cancer Center Hospital) : Multicenter retrospective analysis of systemic chemotherapy for unresectable combined hepatocellular and cholangiocarcinoma. *Cancer Sci* 109(8) : 2549-2557, 2018.
8. Nakachi K<sup>1,2</sup>, Konishi M<sup>1</sup>, Ikeda M<sup>3</sup>, Shimada K<sup>3</sup>, Okusaka T<sup>3</sup>, Saiura A<sup>4</sup>, Ishii H<sup>4</sup>, Sugiyama M<sup>5</sup>, Furuse J, Sakamoto H<sup>5</sup>, Shimamura T<sup>5</sup>, Ohta T<sup>6</sup> (1<sup>st</sup>National Cancer Center Hospital East, 2<sup>nd</sup>Otaru General Hospital, 3<sup>rd</sup>National Cancer Center Hospital, 4<sup>th</sup>Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, 5<sup>th</sup>Saitama Cancer Center, 6<sup>th</sup>Tokyo Women's Medical University) : Feasibility study of postoperative adjuvant chemotherapy with S-1 in patients with biliary tract cancer. *Int J Clin*

- Oncol 23(5) : 894-899,2018.
9. Sato Y<sup>1,2</sup>, Ueno H<sup>3</sup>, Ioka T<sup>4</sup>, Ohkawa S<sup>5</sup>, Ikeda M<sup>6</sup>, Shimamura T<sup>7</sup>, Tsuji A<sup>8</sup>, Tsuchiya Y<sup>9</sup>, Furuse J<sup>10</sup>, Ishii H<sup>11</sup>, Furuya K<sup>12</sup>, Iguchi H<sup>13</sup>, Saito Y<sup>14</sup>, Kaniwa N<sup>14</sup>, Sawada JI<sup>14</sup>, Sakamoto H<sup>1</sup>, Sekine A<sup>2</sup>, Okusaka T<sup>3</sup>, Yoshida T<sup>1</sup>(<sup>1</sup>National Cancer Center Research Institute, <sup>2</sup>Chiba University, <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>4</sup>Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Disease, <sup>5</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>6</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>7</sup>East Medical Clinic, <sup>8</sup>Kagawa University, <sup>9</sup>Niigata Cancer Center Hospital, <sup>10</sup>Kyorin University, <sup>11</sup>Cancer Institute Hospital, <sup>12</sup>Hokkaido Social Insurance Hospital, <sup>13</sup>Sasebo Kyosai Hospital, <sup>14</sup>National Institute of Health Sciences) : GEST. SLCO1B1 Polymorphism Is a Drug Response Predictive Marker for Advanced Pancreatic Cancer Patients Treated With Gemcitabine, S-1, or Gemcitabine Plus S-1. *Pancreas* 47(5):637-642, 2018.
  10. Furuse J, Shibahara J<sup>1</sup>, Sugiyama M<sup>2</sup>(<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin university, <sup>2</sup> Department of Surgery, Kyorin university) : Development of chemotherapy and significance of conversion surgery after chemotherapy in unresectable pancreatic cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 25(5) : 261-268, 2018.
  11. Ozaka M<sup>1</sup>, Ishii H<sup>2</sup>, Sato T<sup>3</sup>, Ueno M<sup>4</sup>, Ikeda M<sup>5</sup>, Uesugi K<sup>6</sup>, Sata N<sup>7</sup>, Miyashita K<sup>8</sup>, Mizuno N<sup>9</sup>, Tsuji K<sup>10</sup>, Okusaka T<sup>10</sup>, Furuse J (<sup>1</sup>Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, <sup>2</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, <sup>3</sup>Kyoto University School of Public Health, <sup>4</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>5</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>6</sup>Jichi Medical University School of Medicine, <sup>7</sup>Showa University Northern Yokohama Hospital, <sup>8</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>9</sup>Ishikawa Prefectural Central Hospital, <sup>10</sup>National Cancer Center Hospital) : A phase II study of modified FOLFIRINOX for chemotherapy-naïve patients with metastatic pancreatic cancer. *Cancer Chemother Pharmacol* 81(6) : 1017-1023, 2018.
  12. Natsume M<sup>1</sup>, Watanabe K<sup>1</sup>, Matsumoto S<sup>2</sup>, Naruge D<sup>3</sup>, Hayashi K<sup>4</sup>, Furuse J, Kawamura M<sup>1</sup>, Jinno H<sup>1</sup>, Sano K<sup>1</sup>, Fukushima R<sup>1</sup>, Osawa G<sup>1</sup>, Aruga E<sup>1</sup>, Hashiguchi Y<sup>1</sup>, Tanaka A<sup>1</sup>, Takikawa H<sup>1</sup>, Seki N<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Teikyo University, <sup>2</sup>NTT Medical Center Tokyo, <sup>3</sup>Kyorin University, <sup>4</sup>Tokyo Women's Medical University) : Factors influencing cancer patients' choice of end-of-life care place. *J Palliat Med* 21(6) : 751-765,2018.
  13. Kojima Y<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>2</sup>, Ohnishi H<sup>2</sup>, Abe N<sup>1</sup>, Furuse J, Watanabe T<sup>2</sup>, Sugiyama M<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Department of Surgery, Kyorin University, <sup>2</sup>Department of Laboratory Medicine, Kyorin University) : APC:T1556fs and STK11 mutations in duodenal adenomas and adenocarcinomas. *Surg Today*48(8) : 765-772, 2018.
  14. Suzuki E<sup>1</sup>, Kaneko S<sup>2</sup> Okusaka T<sup>3</sup>, Ikeda M<sup>4</sup>, Yamaguchi K<sup>5</sup>, Sugimoto R<sup>6</sup>, Aramaki T<sup>7</sup>, Asagi A<sup>8</sup>, Yasui K<sup>9</sup>, Sano K<sup>10</sup>, Hosokawa A<sup>11</sup>, Kato N<sup>1</sup>, Ishii H<sup>8</sup>, Sato T<sup>12</sup>, Furuse J (<sup>1</sup>Chiba University, <sup>2</sup>Kanazawa University School of Medical Science, <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>4</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>5</sup>Saitama Cancer Center, <sup>6</sup>Kyushu Cancer Center, <sup>7</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>8</sup>Shikoku Cancer Center, <sup>9</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>10</sup>Teikyo University School of Medicine, <sup>11</sup>Faculty of Medicine University of Toyama, <sup>12</sup>Kyoto University School of Public Health) : A multicenter Phase II study of sorafenib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma and Child Pugh A and B class. *Jpn J Clin Oncol* 48(4) : 317-321, 2018.
  15. Nakachi K<sup>1</sup>, Konishi M<sup>2</sup>, Ikeda M<sup>2</sup>, Mizusawa J<sup>3</sup>, Eba J<sup>3</sup>, Okusaka T<sup>3</sup>, Ishii H<sup>4</sup>, Fukuda H<sup>3</sup>, Furuse J (<sup>1</sup>Otaru General Hospital, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>4</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center) : Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group. A randomized Phase III trial of adjuvant S-1 therapy vs. observation alone in resected biliary tract cancer: Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG1202, ASCOT). *Jpn J Clin Oncol* 48(4) : 392-395, 2018.
  16. Furuse J, Kurata T<sup>1</sup>, Okano N, Fujisaka Y<sup>1</sup>, Naruge D, Shimizu T<sup>1</sup>, Kitamura H, Iwasa T<sup>1</sup>, Nagashima F, Nakagawa K<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Kindai University) : An early clinical trial of Salirasib, an oral RAS inhibitor, in Japanese patients with relapsed/refractory solid tumors. *Cancer chemotherapy and pharmacology*, 2018.
  17. Sawaki M<sup>1</sup>, Tamura K<sup>2</sup>, Shimomura A<sup>2</sup>, Taki Y<sup>1</sup>, Nagashima F, Iwata H<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital) : Practice management for elderly patients with breast cancer: Findings from a survey by the Japan Breast Cancer Study Group. *Nagoya Journal of Medical Science*.80(2) : 217-26, 2018.
  18. Yamaguchi K<sup>1,2</sup>, Fujitani K<sup>3</sup>, Nagashima F, Omuro Y<sup>4</sup>, Machida N<sup>5</sup>, Nishina T<sup>6</sup>, Koue T<sup>7</sup>, Tsujimoto M<sup>7</sup>, Maeda K<sup>7</sup>, Satoh T<sup>8</sup> (<sup>1</sup>Saitama Cancer Center, <sup>2</sup>Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, <sup>3</sup>Osaka General Medical Center, <sup>4</sup>Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, <sup>5</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>6</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, <sup>7</sup>Eli Lilly Japan, <sup>8</sup>Osaka University Hospital) : Ramucirumab for the treatment of metastatic gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma following disease progression on first-line platinum- or fluoropyrimidine-containing combination therapy in Japanese patients: a phase 2, open-label study. *Gastric Cancer* 21(6) : 1041-9, 2018.
  19. Hamamoto Y<sup>1,2</sup>, Sakakibara N<sup>1</sup>, Nagashima F, Kitagawa Y<sup>3</sup>, Higashi T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>National Cancer Center, <sup>2</sup>Keio Cancer Center, <sup>3</sup>Keio University School of Medicine) : Treatment selection for esophageal cancer: evaluation from a nationwide database. *Esophagus*15(2) : 109-14, 2018.
  20. Sawaki M<sup>1</sup>, Tamura K<sup>2</sup>, Shimomura A<sup>2</sup>, Taki Y<sup>1</sup>, Nagashima F, Iwata H<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital) : Practice management for elderly patients with breast cancer: Findings from a survey by the Japan Breast Cancer Study Group. *Nagoya Journal of Medical Science* 80(2) : 217-26, 2018.
  21. Furuse J, Kurata T<sup>1</sup>, Okano N, Fujisaka Y<sup>1</sup>, Naruge D, Shimizu T<sup>1</sup>, Kitamura H, Iwasa T<sup>1</sup>, Nagashima F<sup>1</sup>, Nakagawa K<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Kindai University Faculty of Medicine) : An early clinical trial of Salirasib, an oral RAS inhibitor, in Japanese patients with relapsed/refractory solid tumors. *Cancer Chemother Pharmacol*.82(3):511-519, 2018.
  22. Todaka A<sup>1</sup>, Mizuno N<sup>2</sup>, Ozaka M<sup>3</sup>, Ueno H<sup>4</sup>, Kobayashi S<sup>5</sup>, Uesugi K<sup>6</sup>, Kobayashi N<sup>7</sup>, Hayashi H<sup>8</sup>, Sudo K<sup>9</sup>, Okano N, Horita Y<sup>10</sup>, Kamei K<sup>11</sup>, Yukisawa S<sup>12</sup>, Nakamori S<sup>13</sup>, Yachi Y<sup>14</sup>, Henmi T<sup>15</sup>, Kobayashi M<sup>16</sup>, Boku N<sup>1</sup>, Mori K<sup>1</sup>, Fukutomi A<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>2</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>3</sup>The Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, <sup>4</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>5</sup>Kanagawa Cancer Center Hospital, <sup>6</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, <sup>7</sup>Yokohama City University Hospital, <sup>8</sup>Hokkaido University Hospital, <sup>9</sup>Chiba Cancer Center, <sup>10</sup>Toyama Prefectural Central Hospital, <sup>11</sup>Kindai University Faculty of Medicine, <sup>12</sup>Tochigi Cancer Center, <sup>13</sup>Osaka National Hospital, <sup>14</sup>DaiichiSankyo,

- <sup>15</sup>Yakult Honsha,<sup>16</sup>Shizuoka Industrial Foundation Pharama Vally Center) : Nationwide Multicenter Observational Study of FOLFIRINOX Chemotherapy in 399 Patients With Unresectable or Recurrent Pancreatic Cancer in Japan. *Pancreas*47(5):631-636, 2018. DOI: 10.1097/MPA.0000000000001049.
23. Yoshida T<sup>1,2</sup>, Hijioka S<sup>1,3</sup>, Hosoda W<sup>1,4</sup>, Ueno M<sup>5</sup>, Furukawa M<sup>6</sup>, Kobayashi N<sup>7</sup>, Ikeda M<sup>8</sup>, Ito T<sup>9</sup>, Kodama Y<sup>10</sup>, Morizane C<sup>3</sup>, Notohara K<sup>11</sup>, Taguchi H<sup>12</sup>, Kitano M<sup>13</sup>, Yane K<sup>14</sup>, Tsuchiya Y<sup>15</sup>, Komoto I<sup>16</sup>, Tanaka H<sup>17</sup>, Tsuji A<sup>18</sup>, Hashigo S<sup>19</sup>, Mine T<sup>20</sup>, Kanno A<sup>21</sup>, Murohisa G<sup>22</sup>, Miyabe K<sup>23</sup>, Takagi T<sup>24</sup>, Matayoshi N<sup>25</sup>, Sakaguchi M<sup>26</sup>, Ishii H<sup>27</sup>, Kojima Y<sup>28</sup>, Matsuo K<sup>29</sup>, Yoshitomi H<sup>30</sup>, Nakamori S<sup>31</sup>, Yanagimoto H<sup>32</sup>, Yatabe Y<sup>33</sup>, Furuse J, Mizuno N<sup>1</sup> : (1Aichi Cancer Center Hospital, 2Kizawa Memorial Hospital, 3National Cancer Center Hospital, 4The Johns Hopkins University School of Medicine, 5Kanagawa Cancer Center, 6National Kyushu Cancer Center, 7Yokohama City University Hospital, 8National Cancer Center Hospital East, 9Kyushu University, 10Kyoto University, 11Kurashiki Central Hospital, 12Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, 13Kinki University, 14Teine-Keijinkai Hospital, 15Niigata Cancer Center Hospital, 16Kansai Electric Power Hospital, 17Suzuka General Hospital, 18Kobe City Medical Center General Hospital, 19Kumamoto University, 20Tokai University School of Medicine, 21Tohoku University Graduate School of Medicine, 22Seirei Hamamatsu General Hospital, 23Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, 24Fukushima Medical University School of Medicine, 25University of Occupational and Environmental Health, 26Saiseikai Kumamoto Hospital, 27Shikoku Cancer Center, 28Cancer Institute Hospital, 29Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine, 30Aichi Cancer Center Research Institute, 31Chiba University, 32National Hospital Organization Osaka National Hospital, 33Kansai Medical University Hospital) : Surgery for Pancreatic Neuroendocrine Tumor G3 and Carcinoma G3 Should be Considered Separately. *Ann Surg Oncol*. 26(5):1385-1393, 2019. DOI: 10.1245/s10434-019-07252-8. [Epub ahead of print]
24. Furuse J: A PARP inhibitor in pancreatic cancer : Enhancement anti-tumour activity of chemoradiation therapy against pancreatic cancer?. *EBioMedicine*2019. DOI: 10.1016/j.ebiom.2019.01.039.
25. Yasuda H<sup>1</sup>, Kataoka K<sup>1</sup>, Takeyama Y<sup>2</sup>, Takeda K<sup>3</sup>, Ito T<sup>4</sup>, Mayumi T<sup>5</sup>, Isaji S<sup>6</sup>, Mine T<sup>7</sup>, Kitagawa M<sup>8</sup>, Kiriyama S<sup>9</sup>, Sakagami J<sup>1</sup>, Masamune A<sup>10</sup>, Inui K<sup>11</sup>, Hirano K<sup>12</sup>, Akashi R<sup>13</sup>, Yokoe M<sup>14</sup>, Sogame Y<sup>1</sup>, Okazaki K<sup>15</sup>, Morioka C<sup>16</sup>, Kihara Y<sup>17</sup>, Kawa S<sup>18</sup>, Tanaka M<sup>4</sup>, Andoh A<sup>19</sup>, Kimura W<sup>20</sup>, Nishimori I<sup>21</sup>, Furuse J, Yokota I<sup>22</sup>, Shimosegawa T<sup>10</sup> (1Kyoto Prefectural University of Medicine, 2Kindai University Faculty of Medicine, 3National Hospital Organization Sendai Medical Center, 4Kyushu University, 5University of Occupational and Environmental Health, 6Mie University School of Medicine, 7Tokai University School of Medicine, 8Nagoya University of Arts and Sciences, 9Ogaki Municipal Hospital, 10Tohoku University Graduate School of Medicine, 11Fujita Health University Bantane Hospital, 12University of Tokyo, 13Kumamoto Regional Medical Center, 14Japanese Red Cross Nagoya Daini Hospital, 15Kansai Medical University, 16Nara Medical University, 17Kitakyushu General Hospital, 18Matsumoto Dental University, 19Shiga University of Medical Science, 20Yamagata University Faculty of Medicine, 21Kochi Medical School, 22Hokkaido University) : Usefulness of urinary trypsinogen-2 and trypsinogen activation peptide in acute pancreatitis: A multicenter study in Japan. *World J Gastroenterol* 25(1) : 107-117, 2019.
26. Motoi F<sup>1</sup>, Kosuge T<sup>2</sup>, Ueno H<sup>2</sup>, Yamaue H<sup>3</sup>, Satoi S<sup>4</sup>, Sho M<sup>5</sup>, Honda G<sup>6</sup>, Matsumoto I<sup>7</sup>, Wada K<sup>8</sup>, Furuse J, Matsuyama Y<sup>9</sup>, Unno M<sup>1</sup>, Study Group of Preoperative Therapy for Pancreatic Cancer (Prep) and Japanese Study Group of Adjuvant Therapy for Pancreatic cancer (JSAP) (1Tohoku University School of Medicine, 2National Cancer Center Hospital, 3Wakayama Medical University, 4Kansai Medical University, 5Nara Medical University, 6Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, 7Kindai University Faculty of Medicine, 8Teikyo University School of Medicine, 9University of Tokyo) : Randomized phase II/III trial of neoadjuvant chemotherapy with gemcitabine and S-1 versus upfront surgery for resectable pancreatic cancer (Prep-02/JSAP05). *Jpn J Clin Oncol* 49(2) : 190-194, 2019.
27. Shitara K<sup>1</sup>, Yamanaka T<sup>2</sup>, Denda T<sup>3</sup>, Tsuji Y<sup>4</sup>, Shinozaki K<sup>5</sup>, Komatsu Y<sup>6</sup>, Kobayashi Y<sup>7</sup>, Furuse J, Okuda H<sup>8</sup>, Asayama M<sup>9</sup>, Akiyoshi K<sup>10</sup>, Kagawa Y<sup>11</sup>, Kato T<sup>12</sup>, Oki E<sup>13</sup>, Ando T<sup>14</sup>, Hagiwara Y<sup>15</sup>, Ohashi Y<sup>16</sup>, Yoshino T<sup>1</sup> (1National Cancer Center Hospital East, 2Yokohama City University School of Medicine, 3Chiba Cancer Center, 4Tonan Hospital, 5Hiroshima Prefectural Hospital, 6Hokkaido University Hospital Cancer Center, 7Kushiro Rosai Hospital, 8Keiyukai Sapporo Hospital, 9Saitama Cancer Center, 10Osaka City General Hospital, 11Kansai Rosa Hospital, 12National Hospital Organization Osaka National Hospital, 13Kyushu University, 14University of Tsukuba, 15The University of Tokyo, 16Chuo University) : REVERCE: a randomized phase II study of regorafenib followed by cetuximab versus the reverse sequence for previously treated metastatic colorectal cancer patients. *Ann Oncol* 30(2) : 259-265, 2019.
28. Ioka T<sup>1</sup>, Ueno M<sup>2</sup>, Ueno H<sup>3</sup>, Park JO<sup>4</sup>, Chang HM<sup>5</sup>, Sasahira N<sup>6</sup>, Kanai M<sup>7</sup>, Chung IJ<sup>8</sup>, Ikeda M<sup>9</sup>, Nakamori S<sup>10</sup>, Mizuno N<sup>11</sup>, Omuro Y<sup>12</sup>, Yamaguchi T<sup>13</sup>, Hara H<sup>14</sup>, Sugimori K<sup>15</sup>, Furuse J, Maguchi H<sup>16</sup>, Furukawa M<sup>17</sup>, Fukuzawa K<sup>18</sup>, Kim JS<sup>19</sup>, Yukisawa S<sup>20</sup>, Takeuchi M<sup>21</sup>, Okusaka T<sup>3</sup>, Boku N<sup>3</sup>, Hyodo I<sup>22</sup> (1Osaka International Cancer Institute, 2Kanagawa Cancer Center, 3National Cancer Center Hospital, 4Sungkyunkwan University School of Medicine, 5University of Ulsan College of Medicine, 6Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, 7Kyoto University Hospital, 8Chonnam National University Hwasun Hospital, 9National Cancer Center Hospital East, 10National Hospital Organization Osaka National Hospital, 11Aichi Cancer Center Hospital, 12Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, 13Chiba Cancer Center, 14Saitama Cancer Center Hospital, 15Yokohama City University Medical Center, 16Teine-Keijinkai Hospital, 17National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, 18Oita Red Cross Hospital, 19Korea University Guro Hospital, 20Tochigi Cancer Center, 21Kitasato University, 22University of Tsukuba) : TAS-118 (S-1 plus leucovorin) versus S-1 in patients with gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer: a randomised, open-label, phase 3 study (GRAPE trial). *Eur J Cancer* 106 : 78-88, 2019.
29. Makishima H<sup>1</sup>, Yasuda S<sup>1</sup>, Isozaki Y<sup>1</sup>, Kasuya G<sup>1</sup>, Okada N<sup>1</sup>, Miyazaki M<sup>2</sup>, Mohamad O<sup>1,3</sup>, Matsufuji N<sup>1</sup>, Yamada S<sup>1</sup>, Tsuji H<sup>1</sup>, Kamada T<sup>1</sup>, Liver Cancer Working Group (1National Institute of Radiological Sciences Hospital,

- <sup>2</sup>Mita Hospital, <sup>3</sup>University of Texas Southwestern Medical center) : Single fraction carbon ion radiotherapy for colorectal cancer liver metastasis: A dose escalation study. *Cancer Sci* 110(1) : 303-309,2019.
30. Denda T<sup>1</sup>, Sakai D<sup>2</sup>, Hamaguchi T<sup>3</sup>, Sugimoto N<sup>4</sup>, Ura T<sup>5</sup>, Yamazaki K<sup>6</sup>, Fujii H<sup>7</sup>, Kajiwara T<sup>8</sup>, Nakajima TE<sup>9</sup>, Takahashi S<sup>10</sup>, Otsu S<sup>11</sup>, Komatsu Y<sup>12</sup>, Nagashima F, Moriwaki T<sup>13</sup>, Esaki T<sup>14</sup>, Sato T<sup>15</sup>, Itabashi M<sup>16</sup>, Oki E<sup>17</sup>, Sasaki T<sup>18</sup>, Sunaga Y<sup>18</sup>, Ziti-Ljajic S<sup>19</sup>, Brillac C<sup>19</sup>, Yoshino T<sup>20</sup> (<sup>1</sup>Chiba Cancer Center, <sup>2</sup> Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>3</sup> National Cancer Center Hospital, <sup>4</sup>Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Disease, <sup>5</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>6</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>7</sup>Jichi Medical University Hospital, <sup>8</sup>Shikoku Cancer Center, <sup>9</sup> St. Marianna University School of Medical Hospital, <sup>10</sup>Tohoku University Hospital, <sup>11</sup>Oita University Hospital, <sup>12</sup>Hokkaido University Hospital, <sup>13</sup>University of Tsukuba Hospital, <sup>14</sup>National Kyushu Cancer Center, <sup>15</sup>Kitasato University East Hospital, <sup>16</sup>Tokyo Women's Medical University Hospital, <sup>17</sup>Kyushu University Hospital, <sup>18</sup>Sanofi K. K, <sup>19</sup>Sanofi Oncology, <sup>20</sup>National Cancer Center Hospital East) : Phase II trial of aflibercept with FOLFIRI as a second-line treatment , for Japanese patients with metastatic colorectal cancer. *Cancer science*, 2019.
  31. Shirasu H<sup>1</sup>, Todaka A<sup>1</sup>, Omae K<sup>1</sup>, Fujii H<sup>2</sup>, Mizuno N<sup>3</sup>, Ozaka M<sup>4</sup>, Ueno H<sup>5</sup>, Kobayashi S<sup>6</sup>, Uesugi K<sup>7</sup>, Kobayashi N<sup>8</sup>, Hayashi H<sup>9</sup>, Sudo K<sup>10</sup>, Okano N, Horita Y<sup>11</sup>, Kamei K<sup>12</sup>, Yukisawa S<sup>13</sup>, Kobayashi M<sup>14</sup>, Fukutomi A<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>2</sup>Jichi Medical University Hospital, <sup>3</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>4</sup>The Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation For Cancer Research, <sup>5</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>6</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>7</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, <sup>8</sup>Yokohama City University Hospital, <sup>9</sup>Hokkaido University Graduate School of Medicine, <sup>10</sup>Chiba Cancer Center, <sup>11</sup>Toyama Prefectural Central Hospital, <sup>12</sup>Kindai University, <sup>13</sup>Tochigi Cancer Center, <sup>14</sup>Shizuoka Industrial Foundation Pharma Valley Center) : Impact of UGT1A1 genetic polymorphism on toxicity in unresectable pancreatic cancer patients undergoing FOLFIRINOX. *Cancer Sci*110(2) : 707-716, 2019. DOI: 10.1111, /cas.13883.
- 和文
1. 北村浩<sup>1</sup>, 井戸田一朗<sup>1</sup>, 岡山香里<sup>2</sup>, 大河戸光章<sup>3</sup>, 佐野彰彦<sup>4</sup>, 佐野麻里子<sup>5</sup>, 小林治<sup>6</sup>, 河合伸<sup>4</sup>, 古瀬純司 (<sup>1</sup>しらかば診療所, <sup>2</sup>群馬バース大・保・検査技術学, <sup>3</sup>杏林大・保・臨床検査技術学, <sup>4</sup>杏林大・医・総合医療学・<sup>5</sup>杏林大・医学部付属病院看護部, <sup>6</sup>杏林大・保) : 拡大肛門鏡検査によるHIV陽性者の肛門管上皮内病変の診断と治療. *日本エイズ学会誌* 20(1) : 25-31, 2018.
  2. 古瀬純司 : 切除不能膵癌に対する化学療法. *消化器外科* 41(6):911-917, 2018.
  3. 古瀬純司 : 化学療法. 膵癌 update. *臨床消化器内科* 33(7):167-173, 2018.
  4. 古瀬純司 : 切除不能膵癌に対する化学療法—現状と今後の展望. *癌の臨床* 64(1) : 17-23, 2018.
  5. 古瀬純司 : 膵癌の治療. 化学療法と化学放射線療法. *Current Therapy* 36(6):23-28, 2018.
  6. 古瀬純司 : 急激に変貌する肝癌の薬物療法.免疫チェックポイント阻害薬(単剤). *Liver Cancer Journal* 10(1):44-48, 2018.
  7. 古瀬純司 : 膵神経内分泌腫瘍の化学療法. *臨床消化器内科* 33(9):1177-1182, 2018.
  8. 古瀬純司 : 進行肝細胞癌に対する分子標的治療のオーバービュー. *消化器・肝臓内科* 4(1):37-43, 2018.
  9. 古瀬純司 : Cabozantinibの第II相試験の振り返りと第III総試験結果. *肝胆膵* 77(2):393-397, 2018.
  10. 古瀬純司 : ソラフェニブ不応進行肝細胞癌に対するレゴラフェニブの第III相試験 (RESORCE) の示唆すること. *がん分子標的治療* 16(3):78-81, 2018.
  11. 山内芳也, 長島文夫, 河合桐男, 岡野尚弘, 成毛大輔, 小林敬明, 古瀬純司 : 高齢がん患者の機能評価. *外科と代謝・栄養* 52(1):17-22, 2018.
  12. 小林敬明, 前野聡子, 長島文夫 : 高齢者のがん診療～実地医家の視点から～ 胃がん・大腸がん. *内科* 121(4):887-891, 2018.
  13. 前野聡子, 長島文夫 : がんとフレイル. *最新医学 別冊(フレイル)*:107-112, 2018.
  14. 前野聡子, 長島文夫 : 老年医学領域の高度医療・未来医療 高齢者のがん医療の進歩. *日本臨床* 76(増刊5 老年医学(上)):255-259, 2018.
  15. 岡野尚弘, 黒澤貴志, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司 : 切除不能胆道癌に対する二次治療 現状と今後の期待. *胆と膵*39(10):869-874, 2018.
  16. 黒澤貴志, 前野聡子, 長島文夫 : 後期高齢者に対するがん薬物治療の問題点. *臨床腫瘍ブракティス* 14(4):241-248, 2018.
  17. 長島文夫, 小林智<sup>1</sup>, 柳本泰明<sup>2</sup>, 中井陽介<sup>3</sup>(<sup>1</sup>神奈川県立がんセンター・消化器内科, <sup>2</sup>関西医大・医・外科学講座, <sup>3</sup>東京大・医・消化器内科) : 膵・胆道癌高齢患者に対する積極的抗癌治療. *膵・胆道癌Frontier* 7(2):64-71, 2018.
  18. 黒澤貴志, 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司 : 胆嚢癌の治療. *消化器内科* 34(2):193-198, 2019.
  19. 古瀬純司 : 膵癌の予後改善に向けて. *医学のあゆみ* 268(11):893, 2019.
  20. 岡野尚弘, 西岡真理子, 前園知宏, 黒澤貴志, 河合桐男, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司 : 大腸がん化学療法での最近の潮流. *消化器・肝臓内科* 5(1):1-9, 2019.
  21. 岡野尚弘 : 41st ESMO Congress 2016. 膵胆道癌 FRONTIER 7(1):43-44, 2019.
  22. 岡野尚弘 : 切除不能膵癌に対するconversion surgery. *医学のあゆみ*268(11):913-916, 2019.
  23. 前野聡子, 河合桐男, 黒澤貴志, 西岡真理子, 前園知宏, 北村浩, 小林敬明, 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司 : 高齢者に対する大腸癌化学療法の実際. *消化器・肝臓内科*5(1):17-23, 2019.
  24. 前野聡子, 長島文夫 : 高齢がん診療のあり方. *Geriatric Neurosurgery*31 : 19-22, 2019.
- 著書
1. 河合桐男,古瀬純司(分担執筆) : IV. 薬剤のマネージメント エベロリムス. 膵・消化管NETの診断と治療レジメン治療に困った時に必ず役に立つ!ー. 脇岡範, 奥坂拓志編集. 東京, 医学と看護社, 2018. p.92-96.
  2. 古瀬純司(分担執筆) : 肝癌, 胆道癌, 膵癌化学療法での最近の動向. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2018. 大津敦編集. 大阪, メディカルレビュー社, 2018. p.478-490.
  3. 岡野尚弘(分担執筆) : 膵癌 GEM. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック2018. 大津敦編集. 大阪, メディカルレビュー社, 2018. p.511-513.
  4. 岡野尚弘(分担執筆) : 膵癌 GEM+Nab-PTX. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック2018. 大津敦編集. 大阪, メディカルレビュー社, 2018. p.514-516.
  5. 岡野尚弘(分担執筆) : 膵癌 GEM+Erlotinib. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック2018. 大津敦編集. 大阪, メディカルレビュー社, 2018. p.521-523.

6. 岡野尚弘 (分担執筆) : 大腸癌 UFT+LV. 消化器がん化学療法レジメブック4版. 室圭編著. 東京, 日本医事新報社, 2018. p.191-193.
7. 岡野尚弘 (分担執筆) : 大腸癌 IRI+S-1/IRIS療法+ペパシズマブ. 消化器がん化学療法レジメブック4版. 室圭編著. 東京, 日本医事新報社, 2018. p.194-197.
8. 古瀬純司 (分担執筆) : ガイドライン外来診療 2019. 膀胱癌. 東京, 日経メディカル開発, 2019. p.585-589.
9. 古瀬純司 (編者) : がん化学療法の薬-抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬-はや調べノート2019・2020年版. がんナーシング. 大阪, メディカ出版, 2019.
10. 古瀬純司 (編者) : 膀胱癌の予後改善に向けて. 医学のあゆみ. 東京, 医歯薬出版, 268(11), 2019.
11. 古瀬純司 (編者) : 神経内分泌腫瘍の薬物療法. 腫瘍内科. 東京, 科学評論社, 23(3), 2019.
12. 岡野尚弘 (分担執筆) : レゴラフェニブ. がん化学療法の薬-抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬-はや調べノート2019・2020年版. がんナーシング. 古瀬純司編集. 大阪, メディカ出版, 2019. p.58-59.
13. 岡野尚弘 (分担執筆) : バンデタニブ. がん化学療法の薬-抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬-はや調べノート2019・2020年版. がんナーシング. 古瀬純司編集. 大阪, メディカ出版, 2019. p.60-61.
14. 岡野尚弘 (分担執筆) : ゲムシタピン. 化学療法の薬-抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬-はや調べノート2019・2020年版. がんナーシング. 古瀬純司編集. 大阪, メディカ出版, 2019. p.142-143.
15. 岡野尚弘 (分担執筆) : パクリタキセル. がん化学療法の薬-抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬-はや調べノート2019・2020年版. がんナーシング. 古瀬純司編集. 大阪, メディカ出版, 2019. p.230-231.
16. 岡野尚弘 (分担執筆) : ナブパクリタキセル. がん化学療法の薬-抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬-はや調べノート2019・2020年版. がんナーシング. 古瀬純司編集. 大阪, メディカ出版, 2019. p.232-233.
17. 岡野尚弘 (分担執筆) : ドセタキセル. がん化学療法の薬-抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬-はや調べノート2019・2020年版. がんナーシング. 古瀬純司編集. 大阪, メディカ出版, 2019. p.234-235.
5. 神崎恒一 : フレイル・サルコペニア. 目黒区医師会内科部会講演会, 東京, 2018年5月21日.
6. 大荷満生 : 高齢者の介護予防. 獨協大学市民公開講座, 埼玉, 2018年6月8日.
7. Kozaki K : Long term care insurance system in Japan. Taiwan Association of Gerontology and Geriatrics 2018, Taiwan, June 9th-10th, 2018.
8. 海老原孝枝 : フレイル高齢者の呼吸器疾患とその対応 フレイル高齢者の誤嚥性肺炎とその対応. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
9. 海老原孝枝 : ライフイベントとsustainable supportの構築-自身の経験から. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
10. 園原和樹, 松塚翔司, 佐藤理恵, 須田広樹, 平林亜美, 長谷川浩, 神崎恒一 : 高齢入院患者における運動再開の現状について. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
11. 島田裕之, 李相倫, 秋下雅弘, 神崎恒一, 飯島勝矢, 鳥羽研二 : 高齢者を対象としたゴルフプログラムの認知機能に対する効果検証: ランダム化比較試験. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
12. 宮本孝英, 海老原孝枝, 山田如子, 神崎恒一 : 胆泥と認知症. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
13. 名古屋恵美子, 海老原孝枝, 宮本孝英, 山田如子, 神崎恒一 : MSWの退院支援と高齢者摂食嚥下障害. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
14. 新井さおり, 長谷川浩, 神崎恒一, 大畑徹也, 稲田成作, 市村正一 : ハイリスク高齢大腿骨近位部骨折患者に対する老年医学的アプローチの重要性. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
15. 小柴ひとみ, 永井久美子, 山田如子, 田中政道, 神崎恒一 : もの忘れ外来通院患者に対するフレイル評価法の妥当性とカットオフ値の設定. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
16. 宮本孝英, 海老原孝枝, 山田如子, 神崎恒一 : 誤嚥性肺炎関連モジュールからみた認知症と高齢者肺炎. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
17. 長谷川浩, 小原聡将, 永井久美子, 小柴ひとみ, 神崎恒一 : 大脳白質病変と体組成, 自律神経機能の関連の重要性. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
18. 平澤愛, 柴田茂貴, 永井久美子, 小柴ひとみ, 宮澤太機, 神崎恒一 : (ポスター) 簡易的に評価した左室収縮機能と脳血流量の関係. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
19. 林良幸, 唐帆健浩, 海老原孝枝, 神崎恒一, 藤澤祐基, 岡島康友 : (ポスター) The Mann Assessment Swallowing Ability(MASA)を用いた高齢患者の摂食嚥下機能評価の有用性に関する検討. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
20. 長谷川浩, 佐藤俊, 長田正史, 高附里江, 船曳茜, 宮本孝英, 輪千智高, 田中政道, 海老原孝枝, 神崎恒一 : 杏林大学病院における高齢者虐待症例の特徴と医師のかかわりについて. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
21. 山田如子, 永井久美子, 神崎恒一 : 認知症患者の不安感の質的分析. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
22. 輪千安希子, 輪千智高, 永井久美子, 海老原孝枝, 神崎恒一 : (ポスター) もの忘れ外来患者における脳血流SPECT結果と認知機能との関連. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
23. 永井久美子, 小柴ひとみ, 海老原孝枝, 神崎恒一 : 血清カルニチン値と認知機能低下との関連. 第60回日本老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.

## 高齢医学教室

### 講演

1. 神崎恒一 : 認知症とサルコペニア・フレイル. 第115回日本内科学会総会・講演会, 京都, 2018年4月13-15日.
2. 大荷満生 : 高トリグリセライド血症の病態からみた治療戦略 なぜ今, 治療が必要なのか. 東大和市医師会・学術講演会, 東大和, 2018年4月13日.
3. 神崎恒一 : 東京都三鷹市を中心とする認知症連携体制の構築. 第15回久留米認知症ネットワーク研究会, 久留米, 2018年4月20日.
4. Funabiki A, Ebihara T, Obara T, Kozaki K : Investigation of Catheter-related bloodstream infection in elderly inpatients. American Geriatrics Society 2018, USA, May 3rd-5th, 2018.

24. 大荷満生：フレイルと栄養・プレフレイルの早期発見と健康へのアプローチ。一般社団法人日本健康食品規格協会・第9回定期総会記念講演会，東京，2018年6月27日。
25. 神崎恒一：フレイルとサルコペニアの視点から高齢者をみる～アスタキサンチンへの期待～。港区薬剤師会学術講演会，横浜，2018年7月3日。
26. 永井久美子，柴田茂貴，平澤愛，宮澤太機，神崎恒一：(ポスター)もの忘れ外来初診患者における，中大脳動脈の脳血流動態と脳小血管病との関連。第50回日本動脈硬化学会総会・学術集会，大阪，2018年7月12-13日。
27. 神崎恒一：高齢診療科が行う高齢者の医療。第17回病診連携スキルアップセミナー，東松山，2018年7月19日。
28. Iijima K, Tanaka T, Toba K, Kozaki K, Akishita M : (Poster) Cognitive Frailty and Adverse Health Outcomes in Community-Dwelling Elderly Adults: Comparison with Physical Frail Individuals without Cognitive Impairment. Alzheimer's Association International Conference 2018, USA, July 22th-26th, 2018.
29. 神崎恒一：フレイルとサルコペニア。第35回運動器疾患・外傷検討会，三鷹，2018年7月26日。
30. 神崎恒一：三鷹武蔵野エリアの認知症における地域連携のかたち。平成30年度地域精神医療フォーラム，東京，2018年8月3日。
31. 永井久美子，小柴ひとみ，海老原孝枝，神崎恒一：血中多価不飽和脂肪酸濃度およびn-3/n-6比と大脳白質病変重症度との関連。第9回日本脳血管・認知症学会総会，別府，2018年8月4-5日。
32. 赤沼幸史，輪千督高，佐藤俊，船曳茜，海老原孝枝，神崎恒一：気腫生膀胱炎により食思不振，腹痛をきたした一例。第68回日本老年医学会関東甲信越地方会，東京，2018年9月8日。
33. 大荷満生：日本人の体内脂肪組織脂肪酸組成の経年的変貌と生体内代謝機能に及ぼす影響。第40回日本臨床栄養学会総会・会長講演，東京，2018年10月7日。
34. Iijima K, Tanaka T, Takahash K, Toba K, Kozaki K, Akishita M : (Poster) Social frailty as a predictor for physical frailty and cognitive decline in community-dwelling elderly adults: From the Kashiwa Study. 14<sup>th</sup> EUGMS, Germany, October 10th-12th, 2018.
35. 山田如子，永井久美子，神崎恒一：認知症患者の不安感の質的分析。第37回日本認知症学会学術集会，札幌，2018年10月12-14日。
36. 名古屋恵美子，海老原孝枝，宮本孝英，山田如子，神崎恒一：摂食嚥下障害を有する認知症高齢者のMSW退院支援。第37回日本認知症学会学術集会，札幌，2018年10月12-14日。
37. 海老原孝枝，宮本孝英，神崎恒一：認知症摂食嚥下障害と胆泥。第37回日本認知症学会学術集会，札幌，2018年10月12-14日。
38. 三ツ間小百合，松井敏史，山田如子，小林義雄，長谷川浩，神崎恒一：MCIの早期診断補助のための後期高齢者用ECD-SPECTデータベース作成とその有用性の検討。第37回日本認知症学会学術集会，札幌，2018年10月12-14日。
39. 神崎恒一：認知機能障害と身体的フレイル。第37回日本認知症学会学術集会，札幌，2018年10月12-14日。
40. 神崎恒一：フレイル・サルコペニア。世田谷区地域医療連携勉強会，東京，2018年10月23日。
41. 神崎恒一：認知的フレイルへのアプローチを標準化する。第5回日本サルコペニア・フレイル学会大会，東京，2018年11月10-11日。
42. 神崎恒一：高齢者のフレイル予防ーアスタキサンチンの可能性ー。第5回日本サルコペニア・フレイル学会大会，東京，2018年11月10-11日。
43. 神崎恒一：高齢診療科が行う高齢者の医療。高知医療再生機構平成30年度専門医養成支援事業，高知，2018年11月16日。
44. 大荷満生：健康寿命を延ばすための秘訣-活力ある生活を続けるために。国立市医師会・市民公開講座，国立，2018年11月17日。
45. 神崎恒一：高齢者のフレイルとポリファーマシー。高齢者医療セミナー2018，彦根，2018年11月22日。
46. 神崎恒一：老年医学の立場から見た高齢者の医療とケア。第7回高齢者トータルケアセミナー，鹿児島，2018年11月27日。
47. 神崎恒一：杏林大学病院高齢診療科/もの忘れセンターの近況。老年医学イノベーションフォーラム，名古屋，2019年1月19日。
48. 大荷満生：高齢者のフィジカルアセスメントと高齢者に多くみられる疾患のケア。公益社団法人東京都看護協会，東京，2019年1月15日。
49. 海老原孝枝：専門医から学ぼう～認知症の基礎知識～。東京城東病院講演，東京，2019年2月4日。
50. 神崎恒一：フレイルと認知症への対応。中津川神経内科病診連携を考える会，中津川，2019年2月6日。
51. 神崎恒一：フレイルを鑑みた高齢者の疾患管理。Academy for Integrated Patient Centered Care，東京，2019年2月9日。
52. 遠藤麻央，井上慎一郎，佐藤俊，新井さおり，高附里江，海老原孝枝，神崎恒一，林良幸，唐帆健浩：嚥下障害に対し完全側臥位法が有用であった一例。第69回日本老年医学会関東甲信越地方会，東京，2019年3月2日。
53. 神崎恒一：認知症と骨粗鬆症。高齢者トータルケア講演会，西東京，2019年3月13日。
54. 海老原孝枝：口から食べ続けるために～えん下障害と誤嚥性肺炎，その予防。三鷹市大沢住民協議会 地域ケアネットワーク，三鷹，2019年3月16日。
55. 神崎恒一：認知症と骨粗鬆症。高齢者のトータルケア，羽村，2019年3月20日。

論 文

1. 神崎恒一：高齢者総合機能評価。内科 特集高齢者医療ハンドブック 121(4)：662-667, 2018.
2. 海老原孝枝：肺炎。内科 特集高齢者医療ハンドブック 121(4)：768-773, 2018.
3. 神崎恒一：新しい専門医制度の中の老年病専門医の今後。日本老年医学会雑誌 55(2)：232-236, 2018.
4. 神崎恒一：コグニティブ・フレイル。日本サルコペニア・フレイル学会誌 2(1)：21-24, 2018.
5. 神崎恒一：加齢と生理機能。日本臨牀76増刊号5 老年医学上：119-124, 2018.
6. 神崎恒一：精神・心理的フレイル。日本臨牀76増刊号5 老年医学上：553-557, 2018.
7. Shimada H<sup>1</sup>, Lee S<sup>1</sup>, Akishita M<sup>2</sup>, Kozaki K, Iijima K<sup>2</sup>, Nagai K, Ishii S<sup>2</sup>, Tanaka M, Koshiba H, Tanaka T<sup>2</sup>, Toba K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>National Center for Geriatrics and Gerontology, <sup>2</sup>The University of Tokyo) : Effects of golf training on cognition in older adults: a randomised controlled trial. J Epidemiol Community Health 72(10) : 944-950, 2018 . doi: 10.1136/jech-2017-210052. Epub 2018 Jun 23.
8. Akishita M<sup>1</sup>, Kozaki K, Iijima K<sup>1</sup>, Tanaka T<sup>1</sup>, Shibasaki K<sup>1</sup>, Ogawa S<sup>1</sup>, Arai H<sup>2</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>National Center for Geriatrics and Gerontology) : Chapter 1 Definitions and diagnosis of sarcopenia. Geriatr Gerontol Int.18(Suppl.1) : 7-12, 2018 . doi: 10.1111/ggi.13311.
9. Komatsu R, Okazaki T, Ebihara S, Kobayashi M, Tsukita Y, Nihei M, Sugiura H, Niu K, Ebihara T, Ichinose M:

Aspiration pneumonia induces muscle atrophy in the respiratory, skeletal, and swallowing systems. *Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle*. 2018; 9: 643–53 doi: 10.1002/jcsm.12297.

- Miyamoto T, Ebihara T, Kozaki K: Ceftriaxone and pseudolithiasis in older people. *Geriatrics & gerontology international* 2018;18: 507-9, doi: 10.1111/ggi.13245.
- 神崎恒一: 認知症と転倒. *Loco Cure* vol.4 no.3: 28-33, 2018.
- 神崎恒一: サルコペニアの科学と臨床2) 認知症とサルコペニア・フレイル. *日本内科学会雑誌*107(9):1702-1707, 2018.
- 神崎恒一: III認知症の診断 認知症に関連する疾患および症状の評価 転倒. *日本医師会雑誌*147(2): 60-61, 2018.
- Toyoshima K<sup>1</sup>, Araki A<sup>1</sup>, Tamura Y<sup>1</sup>, Iritani O<sup>2</sup>, Ogawa S<sup>3</sup>, Kozaki K, Ebihara S<sup>4</sup>, Hanyu H<sup>5</sup>, Arai H<sup>6</sup>, Kuzuya M<sup>7</sup>, Iijima K<sup>3</sup>, Sakurai T<sup>8</sup>, Suzuki T<sup>9</sup>, Toba K<sup>8</sup>, Arai H<sup>8</sup>, Akishita M<sup>3</sup>, Rakugi H<sup>10</sup>, Yokote K<sup>11</sup>, Ito H<sup>1</sup>, Awata S<sup>12</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, <sup>2</sup>Kanazawa Medical University, <sup>3</sup>The University of Tokyo, <sup>4</sup>Toho University, <sup>5</sup> Tokyo Medical University, <sup>6</sup> Tohoku University Hospital, <sup>7</sup> Nagoya University, <sup>8</sup>National Center for Geriatrics and Gerontology, <sup>9</sup> Oberlin University, <sup>10</sup>Osaka University, <sup>11</sup> Chiba University Hospital, <sup>12</sup>Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology): Development of the Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System 8-items, a short version of the Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System 21-items, for the assessment of cognitive and daily functions. *Geriatr Gerontol Int*. Oct;18(10): 1458-1462, 2018. doi: 10.1111/ggi.13512. Epub 2018 Sep 17.
- Arai H<sup>1</sup>, Satake S<sup>1</sup>, Kozaki K (<sup>1</sup>National Center for Geriatrics and Gerontology): Cognitive Frailty in Geriatrics. *Clin Geriatr Med*. 34(4): 667-675, 2018. doi: 10.1016/j.cger.2018.06.011. Epub 2018 Aug 16.
- Miyazawa T<sup>1</sup>, Shibata S<sup>2</sup>, Nagai K, Hirasawa A<sup>2</sup>, Kobayashi Y, Koshihara H, Kozaki K (<sup>1</sup>Shigakkan University, <sup>2</sup>Kyorin University Faculty of Health Sciences): Relationship between cerebral blood flow estimated by transcranial Doppler ultrasound and single photon emission computed tomography in elderly with dementia. *J Appl Physiology* 125: 1576-1584, 2018. doi: 10.1152/jappphysiol.00118.2018. Epub 2018 Sep 6.
- Saji N<sup>1</sup>, Sakurai T<sup>1,2</sup>, Ito K<sup>1</sup>, Tomimoto H<sup>3</sup>, Kitagawa K<sup>4</sup>, Miwa K<sup>3</sup>, Tanaka Y<sup>5,7</sup>, Kozaki K, Kario K<sup>8</sup>, Eto M<sup>9</sup>, Suzuki K<sup>1</sup>, Shimizu A<sup>1</sup>, Niida S<sup>1</sup>, Hirakawa A<sup>9</sup>, Toba K<sup>1</sup>, Strawberry study investigators (<sup>1</sup> National Center for Geriatrics and Gerontology, <sup>2</sup> Nagoya University, <sup>3</sup>Mie University, <sup>4</sup> Tokyo Women's Medical University, <sup>5</sup> National Cerebral and Cardiovascular Center, <sup>6</sup>Gifu Municipal Hospital, <sup>7</sup>Aichi University, <sup>8</sup>Jichi Medical University, <sup>9</sup>The University of Tokyo): Protective effects of oral anticoagulants on cerebrovascular diseases and cognitive impairment in patients with atrial fibrillation: protocol for a multicentre, prospective, observational, longitudinal cohort study (Strawberry study). *BMJ Open* 25;8(11):e021759.2018.doi:10.1136/bmjopen-2018-021759.
- 神崎恒一: 加齢に伴う認知機能の低下と認知症. *日本内科学会雑誌* 107(12): 2461-2468, 2018.
- 神崎恒一: 高齢者のフレイルの臨床的意義. *GERIATRIC NEUROSURGERY* 31: 45-47, 2019.

## 著書

- 神崎恒一: 第2章フレイルの病態・診断 認知的フレイルの臨床的意義. フレイル. 井上聡, 秋下雅弘 企画. 大阪, 最新医学社, 2018. 37-42.

- 神崎恒一: PART2フレイルとロコモ その異同とは 4. CGAとフレイル・ロコモ. フレイルとロコモの基本戦略. 編集 葛谷雅文, 田中栄, 楽木宏実. 東京, 先端医学社, 2019. 38-44.
- 神崎恒一: サルコペニア診療実践ガイド. サルコペニア診療実践ガイド作成委員会 編集. 東京, 一般社団法人日本サルコペニア・フレイル学会, 2019.

## 報告書

- 神崎恒一: 認知症地域包括ケア実現を目指した地域社会創生のための研究. 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業) 2018年度 総括研究報告書. 2016年度~2018年度 総合研究報告書.
- 神崎恒一: 認知症の人やその家族の視点を重視した認知症高齢者にやさしい薬物療法のための研究. 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業) 2018年度 分担研究報告書.
- 神崎恒一: 適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究. 日本医療研究開発機構委託研究開発費(認知症研究開発事業) 2018年度 成果報告書.
- 神崎恒一: フレイル高齢者のレジストリ研究及び地域高齢者におけるフレイル予防プログラムの開発・検証. 長寿医療研究開発費2018年度 分担研究報告書.
- 神崎恒一: 高齢者における認知症や脳血管障害の発症に脳小血管病が関与する臨床的意義の解明. 長寿医療研究開発費2018年度 分担研究報告書.
- 神崎恒一: 高齢者の認知機能低下に配慮した至適血圧域の解明: 老年期にある健常者と軽度認知機能低下患者を対象とした、認知機能保持ないしその改善を最終目的とした適切な血圧管理法に関する研究. 長寿医療研究開発費2018年度 分担研究報告書.
- 神崎恒一: 高齢者における聴覚障害と総合機能・認知機能の包括的評価: 難聴補正による認知症予防を目指した研究. 日本医療研究開発機構委託研究開発費(認知症研究開発事業) 2018年度 成果報告書.
- 海老原孝枝: レビー小体関連変性疾患の呼吸感覚モダリティー解明と、誤嚥性肺炎発症の連関. 科学研究費補助金(基盤研究(C)) 2018年度 実績報告書.
- 海老原孝枝: 高齢者の誤嚥性肺炎の予防・早期発見のための研究. 日本医療研究開発機構委託研究開発費(長寿研究開発事業) 2018年度 成果報告書.

## その他

- 宮本孝英, 海老原孝枝: 「認知症患者で胆泥が生じる原因は?」 *Medical tribune*掲載, 東京, 2019年7月12日.
- 大荷満生: 第40回日本臨床栄養学会総会市民公開講座主催, 東京, 2018年10月3日.
- 大荷満生: 第40回日本臨床栄養学会総会主催, 東京, 2018年10月5-7日.

## 精神神経科学教室

### 講演

- Tsuboi T, Igarashi S, Kubota Y, Azekawa T, Adachi N, Ueda H, Edagawa K, Katsumoto E, Goto E, Hongo S, Kato M, Furukori N, Yoshimura R, Nakagawa A, Kikuchi T, Watanabe K: Demographic and therapeutic characteristics of Japanese outpatients with bipolar disorder: a nationwide survey. The31st CINP World Congress of Neuropsychopharmacology, Austria, June 17th, 2018.

2. 渡邊衡一郎: 多剤併用を防ぐために考えなくてはならないこと. 第114回日本精神神経学会学術総会, 神戸, 2018年6月21日.
3. 渡邊衡一郎: うつ病治療ガイドラインにおける現状, 問題点, そして今後のあり方. 114回日本精神神経学会学術総会, 神戸, 2018年6月22日.
4. 早坂友哉, 長島泉, 坪井貴嗣, 片桐建志, 野崎和博, 松本由美, 栗原真理子, 二田未来, 渡邊衡一郎: 難治性うつ状態と回避性パーソナリティ障害が併存する患者の作業遂行特徴. 第114回日本精神神経学会学術総会, 神戸, 2018年6月22日.
5. 坪井貴嗣: 日本の双極性障害治療の実態 大規模共同研究結果より 本邦の双極性障害外来患者における実態調査: 患者背景因子と処方動向. 第114回日本精神神経学会学術総会, 神戸, 2018年6月22日.
6. 渡邊衡一郎: 双極性障害の当事者が抱える悩みと希望, そして治療のあるべき姿とは—我が国における双極性障害に関する大規模アンケートから—. 日本精神神経科診療所協会平成30年度定時総会第24回(通算45回)学術研究会, 淡路, 2018年6月23日.
7. 渡邊衡一郎: EGUIDEプロジェクトにおけるうつ病治療ガイドラインパート. 日本精神神経科診療所協会平成30年度定時総会第24回(通算45回)学術研究会, 淡路, 2018年6月24日.
8. 高江洲義和: 気分障害における睡眠問題と社会機能・QOL障害. 日本睡眠学会第43回定期学術集会, 札幌, 2018年7月11日.
9. 今村弥生: 発達症とSST. SST(social skills training)下越地区地域交流会平成30年度講演会, 新潟, 2018年7月15日.
10. 大江悠樹: 過敏性腸症候群に対する認知行動療法. 集団認知行動療法研究会 平成30年度中級研修会, 東京, 2018年7月15日.
11. 高江洲義和: うつ病患者の睡眠—覚醒リズムに着目した時間生物学的治療. 第15回日本うつ病学会総会, 東京, 2018年7月27日.
12. 早坂友哉, 長島泉, 坪井貴嗣, 高江洲義和, 片桐建志, 野崎和博, 今村弥生, 松本由美, 栗原真理子, 二田未来, 渡邊衡一郎: 会難治性うつ状態と強迫性パーソナリティ障害を併存した患者の作業遂行特徴. 第15回日本うつ病学会総会, 東京, 2018年7月28日.
13. 今村弥生, 栗原真理子, 野崎和博, 高江洲義和, 坪井貴嗣, 下寺信次, 水野雅文, 渡邊衡一郎: 難治性うつ状態における家族の感情表出の関連要因の検討. 第15回日本うつ病学会総会, 東京, 2018年7月28日.
14. 野崎和博, 高江洲義和, 坪井貴嗣, 今村弥生, 片桐建志, 神田優太, 松本由美, 渡邊衡一郎: 治療抵抗性うつ状態における大うつ病性障害と双極性障害の比較検討. 第15回日本うつ病学会総会, 東京, 2018年7月28日.
15. 坪井貴嗣, 高江洲義和, 田形弘実, 辻野尚久, 稲田健, 橋本亮太, 渡邊衡一郎: うつ病治療ガイドラインの教育効果についての検証: 平成28年度EGUIDEプロジェクトからの報告. 第15回日本うつ病学会総会, 東京, 2018年7月28日.
16. 栗原真理子: うつ病の多様性と混在する辺縁疾患の理解と治療. 心理学的観点から難治性うつ状態の背景にあるものを探る試み. 第15回日本うつ病学会総会, 東京, 2018年7月28日.
17. 坪井貴嗣: EGUIDEプロジェクト うつ病治療ガイドライン講習会 軽症うつ病. 第15回日本うつ病学会総会, 東京, 2018年7月29日.
18. 堀越勝, 大江悠樹, 佐々木洋平, 石井裕乃, 平子雪乃: 疼痛の認知行動療法研修, 平成30年度認知行動療法センター研修, 小平, 2018年8月25-26日.
19. 今村弥生: 精神療法アラカルト. 第597回実地医家のための会 平成30年9月総会, 東京, 2018年9月9日.
20. 渡邊衡一郎: 働く場のできる、双極性障害への支援と対応. 第306回関東産業健康管理研究会, 東京, 2018年9月13日.
21. 今村弥生: 思春期・青年期のメンタルヘルス. 世田谷区中学PTA連 校外連携委員会 講演会, 東京, 2018年10月1日.
22. 渡邊衡一郎: うつ病治療ガイドラインをいかに理解し, いかに実臨床に活かすか. 第7回日本精神科医学会学術大会, 長野, 2018年10月5日.
23. 渡邊衡一郎: 抗不安薬・睡眠薬の功罪について考える. 第7回日本精神科医学会学術大会, 長野, 2018年10月5日.
24. 大江悠樹: 慢性疼痛患者の実践会話, 厚生労働省平成30年度慢性疼痛診療体制構築モデル事業 慢性疼痛診療研修会, 千葉, 2018年11月4日.
25. 大江悠樹: 慢性疼痛患者の実践会話・認知行動療法, 厚生労働省平成30年度慢性疼痛診療体制構築モデル事業 第1回新潟県慢性疼痛診療研修会, 新潟, 2018年11月11日.
26. 櫻井勇希, 平野仁一, 内田貴仁, 櫻井準, 竹内啓善, 丸山恵美, 新名昌子, 久保田朋子, 入江祐司, 杉原弘容, 磯野僚子, 加藤純子, 五日市奈緒, 秋山珠美, 白井理華, 磯上一成, 清宮啓介, 金澤和幸, 仁王進太郎, 渡邊衡一郎: 入院中の服薬指導によるアドヒアランスの改善がその後の患者-医療者関係に与える影響について. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月14日.
27. 坪井貴嗣: 共催シンポジウム うつ病における周辺症状にどう立ち向かうか? 再発予防を見据えたうつ病残存症状の治療戦略. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月14日.
28. 坪井貴嗣: シンポジウム 当事者と共に考える精神薬物療法の在り方 当事者が関心を持つこと, 期待していること. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月14日.
29. 高江洲義和: 双極性障害の発症・再発と睡眠との関わり. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月14日.
30. 高江洲義和: 研究を臨床に生かす. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月14日.
31. 住吉太幹, 渡邊衡一郎, 能登真一, 坂本繫, 守口善也, Fernandez J: 大うつ病性障害患者における認知機能と抑うつ症状及び心理社会的機能の関連: PERFORM-Jのベースラインデータをを用いた横断研究. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月15日.
32. 神田優太, 高江洲義和, 坪井貴嗣, 野崎和博, 今村弥生, 片桐建志, 中島亨, 渡邊衡一郎: 大うつ病性障害患者における向精神薬と終夜睡眠ポリグラフ検査における睡眠指標との関連の検討. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月15日.
33. 横井優磨, 吉村直記, 波多野賢二, 阿部貴行, 中川敦夫, 稲田健, 住吉太幹, 渡邊衡一郎, 坪井貴嗣, 諸川由実代, 岩波明, 三村将, 古川壽亮, 西岡玄太郎, 小居秀紀, 中込和幸: 大うつ病性障害患者に対するセカンドライン治療における新規抗うつ薬の継続性の評価: 多施設共同非盲検無作為化可変用量長期投与試験 (ACCEPT研究) による検討. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月15日.
34. 今村弥生, 高江洲義和, 野崎和博, 坪井貴嗣, 栗原真理子, 早坂友成, 下寺信次, 水野雅文, 渡邊衡一郎: 難治性うつ状態における患者家族の感情表出と薬物療法との関連性の検討. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月15日.
35. 野崎和博, 高江洲義和, 坪井貴嗣, 今村弥生, 片桐建志, 神田優太, 渡邊衡一郎: 治療抵抗性うつ状態の重症度と関連す

- る要因の検討. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月15日.
36. 市橋香代, 堀輝, 安田由華, 山本智也, 渡邊衡一郎, 稲田健, 笠井清登, 橋本亮太: 統合失調症治療における施設群ごとのQuality Indicatorの検討: 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDE) より. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月15日.
  37. 松井佑樹, 大石智, 滝澤毅矢, 工藤紀子, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太: EGUIDEプロジェクトからの報告～過去2年間のガイドラインの教育効果と質の考察～. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月15日.
  38. 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: 日本の双極性障害治療の現状 JSCNP・日本精神神経科診療所協会 双極性障害プロジェクトより 何が双極性障害患者における非寛解状態と関連した因子なのか?. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月15日.
  39. 坪井貴嗣: 日本の双極性障害診療の現状 JSCNP・日本精神神経科診療所協会 双極性障害プロジェクトより MUSUBI-J一次調査結果 最新アップデート. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月15日.
  40. 高江洲義和: 不眠症治療の今後の展望—睡眠薬と認知行動療法の適正使用を考える—. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月15日.
  41. 野本佳介, 浅見優子, 坪井貴嗣: うつ病・うつ状態に対するSNRIの処方実態把握ならびに薬剤選択意向把握のためのインターネットアンケート調査. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月16日.
  42. 稲垣貴彦, 今村弥生, 橋本亮太, 松井佑樹: 統合失調症薬物療法ガイドライン講習会・うつ病治療ガイドライン講習会 EGUIDEプロジェクト沖縄講習, 沖縄, 2018年11月17-18日.
  43. 大江悠樹, 石井裕乃, 佐々木洋平, 堀越勝: 慢性痛に対するごく短時間で実施可能な認知行動療法 (ショートフォーム CBT) 開発の試み: 線維筋痛症男性に対する実施経験から. 第18回日本認知療法認知行動療法学会, 岡山, 2018年11月23-25日.
  44. 渡邊衡一郎: 変わりゆく学生像と早稲田における支援. 早稲田大学学生相談室創設50周年記念シンポジウム, 東京, 2018年11月28日.
  45. 堀越勝, 大江悠樹, 菊池志乃, 石井裕乃, 佐々木洋平: 過敏性腸症候群に対する認知行動療法研修, 平成30年度認知行動療法センター研修, 小平, 2018年12月8日.
  46. 渡邊衡一郎: 当事者と医師でつくる双極性障がい治療. 第14回NPO法人ノーチラス会講演会, 東京, 2019年1月13日.
  47. 坪井貴嗣: こころの病と薬物療法 -うつ病治療を中心に-. 平成30年度中央区日本橋保健センター精神保健講習会, 東京, 2019年1月30日.
  48. 伊藤雅哉, 大江悠樹, 山口慶子, 宮前光宏: 認知行動療法における症状評価研修. 平成30年度認知行動療法センター研修, 小平, 2019年2月1日.
  49. 大江悠樹: 慢性疼痛患者の実践会話・認知行動療法. 厚生労働省平成30年度慢性疼痛診療体制モデル事業 第2回新潟県慢性疼痛診療研修会, 新潟, 2019年2月10日.
  50. 今村弥生, 菊地俊暁: やさしい精神医学. 平成30年度川崎市高津区市民健康講演会, 川崎, 2019年2月23日.
  51. 今村弥生: 漫画の世界から眺める精神医学. プライマリ・ケア連合学会福岡県支部研修会, 福岡, 2019年2月24日.
  52. 今村弥生: 基本に立ち返る臨床精神医学. 平成30年度川崎市心理職臨床講義, 川崎, 2019年2月26日.
  53. 岡田昌也, 坪井貴嗣, 大江悠樹, 戸部有希子, 吉田信子, 大瀧純一, 渡邊衡一郎, 浅沼奈美: 双極性障害患者に対する集団心理教育と個別面接による包括的プログラムの報告 - 第1報告 -. 第38回日本社会精神医学会, 東京, 2019年2月28日.
  54. 渡邊衡一郎: 薬剤師のための地域精神医療セミナー双極性障害におけるアドヒアランス, 最前線の取り組み. 第38回日本社会精神医学会, 東京, 2019年3月1日.
  55. 大江悠樹: 双極性障害に対する心理教育. 第38回日本社会精神医学会, 東京, 2019年2月28日-3月1日.
  56. 渡邊衡一郎: 「高めよう! 学生相談力×学生支援力」3 支援の幅を広げる「学生の精神疾患の見分けと医療との連携」. 第48回日本学生相談学会学生相談セミナー, 東京, 2019年3月2日.
  57. 渡邊果林, 片桐建志, 松本泰幸, 松本由美, 濱田秀伯, 渡邊衡一郎: 修正型電気痙攣療法が奏功した錯乱精神病の一例. 東京精神医学会第115回学術集会, 東京, 2019年3月2日.
  58. 片桐建志: うつ病に対する対人関係療法—薬物療法との併用を含めて—. 多摩精神科医療懇話会, 東京, 2019年3月7日.
- ## 論文
1. 渡邊衡一郎: うつ病治療におけるプラセボ反応性を当事者—治療者の関係から考える. 臨床精神薬理21(5): 647-652, 2018.
  2. 渡邊衡一郎: 難治性うつ病リスクと予測, 診断の再考. 精神神経学雑誌120 (5) : 384-390, 2018.
  3. 渡邊衡一郎, 橋本亮太<sup>1</sup>, 稲田健<sup>2</sup>, 堀合研二郎<sup>3</sup> (大阪大学, <sup>2</sup>東京女子医科大学, <sup>3</sup>YPS横浜ピアスタッフ協会): ガイドラインと実臨床のギャップを埋めるEBM時代の精神科医療. 週間医学界新聞3277: 1-2, 2018.
  4. Sumiyoshi T<sup>1</sup>, Watanabe K, Noto S<sup>2</sup>, Sakamoto S<sup>3</sup>, Moriguchi Y<sup>4</sup>, Okamoto S<sup>3</sup> ( <sup>1</sup>National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>2</sup>Niigata University, <sup>3</sup>Takeda Pharmaceutical Company Limited, <sup>4</sup>Lundbeck Japan KK ): Prospective Epidemiological Research on Functioning Outcomes Related to Major Depressive Disorder in Japan (PERFORM-J): Protocol for a Prospective Cohort Study. JMIR Res Protoc 7(6): e161, 2018. doi: 10.2196/resprot.9682.
  5. 高江洲義和, 渡邊衡一郎: 本邦でのうつ病治療ガイドライン—ガイドライン普及と今後の課題—. 精神科33(1): 52-56, 2018.
  6. 渡邊衡一郎: 統合失調症治療におけるアドヒアランス改善のための方策—急性期治療におけるShare Decision Making (SDM) 実践の可能性. 臨床精神薬理21(9): 1189-1197, 2018.
  7. 渡邊衡一郎: うつ病の「真のrecovery」のために—寛解と再発予防の大切さ. 精神科治療学33(9): 1051-1058, 2018.
  8. 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: うつ病治療ガイドラインのあり方と今後の展望. Depression Strategy 8(3): 1-3, 2018.
  9. 坪井貴嗣: 抗うつ薬・抗不安薬の前にこの方剤! 精神症状×漢方 こんな時にも! 使える漢方 下痢. 治療 100巻6号: 719-723, 2018.
  10. 坪井貴嗣: エビデンスに基づく実践の光と影—ガイドラインを診療実践にどう役立てるか 現在のガイドラインは実臨床でどう活用すべきか. 精神科 33巻1号: 34-38, 2018.
  11. 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: うつ病治療ガイドラインのあり方と今後の展望. Depression Strategy 8巻3号: 1-3, 2018.
  12. Shimura A<sup>1</sup>, Hideo S<sup>2</sup>, Takaesu Y, Nomura R<sup>3</sup>, Komada Y<sup>4</sup>, Inoue T<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Tokyo Medical University, <sup>2</sup>Tokyo Gakugei

- University Senior High School, <sup>3</sup>The University of Tokyo, <sup>4</sup>Meiji Pharmaceutical University) : Comprehensive assessment of the impact of life habits on sleep disturbance, chronotype, and daytime sleepiness among high-school students. *Sleep Med.* 44:12-18, 2018.
13. 高江洲義和, 渡邊衡一郎: 本邦でのうつ病治療ガイドライン-ガイドライン普及と今後の課題-. *精神科* 33(1) : 52-56, 2018.
  14. Takaesu Y: Circadian rhythm in bipolar disorder: A review of the literature. *Psychiatry Clin Neurosci.* 72(9):673-682, 2018.
  15. 高江洲義和, 井上雄一<sup>1</sup> (1東京医科大) : 入院患者の睡眠・生体リズム. *日本麻酔科学会準機関誌* 67(9):946-953, 2018.
  16. Azuma K<sup>1</sup>, Takaesu Y, Soeda H<sup>1</sup>, Iguchi A<sup>1</sup>, Uchida K<sup>1</sup>, Ohta S<sup>1</sup>, Mishima S<sup>1</sup>, Inoue T<sup>1</sup>, Inoue Y<sup>1</sup>, Oda J<sup>1</sup> (1Tokyo Medical University) : Ability of suvorexant to prevent delirium in patients in the intensive care unit: a randomized controlled trial. *Acute Med Surg.* 19;5(4):362-368, 2018.
  17. 高江洲義和: 睡眠薬と認知症の関連をめぐって. *睡眠医療* 12(4) : 529-532, 2018.
  18. 今村弥生: 総合診療医のためのspecial drug 40. *総合診療* 28巻7号 : 916-917, 2018.
  19. 藤澤大介<sup>1</sup>, 堀越勝<sup>2</sup>, 笠原諭<sup>3</sup>, 岩佐和典<sup>4</sup>, 大江悠樹, 山本和美<sup>5,6</sup>, 近藤真前<sup>7</sup> (1慶應義塾大学, 2国立精神・神経医療研究センター, 3東京大学医学部付属病院, 4就実大学, 5医療法人弘正会西京都病院, 6関西医科大学心療内科学講座, 7古屋市立大学) : 多面的アプローチで慢性痛に挑む. *認知療法研究* 11 : 156-165, 2018.
  20. 宮前光宏<sup>1</sup>, 大江悠樹, 上家倫子<sup>2</sup>, 丹松由美子<sup>2</sup>, 堀越勝<sup>1</sup> (1国立精神・神経医療研究センター, 2株式会社ワコール人間科学研究所) : 外見スキーマが精神的健康に与える影響—女性を対象とした横断研究—. *Journal of Health Psychology Research* 31 : 89-99. 2018.
  21. 大江悠樹: 簡易型認知行動療法について—自身の経験から. *精神療法* 45 : 84-86. 2019.
  22. Aoki Y<sup>1</sup>, Furuno T<sup>2</sup>, Watanabe K, Kayama M<sup>1</sup> (1St. Luke's International University, 2 Tokyo Medical Center) : Psychiatric outpatients' experiences with shared decision-making: a qualitative descriptive study. *J Commun Healthc* 12(1): <https://doi.org/10.1080/17538068.2019.1612212>.
  23. 渡邊衡一郎: 特集 双極性障害 働く場のできる双極性障害への支援と対応. *健康管理 (775)* : 2-19, 2019.
  24. 久我敦<sup>1</sup>, 徳永雄一郎<sup>2</sup>, 渡邊衡一郎, 岩田伸生<sup>3</sup> (1日本イーライリリー株式会社, 2医療法人社団新光会不知火病院, 3藤田医科大学) : うつ病診療におけるコミュニケーションについて. *精神科*34(1) : 91-98, 2019.
  25. 村尾昌美, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: 「労働者のメンタルヘルスと職場の安全対策」 就労者における向精神薬の適正使用. *産業精神保健*27(1) : 23-30, 2019.
  26. 坪井貴嗣: あらためて遅発性錐体外路症状について考える 遅発性ジスキネジアに対する薬物療法. *精神科* 34巻1号 : 60-64, 2019.
  27. 坪井貴嗣: 服薬と処方心理 くすりをめぐるコミュニケーション 服薬に抵抗感をもつ当事者へのかかわり. *こころの科学* 203号 : 63-67, 2019.
  28. 坪井貴嗣: 変わりゆくうつ病・診断と治療の現在・新規抗うつ薬は三環系抗うつ薬を超えるか?. *精神科治療学* 34巻1号 : 59-65, 2019.
  29. 村尾昌美, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: 労働者のメンタルヘルスと職場の安全対策 就労者における向精神薬の適正使用. *産業精神保健* 27巻1号 : 23-30, 2019.
  30. 高江洲義和: 気分障害における睡眠-覚醒リズム障害. *精神科* 34(1) : 8-12, 2019.
  31. 今村弥生: 特集 コンサルトの美学「精神科リエゾン・コンサルテーションの美学」. *治療* 101巻1号 : 77-80, 2019.
- 著書**
1. 渡邊衡一郎 (分担執筆) : 効果的なお薬の使い方. リカバリーのためのワークブック回復を目指す精神科サポートガイド. 水野雅文, 藤井千代, 佐久間啓, 村上雅昭. 東京, 中央法規出版. 2018. 103-118.
  2. 野崎和博, 高江洲義和, 渡邊衡一郎 (分担執筆) : 第5章 診断・治療難治性うつ病の診断と治療. 最新医学別冊 診断と治療のABC141 うつ病と双極性障害. 大阪, 最新医学社, 2018. 192-199.
  3. 坪井貴嗣 (分担執筆) : 第3章 維持期治療. 患者さん・ご家族・支援者のために 統合失調症薬物治療ガイド. 一般社団法人日本神経精神薬理学会. 東京, じほう, 2018. 36-41.
  4. 今村弥生 (分担執筆) : 2章 発生予防 正常な死別の悲しみに寄り添う面接, 自殺予防. スーパー総合医「予防医学の全て」. 岡田唯男専門編集. 東京, 中山書店, 2018. 181-183, 188-190.
  5. 今村弥生, 片岡直子 (分担執筆) : 第2章 健康障害別看護過程 8統合失調症. 強みと弱みから見た在宅看護過程. 河野あゆみ 編集, 草場鉄周 編集協力. 東京, 医学書院, 2018. 148-161.
  6. 大江悠樹 (分担翻訳) : 第8章 気分. ワークブックで実践する脳損傷リハビリテーション. 廣真真弓監訳. 東京, 医歯薬出版, 2018. 201-232.
  7. 渡邊衡一郎 (分担執筆) : 抗精神病薬 抗うつ薬 その他. 今日の治療薬 2019 解説と便覧. 浦部晶夫, 島田和幸, 川合眞一. 東京, 南江堂, 2019. 836-876.
  8. 渡邊衡一郎 (分担執筆) : 抗不安薬 睡眠薬. 今日の治療薬 2019 解説と便覧. 浦部晶夫, 島田和幸, 川合眞一. 東京, 南江堂, 2019. 877-896.
  9. 高江洲義和 (分担執筆) : 第IV章B 若年者に多い, 見逃されやすい睡眠・覚醒相後退障害. 千葉茂編著. 東京, 新興医学出版社, 2019. 68-69.
- その他**
1. Takashi Tsuboi: JSNP Excellent Presentation Award for CINP 2018. the31th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology, Vienna, June 17th, 2018.
  2. 坪井貴嗣: 第28回日本臨床精神神経薬理学会優秀プレゼンテーション賞. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018年11月16日.
- 小児科学教室**
- 講演**
1. 楊國昌: 目の異常と小児科疾患. 第9回東京多摩眼科連携セミナー, 東京, 2018年5月12日.
  2. 楊國昌: 小児腎疾患の基礎と臨床. 第162回お茶の水木曜会, 東京, 2018年5月17日.
  3. 細井健一郎: 医療的ケアにおける注意点. 東京都立府中けやきの森学園 職員研修会, 府中, 2018年7月27日.
  4. 鶴田雅俊: NIV-NAVAの実際. 第1回NAVAワークショップ in長野県立こども病院NICU, 長野, 2018年9月23日.
  5. 鶴田雅俊: Comfortable Ventilation~NAVA&NIV-NAVA~. 第12回三多摩呼吸器セミナー, 東京, 2019年1月24日.
  6. 川口明日香: 妊娠前から知っておきたい食物アレルギーの知識. 三鷹, 2019年3月11日.

## 口 演

1. 天木祥子, 濱野翔, 山本明日香, 楊國昌: 急性膵炎を契機に発見された膵管合流型・膵胆管合流異常症の3歳女児例. 第121回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018年4月20日.
2. 森久保美保, 天木祥子, 牧野篤司, 濱野翔, 山本明日香, 保崎明, 楊國昌: 小範囲熱傷を契機に発症した毒素性ショック症候群の乳幼児2症例. 第121回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018年4月21日.
3. 木村俊彦, 濱野翔, 荻野由香里, 高橋昌兵, 山本明日香, 福原大介, 保崎明, 吉野浩, 楊國昌, 佐々木綾子, 早坂清: 溺水を契機に診断された遅発型中枢性低換気症候群の1例. 第121回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018年4月21日.
4. 近藤絢香, 鶴田雅俊, 稲見茉莉, 那須ゆかり, 麓聖子, 小林智恵, 山下裕子, 細井健一郎, 野村優子, 楠田聡, 楊國昌: 腸間膜裂孔ヘルニアによる回腸絞扼性イレウスを発症したSGAの1新生児例. 第121回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018年4月21日.
5. 満川忠宏, 鈴木由美, 朽名悟, 吉野浩, 楊國昌: 両眼の高度な網膜硝子体出血を呈した急性前骨髄性白血病 (APL) の小児例. 第9回東京多摩眼科連携セミナー, 三鷹, 2018年5月12日.
6. 宮田世羽, 吉田大峰, 本多武尊, 熊田聡子, 眞下秀明, 西田裕哉, 白井育子, 横地房子, 笈慎治, 濱中耕平, 宮武聡子, 松本直通, 服部文子, 瓦井俊孝, 谷口真: KMT2B遺伝子変異2例に対する淡蒼球内節刺激療法～定量的運動機能解析システムを用いた検討. 第60回日本小児神経学会総会, 千葉, 2018年5月31日.
7. 高橋昌兵, 羽田伊知郎, 三上直朗, 楊國昌, 松阪泰二: ポドサイト障害におけるubiquitin specific protease 40の役割. 第61回日本腎臓学会学術集会, 新潟, 2018年6月9日.
8. 田中佐門, 羽田伊知郎, 天木祥子, 橋本悟, 北見 (山形) 菜々恵, 小谷昌史, 大熊こずえ, 那須ゆかり, 中野瑛子, 高島和章, 長谷川廉: 当院におけるIgA血管炎に伴う腎合併症の臨床的検討. 第122回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2018年6月22日.
9. 小池卓也, 木内善太郎, 牧野篤司, 山本明日香, 楊國昌: 南アジアから帰国後に発症した腸チフスの3例. 第122回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2018年6月22日.
10. 山本明日香, 那須ゆかり, 上里忠光, 小峰素子, 濱野翔, 杉本雅子, 牧野篤司, 井上直之, 松本居子, 石垣信男: ナフィラキシーショックに対しアドレナリン持続静注を行った5症例. 第67回日本アレルギー学会学術大会, 幕張, 2018年6月22日.
11. 濱野翔, 上里忠光, 那須ゆかり, 山本明日香, 石垣信男, 楊國昌: 症状出現後に血清TARC値の一過性上昇を認めた消化管アレルギーの3例. 第67回日本アレルギー学会, 幕張, 2018年6月22日.
12. 那須ゆかり, 濱野翔, 上里忠光, 小峰素子, 杉本雅子, 牧野篤司, 山本明日香, 井上直之, 松本居子, 石垣信男: 乳蛋白含有止瀉薬と整腸剤が関与した新生児乳児消化管アレルギーの一例. 第67回日本アレルギー学会, 幕張, 2018年6月23日.
13. 上里忠光, 山本明日香, 小峰素子, 那須ゆかり, 杉本雅子, 濱野翔, 松本居子, 石垣信男: P46-5 LA抗体陽性に伴うAPTT延長を呈したnon-HAEの3小児例. 第67回日本アレルギー学会, 幕張, 2018年6月24日.
14. 高橋昌兵, 羽田伊知郎, 三上直朗, 楊國昌, 松阪泰二: ポドサイト障害におけるubiquitin specific protease 40の役割. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 福島, 2018年6月30日.
15. 天木祥子, 那須ゆかり, 細井健一郎, 吉野浩, 楊國昌: 抗Jra抗体により発症した胎児水腫の一例. 第54回日本周産期・新生児医学会学術集会, 東京, 2018年7月8日.
16. 吳亜沙美, 高橋昌兵, 大城紗彩, 宮澤永尚, 保崎明, 吉野浩, 楊國昌: 化膿性筋炎の1例. 第648回日本小児科学会東京都地方会講和会, 東京, 2018年9月8日.
17. 大久保結子, 宮田世羽, 大城紗彩, 大熊こずえ, 瀧浦俊彦, 楊國昌: 急性発症の歩行障害を呈した1歳8か月の女児例. 第123回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2018年10月5日.
18. 橋本悟, 瀧浦俊彦, 楊國昌: Basedow病の治療経過中に発症した, 類もやもや病の1例. 第52回日本小児内分泌学会学術集会, 東京, 2018年10月4日.
19. 丹沢彩乃, 大橋知佳, 三津田華耶, 宮澤永尚, 吉野浩, 山谷明正, 篠原高雄: TX排泄遅延に対しL-LV製剤による救済療法を施行した症例. 第45回日本小児臨床薬理学会, 東京, 2018年10月6-7日.
20. 大橋知佳, 西圭史, 三津田華耶, 丹沢彩乃, 細井健一郎, 篠原高雄: 新生児細菌性結膜炎の発症予防における出生時抗菌点眼薬の必要性に関する調査. 第45回日本小児臨床薬理学会, 東京, 2018年10月7日.
21. Ogura Y, Mori M, Koh K, Yoshino H, Miyazawa N, Tokita M, Imai C, Hirata Y, Inuduka R, Kunishima S, Nonoyama S, Kawaguchi H: Screening of congenital thrombocytopenia by thrombocytopenia-panel of target sequencing. 第80回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018年10月12-14日.
22. 小池卓也, 瀧浦俊彦, 川原亜友美, 大久保結子, 福原大介, 吉野浩, 楊國昌: 意識障害を呈し重症腸チフスが疑われた1例. 第649回日本小児科学会東京都地方会講和会, 東京, 2018年10月13日.
23. 宮田世羽, 中川栄二, 武田良淳, 吉橋博史, 本田雅敬, 武内俊樹, 上原朋子, 鈴木寿人, 小崎健次郎, 楊國昌: ピリドキサルリン酸が一時的に有効であった早期乳児てんかん性脳症7型(EIEE7)の一例. 第52回日本てんかん学会学術集会, 横浜, 2018年10月25日.
24. 渡邊雅慧, 宮田世羽, 楊國昌: 当院におけるヌシネルセンの使用経験. 第46回杏林医学会総会, 三鷹市, 2018年11月7日.
25. 宮澤永尚, 吉野浩, 安藤理恵, 天木祥子, 荻野由香里, 渡辺佳子, 浮山越司, 松木亮太, 鈴木裕, 大森嘉彦, 菅間博, 楊國昌: 術前診断が困難であった神経節芽腫・結節型の15歳女児例. 第60回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018年11月14-16日.
26. 浮山越司, 渡辺佳子, 宮弘子, 吉野浩, 宮澤永尚, 小林智恵, 安藤理恵, 菅間博, 藤原正親: 極低出生体重児の仙尾部奇形腫再発における新しい悪性所見. 第60回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018年11月14-16日.
27. 大久保結子, 宮田世羽, 大城紗彩, 大熊こずえ, 瀧浦俊彦, 楊國昌: 急性発症の歩行障害を呈した1歳8か月の女児例. 第651回日本小児科学会東京都地方会講和会, 東京, 2019年1月12日.
28. 吳亜沙美, 瀧浦俊彦, 川原亜友美, 福原大介, 保崎明, 吉野浩, 楊國昌: 複視を契機に発覚したミノサイクリンによる頭蓋内圧亢進症の一例. 第124回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2019年2月15日.

## 論文

1. Miyata Y<sup>1</sup>, Saida K<sup>2</sup>, Kumada S<sup>1</sup>, Miyake N<sup>2</sup>, Mashimo H<sup>1</sup>, Nishida Y<sup>1</sup>, Shirai I<sup>1</sup>, Kurihara E<sup>1</sup>, Nakata Y<sup>1</sup>, Matsumoto N<sup>2</sup> (Tokyo Metropolitan Neurological Hospital, <sup>2</sup>Yokohama City University Graduate School of Medicine): Periventricular small cystic lesions in a patient with Coffin-Lowry syndrome who exhibited a novel mutation in the RPS6KA3 gene. Brain Dev 2018;40(7): 566-9.
2. Kiuchi Z, Ogura M<sup>1</sup>, Sato M<sup>1</sup>, Kamei K<sup>1</sup>, Ishikura K<sup>1</sup>, Abe J<sup>1</sup>, Ito S<sup>1</sup> (National Center for Child Health and Development, <sup>2</sup>Graduate School of Medicine, Yokohama City University): No preventive or therapeutic efficacy of

infliximab against macrophage activation syndrome due to systemic juvenile idiopathic arthritis. *Scand J Rheumatol*. Published online: 2018.

3. Kiuchi Z, Nishibori Y, Kutsuna Y, Kotani M, Hada I, Kimura T<sup>1</sup>, Fukutomi T<sup>1</sup>, Fukuhara D, Kudo A<sup>2</sup>, Takata T<sup>3</sup>, Ishigaki Y<sup>3</sup>, Tomosugi N<sup>3</sup>, Tanaka H<sup>4</sup>, Matsushima S<sup>5</sup>, Ogasawara S<sup>6</sup>, Hirayama Y<sup>6</sup>, Takematsu H<sup>7</sup>, Yan K<sup>(1)Department of Toxicology and Pharmacology,<sup>2</sup> Department of Anatomy,<sup>3</sup>Kanazawa Medical University,<sup>4</sup> University of Tokyo,<sup>5</sup>Department of Laboratory Medicine,<sup>6</sup>Research and Development Department, Denka Seiken Co, Ltd,<sup>7</sup>Kyoto University Graduate School of Medicine): GLCCI1 is a novel protector against glucocorticoid-induced apoptosis in T-cell. *FASEB J*.</sup>
4. 濱野翔, 山本明日香, 大越陽一<sup>1</sup>, 福原大介, 楊國昌<sup>(1)埼玉県立小児医療センター</sup>): 入浴により症状が顕在化した乳児消化管アレルギーの1例. *小児科臨床* 71巻4号, 503-508. 2018.
5. Hamano S, Nishibori Y, Hada I, Mikami N, Ito-Nitta N, Fukuhara D, Kudo A<sup>1</sup>, Xiao Z<sup>2</sup>, Nukui M<sup>2</sup>, Patrakka J<sup>2</sup>, Tryggvason K<sup>3</sup>, Yan K<sup>(1)Department of Anatomy, Department of Pediatrics,<sup>2</sup>Department of Medical Biochemistry and Biophysics, <sup>3</sup> Karolinska Institute, Karolinska Institute, Karolinska University Hospital Huddinge): Association of crumbs homolog-2 with mRORC1 in developing podocyte. *PLoS ONE* 13(8): e0202400. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0202400>. 2018</sup>
6. 安藤理恵, 吉野浩, 伊藤雄伍, 杉本雅子, 弦間友紀, 大西宏明, 楊國昌: 夏期に発症した急性一過性発作性寒冷血色素尿症. *日本小児科学会誌* 122(5), 879-883, 2018.
7. 大熊こずえ, 牧野篤司, 山本明日香, 楊國昌: 打撲を契機に発症したA群β溶血性レンサ球菌による腸腰筋筋膜炎の1例. *小児科* (59)第10号, p1481-1485, 2018年9月1日.
8. 小谷昌史, 山本明日香, 吉野浩, 楊國昌: 膈炎が診断の契機となった尿管遺残症の1例. *小児科診療* 81, 951-953, 2018.
9. Ozawa Y<sup>1</sup>, Takahashi S<sup>1</sup>, Miyahara H<sup>1,2</sup>, Hosoi K, Miura M<sup>2</sup>, Morisaki N<sup>1</sup>, Ito Y<sup>1</sup>, Isayama T<sup>1</sup> (1)National Center for Child Health and Development, (2)Tottori University Faculty of Medicine): Utilizing Video versus Direct Laryngoscopy to Intubate Simulated Newborns while Contained within the Incubator: A Randomized Crossover Study. *American Journal of Perinatology* 2019 eFirst.
10. Hamano S, Yamamoto S, Fukuhara D, Yan K: Serum TARC level as a potential biomarker for FPIES. *Pediatr Allergy Immunol*, 2019.

## 著書

1. 宮田世羽(分担執筆): けいれん・意識障害, 意識障害と脳幹反応・バイタルサイン. *小児内科*. 東京, 東京医学社, 2018. 50(4): 279-88.
2. Doi K, Nishida O, Shigematsu T, Sadahiro T, Itami N, Iseki K, Yuzawa Y, Okada H, Koya D, Kiyomoto H, Shibagaki Y, Matsuda K, Kato A, Hayashi T, Ogawa T, Tsukamoto T, Noiri E, Negi S, Kamei K, Kitayama H, Kashiwara N, Moriyama T, Terada Y Collaborators Mori K, Taniyama Y, Wakino S, Yasuda H, Kume S, Sofue T, Fujisaki K, Shima H, Tomori K, Horino T, Watanabe Y, Hayashi H, Moriguchi T, Yamashita K, Inokuchi R, Nakamura K, Hara Y, Furuichi K, Sasaki S, Tsuji T, Yamada H, Yonemoto S, Nakada TA, Hattori N, Yamashita T, Kiuchi Z, Sawada M, Takahashi M, Tani M, Nakazawa Y, Nunoyama M, Fukui T, Matsuo S, Maruyama S, Yanagita M, Tsuruya K: The Japanese Clinical Practice Guideline for acute kidney injury 2016.

*J Intensive Care*. 2018 Aug 13;6:48. doi: 10.1186/s40560-018-0308-6. eCollection 2018.

3. 本田堯, 金子詩子, 鳥羽山寿子, 木内善太郎, 伊良部仁: 全身型若年性特発性関節炎の初発時の検査の考察~専門家へのアンケート調査を踏まえて. *小児リウマチ* vol.9 No.1, 2018.
4. 鶴田雅俊: NICUに導入された新しい人工呼吸器: NAVA. *ネオネイタルケア*. 長谷川素美. 大阪, メディカ出版, 2018年. 960-961.

## その他

1. 宮田世羽: 第60回日本小児神経学会優秀口演賞受賞.

## 外科学教室 (消化器・一般外科)

## 講演

1. 正木忠彦: 大腸癌浸潤先進部からみえるもの. *京滋 Colorectal Cancer Conference*, 京都, 2018年1月12日.
2. 正木忠彦: 高齢化社会における大腸癌診療の問題点. 第52回日本成人病学会学術集会シンポジウム 『高齢化社会における癌診療』, 東京, 2018年1月13日.
3. 服部健人, 小暮正晴, 横山政明, 松木亮太, 鈴木裕, 阿部展次, 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 有症状単純性肝嚢胞に対する開窓術. 第52回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会, 東京, 2018年1月13日.
4. 吉敷智和, 正木忠彦, 松岡弘芳, 紅谷鮎美, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 鈴木裕, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 左右結腸癌のStage別臨床病理学的相違の検討. 第88回大腸癌研究会, 2018年1月25-26日.
5. Kishiki T, Tanaka R, Lapin B, Carbray J, Francis T, Hughes, Ujiki M: Goal-Setting Results in Significant Improvement in Surgical Skills: A Randomized Controlled Trial. 第34回環太平洋外科系学会 日本支部学術大会, USA, 2018年2月16-18日.
6. 竹内弘久, 阿部展次, 近藤恵里, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: Endoscopic SEMS placement for recurrent malignant obstruction after total gastrectomy. 第90回日本胃癌学会総会, 横浜, 2018年3月8日.
7. 阪本良弘, 武富紹信: ディベート (3) 「ALPPS手術の意義ーありvsなしー」あり. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
8. 富樫順一, 赤松延久, 田村純人, 金子順一, 有田淳一, 阪本良弘, 國土典宏, 長谷川潔: Liver transplantation for autosomal dominant polycystic kidney disease (ADPKD). 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
9. 長田梨比人, 富樫順一, 赤松延久, 有田淳一, 金子順一, 田村純人, 阪本良弘, 長谷川潔: 生体肝移植術後の門脈および肝静脈狭窄に対するステント留置の有効性. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
10. 阿部学, 國土貴嗣, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 國土典宏, 長谷川潔: 尿管侵襲を認める高度進行肝細胞癌の切除成績と再発後の治療成績. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
11. 後藤田直人, 有田淳一, 小西大, 齋浦明夫, 橋本雅司, 上坂克彦, 佐野力, 阪本良弘, 坂巻頭太郎, 山中竹春, 島田和明: 肝臓外科手術における腹腔ドレーン非留置の安全性に関する多施設共同無作為化比較試験. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
12. 白田力, 長谷川潔, 國土貴嗣, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 國土典宏: 肝細胞癌に対する肝切除後にお

- ける外科感染症のリスク因子と予防・治療戦略. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
13. 西岡裕次郎, 進藤潤一, 稲垣善則, 五ノ井渉, 阿部浩幸, 山下俊, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 國土典宏, 長谷川潔: 大腸癌肝転移に対する術前化学療法の奏功規定因子の探索. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
  14. 松村優, 山下俊, 吉岡龍二, 西岡裕次郎, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 中島淳, 長谷川潔: 大腸癌同時性肝肺転移に対する手術成績. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
  15. 小林光助, 國土貴嗣, 山口教宗, 赤松延久, 有田淳一, 金子順一, 阪本良弘, Nermin Halkic, 國土典宏, 長谷川潔: 血液凝固疾患のある症例に対する肝切除の安全性の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
  16. 桐谷翔, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 長谷川潔: NEN肝転移切除後の肝転移再発に対する再肝切除の治療成績. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
  17. 早坂誠, 金子順一, 白田力, 稲垣善則, 國土貴嗣, 有田淳一, 赤松延久, 阪本良弘, 長谷川潔: 肝細胞癌に対する新規治療としてのIndocyanine greenを用いた光線力学療法的作用メカニズムの検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
  18. 下山勇人, 鈴木裕, 橋本佳和, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 照屋浩司: 術後咳嗽時痛改善における両側側腹部圧迫法の有効性について. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5-7日.
  19. 横山政明, 森俊幸, 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 肝内胆管癌偽陽性症例 全国調査における臨床病理学的特徴. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5-7日.
  20. 風見由祐, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 國土典宏, 長谷川潔: 当科におけるIPMN切除例の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月6日.
  21. 吉崎雄飛, 西岡裕次郎, 山下俊, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 國土典宏, 長谷川潔: 大腸癌同時性肝転移に対するLiver First Approachの有用性の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月6日.
  22. 谷本芽弘理, 國土貴嗣, 赤松延久, 有田淳一, 金子順一, 阪本良弘, 長谷川潔: ICG不耐症が疑われる症例における<sup>99m</sup>Tc-GSAシンチグラフィの有用性の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月6日.
  23. 森戸正顕, 西岡裕次郎, 山下俊, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 國土典宏, 長谷川潔: 肝門部リンパ節転移を有する大腸癌肝転移における手術成績. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月6日.
  24. 佐藤祐充, 道端伸明, 松居宏樹, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 伏見清秀, 康永秀生, 國土典宏, 長谷川潔: Diagnosis Procedure Combinationデータベースを用いた胆嚢摘出術胆管損傷の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月6日.
  25. 福田開人, 長田梨比人, 富樫順一, 赤松延久, 有田淳一, 金子順一, 田村純人, 阪本良弘, 長谷川潔: 腹腔鏡下胃切除に起因した遅発性門脈狭窄に対し、門脈内ステント留置術が著効した一例. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月6日.
  26. 國土貴嗣, 阪本良弘, 西岡裕次郎, 長田梨比人, 山下俊, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 大倉直樹, 高尾英正, 長谷川潔: Digital Subtraction Angiography (DSA)を用いたハイブリッドアンギオ室の肝胆膵外科領域における使用経験. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月6日.
  27. 川崎浩一郎, 山下裕充, 八木浩一, 奥村康弘, 三ツ井崇司, 愛甲, 西田正人, 小川雅子, 野村幸世, 河口義邦, 阪本良弘, 長谷川潔, 瀬戸泰之: 胃癌肝転移に対するConversion Surgery. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月6日.
  28. 栗原光暁, 沖永裕子, 早坂誠, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 長谷川潔: 乳腺葉状腫瘍異時性副腎転移の一例. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月6日.
  29. 竹内弘久, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 鼠径部切開前方到達メッシュ法における再発症例の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月6日.
  30. 鈴木裕, 森俊幸, 横山政明, 片岡功, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 長期成績からみた原発性肝内結石症の重症度分類 登録18年後のコホート調査から. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
  31. 伊藤橋司, 松浦勝久, 三原裕一郎, 阪本良弘, 長谷川潔, 清水達也, 國土典宏: iPS由来膵外分泌細胞による膵外分泌機能不全治療のための基礎研究(Regenerative approach to pancreatic insufficiency) 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
  32. 野澤宏彰, 川合一茂, 畑啓介, 田中敏明, 西川武司, 大谷研介, 佐々木和人, 金子学, 江本成伸, 室野浩司, 阪本良弘, 長谷川潔, 中島淳, 國土典宏, 渡邊聡明: 同時性肝肺転移を伴う原発性大腸癌症例の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
  33. 有田淳一, 青木琢, 阪本良弘, 赤松延久, 金子順一, 長谷川潔, 國土典宏: 安全な肝切除兼膵頭十二指腸切除-Nearly-zero mortalityを目指して. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
  34. 石沢武彰, 斎浦明夫, 大庭篤志, 三瀬祥弘, 井上陽介, 伊藤寛倫, 高橋祐, 栗木優五, 神谷真子, 浦野泰照, 森一洋, 宮田陽一, 山下俊, 阪本良弘, 長谷川潔, 國土典宏: テイラー明度手術の実現に向けた術中蛍光イメージングの開発: 10年の軌跡と将来展望. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
  35. 伊藤大介, 河口義邦, 稲垣善則, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 國土典宏, 長谷川潔: ICG蛍光法およびRT-PCR法を用いたラット肝における肝静脈閉塞領域の肝機能評価. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
  36. 真木治文, 赤松延久, 富樫順一, 有田淳一, 金子順一, 阪本良弘, 長谷川潔, 針原康, 國土典宏: 当院における生体肝移植後の胆管吻合部狭窄に対する治療. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
  37. 金子順一, 千代田武大, 河口義邦, 有田淳一, 赤松延久, 阪本良弘, 長谷川潔, 國土典宏: 肝細胞がんに対するインドシアニングリーン蛍光法による肝区域同定、エネルギーデバイスを用いた系統的肝切除. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
  38. 沖永裕子, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 長谷川潔: 子供をもつ女性外科医のキャリアパス. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
  39. 高尾幹也, 河口義邦, 松村優, 風見由祐, 谷本芽弘理, 赤松延久, 有田淳一, 金子順一, 阪本良弘, 國土典宏, 長谷川潔: 共焦点レーザー顕微内視鏡を用いた転移性肝癌切除検体における術中診断への応用. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
  40. 戸田健夫, 大道清彦, 森戸正顕, 西岡裕次郎, 赤松延久, 有田淳一, 金子順一, 阪本良弘, 國土典宏, 長谷川潔: 大腸癌肝転移における超音波弾性イメージングを用いた肝予備能予測の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
  41. 松木亮太, 杉山政則, 金翔哲, 百瀬博一, 小暮正晴, 横山政明, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸: 腸回転解除法を

- 用いた膵頭十二指腸切除術(PD)とICG蛍光法を用いたmesopancreasのリンパ流の同定. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5-7日.
42. 小暮正晴, 松木亮太, 横山政明, 鈴木裕, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 肝嚢胞に対する肝嚢胞開窓術の有用性の検討. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5-7日.
  43. 小島洋平, 阿部展次, 大塚弘毅, 吉本恵理, 近藤恵里, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 大西宏明, 正木忠彦, 森俊幸, 渡邊卓, 杉山政則: 十二指腸腺腫・腺癌におけるSTK11の変異頻度. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5-7日.
  44. 森俊幸, 青木久恵, 千葉敏雄, 谷岡健吉: 手術と手術室のイノベーション 8K Ultra High Definition Videoの導入と近未来のビデオ手術. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018.4月5-7日.
  45. Nakazato T, Kutcha K, Ujiki M.: Surgical Simulation Curriculum Gives Residents Confidence and Transferable Skills to the OR. - The Results of Surgical Simulation Perception Survey - SAGES & CAGS 16<sup>th</sup> world congress of endoscopic surgery, USA, April 11-14, 2018.
  46. 正木忠彦: 直腸癌局所再発に対する治療成績と新たな治療戦略. 東京都社保私大連合「最新医療研究会」, 東京, 2018年4月23日.
  47. 新井孝明, 正木忠彦, 中山快貴, 百瀬博一, 吉本恵理, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: クロウン病の治療中に腫瘍マーカー上昇を契機にみつかった横行結腸癌の1例. 第349回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2018年4月28日.
  48. 阿部展次, 竹内弘久: 表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍に対する縮小手術の成績. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2018年5月11日.
  49. 竹内弘久, 阿部展次, 近藤恵里, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胃癌Roux-en-Y再建後の悪性輸入脚閉塞症に対する内視鏡的消化管金属ステント留置術. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2018年5月12日.
  50. Sakamoto Y: Recent progress of surgical treatment for perihilar cancer. The 8<sup>th</sup> congress of the Chinese Chapter of IHPBA, China, 2018年5月26日.
  51. Yokoyama M, Kim S, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Nakazato T, Suzuki Y, Mori T, Sugiyama M: Conversion surgery of gallbladder cancer with paraaortic lymph node metastasis: A case report. 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018年6月7-9日.
  52. Suzuki Y, Sugiyama M: Intestinal derotation procedure for PD. 第30回日本肝胆膵外科学会, 横浜, 2018年6月8日.
  53. Mori T, Suzuki Y: Surgical indications in the treatment of hepatolithiasis. 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018年6月8日.
  54. Sakamoto Y: HPD for biliary cancer with no 90-day mortality in 52 consecutive patients. 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018年6月8日.
  55. Sakamoto Y: Proposal of size-based surgical indication criteria for liver hemangioma based on a nationwide surgery in Japan. Project Study organized by Japanese Society of HPB Surgery (JPS-3). 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018年6月9日.
  56. Suzuki Y, Mori T, Yokoyama M, Kim S, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Nakazato T, Abe N, Sugiyama M: A proposed severity classification system for primary hepatolithiasis based on an analysis of prognostic factors in a Japanese patient cohort. 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018年6月9日.
  57. Kogure M, Matsuki R, Yokoyama M, Suzuki Y, Sugiyama M: A case of intrahepatic shlangiocarcinoma invading gallbladder. 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018年6月9日.
  58. Matsuki R, Momose H, Kogure M, Yokoyama M, Suzuki Y, Sugiyama M: Spontaneous regression of colorectal liver metastasis: a case report. 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018年6月9日.
  59. Yokoyama M, Hasui N, Kim S, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Nakazato T, Suzuki Y, Sugiyama M: Conversion surgery of gallbladder cancer with paraaortic lymph node metastasis: a case report. 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018年6月9日.
  60. Kogure M, Matsuki R, Yokoyama M, Suzuki Y, Sugiyama M: A case of intrahepatic cholangiocarcinoma invading gallbladder. 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018年6月9日.
  61. 長尾玄, 阿部展次, 下山勇人, 近藤恵理, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 柳田修, 杉山政則: 大動脈人工血管置換術後の縦隔食道瘻の治療法の検討. 第72回日本食道学会総会, 宇都宮, 2018年6月28 - 29日.
  62. 岡野尚弘, 松木亮太, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 鈴木裕, 長島文夫, 柴原純二, 杉山政則, 古瀬純司: 切除不能膵癌における治療方針-conversion surgeryの是非- 遠隔転移を有する膵癌における化学療法によるconversion surgery. 第49回日本膵臓学会大会, 和歌山, 2018年6月29日.
  63. 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 膵粘液性嚢胞腫瘍におけるエストロゲンレセプターの機能に関して. 第49回日本膵臓学会大会, 和歌山, 2018年6月30日.
  64. 松木亮太, 鈴木裕, 小暮正晴, 横山政明, 杉山政則: 術後膵瘻の発生と閉腹前腹腔内洗浄液および腹腔内ドレーン排液培養の関連性の検討. 第49回日本膵臓学会大会, 和歌山, 2018年6月29-30日.
  65. 小暮正晴, 松木亮太, 横山政明, 鈴木裕, 杉山政則: 膵内副脾に生じたepithelial cystの1例. 第49回日本膵臓学会大会, 和歌山, 2018年6月29-30日.
  66. 土岐真朗, 仲田大輔, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 倉田勇, 岡野尚弘, 小暮正晴, 松木亮太, 横山政明, 立石秀勝, 鈴木裕, 柴原純二, 古瀬純司, 杉山政則, 森秀明, 久松理一: 新規膵臓癌診断マーカーである糖鎖修飾リボヌクレアーゼ1(RNase1)の有用性の検討. 第49回日本膵臓学会大会, 和歌山, 2018年6月29-30日.
  67. 横山政明, 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 倉田勇, 土岐真朗, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: ERCP後膵炎の重症化予測因子 内臓脂肪との関連. 第49回日本膵臓学会大会, 和歌山, 2018年6月29-30日.
  68. 横山政明, 倉田勇, 土岐真朗, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 鈴木裕, 森俊幸, 阿部展次, 杉山政則: ERCP後膵炎の重症化予測因子 内臓脂肪との関連. 和歌山, 2018年6月29 - 30日.
  69. 阪本良弘, 國土典宏, 久保正二, 肝内胆管癌診療ガイドライン作成委員会: 原発性肝癌取扱い規約第6版における肝内胆管癌の病期分類改訂点. UICC8版との比較. 第54回日本肝癌研究会, 久留米, 2018年6月29日.
  70. 下山勇人, 長尾玄, 橋本佳和, 阿部展次, 杉山政則, 吉池信哉, 船田さやか, 長濱清隆, 藤原正親, 柴原純二: 大動脈置換術後感染性人工血管瘤による人工血管食道瘻に対する1手術例. 第72回日本食道学会, 宇都宮, 2018年6月28-29日.
  71. 竹内弘久, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 成人鼠径ヘルニア鼠径部切開前方到達メッシュ法後の再発鼠径部ヘルニアに対する検討. 第16回日本ヘルニア学会学術集会, 札幌, 2018年6月30日.

72. 阪本良弘：膵頭十二指腸切除を行う上で大切にしている点. 第21回東京消化器手術懇話会, 東京, 2018年7月3日.
73. 吉敷智和, 正木忠彦, 松岡弘芳, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 紅谷鮎美, 阪本良弘, 森俊幸, 阿部展次: 小腸癌と十二指腸癌の分子異常の比較研究. 第89回大腸癌研究会, 新潟, 2018年7月5-6日.
74. 木庭露葉, 阿部展次, 松木亮太, 近藤恵里, 紅谷鮎美, 秋谷雅之, 竹内弘久, 鈴木裕, 阪本良弘, 正木忠彦, 森俊幸: 臓器病変のないサルコイドーシスに原発性胆汁性胆管炎を合併した1例. 第849回外科集談会, 東京, 2018年7月7日.
75. 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 腸回転解除法を応用したMesopancreas処理と神経叢郭清. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月11日.
76. 橋本佳和, 森俊幸, 吉敷智和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 初期研修医の内視鏡外科手術トレーニングにおけるタスク間の相関. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月11日.
77. 下山勇人, 鈴木裕, 橋本佳和, 長尾玄, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 照屋浩司: 術後咳嗽時疼痛改善における両側側腹部圧迫法の有効性について. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月11日.
78. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 吉本恵理, 近藤恵里, 鶴見賢直, 橋本佳和, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 高齢者早期胃癌—ESD非治癒切除例に経過観察は許容されるか—. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月11日.
79. 大道清彦, 有田淳一, 西岡裕次郎, 山下俊, 金子順一, 赤松延久, 阪本良弘, 長谷川潔: 5個以上の多発大腸癌肝転移に対する術前門脈塞栓術を併施した肝切除の検討. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月11日.
80. 金子順一, 小林光助, 有田淳一, 赤松延久, 阪本良弘, 関根里恵, 伊地知秀朗, 窪田直人, 深塚和彦, 長谷川潔: 肝切除周術期に対する夜食療法(late evening snack)-生体インビザンズ法による栄養評価. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月11日.
81. 松村優, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 長谷川潔: 肝内胆管癌再発に対する再切除症例の検討. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月11日.
82. 谷本芽弘理, 國土貴嗣, 有田淳一, 稲垣善則, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 長谷川潔: ICG不耐症を疑う症例におけるOATP1B3の発現解析. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月11日.
83. Kazami Y, Sakamoto Y, Kokudo T, Kawaguchi Y, Akamatsu N, Arita J, Kaneko J, Hasegawa K: Indication and surgical technique of hepatopancreaticoduodenectomy with combined resection of portal vein and hepatic artery for biliary cancer. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月12日.
84. 有田淳一, 阪本良弘, 赤松延久, 金子順一, 長谷川潔: UnresectableあるいはBorderline resectable膵癌に対する化学療法後切除術の長期成績. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月12日.
85. 小林祐太, 河口義邦, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 國土典宏, 長谷川潔: Couinaud 3 segments未満の解剖学的切除と非解剖学的切除の胆汁漏発生率の検討. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月12日.
86. 長谷川潔, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 幕内雅敏, 國土典宏: 肝臓外科におけるacademic surgeonを目指して. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月12日.
87. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 麻生喜祥, 吉敷智和, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 穿孔性大腸憩室炎による限局性腹腔内膿瘍に対する治療戦略. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月13日.
88. 竹内弘久, 阿部展次, 近藤恵里, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胃癌幽門側胃切除症例に対するNo1, No4sbリンパ節転移の検討. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月13日.
89. 船越早織, 小暮正晴, 松木亮太, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次, 長濱清隆, 岡野尚弘, 成毛大輔, 古瀬純司: 集学的治療が奏功し、conversion surgeryを行った胆嚢癌の一例. 第350回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2018年7月14日.
90. 阿部展次: 十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡補助下縮小手術の成績. 第18回EMR/ESD研究会, 東京, 2018年7月15日.
91. 森俊幸: どこまで見える イメージング最先端 8 KUHDカメラと外科の近未来. 第25回外科フォーラム, 東京, 2018年7月21日.
92. 阪本良弘: 肝内および肝外胆管癌の診断と治療. 第33回日本消化器病学会四国支部 教育講演会, 高松, 2018年7月22日.
93. 吉敷智和: 当院での外科教育の現状. 第5回外科教育研究会, 札幌, 2018年7月28 - 29日.
94. Sakamoto Y: Recent progress of surgical treatment for perihilar cancer. The 8<sup>th</sup> continuous medical education course of IASGO, Korea, 2018年7月30日.
95. 木庭露葉, 森俊幸, 橋本佳和, 鈴木裕, 阪本良弘, 正木忠彦, 阿部展次: 虫垂炎における急性期単孔式腹腔鏡下虫垂切除術の役割. 第12回単孔式腹腔鏡手術研究会 第19回Needlescopic Surgery Meeting, 札幌, 2018年8月4日.
96. 橋本佳和, 森俊幸, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 松岡弘芳, 阪本良弘, 正木忠彦, 阿部展次: 腹腔鏡下Nissen手術におけるReduced Port Surgeryの有用性と問題点. 第12回単孔式腹腔鏡手術研究会 第19回Needlescopic Surgery Meeting, 札幌, 2018年8月4日.
97. Masaki T (Invited lecture): TUMOR BUDDING IN COLORECTAL CANCER-BASIC AND CLINICAL IMPLICATIONS. International Colorectal Research Summit 2018., Korea, 2018年9月8日.
98. Masaki T (Invited lecture): Intraoperative Radiotherapy for advanced lower rectal cancer-up-date of Kyorin University trial. International Colorectal Research Summit 2018, Korea, 2018年9月8日.
99. 朽名貴史, 小嶋幸一郎, 紅谷鮎美, 麻生喜祥, 吉敷智和, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次: 経腔的切除可能であった直腸GISTの1例. 第351回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2018年9月22日.
100. 鈴木裕, 森俊幸, 横山政明, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 露口利夫, 田妻進, 滝川一, 阪本良弘, 阿部展次, 杉山政則: 肝内結石症診療の変遷と現況—全国調査40年間の解析—. 第54回日本胆道学会学術集会, 千葉, 2018年9月27日.
101. Masaki T, Kishiki T, Kojima K, Asoh Y, Beniya A, Watanabe T, Matsuoka H, Abe N: Treatment Strategy for Intra-pelvic Local Recurrence of Rectal Cancer-Is it feasible?. 第77回日本癌学会学術総会, 大阪, 2018年9月27日.
102. 吉敷智和, 正木忠彦, 松岡弘芳, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 紅谷鮎美, 阪本良弘, 森俊幸, 阿部展次: KRAS野生型転移性大腸癌の抗EGFR抗体薬治療における新しいbiomarkerの検討. 第77回日本癌学会総会, 大阪, 2018年9月27 - 29日.
103. 鈴木裕, 森俊幸, 横山政明, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 露口利夫, 田妻進, 滝川一, 阪本良弘, 阿部展次, 杉山政則: 肝内結石症診療の変遷と現況—全国調査40年間の解析—. 第54回日本胆道学会学術集会, 千葉, 2018年9月27日.

104. 松木亮太, 森俊幸, 阿部展次: 胆嚢結石症に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術困難症例から学ぶ術中合併症とその予防. 第54回日本胆道学会学術集会, 千葉, 2018年9月27日.
105. 木庭露葉, 松木亮太, 阪本良弘, 高木泰介, 秋谷雅之, 小暮正晴, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 三主要肝静脈を圧排した巨大肝細胞癌に対する肝中央二区域切除術. 第97回城西外科研究会プログラム, 東京, 2018年9月29日.
106. 森俊幸, 阪本良弘, 阿部信展, 斎藤英昭: 外科医の立場から手術部の良質な環境を再考する鏡視下手術室の効率的運用. 第40回日本手術医学会総会, 東京, 2018年10月12日.
107. 正木忠彦: 大腸がんの診断と治療における最近の話題. 第56回日本癌治療学会, 横浜, 2018年10月20日.
108. 大木亜津子, 竹内弘久, 鶴見賢直, 橋本佳和, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 高齢者の胃癌ESD非治癒切除例に対する追加外科治療の是非—eCura systemの活用—. JDDW2018KOBE, 神戸, 2018年11月1日.
109. 麻生喜祥, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則, 岡部直太, 柴原純二: 肺癌のS状結腸転移の1例. JDDW2018KOBE, 神戸, 2018年11月1-4日.
110. 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸: 胃SMTに対する筋層以深の内視鏡的切除法と腹腔鏡下手術の比較. JDDW 2018 KOBE, 神戸, 2018年11月3日.
111. 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 膠粘性嚢胞腫瘍におけるエストロゲンレセプターの機能的関与. 第60回日本消化器病学会大会 (JDDW2018), 神戸, 2018年11月3日.
112. 橋本佳和: LATG後の食道空腸吻合 efficient purse-string stapling technique (EST法)における工夫. 第二回多摩地区消化器外科手術スモールミーティング, 調布, 2018年11月10日.
113. 正木忠彦: クロウン病における腸管吻合のレビュー. 第10回IBD Surgical Forum, 東京, 2018年11月10日.
114. 竹内弘久, 阿部展次, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 阪本良弘, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胃癌Roux-en-Y再建後再建腸管狭窄(腹膜播種再発)に対する内視鏡的ステント留置術の検討. 第48回胃外科・術後障害研究会, 金沢, 2018年11月10日.
115. 秋谷雅之, 松木亮太, 木庭露葉, 高木泰介, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: 脾動脈合併切除を伴う膵頭十二指腸切除術 (PD-SAR) におけるICG蛍光法による残膵および脾臓血流評価. 東京, 2018年11月22日.
116. 阪本良弘, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 國土貴嗣, 長谷川潔, 國土典宏: Partial TIPE ALPPSを応用したHPD. 第80回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018年11月22日.
117. 高橋良輔, 谷本芽弘理, 阿部学, 國土貴嗣, 赤松延久, 有田淳一, 金子順一, 阪本良弘, 長谷川潔, 木村理: 右側肝門索を伴う肝内胆管癌に対するICG蛍光法を用いた肝S58腹側領域切除. 第80回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018年11月22日.
118. 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次: 腸回転解除法を用いた膵頭十二指腸切除術によるSMA周囲神経叢郭清の工夫. 第80回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018年11月23日.
119. Kogure M, Suzuki Y, Matsuki R, Yokoyama M, Abe N, Mori T, Sakamoto Y, Sugiyama M: Evaluation of surgical indications, surgical procedures and appropriate lymph node dissection for IPMN. 第80回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018年11月23日.
120. Matsuki R, Sakamoto Y, Nara S, Koba T, Takagi T, Akiya M, Kogure M, Suzuki Y, Mori M, Abe N: Central bisectionectomy with a liver tunnel for a hepatocellular carcinoma sized 15cm compressing the three major hepatic veins. 第80回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018年11月23日.
121. 野口ひかり, 松木亮太, 木庭露葉, 高木泰介, 秋谷雅之, 大森嘉彦, 小暮正晴, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 阪本良弘, 柴原純二, 阿部展次: 右胃大網静脈および横行結腸間膜内の静脈腫瘍栓を認めた肝細胞癌腹膜播種の1切除例. 第352回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2018年12月1日.
122. 吉敷智和: 明日から実践! 電気メスの基礎と安全使用のためのハンズオン. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018年12月5日.
123. 青木久恵, 伊藤契, 住田敏之: 膿瘍・腫瘤形成性虫垂炎に対するLaparoscopic interval appendectomy. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018年12月6-8日.
124. 麻生喜祥, 森俊幸, 紅谷鮎美, 小暮正晴, 小嶋幸一郎, 横山政明, 吉敷智和, 橋本佳和, 松岡弘芳, 正木忠彦, 阿部展次: 破裂肝嚢胞に対して腹腔鏡手術を行った1例. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018年12月6-8日.
125. 下山勇人, 橋本佳和, 竹内弘久, 長尾玄, 松岡弘芳, 阪本良弘, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 阿部展次: 両側側腹部圧迫法による腹腔鏡手術後の咳嗽痛改善の効果. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018年12月6-8日.
126. 大木亜津子, 鶴見賢直, 橋本佳和, 長尾玄, 竹内弘久, 森俊幸, 阿部展次: 胃癌における胃内洗浄細胞診—胃内蒸留水洗浄の有効性—. 第31回内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018年12月7日.
127. 橋本佳和, 阿部展次, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 松岡弘芳, 阪本良弘, 正木忠彦, 森俊幸: 縫合不全ゼロを目指した経口内視鏡を用いた食道空腸吻合 efficient purse-string stapling technique (EST法). 第31回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018年12月7日.
128. 竹内弘久, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸: 抗血栓薬内服・再発鼠径部ヘルニア症例に対する腹腔鏡観察下Mesh-plug法の有用性. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018年12月8日.
129. 木庭露葉, 吉敷智和, 鶴見賢直, 飯岡愛子, 秋谷雅之, 高木泰介, 鈴木裕, 阪本良弘, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次: ステロイド加療中の回腸人工肛門造設術後に壊死性筋膜炎を発生した1例. 第849回外科集談会, 東京, 2018年12月15日.

平成28年度追加分

- 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 小暮正晴, 松木亮太, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 腸回転解除を応用した膵頭十二指腸切除術の工夫 - 背側アプローチによるmesopancreas処理 -. 第116回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2016年4月14日.
- 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 小暮正晴, 松木亮太, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 大倉康男, 杉山政則: スコア式を用いたIPMNの治療戦略 - 手術適応と術式, 至適郭清範囲について -. 第102回日本消化器病学会総会, 東京, 2016年4月22日.
- 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 小暮正晴, 松木亮太, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 腸回転解除・mesopancreasの背側アプローチによる門脈合併切除膵頭十二指腸切除術の工夫. 第26回日本肝胆膵外科学会学術集会, 大阪, 2016年5月12日.
- 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 長尾玄, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 急性膵炎重症化および合併症併発における内臓脂肪の影響. 第33回日本胆膵病態・生理研究会, 大阪, 2016年6月11日.
- Suzuki Y, Nakazato T, Yokoyama M, Kogure M, Matsuki R, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Development and potential utility of a new scoring formula for prediction of malignant intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. The Joint Conference of the 47<sup>th</sup> annual

meeting of the Japan Pancreas Society, the 20<sup>th</sup> meeting of the International Association of Pancreatology, and the 6<sup>th</sup> meeting of the Asian Oceanic Pancreatic Association, Sendai, Aug. 6, 2016.

- 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: Mesopancreas背側アプローチによる膵頭十二指腸切除術の工夫. 第43回日本膵切研究会, 東京, 2016年8月20日.
- 鈴木裕, 森俊幸, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 露口利夫, 田妻進, 滝川一, 杉山政則: 肝内結石コホート調査 登録18年後の解析. 第52回日本胆道学会学術集会, 横浜, 2016年9月30日.
- 鈴木裕, 杉山政則: スコア式による膵IPMNの手術適応と術式選択, 至適郭清範囲. 第58回日本消化器病学会総会 (JDDW2016), 神戸, 2016年11月5日.
- 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 腸回転解除法を用いた膵頭十二指腸切除術. 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016年11月24日.

#### 平成29年度追加分

- 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 橋本佳和, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: IPMNにおける手術適応と術式選択, 至適郭清範囲について—スコア式の構築と検証. 第103回日本消化器病学会総会, 東京, 2017年4月21日.
- 鈴木裕, 森俊幸, 杉山政則: 肝内結石全国調査—18年後コホートの解析. 第103回日本消化器病学会総会, 東京, 2017年4月22日.
- 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 橋本佳和, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: IPMNにおける国際ガイドラインの再考—診療アルゴリズムの検証と術式選択, 至適郭清範囲について. 第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017年4月29日.
- Suzuki Y, Kim S, Momose H, Matsuki R, Yokoyama M, Nakazato T, Abe N, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Predictive factors for cholangiocarcinoma associated with hepatolithiasis determined on the basis of Japanese multicenter study. Joint congress of the 6<sup>th</sup> biennial congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, The 29<sup>th</sup> meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Yokohama, June 9, 2017.
- 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 膵粘液性嚢胞腫瘍におけるエストロゲンレセプターの機能に関して. 第34回日本胆膵病態・生理研究会, 福井, 2017年6月17日.
- 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 橋本佳和, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 土岐真朗, 岡野尚弘, 古瀬純司: IPMNの手術適応と術式選択, 至適郭清範囲-スコア式の構築と検証. 第48回日本膵臓学会大会, 京都, 2017年7月14日.
- 土岐真朗, 倉田勇, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 岡野尚弘, 蓮江智彦, 中村健二, 鈴木裕, 山口康晴, 両角克朗, 古瀬純司, 杉山政則, 高橋信一, 森秀明, 久松理一: ERCP関連手技におけるネックピローの有用性の検討. 第48回日本膵臓学会大会, 京都, 2017年7月14日.
- 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 橋本佳和, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: IPMNにおける国際ガイドライン・診療アルゴリズムの検証と術式選択, 至適郭清範囲について. 第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017年7月22日.

- 鈴木裕, 森俊幸, 横山政明, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 杉山政則, 伊佐山浩通, 露口利夫, 中沢貴宏, 能登原憲司, 田妻進, 田中篤, 滝川一: 予後からみた肝内結石の重症度分類—登録18年後のコホート調査から. 第53回日本胆道学会, 山形, 2017年9月29日.
- Suzuki Y, Sugiyama M: Intestinal derotation procedure and pancreatic duct holder for facilitating pancreatoduodenectomy. 第59回日本消化器病学会大会, 福岡, 2017年10月12日.
- Suzuki Y, Kim S, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Yokoyama M, Abe N, Mori T, Sugiyama M: The activation of the estrogen receptor affect the progression of pancreatic mucinous cystic neoplasms, The international pancreas research forum 2017 (IPRF2017), Matsumoto, Oct 28, 2017.
- 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 新たなスコア式による膵管内乳頭粘液性腫瘍の取扱い—手術適応と至適術式・郭清範囲の解析. 第46回杏林医学会総会, 三鷹, 2017年11月18日.

#### 論文

- 橋本佳和, 阿部展次, 高木泰介, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄: 特集 消化管粘膜下腫瘍 (SMT) の診療. 消化管粘膜下腫瘍に対する外科手術 (内視鏡外科手術, 開腹開胸手術). 臨床消化器内科33 : 1521-1531, 2018.
- Kishiki T, Lapin B<sup>1</sup>, Matsuoka H, Watanabe T, Takayasu K, Kojima K, Sugihara K<sup>2</sup>, Masaki T ( <sup>1</sup>NorthShore University HealthSystem, <sup>2</sup>Tokyo Medical and Dental University) : Optimal Surveillance Protocols After Curative Resection in Patients With StageIV Colorectal Cancer: A Multicenter Retrospective Study. Dis Colon Rectum. 2018 Jan;61(1):51-57. doi: 10.1097/DCR.0000000000000950.
- Kishiki T<sup>1</sup>, Lapin B<sup>1</sup>, Wang C<sup>1</sup>, Jonson B<sup>1</sup>, Patel L<sup>1</sup>, Zapf M<sup>1</sup>, Gitelis M<sup>1</sup>, Cassera MA<sup>2</sup>, Swanström LL<sup>2,3</sup>, Ujiki MB<sup>4</sup> ( <sup>1</sup>A Teaching Affiliate of the University of Chicago Pritzker School of Medicine, <sup>2</sup>The Oregon Clinic, <sup>3</sup>Institute for Image Guided Surgery, <sup>4</sup>NorthShore University HealthSystem) : Teaching peroral endoscopic myotomy (POEM) to surgeons in practice: an "into the fire" pre/post-test curriculum. Surg Endosc. 2018 Mar;32(3):1414-1421. doi: 10.1007/s00464-017-5823-3.
- Haggerty S<sup>1</sup>, Kishiki T, Ujiki M<sup>1</sup>, Wang C<sup>1</sup>, Schindler N<sup>1</sup> (NorthShore University HealthSystem) : Moving skills training closer to application: In-rotation skills curriculum is feasible and effective. Am J Surg. 2018 Feb;215(2):272-276. doi: 10.1016/j.amjsurg.2017.10.043.
- 麻生喜祥, 森俊幸, 小暮正晴, 橋本佳和, 正木忠彦, 杉山政則: 腹腔鏡下修復術を行った成人Bohdalek孔ヘルニアの2例. 日本内視鏡外科学会雑誌 23 : 527-536, 2018.
- Nakazato T, Suzuki Y, Tanaka R, Masaki T, Mori T, Ohkura Y<sup>1</sup>, Sugiyama M ( <sup>1</sup>Kyorin University Department of Pathology) : Effect of *Reprimo* down-regulation on malignant transformation of intraductal papillary mucinous neoplasm. Pancreas 47:291-295, 2018.
- Takeuchi H, Abe N, Kondou E, Tsurumi M, Hashimoto Y, Ooki A, Nagao G, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Endoscopic self-expandable metal stent placement for malignant afferent loop obstruction caused by peritoneal recurrence after total gastrectomy. International Cancer Conference Journal 7 : 98-102, 2018.
- Higuchi S, Kabeya Y, Matsushita K, Tachibana K, Kawachi R, Takei H, Suzuki Y, Abe N, Imanishi Y, Moriyama K, Yorozu T, Saito K, Sugiyama M, Kondo H, Yoshino H: The study protocol for PREDICT AF

- RECURRENCE: A prospective cohort study of surveillance for perioperative Atrial Fibrillation RECURRENCE in major non-cardiac surgery for malignancy. *BMC Cardiovasc Disord* 18: 127, 2018.
9. Inui K, Masamune A, Igarashi Y, Ohara H, Tazuma S, Sugiyama M, Suzuki Y, Miyoshi H, Yamamoto S, Takeyama Y, Nakano E, Takuma K, Sakagami J, Hayashi K, Kogure A, Ito T, Mukai T, Maetani I, Nagahama M, Serikawa M, Ueki T, Furuya K, Isayama H, Moriyama I, Shigeno M, Mizukami K, Nanashima A, Oana S, Ikehata A, Watanabe N, Hirooka Y, Ogoshi K, Sasaki Y, Iwata Y, Kudo Y, Nakayama A, Nakamura M : Management of Pancreatolithiasis: A Nationwide Survey in Japan. *Pancreas* 47: 708-714, 2018.
  10. Matsuki R, Sugiyama M, Yoshiike S, Shibahara J, Kogure M, Yokoyama M, Suzuki Y, Abe N, Masaki T, Mori T : Spontaneous regression of colorectal liver metastasis. *Clin J Gastroenterol* 11: 263-267, 2018.
  11. Suzuki Y, Mori T, Yokoyama M, Kim S, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Abe N, Isayama H, Nakazawa T, Notohara K, Tanaka A, Tsuyuguchi T, Tazuma S, Takikawa H, Sugiyama M : A proposed severity classification system for hepatolithiasis based on an analysis of prognostic factors in a Japanese patient cohort. *J Gastroenterol* 53: 854-860, 2018.
  12. 松木亮太, 杉山政則, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘, 阿部展次 : 手術手技 腸回転解除法を用いた膵頭十二指腸切除術 (PD) と ICG 蛍光法を用いた mesopancreas のリンパ流の同定. *手術72*: 1881-1887, 2018.
  13. 小暮正晴, 鈴木裕, 松木亮太, 横山政明, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次, 杉山政則 : 【胆膵ドレナージupdate】 【術後合併症に対するドレナージ】 術後胆汁瘻と胆管損傷. *消化器内視鏡* 30: 1647-1652, 2018.
  14. 小暮正晴, 鈴木裕, 松木亮太, 横山政明, 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次, 杉山政則 : 【早わかり内視鏡関連ガイドライン 2018】 胆膵 エビデンスに基づいた胆道癌診療ガイドライン. *消化器内視鏡* 30: 1325-1331, 2018.
  15. 杉山政則, 鈴木裕, 阿部展次 : 【Biliary access大辞典】 手技の背景・歴史・コンセプト 外科的biliary access. *胆と膵* 39巻臨時特大: 951-953, 2018.
  16. 鈴木裕, 阪本良弘, 阿部展次 : 【胆膵疾患アトラス】 胆管 拡張 IPNB. *消化器内視鏡* 30巻増刊: 144-145, 2018.
  17. 鈴木裕, 阪本良弘, 阿部展次 : 【胆膵疾患アトラス】 膵臓 膵管狭窄 膵外傷. *消化器内視鏡* 30巻増刊: 104-105, 2018.
  18. 松木亮太, 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 小暮正晴, 横山政明, 阪本良弘, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則 : 【徹底解説! 膵尾側切除を極める】 総論 非膵癌腫瘍に対する膵体尾部切除術の適応と縮小手術の位置付け. *臨床外科* 73: 923-925, 2018.
  19. 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊幸, 阿部展次, 杉山政則 : 【胆膵疾患と性差医学】 性差による臨床像の差違 膵粘液性嚢胞腫瘍(MCN). *胆と膵* 39: 539-542, 2018.
  20. 本多五奉, 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 杉山政則 : 【膵癌update】 疫学・基礎 危険因子. *臨床消化器内科* 33: 715-719, 2018.
  21. 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則 : 【膵疾患の診断と治療-21世紀の進歩とUp-to-date】 嚢胞性膵腫瘍(IPMN, MCN)の診断と治療. *カレントセラピー* 36: 531-536, 2018.
  22. 阿部展次, 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 森俊幸, 阪本良弘, 杉山政則 : 【どうする膵嚢胞】 IPMNに対する外科治療 腹腔鏡下手術を中心に. *消化器内視鏡* 30: 611-620, 2018.
  23. 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 森俊幸, 杉山政則 : 【ここまできた胃・十二指腸ESD-現状と今後の展望】 非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍に対する低侵襲治療 非乳頭部表在性十二指腸上皮性腫瘍に対する縮小手術. *消化器内視鏡* 30: 517-526, 2018.
  24. 本多五奉, 鈴木裕, 中里徹矢, 近藤恵里, 磯村杏耶, 菅間博, 森俊幸, 杉山政則 : 著しい可動性を有した膵漿液性嚢胞腫瘍の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 79: 585-589, 2018.
  25. 杉山政則, 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸 : 【徹底解説! 膵頭十二指腸切除の手術手技】 手術手技 術野展開 腸回転解除法. *臨床外科* 73: 292-297, 2018.
  26. 杉山政則, 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 小暮正晴, 松木亮太, 阿部展次 : 【これだけは知っておきたい 膵外傷のマネジメント】 膵外傷のEUS診断. *胆と膵* 39: 41-43, 2018.
  27. 阿部展次 : 胃癌縮小手術の現状と展望. *胃癌perspective* 10:5-14, 2018.
  28. 阿部展次, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 杉山政則 : 外科医はどのように術前リスク評価しているか?. *消化器内視鏡* 30: 945-949, 2018.
  29. 阿部展次 : 胃がん治療に対する外科手術のトピックス. *日本医師会雑誌* 147: 1246-1248, 2018.
  30. Masaki T, Kishiki T, Kojima K, Asou N, Beniya A, Matsuoka H : Recent trends (2016-2017) in the treatment of inflammatory bowel disease. *Ann Gastroenterol Surg* 2(4):282-288, 2018.
  31. 正木忠彦 : 高齢化社会における大腸癌診療の問題点. *成人病と生活習慣病* 48(5):495-500, 2018.
  32. 森俊幸, 坂井義治 : 【キャリアアップのための産婦人科関連専門医・認定医ガイド】 日本内視鏡外科学会技術認定(産科婦人科領域)産科と婦人科 85巻Suppl : 76-80, 2018.
  33. 山口高史, 森俊幸 : Reduced Port Surgery 制限克服のための達人からの提言 RPSにおけるトレーニング法・縫合技術. *臨床外科* 73(5):604-610, 2018
  34. 森俊幸, 阪本良弘, 阿部展次 : 内視鏡外科の進歩 各分野における歴史と未来. *胆道 消化器外科* 41(13):1785-1792, 2018.
  35. Shirata C, Kawaguchi Y, Kobayashi K, Kobayashi Y, Arita J, Akamatsu N, Kaneko J, Sakamoto Y, Kokudo N, Hasegawa K : Usefulness of indocyanine green-fluorescence imaging for real-time visualization of pancreas neuroendocrine tumor and cystic neoplasm. *J Surg Oncol* 118:1012-20, 2018.
  36. Kobayashi K, Kawaguchi Y, Arita J, Akamatsu N, Kaneko J, Sakamoto Y, Hasegawa K, Kokudo N : Parenchyma-sparing liver resection for hepatocellular carcinoma in left lateral section is associated with better liver volume recovery. *HPB (Oxford)* 20:949-55, 2018.
  37. Yamaguchi T, Kokudo T, Akamatsu N, Kaneko J, Arita J, Sakamoto Y, Kokudo N, Hasegawa K : Liver Regeneration is Preserved After At Least Four Repeated Liver Resections for Hepatocellular Carcinoma. *World J Surg* 42:4070-80, 2018.
  38. Shirata C, Hasegawa K, Kokudo T, Yamashita S, Yamamoto S, Arita J, Akamatsu N, Kaneko J, Sakamoto Y, Kokudo N : Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma in Patients with Renal Dysfunction. *World J Surg* 42:4054-62, 2018.
  39. Maki H, Sakamoto Y, Kawaguchi Y, Akamatsu N, Kaneko J, Arita J, Hasegawa K, Kokudo N : Anatomical Boundary Between the Caudate Lobe of the Liver and Adjacent Segments Based on Three-Dimensional Analysis for Precise Resections. *J Gastrointest Surg* 22:1079-14, 2018.

40. Saito K, Isayama H, Sakamoto Y, Nakai Y, Ishigaki K, Tanaka M, Watadani T, Arita J, Takahara N, Mizuno S, Kogure H, Ijichi H, Tateishi K, Tada M, Hasegawa K, Fukayama M, Kokudo N, Koike K : A phase II trial of gemcitabine, S-1 and LV combination (GSL) neoadjuvant chemotherapy for patients with borderline resectable and locally advanced pancreatic cancer. *Med Oncol* 35:100, 2018.
41. Ito K, Sakamoto Y, Isayama H, Nakai Y, Watadani T, Tanaka M, Ushiku T, Akamatsu N, Kaneko J, Arita J, Hasegawa K, Kokudo N : The Impact of MDCT and Endoscopic Transpapillary Mapping Biopsy to Predict Longitudinal Spread of Extrahepatic Cholangiocarcinoma. *J Gastrointest Surg* 42:891-7, 2018.
42. Tanaka M, Ushiku T, Ikemura M, Takazawa Y, Igari T, Shimizu M, Yamaguchi H, Fukushima N, Sakuma K, Arita J, Sakamoto Y, Hasegawa K, Watadani T, Nakai Y, Koike K, Fukayama M : Pancreatic Lipomatous Hamartoma: A Hitherto Unrecognized Variant. *Am J Surg Pathol* 42:891-7, 2018.
43. Xia J, Rong L, Sawakami T, Inagaki Y, Song P, Hasegawa K, Sakamoto Y, Tang W : Shufeng Jiedu Capsule and its active ingredients induce apoptosis, inhibit migration and invasion, and enhances doxorubicin therapeutic efficacy in hepatocellular carcinoma. *Biomed Pharmacother* 99:921-30, 2018.
44. Hiroyoshi J, Yamashita S, Tanaka M, Hayashi A, Ushiku T, Kaneko J, Akamatsu N, Arita J, Sakamoto Y, Hasegawa K : Contrast-enhanced intraoperative ultrasound in the resection of colorectal liver metastases with intrabiliary growth. *Clin J Gastroenterol* 11:348-53, 2018.
45. Kobayashi Y, Sakamoto Y, Arita J, Akamatsu N, Kaneko J, Hasegawa K, Kokudo N : Vascular anatomy of the jejunal mesentery and complications associated with division of the first jejunal venous trunk during pancreaticoduodenectomy. *J Surg Oncol* 117:1297-304, 2018.
46. Maki H, Kaneko J, Arita J, Akamatsu N, Sakamoto Y, Hasegawa K, Tamura S, Takao H, Shibata E, Kokudo N : Proximal total splenic artery embolization for refractory hepatic encephalopathy. *Clin J Gastroenterol* 11:156-60, 2018.
47. Tani K, Ishizawa T, Sakamoto Y, Hasegawa K, Kokudo N : Surgical Approach to "Right Hepatic Core": Deepest Region Surrounded by Major Portal Pedicles and Right Hepatic Vein. *Dig Surg* 35:350-8, 2018.
48. Kobayashi Y, Omichi K, Kawaguchi Y, Arita J, Akamatsu N, Kaneko J, Sakamoto Y, Hasegawa K, Kokudo N : Intraoperative real-time tissue elastography during laparoscopic hepatectomy. *HPB (Oxford)* 20:93-9, 2018.
49. Tani K, Shindoh J, Akamatsu N, Arita J, Kaneko J, Sakamoto Y, Hasegawa K, Kokudo N : Management of disappearing lesions after chemotherapy for colorectal liver metastases: Relation between detectability and residual tumors. *J Surg Oncol* 117:191-7, 2018.
50. Sakamoto Y, Matsumura M, Yamashita S, Ohkura N, Hasegawa K, Kokudo N : Partial TIPE ALPPS for Perihilar Cancer. *Ann Surg* 267:e18-20, 2018.
51. Ito K, Kawaguchi Y, Sakamoto Y, Arita J, Hasegawa K, Kokudo N : Predictors of Postoperative Non-Chylous Massive Discharge after Pancreaticoduodenectomy for Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. *Dig Surg* 335:252-60, 2018.
52. Shirata C, Hasegawa K, Kokudo T, Arita J, Akamatsu N, Kaneko J, Sakamoto Y, Makuuchi M, Kokudo N : Surgical Site Infection after Hepatectomy for Hepatocellular Carcinoma. *Dig Surg* 35:204-11, 2018.
53. Mise Y, Hasegawa K, Satou S, Shindoh J, Miki K, Akamatsu N, Arita J, Kaneko J, Sakamoto Y, Kokudo N : How Has Virtual Hepatectomy Changed the Practice of Liver Surgery?: Experience of 1194 Virtual Hepatectomy Before Liver Resection and Living Donor Liver Transplantation. *Ann Surg* 268:127-33, 2018.
54. Aoki T, Sakamoto Y, Kohno Y, Akamatsu N, Kaneko J, Sugawara Y, Hasegawa K, Makuuchi M, Kokudo N : Hepatopancreaticoduodenectomy for Biliary Cancer: Strategies for Near-zero Operative Mortality and Acceptable Long-term Outcome. *Ann Surg* 267:332-7, 2018.
55. 鈴木裕, 森俊幸, 横山政明, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 中里徹矢, 阪本良弘, 阿部展次 : 胆汁酸の臨床応用 UDCAにおける総胆管結石・肝内結石再発予防と発癌抑制効果. *肝・胆・膵* 77: 77-9, 2018.
56. 風見由祐, 阪本良弘, 赤松延久, 有田淳一, 金子順一, 長谷川潔 : 膵頭十二指腸切除に必要な局所解剖 Replaced right hepatic arteryへの対応法. *臨床外科* 73: 238-43, 2018.
57. 阿部展次, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 森俊幸, 杉山政則 : 外科医はどのようにリスク評価をしているか?. *消化器内視鏡* 30: 945-9, 2018.
58. 長谷川潔, 有田淳一, 國土貴嗣, 河口義邦, 大道清彦, 長田梨比人, 松村優, 富樫順一, 山下俊, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 國土典宏 : 肝胆膵外科領域の臨床研究. *日本外科学会雑誌* 119: 443-4, 2018.
59. 金子順一, 伊藤大介, 赤松延久, 有田淳一, 阪本良弘, 田村純人, 長谷川潔 : 肝移植後腹水の病態と対策. *外科* 80: 614-8, 2018.
60. 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 長谷川潔 : 肝癌治療のアルゴリズム. *臨床消化器内科* 33: 605-11, 2018.
61. 大道清彦, 有田淳一, 赤松延久, 金子順一, 阪本良弘, 長谷川潔 : 成因・病態 肝切除危険因子としてのNASH. *肝・胆・膵* 76: 582-6, 2018.
62. Hanada K, Kurihara K, Itoi T, Katanuma A, Sasaki T, Hara K, Nakamura M, Kimura W, Suzuki Y, Sugiyama M, Ohike N, Fukushima N, Shimizu M, Ishigami K, Gabata T, Okazaki K : Clinical and Pathological Features of Solid Pseudopapillary Neoplasms of the Pancreas A Nationwide Multicenter Study in Japan. *Pancreas*47: 1019-1026, 2018.
63. Ohki A, Abe N, Yoshimoto E, Hashimoto Y, Takeuchi H, Nagao G, Masaki T, Mori T, Ohkura Y, Sugiyama M : Gastric washing by distilled water can reduce free gastric cancer cells exfoliated into the stomach lumen. *Gastric Cancer* 21(6): 998-1003, 2018.

#### 平成28年度追加分

1. Suzuki Y, Nakazato T, Yokoyama M, Kogure M, Matsuki R, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Development and potential utility of a new scoring formula for prediction of malignant intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. *Pancreas* 45: 1227-1232, 2016.
2. 鈴木裕, 森俊幸, 杉山政則 : 胆汁酸と肝内胆管癌 ウルソの役割. *たんじゅうさん* 15 : 20-21, 2016.
3. 鈴木裕, 森俊幸, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則 : 消化器・一般外科医のための救急・集中治療のすべて 肝胆膵 急性胆嚢炎. *臨床外科* 71 : 292-296, 2016.

- 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 分枝型IPMNに対する手術方針 切除範囲とリンパ節郭清. 外科78: 1170-1174, 2016.
- 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胆管結石の治療strategy. 臨床消化器内科 32: 9-13, 2016.

著書

- Sakamoto Y (co-Editor): Operative records of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery at the University of Tokyo Hospital. Our surgical style Tokyo. Kokudo N (Editor), Karger, 2018.
- 正木忠彦(編集): ビジュアルサージカル 消化器外科手術下部消化管. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2018年.
- 下山勇人(分担執筆): 術式と留置部位. ドレドレ博士の熱血教室! 若手ナースのためのドレーン管理Q&Aレクチャー. 跡見裕, 炭山嘉伸, 田中雅夫, 中尾昭公, 門田守人. 大阪, メディカ出版, 2018. p.28-39.

平成29年度追加分

- Suzuki Y, Mori T, Tazuma S, Takikawa H, Sugiyama M: Progress in diagnosis and surgical treatment. Gallstones Recent advances in epidemiology. Pathogenesis, Diagnosis and management. Wang D.Q.H and Portincasa P editors, NY, Nova Science Publisher, Inc. 2017. P.595-602.
- 鈴木裕, 杉山政則: 膵嚢胞性腫瘍 膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN). 新膵臓病学. 下瀬川徹編集. 東京, 南江堂, 2017. P. 376-380.

その他

- 竹内弘久(コメンテーター): 要望演題8. 第54回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2018年3月8日.
- 阿部展次(座長): 胃SMTの診断・治療(一般演題). 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2018年5月10日.
- 阿部展次(座長): 内視鏡検査におけるタイムアウトの意義. 第3回内視鏡検査・周術期管理の標準化に向けた研究会, 東京, 2018年5月12日.
- 森俊之(司会): 小児肥満と肥満外科手術(シンポジウム3). 第36回日本肥満症治療学会学術集会, 東京, 2018年6月16日.
- 森俊之(司会): 周術期のチーム医療(シンポジウム1). 第31回日本小切開・鏡視下外科学会, 広島, 2018年6月29日.
- 森俊之(司会): 結腸癌に対するRPSの現状と展望(WS-6). 第73回日本消化器外科学会, 鹿児島, 2018.7.11
- 阿部展次(座長): ヘルニア. 第73回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018年7月12日.
- 阿部展次(座長): 上部消化管MIS. 7th Reduced Port Surgery Forum 2018 in Sapporo, 札幌, 2018年8月4日.
- 森俊之(司会): 腹腔鏡2(一般演題), 第54回日本胆道学会, 千葉, 2018.9.27.
- 鈴木 裕: 再発繰り返す肝内結石症. 釧路新聞 2018年11月19日.
- 森俊之(司会): 胆道(教育セミナー). 第30回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.6.
- 森俊之(司会): 保健医療財政における内視鏡外科の存在を考える—費用対効果の観点から見て(特別企画3). 第30回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.7.

平成28年度追加分

- Suzuki Y (Moderators): Poster session, Basic and Medical Team Support. The Joint Conference of the 47th annual meeting of the Japan Pancreas Society, the 20th meeting of the International Association of Pancreatology, and the 6th meeting of the Asian Oceanic Pancreatic Association, Sendai, Aug. 5, 2016.

平成29年度追加分

- 阿部展次: Hands-on(胃・大腸モデル)指導. 第8回佐賀内視鏡セミナー, 佐賀, 2017年7月13日.

外科学教室  
(呼吸器・甲状腺外科)

講演  
国際学会

- Tanaka R, Sakamoto N, Suzuki H, Tachibana K, Takei H, Kishimoto K, Fujiwara M, Kamma H, Shibahara J, Kondo H: Comparison between Cytomorphological Characteristics and Radiological Features in Non-small Cell Lung Cancer. The 17th Korea-Japan Joint Meeting for Diagnostic Cytopathology, Korea, September 10th, 2018.
- Yoshida T, Atsumi J, Togo T, Shimoda K, Hiramatsu M, Shiraishi Y, Arai T: Aggressive Surgical Treatment for Pulmonary TB. 28th Annual Congress of The Association of Thoracic and Cardiovascular Surgeons of Asia. Indonesia, October 25th-28th, 2018.
- Tanaka R: The value of repeated metastasectomy -LUNG METASTASES OF COLORECTAL ORIGIN-. Fourth International Joint Meeting on Thoracic Surgery, Spain, November 29th, 2018.
- Tanaka R: The especial case of interstitial lung disease - TREATMENT OF LUNG CANCER IN A PATIENT WITH POOR PFT'S-. Fourth International Joint Meeting on Thoracic Surgery, Spain, November 30th, 2018.

国内学会

- 田中良太, 吉敷智和, 近藤晴彦: Off-the-Job Training (OJT)を活用したトレーニングシステムの開発と環境整備. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5日.
- 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦: Multi-Angle method for making thoracoscopic surgery safer more. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月6日.
- 清水公裕, 桑野博行, 奥村武弘, 朴成和, 兵頭一之介, 盛啓太, 近藤晴彦: 大腸癌肝転移根治切除後の肺転移に対する積極的切除の意義. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
- 古田めぐみ, 相澤陽太, 田中良太, 富田泰彦, 赤木美智男, 近藤晴彦: 外科医を志す学生を対象とした皮膚縫合セミナーの有用性. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月7日.
- 近藤晴彦: 区域切除術におけるリンパ節郭清というIssue. 第19回胸骨正中経路による肺癌手術懇話会, 東京, 2018年4月14日.
- 近藤晴彦: 転移性肺腫瘍の外科治療~Update~ 特に大腸癌の肺転移について. 第171回城西胸部画像研究会, 武蔵野, 2018年4月17日.
- 近藤晴彦: 呼吸器外科におけるconsensusとcontroversy 5個以上の大腸癌肺転移および乳癌肺転移への手術適応について. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 千葉, 2018年5月17日.
- 佐藤寿彦, 伊達洋至, 岡田守人, 鈴木健司, 近藤晴彦, 吉野一郎, 中島淳, 奥村明之進, 光富徹哉, 関根郁夫, 坂本晋, 岸一馬, 本間栄(日本呼吸器外科学会REVEAL-IPワーキンググループ): 間質性肺炎合併肺癌患者の術後急性増悪に関する前向き研究(REVEAL-IP)進捗状況の報告. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 千葉, 2018年5月17日.
- 橋啓盛, 三浦隼, 三ツ間智也, 清水麗子, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 武井秀史, 藤原正親, 菊安俊哉, 町田治彦, 横山健一, 近藤晴彦: 肺癌画像診断における超高精細CTの有用性.

- 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 千葉, 2018年5月17日.
10. 古屋敷剛, 須田一晴, 近藤晴彦: 当施設における難治性気胸症例に対する癒着剤フィブリングルー併用療法. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 千葉, 2018年5月17日.
  11. 清水麗子, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 武井秀史, 黒木一典, 近藤晴彦: 肺動静脈瘻の治療 肺切除かコイル塞栓か?. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 千葉, 2018年5月17日.
  12. 三浦隼, 武井秀史, 三ツ間智也, 清水麗子, 橘啓盛, 田中良太, 長島鎮, 宮敏路, 近藤晴彦: 特発性気胸20例の臨床的検討. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 千葉, 2018年5月18日.
  13. 新井信晃, 清嶋護之, 川端俊太郎, 鈴木久史, 雨宮隆太, 飯嶋達生: 長期生存を得る肺癌肺転移に対する治療法の検討. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 千葉, 2018年5月18日.
  14. 清水麗子, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 武井秀史, 近藤晴彦: 気管支鏡下に切除した気管支内過誤腫の1例. 第41回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2018年5月24日.
  15. 近藤晴彦: 30周年おめでとう! 静岡呼吸器外科医会. 静岡呼吸器外科医会30周年記念大会, 浜松, 2018年6月9日.
  16. 柳澤良晃, 田中良太, 三浦隼, 清水麗子, 藤原正親, 近藤晴彦: 肺良性転移性平滑筋腫 (Pulmonary Benign Metastasizing Leiomyoma) の1例. 第177回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2018年6月23日.
  17. 早川怜那, 三ツ間智也, 千葉知宏, 中里陽子, 近藤晴彦, 菅間博, 平野浩一: 当院で経験した著明な気道狭窄を伴うPendred症候群疑いの1例. 第30回日本内分泌外科学会総会, 札幌, 2018年6月29日.
  18. 三ツ間智也, 宮敏路, 中里陽子, 近藤晴彦, 菅間博, 平野浩一: 甲状腺扁平上皮癌に対してレンパチニブを導入し治療継続している1例. 第30回日本内分泌外科学会総会, 札幌, 2018年6月29日.
  19. 近藤晴彦: 超高精細CTによる肺がんの画像診断. 第40回東京胸部外科懇話会, 東京, 2018年7月16日.
  20. 渋谷幸見, 橘啓盛, 高橋俊博, 三浦隼, 三ツ間智也, 新井信晃, 田中良太, 須田一晴, 長島鎮, 宮敏路, 武井秀史, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 胸腺原発Mucinous adenocarcinomaの1例. 第182回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2018年7月7日.
  21. 須田一晴: 肺癌に対する胸腔鏡下アプローチ. 第172回城西胸部画像研究会, 武蔵野, 2018年7月24日.
  22. 田中良太: Off-the-Job Training (OJT) を活用した胸腔鏡トレーニングの現状と展望. 5th Surgical Education Summit, 札幌, 2018年7月28日.
  23. 武井秀史, 高橋俊博, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 新井信晃, 橘啓盛, 須田一晴, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦: EWSの適応と手技を再度考えるー外科医の立場から. 第22回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会, 岡山, 2018年9月1日.
  24. 近藤晴彦: 転移性肺腫瘍に対する外科治療を考える. 第13回大分肺がんセミナー, 大分, 2018年9月7日.
  25. 長久保こずえ, 中里陽子, 高橋俊博, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 新井信晃, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 武井秀史, 千葉知宏, 菅間博, 平野浩一, 近藤晴彦: 多発肋骨骨折を契機に発見された副甲狀腺癌の1例. 第850回外科集談会, 東京, 2018年9月29日.
  26. 宮敏路: 非小細胞肺癌治療の最新トピックス. 第56回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018年10月18日.
  27. 宮敏路: 肺がん薬物療法の進歩ー分子標的薬剤と免疫チェックポイント阻害剤ー. 第56回日本癌治療学会学術集会市民公開講座, 横浜, 2018年10月18日.
  28. 渋谷幸見, 須田一晴, 宮敏路, 武井秀史, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 肋骨原発血管腫に対する胸腔鏡下腫瘍切除術. 第178回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2018年11月3日.
  29. 田中良太, 坂本憲彦, 鈴木瞳, 新井信晃, 橘啓盛, 岸本浩次, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 呼吸器細胞診における細胞採取と検体処理法. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2018年11月18日.
  30. 長島鎮, 高橋俊博, 三浦隼, 渋谷幸見, 新井信晃, 三ツ間智也, 須田一晴, 中里陽子, 橘啓盛, 田中良太, 宮敏路, 武井秀史, 平野浩一, 近藤晴彦: 術後デブリーフィングの導入と評価ー安全な手術の為にー. 第80回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018年11月23日.
  31. 近藤晴彦: 安全な解剖学的肺切除のために. 第80回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018年11月24日.
  32. 近藤晴彦: WHO 2015 病期分類: わが国の外科医の立場から. 第59回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018年11月29日.
  33. 須田一晴, 古屋敷剛, 三浦隼, 渋谷幸見, 武井秀史, 田中良太, 長島鎮, 橘啓盛, 新井信晃, 高橋俊博, 近藤晴彦: 完全鏡視下右上葉管状切除術+肺動脈形成術. 第59回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018年11月29日.
  34. 高橋俊博, 田中良太, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 新井信晃, 須田一晴, 中里陽子, 橘啓盛, 長島鎮, 武井秀史, 高山信之, 岡部直太, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 当初胸腺腫が疑われた縦隔節外性MALTリンパ腫の1例. 第59回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018年12月1日.
  35. 新井信晃, 高橋俊博, 橘啓盛, 近藤晴彦, 磯谷一暢, 藤原正親, 菅間博: 多発性血管炎性肉芽腫症 (従来Wegener肉芽腫症) の肺内結節に扁平上皮癌を認めた1例. 第183回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2018年12月15日.
  36. 橘啓盛: ICGによる術中の血流評価が有用であった先天性嚢胞状腺腫様形成異常に対する肺切除術. 第7回多摩呼吸器外科医会, 立川, 2019年1月26日.
  37. 須田一晴: 鏡視下アプローチにおける分葉不全右下葉切除術. 第12回General Thoracic Surgical Forum, 東京, 2019年2月2日.
  38. 須田一晴, 古屋敷剛, 高橋俊博, 三浦隼, 渋谷幸見, 新井信晃, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 武井秀史, 近藤晴彦: 完全鏡視下右下葉管状切除術+気管支形成術. 第28回日本呼吸器外科医会冬期学術集会, 山形, 2019年2月8-9日.
  39. 新井信晃, 須田一晴, 高橋俊博, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 中里陽子, 橘啓盛, 長島鎮, 田中良太, 武井秀史, 宮敏路, 平野浩一, 近藤晴彦, 藤原正親, 菅間博: 当院における肺多型癌症例の検討. 第184回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2019年3月9日.
  40. 須田一晴: 肺癌に対する外科治療の変遷ー低侵襲手術への挑戦ー. 第14回三鷹市民公開講座, 三鷹, 2019年3月23日.

## 論文

1. Tanaka R, DeAsis F<sup>1</sup>, Vigneswaran Y<sup>1</sup>, Linn J<sup>1</sup>, Carbray J<sup>1</sup>, Denham W<sup>1</sup>, Haggerty S<sup>1</sup>, Ujiki M<sup>1</sup> (1Department of Surgery, Section of Minimally Invasive Surgery, NorthShore University HealthSystem.): Video review program enhances resident training in laparoscopic inguinal hernia: a randomized blinded controlled trial. Surg Endosc 32:2847-2851, 2018. DOI: 10.1007/s00464-017-5992-0.
2. Tanaka R, Tachibana K, Suda K, Kondo H, Noguchi M<sup>1</sup> (1Department of Pathology, Institute of Basic Medical Sciences, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba): A severe combined

- immunodeficiency disease mouse model of human adenocarcinoma with lepidic-predominant growth. *Pathol Res Pract* 214:2000–2003, 2018. DOI: 10.1016/j.prp.2018.09.021.
- Tanaka R, Sakamoto N<sup>1</sup>, Suzuki H<sup>1</sup>, Tachibana K, Ohtsuka K<sup>2</sup>, Kishimoto K<sup>1</sup>, Fujiwara M<sup>1</sup>, Kamma H<sup>1</sup>, Shibahara J<sup>1</sup>, Kondo H (1Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Clinical Laboratory, Kyorin University School of Medicine): Genotyping and Cytomorphological Subtyping of Lung Adenocarcinoma based on Liquid-based Cytology. *Diagn Cytopathol* 2019. DOI: 10.1002/dc.24154.
  - Morimoto Y<sup>1</sup>, Takei H, Tachibana K, Nakazato Y, Tanaka R, Nagashima Y, Watanabe K, Seki R<sup>2</sup>, Shinohara T<sup>2</sup>, Kondo H (1Showa Pharmaceutical University, 2Department of Pharmacy, Kyorin University Hospital.): Risk factors for chest pain and fever in patients undergoing pleurodesis with OK-432. *Intern Med* 57(12): 1697-1702, 2018. doi: 10.2169/internalmedicine.9637-17.
  - Aiso T<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>2</sup>, Ueda M<sup>1</sup>, Karita S<sup>3</sup>, Yokoyama T<sup>4</sup>, Takata S<sup>4</sup>, Matsuki N<sup>5</sup>, Kondo H, Takizawa H<sup>4</sup>, Okada AA<sup>5</sup>, Watanabe T<sup>2</sup>, Ohnishi H<sup>2</sup> (1Department of Medical Technology, Faculty of Health Sciences, Kyorin University, 2Department of Laboratory Medicine, School of Medicine, Kyorin University, 3Department of Thoracic Surgery, JR Tokyo General Hospital, 4Department of Respiratory Medicine, School of Medicine, Kyorin University, 5Department of Ophthalmology, School of Medicine, Kyorin University): Serum levels of candidate microRNA diagnostic markers differ among the stages of non-small-cell lung cancer. *Oncol Lett* 16(5): 6643-6651, 2018. doi: 10.3892/ol.2018.9464.
  - Miya T, Kondo H, Gemma A<sup>1</sup> (1Nippon Medical School): Serum iron levels increased by cancer chemotherapy correlate the chemotherapy-induced nausea and vomiting. *Int J Clin Oncol* 23(6): 1196-1200, 2018. doi: 10.1007/s10147-018-1321-4.
  - Yan H<sup>1</sup>, Winchester DJ<sup>1</sup>, Prinz RA<sup>1</sup>, Wang CH<sup>1</sup>, Nakazato Y, Moo-Young TA<sup>1</sup> (NorthShore University Health System, Evanston, IL): Differences in the Impact of Age on Mortality in Well-Differentiated Thyroid Cancer. *Ann Surg Oncol* 25(11):3193-3199, 2018. DOI: 10.10434-018-6668-2 Epub 2018 jul 23.
  - Endo S<sup>1,2</sup>, Ikeda N<sup>1,3</sup>, Kondo T<sup>1,4</sup>, Nakajima J<sup>1,5</sup>, Kondo H<sup>1</sup>, Shimada Y<sup>1,3</sup>, Sato M<sup>1,6</sup>, Toyooka S<sup>1,7</sup>, Okada Y<sup>1,8</sup>, Sato Y<sup>1,9</sup>, Yoshino I<sup>1,10</sup>, Okada M<sup>1,11</sup>, Okumura M<sup>1,12</sup>, Chida M<sup>1,13</sup>, Fukuchi E<sup>5</sup>, Miyata H<sup>5</sup> (1Japanese Association for Chest Surgery, 2Jichi Medical University, 3Tokyo Medical University Hospital, 4Tohoku Medical and Pharmaceutical University Hospital, 5University of Tokyo, 6Kagoshima University, 7Okayama University, 8Tohoku University, 9University of Tsukuba, 10Chiba University, 11Hiroshima University, 12Osaka University Graduate School of Medicine, 13Dokkyo Medical University): Risk assessments for broncho-pleural fistula and respiratory failure after lung cancer surgery by National Clinical Database Japan. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 67(3): 297-305, 2019. doi: 10.1007/s11748-018-1022-y.
  - Imanishi M<sup>1</sup>, Yamamoto Y<sup>1</sup>, Hamano Y<sup>1</sup>, Yamada T<sup>1</sup>, Moriwaki T<sup>1</sup>, Gosho M<sup>1</sup>, Okumura T<sup>2</sup>, Boku N<sup>3</sup>, Kondo H, Hyodo I<sup>1</sup> (1University of Tsukuba, 2University Hospital Mizonokuchi, Teikyo University School of Medicine, 3National Cancer Center Hospital): Efficacy of adjuvant chemotherapy after resection of pulmonary metastasis from colorectal cancer: a propensity score-matched analysis. *Eur J Cancer* 106: 69-77, 2019.
  - Shimizu K<sup>1</sup>, Ohtaki Y<sup>1</sup>, Okumura T<sup>2</sup>, Boku N<sup>3</sup>, Horio H<sup>4</sup>, Takenoyama M<sup>5</sup>, Yamashita M<sup>6</sup>, Hyodo I<sup>7</sup>, Mori K<sup>8</sup>, Kondo H (1Gunma University Hospital, 2University Hospital Mizonokuchi, Teikyo University, 3National Cancer Center Hospital, 4Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, 5National Kyushu Cancer Center, 6Shikoku Cancer Center, 7University of Tsukuba, 8Shizuoka Cancer Center): Outcomes and prognostic factors after pulmonary metastasectomy in patients with colorectal cancer with previously resected hepatic metastases. *J Thorac Cardiovasc Surg* 157: 2049-2057, 2019. doi: 10.1016/j.jtcvs.2018.12.075.
- その他**
- 近藤晴彦: 第182回日本肺癌学会関東支部会学術集会 主催, 東京, 2018年7月7日.
- 外科学教室  
(乳腺外科)**
- 講演**
- 井本 滋: 乳腺専門医育成のこれまでとこれから. 第118回日本外科学会総会学術集会, 東京, 2018年4月5日.
  - 麻賀創太, 木下貴之, 栗原俊明, 椎野翔, 神保健二郎, 高山伸: 当院における80歳以上の高齢者乳がん手術症例の検討. 第26回日本乳癌学会学術総会, 京都, 2018年5月16-19日.
  - Ito H, Ueno T, Isaka H, Imi K, Miyamoto K, Tada M, Ishizaka Y, Ouellette T, Imoto S: Infection associated with immediate breast reconstruction after mastectomy. 京都乳癌コンセンサス会議 (KBCCC) 2018国際大会. 京都, 2018年5月18-19日.
  - 井本 滋: センチネルリンパ節生検SNNS研究会の歩み. 第20回Sentinel Node Navigation Surgery研究会学術集会代表世話人講演. 東京, 2018年10月10日.
  - Imoto S: Phase II study on feasibility of sentinel lymph node biopsy for ycN0 patients treated with primary chemotherapy in cT1-3N1M0 breast cancer: SHARE study on behalf of investigators at the Japanese Society for Sentinel Node Navigation Surgery. Presented at the International Sentinel Node Conference 2018, Tokyo, October 12, 2018.
  - Imoto S, Futamura M, Toi M, Fujiwara Y, Ueno T, Kitagawa Y, Nishiyama M: International retrospective cohort study of locoregional and systemic Therapy in oligometastatic breast cancer (OLIGO-BC1) update. Presented at FACO/JSCO joint symposium, Yokohama, October 18, 2018.
  - Ito H, Ueno T, Isaka H, Imi K, Miyamoto K, Tada M, Ishizaka Y, Ouellette T, Imoto S: Infection associated with immediate breast reconstruction after mastectomy. 第56回日本癌治療学会学術集会. 横浜, 2018年10月18-20日.
  - 石坂欣大, 麻賀創太, 上野貴之, 伊坂泰嗣, 宮本快介, 井本滋, 千葉知宏: 乳腺原発血管肉腫の1例. 第80回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018年11月22-24日.
  - 石坂欣大, 伊坂泰嗣, 宮本快介, 麻賀創太, 井本滋: 乳癌肺転移に対してペバシズマブ・パクリタキセル併用療法で肺気胸を来した2症例. 第15回日本乳癌学会関東地方会, さいたま, 2018年12月1日.
  - Imoto S, Futamura M, Toi M, Fujiwara Y, Ueno T, Im YH, Im SA, Ahn SG, Lee JE, Park YH, Wang K, Kitagawa Y, Nishiyama N: International retrospective cohort study of locoregional and systemic therapy in oligometastatic breast cancer (OLIGO-BC1). Presented at 41th San Antonio Breast Cancer Symposium. December 6, 2018.

## 論文

1. 井本 滋: 乳腺専門医. 産科と婦人科. 85(Suppl.)192-201, 2018.
2. 井本 滋: 乳腺専門医育成のこれまでとこれから. 定期学術集会特別企画記録. 日外会誌. 119(5):549-552, 2018.
3. Asaga S, Kinoshita T<sup>1</sup>, Shiino S<sup>1</sup>, Jimbo K<sup>1</sup>, Takayama S<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Breast Surgery Division, National Cancer Center Hospital): Prognostic factors for breast cancer patients with T1-2 tumor and 1-3 positive axillary nodes treated using total mastectomy without radiotherapy. Breast J. 25:26-33, 2019.
4. Ito H, Ueno T<sup>1</sup>, Suga H<sup>2</sup>, Shiraishi T<sup>2</sup>, Isaka H, Imi K, Miyamoto K, Tada M, Ishizaka Y, Imoto S (<sup>1</sup>Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, <sup>2</sup>Department of Plastic Surgery, Kyorin University School of Medicine): Risk factors for skin flap necrosis in breast cancer patients treated with mastectomy followed by immediate breast reconstruction, World J Surg. 43:846-852, 2019.
5. Shibayama O<sup>1</sup>, Yoshiuchi K<sup>2</sup>, Inagaki M<sup>3</sup>, Matsuoka Y<sup>4</sup>, Yoshikawa E<sup>5</sup>, Sugawara Y<sup>6</sup>, Akechi T<sup>7</sup>, Wada N<sup>8</sup>, Imoto S, Murakami K<sup>9</sup>, Ogawa A<sup>10</sup>, Uchitomi Y<sup>11</sup>(<sup>1</sup>Yokohama-Rosai Hospital, <sup>2</sup>Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, <sup>3</sup>Okayama University Hospital, <sup>4</sup>Center for Public Health Sciences, National Cancer Center, <sup>5</sup>Nippon Medical School, <sup>6</sup>NISSAN Motor Health Insurance Society, <sup>7</sup>Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, <sup>8</sup>Tokyo Dental College Ichikawa General Hospital, <sup>9</sup>Juntendo University School of Medicine, <sup>10</sup>Research Center for Innovative Oncology, National Cancer Center Hospital East, <sup>11</sup>Palliative, and Psychosocial Care, National Cancer Center): Long-term in influence of adjuvant breast radiotherapy on cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy. Int J Clin Oncol doi: 10.1007/s10147-018-1330-3.
6. Ueno T<sup>1</sup>, Masuda N<sup>2</sup>, Kamigaki S<sup>3</sup>, Morimoto T<sup>4</sup>, Saji S<sup>5</sup>, Imoto S, Sasano H<sup>6</sup>, Toi M<sup>7</sup>(<sup>1</sup>Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, <sup>2</sup>NHO Osaka National Hospital, <sup>3</sup>Sakai Municipal Hospital, <sup>4</sup>Yao Municipal Hospital, <sup>5</sup>Fukushima Medical University, <sup>6</sup>Tohoku University School of Medicine, <sup>7</sup>Kyoto University): Differential Involvement of Autophagy and Apoptosis in Response to Chemoendocrine and Endocrine Therapy in Breast Cancer: JBCRG-07TR. doi:10.3390/ijms20040984.
7. Ueno T<sup>1</sup>, Saji S<sup>2</sup>, Chiba T<sup>3</sup>, Kamma H<sup>3</sup>, Isaka H, Itoh H, Imi K, Miyamoto K, Tada M, Sasano H<sup>4</sup>, Toi M<sup>5</sup>, Imoto S(<sup>1</sup>Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, <sup>2</sup>Fukushima Medical University, <sup>3</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, <sup>4</sup>Tohoku University School of Medicine, <sup>5</sup>Kyoto University): Progesterone receptor expression in proliferating cancer cells of hormone-receptor-positive breast cancer. Tumour Biol, doi:10.1177/1010428318811025.

## 著書

1. 井本 滋: 乳腺 標準外科学. 第15版 坂井義治, 田邊稔, 池田徳彦編. 東京, 医学書院, 2019. pp278-296.

## 小児外科学教室

### 講演

1. 渡邊佳子, 浮山越史, 宮弘子, 阿部展次, 杉山政則, 大木亜津子, 竹内弘久: 内視鏡的粘膜切除術 (ESD) で摘出した食道粘膜下異物の1例.第55回日本小児外科学会学術集会, 新潟, 2018年6月1日.
2. 渡邊佳子, 浮山越史: 当科で経験した特発性胃破裂の3例.第32回日本小児救急医学会, つくば, 2018年6月2日.
3. 渡邊佳子, 浮山越史: 先天性食道閉鎖症と先天性十二指腸閉鎖症を合併した1例.第54回日本産科・新生児医学会総会, 東京, 2018年7月8日.
4. 浮山越史: エビデンスに基づいた子供の腹部救急診療ガイドライン2017. 第34回神奈川小児肝・消化器疾患研究会, 横浜, 2018年9月8日.

### 論文

1. 浮山越史: 【小児の治療指針】急性虫垂炎. 小児科診療 81 Suppl.: 695-698, 2018.
2. 渡邊佳子: 肝・消化器疾患の処方 胃食道逆流症 診断と治療のポイント. 小児科臨床71(5) : 737-741, 2018.
3. 渡邊佳子, 浮山越史: 内因性疾患によるショック; 小児救急最新の知識-小児外科と小児救急小児外科50(7) : 754-761, 2018.
4. 浮山越史, 渡邊佳子, 宮弘子: 【ここが危ない小児診療のピットフォール: 日常診療編】腸重積症の手術. 小児外科 50(8): 793-795, 2018.
5. 浮山越史: 小児腸重積症の診療ガイドライン. 救急医学 42(10) : 1390-1393, 2018.
6. 浮山越史, 渡邊佳子: 鼠径ヘルニア小児科臨床 71 Suppl.: 1991-1914, 2018.
7. 浮山越史, 渡邊佳子: 臍ヘルニア小児科臨床 71 Suppl.: 1915-1916, 2018.
8. 浮山越史, 渡邊佳子: 小児の腹部外傷手術 73: 183-188, 2019.

### 著書

1. 渡邊佳子 (分担執筆): 臍を利用した手術 臍からの手術が可能な疾患・手術 腸回転異常症.メジカルビュー社, 東京, 200-205, 2018.
2. 浮山越史 (分担執筆): メッケル憩室切除術. ビジュアルサージカル 消化器外科手術 下部消化管 イラストと動画で達人の手技を身につける 秀潤社, 東京, 97-103, 2018.

### その他

1. 浮山越史, 渡邊佳子: 「グッド・ドクター」医療監修, フジテレビ, 2018年7月12日から9月20日, 10回.
2. 渡邊佳子: 医療の世界で生きる女性たち, Precio, 2019年1月.
3. 浮山越史: 「レ・ミゼラブル終わりなき旅路」医療監修, フジテレビ, 2019年1月6日.

### 平成29年度追加分

1. 渡邊佳子: ブラックジャックを探せ, 夕刊フジ, 2018年3月16日.

## 救急医学教室

### 講演

1. Otawara M, Felix E, Yong-Ming Y, Jeremy G, Daniel I: Innate Immune System Monitoring by Spontaneous Neutrophil Migration after Burn Injury. The 50th American Burn Association, USA, April 10th-13th, 2018.
2. 海田賢彦, 吉川慧, 梅井武彦, 山口芳裕: 広範囲熱傷患者に対して人工真皮を最大限に活かす移植戦術. 第44回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京, 2018年5月17-18日.

3. 吉川慧, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕, 森田邦彦: C.tropicalisによるCRBSIに対して抗真菌薬の変更が著効した85%熱傷の1例. 第44回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京, 2018年5月17-18日.
4. 大津晃康, 海田賢彦, 吉川慧, 樽井武彦, 山口芳裕: S.maltophiliaによるカテーテル関連血流感染を合併した40%熱傷の1例. 第44回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京, 2018年5月17-18日.
5. 田中佑也, 海田賢彦, 吉川慧, 樽井武彦, 山口芳裕: 受傷後早期に異所性骨化症を合併した40%熱傷の1例. 第44回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京, 2018年5月17-18日.
6. 山口芳裕: 事態対処における止血帯の重要性. 第21回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 名古屋, 2018年5月31日-6月2日.
7. 加藤純一, 五十嵐昂, 飛谷佑太郎, 宮国泰彦, 海田賢彦, 福島秀起, 樽井武彦, 山口芳裕: 3次救急搬送されたアナフィラキシー症例の臨床的特徴に関する検討. 第21回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 名古屋, 2018年5月31日-6月2日.
8. 飛谷佑太郎, 加藤純一, 五十嵐昂, 宮国泰彦, 海田賢彦, 福島秀起, 樽井武彦, 山口芳裕: 院外心肺停止に対するプロトコールの変更が救急活動および治療効果に与えた影響. 第21回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 名古屋, 2018年5月31日-6月2日.
9. 山口芳裕: 止血帯について. JPTECブラッシュアップセミナー-2018, 名古屋, 2018年6月2日.
10. Otawara M: Innate Immune System Monitoring by Spontaneous Neutrophil Migration after Burn Injury. The 41th Annual Conference on Shock, USA, June 9th-12th, 2018.
11. 山口芳裕: 日本における病院船活用への課題等について. 米国海軍病院船マーシー東京寄港記念シンポジウム, 東京, 2018年6月19日.
12. 濱田尚一郎, 大畑徹也, 道廣岳, 松隈卓徳, 稲田成作, 阿部学, 市村正一, 山口芳裕: Floating kneeに合併した脂肪塞栓の一例. 第44回日本骨折治療学会, 岡山, 2018年7月6-7日.
13. 樽井武彦, 吉川慧, 荻野聡之, 宮国泰彦, 海田賢彦, 福島秀起, 山口芳裕: 薬物過量服用患者における服用薬剤の種類別危険度に関する検討. 第40回日本中毒学会総会・学術集会, 大阪, 2018年7月20-21日.
14. 荻野聡之, 吉川慧, 清水裕介, 宮国泰彦, 海田賢彦, 山口芳裕: 当院で経験したLD50比50%以上内服の急性リチウム中毒2例の検討. 第40回日本中毒学会総会・学術集会, 大阪, 2018年7月20-21日.
15. 吉川慧, 樽井武彦, 海田賢彦, 宮国泰彦, 荻野聡之, 山口芳裕: 都市部の救命救急センターに搬送された有機リン中毒10例の検討. 第40回日本中毒学会総会・学術集会, 大阪, 2018年7月20-21日.
16. 山口芳裕: 最新の救急医療～爆弾テロと止血帯～. 第19回和歌山救急・災害医療研究会, 和歌山, 2018年10月27日.
17. 山口芳裕, 石原哲, 石川秀樹, 三浦邦久, 安田武史, 新井悟, 猪口正孝: 東京2020企画～コンソーシアムへの提言～日本救急医学会が取り組む課題と対策「主催都市医師会の準備」. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
18. 山口芳裕: 日本に病院船は必要か: 米国病院船マーシー東京寄港に係る検討をふまえて. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
19. 海田賢彦, 宮国泰彦, 持田勇希, 樽井武彦, 山口芳裕: 救命救急センターのあり方～重症患者の集約化にむけた取り組み～. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
20. 守永広征, 樽井武彦, 坂本学映, 五十嵐昂, 切刀主税, 落合剛二, 持田勇希, 大田原正幸, 宮国泰彦, 海田賢彦, 山口芳裕: 重症上部消化管出血に対する大動脈内バルーン遮断(REBOA)を含めた”蘇生的IVR”併用の治療戦略. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
21. 荻野聡之, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕: 高齢者に対する介護放棄についての検討～救命救急センターに搬送された高齢患者の実態調査に基づいて～. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
22. 大田原正幸, Daniel I, 山口芳裕: 血液中NETs (Neutrophil Extracellular Traps) 定量化システムを利用した熱傷および敗血症におけるショックメカニズムの解明. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
23. 樽井武彦: 敗血症治療における集中治療後症候群発症の現状評価と予後改善に向けた方策. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
24. 持田勇希, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕: 多種の専門領域を集結した自己完結型救命センターの魅力. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
25. 石川秀樹, 大桃丈知, 小林滋, 中島康, 武田宗和, 三浦邦久, 福永龍繁, 石原哲, 山口芳裕, 新井悟, 猪口正孝: 医療従事者に向けたMass-gathering医療研修の意義は高い. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
26. 山口芳裕: ターニケット、その先へ. 第27回全国救急隊員シンポジウム, 高松, 2019年1月24-25日.
27. 山口芳裕, 三島泰幸, 小谷聡司: テロ災害等の対応力向上～新たな資器材(ターニケット)の取得方法について～. 第27回全国救急隊員シンポジウム, 高松, 2019年1月24-25日.
28. 堀野雅祥, 吉川慧, 五十嵐昂, 荻野聡之, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕: 重症熱傷治療中に薬剤性QT延長症候群からTorsade de Pointes呈した1例. 第33回日本中毒学会東日本地方会, 東京, 2019年1月26日.
29. 刑部洸, 五十嵐昂, 持田勇希, 守永広征, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕: コクサッキーウイルス感染を契機に発症した劇症1型糖尿病の1例. 第69回日本救急医学会関東地方会, つくば, 2019年2月2日.
30. 堀野雅祥, 海田賢彦, 鈴木準, 濱田尚一郎, 稲田成作, 樽井武彦, 山口芳裕: 臀部筋肉注射によって壊死性筋膜炎に陥った一例. 第69回日本救急医学会関東地方会, つくば, 2019年2月2日.
31. 西村裕隆, 守永広征, 坂本学映, 五十嵐昂, 宮国泰彦, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕: 三次救急搬送された重症症例に対する7Frシース対応細径IABOカテーテルの使用経験. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019年3月1-3日.
32. 海田賢彦, 山口芳裕: 集中治療医が知っておくべき熱傷創の治癒過程. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019年3月1-3日.
33. 守永広征, 樽井武彦, 西村裕隆, 坂本学映, 五十嵐昂, 落合剛二, 持田勇希, 宮国泰彦, 海田賢彦, 山口芳裕: 集中治療を要する重症患者に対するIVCフィルター留置の役割と臨床の実際. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019年3月1-3日.
34. 持田勇希, 守永広征, 坂本学映, 海田賢彦, 樽井武彦, 谷垣伸治, 山口芳裕: 診療科という隔てを超えた母体救命を目指して. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019年3月1-3日.
35. 大津晃康, 海田賢彦, 鈴木準, 吉川慧, 樽井武彦, 山口芳裕: 広範囲熱傷における監視培養の有用性. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019年3月1-3日.
36. 山口芳裕: ハートフォードコンセンサスの中心教義はなにか. 第24回日本災害医学会総会学術集会, 米子, 2019年3月18-20日.

## 論文

1. Inoue Y<sup>1,2</sup>, Liu YM<sup>1,2</sup>, Otawara M, Chico Calero I<sup>1,3</sup>, Stephanie Nam A<sup>1,3,4</sup>, Yu YM<sup>2</sup>, Chang P<sup>2</sup>, Butler KL<sup>1</sup>, Nazarian RM<sup>1</sup>, Goverman J<sup>1</sup>, Vakoc BJ<sup>4</sup>, Irimia D<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>Harvard Medical School, <sup>2</sup>Shriners Burns Hospital, <sup>3</sup>Massachusetts General Hospital, <sup>4</sup>Massachusetts Institute of Technology) : Resolvin D2 Limits Secondary Tissue Necrosis After Burn Wounds in Rats. *J Burn Care Res* 39 (3) : 423-432, 2018.
2. Shoji T, Tarui T, Igarashi T, Mochida Y, Morinaga H, Miyakuni Y, Inoue Y, Kaita Y, Miyauchi H, Yamaguchi Y : Resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta using a low-profile device is easy and safe for emergency physicians in cases of life-threatening hemorrhage. *J Emerg Med* 54 (4) : 410-418, 2018.
3. Tanaka H<sup>1,2</sup>, Nishi Y<sup>3</sup>, Kaita Y, Yamaguchi Y, Shinohara T<sup>1</sup>, Ohno N<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Department of Pharmacy, Kyorin University Hospital, <sup>2</sup>Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, <sup>3</sup>Infection Control Office, Division of Hospital Safety Management, Kyorin University Hospital) : Combination Therapy with Topical and Systemic Antifungal Agents for a Patient with Severe Burns. *Burn Injuries* 44 (2) : 41-49, 2018.
4. 大畑徹也<sup>1</sup>, 稲田成作<sup>1</sup>, 市村正一<sup>1</sup>, 加藤聡一郎, 樽井武彦, 山口芳裕 (<sup>1</sup>杏林大・医・整形外科) : 高齢者寛骨臼骨折に対して一時的腸骨動脈バルーンカテーテルを留置し手術加療を行った治療経験. *骨折* 40 (2) : 392-395, 2018.
5. Kato S, Tarui T, Yamaguchi Y : Simulation study of a low-tech and reliable identification coding method for mass casualties. *Acute Med Surg* 5 (3) : 259-264, 2018.
6. 海田賢彦, 樽井武彦, 荻野聡之, 持田勇希, 守永広征, 庄司高裕, 山口芳裕 : 急性薬物中毒患者における鎮静鎮痛管理法の変化とその影響. *日救急医学会誌* 29 (11) : 715-721, 2018.
7. Otawara M, Roushan M<sup>1,2,3</sup>, Wang X<sup>1,2</sup>, Ellett F<sup>1,2,3</sup>, Yu YM<sup>1,2,3</sup>, Irimia D<sup>1,2,3</sup> (<sup>1</sup>Massachusetts General Hospital, <sup>2</sup>Harvard Medical School, <sup>3</sup>Shriners Burns Hospital, ) : Microfluidic Assay Measures Increased Neutrophil Extracellular Traps Circulating in Blood after Burn Injuries. *Sci Rep*, 2018. DOI : 10.1038/s41598-018-34952-0
8. Abe T<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Shiraiishi A<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Shiino Y<sup>1</sup>, Nakada T<sup>1</sup>, Tarui T, Hifumi T<sup>1</sup>, Otomo Y<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>1</sup>, Umemura Y<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shiraiishi S<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Hagiwara A<sup>1</sup>, Yamakawa K<sup>1</sup>, Masuno T<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Ueyama M<sup>1</sup>, Fujimi S<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>JAAM Focused Outcome Research on Emergency Care for Acute respiratory distress syndrome, Sepsis and Trauma (FORECAST) Group) : Characteristics, management, and in-hospital mortality among patients with severe sepsis in intensive care units in Japan: the FORECAST study. *Crit Care*, 2018. DOI : 10.1186/s13054-018-2186-7
9. Kaita Y, Tarui T, Otsu A, Tanaka Y, Suzuki J, Yoshikawa K, Yamaguchi Y : The Clinical Significance of Serum 1,3-β-D-Glucan For the Diagnosis of Candidemia in Severe Burn Patients. *J Burn Care Res* 40 (1) : 104-106, 2019.
10. Nakajima M<sup>1</sup>, Aso S<sup>2</sup>, Yasunaga H<sup>2</sup>, Shirokawa M<sup>1</sup>, Nakano T<sup>1</sup>, Miyakuni Y, Goto H<sup>1</sup>, Yamaguchi Y (<sup>1</sup>Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital, <sup>2</sup>Tokyo University) : Body temperature change and outcomes in patients undergoing long-distance air medical transport. *Am J Emerg Med* 37 (1) : 89-93, 2019.
11. Kaita Y, Tarui T, Yoshino H<sup>1</sup>, Matsuda T, Yamaguchi Y, Nakagawa T<sup>2</sup>, Asahi M<sup>2</sup>, Ii M<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Division of Cardiology,

Second Department of Internal Medicine, Kyorin University, School of Medicine, <sup>2</sup>Osaka Medical College) : Sufficient therapeutic effect of cryopreserved frozen adipose-derived regenerative cells on burn wounds. *Regen Ther* 10 : 92-103, 2019.

12. 五十嵐昂, 宮内洋, 海田賢彦, 樽井武彦, 山田賢治<sup>1</sup>, 山口芳裕 (<sup>1</sup>杏林大・保・救急救命学科) : 救命救急センターに搬送された食物に起因するアナフィラキシーショックの検討. *日集中医誌* 26 (2) : 115-116, 2019.

## 著書

1. 持田勇希, 山口芳裕 (分担執筆) : 2専門手技・処置 VI 救急手技・処置 イレウス挿入. 救急診療指針 改定第5版. 日本救急医学会指導医・専門医制度委員会/日本救急医学会専門医認定委員会編集. 東京, へるす出版, 2018. 227-230.
2. 加藤聡一郎, 山口芳裕 (分担執筆) : マスギャザリング医療の骨格と課題. 医学のあゆみ. 東京, 医歯薬出版, 2019. 229-237.
3. 荻野聡之, 山口芳裕, 海田賢彦, 吉川慧 (分担執筆) : 第2節 実際 急性期を中心に. アピアランス (外見) 問題と包括的ケア構築の試み～医療福祉連携と心理学領域とのコラボレーション～. 原田輝一, 真覚健編集. 東京, 福村出版, 2018. 177-183.
4. 持田勇希 (分担執筆) : 大動脈救急を極める. 救急医学. 東京, へるす出版, 2018. 531-534.
5. 山口芳裕 (監修) : NBC災害に備える! 発生後、安全に受け入れるための医療現場マニュアル. 中嶋幹男編集. 東京, 羊土社, 2018.
6. 五十嵐昂, 山口芳裕 (分担執筆) : 災害医療. 改訂第2版 薬剤師のための救急・集中治療領域標準テキスト. 日本病院薬剤師会/日本臨床救急医学会監修. 東京, へるす出版, 2018. 284-287.
7. 持田勇希 (分担執筆) : 杏林大学医学部付属病院救急科専門研修プログラム. 救急医学. 東京, へるす出版, 2019. 50-51.
8. 持田勇希, 山口芳裕 (分担執筆) : 腹部大血管損傷の手術. 手術. 東京, 金原出版, 2019. 173-181.
9. 加藤聡一郎, 山口芳裕 (分担執筆) : マスギャザリング医療の骨格と課題. 別冊・医学のあゆみ. 小池薫編集. 東京, 医歯薬出版, 2019. 10-18.

## その他

1. 山口芳裕, 箱崎幸也, 藤井達也 : 「イームス・ジャパンニューズレター」平昌オリンピック・パラリンピックでの医療支援について報告, 13号, 2018.
2. 山口芳裕 : 「Nスタ」熱中症対策について解説, TBS, 2018年4月2日.
3. 山口芳裕 : 医療「1分で知る」コーナーで解毒について解説, 朝日新聞, 2018年11月14日.
4. 山口芳裕 : 「NHKスペシャル」シリーズ人生100年時代を生きる～高齢者の延命医療の現状～出演, NHK, 2018年11月18日.
5. 山口芳裕 : 「医療・健康面」で救急相談センター「#7119」の浸透状況や課題などについてコメント, 日本経済新聞, 2018年11月19日.
6. 山口芳裕 : 「ETV特集」誰が命を救うのか 医師たちの原発事故に出演, NHK, 2019年3月9日.
7. 山口芳裕 : 「BS1スペシャル」緊急被ばく医療の闘い～誰が命を救うのか～に出演, NHK, 2019年3月10日.

## 脳神経外科学教室

## 講演

1. 丸山啓介, 渡辺英寿, 金太一, 齊藤邦昭, 熊切敦, 笹森寛生, 野口明男, 永根基雄, 塩川芳昭: 拡張現実を応用したスマートグラスによる手術ナビゲーション. 第27回脳神経外科手術と機器学会 (CNTT), 奈良, 2018年4月14日.
2. 中島昌典, 上月直樹, 永井健太郎, 綾野水樹, 内堀歩, 島田大輔, 柴原純二, 千葉厚郎: 薩発製脳梗塞とびまん性くも膜肥厚を呈した55歳男性例. 第38回三鷹ニューロ研究会, 多摩, 2018年5月31日.
3. 齊藤幹人, 河野浩之, 天野達雄, 岡野晴子, 鳥居正剛, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 周産期に尾状核出血を伴った可逆性脳血管攣縮の一例. 第38回三鷹ニューロ研究会, 多摩, 2018年5月31日.
4. 齊藤邦昭, 小林啓一, 高橋沙奈江, 宮崎功, 川井田善太郎, 末松慎也, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 言語領域近傍のグリオーマ手術におけるトラクトグラフィ融合ナビゲーションの有用性. 第18回日本術中画像情報学会, 長野, 2018年6月9日.
5. Nagane M, Tabei Y, Kobayashi K, Saito K, Shimizu S, Shiokawa Y: IDH gene mutation status plays no impact on survival in patients with glioblastoma at a first progression. 22<sup>nd</sup> International Conference on Brain Tumor Research and Therapy, Norway, 2018. 6. 26.
6. 野口明男: 屍体標本を用いた術野の定量解析. 第30回日本頭蓋底外科学会, 東京, 2018年7月13日.
7. 丸山啓介, 横井秀格, 吉田裕毅, 野口明男, 齊藤康一郎, 松村讓兒, 塩川芳昭: 経鼻的頭蓋底アプローチにおけるピロリド固定cadaverの有用性. 第30回日本頭蓋底外科学会, 東京, 2018年7月13日.
8. 塩川芳昭: 杏林大学医学部付属病院の各科紹介と地域連携の取り組みの現況報告. 世田谷区医師会・杏林大学付属病院との医療連携懇話会, 東京, 2018年7月31日.
9. 齊藤邦昭, 小林啓一, 清水早紀, 塩川芳昭, 永根基雄: Postoperative upfront chemotherapy prolongs progression-free survival of patients with low-grade oligodendroglial tumors. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018年7月20日.
10. 小林啓一, 齊藤邦昭, 清水早紀, 末松慎也, 岡村優真, 山岸夢希, 千葉知宏, 松尾健, 谷口慎, 柴原純二, 塩川芳昭, 永根基雄: 急速進行性の退形成性神経膠腫～臨床経過の違う2症例から. 第55回ニューロオンコロジーの会, 東京, 2018年7月28日.
11. 塩川芳昭: 軽傷頭部外傷と医療安全 最近の話題. 平成30年度第二回東京都臨床整形外科医会 (TCOA) 統合研修会, 東京, 2018年8月4日.
12. 齊藤邦昭: 脳腫瘍に伴う難治性てんかんの治療経験. てんかん診療セミナーin北多摩, 東京, 2018年9月7日.
13. 齊藤邦昭, 小林啓一, 久米賢, 末松慎也, 島田大輔, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発膠芽腫に対する積極的摘出手術の治療成績と手術手技について. 第23回日本脳腫瘍の外科学会, 和歌山, 2018年9月14日.
14. Saito K, Shimizu S, Nozaki E, Kobayashi K, Kume S, Chiba T, Shibahara J, Shiokawa Y, Nagane M: Detailed analysis of mutation change after treatment in glioblastoma. 第36回日本脳腫瘍病理学会, 東京, 2018年9月25日.
15. Nagane M: Therapeutic development for malignant brain tumors: past and future perspectives 悪性脳腫瘍の治療開発: 過去・現在と将来展望. The 36<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japan Society of Brain Tumor Pathology, Tokyo, (第36回日本脳腫瘍病理学会) 2018. 9. 27.
16. Saito K: Keynote lecture for methylation profiling detail. The 5<sup>th</sup> International Symposium of Brain Tumor Pathology, Hakone, 2018.9.28.
17. 齊藤邦昭, 清水早紀, 野崎江里子, 小林啓一, 塩川芳昭, 永根基雄: Mutation change after temozolomide treatment in primary glioblastoma. 第77回日本癌学会学術総会, 大阪, 2018年9月29日.
18. 齊藤邦昭, 清水早紀, 野崎江里子, 小林啓一, 久米賢, 千葉知宏, 柴原純二, 塩川芳昭, 永根基雄: 膠芽腫に対するテモゾロミド治療の現状と薬剤耐性獲得の機序. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018年10月10日.
19. 小林啓一, 齊藤邦昭, 清水早紀, 末松慎也, 久米賢, 岡村優真, 塩川芳昭, 永根基雄: 初発膠芽腫患者に対する初期維持テモゾロミド療法12サイクル有効中止法の後方視的解析. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018年10月12日.
20. 丸山啓介, 堀川弘史, 末松慎也, 島田大輔, 松本淑恵, 野口明男, 塩川芳昭: 術前シミュレーションと多様なツールへの出力: 手術支援への有用性. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018年10月12日.
21. 齊藤邦昭: 高精細CT装置を用いた手術支援. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018年10月12日.
22. 島田大輔, 小林啓一, 齊藤邦昭, 久米賢, 川井田善太郎, 山岸夢希, 飯島昌平, 山田 健, 塩川芳昭, 永根基雄: 悪性腫瘍術期のD-dimerと静脈血栓症の検討. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018年10月11日.
23. 野口明男: 認知機能障害を主訴とした症例から学ぶ ーいま外科医に求められるものー. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018年10月12日.
24. Nagane M, Saito K, Shimizu S, Nozaki E, Kobayashi K, Kume S, Chiba T, Shibahara J, Shiokawa Y: Detailed analysis of mutation change after treatment in glioblastoma. 13<sup>th</sup> European Association of Neuro-Oncology, Sweden, 2018. 10. 13.
25. 島田大輔, 飯島昌平, 久米賢, 丸山啓介, 塩川芳昭: 異なる治療で明暗をわけたLOVAの2例. 第25回日本内視鏡学会総会, 新潟, 2018年10月16日.
26. Nagane M, Kobayashi K, Saito K, Shimada D, Suematsu S, Chiba T, Shibahara J, Shiokawa Y: びまん性正中膠腫H3-K27M変異の臨床病理学的検討 (Heterogeneous clinico-pathological features of diffuse midline glioma (DMG) H3-K27M mutant). 第56回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018. 10. 20.
27. Nagane M, Saito K, et al: Mutation change after temozolomide treatment in primary glioblastoma. The 15<sup>th</sup> Meeting of the Asian Society for Neuro-Oncology, Beijing, China, 2018. 10. 25-28.
28. 永根基雄, 佐々木重嘉, 小林啓一, 齊藤邦昭, 島田大輔, 末松慎也, 岡村優真, 山岸夢希, 岡村優真, 高山信之, 塩川芳昭: 中枢神経系原発悪性リンパに対するR-MPV-A療法の後方視的解析. 第30回多摩脳腫瘍研究会, 東京, 2018年11月10日.
29. 塩川芳昭: 患者支援センターのご紹介. 杏林大学医学部付属病院医療連携フォーラム, 多摩, 2018年11月14日.
30. Nagane M, Kobayashi K, Saito K, Shimizu S, Suematsu S, Kume S, Okamura Y, Shiokawa Y: Feasibility of Discontinuation of Adjuvant Temozolomide After 12 Cycles Remaining Without Progression for Patients with Newly Diagnosed Glioblastoma. 23<sup>rd</sup> Annual Meeting of the Society for Neuro-Oncology, USA. 2018. 11. 17.
31. Saito K, Shimizu S, Nozaki E, Kobayashi K, Kume S, Chiba T, Shibahara J, Shiokawa Y, Nagane M: Mechanism of acquired mutation after TMZ treatment.

2018 Annual Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, USA, Nov 20-24 2018.

32. 島田大輔: 脳腫瘍関連てんかんにおけるペランパネルの使用経験. フィコンパてんかんセミナー, 東京, 2018年11月27日.
33. 永根基雄, 佐々木重嘉, 小林啓一, 齊藤邦昭, 久米賢, 末松慎也, 岡村優真, 山岸夢希, 高山信之, 塩川芳昭: 中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するR-MPV-A療法のHD-MTX単独療法に対する優越性. 第36回日本脳腫瘍学会学術集会, 小田原, 2018年12月2日.
34. 齊藤邦昭, 小林啓一, 久米賢, 末松慎也, 岡村優真, 山岸夢希, 佐々木重嘉, 小柳正道, 五明美穂, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発膠芽腫に対する積極的摘出手術の治療成績と手術手技について. 第36回日本脳腫瘍学会学術集会, 小田原, 2018年12月2-4日.
35. 小林啓一, 齊藤邦昭, 清水早紀, 末松慎也, 久米賢, 岡村優真, 山岸夢希, 塩川芳昭, 永根基雄: 初発膠芽腫患者に対する初期維持テモゾロミド療法12サイクル有効中止法の後方視的解析. 第36回日本脳腫瘍学会学術集会, 小田原, 2018年12月2日.
36. 塩川芳昭: 脳卒中診療体制の今後. 山梨 アンチ・抗凝固療法カンファレンス, 甲府, 2019年1月18日.
37. 齊藤邦昭: 超高精細CTを用いた脳神経外科手術支援. 第19回日本術中画像情報学会, 東京, 2019年1月24日.
38. 永根基雄: 脳腫瘍の診断と治療—エビデンスと近年の開発状況—. AbbVie社員向け勉強会, 東京, 2019. 1. 29.
39. 齊藤邦昭: 超高精細CTを用いた脳神経外科手術支援. Advanced imaging seminar2019, 東京, 2019年2月9日.
40. 塩川芳昭: 北多摩南部地区脳卒中連携のあゆみと東京都の現状. 北多摩南部脳卒中ネットワーク研究会 平成30年度脳卒中地域連携診療計画合同委員会, 多摩, 2019年3月8日.
41. 堀川弘吏: 初回血管撮影において出血源が判明しなかったくも膜下出血における出血源の検討. 第47回日本脳卒中の外科学会, 横浜, 2019年3月22日.
42. 野口明男, 豊田研隆, 塩川芳昭: 中大脳動脈瘤クリッピング時におけるlong insular artery梗塞. 第48回日本脳卒中の外科学会学術集会, 横浜, 2019年3月21-23日.
43. 吉田裕毅, 東原英二, 丸山啓介, 奴田原紀久雄, 似鳥俊明, 宮崎功, 塩川芳昭: 常染色体優性多発性嚢胞腎の重症度と合併する頭蓋内動脈瘤の関係. 第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019年3月21-23日.
44. 永根基雄, 佐々木重嘉, 小林啓一, 齊藤邦昭, 清水早紀, 塩川芳昭: 高齢者初発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する多剤併用免疫化学療法 (R-MPV-A) の有用性. 第32回日本老年脳神経外科学会, 久留米, 2019. 3. 29.

## 論文

1. 塩川芳昭: サルコペニア・フレイルと脳卒中. 分子脳血管病 vol.17 No.2 : 特集1, 2018.
2. Ota T<sup>1</sup>, Shigeta K<sup>2</sup>, Amano T<sup>3</sup>, Ueda M<sup>4</sup>, Shiokawa Y ( <sup>1</sup> Department of Neurosurgery, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, <sup>2</sup> Department of Neurosurgery, National Hospital Organization Disaster Medical Center, <sup>3</sup> Department of Stroke and Cerebrovascular Medicine, Kyorin University, <sup>4</sup> Department of Neurology and Stroke Medicine, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center) : Regionwide retrospective survey of acute mechanical thrombectomy in Tama, suburban Tokyo: a preliminary report. Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases Volume 27 Issue11, : Pages 3350–3355, 2018.
3. Shigeta K, Ota T, Amano T, Ueda M, Matsumaru Y, Shiokawa Y, Hirano T : Widening time disparities between two paradigms: Tama-REgistry of Acute

endovascular Thrombectomy Corresponding. Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases volume28.Issue5 : Pages1267-1273, 2019.

4. Kawano H, Honda Y, Amano T, Okano H, Suzuki R, Torii M, Unno Y, Shiokawa Y, Hirano T: Subcutaneous Heparin Therapy for Patients with Cancer-Associated Stroke. Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases Volume 28, Issue 2, : Pages 399-404, 2019.
5. Tsurukiri J, Ota T, Jimbo H, Okumura E, Shigeta K, Amano T, Ueda M, Matsumaru Y, Shiokawa Y, Hirano T : Thrombectomy for Stroke at 6-24 hours without Perfusion CT Software for Patient Selection. Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases(3) : Pages774-781. 2019. doi : 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2018.11.022.
6. Takano S, Hattori K, Ishikawa E, Narita Y, Iwadate Y, Yamaguchi F, Nagane M, Akimoto J, Oka H, Tanaka S, Sakata M, Matsuda M, Yamamoto T, Chiba S, Matsumura A: MyD88 mutation in elderly predicts poor prognosis in primary central nervous system lymphoma: multi-institutional analysis. World Neurosurg volume112 : e69-e73, 2018.
7. Wakabayashi T, Natsume A, Mizusawa J, Katayama H, Fukuda H, Sumi M, Nishikawa R, Asai A, Abe T, Yoshino A, Narita Y, Muragaki Y, Maruyama T, Ito T, Beppu T, Nakamura H, Kayama T, Sato S, Nagane M, Mishima K, Nakasu Y, Kurisu K, Yamazaki F, Sugiyama K, Onishi T, Iwadate Y, Terasaki M, Kobayashi H, Matsumura A, Ishikawa E, Sasaki H, Mukasa A, Matsuo T, Hirano H, Kumabe T, Shinoura N, Hashimoto N, Aoki T, Arakawa Y, Asano K, Yoshimoto K, Shibui S: JCOG0911 INTEGRA study: a randomized screening phase II trial of interferon $\beta$  plus temozolomide in comparison with temozolomide alone for newly diagnosed glioblastoma. J Neuro-oncol 138(3):627-636. 2018.
8. 永根基雄: 中枢神経系悪性リンパ腫の治療開発—多剤併用薬物療法及び新規分子標的治療薬 (Current trends in treatment of primary central nervous system lymphoma (PCNSL) – multiagent immunochemotherapy and novel molecular targeted therapies) . 最新医学 (Medical Frontline) 73 (11): 1441-1449, 2018.
9. 丸山啓介: 快適なパスワード管理方法. 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 28(1) : 89-93, 2018.
10. 丸山啓介: リマインダー機能で漏れの無い仕事を. 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 28(3) : 305-308, 2018.
11. 丸山啓介: 効率的で漏れの無い文献検索. 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 28(5) : 494-497, 2018.
12. 丸山啓介: iMovieでの手術ビデオ編集の基本. 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 28(7) : 713-717, 2018.
13. 丸山啓介: iMovieでの手術ビデオ編集: 応用編. 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 28(9) : 926-929, 2018.
14. 丸山啓介: PDFをフル活用しよう. 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 28(11) : 1146-1149, 2018.
15. Fukuoka K, Kanemura Y, Shofuda T, Fukushima S, Yamashita S, Narushima D, Kato M, Honda-Kitahara M, Ichikawa H, Kohno T, Sasaki A, Hirato J, Hirose T, Komori T, Satomi K, Yoshida A, Yamasaki K, Nakano Y, Takada A, Nakamura T, Takami H, Matsushita Y, Suzuki T, Nakamura H, Makino K, Sonoda Y, Saito R, Tominaga T, Matsusaka Y, Kobayashi K, Nagane M, Furuta T, Nakada M, Narita Y, Hirose Y, Ohba S, Wada A, Shimizu K, Kurozumi K, Date I, Fukai J, Miyairi Y, Kagawa N, Kawamura A, Yoshida M, Nishida N, Wataya T, Yamaoka M, Tsuyuguchi N, Uda T, Takahashi M, Nakano Y, Akai T, Izumoto S,

Nonaka M, Yoshifuji K, Kodama Y, Mano M, Ozawa T, Vijay Ramaswamy, Michael D. Taylor, Ushijima T, Shibui S, Yamasaki M, Arai H, Sakamoto H, Nishikawa R, Ichimura K, on behalf of the Japan Pediatric Molecular Neuro-Oncology Group (JPMNG): Significance of molecular classification of ependymomas: C11orf95-RELA fusion-negative supratentorial ependymomas are a heterogeneous group of tumors. *Acta Neuropathologica Communications* 134(6), 2018. DOI 10.1186/s40478-018-0630-1

- 小林啓一: 脳腫瘍. 第16章 悪性腫瘍 疼痛緩和医療: わかりやすい疾患と処方薬の解説[病態・薬物治療編]. アークメディア, 東京, 2018.

## 著書

- 塩川芳昭, 鳥居正剛, 長谷川浩: 脳神経外科手術の限界についての今日の考え方は. *Geroatoc Medicine* vol.56. 東京, ライフ・サイエンス, 2018. p.317-319.
- 塩川芳昭: 特集言. ドクターの意図をたちまち理解できちゃう! 指示受け時の“超重要フレーズ78”. *ブレインナーシング* vol.34. 11月号. 大阪, メディカ出版, 2018.
- 齊藤邦昭: 10グリオーマ患者の場合. ドクターの意図をたちまち理解できちゃう! 指示受け時の“超重要フレーズ78”, *ブレインナーシング* vol.34. 11月号, 大阪, メディカ出版, 2018. p.49-52.
- 鳥居正剛: 5脳内出血患者の場合. ドクターの意図をたちまち理解できちゃう! 指示受け時の“超重要フレーズ78”, *ブレインナーシング* vol.34. 11月号, 大阪, メディカ出版, 2018. p.24-28.
- 鳥居正剛: 網膜動脈分枝閉塞症を契機に発見された中等度頸動脈狭窄症. - 微妙な眼虚血所見は症候性としてよいか? NASCET<50%でCEAを勧めるか?. *脳神経外科速報* vol28 no.1, 大阪, メディカ出版, 2018.
- 鳥居正剛: 脳神経外科とフレイル. *老年脳神経外科診療マニュアル*. メジカルビュー社, 東京, 2018. p.242-246.
- 吉田裕毅: 11髄膜腫患者の場合. ドクターの意図をたちまち理解できちゃう! 指示受け時の“超重要フレーズ78”, *ブレインナーシング* vol.34. 11月号, 大阪, メディカ出版, 2018. p.53-57.
- 島田大輔: 9慢性硬膜下血腫患者の場合. ドクターの意図をたちまち理解できちゃう! 指示受け時の“超重要フレーズ78”, *ブレインナーシング* vol.34. 11月号, 大阪, メディカ出版, 2018. p.43-48.

## 報告書

- 厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 分担研究報告書: 脳卒中を含む循環器病対策の評価指標に基づく急性期医療体制の構築に関する研究 研究分担者 塩川芳昭 杏林大学脳神経外科教授 副病院長.
- 長寿医療研究開発費 平成30年度 分担研究報告(総合報告及び年度報告): 高齢者における認知症や脳血管障害の発症に脳小血管病が関与する臨床的意義の解明(28-15) 分担研究者 塩川芳昭 杏林大学医学部 脳神経外科 教授.

## 心臓血管外科学教室

### 講演

- Kubota H, Endo H, Ishii H, Tsuchiya H, Inaba Y, Terakawa K: Xenopericardial Roll Graft Replacement to Treat the Aortic Infection or Aortic Graft Infection. *Aortic symposium* 2018.U.S.A. April 2018.
- Ishii H, Endo H, Tsuchiya H, Inaba Y, Takahashi Y, Terakawa K, Kubota H: Deteminant Factor To Decide An

Optimal Stent Graft Size To Treat Acute Aortic Dissection. *Aortic symposium* 2018. U.S.A. April 2018.

- 池添亨, 船田敏子, 西野純史, 芳賀真, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 当院の重症虚血肢に対するバイパス手術の検討. 第46回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018年5月9日.
- 細井温, 船田敏子, 西野純史, 芳賀真, 池添亨, 芳賀真, 布川雅雄, 窪田博: 深部静脈血栓症に対する抗凝固療法施行後の血栓の変化に関する検討(DOACと従来療法との比較). 第46回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018年5月10日.
- 西野純史, 船田敏子, 池添亨, 芳賀真, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: EVLA術中に心室性不整脈を呈した2症例. 第46回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018年5月10日.
- 船田敏子, 布川雅雄, 細井温, 芳賀真, 池添亨, 西野純史, 窪田博: 突発性の動脈瘤を合併した膝窩動脈瘤急性閉塞の1例. 第46回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018年5月10日.
- 市川洋平, 渋谷慎太郎, 前島克哉, 船曳知弘: 脾動脈に留置した末梢動脈ステントグラフト(Gore Viabahn)の使用経験. 第46回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018年5月10日.
- 船田敏子, 布川雅雄, 細井温, 芳賀真, 池添亨, 西野純史, 窪田博: 血管外科医を志した動機と今後の夢. 第46回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018年5月11日.
- 寺川勝也, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 稲葉雄亮, 窪田博: DOAC 内服中 Nonbacterial thrombotic endocarditisを生じた一例. 第177回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2018年6月23日.
- 窪田博: より安全な心臓外科治療を目指して: NIRSを用いた脳保護の科学/On-pump beating CABGの臨床. 日本心臓血管麻酔学会 第23回学術大会, 東京, 2018年9月14日.
- 古暮洗太, 布川雅雄, 市川洋平, 船田敏子, 池添亨, 稲葉雄亮, 細井温, 窪田博: ステントグラフト術後早期に感染性腹部大動脈瘤を発症した1例. 第26回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 宇都宮, 2018年9月22日.
- 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 船田敏子, 窪田博: Core muscle size は A 型急性大動脈解離における在院死亡の Predictor となりえるか?. 第71回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2018年10月5日.
- 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 寺川勝也, 土屋博司, 石井光, 窪田博: 心拍動下バイパス術における赤外線画像サーモグラフィを用いたグラフトおよび冠動脈の観察. 第71回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2018年10月5日.
- 峯岸祥人, 辻重人, 田中駿, 金子寛行, 星野康弘, 小前兵衛, 木村光利, 嶋田正吾, 木下修, 山内治雄, 縄田寛, 小野稔: 不整脈原性右室心筋症 3 例に対する植込型左室補助人工心臓による治療の経験. 第71回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2018年10月5日.
- 土屋博司, 遠藤英仁, 石井光, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 太田信, 于凱鴻, 清水一夫, 窪田博: 赤外線焼灼による心房細動に対する低侵襲凝固治療装置の開発. 第71回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2018年10月6日.
- 市川洋平, 古暮洗太, 船田敏子, 池添亨, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 小径脾動脈瘤10例の自然経過の検討. 第59回日本脈管学会総会, 広島, 2018年10月25日.
- Minegishi S, Kinoshita S, Hoshino Y, Komae H, Kimura M, Shimada S, Yamauchi H, Nawata K, Ono M: Clinical Outcome of Left Ventricular Assist Device Implantation for Arrhythmogenic Right Ventricular Cardiomyopathy. 26th Annual Meeting of the International Society for Mechanical Circulatory Support, Tokyo, November 01, 2018.
- 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 寺川勝也, 窪田博: 肺動脈血栓摘出術後、inverted left atrium appendageを呈した症例. 第178回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2018年11月3日.

19. 市川洋平, 古暮洸太, 船田敏子, 稲葉雄亮, 池添亨, 土屋博司, 石井光, 遠藤英仁, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 心不全を呈する内シャント過剰血流に対してgraft inclusion術を施行した1例. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
20. 窪田博: 安全な心臓外科手術手技(安全な外科手術: 心臓). ビデオワークショップ, 第80回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018年11月24日.
21. Kubota H: Infrared-coagulator “Kyo-co” to Treat AF, IE and Tumor, ICI meeting, Technology parade / Device. Tel Aviv. Israel, December, 2018.
22. 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 峯岸祥人, 土屋博司, 船田敏子, 窪田博: 2度のTEVAR関連大動脈破裂をTEVARで救命しえた超高齢者の一例. 第16回多摩心臓外科学会, 立川, 2019年2月2日.
23. 土屋博司, 遠藤英仁, 石井光, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 窪田博, 船田さやか, 下山田博明, 柴原純二: Swinging cardiac calcified amorphous tumorの成因に関する病理組織学的検討. 第49回日本心臓血管外科学会学術総会, 岡山, 2019年2月11日.
24. 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 窪田博: 逆行性脳灌流法の脳保護効果を示す新しい指標. 第49回日本心臓血管外科学会学術総会, 岡山, 2019年2月12日.
25. 遠藤英仁, 土屋博司, 峯岸祥人, 稲葉雄亮, 船田敏子, 窪田博: 冠動脈瘤を伴う両側冠動脈肺動脈瘻破裂の1例. 第179回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年3月2日.
26. 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 峯岸祥人, 土屋博司, 船田敏子, 窪田博: 長時間CPR施行後, 救命し得た亜急性期肺動脈血栓塞栓症の一例. 第179回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年3月2日.
27. 遠藤英仁, 土屋博司, 稲葉雄亮, 窪田博: Psoas Muscle Area Index as a Predictor for In-hospital Death of Type A Acute Aortic Dissection. 第83回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2019年3月29日.

## 論文

1. Minegishi S<sup>1</sup>, Goto H<sup>2</sup>, Yamabi H<sup>2</sup>, Imanaka K<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Department of Cardiac Surgery, The University of Tokyo Hospital. <sup>2</sup>Department of Cardiovascular Surgery, Saitama Medical Center): Hemoptysis: A Rare Complication of Acute Aortic Dissection. *Int Heart J* 26:59(5):1146-1148, 2018.
2. Kubota H, Endo H, Ishii H, Tsuchiya H, Inaba Y, Takahashi Y, Terakawa K: Epicardial infrared ablation to create a linear conduction block on a beating right atrium. *J Cardiothorac Surg* 13(1):116, 2018. doi: 10.1186/s13019-018-0801-y.
3. Ishii H, Endo H, Tsuchiya H, Inaba Y, Terakawa K, Kubota H: Off-pump hemostasis for left ventricular rupture after myocardial infarction with Hydrofit and Surgicel. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 66(12):753-755, 2018. doi: 10.1007/s11748-018-0928-8.
4. Ishii H<sup>1</sup>, Ting M<sup>1</sup>, Chi NH<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Surgery, National Taiwan University Hospital and National Taiwan University College of Medicine): Robotic mitral valve repair: standardized repair strategy ensures consistent results. *Ann Cardiothorac Surg* 7(6):837-838, 2018.
5. Kubota H, Endo H, Ishii H, Tsuchiya H, Ohura N<sup>1</sup>, Takahashi Y<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Kyorin University, <sup>2</sup>Department of Cardiovascular Surgery, National Disaster Medical Center): Branched xenopericardial roll graft replacement of an infected aortic arch graft. *Journal of Cardiac Surgery* 34(1):31-34, 2019. DOI: 10.1111/jocs.13986.

## 著書

1. 窪田博: 編集後記. 心臓 SHINZO Vol.50 No.4. 2018.
2. 窪田博: 企画. 心臓 SHINZO Vol.51 No.1. 2018.

## その他

1. 窪田博(座長): シンポジウム 感染性心内膜炎. 第118回日本外科学会, 東京, 2018年4月4日.
2. 窪田博(座長): シンポジウム (19) 弁輪破壊を伴う重症感染性心内膜炎の手術【Video】. 第118回日本外科学会, 東京, 2018年4月6日.
3. 布川雅雄(座長): コーヒーブレイクセミナー1 人工血管を用いた血液透析用バスキュラーアクセス作製術. 第46回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018年5月9日.
4. 窪田博(座長): ポスター44 感染性大動脈瘤 グラフト感染. 第46回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018年5月11日.
5. 細井温(座長): ポスター57 その他2. 第46回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018年5月11日.
6. 細井温(座長): 一般演題 5 DVT2 予防・管理. 第38回日本静脈学会総会, 横須賀, 2018年6月14日.
7. 布川雅雄(座長): 要望演題 7 静脈性血管瘤 3. 第38回日本静脈学会総会, 横須賀, 2018年6月15日.
8. 細井温(座長): Session 1: EVER. 第4回Gore Aortic Clinical Symposium (G-ACS), 東京, 2018年6月30日.
9. 窪田博(座長): 一般演題「弁膜症 大動脈弁」. 第66回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018年7月9日.
10. 遠藤英仁(座長): 一般演題「ステントグラフト合併症」. 第26回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 栃木, 2018年9月22日.
11. 窪田博(座長): 一般口演 41 A型解離 3. 第71回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2018年10月5日.
12. 細井温(座長): ⑤静脈瘤2 (O-5). 第59回日本脈管学会総会, 広島, 2018年10月24日.
13. 布川雅雄(座長): 21 閉塞性動脈疾患3 (O-21). 第59回日本脈管学会総会, 広島, 2018年10月25日.
14. 窪田博(座長): ビデオ03 弁膜症-1. 第49回日本心臓血管外科学会学術総会, 岡山, 2019年2月11日.
15. 窪田博(座長): 一般演題 研修医・学生発表. 第179回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2019年3月2日.

## 整形外科学教室

### 講演

#### A 講演

1. 市村正一: 骨粗鬆症治療におけるゾレドロン酸の有用性. 八王子市医師会学術講演会, 八王子, 2018年4月4日.
2. 市村正一: 慢性疼痛における医療安全を踏まえた薬物治療の実践. 第130回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 松山, 2018年4月21日.
3. 市村正一: 医療安全からみた骨粗鬆症診療. 第3回文京骨と痛みのセミナー, 東京, 2018年6月29日.
4. Morii T: Status of SSI in Orthopaedic Oncology. The 2nd Expert Meeting – SAS, 東京, 2018年7月1日.
5. 細金直文: 腰椎変性疾患に対する治療. 持田製薬東京第一支店多摩第一事業所社内研修会, 三鷹, 2018年7月4日.
6. 市村正一: 医療安全を考慮した日常診療における慢性疼痛の薬物治療. 大阪臨床整形外科医会特別研修会, 大阪, 2018年8月4日.
7. 細金直文: 成人脊柱変形の治療戦略. 第11回多摩整形外科病診連携の会, 調布, 2018年8月23日.
8. 市村正一: 医療安全を考慮した骨粗鬆症診療. 第12回金沢サ

- ンセットセミナー, 金沢, 2018年8月25日.
9. 市村正一: ロコモティブシンドローム (ロコモ) 予防講座. 平成30年度東老連健康教室事業, 小金井, 2018年8月29日.
  10. 森井健司: がん医療の現状. 平成30年度がん看護研修基礎編特別講演, 三鷹, 2018年9月1日.
  11. 細金直文: 本邦におけるLIFを併用した成人脊柱変形の矯正術. Global Alignment Seminar 2018, 東京, 2018年9月1日.
  12. 市村正一: 脆弱性椎体骨折の予防と治療. 第23回狭山・入間整形外科医会学術講演会, 狭山, 2018年9月6日.
  13. 細金直文: 腰椎変性疾患の治療. 日本臓器製薬東京第一支店多摩分室社内研修会, 東京, 2018年9月19日.
  14. 市村正一: 骨粗鬆症治療におけるゾレドロン酸の有用性. 第13回平塚厚木整形外科医会, 平塚, 2018年10月18日.
  15. 佐藤行紀: ガイドラインから見る変形性関節症の薬物療法～デュロキセチンの使用経験から～. 多摩地区痛みについて考える会, web講演, 2018年10月19日.
  16. 細金直文: 成人脊柱変形の評価および治療. 第26回日本腰痛学会, 浜松, 2018年10月26-27日.
  17. 市村正一: 医療安全の観点からみた骨粗鬆症診療. 運動器疾患/骨・関節フォーラム盛岡会場, 盛岡, 2018年11月10日.
  18. 市村正一: 骨粗鬆症の最近の話題. 西多摩整形外科医会, 立川, 2018年11月29日.
  19. 市村正一: ロコモティブシンドローム (ロコモ) 予防講座. 平成30年度東老連健康教室 (城南ブロック) 事業, 東京, 2018年11月30日.
  20. 佐藤行紀: ガイドラインから見る変形性関節症の薬物療法～デュロキセチンの使用経験から～. Pain Expert Interview Web, web講演, 2018年11月30日.
  21. 森井健司: 人生100年時代の運動器診療. 杏林大学大学院医学研究科イブニングセミナー, 三鷹, 2018年12月5日.
  22. 市村正一: 医療安全からみた骨粗鬆症診療におけるビスホスホネート静注剤の投与方法. 山梨県整形外科医会教育研修会, 甲府, 2019年1月10日.
  23. 市村正一: ロコモティブシンドローム (ロコモ) 予防講座. 平成30年度東老連健康教室 (城北ブロック) 事業, 東京, 2019年1月25日.
  24. 森井健司: 骨軟部腫瘍診療における創意と工夫 “Life Hacks for Doctors”. 第13回信濃町骨軟部腫瘍研究会, 東京, 2019年1月26日.
  25. 市村正一: 慢性疼痛の病態と治験アプローチ～Duloxetineの自験例を踏まえて～. 整形外科リバーサイドフォーラム, 岐阜, 2019年1月26日.
  26. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折における椎体形成術 (BKP) の適応と課題. 日本骨粗鬆症フロンティア・現場から未来へ, 東京, 2019年2月3日.
  27. 市村正一: ロコモティブシンドローム (ロコモ) 予防講座. 平成30年度東老連健康教室 (第5ブロック) 事業, 清瀬, 2019年2月12日.
  28. 市村正一: 慢性疼痛の病態と薬物療法～Duloxetineの自験を踏まえて～. 山形整形外科懇話会疼痛セミナー, 山形, 2019年2月13日.
  29. 市村正一: ロコモティブシンドローム (ロコモ) 予防講座. 平成30年度東老連健康教室 (第1ブロック) 事業, 日の出, 2019年2月15日.
  30. 細金直文: 脊椎変性疾患の治療 薬物治療から手術療法まで. 第6回多摩地域の整形外科疾患を考える会, 三鷹, 2019年2月20日.
  31. 細金直文: 骨粗鬆症に伴う椎体骨折の治療. 第26回埼玉骨・関節疾患研究会, さいたま, 2019年2月21日.
  32. 市村正一: 骨代謝マーカーを用いた骨粗鬆症診療. 第38回城南骨・関節フォーラム, 東京, 2019年3月8日.
  33. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折の治療～薬物療法から手術療法まで～. 横浜脊椎脊髄病研究会, 横浜, 2019年3月16日.
  34. 長谷川雅一: ラグビーにおける脊椎 (頸椎) の外傷・障害と脳振盪の取り組みについて. 第8回長州スポーツ整形塾, 山口, 2019年3月21日.
  35. 佐藤行紀: ガイドラインから見る変形性関節症の薬物療法. 北多摩北部整形外科フォーラム, 武蔵野, 2019年3月30日.
- B 国際学会**
1. Hosogane N, Watanabe K, Ishii K: Current Status of Surgical Treatment for Non-union after Osteoporotic Vertebral Fracture in Japan. The 6th International Spine Symposium of 4 Universities, China, Apr. 21<sup>st</sup>, 2018.
  2. Takeda K, Kou I, Hosogane N, Yagi M, Kaneko S, Kono H, Ishikawa M, Takahashi Y, Ikegami T, Nojiri K, Okada E, Funao H, Okuyama K, Tsuji T, Fujita N, Nagoshi N, Tsuji O, Ogura Y, Ishii K, Nakamura M, Matsumoto M, Watanabe K, Ikegawa S: Association of degenerative lumbar scoliosis with the susceptibility genes for adolescent idiopathic scoliosis and disc degeneration. The 45th International Society for the Study of the Lumbar Spine (ISSLS), Canada, May. 14-18, 2018.
  3. Hosogane N, Ishii K, Kono H, Isogai N, Watanabe K, Imabayashi H, Chiba K: Surgical Treatment for Non-union after Osteoporotic Vertebral Fracture. Multicenter Study by Japan Association of Spine Surgeons with Ambition (JASA). The 25th International Meeting on Advanced Spine Techniques (IMAST), USA, Jul. 11-14, 2018.
  4. Yagi M, Ames CP, Hosogane N, Smith JS, Shaffrey CI, Schwab FJ, Lafage V, Matsumoto M, Bess S, Watanabe K, International Spine Study Group: Comparison of the incidence and risk factors for proximal junctional failure (PJF) in surgically treated patients with adult spinal deformity (ASD) between patients from Japan and the United States: series of 509 patients with 2-year follow-up. North American Spine Society (NASS) Annual Meeting, USA, Sep. 24-29, 2018.
  5. Nagoshi N, Kono H, Tsuji O, Aoyama R, Fujiyoshi K, Shiono Y, Ishikawa M, Daimon K, Hosogane N, Watanabe K, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K, Yamane J: Impact of Tobacco Smoking on Outcomes After Posterior Decompression Surgery in Patients with Cervical Spondylotic Myelopathy. The 46th Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society, USA, Dec. 6-8, 2018.
  6. Moroi T, Sano H, Hosogane N, Ichimura S: Development of the novel method for functional evaluation of hands dexterity using tablet computer (first report) – Evaluation with healthy volunteers–, CSRS-AP, Yokohama, Mar. 14-16, 2019.
- C 国内学会**
1. 細金直文, 石井賢, 河野仁, 磯貝宜広, 渡辺航太, 今林英明, 千葉一裕: 本邦における骨粗鬆症性椎体骨折後偽関節に対する手術的治療の現状 JASA 主導による多施設研究. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
  2. 細金直文, 河野仁, 今林英明, 藤田順之, 千葉一裕, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太: 成人脊柱変形に対する矯正固定術後の体幹可撓性低下が術後満足度と与える影響 ADL アンケートおよび SRS-22 スコアによる検討. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
  3. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 小西一斉, 市村正一: BKP 後の隣接椎体骨折の画像評価と治療戦略. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.

4. 竹内拓海, 里見和彦, 山岸賢一郎, 市村正一: びまん性特発性骨増殖症 (DISH) を伴う骨粗鬆症性椎体骨折に対する新しい経皮的椎弓根スクリュー (PPS) 刺入法 Double endplates penetrating screw (DEPS) 法~第2報~. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
5. 小倉洋二, 高橋洋平, 武田和樹, 南昌平, 川上紀明, 宇野耕吉, 伊東学, 米澤郁穂, 海渡貴司, 柳田晴久, 渡辺慶, 種市洋, 須藤英毅, 播谷勝三, 谷口優樹, 細金直文, 小谷俊明, 辻太一, 鈴木哲平, 岡田英次郎, 藤田順之, 八木満, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太, 池川志郎: BNC2遺伝子は人種を超えて思春期特発性側弯症発症に関与する. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
6. 河原洋, 今林英明, 小柳津大樹, 脇田晃充, 佐々木惇也, 田原健一, 中川敬博, 谷口健太, 井上雅博, 田口瑛子, 松橋優介, 佐々尾宙, 細金直文, 千葉一裕: CTを用いた化膿性脊椎炎の骨破壊評価法の提唱~MRSAと他の起因菌の比較~. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
7. 船尾陽生, 山根淳一, 磯貝宜広, 石原慎一, 辻収彦, 藤田順之, 八木満, 渡辺航太, 細金直文, 二宮研, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢, 名越慈人: ASA分類による頸椎後方除圧術の治療成績比較. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
8. 中川敬博, 今林英明, 小柳津大樹, 脇田晃充, 河原洋, 佐々木惇也, 田原健一, 谷口健太, 井上雅博, 田口瑛子, 松橋優介, 佐々尾宙, 細金直文, 千葉一裕: MRI上の硬膜外脂肪組織による硬膜管圧迫像と単純X線上の腰椎不安定性の関連について. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
9. 中道清広, 河野仁, 片岡嗣和, 渡邊泰伸, 橘安津子, 宮本梓, 竹内拓海, 細金直文, 齊藤正史: 成人脊柱変形におけるPJKの予測因子-T12slope計測の妥当性. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
10. 今林英明, 小柳津大樹, 脇田晃充, 河原洋, 佐々木惇也, 田原健一, 谷口健太, 中川敬博, 井上雅博, 田口瑛子, 松橋優介, 佐々尾宙, 安岡宏樹, 細金直文, 千葉一裕: 非手術部位部感染例における脊椎手術周術期のリンパ球減少について. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
11. 田原健一, 小柳津大樹, 脇田晃充, 河原洋, 佐々木惇也, 中川敬博, 谷口健太, 松橋優介, 佐々尾宙, 安岡宏樹, 細金直文, 千葉一裕: 腰仙椎における経皮的椎弓根スクリュー挿入法の正確性の検討. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
12. 橘安津子, 河野仁, 片岡嗣和, 渡邊泰伸, 中道清広, 竹内拓海, 齊藤正史, 細金直文, 宮本梓: 3椎間以上の後方固定術の手術成績と矢状断アライメントの関連性. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
13. 小柳津大樹, 今林英明, 脇田晃充, 河原洋, 田原健一, 佐々木惇也, 中川敬博, 谷口健太, 井上雅博, 田口瑛子, 松橋優介, 細金直文, 千葉一裕: 転移性脊椎腫瘍の麻痺発生に関連する因子の解析. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
14. 河野仁, 宮本梓, 橘安津子, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 竹内拓海, 細金直文: 肉眼で行う低侵襲頸椎連続的椎弓切除術 (Mic-CeL) 術後1年の治療成績. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
15. 谷口健太, 細金直文, 河野仁, 安岡宏樹, 松橋優介, 小柳津大樹, 脇田晃充, 河原洋, 佐々木惇也, 田原健一, 中川敬博, 井上雅博, 田口瑛子, 佐々尾宙, 今林英明, 千葉一裕: 腰椎後弯症における矢状面パラメーターと大腰筋の形状に関する検討. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
16. 小西一齊, 中島剛, 佐野秀仁, 五十嵐一峰, 大森雅夫, 諸井威彦, 高橋雅人, 鈴木伸弥, 入江駿, 有安諒平, 大木紫, 市村正一: 錐体路と末梢神経の連合刺激によるヒト間接的皮質-脊髄路興奮の長期増強. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 神戸, 2018年4月12-14日.
17. 森井健司, 大塚弘毅, 小林敬明, 上野貴之, 大西宏明, 中村浩之, 市村正一: 構造活性相関解析により得られた新規HIF1 $\alpha$ 転写活性阻害物質GN44028による骨肉腫治療法の開発. 第15回関東骨軟部腫瘍の基礎を語る会春のセミナー, 笛吹, 2018年4月21日.
18. 大野公宏, 工藤文孝, 高山拓人, 丸野秀人, 道廣岳, 野島美希, 市村正一: 橈骨遠位端関節内骨折に対する Volar Locking Plate固定術の治療成・青壮年者と高齢者の比較. 第61回日本手外科学会学術集会, 東京, 2018年4月26-27日.
19. Morii T, Anazawa U, Ishii T, Kunisada T, Nakayama R, Kikuta K, Asano N, Uda T, Ueda T, Morioka H: Treatment outcome of dedifferentiated liposarcoma in the extremity and the trunk: A data from Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG). 第91回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2018年5月24-27日.
20. 細金直文, 今林英明, 河野仁, 藤田順之, 八木満, 岡田英次郎, 中村雅也, 松本守雄, 千葉一裕: LIFがもたらした脊柱変形手術のパラダイムシフト. 第91回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2018年5月24-27日.
21. 細金直文, 石井賢, 河野仁, 磯貝宜広, 渡邊航太, 今林英明, 千葉一裕, JASA: 本邦における骨粗鬆症性椎体骨折後偽関節に対する手術治療の現状JASA 主導による多施設共同研究. 第91回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2018年5月24-27日.
22. 森脇孝博, 五十嵐一峰, 大塚英明, 市村正一: 大腿骨近位部骨折の臨床像・最近の動向. 第91回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2018年5月24-27日.
23. 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 松隈卓徳, 安部学, 西野雅人, 星亨, 藤井肇, 森脇孝博, 市村正一: 高齢者の上腕骨近位部骨折における術後矯正損失量と上腕骨皮質骨厚の関連性. 第91回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2018年5月24-27日.
24. 川井章, 河野博隆, 森岡秀夫, 石井猛, 森井健司, 遠藤誠, 東尚弘, 中野理恵, 銭谷聖子, 尾崎敏文: 全国骨・軟部腫瘍登録電子化 10 年の経過と WEB 化のあゆみ. 第91回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2018年5月24-27日.
25. 浅野尚文, 菊田一貴, 須佐美知郎, 渡部逸央, 森井健司, 穴澤卯圭, 鈴木禎寿, 森岡秀夫, 中村雅也, 松本守雄, 中山ロバート: 骨巨細胞腫の治療成績. 第91回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2018年5月24-27日.
26. 磯貝宜広, 細金直文, 船尾陽生, 石原慎一, 渡邊航太, 石井賢, JASA: 中下位腰椎の骨粗鬆症性椎体骨折に対する固定術はimplant failureを来しやすい JASA主導による多施設研究. 第91回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2018年5月24-27日.
27. 今林英明, 細金直文, 井上雅博, 田口瑛子, 松橋優介, 佐々尾宙, 谷口健太, 中川敬博, 千葉一裕: 脊椎手術後SSIにおける末梢血液中の白血球およびその分画の推移について. 第91回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2018年5月24-27日.
28. 佐藤行紀, 小谷明弘, 片山和洋, 坂倉健吾, 佐々木茂, 鈴木啓司: 人工膝関節置換術前のストレス撮影による関節開大量とインサート厚の関係. JOSKAS 2018, 福岡, 2018年6月14-16日.
29. 坂倉健吾, 佐々木茂, 小谷明弘: 高齢者腱板断裂に対する Mini-open直視下腱板修復術と鏡視下腱板修復術の比較. JOSKAS 2018, 福岡, 2018年6月14-16日.
30. 片山和洋, 佐藤行紀, 坂倉健吾, 鈴木啓司, 小谷明弘, 市村正一: Osgood-Schlatter病を有した脛骨粗面裂離骨折と膝蓋腱断裂, ACL脛骨付着部裂離骨折の同時損傷の1例. JOSKAS 2018, 福岡, 2018年6月14-16日.

31. 竹内拓海, 里見和彦, 山岸賢一郎, 市村正一:びまん性特発性骨増殖症(DISH)を伴う骨粗鬆症性椎体骨折に対する新しい経皮的椎弓根スクリュー(PPS)刺入法 Double endplates penetrating screw (DEPS) 法~第2報~. 第17回京都鴨川脊椎手術研究会, 京都, 2018年6月30日.
32. 森井健司, 田島崇, 市村正一:術前化学療法は悪性骨軟部腫瘍における SSI発生リスクとなるか. 第41回日本骨・関節感染症学会, 大阪, 2018年7月6-7日.
33. 森井健司, 松下和彦, 稲葉裕, 岡敬之, 篠崎智大, 立岩俊之, 正岡利紀, 山田浩司, 山本謙吾, 市村正一:人工膝・股関節置換術および脊椎インストゥルメンテーション手術部位感染の全国調査(JDOS)の現状と課題. 第41回日本骨・関節感染症学会, 大阪, 2018年7月6-7日.
34. 佐藤行紀, 小谷明弘, 片山和洋, 坂倉健吾, 佐々木茂, 鈴木啓司, 市村正一:当院における人工膝関節置換術後感染に対する治療成績. 第41回日本骨・関節感染症学会, 大阪, 2018年7月6-7日.
35. 大畑徹也, 稲田成作, 加藤聡一郎, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一:当院における高齢者骨盤輪骨折の生命予後の検討(若年者と比較して). 第44回日本骨折治療学会, 岡山, 2018年7月6-7日.
36. 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 松隈卓徳, 安部学, 星亨, 森脇孝博, 市村正一:高齢者上腕骨近位部骨折における術後矯正損失量と上腕骨皮質骨厚の関連性. 第44回日本骨折治療学会, 岡山, 2018年7月6-7日.
37. 濱田尚一郎, 大畑徹也, 道廣岳, 松隈卓徳, 稲田成作, 安部学, 市村正一, 山口芳裕:Floating kneeに合併した脂肪塞栓症の一例. 第44回日本骨折治療学会, 岡山, 2018年7月6-7日.
38. 西野雅人, 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 松隈卓徳, 安部学, 星亨, 森脇孝博, 市村正一:大学病院における高齢者大腿骨転子部骨折術後1年の機能予後に影響する因子. 第44回日本骨折治療学会, 岡山, 2018年7月6-7日.
39. 森井健司, 穴澤卯圭, 石井猛, 国定俊之, 中山ロバート, 菊田一貴, 浅野尚文, 宇高徹, 上田孝文, 森岡秀夫:四肢体幹部に発生した脱分化脂肪肉腫の治療成績 JMOG による多施設共同研究. 第51回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 静岡, 2018年7月12-13日.
40. 田島崇, 森井健司, 岡部直太, 柴原純二, 市村正一:当院における高分化型脂肪肉腫の治療成績. 第51回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 静岡, 2018年7月12-13日.
41. 宇高徹, 浅野尚文, 菊田一貴, 中山ロバート, 中村雅也, 松本守雄:上腕骨近位部巨細胞腫の治療成績. 第51回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 静岡, 2018年7月12-13日.
42. 浅野尚文, 菊田一貴, 須佐美知郎, 渡部逸央, 森井健司, 穴澤卯圭, 鈴木禎寿, 森岡秀夫, 中村雅也, 松本守雄, 中山ロバート:骨巨細胞腫の治療成績. 第51回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 静岡, 2018年7月12-13日.
43. 齊藤誠人, 浅野尚文, 菊田一貴, 森井健司, 鈴木禎寿, 森岡秀夫, 中村雅也, 松本守雄, 中山ロバート:大腿骨近位に発生した骨巨細胞腫の治療成績. 第51回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 静岡, 2018年7月12-13日.
44. 荒木信人, 中馬広一, 松延知哉, 片桐浩久, 杉浦英志, 森岡秀夫, 平賀博明, 西田佳弘, 平岡弘二, 岡本健, 比留間徹, 保坂正美, 森井健司, 阿部哲士, 浅沼邦洋, 吉川秀樹, 田仲和宏, 尾崎敏文, 福田治彦, 岩本幸英:骨転移手術の術式決定要因についての検討. 第51回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 静岡, 2018年7月12-13日.
45. 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 岡部直太, 柴原純二, 市村正一:70歳女性 左脛骨骨腫瘍. 第26回多摩骨軟部腫瘍研究会, 三鷹, 2018年8月25日.
46. 森井健司, 田島崇, 宇高徹, 市村正一:高齢者軟部肉腫診療の現状と問題点. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
47. 高橋雅人, 細金直文, 佐藤俊輔, 小西一斉, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一:頸椎症性筋萎縮症における頸椎矢状面アラメントの影響. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
48. 大畑徹也, 稲田成作, 小谷明弘, 山口芳裕, 市村正一:重症軟部組織感染症の治療成績と予後不良因子の検討. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
49. 田島崇, 森井健司, 宇高徹, 市村正一:進行悪性軟部腫瘍に対する化学療法の治療成績. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
50. 大柘英昭, 五十嵐一峰, 森脇孝博, 市村正一:70歳以上の高齢者における橈骨遠位端骨折と骨粗鬆症性脊椎椎体圧迫骨折の合併について. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
51. 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 高橋雅人, 小西一斉, 長谷川雅一, 細金直文, 森井健司, 市村正一:非常に稀な脊柱管内に発生した筋上皮腫の1例. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
52. 小西一斉, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 大畑徹也, 稲田成作, 佐藤俊輔, 細金直文, 市村正一:当院における中下位頸椎脱臼骨折に対する治療成績. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
53. 川野洋介, 家田良樹, 黒崎祥一, 有賀賢一, 市村正一:QCTによる透析患者の大腿骨近位部骨密度評価. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
54. 稲永紗季, 長谷川雅一, 市村正一:高齢者に対するロコモーショントレーニング運動介入の効果. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
55. 西野雅人, 大畑徹也, 稲田成作, 市村正一:高齢者大腿骨転子部骨折術後に機能予後を低下させる因子~大学病院における術後1年の検討~. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
56. 阿部幹, 井上功三朗, 小寺正純, 市村正一:乾癬性関節炎に人工股関節全置換術を施行した1例. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
57. 竹内拓海, 里見和彦, 山岸賢一郎, 市村正一:Double endplates penetrating screw (DEPS) 法を施行したびまん性特発性骨増殖症(DISH)関連椎体骨折患者のDISH椎体と非DISH椎体のHounsfield値の検討. 第27回日本インストゥルメンテーション学会, 東京, 2018年9月28日.
58. 森井健司, 大塚弘毅, 小林敬明, 上野貴之, 大西宏明, 中村浩之, 市村正一:構造活性相関解析により得られた新規HIP1a転写活性阻害物質GN44028による骨肉腫治療法の開発. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018年10月11-12日.
59. 細金直文, 松橋優介, 松川啓太郎, 今林英明, 千葉一裕:成人脊柱変形の矯正術における近位隣接椎間障害予防に対するcortical bone trajectory法の有用性 有限要素法を用いた検討. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018年10月11-12日.
60. 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 松隈卓徳, 高柳正俊, 道廣岳, 市村正一:PTHを投与した家兎骨延長モデルにおける延長仮骨病理組織の検討. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018年10月11-12日.
61. 稲永紗季, 長谷川雅一, 市村正一:高齢者に対するロコモーショントレーニング運動介入の効果. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018年10月11-12日.
62. 川野洋介, 黒崎祥一, 家田良樹, 有賀賢一, 長谷川雅一, 市村正一:QCTによる透析患者の大腿骨近位部骨密度評価. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018年10月11-12日.
63. 今林英明, 中川敬博, 河原洋, 佐々木惇也, 田原健一, 谷口健太, 井上雅博, 田口瑛子, 松橋優介, 細金直文, 千葉一裕:

- 脊椎手術患者における術前の好中球・リンパ球比(neutrophil to lymphocyte ratio: NLR)の検討. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018年10月11-12日.
64. 松橋優介, 堀内圭輔, 高橋洋平, 渡邊航太, 細金直文, 田口瑛子, 井上雅博, 今林英明, 池川志郎, 松本守雄, 千葉一裕: 思春期特発性側彎症関連遺伝子Lbx1を骨格筋特異的に欠損したマウスは前肢と胸郭の低形成を来す. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018年10月11-12日.
  65. 小倉洋二, 高橋洋平, 武田和樹, 南昌平, 川上紀明, 宇野耕吉, 伊東学, 米澤郁穂, 海渡貴司, 柳田晴久, 渡辺慶, 種市洋, 須藤英毅, 播谷勝三, 谷口優樹, 細金直文, 小谷俊明, 辻太一, 鈴木哲平, 岡田英次郎, 藤田順之, 八木満, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太, 池川志郎: BNC2遺伝子は多人種で思春期特発性側彎症発症に関与する. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018年10月11-12日.
  66. 高橋洋平, 小倉洋二, 南昌平, 川上紀明, 宇野耕吉, 伊東学, 米澤郁穂, 海渡貴司, 柳田晴久, 渡辺慶, 種市洋, 須藤英毅, 播谷勝三, 谷口優樹, 細金直文, 小谷俊明, 辻太一, 鈴木哲平, 武田和樹, 岡田英次郎, 藤田順之, 八木満, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太, 千葉一裕, 池川志郎: rs11190870が思春期特発性側彎症の重症度に関与するかの検討. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018年10月11-12日.
  67. 坂倉健吾, 佐々木茂, 市村正一: 高齢者腱板断裂に対するMini-openとARCRの比較. 第45回日本肩関節学会, 大阪, 2018年10月19-20日.
  68. 細金直文, 八木満, 河野仁, 藤田順之, 今林英明, 千葉一裕, 市村正一, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太: 成人脊柱変形における術後ODIの臨床的有意な最小変化量(MCID)達成に関与する因子の検討. 第26回日本腰痛学会, 浜松, 2018年10月26-27日.
  69. 長谷川雅一, 稲永紗季, 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 高橋雅人, 細金直文, 市村正一: 高齢者に対するロコモーショントレーニングの運動介入効果. 第26回日本腰痛学会, 浜松, 2018年10月26-27日.
  70. 佐野秀仁, 小西一斉, 佐藤俊輔, 高橋雅人, 長谷川雅一, 細金直文, 市村正一: 中下位腰椎の骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKPの治療成績. 第26回日本腰痛学会, 浜松, 2018年10月26-27日.
  71. 稲永紗季, 長谷川雅一, 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 高橋雅人, 細金直文, 市村正一: 高齢者に対するロコモーショントレーニング運動介入の効果. 第26回日本腰痛学会, 浜松, 2018年10月26-27日.
  72. 安部一平, 井上功三朗, 小寺正純, 市村正一: 放射線照射後の股関節症3例の治療経験. 第45回日本股関節学会, 名古屋, 2018年10月26-27日.
  73. 稲永紗季, 長谷川雅一, 市村正一: 高齢者に対するロコモーショントレーニング運動介入の効果. 第20回日本骨粗鬆症学会, 長崎, 2018年10月26-28日.
  74. 細金直文, 八木満, 河野仁, 藤田順之, 今林英明, 岡田英次郎, 鈴木悟士, 名越慈人, 辻収彦, 千葉一裕, 市村正一, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太: 成人脊柱変形における術後ODIの臨床的有意な最小変化量(MCID)達成に関与する因子の検討. 第52回日本側弯症学会, 東京, 2018年11月2-3日.
  75. Hosogane N, Yagi M, Ames CP, Lafage V, Matsuyama Y, Taneichi H, Yamato Y, Takeuchi D, Ichimura S, Matsumoto M, Watanabe K, ISSG: Ethnic Characteristics of Adult Spinal Deformity (ASD) patients: A Comparison of Propensity Score Matched North American and Japanese ASD Patients. International Symposium. 第52回日本側弯症学会, 東京, 2018年11月2-3日.
  76. 高橋洋平, 小倉洋二, 南昌平, 川上紀明, 宇野耕吉, 伊東学, 米澤郁穂, 海渡貴志, 柳田晴久, 渡辺慶, 種市洋, 須藤英毅, 播谷勝三, 谷口優樹, 細金直文, 小谷俊明, 辻太一, 鈴木哲平, 武田和樹, 岡田英次郎, 藤田順之, 八木満, 辻崇, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太, 千葉一裕, 池川志郎: RS11190870と思春期特発性側弯症の重症化に関する検討. 第52回日本側弯症学会, 東京, 2018年11月2-3日.
  77. 武田和樹, 小倉洋二, 高橋洋平, 南昌平, 川上紀明, 宇野耕吉, 伊東学, 米澤郁穂, 海渡貴司, 柳田晴久, 渡辺慶, 種市洋, 須藤英毅, 播谷勝三, 谷口優樹, 細金直文, 小谷俊明, 辻太一, 鈴木哲平, 岡田英次郎, 藤田順之, 八木満, 中村雅也, 松本守雄, 池川志郎, 渡邊航太: RS12946942は多人種間で思春期特発性側弯症の重症化に関与する. 第52回日本側弯症学会, 東京, 2018年11月2-3日.
  78. 八木満, 細金直文, 藤田順之, 岡田英次郎, 鈴木悟士, 名越慈人, 辻収彦, 金子慎二郎, 朝妻孝仁, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太: 成人脊柱変形に対する矯正固定術の合併症予測. 第52回日本側弯症学会, 東京, 2018年11月2-3日.
  79. 八木満, 細金直文, 藤田順之, 岡田英次郎, 鈴木悟士, 辻収彦, 名越慈人, 金子慎二郎, 朝妻孝仁, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太: フレイル(虚弱)の治療状態は成人脊柱変形の術後合併症の発生に影響を及ぼさない. 第52回日本側弯症学会, 東京, 2018年11月2-3日.
  80. 佐藤行紀, 市村正一: 膠原病患者に生じた非定型大腿骨骨折の2例. 第62回多摩リウマチ研究会, 東京, 2018年11月17日.
  81. 高見澤悠平, 坂倉健吾, 森井健司, 市村正一, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博: 肩関節に生じた滑膜骨軟骨腫症に対して鏡視下手術を行った2例. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
  82. 高畑賢, 稲田成作, 道廣岳, 市村正一, 藤原正親, 柴原純二: デノスマブを投与中に生じた非定型大腿骨骨折の1例. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
  83. 大塚弘毅, 大西宏明, 森井健司, 藤原正親, 小倉航, 松島早月, 山崎聡子, 岸野智則, 渡邊卓: 野生型マウスの自然発生肺癌のゲノム解析. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月18日.
  84. 細金直文, 野尻賢哉, 今林英明, 河野仁, 高橋雅人, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一: 椎体脆弱性骨折に対する低侵襲側方アプローチによる椎体置換術. 第21回日本低侵襲脊椎外科学会, 東京, 2018年11月29-30日.
  85. 尾崎正大, 河野仁, 宮本梓, 橘安津子, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 竹内拓海, 細金直文: 肉眼で行う低侵襲頸椎連続的椎弓切除術(Mic-CeL)術後1年の治療成績. 第21回日本低侵襲脊椎外科学会, 東京, 2018年11月29-30日.
  86. 稲永紗季, 長谷川雅一, 市村正一: 高齢者に対するロコモーショントレーニング運動介入の効果. 第18回世田谷医師会医学会, 東京, 2018年12月1日.
  87. 高見澤悠平, 坂倉健吾, 森井健司, 市村正一: 肩関節に生じた滑膜骨軟骨腫症に対して鏡視下手術を行った2例. 関東整形災害外科学会第691回月例会, 東京, 2018年12月15日.
  88. 小西一斉, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 大畑徹也, 稲田成作, 佐藤俊輔, 細金直文, 市村正一: 当院における中下位頸椎脱臼骨折に対する治療経験. 第20回圧迫性脊髄症研究会, 東京, 2019年1月19日.
  89. 諸井威彦, 佐野秀仁, 細金直文, 市村正一: タブレットPCを用いた新たな上肢巧緻機能評価法の開発(第一報)-健常者間の左右差の評価-. 第40回脊髄機能診断研究会, 東京, 2019年2月2日.
  90. 大野公宏, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 大塚英昭, 佐藤俊輔, 市村正一: 末梢神経損傷後幼若ラットにおける皮質脊髄路経路変更の可能性-電気生理学的検討-. 第40回脊髄機能診断研究会, 東京, 2019年2月2日.
  91. 井上功三朗, 小寺正純, 市村正一: 初回人工股関節置換術における術前トラネキサム酸静脈内投与の効果. 第49回日本人工関節学会, 東京, 2019年2月15-16日.
  92. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐藤俊輔, 細金直文, 市村正一: Balloon Kyphoplastyの適応と限界. 第59回関東整

形災害外科学会, 東京, 2019年3月22-23日.

93. 坂倉健吾, 佐々木茂, 市村正一: Dual row法とDAFF法による腱板修復術の比較 再断裂形態に着目して. 第59回関東整形災害外科学会, 東京, 2019年3月22-23日.
94. 竹内拓海, 里見和彦, 諸井威彦, 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川雅一, 細金直文, 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折と脊柱管狭窄症. 第59回関東整形災害外科学会, 東京, 2019年3月22-23日.
95. 道廣岳, 稲田成作, 市村正一: 大動脈弓石灰化の程度と大腿骨近位部骨折の手術成績との関連. 第59回関東整形災害外科学会, 東京, 2019年3月22-23日.
96. 藤田順之, 八木満, 細金直文, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太: 成人脊柱変形術後患者のADLおよびQO. 第59回関東整形災害外科学会, 東京, 2019年3月22-23日.
97. 大畑徹也, 濱田尚一朗, 稲田成作, 小谷明弘, 山口芳裕, 市村正一: 電車事故における重傷多発外傷の特徴と治療経験. 第24回救急整形外傷シンポジウム (EOTS), 中頭郡, 2019年3月22-23日.

## 論文

1. 市村正一: 【おもろいたとえでことんわかる 整形ナースのための"クスッ"と笑えるくすりのりすと】 周術期感染のくすり 抗菌薬. 整形外看23(9): 887-890, 2018.
2. Morii T, Tajima T, Honya K<sup>1</sup>, Aoyagi T, Ichimura S. (<sup>1</sup>Department of Medical Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Kyorin University) :Clinical significance of the tail-like pattern in soft-tissue sarcomas on magnetic resonance imaging. J Orthop Sci 23(6):1032-1037, 2018.
3. 森井健司: 広範切除の作法. 整形外科 69: 1200, 2018.
4. 森井健司: 整形外科手術部位感染対策マニュアル II. SSI に対する対応 骨軟部腫瘍術後感染への対応. MB Orthopaedics 31:129-134, 2018.
5. 森井健司, 市村正一: 術後感染調査 (J-DOS) . Bone Joint Nerve 8:409-414, 2018.
6. Tanaka K<sup>1</sup>, Ogawa G<sup>2</sup>, Mizusawa J<sup>2</sup>, Naka N<sup>3</sup>, Kawai A<sup>2</sup>, Takahashi M<sup>4</sup>, Hiruma T<sup>5</sup>, Matsumoto Y<sup>6</sup>, Tsuchiya H<sup>7</sup>, Nakayama R<sup>8</sup>, Hatano H<sup>9</sup>, Emori M<sup>10</sup>, Hosaka M<sup>11</sup>, Yoshida Y<sup>12</sup>, Toguchida J<sup>13</sup>, Abe S<sup>14</sup>, Asanuma K<sup>15</sup>, Yokoyama R<sup>16</sup>, Hiraga H<sup>17</sup>, Yonemoto T<sup>18</sup>, Morii T, Matsumoto S<sup>19</sup>, Nagano A<sup>20</sup>, Yoshikawa H<sup>21</sup>, Fukuda H<sup>2</sup>, Ozaki T<sup>22</sup>, Iwamoto Y<sup>23</sup> (<sup>1</sup>Oita University, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital,<sup>3</sup>Osaka International Cancer Institute, <sup>4</sup>Shizuoka Cancer Center,<sup>5</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>6</sup>Kyushu University,<sup>7</sup>Kanazawa University, <sup>8</sup>Keio University, <sup>9</sup>Niigata Cancer Center Hospital,<sup>10</sup>Sapporo Medical University, <sup>11</sup>Tohoku University,<sup>12</sup>Nihon University, <sup>13</sup>Kyoto University,<sup>14</sup>Teikyo University, <sup>15</sup>Mie University, <sup>16</sup>National Kyushu Cancer Center, <sup>17</sup>Hokkaido Cancer Center,<sup>18</sup>Chiba Cancer Center, <sup>19</sup>Cancer Institute Hospital, <sup>20</sup>Gifu University,<sup>21</sup>Osaka University, <sup>22</sup>Okayama University, <sup>23</sup>Kyushu Risai Hospital):Prospective comparison of various radiological response criteria and pathological response to preoperative chemotherapy and survival in operable high-grade soft tissue sarcomas in Japan Clinical Oncology Group study JCOG0304. World J Surg Oncol 16(1):162, 2018.
7. Urukawa H<sup>1</sup>, Yonemoto T<sup>2</sup>, Matsumoto S<sup>3</sup>, Takagi T<sup>4</sup>, Asanuma K<sup>5</sup>, Watanuki M<sup>6</sup>, Takemoto A<sup>7</sup>, Naka N<sup>8</sup>, Matsumoto Y<sup>9</sup>, Kawai A<sup>10</sup>, Kunisada T<sup>11</sup>, Kubo T<sup>12</sup>, Emori M<sup>13</sup>, Hiraga H<sup>14</sup>, Hatano H<sup>15</sup>, Tsukushi S<sup>16</sup>, Nishida Y<sup>1</sup>, Akisue T<sup>17</sup>, Morii T, Takahashi M<sup>18</sup>, Nagano A<sup>19</sup>, Yoshikawa H<sup>20</sup>, Sato K<sup>21</sup>, Kawano M<sup>22</sup>, Hiraoka K<sup>23</sup>, Tanaka K<sup>24</sup>, Iwamoto Y<sup>25</sup>, Ozaki T<sup>11</sup> (<sup>1</sup>Nagoya

- University,<sup>2</sup>Chiba Cancer Center, <sup>3</sup>Cancer Institute Hospital, <sup>4</sup>Juntendo University,<sup>5</sup>Mie University, <sup>6</sup>Tohoku University Hospital, <sup>7</sup>Yokohama City University,<sup>8</sup>Osaka International Cancer Institute,<sup>9</sup>Kyushu University,<sup>10</sup>National Cancer Center, <sup>11</sup>Okayama University, <sup>12</sup>Hiroshima University, <sup>13</sup>Sapporo Medical University,<sup>14</sup>Hokkaido Cancer Center, <sup>15</sup>Niigata Cancer Center Hospital,<sup>16</sup>Aichi Cancer Center,<sup>17</sup>Kobe University,<sup>18</sup>Shizuoka Cancer Center,<sup>19</sup>Gifu University, <sup>20</sup>Osaka University, <sup>21</sup>Teikyo University,<sup>22</sup>Oita University,<sup>23</sup>Kurume University, <sup>24</sup>Oita University, <sup>25</sup>Kyushu Rosai Hospital): Clinical outcome of primary giant cell tumor of bone after curettage with or without perioperative denosumab in Japan: from a questionnaire for JCOG 1610 study. World J Surg Oncol. 16(1):160, 2018.
8. Hosogane N<sup>1</sup>, Ames C<sup>2</sup>, Matsumoto M<sup>3</sup>, Yagi M<sup>3</sup>, Matsuyama Y<sup>4</sup>, Taneichi H<sup>5</sup>, Yamato Y<sup>4</sup>, Takeuchi D<sup>5</sup>, Schwab F<sup>6</sup>, Shaffrey C<sup>7</sup>, Smith JS<sup>7</sup>, Bess S<sup>8</sup>, Lafage V<sup>6</sup>; International Spine Study Group (<sup>1</sup>National Defense Medical College, <sup>2</sup>University of California, <sup>3</sup>Keio University, <sup>4</sup>Hamamatsu University School of Medicine, <sup>5</sup>Dokkyo Medical University, <sup>6</sup>Hospital for Special Surgery, <sup>7</sup>University of Virginia Medical Center, <sup>8</sup>Rocky Mountain Hospital for Children): Ethnic Variations in Radiographic Parameters and SRS-22 Scores in Adult Spinal Deformity: A Comparison Between North American and Japanese Patients Above 50 Years of Age With Minimum 2-Year Follow-up. Clin Spine Surg. 2018 Jan 8. doi: 10.1097/BSD.0000000000000610
9. 細金直文: 骨粗鬆症性脊椎骨折の治療 Cutting Edge 骨粗鬆症脊椎骨折後偽関節に対する固定術後のX線学的経過と不良例のリスク因子. 臨床整形外科 53 (4) : 307-311, 2018.
10. Takahashi Y<sup>1,2</sup>, Kou I<sup>1</sup>, Ogura Y<sup>1,2</sup>, Miyake A<sup>1,2</sup>, Takeda K<sup>1,2</sup>, Nakajima M<sup>1</sup>, Minami S<sup>3</sup>, Kawakami N<sup>4</sup>, Uno K<sup>5</sup>, Ito M<sup>6</sup>, Yonezawa I<sup>7</sup>, Kaito T<sup>8</sup>, Yanagida H<sup>9</sup>, Watanabe K<sup>10</sup>, Taneichi H<sup>11</sup>, Harimaya K<sup>12</sup>, Taniguchi Y<sup>13</sup>, Kotani T<sup>3</sup>, Tsuji T<sup>4</sup>, Suzuki T<sup>5</sup>, Sudo H<sup>14</sup>, Fujita N<sup>2</sup>, Yagi M<sup>2</sup>, Chiba K<sup>15</sup>, Kono K<sup>16</sup>, Sakuma T<sup>3</sup>, Akazawa T<sup>17</sup>, Nishida K<sup>18</sup>, Kakutani K<sup>18</sup>, Shigematsu H<sup>19</sup>, Iida T<sup>20</sup>, Demura S<sup>21</sup>, Hosogane N<sup>15</sup>, Okada E<sup>22</sup>, Nakamura M<sup>2</sup>, Matsumoto M<sup>2</sup>, Watanabe K<sup>2</sup>, Ikegawa S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>RIKEN Center for Integrative Sciences, <sup>2</sup>Keio University, <sup>3</sup>Seirei Sakura Citizen Hospital,<sup>4</sup>Meijo Hospital, <sup>5</sup>National Hospital Organization, Kobe Medical Center, <sup>6</sup>National Hospital Organization, Hokkaido Medical Center, <sup>7</sup>Juntendo University School of Medicine, <sup>8</sup>Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>9</sup>Fukuoka Children's Hospital, <sup>10</sup>Niigata University Hospital, <sup>11</sup>Dokkyo Medical University School of Medicine, <sup>12</sup>Kyushu University, <sup>13</sup>The University of Tokyo, <sup>14</sup>Hokkaido University <sup>15</sup>National Defense Medical College, <sup>16</sup>Kono Orthopaedic Clinic,<sup>17</sup>St. Marianna University School of Medicine, <sup>18</sup>Kobe University Graduate School of Medicine, <sup>19</sup>Nara Medical University, <sup>20</sup>Dokkyo Medical University Koshigaya Hospital, <sup>21</sup>Kanazawa University School of Medicine, <sup>22</sup>Saiseikai Central Hospital): A Replication Study for the Association of rs11190870 With Curve Severity in Adolescent Idiopathic Scoliosis in Japanese. Spine (Phila Pa 1976) 43(10): 688-692, 2018.
11. Mizutani J<sup>1,2</sup>, Verma K<sup>3</sup>, Endo K<sup>4</sup>, Ishii K<sup>5</sup>, Abumi K<sup>6</sup>, Yagi M<sup>7</sup>, Hosogane N, Yang J<sup>8</sup>, Tay B<sup>3</sup>, Deviren V<sup>3</sup>, Ames C<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Neurological Surgery, University of California San Francisco, <sup>2</sup>Department of Rehabilitation Medicine and Department of Orthopaedic Surgery, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences,<sup>3</sup>Department of Orthopaedic Surgery, University of California San Francisco, <sup>4</sup>Department of Orthopedic

- Surgery, Tokyo Medical University, <sup>5</sup>Department of Orthopaedic Surgery, Keio University School of Medicine and International University of Health and Welfare (IUHW), <sup>6</sup>Sapporo Orthopaedic Hospital, Sapporo, <sup>7</sup>Department of Orthopaedic Surgery, National Hospital Organization Murayama Medical Center, <sup>8</sup>University of California San Francisco Medical School): Global Spinal Alignment in Cervical Kyphotic Deformity: The Importance of Head Position and Thoracolumbar Alignment in the Compensatory Mechanism. *Neurosurgery*. 82(5): 686-694, 2018.
12. Kang J<sup>1</sup>, Hosogane N, Ames C<sup>2</sup>, Schwab F<sup>3</sup>, Hart R<sup>4</sup>, Burton D<sup>5</sup>, Shaffrey C, Smith JS<sup>6</sup>, Bess S<sup>7</sup>, Lafage V<sup>4</sup>, Cho KJ<sup>8</sup>, Ha Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Neurosurgery, Spine and Spinal Cord Institute, Yonsei University College of Medicine, <sup>2</sup>Department of Neurological Surgery, University of California, San Francisco, <sup>3</sup>Spine Service, Hospital for Special Surgery, New York, <sup>4</sup>Oregon Health & Science University, <sup>5</sup>Department of Orthopedic Surgery, University of Kansas Medical Center, <sup>6</sup>Department of Neurosurgery, University of Virginia Medical Center, Charlottesville, <sup>7</sup>Department of Orthopaedic Surgery, Rocky Mountain Hospital for Children, Denver, CO, <sup>8</sup>Department of Orthopedic Surgery, Inha University Hospital, Inha University School of Medicine): Diversity in Surgical Decision Strategies for Adult Spine Deformity Treatment: The Effects of Neurosurgery or Orthopedic Training Background and Surgical Experience. *Neurospine*. 15(4):353-361, 2018.
  13. 伊藤全哉<sup>1</sup>, 松山幸弘<sup>2</sup>, 安藤宗治<sup>3</sup>, 川端茂徳<sup>4</sup>, 寒竹司<sup>5</sup>, 田所伸朗<sup>6</sup>, 小林祥<sup>2</sup>, 藤原靖<sup>7</sup>, 山田圭<sup>8</sup>, 山本直也<sup>9</sup>, 和田篤一郎<sup>10</sup>, 高橋雅人, 谷俊一<sup>6</sup> (1名古屋大, <sup>2</sup>浜松医大, <sup>3</sup>和歌山労災, <sup>4</sup>東京医科歯科大, <sup>5</sup>山口大, <sup>6</sup>高知大, <sup>7</sup>安佐市民病院, <sup>8</sup>久留米大, <sup>9</sup>東京女子医大八千代医療センター, <sup>10</sup>弘前大): 【脊柱靭帯骨化症研究の進歩】手術的治療の研究 脊柱靭帯骨化症の術中モニタリングに関する多施設前向き研究. *整形外科*69:572-575, 2018.
  14. Kemmochi M<sup>1</sup>, Sasaki S, Ichimura S (<sup>1</sup>Kemmochi Orthopedic Surgery Sports Clinic, KOSSMOS Medical Corporation): Association between reduced trunk flexibility in children and lumbar stress fractures. *Journal of Orthopaedics*. 122-127, 2018.
  15. Kemmochi M<sup>1</sup>, Sasaki S, Takahashi M<sup>2</sup>, Nishiura T<sup>2</sup>, Aizawa C<sup>2</sup>, Kikuchi J<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Kemmochi Orthopedic Surgery Sports Clinic, KOSSMOS Medical Corporation, <sup>2</sup>Kemmochi Orthopedic Surgery Sports Clinic Nurse Part, KOSSMOS Medical Corporation, <sup>3</sup>Kemmochi Orthopedic Surgery Sports Clinic Rehabilitation Part, KOSSMOS Medical Corporation): The use of platelet-rich fibrin with platelet-rich plasma support meniscal repair surgery. *Journal of Orthopaedics*. 711-720. 2018.
  16. 佐野秀仁, 佐藤俊輔, 高橋雅人, 長谷川淳, 市村正一: 胸腰椎黄色靭帯骨化切除後に胸椎椎間板ヘルニアを発生した手術症例. *J.Spine Res*9 : 29-33, 2018.
  17. 坂倉健吾, 佐々木茂, 小谷明弘, 市村正一: 高齢者腓骨断裂に対する mini-open 直視下腓骨修復術と鏡視下腓骨修復術の比較. *東日整災会誌*30 : 62-65, 2018.
  18. 竹内拓海, 里見和彦, 山岸賢一郎, 市村正一: びまん性特発性骨増殖症 (DISH) を伴う骨粗鬆症性椎体骨折に対する新しい経皮的椎弓根スクリュー (PPS) 刺入法 Double endplates penetrating screw (DEPS) 法とその短期成績. *東日整災会誌*30 : 532-538, 2018.
  19. 片山和洋, 佐藤行紀, 坂倉健吾, 鈴木啓司, 小谷明弘, 市村正一: 蝶番型TKA術後にhinge postが外れ膝関節が脱臼した1例. *JOSKAS* 43(2) : 450-451, 2018.
  20. 大野公宏, 工藤文孝, 高山拓人<sup>1</sup>, 丸野秀人, 道廣岳, 市村正一 (東大和病院): 橈骨遠位端関節内骨折に対する Volar Locking Plate固定術の治療成績-青壮年者と高齢者の比較-. *日手外科会誌*35 (3) : 298-301, 2018.
  21. 小西一斉, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐藤俊輔, 市村正一: 当院における中下位頸椎脱臼骨折の治療成績. *東日整災会誌*31 : 86-89, 2019.
  22. 道廣岳, 稲田成作, 丸野秀人, 大畑徹也, 市村正一: 肘関節脱臼を伴った小児上腕骨外顆骨折の1例. *骨折*40: 698-701, 2018.
  23. 川野洋介, 黒崎祥一, 家田良樹, 有賀賢一<sup>1</sup>, 長谷川雅一, 市村正一 (白河病院透析センター): QCTによる透析患者の大腿骨近位部骨脆弱性評価. *日骨粗鬆症会誌*4 (3) : 404-407, 2018.
  24. 安部一平, 井上功三朗, 小寺正純, 市村正一: 大腿骨転子部骨折術後のカンジダ感染症例の1例. *日骨関節感染症会誌* 32:31-34, 2018.
  25. 新井謙太郎, 小寺正純, 井上功三朗, 森井健司, 市村正一: 肘関節に発生した滑膜炎性骨軟骨腫症6例の治療成績. *関東整災誌*49 : 415-418, 2018.
  26. 西野雅人, 星亨, 工藤文孝, 山岸賢一郎: Over telescoping をきたした大腿骨頸基部・転子部骨折における sliding hip screw の功罪. *骨折*40 : 334-337, 2018.
  27. Yagi M<sup>1</sup>, Hosogane N, Fujita N<sup>1</sup>, Okada E<sup>1</sup>, Tsuji O<sup>1</sup>, Nagoshi N<sup>1</sup>, Asazuma T<sup>2</sup>, Tsuji T<sup>3</sup>, Nakamura M<sup>1</sup>, Matsumoto M<sup>1</sup>, Watanabe K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Orthopedic Surgery, Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Orthopedic Surgery, National Hospital Organization Murayama Medical Center, Tokyo, Japan, <sup>3</sup>Department of Orthopedic Surgery, Fujita Health University, Toyoake, Japan): Predictive model for major complications 2 years after corrective spine surgery for adult spinal deformity. *Eur Spine J* 28(1): 180-187, 2019.
  28. Watanabe K<sup>1</sup>, Katsumi K<sup>1</sup>, Ohashi M<sup>1</sup>, Shibuya Y<sup>1</sup>, Izumi T<sup>1</sup>, Hirano T<sup>1</sup>, Endo N<sup>1</sup>, Kaito T<sup>2</sup>, Yamashita T<sup>2</sup>, Fujiwara H<sup>2</sup>, Nagamoto Y<sup>2</sup>, Matsuoka Y<sup>3</sup>, Suzuki H<sup>3</sup>, Nishimura H<sup>3</sup>, Terai H<sup>4</sup>, Tamai K<sup>4</sup>, Tagami A<sup>5</sup>, Yamada S<sup>5</sup>, Adachi S<sup>5</sup>, Yoshii T<sup>6</sup>, Ushio S<sup>6</sup>, Harimaya K<sup>7</sup>, Kawaguchi K<sup>7</sup>, Yokoyama N<sup>7</sup>, Oishi H<sup>7</sup>, Doi T<sup>7</sup>, Kimura A<sup>8</sup>, Inoue H<sup>8</sup>, Inoue G<sup>9</sup>, Miyagi M<sup>9</sup>, Saito W<sup>9</sup>, Nakano A<sup>10</sup>, Sakai D<sup>11</sup>, Nukaga T<sup>11</sup>, Ikegami S<sup>12</sup>, Shimizu M<sup>12</sup>, Futatsugi T<sup>12</sup>, Ohtori S<sup>13</sup>, Furuya T<sup>13</sup>, Orita S<sup>13</sup>, Imagama S<sup>14</sup>, Ando K<sup>14</sup>, Kobayashi K<sup>14</sup>, Kiyasu K<sup>15</sup>, Murakami H<sup>16</sup>, Yoshioka K<sup>16</sup>, Seki S<sup>17</sup>, Hongo M<sup>18</sup>, Kakutani K<sup>19</sup>, Yurube T<sup>19</sup>, Aoki Y<sup>20</sup>, Oshima M<sup>21</sup>, Takahata M<sup>21</sup>, Iwata A<sup>22</sup>, Endo H<sup>23</sup>, Abe T<sup>24</sup>, Tsukanishi T<sup>24</sup>, Nakanishi K<sup>25</sup>, Watanabe K<sup>26</sup>, Hikata T<sup>26</sup>, Suzuki S<sup>26</sup>, Isogai N<sup>26,27</sup>, Okada E<sup>28</sup>, Funao H<sup>28</sup>, Ueda S<sup>28</sup>, Shiono Y<sup>28</sup>, Nojiri K<sup>28</sup>, Hosogane N<sup>28,26</sup>, Ishii K<sup>26,27</sup> (<sup>1</sup>Niigata University Medical and Dental General Hospital, <sup>2</sup>Osaka University, <sup>3</sup>Tokyo Medical University, <sup>4</sup>Osaka City University, <sup>5</sup>Nagasaki University, <sup>6</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>7</sup>Kyushu University, <sup>8</sup>Osaka Medical College, <sup>9</sup>Kitasato University, <sup>10</sup>Osaka Medical College, <sup>11</sup>Tokai University, <sup>12</sup>Shinshu University, <sup>13</sup>Chiba University, <sup>14</sup>Nagoya University, <sup>15</sup>Kochi University, <sup>16</sup>Kanazawa University, <sup>17</sup>University of Toyama, <sup>18</sup>Akita University, <sup>19</sup>Kobe University, <sup>20</sup>Eastern Chiba Medical Center, <sup>21</sup>Nihon University Itabashi Hospital, <sup>22</sup>Hokkaido University, <sup>23</sup>Iwate Medical University, <sup>24</sup>University of Tsukuba, <sup>25</sup>Hiroshima University, <sup>26</sup>Keio University School of Medicine, <sup>27</sup>International University of Health and Welfare School of Medicine, <sup>28</sup>National Defense Medical College): Surgical outcomes of spinal fusion for osteoporotic thoracolumbar vertebral fractures in patients with Parkinson's disease: what is the impact of Parkinson's

disease on surgical outcome? BMC Musculoskelet Disord. 20(1):103, 2019.

29. 大畑徹也, 稲田成作, 加藤聡一郎<sup>1</sup>, 樽井武彦<sup>1</sup>, 山口芳裕<sup>1</sup>, 市村正一(杏林大・医・救急医学): 当院における高齢者骨盤輪骨折の生命予後の検討(若年者と比較して). 骨折41(1): 86-89, 2019.
30. 片山和洋, 佐藤行紀, 坂倉健吾, 鈴木啓司, 小谷明弘, 市村正一: Osgood-Schlatter病を有した脛骨粗面裂離骨折と膝蓋腱断裂, ACL脛骨付着部裂離骨折の同時損傷の1例. JOSKAS 44(2): 494 - 495, 2019.

## 著書

1. 市村正一(分担執筆): 骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの適正使用ガイド2018年版. 日本骨粗鬆症学会 骨代謝マーカー検討委員会. 東京, ライフサイエンス出版株式会社, 2018. P. 57-62.
2. 森井健司: トラベクテジン/ヨンドリス. がんナースング2019年別冊「がん化学療法の薬 はや調ベノート2019・2020年版」. 古瀬純司編, 大阪, 株式会社メディカ出版, 2018. P.190-192.
3. Morii T, Tan TL: 1-4. PREVENTION: SURGICAL TECHNIQUE. QUESTION 4: Does the use of incise draping with antibacterial agents (iodine) influence the risk for subsequent surgical site infection/periprosthetic joint infection (SSI/PJI) in patients undergoing musculoskeletal tumor surgeries? (pp 847-848) In "Proceedings of the Second International Consensus Meeting on Musculoskeletal Infection" Part VII Oncology. Edt by Javad Parvizi, Thorsten Gehrke. Published by Data Trace Publishing Company P.O. Box 1239 Brooklandville, Maryland. 2018.
4. Mavrogenis AF, Morii T, Manrique J: 1-2. PREVENTION: CHEMOTHERAPY. QUESTION 2: Should an absolute neutrophil count of > 1000/mm<sup>3</sup> be the minimum for patients undergoing limb salvage surgery after receiving chemotherapy? (pp 834-836) In "Proceedings of the Second International Consensus Meeting on Musculoskeletal Infection" Part VII Oncology. Edt by Javad Parvizi, Thorsten Gehrke. Published by Data Trace Publishing Company P.O. Box 1239 Brooklandville, Maryland. 2018.
5. 細金直文: E章 手術手技(腰椎) 2 (4) 変性脊柱変形への基本手技2. MIST手技における側方経路椎体間固定術(LIF)入門. 星野雅洋, 佐藤公治, 斎藤貴徳, 石井賢編集. 東京, 三輪書店, 2018. p130-134.
6. 細金直文: XLIF® (eXtreme Lateral Interbody Fusion). 新執刀医のためのサージカルテクニック 脊椎. 徳橋泰明編. 東京, メジカルビュー, 2018, p200-212.

## その他

1. 市村正一: 骨粗鬆症診療におけるテリパラチドの位置づけ. FORTEO National Web Conference, 東京, 2019年1月29日.

## 皮膚科学教室

## 講演

1. 大山大学: 自己免疫性疾患の最新知見. 日本皮膚科学会第150回宮崎地方会, 宮崎, 2018年4月1日.
2. 水川良子: アトピー性皮膚炎 病態と治療. 第11回多摩小児免疫薬理研究会, 東京, 2018年4月14日.
3. 福山雅大, 加藤峰幸, 山崎好美, 大山大学: 鼻部の常色丘疹. 第34回日本皮膚病理解組織学会, 東京, 2018年4月21-22日.
4. 大山大学: 円形脱毛症のメカニズムと治療のロジック: 最新の知見を含めて. 第34回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 仙台, 2018年4月28-29日.
5. Sato Y, Takahashi R, Kimishima M, Yamazaki Y, Ohyama M. Developmetn of a scoring system for the prediction of the outcome of intravenous corticosteroid pulse therapy in rapidly-progressive alopecia areata. Internatioanl Investigative Dermatology 2018, USA, May 16th-19th, 2018.
6. 菅野秀美, 早川順, 大荷満生, 大山大学: 運動と食事療法により改善した発疹性黄色腫の1例. 第878回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2018年5月19日.
7. 大山大学: 脱毛症診療アップデートー円形脱毛症とアトピー性皮膚炎の関連も含めてー. 第77回平塚市医師会皮膚科部会例会, 平塚, 2018年5月23日.
8. 吉池沙保里, 早川順, 水川良子, 大山大学: セレコキシブによるnon-pigmenting fixed drug eruptionの1例. 第117回日本皮膚科学会総会, 広島, 2018年5月31日-6月3日.
9. 大山大学: 毛包幹細胞の基礎と臨床. 第117回日本皮膚科学会総会, 広島, 2018年5月31日-6月3日.
10. 伊藤有亜, 加藤峰幸, 早川順, 佐々木有紀, 大山大学: 1型糖尿病を合併した抗TIF-1γ抗体陽性皮膚筋炎の1例. 第117回日本皮膚科学会総会, 広島, 2018年5月31日-6月3日.
11. 福山雅大, 水川良子, 早川順, 下山田博明, 高山信之, 大山大学: 血球貧食症候群を伴う皮下脂肪炎様T細胞リンパ腫の1例. 第117回日本皮膚科学会総会, 広島, 2018年5月31日-6月3日.
12. 村上涼, 加藤峰幸, 伊藤有亜, 大山大学: アナフィラキシーショックで発症した口腔アレルギー症候群の1例. 第117回日本皮膚科学会総会, 広島, 2018年5月31日-6月3日.
13. 宜野座淳善, 早川順, 小林富美恵, 大山大学: 幼児項部へのアカココマダニ人体咬着症の1例. 第117回日本皮膚科学会総会, 広島, 2018年5月31日-6月3日.
14. 福山雅大: 血球貧食症候群を伴う皮下脂肪炎様T細胞リンパ腫の1例. 多摩皮膚科専門医会6月例会, 武蔵野, 2018年6月9日.
15. 大山大学: 円形脱毛症診療アップデート: 新ガイドラインをふまえて. 千葉県皮膚科医会学術講演会, 千葉, 2018年6月14日.
16. 飯島幸四郎, 加藤峰幸, 大山大学: 背部に生じたKaposiform hemangioendotheliomaの1例. 第879回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2018年6月16日.
17. 下田由莉江, 伊藤有亜, 水川良子, 大山大学: アザシチジンによる注射部位反応の2例. 第879回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2018年6月16日.
18. 佐藤洋平, 吉池沙保里, 早川順, 水川良子, 大山大学: 術後16年後に再発した悪性黒色腫の1例. 第34回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 浜松, 2018年7月6-7日.
19. 三上洋平, 林篤史, 宮本健太郎, 鎌田信彦, 佐藤俊朗, 水野慎大, 長沼誠, 寺谷俊昭, 青木亮, 福田真嗣, 須田互, 服部正平, 天谷雅行, 大山大学, 金井隆典: 腸内細菌叢の異常により引き起こされるピオチン代謝異常および腸管外病変の検討. 第38回日本炎症・再生医学会, 東京, 2018年7月11-12日.
20. 大山大学: 皮膚・付属器の幹細胞と再生の現状. 第39回日本炎症・再生医学会, 東京, 2018年7月11-12日.
21. 水川良子, 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎における発汗の亢進は何をもたらすか? 第39回日本炎症・再生医学会, 東京, 2018年7月11-12日.
22. 早川順, 伊藤有亜, 大山大学: 頬部に難治性疣状局面を呈しplasmaoanthomaを考えた1例. 第880回日本皮膚科学会東京支部地方会, 東京, 2018年7月21日.
23. 大山大学: Physician-scientist的脱毛症診療ー病態理解に基づく治療のロジックー. 北海道大学大学院医学院皮膚科特別講演会, 札幌, 2018年7月25日.

24. 水川良子, 下田由莉江, 塩原哲夫: コリン性蕁麻疹に対する発汗負荷が発症に関与したと考えられた syringoma-like eruption の1例. 第5回汗と皮膚疾患の研究会, 東京, 2018年8月18日.
25. 佐藤洋平, 嵩幸恵, 川村直弘, 大山路: 原発性胆汁性肝硬変を合併した急速進行性円形脱毛症の1例. 第90回日本皮膚科学会山梨地方会, 甲府, 2018年9月1日.
26. 小林英資, 佐藤洋平, 岩井真智子, 水川良子, 大山路: Weekly パクリタキセルと放射治療で長期生存が得られた頭部血管肉腫の1例. 第881回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2018年9月8日.
27. 青木孝司, 福山雅大, 水川良子, 林田真理, 久松理一, 大山路: 第XIII因子製剤投与にて改善したステロイド抵抗性IgA血管炎の1例. 第881回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2018年9月8日.
28. 大山路: 皮膚科における外用剤処方の実態ーアトピー性皮膚炎とスキンケアを中心にー. 西武薬剤師会地区研修会, 東京, 2018年9月9日.
29. Fukuyama M, Yoshiike S, Ohyama M: Use of trichoscopy for the diagnosis of alopecia areata coexisting with scarring alopecia in a female hair loss patient. 7th Joint Meeting of SSSR & SCUR, Asahikawa, October 6th-7th, 2018.
30. 大山路: 幹細胞研究から脱毛症の臨床へ: ある皮膚科医のキャリア形成の話. 第82回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 旭川, 2018年10月6-7日.
31. 菅野秀美, 佐藤洋平, 下山田博明, 柴原純二, 大山路: アトピー性皮膚炎・円形脱毛症を背景に生じた好酸球性血管リンパ球症の1例. 第82回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 旭川, 2018年10月6-7日.
32. 佐藤洋平: 高齢者皮膚腫瘍における治療実績のまとめ. 多摩皮膚科専門医会10月例会, 武蔵野, 2018年10月13日.
33. 齋藤真衣, 福山雅大, 大山路: ヒドロキシクロロキンが奏功した慢性皮膚エリテマトーデス. 第19回皮膚合同カンファレンス, 東京, 2018年10月20日.
34. 宮川秀美, 佐藤洋平, 下山田博明, 柴原純二, 大山路: アトピー性皮膚炎・円形脱毛症を背景に生じた好酸球性血管リンパ球増殖症の1例. 第19回皮膚合同カンファレンス, 東京, 2018年10月20日.
35. 下田由莉江: 特発性後天性全身性無汗症に対するパルス療法を試み. 第19回皮膚合同カンファレンス, 東京, 2018年10月20日.
36. 大山路: 病態を考えた脱毛症治療. 西多摩医師会学術講演会, 東京, 2018年11月7日.
37. 下田由莉江, 水川良子, 山崎好美, 大山路: 円形脱毛症を合併した特発性後天性全身性無汗症の1例. 第70回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 松江, 2018年11月10-11日.
38. 大山路: ヒト毛包再生実現のためのストラテジー. 第18回山梨再生・移植研究会, 甲府, 2018年11月14日.
39. 加藤峰幸, 嵩幸恵, 福山雅大, 倉田麻衣子, 早川順, 水川良子, 大山路: 豊胸術施行部位から発症した多形滲出性紅斑の1例. 第48回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 奈良, 2018年11月16-18日.
40. 青木孝司, 福山雅大, 水川良子, 林田真理, 久松理一, 大山路: 第XIII因子製剤投与にて改善したステロイド抵抗性IgA血管炎の1例. 第47回杏林医学会, 三鷹, 2018年11月17日.
41. 水川良子: 新しい薬疹ー免疫チェックポイント阻害薬を中心にー. 第82回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2018年12月1-2日.
42. 倉田麻衣子, 水川良子, 福山雅大, 青木孝司, 佐藤洋平, 大山路: 発症初期のステロイドパルス療法が奏功した重症 Stevens-Johnson症候群の1例. 第82回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2018年12月1-2日.
43. 吉池沙保里, 加藤峰幸, 吉池信哉, 菅間博, 宮本快介, 井本滋, 大山路: 疼痛を主訴に受診した男性乳癌の1例. 第82回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2018年12月1-2日.
44. 大山路: 新ガイドラインから考える円形脱毛症の治療戦略. 第82回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2018年12月1-2日.
45. 大山路: 脱毛症の病態から考える毛包再生のアプローチ. 第26回毛髪科学研究会, 東京, 2018年12月8日.
46. 福山雅大, 吉池沙保里, 木下美咲, 大山路: self-healing acute diffuse and total alopecia (sADTA)の早期診断に向けた臨床的特徴の検討. 第26回毛髪科学研究会, 東京, 2018年12月8日.
47. 大山路: 新ガイドラインを考慮した病態理解に基づく脱毛症治療論. 福島皮膚科フォーラム2018, 福島, 2018年12月16日.
48. 水川良子: 日常診療で重要な薬疹. 第5回総合アレルギー講習会, 大阪, 2018年12月16日.
49. 朱瀛瑤, 古市祐樹, 森本亜里, 栗原佑一, 大山路, 天谷雅行, 梅垣知子: ニロチニブによる薬剤誘発性癬痕性脱毛と考えた1例. 第882回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年1月19日.
50. 波田野冨佳, 佐藤洋平, 福山雅大, 成田陽子, 大山路: 足趾に生じた無色素性悪性黒色腫の1例. 第882回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年1月19日.
51. 佐藤さゆり, 下田由莉江, 飯島孝四郎, 竹脇史絵, 中島昌典, 千葉厚郎, 大山路: 帯状疱疹加療中に低Na血症、神経根炎を併発し意識障害をきたした1例. 第882回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年1月19日.
52. 内野祥子, 早川順, 山崎好美, 大山路: Circumscribed palmer hypokeratosisの超高齢女性例. 第882回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年1月19日.
53. 齋藤真衣, 福山雅大, 大山路: ヒドロキシクロロキンが症状緩和に有用であった慢性皮膚エリテマトーデスの2例. 第882回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年1月19日.
54. 青木幸司, 福山雅大, 佐藤洋平, 大山路: 摂食障害による亜鉛欠乏の関与を考えた紅皮症の1例. 第883回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年2月16日.
55. 宮川秀美, 佐藤洋平, 大山路: 両眼瞼の腫脹にて発症した Sweet病の1例. 第883回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年2月16日.
56. 小林英資, 佐藤洋平, 新田桐子, 大山路: 手指の硬化を伴った好酸球性筋膜炎の1例. 第883回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2019年2月16日.
57. 下田由莉江: 落葉状天疱瘡を合併した粘膜炎天疱瘡の1例. 多摩皮膚科専門医会, 武蔵野, 2019年3月9日.

## 論文

1. 水川良子: 【これが皮膚科診療スペシャリストの目線! 診断・検査マニュアル不変の知識と最新の情報】紅斑とはー多彩な臨床症状からー. *Derma*. 268 : 29-34, 2018.
2. 福井香苗, 下田由莉江, 佐藤洋平, 山崎好美, 下山田宏明<sup>1</sup>, 早川順, 大山路 (1杏林大・医・病理学): *Eccrine spiradenoma* の2例ー臨床的特徴と組織学的構築との関連についての考察. *臨床皮膚* 72 (4) : 329-334, 2018.
3. 吉池沙保里, 福山雅大, 長内喜代乃<sup>1</sup>, 大森嘉彦<sup>2</sup>, 大山路 (1杏林大・医・産婦人科学, <sup>2</sup>杏林大・医・病理学): *Sertoli-Leydig*細胞腫の摘出により症状の改善をみた女性型脱毛症の1例. *臨床皮膚* 72(6) : 451-456, 2018.
4. 大山路: 毛髪の老化ー美しく老いるためにー高齢化に備える皮膚科診療ー. *皮膚臨床* 60 (6) : 771-777, 2018.
5. 大山路: 全身疾患と皮膚症状ーオーバービューーデルマドロームを再考するー. *杏林医会誌* 49(2) : 135-137, 2018.

6. 早川順: 内科的疾患と皮疹. 杏林医学会誌 49(2): 139-145, 2018.
7. 加藤峰幸: 全身疾患と蕁麻疹. 杏林医学会誌 49(2): 147-150, 2018.
8. 下田由莉江: 全身疾患と皮膚症状 膠原病の皮膚症状. 杏林医学会誌 49(2): 151-154, 2018.
9. 佐藤洋平: 悪性腫瘍に関連する皮膚症状. 杏林医学会誌 49(2): 155-157, 2018.
10. 水川良子: アトピー性皮膚炎 全身性疾患との関わり. 杏林医学会誌 49(2): 159-161, 2018.
11. 武内朝子, 加藤峰幸, 下田由莉江, 唐帆健浩<sup>1</sup>, 滝澤始<sup>2</sup>, 大山学<sup>1</sup>(杏林大・医・耳鼻咽喉科学, <sup>2</sup>杏林大・医・第一内科): 頸部食道穿孔による嚥下障害を認めた抗TIF-1 $\gamma$ 抗体陽性皮膚筋炎の1例. 臨床皮膚病 72(7): 493-498, 2018.
12. 菅野秀美, 佐藤洋平, 下田由莉江, 早川順, 大山学, 下山田博明<sup>1</sup>, 藤原正規<sup>1</sup>, 布袋祐子<sup>2</sup>(<sup>1</sup>杏林大・医・病理学, <sup>2</sup>医療法人財団荻窪病院): 寛解中にbasosquamous carcinoma が生じ腫瘍周囲のみに再燃した水疱性類天疱瘡の1例. 臨床皮膚病 72(7): 513-517, 2018.
13. Mitsui S<sup>1</sup>, Katayama C<sup>2</sup>, Aoyama Y<sup>2</sup>, Mizukawa Y, Kuyama M<sup>3</sup>, Kawakami Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Okayama City Hospital, <sup>2</sup>Kawasaki Medical School, <sup>3</sup>Okamuraishindo Hospital): Local desensitization and progression of multiple fixed drug eruption. Eur J Dermatol 28(3): 378-380, 2018.
14. Endo Y<sup>1</sup>, Obayashi Y<sup>1</sup>, Ono T<sup>1</sup>, Serizawa T<sup>1</sup>, Murakoshi M<sup>1</sup>, Ohyama M (<sup>1</sup>Life Science Research Laboratories, Lion Corporation): Reversal of the hair loss phenotype by modulating the estradiol-ANGPT2 axis in the mouse model of female pattern hair loss. J Dermatol Sci 91(1): 43-51, 2018.
15. 伊藤有亜, 福山雅大, 早川順, 千葉知宏<sup>1</sup>, 柴原純二<sup>1</sup>, 大山学<sup>1</sup>(杏林大・医・病理学): 局所再発とin-transit転移をきたした外陰部皮膚粘液癌の1例. 臨床皮膚病 72(8): 629-633, 2018.
16. Horie C, Mizukawa Y, Yamazaki Y, Shiohara T: Varicella zoster virus as a possible trigger for the development of pityriasis lichenoides et varioliformis acuta: retrospective analysis of our institutional cases. Clin Exp Dermatol 43(6): 703-707, 2018.
17. Kinoshita-Ise M, Uchida R, Shioiri M, Ohmori Y<sup>1</sup>, Takayama N<sup>2</sup>, Ohyama M (<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine): Benefit of electron beam therapy in combination with medium-dose systemic corticosteroid as a palliative treatment for elderly patients with blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm: a case report and review of the literature. Clin Exp Dermatol 45(9): e1122-1125, 2018.
18. Kinoshita-Ise M, Fukuyama M, Ohyama M: Color-transition sign: a useful trichoscopy finding for differentiating alopecia areata incognita from telogen effluvium. J Dermatol 45(8): e224-225, 2018.
19. 木下美咲, 大山学: 円形脱毛症に潜むトリコチロミアニア-pitfallに陥らないための基礎知識と診断技術-. Derma. 274: 31-38, 2018.
20. Fukuyama M, Sato Y, Kinoshita-Ise M, Yamazaki Y, Ohyama M: Chronological clinicopathological characterization of rapidly progressive alopecia areata resistant to multiple i.v. corticosteroid pulse therapies: An implication for improving the efficacy. J Dermatol 45(9): 1031-1043, 2018.
21. Ushigome Y, Mizukawa Y, Kimishima M, Yamazaki Y, Takahashi R<sup>1</sup>, Kano Y<sup>2</sup>, Shiohara T (<sup>1</sup>Division of Flow Cytometry Core Facility, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Akiru Municipal Medical Center): Monocytes are involved in the balance between regulatory T cells and Th17 cells in severe drug eruptions. Clin Exp Allergy 48(11): 1453-1463, 2018.
22. Shiohara T, Mizukawa Y, Shimoda-Kokatsu Y, Aoyama Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Kawasaki Medical School): Sweat is a most efficient natural moisturizer providing protective immunity at points of allergen entry. Allergol Int 67(4): 442-447, 2018.
23. Shimoda-Komatsu Y, Kinoshita-Ise M, Shimoyamada H<sup>1</sup>, Ohyama M (<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Chronological observation of surgically-treated granuloma faciale implies the necessity of circumpect management for perinasal nodular subset. J Dermatol 45(9): 1122-1125, 2018.
24. Mizukawa Y, Hirahara K, Kano Y<sup>1</sup>, Shiohara T (<sup>1</sup>Akiru Municipal Medical Center): Drug-induced hypersensitivity syndrome (DiHS)/drug reaction with eosinophilia and systemic syndrome (DRESS) severity score: a useful tool for assessing disease severity and predicting fatal cytomegalovirus disease. J Am Acad Dermatol 80(3): 670-678, 2018.
25. Manabe M<sup>1</sup>, Tsuboi R<sup>2</sup>, Itami S<sup>3</sup>, Osada SI<sup>1</sup>, Amoh Y<sup>4</sup>, Ito T<sup>5</sup>, Inui S<sup>6</sup>, Ueki R<sup>7</sup>, Ohyama M, Kurata S<sup>8</sup>, Kono T<sup>9</sup>, Saito N<sup>10</sup>, Sato A<sup>11</sup>, Shimomura Y<sup>12</sup>, Nakamura M<sup>13</sup>, Narusawa H<sup>14</sup>, Yamazaki M<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Akita University, <sup>2</sup>Tokyo Medical University, <sup>3</sup>Osaka University, <sup>4</sup>Kitasato University, <sup>5</sup>Hamamatsu University, <sup>6</sup>Shinsuibashi Inui Dermatologic Clinic, <sup>7</sup>Juntendo Tokyo Koto Geriatric Medical Center, <sup>8</sup>Beppu Garden Hill Clinic Kurata Clinic, <sup>9</sup>Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>10</sup>Yokohama Rosai Hospital, <sup>11</sup>Tokyo Memorial Clinic Hirayama, <sup>12</sup>Yamaguchi University, <sup>13</sup>University of Occupational and Environmental Health, <sup>14</sup>Saga University): Drafting Committee for the Guidelines for the Diagnosis and Treatment of Male- and Female-Pattern Hair Loss. Guidelines for the diagnosis and treatment of male-pattern and female-pattern hair loss, 2017 version. J Dermatol 45(9): 1071-1079, 2018.
26. 水川良子: 多種多様な薬剤を服用して現れる蕁麻疹患者への対応-診断の極意: 被疑薬を絞るには-. Derma. 275: 93-98, 2018.
27. 嵩幸恵, 水川良子, 福山雅大, 新田桐子, 勝田倫江, 大山学: 炎症性局面型cutaneous arteritisの1例. 臨床皮膚病 72(11): 847-851, 2018.
28. Ohyama M: What's behind the "swarm of bees" in alopecia areata. Br J Dermatol 179(5): 1023-1024, 2018.
29. 大山学: 病態を考慮した円形脱毛症治療. 皮膚臨床 60(12): 1865-1877, 2018.
30. 大山学: 毛と免疫のかかわり: オーバービュー. 皮アレルギーフロンテ 16(3): 7-11, 2018.
31. 菅野秀美, 佐藤洋平, 早川順, 桑原彩子<sup>1</sup>, 高山信之<sup>1</sup>, 大山学<sup>1</sup>(杏林大・医・第二内科): 骨髄異形成症候群に合併し腋窩に広範な潰瘍を形成した壊疽性膿皮症の1例. 臨床皮膚病 72(13): 1101-1105, 2018.
32. Mizukawa Y, Yamazaki Y, Shiohara T: Leakage of sweat into the dermo-epidermal junction as a possible trigger for lichen planus lesion development. Arch Dermatol Res 311(1): 71-82, 2019.
33. Ishiura N<sup>1</sup>, Tamura-Nakano M<sup>1</sup>, Okochi H<sup>1</sup>, Tateishi C<sup>2</sup>, Maki M<sup>1</sup>, Shimoda Y, Ishii N<sup>3</sup>, Hashimoto T<sup>2</sup>, Tamaki T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>National Center for Global Health and Medicine, <sup>2</sup>Osaka City University Graduate School of Medicine, <sup>3</sup>Kurume University School of Medicine): Herpetiform pemphigus

## 講演

1. 大浦紀彦: 下肢救済足病治療の10年 フットケアテクニック. 下肢潰瘍治療アップデートミーティング, 東京, 2018年4月7日.
2. 白石知大: 外傷・先天異常に対する使用とBIA-ALCLの概略. 2018年第1回乳房増大用エキスパンダー/インプラント講習会, 福岡, 2018年4月11日.
3. 白石知大: 外傷・先天異常に対する使用とBIA-ALCLの概略. 2018年第2回乳房増大用エキスパンダー/インプラント講習会, 福岡, 2018年4月11日.
4. 大浦紀彦, 匂坂正信, 松永洋明, 中山大輔, 小倉ふみ子, 多久嶋亮彦: 心臓血管手術後胸骨骨髓炎に対する治療戦略 -NPWTと再建術をどう組み合わせるか-. 第61回日本形成外科学会・学術集会, 福岡, 2018年4月11日.
5. 尾崎峰, 藤木政英, 岩科裕己, 多久嶋亮彦: 頭蓋骨膜洞 (Sinus Pericranii) の多様性に関する検討. 第61回日本形成外科学会総会・学術集会, 福岡, 2018年4月11日.
6. 菅浩隆, 尾崎峰, 成田圭吾, 白石知大, 佐藤大介, 波利井清紀, 多久嶋亮彦: 片側腱膜性眼瞼下垂症に対する挙筋前転術の治療成績. 第61回日本形成外科学会総会・学術集会, 福岡, 2018年4月11日.
7. 佐藤大介, 菅浩隆, 尾崎峰, 成田圭吾, 白石知大, 波利井清紀, 多久嶋亮彦: 眼瞼下垂症患者に対する満足度調査. 第61回日本形成外科学会総会・学術集会, 福岡, 2018年4月11日.
8. 高梨遼, 尾崎峰, 藤木政英ほか: 血管奇形切除術におけるLigasure血管シーリングシステムの使用経験. 第61回日本形成外科学会総会・学術集会, 福岡, 2018年4月12日.
9. 栗原菜那, 白石知大, 成田圭吾, 菅浩隆, 多久嶋亮彦: 形成外科医にとって整容性向上のためのオプションとしての刺青. 第61回日本形成外科学会総会・学術集会, 福岡, 2018年4月12日.
10. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 咬筋神経移行による表情筋の機能回復と一期的遊離広背筋移植を併用した笑いの再建. 第61回日本形成外科学会総会・学術集会, 福岡, 2018年4月11-13日.
11. 白石知大, 菅浩隆, 多久嶋亮彦: 肋間神経ブロックを用いた乳房手術. 第61回日本形成外科学会総会・学術集会, 福岡, 2018年4月11-13日.
12. 岩科裕己, 尾崎峰, 藤木政英, 多久嶋亮彦: 血管奇形切除術の出血量と手術時間の検討. 第61回日本形成外科学会総会・学術集会, 2018年4月11-13日.
13. 岩科裕己, 尾崎峰, 藤木政英, 多久嶋亮彦: 背部巨大静脈奇形切除術におけるベッセルシーリングシステムの有用性. 第61回日本形成外科学会総会・学術集会, 2018年4月11-13日.
14. 木村武一郎, 成田圭吾, 岩科裕己, 多久嶋亮彦: 二重神経支配型遊離筋肉移植による笑いの再建後の脳活動部位: functional MRIによる検討. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会, 2018年4月11-13日.
15. 大浦紀彦: 最新の褥瘡管理と創傷治癒のための栄養療法. 第3回TOKYO EAT, 東京, 2018年4月23日.
16. Fujiki M, Ozaki M, Iwashina Y, Takushima A: Current role of free flap transfer for treatment of arterio-venous malformation. 14th Congress of the European Federation of Societies for Microsurgery, Serbia, May 5th-9th, 2018.
17. Ohura N, Mitsuno R, Sakisaka M, Terabe Y, Uchiyama A, Okoshi T, Takushima A: Convolutional neural networks for wounds detection. EWMA2019, Poland, May 9th-11th, 2018.
18. 大浦紀彦, 匂坂正信, 寺部雄太: 創傷被覆材の使用法の実際適応と使用法. 第44回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京, 2018年5月18日.

with characteristic transmission electron microscopic findings of various-sized ballooning vacuoles in keratinocytes without acantholysis. *Br J Dermatol* 180(1): 187-192, 2019.

34. Ohyama M: Use of human intra-tissue stem/progenitor cells and induced pluripotent stem cells for hair follicle regeneration. *Inflamm Regen* 39: 4, 2019.
35. 塩原哲夫, 水川良子: アトピー性皮膚炎の経皮的アレルギー感作への対策. *小児科* 60(2): 183-190, 2019.
36. Nitta K, Kano Y, Ushigome Y, Hayakawa J, Shiohara T: Two Cases of Acute Febrile Neutrophilic Dermatitis Thought to be Caused by Topical Clindamycin. *Acta Derm Venereol* 99(2): 228-229, 2019.
37. Tashiro Y<sup>1</sup>, Azukizawa H<sup>2</sup>, Asada H<sup>2</sup>, Niihara H<sup>3</sup>, Morita E<sup>3</sup>, Yamauchi T<sup>1</sup>, Mizukawa Y, Kusakabe Y<sup>4</sup>, Numazawa S<sup>1</sup>, Izumi M<sup>1</sup>, Sueki H<sup>1</sup>, Watanabe H<sup>1</sup> (Showa University, <sup>1</sup>Nara Medical University, <sup>2</sup>Shimane University, <sup>3</sup>Teikyo University): Drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms due to lamotrigine differs from that due to other drugs. *J Dermatol* 46(3): 226-233, 2019.
38. 伊藤有亜, 福山雅大, 早川順, 大山学: ケラトアカントーマ様外観を呈した低色素性悪性黒色腫の1例. *臨床皮膚* 73(3): 249-253, 2019.

## 著書

1. 大山学: 第IV章 再生医療 3. iPS細胞-薄毛治療にiPS細胞は必要なのか-. 毛髪ガイドライン2017を踏まえた治療update. 武田啓編. 東京, 克誠堂出版, 2018. p.155-160.
2. 水川良子, 塩原哲夫: 扁平苔癬. エキスパートから学ぶ 皮膚病診療パワーアップ. 秀道広, 青山裕美, 加藤則人編. 東京, 中山書店, 2018. p. 178-181.
3. 水川良子, 塩原哲夫: 固定薬疹. エキスパートから学ぶ 皮膚病診療パワーアップ. 秀道広, 青山裕美, 加藤則人編. 東京, 中山書店, 2018. p. 202-206.
4. 大山学: 円形脱毛症. エキスパートから学ぶ 皮膚病診療パワーアップ. 秀道広, 青山裕美, 加藤則人編. 東京, 中山書店, 2018. p. 288-292.
5. 佐藤洋平: 免疫チェックポイント阻害薬: CTLA-4 イピリムマブ (遺伝子組換え). YORi-SOUがんナーシング別冊 これだけは押さえておきたいがん化学療法薬の薬-抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬・支持療法薬-はや調ベノート2019・2020年版. 古瀬純司編. 東京, メディカ出版, 2019. p. 132-133.
6. Ohyama M: Telogen Effluvium. Fitzpatrick's Dermatology 9th edition, Sewon Kang, Masayuki Amagai, Anna L. Bruckner, Alexander H. Enk, David J. Margolis, Amy J. McMichael, Jeffrey S. Orringer, USA, McGraw-Hill Education, 2019. p. 1507-1516.

## その他

1. 大山学: 書評-鶴田大輔-皮膚科レジデントマニュアル 臨床皮膚 72(9): 735, 2018.
2. 大山学: コラム 妊娠と脱毛 Visual Dermatol 17(10): 953, 2018.
3. 大山学: レビュー 特集にあたって 毛の免疫と炎症-脱毛症の機序に迫る. 皮アレルギーフロンテ 16(3): 5, 2018.
4. 大山学, 伊藤泰介: 対談 脱毛症治療における免疫制御の重要性. 皮アレルギーフロンテ 16(3): 35-41, 2018.
5. 大山学: 円形脱毛症に対する局所免疫療法のコツを教えてください. 皮アレルギーフロンテ 16(3): 49, 2018.

19. Iwashina Y, Ozaki M, Fujiki M, Takushima A : usefulness of vessel sealing system (Ligasure small jaw) for debulking massive venous malformations. 22nd international workshop of the international society for the study of vascular anomalies, Netherlands . 29th,May-1st, June 2018.
20. Ozaki M, Iwashina Y, Fujiki M, Ihara A, Takushima A: Muscle patch graft technique for uncontrolled bleeding in the resection of extended vascular malformations. 22st International Workshop on Vascular Anomalies, Netherland, May 30th, 2018.
21. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 一期的遊離広背筋移植による笑いの再建. 第41回日本顔面神経学会, 山形, 2018年6月7-8日.
22. 大浦紀彦: 静脈性潰瘍VLUの治療 静脈性潰瘍の創傷管理. 第38回日本静脈学会学術集会, 横須賀, 2018年6月14日.
23. 大浦紀彦: 透析患者の足病の治療とケア ー重症化予防のためのとりくみー. 第63回日本透析医学会, 神戸, 2018年6月29日.
24. 大浦紀彦: 形成外科の立場から ~評価指標作成の経験を踏まえ~. 第2回実践に基づく医療イノベーション研究会, 東京, 2018年6月30日.
25. 大浦紀彦: 非臨床試験の限界・臨床試験の限界 臨床現場から見た臨床試験の限界. 第2回実践に基づく医療イノベーション研究会, 東京, 2018年6月30日.
26. 大浦紀彦: 臨床試験の多様性: 医療機器開発において臨床データが必要と感じる瞬間. 第2回実践に基づく医療イノベーション研究会, 東京, 2018年6月30日.
27. 中山大輔, 成田圭吾, 浅野悠, 白石知大, 菅浩隆, 多久嶋亮彦: 陳旧性顔面神経麻痺に対する遊離広背筋移植における背部漿液腫の予防ーネオバールナノ®の影響ー. 第10回日本創傷外科学会総会・学術集会, さいたま, 2018年7月5-6日.
28. Ohura N, Seike S, Sato T, Furukawa M, Takushima A : The Effectiveness of Free Flap Transfer in Patients with Critical Limb Ischemia. 2nd Congress of Diabetic Limb Salvage in Asia How to Reconstruct Diabetic Foot Wound Samsong Medical Center, Korea, July 6th 2018.
29. 岩科裕己, 尾崎峰, 藤木政英, 多久嶋亮彦: 舌咽頭部静脈奇形におけるポリソムノグラフィの有用性. 第15回日本血管腫血管奇形学会学術集会, 大阪, 2018年7月20-21日.
30. 赤木健一郎, 尾崎峰, 岩科裕己ほか: 切除術を施行した膝関節内血管奇形の1例とその組織学的検討. 第15回日本血管腫血管奇形学会学術集会, 大阪, 2018年7月21日.
31. 大浦紀彦: 高齢者透析CLI患者の手術適応と治療方針. 第27回日本腎不全外科研究会, 札幌, 2018年7月21日.
32. 大浦紀彦: 進化するキズの治療法 地(知)の拠点. 杏林大学・三鷹ネットワーク大学共催 市民公開講座3, 東京, 2018年9月1日.
33. 木村武一郎, 白石知大, 菅浩隆, 辻直子, 多久嶋亮彦: 両側乳癌に対する再建の整容性には切除の対称性が関連する. 第6回乳房日本オンコプラスチックサージェリー学会, 大阪, 2018年9月20-21日.
34. 菅浩隆, 白石知大, 多久嶋亮彦: インプラントと脂肪注入を併用した乳房再建: 併用例と非併用例との比較から分かったこと. 第6回日本乳房オンコプラスチックサージェリー学会, 大阪, 2018年9月21日.
35. 白石知大, 菅浩隆, 多久嶋亮彦: Envelope managementに基づく乳房再建術前に仕上がり予測する. 第6回日本乳房オンコプラスチックサージェリー学会, 大阪, 2018年9月21日.
36. 大浦紀彦: 学びなおそう褥瘡管理 いま・むかし 褥瘡管理の最新アップデート. 第20回日本褥瘡学会学術総会, 横浜, 2018年9月29日.
37. 大浦紀彦: 重症下肢虚血の治療 苦勞した症例から学ぶ. 城北地区足病懇話会, 東京, 2018年10月2日.
38. 多久嶋亮彦: 陳旧性麻痺に対する遊離広背筋移植術におけるunfavorable resultsとその対策. 第36回日本頭蓋顎顔面外科学会・学術集会, 札幌, 2018年10月11日.
39. 尾崎峰, 藤木政英, 岩科裕己, 多久嶋亮彦: 眼瞼結膜・眼球結膜部静脈奇形の治療経験. 第36回日本頭蓋顎顔面外科学会・学術集会, 札幌, 2018年10月11日.
40. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 白石知大, 菅浩隆, 波利井清紀: 陳旧性の顔面神経不全麻痺に対する健側と患側の顔面神経を力源とする一期的遊離広背筋移植. 第36回日本頭蓋顎顔面外科学会・学術集会, 札幌, 2018年10月11-12日.
41. 木村武一郎, 尾崎峰, 藤木政英, 岩科裕己, 屋宜佑利香, 多久嶋亮彦: 前頭部外骨腫に対する内視鏡下切除術の検討. 第36回日本頭蓋顎顔面外科学会・学術集会, 2018年10月11-12日.
42. 大浦紀彦: 下肢救済のためのNPWT最新治療 入院から外来管理まで. 第15回日本フットケア学会函館セミナー, 函館, 2018年10月13日.
43. 大浦紀彦, 匂坂正信, 寺部雄太, 内山敦史, 大越拓実, 三野稜太, 多久嶋亮彦: AI技術を応用した創傷評価法の確立. 第27回日本形成外科学会・基礎学術集会, 東京, 2018年10月18日.
44. 倉地功, 菅浩隆, 多久嶋亮彦: 単球・マクロファージ系細胞が分泌するIL-6は線維化を抑制する. 第27回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京, 2018年10月18日.
45. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の診断と治療. 第33回糖尿病合併症学会, 東京, 2018年10月19日.
46. 大浦紀彦: 透析患者の下肢末梢動脈疾患に対する重症化予防 一生 歩き続けるために. 第39回滋賀腎・透析研究会, 大津, 2018年10月21日.
47. Ohura N : Update of Surgical Treatment & Topical Wound Management for Diabetic Foot in Japan. 15th Asia Pacific Conference on Diabetic Limb Problems DFI & Recalcitrant wound, Taiwan, Oct. 28th, 2018.
48. Ohura N, Renoie C : The Proper Role of Wound Management in CLI Studies. Harmonization By Doing Session VIVA2018, USA , NOV. 6th, 2018.
49. Ohura N, Sakisaka M, Takushima A : Free flap transfer in patients with diabetic foot ulcers.; Technique for overcoming congestion. PRS KOREA 2018, KOREA, Nov. 9th 2018.
50. 多久嶋亮彦: 耳下腺癌切除後の一次・二次顔面神経再建. 第12回九州頭頸部癌フォーラム, 福岡, 2018年11月10日.
51. 屋宜佑利香, 尾崎峰, 藤木政英ほか: 当科における, 長期挿管管理に伴う反回神経麻痺発症例の検討. 日本頭蓋顎顔面外科学会・学術集会, 札幌, 2018年11月11日.
52. 木村武一郎, 尾崎峰, 藤木政英ほか: 前頭部外骨腫に対する内視鏡下切除術の検討. 日本頭蓋顎顔面外科学会・学術集会, 札幌, 2018年11月11日.
53. 多久嶋亮彦: 顔面神経麻痺に対する筋肉移植術の歴史. 第24回千葉県形成外科研究会, 千葉, 2018年11月17日.
54. 菅浩隆 (市民公開講座) : 乳腺全摘後の乳房同時再建. 第14回複十字病院乳腺センター市民公開講座, 清瀬, 2018年11月17日.
55. 大浦紀彦: 透析患者の下肢末梢動脈病変 歩き続けるための重症化予防. 三井記念病院院内講演会, 東京, 2018年11月28日.
56. Ohura N : Efficacy of Endovascular Treatment for would Healing Knowledge to promote wound healing. Endovascular Asia 2018 ,Osaka, 2018年12月1日.

57. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 小児、高齢者に対する一期的遊離広背筋移植による笑いの再建. 第45回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 大阪, 2018年12月6-7日.
58. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 一期的遊離広背筋移植と咬筋神経の使用法. 第45回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 大阪, 2018年12月6-7日.
59. 大浦紀彦: DFUの治療戦略 創傷治療チームは何をすればいいのか. CRESCIUSリサーチセンターキャリアアップ講座, 東京, 2018年12月22日.
60. 大浦紀彦: 糖尿病足病変の病態生理、治療 糖尿病性足病変の重症化予防. 平成30年度 糖尿病 重症化予防「フットケア」研修プログラム(公社)東京都看護協会, 東京, 2019年1月21日.
61. 大浦紀彦: 糖尿病足病変のリスクアセスメントと治療 歩き続けるための重症化予防. 第6回 Diabetes Mellitus Conference in Tokyo North East学術講演, 東京, 2019年1月31日.
62. 大浦紀彦: 足は第二の心臓 足を守るための治療最前線 日本の足病変: CLTIの現状と創傷治療. フットケアの日記念講演, 川崎, 2019年2月15日.
63. 白石知大: 乳房再建において考えていること. 第11回開催 oncoplasticbreastsurgery勉強会, 大阪, 2019年2月16日.
64. Ohura N: V.A.C. VERAFLOR™ Therapy Therapy Case Studies. VF advisory panel meeting USA, 2019年2月23日.
65. Ohura N: MDRPU Current topics in Japan. MDRPU guidance consensus meeting Journal of Wound Care (JWC), UK, 2019年2月28日.
66. 橋本光平, 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 臍部子宮内膜症の悪性転化と考えられた明細胞腺癌の一例. 関東形成外科学会第293回東京地方会, 東京, 2019年3月2日.
67. 大浦紀彦: 最新の褥瘡予防. 第16回日本褥瘡学会近畿地方会 2019, 神戸, 2019年3月10日.
68. 大浦紀彦: 循環器患者に必要なフットケア 血行再建が必要な重症下肢虚血患者で留意すべき点. 第83回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2019年3月10日.
69. 尾崎峰: 中顔面骨折の診断と治療. 日本口腔外科学会第51回教育研修会, 川崎, 2019年3月10日.
3. Yanagi H<sup>1</sup>, Terashi H<sup>2</sup>, Takahashi Y<sup>3</sup>, Okabe K<sup>4</sup>, Tanaka K<sup>5</sup>, Kimura C<sup>6</sup>, Ohura N, Goto T<sup>7</sup>, Hashimoto I<sup>8</sup>, Noguchi M<sup>9</sup>, Sasayama J<sup>10</sup>, Shimada K<sup>11</sup>, Sugai A<sup>12</sup>, Tanba M<sup>13</sup>, Nakayama T<sup>14</sup>, Tsuboi R<sup>15</sup>, Sugama J<sup>16</sup>, Sanada H<sup>17</sup> (1Kobe Academia Clinic, 2Kobe University, 3Kyoto University, 4Okabe Plastic Surgery and Orthopedics Clinic, Kanagawa, 5Nagasaki University, 6Hakodate General Central Hospital, 7Tohoku University, 8Tokushima University, 9Kobe University Hospital, 10Hyogo Prefectural Rehabilitation Center, 11Kanazawa Medical University, 12Hoshigaoka Medical Center, 13Department of Nursing, Kyorin University Hospital, 14Kyoto University School of Public Health, 15Tokyo Medical University, 16Kanazawa University, 17University of Tokyo): The Japanese registry for surgery of ischial pressure ulcers: STANDARDS-I. J Wound Care. Mar 2;27(3):174-183.2018.
4. Kubota H, Ohura N, Shiffman Me ,Melvin A: Burns, Infectios and Wound Management(Recent Clinical Techniqes ,zzResearch in Wounds) Springer,2018.
5. 大浦紀彦, 寺部雄太: 【外来で役立つ靴の知識】 外来で役立つ糖尿病足病変に対する靴と免荷の知識(解説/特集). 31 (3号) Page51-57,2018.
6. 大浦紀彦, 匂坂正信, 木下幹雄, 関山琢也, 山下雄太郎, 寺部雄太, 森重侑樹, 多久嶋亮彦: 【創傷のデブリードマン】 特殊な創傷のデブリードマン 褥瘡のデブリードマン(解説/特集)形成外科 61 (6) Page676-684,2018.
7. 加賀谷優, 関山琢也, 匂坂正信, 中山大輔, 丹波光子, 大浦紀彦: 【下肢潰瘍・下肢静脈瘤へのアプローチ】 重症下肢虚血 CLIにおける軟部組織血流評価 古典的検査法から最新の流れまで(解説/特集).PEPARS, 140号 Page9-17,2018.
8. 匂坂正信, 大浦紀彦, 屋宜佑利香, 木村武一郎, 中山大輔, 倉地彩奈, 森重侑樹, 関山琢也, 寺部雄太, 加賀谷優, 多久嶋亮彦: 【下肢潰瘍・下肢静脈瘤へのアプローチ】 重症下肢虚血 重症下肢虚血に対する血管柄付き遊離皮弁移植術の適応とコツ(解説/特集).PEPARS 140号 Page38-49 , 2018.
9. 大浦紀彦, 富田益臣, 匂坂正信, 北幸敏, 寺部雄太, 中山大輔, 森重侑樹, 多久嶋亮彦:【高齢者における感染症up date】 糖尿病足病変と感染(解説/特集).56(11)Page1091-1094, 2018.
10. 尾崎峰, 木村武一郎: 【形成外科の手術記録サンプル】 顔面外傷の手術記録. 形成外科 61:512-520, 2018.
11. 関山琢也, 尾崎峰, 岩科裕己他: 硬膜損傷を回避するために頭蓋顔面離断術を併用した顔面骨骨折整復術の2例. 形成外科, 61: 604-611, 2018.
12. 倉橋将宗, 若林桂介, 倉地功, 尾崎峰ほか: 若年女性の頭部に発生したfibrosarcomatous-dermatofibrosarcoma protuberans(FS-DFSP)の1例. 形成外科, 61: 753-759, 2018.
13. 尾崎峰: 【形成外科 珠玉のオベ[2]応用編-次世代に継承したい秘伝のテクニック-】 顔面外科 顔面骨骨折 下顎関節突起骨折に対する内固定型骨延長器を用いた整復術 knock & pitfalls. 形成外科, 61: S140-S146, 2018.
14. 佐藤大介, 尾崎峰, 多久嶋亮彦: 下顎骨関節突起骨折に対する骨延長器固定術における側頭骨固定を回避するための注意点. 日本頭蓋顔面外科学会誌 34:116-121, 2018.
15. Oshima N, Shiraishi T, Kawauchi T, Oba J, Sato D, Fujiki M, Ozaki M, et al: A Simple and Reliable Submental Intubation Technique for Maxillofacial Fractures. J Craniofac Surg 29: 1952-1955, 2018.
16. Suga H, Kurita E, Kurachi I, Takushima A: Passage culture of human monocyte/macrophage lineage cells using a temperature-responsive culture dish. Cytometry A, 93:393-396, 2018.

## 論 文

1. 多久嶋亮彦: 【顔面神経麻痺の治療アルゴリズム: ベストプラクティス】 陳旧性顔面神経麻痺に対する遊離筋肉移植術の歴史と変遷. 日本頭蓋顔面外科学会誌34(1): 37-41,2018.
2. Yokoi H<sup>1</sup>, Ho M<sup>2</sup>, Iwamoto S<sup>3</sup>, Suzuki Y<sup>4</sup>, Ansel GM<sup>5</sup>, Azuma N<sup>6</sup>, Handa N<sup>2</sup>, Iida O<sup>7</sup>, Ikeda K<sup>4</sup>, Ikeno F<sup>8</sup>, Ohura N, Rosenfield K<sup>9</sup>, Rundback J<sup>10</sup>, Terashi H<sup>11</sup>, Uchida T<sup>12</sup>, Yokoi Y<sup>13</sup>, Nakamura M<sup>14</sup>, Jaff MR<sup>15</sup> (1Department of Cardiovascular Medicine, Fukuoka Sanno Hospital, 2Office of Medical Devices III, Pharmaceuticals and Medical Devices Agency, 3Office of Medical Devices II, Pharmaceuticals and Medical Devices Agency, 4Tohoku University Hospital, 5Center for Critical Limb Care, OhioHealth/Riverside Methodist Hospital, 6Asahikawa Medical University, 7Cardiovascular Center, Kansai Rosai Hospital, 8Stanford University, 9Department of Cardiology, Massachusetts General Hospital, 10Holy Name Medical Center, 11 Kobe University Graduate School of Medicine, 12Tokyo Women's Medical University, 13Department of Cardiology, Kishiwada Tokushukai Hospital, 14Division of Cardiovascular Medicine, Toho University, Ohashi Medical Center, 15VasCore, Massachusetts General Hospital) : Design Strategies for Global Clinical Trials of Endovascular Devices for Critical Limb Ischemia (CLI) - A Joint USA-Japanese Perspective. Circ J. Aug 24;82(9):2233-2239. 2018.

17. Suga H, Shiraishi T, Takushima A: Influence of weight loss on volumetric change in contralateral breast during 2-stage breast reconstruction. *Eplasty*, 18:e27, 2018.
18. Sato D, Suga H, Takushima A: Liposarcoma preoperatively diagnosed as lipoma: 10-year experience at a single institution. *Dermatol Surg*, 44:1065-1069, 2018.
19. 中務秀一, 菅浩隆, 多久嶋亮彦: 手術待機中に基底細胞癌が発生した頭部脂腺母斑の1例. *日頭顔会誌* 34: 154-158, 2018.
20. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 顔面神経麻痺治療のコツ—遊離広背筋移植による動的再建: 二重神経支配型移植法. *PEPARS* 143:11-19, 2018.
21. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 顔面神経麻痺の形成外科的治療—一期の遊離広背筋移植術による動的再建術: 最近の改良点. *医学のあゆみ* 268(10):860-863, 2018.
22. Oshima N, Shiraishi T, Kawauchi T, Oba J, Sato D, Fujiki M, Ozaki M, Takushima A (Kyorin University): A simple and reliable submental intubation technique for maxillofacial fractures. *J Craniofac Surg* 29: 1952-1955, 2018.
23. Kubota H, Endo H, Ishii H, Tsuchiya H, Ohura N, Takahashi Y: Branched xenopericardial roll graft replacement of an infected aortic arch graft. *J Card Surg*. Jan;34(1):31-34. 2019.
24. 匂坂正信, 大浦紀彦, 橋本光平, 小倉ふみ子, 北幸紘: 重症下肢虚血における創傷治療. *杏林医学会誌*, 50巻1号, 2019.
25. 吉村美音, 大浦紀彦: 最新の周術期褥瘡対策—新たなずれ対策とmicroclimateへの着眼—. *杏林医学会誌*, 50 (1), 2019.
26. 大浦紀彦, 多久嶋亮彦: 【動脈・静脈疾患 動脈・静脈疾患の最近の進歩】治療 動脈・静脈疾患の治療の現状とその成績 重症下肢虚血における創傷治療とその治療(解説/特集)36(3) Page461-465, 2019.
27. 尾崎峰, 加地展之: 【患児・家族に寄り添う血管腫・脈管奇形の医療】患者・家族に寄り添う動静脈奇形の治療. *PEPARS* 145:37-46, 2019.
28. Fujiki M, Ozaki M, Iwashina Y, et al: Clinical outcomes and recipient vessel selection for free flap transfer following arteriovenous malformation resection. *J Plast Surg Hand Surg* 53:56-59, 2019.
29. Ito H, Ueno T, Suga H, Shiraishi T, Isaka H, Imi K, Miyamoto K, Tada M, Ishizaka Y, Imoto S: Risk factors for skin flap necrosis in breast cancer patients treated with mastectomy followed by immediate breast reconstruction. *World J Surg*, 43:846-852, 2019.

著書

1. 大浦紀彦: 下肢潰瘍・下肢静脈瘤へのアプローチ *PEPARS* 大浦紀彦編集. 東京, 全日本病院出版会, 2018.(1349-645X)140号.
2. 尾崎峰 (編著): 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰編集. 大阪, メディカ出版, 2018.p.2-33, 58-72, 192-195.
3. 尾崎峰 (分担執筆): 第4章5 リンパ管奇形. 腫瘍・母斑・血管奇形 磯貝典孝, 山本有平編集, 波利井清紀, 野崎幹弘監修. 東京, 克誠堂出版, 2018, p.137-145.
4. 岩科裕己: 第2章3. 手の外傷の治療と手術. 超入門形成外科・美容外科手術. 尾崎峰. 東京, メディカ出版, 2018. p93-106.
5. 第2章4. その他の外傷の手術. 超入門形成外科・美容外科手術. 尾崎峰. 東京, メディカ出版, 2018. P107-109.
6. 第5章6. 血管奇形に対する治療と手術. 超入門形成外科・美容外科手術. 尾崎峰. 東京, メディカ出版, 2018. P230-235.
7. 今村三希子, 多久嶋亮彦 (分担執筆): 臨床形成外科領域 超広帯域プローブがもたらす形成外科手術への可能性. 映像情報メディカル増刊号 超音波診断. 加茂未亜, 波並雅

弘, 平栗裕規. 東京, 産業開発機構株式会社, 2019. p.95-100.

8. 大浦紀彦: 杏林医学会誌 下肢末梢動脈疾患 (PAD) に対するチーム医療と難治性創傷の最新のトピックス. 50(1), 2019.

その他

1. 大浦紀彦: 学会主催: CLIに対する包括的医療の現状 足を切らずに歩いて帰すためのチーム医療 形成外科の立場から. 杏林大学COE, 東京, 2018年7月17日.
2. 大浦紀彦: 学会主催: Act Against Amputation 産学協議会, 東京, 2018年8月3日.

泌尿器科学教室

講演

1. 桶川隆嗣, 福原浩: 前立腺癌におけるリキッドバイオプシーの現状と展望. 第4回岩手腎泌尿器病理研究会, 盛岡, 2018年4月14日.
2. 舛田一樹, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における前立腺肥大症に対するHoLEPの中長期成績. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月19日.
3. 田口慧: がん治療用ヘルペスウイルスを用いた, 尿路上皮癌に対する新規治療法の開発. 第106回日本泌尿器科学会総会 (第11回ヤングリサーチグラント受賞記念講演), 京都, 2018年4月19日.
4. 多武保光宏, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 金城真実, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 結石性腎盂腎炎におけるプレセプシン測定の有効性. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月19日.
5. 北村盾二, 宮川昌悟, 鮫島未央, 大村章太, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における高リスク前立腺癌患者におけるRALPの治療成績. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
6. 鮫島未央, 宮川昌悟, 松本龍貴, 北村盾二, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 転移性腎細胞癌に対する分子標的薬投与における腎機能障害の検討. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
7. 樋勝政博, 中村真樹, 大科貴宏, 白川昇英, 高橋潤, 塩澤迪夫, 亀井潤, 熊谷仁平, 山田大介, 藤村哲也, 福原浩, 本間之夫: 当院におけるMRI-TRUS fusionガイド下前立腺生検の初期経験. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
8. 松本明彦, 大科貴宏, 川合剛人, 山田大介, 高橋さゆり, 藤村哲也, 石川晃, 一色玲, 吉田輝彦, 浜崎敬文, 南学正臣, 福原浩: 腎移植後リンパ腫に対して腹腔鏡下開窓術を施行した2例. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
9. 大科貴宏, 川合剛人, 山田大介, 高橋さゆり, 松本明彦, 藤村哲也, 福原浩, 本間之夫: 腎盂癌に対する腎尿管全摘除術時の早期尿管クリッピングの有効性の検討. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
10. 山田大介, 松島常, 榎本裕, 村田高史, 牧野克洋, 立川隆光, 中野敏彦, 阿部真樹, 塩澤迪夫, 東剛司, 粕谷豊, 鈴木基文, 佐藤ゆずり, 西松寛明, 石川晃, 角谷成紀, 岡根谷利一, 永本将一, 山田雄太, 中川徹, 宮寄英世, 加藤温, 樫淵啓史, 近藤靖司, 久米春喜, 井川靖彦, 藤村哲也, 内藤晶裕, 田中基嗣, 高田宗典, 上村夕香理, 宮川仁平, 森川鉄平, 福原浩, 本間之夫: 初回前立腺針生検陰性例に対するナフトピジルによる前立腺がん発生頻度の低下効果に関する前向き無作

- 為化比較研究. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
11. 加藤琢磨, 杉元幹史, 笈善行, 山口秋人, 古賀寛史, 篠原信雄, 丸山寛, 荒井陽一, 三塚浩二, 福原浩: 監視療法の中間報告 PRIAS-JAPANより. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
  12. 加藤琢磨, 杉元幹史, 笈善行, 山口秋人, 古賀寛史, 篠原信雄, 丸山寛, 荒井陽一, 三塚浩二, 福原浩: 60歳未満の監視療法の解析 PRIAS-JAPAN studyより. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
  13. 川合剛人, 松本明彦, 山田大介, 高橋さゆり, 藤村哲也, 井川靖彦, 中川徹, 福原浩, 久米春喜: 血液透析患者に生じた膀胱癌に対しBCG膀胱内注入療法を施行した7例の検討. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
  14. 野宮明, 田畑真梨子, 新美文彩, 秋山佳之, 榎本裕, 福原浩, 井川靖彦, 本間之夫, 久米春喜: 間質性膀胱炎に対するヘパリンとヘパリン・リドカインカクテルによる膀胱内注入療法の無作為化二重盲検並行群間比較試験. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
  15. 佐藤悠佑, 山田麻衣子, 新美文彩, 山田大介, 藤村哲也, 福原浩, 久米春喜: 自己免疫疾患の既往を有する進行性腎細胞癌の症例へのニボルマブ投与の経験. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
  16. 塩澤迪夫, 秋山佳之, 川合剛人, 山田大介, 松本明彦, 藤村哲也, 福原浩, 久米春喜: ロボット支援下根治的前立腺全摘除術後のcontinence recoveryと膀胱造影検査所見との関連の検討. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月20日.
  17. 金城真実: 糖尿病患者における下部尿路症状の実態調査. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月21日.
  18. 二宮直紀, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 中村雄, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における根治的膀胱全摘除術の周術期合併症と予後について. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月21日.
  19. 中村雄, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 山口剛, 板谷直, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 多摩地区における結節性硬化症患者に対する診療連携への取り組み. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月21日.
  20. 大村章太, 宮川昌悟, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腎盂尿管癌における術後補助化学療法の意義. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月21日.
  21. 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 進行性腎細胞癌に対する分子標的療法・免疫療法の逐次療法におけるNLRの検討. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月21日.
  22. 松本龍貴, 宮川昌悟, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: カバジタキセルの使用経験と最適投与順序について. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月21日.
  23. 山口剛, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 板谷直, 金城真実, 多武保光宏, 東原英二, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: ADPKD患者の透析導入前後におけるTKVの経時的変化の検討. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月21日.
  24. 桶川隆嗣, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: ~教育企画 リキッドバイオプシーはここまで進んだ~去勢抵抗性前立腺癌におけるliquid biopsyの現状と展望. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018年4月21日.
  25. 金城真実: 東京多摩地区における健診受診者の下部尿路症状の実態調査. 第31回日本老年泌尿器学会, 福井, 2018年5月11日.
  26. 金城真実: 女性泌尿器科診療の留意点~尿失禁, 骨盤臓器脱を中心に~. 女性医師の学術講演会, 三鷹, 2018年5月16日.
  27. 桶川隆嗣, 中村雄, 福原浩: TSC 更なる地域連携を求めて~適切な診療を届けるため~. TSC Center of Excellence 2018, 東京, 2018年5月19日.
  28. 竹脇史絵, 保坂利男, 石飛実紀, 石本麻衣, 近藤健, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 金城真実, 福原浩, 石田均: 神経障害 糖尿病患者における下部尿路機能障害とその背景との関連についての実態調査. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24日.
  29. 桶川隆嗣, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩: 腎細胞がんの薬物治療. 多摩腎癌コンセンサスミーティング, 立川, 2018年5月25日.
  30. 福原浩: 前立腺癌にはやはり手術とホルモン療法!. 第43回神戸Urogenital Tumor Conference, 神戸, 2018年6月5日.
  31. 福原浩: 前立腺癌には手術とホルモン療法!. 第19回杏林イブニングセミナー, 三鷹, 2018年6月13日.
  32. 金城真実: 糖尿病患者における下部尿路症状の実態調査. 第7回女性骨盤底勉強会, 立川, 2018年6月22日.
  33. Kinjo M, Okegawa T, Nutahara K: Does mid-urethral sling surgery improve the patients' mental status? IUGA 2018 the 43rd Annual Scientific Meeting of the International Urogynecological Association, Austria, June 30th, 2018.
  34. 桶川隆嗣, 中村雄, 田口慧, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩: 前立腺癌におけるリキッドバイオプシーの現状と展望. 第27回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会, 長崎, 2018年7月6日.
  35. 桶川隆嗣, 中村雄, 田口慧, 福原浩: 結節性硬化症の多摩地区全域調査. 平成30年度第2回東京療育ネットワーク, 府中, 2018年7月10日.
  36. 金城真実: 女性骨盤底外来受診患者の実態調査. 第20回日本女性骨盤底医学会, 東京, 2018年7月22日.
  37. 鈴木啓悦, 福原浩, 宮北英司, 渡邊豊彦, 小島聡子: 男女共同参画「ダイバーシティ時代における提案」. JUA Future Vision 2018, 神戸, 2018年8月3日.
  38. 桶川隆嗣, 中村雄, 田口慧, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩: 泌尿器腫瘍におけるリキッドバイオプシーの現状と展望. 第3回CTCフォーラム2018, 東京, 2018年8月29日.
  39. Kinjo M, Gamou S, Okegawa T, Fukuhara H: PREVALENCE AND PATIENTS' BEHAVIOR OF LOWER URINARY TRACT SYMPTOMS IN MEDICAL CHECKUP EXAMINEE POPULATION: DIFFERENCES BETWEEN MALES AND FEMALES. ICS 2018 the 48th International Continence Society Annual Meeting, USA, August 31st, 2018.
  40. 福原浩: 前立腺癌には, 手術とホルモン療法. わかしやち泌尿器科セミナー, 名古屋, 2018年9月12日.
  41. 福原浩: ガイドラインから読み解く最新の治療-前立腺がん検診・前立腺肥大症-. 高齢者疾患研究会・三鷹医師会, 三鷹, 2018年9月14日.
  42. Nakamura Y, Okegawa T, Fukuhara H: Approach to establish the ideal TSC medical cooperation in the Tama area. International Tuberous Sclerosis Complex Research Conference 2018, 東京, 2018年9月14日.
  43. 鈴木沙衣, 稲生靖, 岩井美和子, 福原浩, 藤堂具紀: 免疫修飾機能を付加した新規がん治療用単純ヘルペスウイルスI型 type 1 armed with an immunomodulatory function in

- murine tumor models). 第77回日本癌学会総会, 大阪, 2018年9月27日.
44. 山口剛, 矢野俊英, 加藤裕二, 桶川隆嗣, 福原浩: 当院におけるHoLEPの治療成績. 第25回日本排尿機能学会, 名古屋, 2018年9月27日.
  45. 桶川隆嗣, 福原浩: 転移性前立腺癌の個別化治療~Liquid Biopsyからのアプローチ~. 2018十勝前立腺癌セミナー, 帯広, 2018年9月28日.
  46. 金城真実: OABの薬物治療, 83作動薬の位置づけ. Pros and Cons「抗コリン薬 vs B3 作動薬」. 第25回日本排尿機能学会, 名古屋, 2018年9月28日.
  47. 金城真実, 竹脇史絵, 保坂利夫, 石田均, 桶川隆嗣, 福原浩: 糖尿病患者における下部尿路症状の実態調査(第二報). 第25回日本排尿機能学会, 名古屋, 2018年9月29日.
  48. 多武保光宏: 卒後教育プログラム: 尿路結石の外科的治療(ESWL, TUL, PNL, TAP). 第83回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2018年10月12日.
  49. 二宮直紀, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 中村雄, 田口慧, 山口剛, 多武保光宏, 金城真実, 桶川隆嗣, 福原浩: 当院における根治的膀胱全摘除術の周術期合併症および予後について. 第83回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2018年10月13日.
  50. 松本龍貴, 宮川昌悟, 大村章太, 鮫島未央, 舛田一樹, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 当院におけるカバジタキセルの使用経験と最適投与順序について. 第83回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2018年10月13日.
  51. 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 舛田一樹, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 進行性腎細胞癌に対する分子標的療法・免疫療法の逐次療法における臨床的検討. 第83回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2018年10月13日.
  52. 大村章太, 宮川昌悟, 松本龍貴, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 当院における腎盂尿管癌に対する術後補助化学療法 of 検討. 第83回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2018年10月13日.
  53. 中村雄, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 山口剛, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 当院における転移性尿路上皮癌に対するpembrolizumabの初期使用経験. 第83回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2018年10月14日.
  54. 金城真実: 泌尿器科診療における残尿測定の意義. 第297回多摩エコー研究会, 武蔵野, 2018年10月18日.
  55. 福原浩: がん治療: 次の波はウイルス療法か. 第56回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018年10月18日.
  56. 内藤晶裕, 鈴木基文, 田口慧, 佐藤悠佑, 川合剛人, 山田大介, 松本明彦, 藤村哲也, 福原浩, 久米春喜: 前立腺全摘除術の術式の違いによる腎機能変化の検討. 第56回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018年10月18日.
  57. 加藤琢磨, 杉元幹史, 箕善行, 山口秋人, 横溝晃, 篠原信雄, 丸山寛, 荒井陽一, 三塚浩二, 福原浩, 穎川晋, 佐々木裕, 橋根勝義, 二宮郁: 前立腺癌監視療法における初回プロトコール生検T0症例の検討 PRIAS-JAPAN studyより. 第56回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018年10月18日.
  58. 田口慧, 白石憲史郎, 藤村哲也, 内藤晶裕, 中川恵一, 井川靖彦, 阿部修, 久米春喜, 福原浩: 前立腺癌に対するロボット支援手術(RARP)と強度変調回転放射線治療(VMAT)の成績比較. 第56回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018年10月19日.
  59. 田口慧, 宮川仁平, 森川鉄平, 内藤晶裕, 川合剛人, 藤村哲也, 久米春喜, 福原浩: 集合管癌における好中球リンパ球比(NLR)の意義. 第4回日本泌尿器腫瘍学会学術集会, 横浜, 2018年10月20日.
  60. 金城真実: 女性泌尿器科疾患で知っておきたいこと~頻尿・尿失禁から鑑別疾患まで~. 東久留米医師会学術講演会, 東久留米, 2018年11月12日.
  61. 福原浩: ダビンチを使用した前立腺・腎ロボット手術. 第3回杏林大学医学部付属病院医療連携フォーラム, 三鷹, 2018年11月16日.
  62. 金城真実: 女性のトイレトラブル対策. 三鷹市民健康講座, 三鷹, 2018年11月26日.
  63. 大村章太, 松本龍貴, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 当院における嵌頓結石の治療方針. 第32回日本泌尿器内視鏡学会, 仙台, 2018年11月28日.
  64. 二宮直紀, 宮川昌悟, 鮫島未央, 大村章太, 田口慧, 中村雄, 藤田直之, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: ロボット支援腎部分切除術と腹腔鏡下腎部分切除術についての臨床的検討. 第32回日本泌尿器内視鏡学会, 仙台, 2018年11月28日.
  65. 多武保光宏, 宮川昌悟, 松本龍貴, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 金城真実, 桶川隆嗣, 福原浩: 尿管ステントの最新事情~Precisionは達成できるか?~挿入・交換の標準化~. 第32回日本泌尿器内視鏡学会, 仙台, 2018年11月28日.
  66. 宮川昌悟, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 当院における腹腔鏡下尿管全摘除術についての臨床的検討. 第32回日本泌尿器内視鏡学会, 仙台, 2018年11月29日.
  67. 鮫島未央, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: 当院で経験した蛋白結石の症例. 第32回日本泌尿器内視鏡学会, 仙台, 2018年11月29日.
  68. 多武保光宏, 大村章太, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 金城真実, 桶川隆嗣, 福原浩: 困難な腎結石を克服する~PCNL? fTUL? Combined?~PNL-. 第32回日本泌尿器内視鏡学会, 仙台, 2018年11月29日.
  69. 麦谷荘一, 奴田原紀久雄, 加藤祐司, 志賀直樹, 多武保光宏, 三浦浩康, 西松寛明, 安井孝周: 上部尿路結石治療の標準化~Precisionな結石診療のために~TULの標準化-. 第32回日本泌尿器内視鏡学会, 仙台, 2018年11月29日.
  70. 中村雄, 宮川昌悟, 松本龍貴, 鮫島未央, 二宮直紀, 田口慧, 山口剛, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩: HoLEP術後の前立腺癌症例に関する臨床的検討. 第32回日本泌尿器内視鏡学会, 仙台, 2018年11月29日.
  71. 多武保光宏: 尿路結石内視鏡定量の最近のトレンド. 第110回Tokyo Expert Urology Seminar (TEUS), 東京, 2018年11月30日.
  72. 福原浩: 前立腺癌には, やはり手術とホルモン療法! . 千葉泌尿器科集団会, 千葉, 2018年12月1日.
  73. 金城真実: 女性泌尿器科診療の留意点~尿失禁, 骨盤臓器脱を中心に~. 三鷹医師会婦人科医会, 三鷹, 2018年12月7日.
  74. 福原浩: 頻尿・尿失禁について. 三鷹市薬剤師会, 三鷹, 2018年12月19日.
  75. 桶川隆嗣: 泌尿器腫瘍における血中循環腫瘍細胞(CTC)の現状と課題. 第3回Liquid Biopsy研究会, 東京, 2019年1月18日.
  76. 多武保光宏: 前立腺肥大症と尿路結石って何だろう?. 杏林大学公開講演会, 八王子, 2019年1月19日.
  77. 桶川隆嗣, 二宮直紀, 中村雄, 田口慧, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩: 腹腔鏡下, ロボット支援前立腺全摘術の手術成績および尿禁制の比較検討. 第11回日本ロボット外科学会学術集会, 名古屋, 2019年1月26日.

78. 桶川隆嗣, 中村雄, 田口慧, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩 : 医療連携とロボット支援前立腺全摘術について. 第16回多摩前立腺がん医療連携研究会, 東京, 2019年1月30日.
79. 福原浩 : 前立腺癌 ホルモン療法と手術, そしてウイルス療法. 第2回Urological Forum in城北, 東京, 2019年1月31日.
80. 桶川隆嗣, 中村雄, 田口慧, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩 : Liquid Biopsyとは—Oncology領域での活用法. 第59回日本臨床腎移植学会, 大阪, 2019年2月14日.
81. 鮫島未央, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 二宮直紀, 田口慧, 中村雄, 山口剛, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 福原浩 : 術中囊胞液の穿刺吸引によって著明な血圧低下をきたした巨大褐色細胞腫の1例. 第629回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2019年2月21日.
82. 桶川隆嗣, 中村雄, 田口慧, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩 : 腎癌の代謝物解析と薬剤評価モデル構築. 第28回泌尿器科分子・細胞研究会, 下関, 2019年2月23日.
83. 山口剛 : 当院におけるニボルマブの使用経験. Tama RCC meeting, 立川, 2019年3月8日.
84. 桶川隆嗣, 中村雄, 田口慧, 山口剛, 多武保光宏, 福原浩 : 前立腺癌におけるリキッドバイオプシーの現状と展望. 第13回Prostate Cancer Forum 前立腺癌治療 最新の知見, 仙台, 2019年3月9日.
85. Taguchi S : Panel discussion on prostate cancer : What is your choice of treatment?. 34th Annual EAU Congress, Spain, March 15th, 2019.
86. Taguchi S, Shiraishi K, Fujimura T, Naito A, Kawai T, Nakagawa K, Igawa Y, Abe O, Kume H, Fukuhara H : Robot-assisted radical prostatectomy (RARP) versus volumetric modulated arc therapy (VMAT) in cT1-4N0M0 prostate cancer (Expert-Guided Poster Tour) . 34th Annual EAU Congress, Spain, March 16th, 2019.
87. 金城真実 : 骨盤臓器脱とは「病態・治療・トピックを交えた最新情報」. 第8回創クラブ西勉強会, 昭島, 2019年3月16日.
88. 金城真実 : Up hold型TVM手術時における穿刺針への糸通しの工夫. 第13回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会, 宜野湾, 2019年3月23日.

## 論文

1. Higashihara E<sup>1</sup>, Horie S<sup>2</sup>, Kinoshita M<sup>3</sup>, Harris PC<sup>4</sup>, Okegawa T, Tanbo M, Hara H, Yamaguchi T, Shigemori K, Kawano H<sup>2</sup>, Miyazaki I<sup>5</sup>, Kaname S<sup>6</sup>, Nutahara K ( <sup>1</sup>Department of ADPKD Research, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Juntendo University School of Medicine, <sup>3</sup>Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., <sup>4</sup>Mayo Clinic, <sup>5</sup>Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>6</sup>Department of Nephrology, Kyorin University School of Medicine) : A potentially crucial role of the PKD1 C-terminal tail in renal prognosis. *Clin Exp Nephrol* 22(2):395-404, 2018. DOI:10.1007/s10157-017-1477-7.
2. Yamaguchi T, Higashihara E<sup>1</sup>, Okegawa T, Miyazaki I<sup>2</sup>, Nutahara K ( <sup>1</sup>Department of ADPKD Research, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Radiology, Kyorin University Hospital) : Optimal equation for estimation of glomerular filtration rate in autosomal dominant polycystic kidney disease: influence of tolvaptan. *Clin Exp Nephrol* 22(5):1213-1223, 2018. DOI:10.1007/s10157-018-1574-2.
3. Okegawa T, Ninomiya N, Masuda K, Nakamura Y, Tambo M, Nutahara K : AR-V7 in circulating tumor cells cluster as a predictive biomarker of abiraterone acetate and enzalutamide treatment in castration-resistant prostate cancer patients. *Prostate* 78: 576-582, 2018. DOI:10.1002/pros.23501.
4. Yamada Y<sup>1</sup>, Fujimura T<sup>1</sup>, Fukuhara H<sup>1</sup>, Sugihara T<sup>1</sup>, Nakagawa T<sup>1</sup>, Kume H<sup>1</sup>, Igawa Y<sup>1</sup>, Homma Y<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>The University of Tokyo) : Predictors of Early Continence after Robot-assisted Radical Prostatectomy. *Low Urin Tract Symptoms* 10 (3) :287-291, 2018. DOI: 10.1111/luts.12181
5. Akiyama Y<sup>1</sup>, Niimi A<sup>1</sup>, Nomiya A<sup>1</sup>, Yamada Y<sup>2</sup>, Nakagawa T<sup>2</sup>, Fujimura T<sup>1</sup>, Fukuhara H<sup>1</sup>, Kume H<sup>3</sup>, Igawa Y<sup>1</sup>, Homma Y<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Teikyo University School of Medicine, <sup>3</sup>National Center for Global Health and Medicine) : Extent of Hunner lesions: the relationships with symptom severity and clinical parameters in patients with Hunner-type interstitial cystitis. *Neurourol Urodyn* 37(4):1441-1447, 2018. DOI:10.1002/nau.23467
6. Aizawa N<sup>1</sup>, Watanabe D<sup>1</sup>, Fukuhara H<sup>1</sup>, Fujimura T<sup>1</sup>, Kume H<sup>1</sup>, Homma Y<sup>1</sup>, Igawa Y<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>The University of Tokyo) : Inhibitory effects of silodosin on the bladder mechanosensitive afferent activities and their relation with bladder myogenic contractions in male rats with bladder outlet obstruction. *Neurourol Urodyn* 37(6):1897-1903, 2018. DOI:10.1002/nau.23547
7. Fujimura T<sup>1</sup>, Fukuhara H, Yamada Y<sup>2</sup>, Taguchi S, Sugihara T<sup>1</sup>, Niimi A<sup>2</sup>, Nakamura M<sup>2</sup>, Nakagawa T<sup>3</sup>, Igawa Y<sup>4</sup>, Homma Y<sup>4</sup>, Kume H<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>Jichi Medical University, <sup>2</sup>The University of Tokyo, <sup>3</sup>Teikyo University School of Medicine, <sup>4</sup>Japan Red Cross Hospital) : Aggressive Cancer Behavior of Latent Gleason Pattern 5 in Prostatectomy Specimens. *Anticancer Res* 38:6529-6535, 2018. DOI:0.21873/anticancer. 13018.
8. Kinoshita Y<sup>1</sup>, Sugihara T<sup>1</sup>, Yasunaga H<sup>2</sup>, Matsui H<sup>2</sup>, Ishikawa A<sup>1</sup>, Fujimura T<sup>2</sup>, Fukuhara H<sup>2</sup>, Ishibashi Y<sup>1</sup>, Fushimi K<sup>3</sup>, Homma Y<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>Japanese Red Cross Medical Center, <sup>2</sup>The University of Tokyo, <sup>3</sup>Tokyo Medical and Dental University Graduate School) : Hospital-volume effects on perioperative outcomes in peritoneal dialysis catheter implantation: analysis of 2,505 cases. *Perit Dial Int* 38:419-423, 2018. DOI:10.3747/pdi. 2017.00095
9. Taguchi S<sup>1</sup>, Fukuhara H, Miyakawa J<sup>1</sup>, Morikawa T<sup>1</sup>, Naito A<sup>1</sup>, Kawai T<sup>1</sup>, Fujimura T<sup>1</sup>, Kume H<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>The University of Tokyo) : Prognostic significance of neutrophil-to-lymphocyte ratio in collecting duct carcinoma. *Jpn J Clin Oncol* 48:692-694, 2018. DOI:10.1093/jcco/hyy076.
10. Otsuka M<sup>1</sup>, Taguchi S<sup>1</sup>, Nakagawa T<sup>1</sup>, Morikawa T<sup>1</sup>, Maekawa S<sup>1</sup>, Miyakawa J<sup>1</sup>, Matsumoto A<sup>1</sup>, Miyazaki H<sup>1</sup>, Fujimura T<sup>1</sup>, Fukuhara H<sup>1</sup>, Kume H<sup>1</sup>, Igawa Y<sup>1</sup>, Homma Y<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>The University of Tokyo) : Clinical significance of random bladder biopsy in primary T1 bladder cancer. *Mol Clin Oncol* 8:665-670, 2018. DOI:10.3892/mco.2018.158716.
11. Makino K<sup>1,2</sup>, Nakagawa T<sup>1,3</sup>, Ito E<sup>2</sup>, Kasahara I<sup>2</sup>, Murata T<sup>2</sup>, Fujimura T<sup>1</sup>, Fukuhara H<sup>1</sup>, Homma Y<sup>1,4</sup> ( <sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Ome Municipal General Hospital, <sup>3</sup>Teikyo University School of Medicine, <sup>4</sup>Japan Red Cross Hospital) : Oncological and peri-surgical outcomes of radical prostatectomy for non-metastatic prostate cancer with prostate-specific antigen level of 50 ng/ml or greater. *Jpn J Clin Oncol* 48:485-490, 2018. DOI:10.1093/jcco/hyy044
12. Sato M<sup>1</sup>, Taguchi A<sup>1</sup>, Fukui Y<sup>1</sup>, Kawata A<sup>1</sup>, Taguchi S<sup>1</sup>, Kashiyama T<sup>1</sup>, Eguchi S<sup>1</sup>, Inoue T<sup>1</sup>, Tomio K<sup>1</sup>, Tanikawa M<sup>1</sup>, Sone K<sup>1</sup>, Mori M<sup>1</sup>, Nagasaka K<sup>1</sup>, Adachi K<sup>1</sup>, Ikemura M<sup>1</sup>, Domoto Y<sup>1</sup>, Arimoto T<sup>1</sup>, Oda K<sup>1</sup>, Fukayama M<sup>1</sup>, Osuga Y<sup>1</sup>, Fujii T<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>The University of Tokyo) : Blood Vessel Invasion Is a Strong Predictor of Postoperative Recurrence in Endometrial Cancer. *Int J Gynecol Cancer* 28(5): 875-881, 2018. DOI:10.1097/IGC.0000000000001262

13. Kinjo M, Yoshimura Y<sup>1</sup>, Kitagawa Y<sup>2</sup>, Okegawa T, Nutahara K ( <sup>1</sup>Yotsuya Medical Cube, <sup>2</sup>Komatsu Municipal Hospital) : Sexual activity and quality of life in Japanese pelvic organ prolapse patients after transvaginal mesh surgery. *J Obstet Gynaecol Res* 44(7):1302-1307, 2018. DOI:10.1111/jog.13654
14. 竹村光太郎<sup>1</sup>, 藤村哲也<sup>2</sup>, 山田雄太<sup>3</sup>, 高橋さゆり<sup>4</sup>, 山田大介<sup>5</sup>, 中川徹<sup>4</sup>, 田中良典<sup>1</sup>, 本間之夫<sup>6</sup>, 福原浩, 久米春喜<sup>5</sup>(<sup>1</sup>武蔵野赤十字病院, <sup>2</sup>自治医科大学, <sup>3</sup>千葉徳洲会病院, <sup>4</sup>帝京大学, <sup>5</sup>東京大学附属病院, <sup>6</sup>日本赤十字社医療センター): 開腹およびロボット支援下根治的膀胱摘除術における周術期アウトカムと医療費の比較. *Jpn J Endourol* 31(2):266-270, 2018.
15. 桶川隆嗣, 舛田一樹, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌におけるLiquid Biopsyの現状と展望. 泌外31(臨増):764-768, 2018.
16. 桶川隆嗣: 泌尿器科領域におけるリキッドバイオプシーの現状と展望. 今の特集1 循環癌細胞(CTC)とリキッドバイオプシー. *臨検* 62(11):1442-1450, 2018.
17. 桶川隆嗣, 舛田一樹: Liquid Biopsyについて. *Urol Today* 25 (1):4-12, 2018.
18. 桶川隆嗣, 板谷直: 単孔式腹腔鏡下腎摘除術(左・右). 泌尿器内視鏡手術のすべて. *臨泌*72(4):63-69, 2018.
19. 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 特集1: 上部尿路結石に対する治療のタイミングと術式選択10mmの腎結石に対するストラテジー. *Jpn J Endourol* 31(2):154-157, 2018.
20. 入江慎一郎, 桶川隆嗣: 特集2: 上部尿路結石治療のトラブルシューティング 序文. *Jpn J Endourol* 31(2):175, 2018.
21. 山口剛, 福原浩: ロボット支援下手術の最前線 各論 RALPの治療成績, 合併症など—LRP, ORPとの比較. *医学のあゆみ* 267(1):24-28, 2018.
22. 多武保光宏: 疾患・病態を理解する尿沈渣レファレンスブック—膀胱・腸瘻—. *臨検* 62(4):533-535, 2018.
23. 多武保光宏: 泌尿器内視鏡手術のすべて—経尿道的尿管結石破碎術—軟性鏡 (fTUL) —. *臨泌*72(4):279-284, 2018.
24. 山口剛, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: この一冊で安心! 泌尿器科当直医マニュアル<入院編> 術後血尿(経尿道的前立腺手術・膀胱腫瘍手術後). *臨泌* 72(5):354-358, 2018.
25. 金城真実: 女性泌尿器科疾患診療のミソ! 過活動膀胱の治療(薬物療法). *WOC Nursing* 6(11):12-20, 2018.
26. 金城真実, 桶川隆嗣: 泌尿器系疾患と慢性炎症 泌尿器科領域におけるマラコプラキア. 別冊 *BIO Clin* 慢性炎症と疾患 7(4):69-72, 2018.
27. 金城真実: まるごと女性泌尿器科の治療とケア 女性性機能障害の最前線. *Uro-Lo* 23(5):612-616, 2018.
28. 金城真実, 竹脇史絵, 石飛実紀, 保坂利男, 石田均, 奴田原紀久雄: 少子高齢化を迎える社会を見据えた糖尿病合併症対策 糖尿病と下部尿路症状. *糖尿合併*32(1):70-73, 2018.
29. 金城真実, 福原浩: 必読! 尿失禁マネジメントの極意 <尿失禁の種類と標準的治療> 腹圧性尿失禁. *臨泌* 72(8):592-597, 2018.
30. Higashihara E<sup>1</sup>, Yamamoto K<sup>2</sup>, Kaname S<sup>3</sup>, Okegawa T, Tanbo M, Yamaguchi T, Shigemori K, Miyazaki I<sup>4</sup>, Yokoyama K<sup>4</sup>, Nutahara K<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Department of Hereditary Kidney Disease Research, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>2</sup>Osaka City University, <sup>3</sup>Department of Nephrology, Kyorin University Faculty of Medicine, <sup>4</sup>Department of Radiology, Kyorin University Faculty of Medicine) : Age- and height-adjusted total kidney volume growth rate in autosomal dominant polycystic kidney diseases. *Clin Exp Nephrol* 23(1): 100-111, 2019. DOI:10.1007/s10157-018-1617-8
31. Kinjo M, Yamaguchi T, Tambo M, Okegawa T, Fukuhara H : Effects of mirabegron on anxiety and depression in female patients with overactive bladder. *Urol Int* 102(3):331-335, 2019. DOI:10.1159/000497282
32. 田中界, 宮川昌悟, 長嶺陽平, 舛田一樹, 北村盾二, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 大窪泰弘, 下山田博明, 菅間博: 後腹膜鏡下腫瘍摘除術を施行し得た下大静脈背側paragangliomaの1例. 泌外32(2):190, 2019.
33. 榎本香織, 宮川昌悟, 田中界, 長嶺陽平, 北村盾二, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 金城真実, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 川口翔平, 小嶋幸一郎, 松岡弘芳, 正木忠彦, 杉山政則: 排便での努責を契機に、尿閉・直腸脱を発症した骨盤臓器脱の一例. 泌外32(2) : 186, 2019.
34. 福原浩: これからの前立腺肥大症の手術は何かメジャーになるのか 序文. 泌外32(3):209, 2019.
35. 山口剛, 福原浩: これからの前立腺肥大症の手術は何かメジャーになるのか AUAガイドラインからみた前立腺肥大症に対する手術の動向. 泌外32(3):241-248, 2019.
36. 金城真実: 【もっと身近に! Famail Urologyを学ぶ】女性泌尿器科における薬物治療 女性下部尿路症状に対する薬物治療. *臨泌* 73(2):114-119, 2019.

著書

1. Okegawa T : Detection of circulating tumor cells in castration-Resistant prostate cancer. *Hormone Therapy and castration-Resistant prostate cancer.* Arai Y, Ogawa O. Singapore, Springer, 2018. p.299-305.
2. 多武保光宏, 鮫島未央, 奴田原紀久雄: エンドウロジー—TUL—. *Urologic Surgery Next No.3.* 山本新吾編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.22-33.
3. 山口剛 (分担執筆) : 第1章 腎・泌尿器の構造と機能 II尿管の構造と機能 III膀胱の構造と機能 IV尿道の構造と機能 V男性生殖器の構造と機能. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メジカルフレンド社, 2018. p.26-32.
4. 金城真実 (分担執筆) : 第2章 腎・泌尿器の症状と病態生理 II排尿の異常. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メジカルフレンド社, 2018. p.53-59.
5. 中村雄 (分担執筆) : 第2章 腎・泌尿器の症状と病態生理 VI腫瘍. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メジカルフレンド社, 2018. p.69.
6. 中村雄 (分担執筆) : 第2章 腎・泌尿器の症状と病態生理 VIIそのほかの症状 2性機能の異常 3精液の異常. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メジカルフレンド社, 2018. p.70-71.
7. 多武保光宏 (分担執筆) : 第3章 腎・泌尿器疾患にかかわる診察・検査・治療 II検査 H性・生殖機能検査. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メジカルフレンド社, 2018. p.105-106.
8. 桶川隆嗣 (分担執筆) : 第3章 腎・泌尿器疾患に関わる診察・検査・治療 III治療 E放射線療法. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メジカルフレンド社, 2018. p.126-127.
9. 多武保光宏 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 X III 尿路閉塞, 排尿機能の障害 E そのほかの尿路閉塞, 排尿機能の障害. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斉藤しのぶ編集. 東京, メジカルフレンド社, 2018. p.210-214.

10. 多武保光宏 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 XIV 腎・尿路・男性生殖器の腫瘍 B 腎盂腫瘍・尿管腫瘍 C 膀胱腫瘍 D 尿道腫瘍 E 陰茎腫瘍. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斎藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.218-224.
11. 桶川隆嗣 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 XIV 腎・尿路・男性生殖器の腫瘍 F 前立腺がん. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斎藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.224-229.
12. 中村雄 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 XIV 腎・尿路・男性生殖器の腫瘍 G 精巣腫瘍. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斎藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.229-230.
13. 山口剛 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 XV 嚢胞性腎疾患. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斎藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.230-232.
14. 多武保光宏 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 XVIII 男性の性・生殖器に関する疾患. 新体系 看護学全書 専門分野II 成人看護学⑦ 腎・泌尿器. 奴田原紀久雄, 要伸也, 斎藤しのぶ編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.242-246.
15. 山口剛 (分担執筆) : 第1章 腎・泌尿器の構造と機能 II 尿管の構造と機能. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.16-22.
16. 金城真実 (分担執筆) : 第2章 腎・泌尿器の症状と病態生理 II 排尿の異常. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.43-49.
17. 中村雄 (分担執筆) : 第2章 腎・泌尿器の症状と病態生理 VI 腫瘍. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.59.
18. 中村雄 (分担執筆) : 第2章 腎・泌尿器の症状と病態生理 VII そのほかの症状 2 性機能の異常 3 精液の異常. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.60-61.
19. 多武保光宏 (分担執筆) : 第3章 腎・泌尿器疾患にかかわる診察・検査・治療 II 検査 H 性・生殖機能検査. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.95-96.
20. 桶川隆嗣 (分担執筆) : 第3章 腎・泌尿器疾患にかかわる診察・検査・治療 III 治療 E 放射線療法. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.116-117.
21. 多武保光宏 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 XIII 尿路閉塞, 排尿機能の障害 E そのほかの尿路閉塞, 排尿機能の障害. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.200-204.
22. 多武保光宏 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 XIV 腎・尿路・男性生殖器の腫瘍 B 腎盂腫瘍・尿管腫瘍 C 膀胱腫瘍 D 尿道腫瘍 E 陰茎腫瘍. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.208-214.
23. 桶川隆嗣 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 XIV 腎・尿路・男性生殖器の腫瘍 F 前立腺がん. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.214-219.
24. 中村雄 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 XIV 腎・尿路・男性生殖器の腫瘍 G 精巣腫瘍. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.219-220.
25. 山口剛 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 XV 嚢胞性疾患. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.220-222.
26. 多武保光宏 (分担執筆) : 第4章 腎・泌尿器の疾患と診療 XVIII 男性の性・生殖器に関する疾患 1 男性不妊症 2 男性性機能障害 3 加齢男性性腺機能低下症. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進⑫疾病と治療⑨ 腎・泌尿器/女性生殖器. 奴田原紀久雄, 要伸也編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2018. p.232-236.
27. 福原浩 (分担執筆) : 8章 腎・泌尿器疾患 12 過活動膀胱・頻尿. 今日の処方 第6版. 浦部晶夫, 島田和幸, 川合眞一編集. 東京, 南江堂, 2019. p.353-354.
28. 桶川隆嗣 (分担執筆) : 19.泌尿器科疾患 停留精巣, 精巣捻転症. 今日の治療指針2019年版. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2019. p.1209-1210.
29. 桶川隆嗣 (分担執筆) : 19.泌尿器科疾患 停留精巣, 精巣捻転症. 今日の治療指針2019年版(ポケット版). 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2019. p.1209-1210.

## その他

- 桶川隆嗣 : 患者さんに適切な診療を届けるための地域連携. TSC Center of Excellence 2018講演記録集, 東京, 2018年5月19日.
- 福原浩 : 難治がん ウイルスで退治 国立がん研・鳥取大や杏林大一免疫療法と併用も. 日本経済新聞, 2018年5月28日, 朝刊.
- 桶川隆嗣 : 進行性腎細胞癌(RCC)治療における 最新の話題 座談会記録集, 東京, 2018年9月1日.
- 福原浩 : 巻頭言. 多摩泌尿器科医会雑誌Dec.2018 vol.22. 2018, p.1.
- 谷口珠実, 福原浩 : 平成30年度三鷹・武蔵野・小金井排尿障害勉強会開催報告. 多摩泌尿器科医会雑誌 Dec.2018 Vol22, 2018, p.38.
- 福原浩 : ガイドラインから読み解く最新の治療—前立腺がん 検診・前立腺肥大症—. 三鷹医人往来 41(1) : 21-25, 2019.
- 桶川隆嗣 : AERA (アエラ) 『切らなくても血液からわかる—「リキッドバイオブシー」でがん治療が変わる』取材. No.6 増大号AERA (アエラ), 東京, 朝日新聞出版, 2019年2月11日. p.14-15.
- 福原浩 : 健康コラム おしっこの悩みあれこれ. 広報みたか (No1639)2019年3月17日, p.10.

## 遺伝性腎疾患研究講座

## 講演

- Higashihara E: Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease: Progression and Prevention. 35<sup>th</sup> Korea-Japan Urological Congress, Okinawa, Japan. December.7-8, 2018.

2. 東原英二: 多発性嚢胞腎の臨床と病因: 進展抑制の試み. 第151回山口県医師会生涯研修セミナー, 山口, 2019年2月17日.

## 論文

1. Higashihara E, Horie S<sup>1</sup>, Kinoshita M<sup>2</sup>, Harris P<sup>3</sup>, Okegawa T<sup>4</sup>, Tanbo M<sup>4</sup>, Hara H<sup>4</sup>, Yamaguchi T<sup>4</sup>, Shigemori K<sup>4</sup>, Kawano H<sup>1</sup>, Miyazaki I<sup>5</sup>, Kaname S<sup>6</sup>, Nutahara K<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Juntendo University School of Medicine, <sup>2</sup>Otsuka Pharmaceutical Co., <sup>3</sup>Mayo Clinic, <sup>4</sup>Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, <sup>5</sup>Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>6</sup>Department of Nephrology, Kyorin University School of Medicine): A potentially crucial role of the *PKD1* C-terminal tail in renal prognosis. *Clin Exp Nephrol* 22(2):395-404, 2018. doi: 10.1007/s10157-017-1477-7
2. Yamaguchi T<sup>1</sup>, Higashihara E, Okegawa T<sup>1</sup>, Miyazaki I<sup>2</sup>, Nutahara K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine): Optimal equation for estimation of glomerular filtration rate in autosomal dominant polycystic kidney disease: influence of tolvaptan. *Clin Exp Nephrol* 22(5): 1213-1223, doi: 10.1007/s10157-018-1574-2.
3. Higashihara E, Yamamoto K<sup>1</sup>, Kaname S<sup>2</sup>, Okegawa T<sup>3</sup>, Tanbo M<sup>3</sup>, Yamaguchi T<sup>3</sup>, Shigemori K<sup>3</sup>, Miyazaki I<sup>4</sup>, Yokoyama K<sup>4</sup>, Nutahara K<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Osaka City University, <sup>2</sup>Department of Nephrology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, <sup>4</sup>Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine): Age- and height-adjusted total kidney volume growth rate in autosomal dominant polycystic kidney disease. *Clin Exp Nephrol* 23(1): 100-111, 2019. doi: 10.1007/s10157-018-1617-8.
4. Gansevoort RT<sup>1</sup>, van Gastel MDA<sup>1</sup>, Chapman AB<sup>2</sup>, Blais JD<sup>3</sup>, Czerwiec FS<sup>3</sup>, Higashihara E, Lee J<sup>3</sup>, Ouyang J<sup>3</sup>, Perrone RD<sup>4</sup>, Stade K<sup>5</sup>, Torres VE<sup>6</sup>, Devuyst O<sup>7</sup>; TEMPO 3:4 Investigators (<sup>1</sup>University of Groningen, <sup>2</sup>University of Chicago, <sup>3</sup>Otsuka Pharmaceutical Development & Commercialization, Inc., <sup>4</sup>Tufts University School of Medicine, <sup>5</sup>BRAHMS GmbH, <sup>6</sup>Mayo Clinic, <sup>7</sup>Université Catholique de Louvain): Plasma copeptin levels predict disease progression and tolvaptan efficacy in autosomal dominant polycystic kidney disease. *Kidney Int pii: S0085-2538(19)30041-30049*, 2019. doi: 10.1016/j.kint.2018.11.044.

## 眼科学教室

## 講演

1. 山田昌和: 充血を見たら前眼部疾患の鑑別ポイント. 第12回九州眼科アカデミー, 福岡, 2018年4月14日.
2. 井上真: 難治症例へのチャレンジ硝子体手術. 第3回中四国Retina Conference, 高松, 2018年4月14日.
3. 平形明人: 緑内障に合併する網膜分離様所見と治療. 第75回栃木県眼科集談会, 下野, 2018年4月15日.
4. 平形明人: 乳頭ピット黄斑症. 第122回日本眼科学会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.
5. 山田昌和: 全身薬による眼表面の副作用. 最近話題になる全身薬と眼副作用. 第122回日本眼科学会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.
6. 山田昌和: 眼科術後感染の予防と対策. 第67回専門医制度講習会, 第122回日本眼科学会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.
7. 井上真: Swept Source DRI OCT Triton 活用ガイドンス. SS-OCTは術後診療をどう変えたか?. 第122回日本眼科学

会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.

8. 井上真: 増殖膜への処理を再考する「膜処理」. 第122回日本眼科学会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.
9. 北善幸, 齊藤恒浩, 村井顕子, 五月女典久, 堀江大介, 平形明人: 原発開放隅角緑内障における視神経乳頭周囲OCTパラメーターと機能検査の相関. 第122回日本眼科学会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.
10. 佐野公彦, 井上真, 伊東裕二, 廣田和成, 厚東隆志, 平形明人: PDRにおける25ゲージ手術と27ゲージ手術の比較検討. 第122回日本眼科学会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.
11. 安藤良将, 慶野博, 宮東昭彦, 梅澤一夫, 平形明人, 岡田アナベルあやめ: ヒト網膜色素上皮細胞株に対するNF-κB阻害剤DHMEQの抗炎症効果の検討その2. 第122回日本眼科学会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.
12. 津田麻祐子, 慶野博, 中山真紀子, 倉井大輔, 高橋あずさ, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: CMV網膜炎を発症したGood症候群の1例. 第122回日本眼科学会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.
13. 山田健司, 佐野公彦, 井上真, 高橋洋如, 加藤悠, 伊東裕二, 北善幸, 廣田和成, 厚東隆志, 平形明人: 当院での網膜剥離に対する手術の比較検討. 第122回日本眼科学会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.
14. 馬場隆之, 坂本泰二, 平形明人, 山本修一, 西塚弘一, 厚東隆志, 山切啓太, 門之園一明, 大路正人, 山下英俊, 小椋祐一郎, 網膜硝子体学会疾患登録委員会: 網膜硝子体学会・治療情報データベース事業に於ける裂孔原性網膜剥離の術後3ヶ月成績. 第122回日本眼科学会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.
15. 小笠原雅, 山本亜希子, 丸子一朗, 坂垣可奈子, 長谷川泰司, 荒川久弥, 中山真紀子, 古泉英貴, 岡田アナベルあやめ, 飯田知弘, 石龍鉄樹: 滲出型加齢黄斑変性治療に対する1か月毎Treat and Extend法の予後予測因子. 第122回日本眼科学会総会, 大阪, 2018年4月19-22日.
16. 井上真: 網膜剥離術後のwhite dots. 第51回RETINAの会, 大阪, 2018年4月21日.
17. 慶野博: ぶどう膜炎診療アップデート. 第14回北関東眼科病院研究会, 宇都宮, 2018年4月26日.
18. Hirakata A: Retinoschisis Associated with Glaucomatous Optic Disc Cupping. The 25th Anniversary Meeting of the Retina Center at Pali Momi Medical Center an International Vitreoretinal Symposium, USA, April 27th-29th, 2018.
19. Hirakata A: Surgical Treatment for Myopic Traction Maculopathy. The 25th Anniversary Meeting of the Retina Center at Pali Momi Medical Center an International Vitreoretinal Symposium, USA, April 27th-29th, 2018.
20. Hirakata A: RETINAWS(video session). The 25th Anniversary Meeting of the Retina Center at Pali Momi Medical Center an International Vitreoretinal Symposium, USA, April 27th-29th, 2018.
21. Tsuda M, Keino H, Nakayama M, Kurai D, Takahashi A, Watanabe T, Okada AA: Compromised optic nerve head blood flow in cytomegalovirus retinitis. ARVO2018, USA, April 29th-May 3rd, 2018.
22. Mochizuki M, for the IWOS group (including Okada AA) : Revised International Criteria for the Diagnosis of Ocular Sarcoidosis. ARVO2018, USA, April 29th-May 3rd, 2018.
23. Kato Y, Inoue M, Hirakata A: Quantification of the images obtained with Optos 200Tx and Optos California. ARVO2018, USA, April 29th-May 3rd, 2018.
24. Ito Y, Inoue M, Hirakata A: Foveal architectural alterations following internal limiting membrane peeling

- for high myopic retinoschisis identified with intraoperative optical coherence tomography. ARVO2018, USA, April 29th-May 3rd, 2018.
25. Baba T, Sakamoto T, Kawasaki R, Hirakata A, Yamamoto S, Nishitsuka K, Koto T, Yamakiri K, Kadonosono K, Ohji M, Yamashita H, Ogura Y: Analyses of data in Japanese Retina and Vitreous Society registry on eyes with rhegmatogenous retinal detachments. ARVO2018, USA, April 29th-May 3rd, 2018.
  26. Storey P, Wolfe J, Todorich, Shah AR, Koto T, Abbey A, Morizane Y, Jeng-Miller K, Chin E, Williams P, Shiraga F, Hirakata A, Garg S, Yonekawa Y: Endophthalmitis Rates of Ranibizumab in Pre-Filled Syringes Compared to Vials. ARVO2018, USA, April 29th-May 3rd, 2018.
  27. 井上真: 抗VEGF薬の治療. 調布市眼科医会学術講演会, 調布, 2018年5月10日.
  28. 山田昌和: 指定難病としての前眼部形成異常. 第9回東京多摩眼科連携セミナー, 三鷹, 2018年5月12日.
  29. 満川忠宏, 鈴木由美, 平形明人, 朽名悟, 吉野浩, 楊國昌: 播種性血管内凝固症候群を伴う急性前骨髄急性白血病にみられた網膜出血の1例. 第9回東京多摩眼科連携セミナー, 三鷹, 2018年5月12日.
  30. 井上真: 網膜剥離Ⅱ: 硝子体手術+水晶体関係. 第17回 硝子体手術ビデオセミナー「一日でわかる硝子体手術」, 東京, 2018年5月13日.
  31. 井上真: 興味ある症例 (パネル). 第17回 硝子体手術ビデオセミナー「一日でわかる硝子体手術」, 東京, 2018年5月13日.
  32. 井上真: トラブルシューティング (パネル). 第17回 硝子体手術ビデオセミナー「一日でわかる硝子体手術」, 東京, 2018年5月13日.
  33. 北善幸: 意外と身近な緑内障~その診断から治療まで~. 第143回府中市薬剤師会定例研修会, 府中, 2018年5月16日.
  34. 山田昌和: ドライアイの診かた, 考えかた Update. 第6回東海網膜角膜セミナー, 名古屋, 2018年5月17日.
  35. 方雨新, 徐爛, 横井多恵, 篠腹宏成, 平形明人, 岩田岳, 角田和繁, Jost B Jonas, 大野京子: Posterior staphylomas in eyes with retinitis pigmentosa without high myopia. 第2回日本近視学会総会, 大阪, 2018年5月19-20日.
  36. 厚東隆志: Vitrectomy for myopic traction maculopathy and it's imaging. 第2回日本近視学会, 大阪, 2018年5月19-20日.
  37. 厚東隆志: 黄斑円孔網膜剥離で学ぶ強度近視の硝子体手術. 第2回日本近視学会, 大阪, 2018年5月19-20日.
  38. 安藤良将, 北善幸, 高橋洋如, 井上真, 平形明人: 中等度近視眼のコースス内ピットに伴う黄斑剥離の1例. 第2回日本近視学会総会, 大阪, 2018年5月19-20日.
  39. 北善幸: 緑内障診断と治療のトピックス. 東多摩北部眼科医会講演会, 武蔵野, 2018年5月23日.
  40. 松木奈央子: 私の白内障手術について. 第5回EPOの会, 八王子, 2018年5月23日.
  41. 井上真: 術中OCTを駆使した硝子体手術. 第14回OG眼科研究会, 神戸, 2018年5月26日.
  42. 厚東隆志: 近視性牽引黄斑症. 第51回日本眼科講演会東京ブロック講習会, 東京, 2018年5月26日.
  43. 井上真: 術中OCTを駆使した硝子体手術. 第12回四国Eyeランドセミナー, 高松, 2018年6月3日.
  44. 厚東隆志: 最先端のデバイスを使いこなす. Alcon Vit Area Seminar in Hiroshima, 広島, 2018年6月3日.
  45. 山田昌和: PRO (Patient Reported Outcome) を重視したドライアイ診療. 大塚Webセミナー, 東京, 2018年6月13日.
  46. 井上真: 難治症例に対するチャレンジ硝子体手術. 第21回新潟瀧眼科手術研究会, 新潟, 2018年6月16日.
  47. 厚東隆志: 糖尿病網膜症の治療Up Date~DMEを中心に~. 第7回多摩眼科学術セミナー, 東京, 2018年6月16日.
  48. Hirakata A: Surgical Controversies in Vitrectomy for Retinal Detachment: The Debate. Summary and Final Questions. WOC 2018, Spain, June 16th-19th, 2018.
  49. Hirakata A: What is New in Vitreo-retinal Surgery 2018: A Video Symposium. WOC 2018, Spain, June 16th-19th, 2018.
  50. 山田昌和: Tear Film StabilityとTear Film Lipid Layerの関係. 第12回箱根ドライアイクラブ, 小田原, 2018年6月22日.
  51. 加藤悠: 必見! Optos California. Optos Seminar in Tokyo, 東京, 2018年6月23日.
  52. 厚東隆志: 糖尿病網膜症の治療Up Date~DMEを中心に~. 第3回糖尿病眼合併症内科眼科連携研究会, 東京, 2018年6月29日.
  53. 井上真: 眼内炎治療アップデート: JSCRSプラクティス 感染性眼内炎をこう防ごう治す. 第33回JSCRS学術総会教育セミナー, 東京, 2018年7月1日.
  54. 平形明人: ビデオから学ぶ乳頭ピット黄斑症の病態. 硝子体症例研究会, 千葉市, 2018年7月6日.
  55. Inoue M: Intraoperative OCT for myopic macular hole and macular retinal detachment. The 5th Annual Meeting of Asia-Pacific Ocular Imaging Society Kwan Retinal Imaging Symposium, Korea, July 6th-7th, 2018.
  56. 満川忠宏, 鈴木由美, 百田陽介, 鈴木駿, 浜由起子, 山田昌和: 前眼部OCTを用いた調節麻痺剤点眼による前眼部形態への影響. 第74回日本弱視斜視学会総会, 倉敷, 2018年7月6日.
  57. 百田陽介, 鈴木由美, 満川忠宏, 鈴木駿, 久須見有美, 浜由起子, 山田昌和: 屈折異常とOcular biometric componentsの関連について. 第74回日本弱視斜視学会総会, 倉敷, 2018年7月6日.
  58. 平形明人: 網膜硝子体手術の合併症から学ぶ. 第20回網膜ラウンジ, 東京, 2018年7月7日.
  59. Inoue M, Hirakata A: Intraoperative optical coherence tomographic findings may predict postoperative visual outcome in eyes with idiopathic macular hole. The XXXIst Meeting of the Club Jules Gonin, UK, July 11th-14th, 2018.
  60. 山本雅, 重安千花, 久須見有美, 藤井かんな, 千葉知宏, 長濱清隆, 菅間博, 山田昌和: *Scedosporium* による感染性角膜炎の1例. 第56回日本眼感染症学会, 東京, 2018年7月14日.
  61. 重安千花, 久須見有美, 藤井かんな, 山田昌和: コンタクトレンズ非関連の感染性角膜炎の臨床像. 第56回日本眼感染症学会, 東京, 2018年7月15日.
  62. 荒地里江, 利根川美香, 重安千花, 久須見有美, 山田昌和: 多機能トポグラフィを用いたソフトコンタクトレンズ装用者の涙液評価. 第61回日本コンタクトレンズ学会, 東京, 2018年7月15日.
  63. 井上真: 白内障術後眼内炎と硝子体内注射後眼内炎の臨床像. 第3回多摩眼科3Mネットワーク, 東京, 2018年7月18日.
  64. 北善幸: 緑内障診断と治療. 日本点眼研究所社内勉強会, 東京, 2018年7月19日.
  65. Yonekawa Y, Storey P, Tauqeer Z, Wolfe J, Shah S, Shah AR, Koto T, Abbey A, Morizane Y, Wood E, Sharma P, Morizane-Hosokawaka M, Jeng-Miller K, Obeid A, Borkar D, Chen E, Williams P, Inoue M, Shiraga F, Hirakata A, Okada A, Shah C, Prenner J, Todorich B, Garg S: Endophthalmitis rates of prefilled ranibizumab

- syringes compared to conventional ranibizumab vials: an international multicenter study. Annual Meeting of the American Society of Retina Specialists, Canada, July 20th-25th, 2018.
66. Inoue M: 27-gauge vitrectomy for proliferative diabetic retinopathy.(3D video)Annual Meeting of the American Society of Retina Specialists, Canada, July 20th-25th, 2018.
  67. El-Rayes, Awh C, Claes C, Garcia Arumi J, Inoue M, Kadosono K, packo K, Rezaei K, Rizzo S, Sabiti K: Vitreoretinal Surgical Techniques: (How Do I Do It?) 3D Video Panel. Instruction course. Annual Meeting of the American Society of Retina Specialists, Canada, July 20th-25th, 2018.
  68. 井上真: 網膜下出血に対する外科的治療. 第1回Okinawa Retina Summer Meeting, 那覇, 2018年7月28日.
  69. 慶野博: ぶどう膜炎診療アップデート. 第6回順天堂大学浦安眼科サマーセミナー, 浦安, 2018年8月1日.
  70. 慶野博: ベーチェット病難治性ぶどう膜炎のマネージメント ~インフリキマブを中心に~. Infliximab User's Meeting in TOHOKU, 福島, 2018年8月1日.
  71. 北善幸: おさえておこう! 緑内障診断と治療のコツ. アルコンファーマ ウェブシンポジウム, 武蔵野, 2018年8月22日.
  72. 北善幸: PPG? 緑内障なの? 多摩地区緑内障勉強会 AYR 2018, 立川, 2018年9月1日.
  73. 井上真: 薬物療法時代の硝子体手術. DME治療における私のこだわり~Medical? Surgical?~, 大阪, 2018年9月9日.
  74. Storey P, Tauqeer Z, Todorich B, Wolfe J, Shah S, Shah AR, Koto T, Abbey A, Morizane Y, Wood E, Sharma P, Wood E, Morizane-Hosokawaka M, Harkey S, Jeng-Miller K, Obeid A, Borkar D, Chen E, Williams P, Okada A, Inoue M, Shiraga F, Hirakata A, Shah C, Prenner J, Yonekawa Y, Garg S: Prefilled ranibizumab syringes and endophthalmitis following intravitreal injection. The 51st Annual Scientific Meeting of the Retina Society, USA Sept 12th-15th, 2018.
  75. 平形明人: 血管新生緑内障; 網膜硝子体専門医のStandpoint. 第29回日本緑内障学会, 新潟, 2018年9月14-16日.
  76. 北善幸: MIGSと360度隅角カラー撮影画像. 第29回日本緑内障学会, 新潟, 2018年9月14-16日.
  77. 齋藤恒浩, 北善幸, 村井顕子, 五月女典久, 角田和繁, 平形明人: 網膜電位計RETevalを用いて測定した photopic negative responseによる緑内障の診断力. 第29回日本緑内障学会, 新潟, 2018年9月14-16日.
  78. 新井千賀子, 鈴木由美, 浜由起子, 満川忠宏, 尾形真樹, 小田浩一, 平形明人: 小児のロービジョンケアのニーズ. 第27回視覚障害リハビリテーション研究発表大会, 神戸, 2018年9月14日.
  79. Kato Y, Inoue M, Itoh Y, Hirota K, Koto T, Kita Y, Hirakata A: The impact of glycemic control and renal function on surgical outcomes of 25-gauge vitrectomy for proliferative diabetic retinopathy. Austlia, September 20th -23rd, 2018.
  80. Kubo S, Inoue M, Kato Y, Keino H, Okada AA, Hirakata A: A case of uveal effusion syndrome treated by vitrectomy with sclerostomy. Euroretina 2018 Congress. Austlia, September 20th-23rd, 2018.
  81. Kusumi Y, Matsuki N, Inoue M, Yamamoto A, Okada AA, Hirakata A: Evaluation of cataract surgery complications in eyes that have undergone intravitreal injections for age-related macular degeneration. European Society of Cataract and Refractive Surgery. Austlia, September 22nd-26th, 2018.
  82. 安藤良将, 北善幸: 眼虚血症候群によるNVGにアームド緑内障バルブが有効であった1例. 17th Tokyo Glaucoma Retina Joint Conference, 東京, 2018年9月26日.
  83. 厚東隆志: 最先端のデバイスを使いこなす. Alcon VRA Training 2018, 東京, 2018年10月1日.
  84. 加藤悠: 球後麻酔で眼球穿孔をきたした1例と最近の硝子体手術麻酔のトレンド. 第39回ビト研, 東京, 2018年10月5日.
  85. 平形明人: 網膜剥離・網膜分離の治療と課題. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  86. 平形明人: Scleral imbrication for the treatment of myopic traction maculopathy. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  87. 高橋寛二, 大路正人, 岡田アナベルあやめ, 寺野泰弘, 小林正人: Use of intravitreal aflibercept treat-and-extend dosing for wAMD: ALTAIR results. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  88. 山田昌和: コンタクトレンズ不耐症. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  89. 井上真: 強度近視眼における硝子体手術併用強膜短縮術の3次元MRIでの評価. 黄斑疾患の治療: 未来に向けてのパラダイムシフト. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11日.
  90. 井上真: みんなの硝子体手術「黄斑円孔」. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  91. 井上真: Cutting-edgeテクノロジー「術中OCTを使いこなす ZEISS顕微鏡のABC まだまだあります, 使いこなすコツ」第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  92. 井上真: 黄斑上膜を伴うDMEへの初期治療は「硝子体手術」. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  93. 厚東隆志: レーザービトレオライシス安全管理と事故防止を目指して. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  94. 厚東隆志: 硝子体の低侵襲手術. 専門医制度第68回講習会, 第72回日本臨床眼科学会総会, 東京, 2018年10月11-14日.
  95. 佐藤尚人, 向後二郎, 米田一仁, 大澤俊介, 平形明人 (インストラクションコース): 硝子体手術クエスチョンバンク Vol.1. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  96. 佐野公彦, 北善幸, 齋藤恒浩, 村井顕子, 五月女典久, 平形明人: 増殖糖尿病網膜症に伴う血管新生緑内障に対するアームド緑内障バルブ手術の検討. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  97. 中山真紀子, 慶野博, 安藤良将, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: 超広角眼底撮影による原田病急性期の眼底造影所見の検討. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  98. 平塚義宗, 川崎良, 小野浩一, 山田昌和, 山下英俊: 眼科医のための臨床研究デザイン塾3, 入研究をやってみよう. 第72回日本臨床眼科学会, 東京, 2018年10月11-14日.
  99. 北善幸: 血管新生緑内障に対してロングチューブシャント手術を施行する際の工夫. 緑内障チューブの会, 東京, 2018年10月12日.
  100. 井上真: 折りたたまれた網膜は?. 第52回RETINAの会, 東京, 2018年10月13日.
  101. Okada AA: "Differential diagnosis of posterior uveitis" lecture for residents, USA, October 19th, 2018.
  102. Okada AA: "Imaging in Uveitis," James T. Rosenbaum Lecture, USA, October 19th, 2018.
  103. 平形明人: 増殖糖尿病網膜症治療の進歩とチーム医療. 第24回日本糖尿病眼科学会総会・第33回日本糖尿病合併症学会, 東京, 2018年10月19-20日.

104. 厚東隆志: ロービジョンケアを窓口とする多職種連携. 第24回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2018年10月19-20日.
105. 伊藤大, 安藤良将, 北善幸, 佐野公彦, 森田奈瑠, 河野浩之, 井上真, 石田均, 平野照之, 平形明人: 網膜動脈閉塞症における頸動脈病変の検討. 第24回日本糖尿病眼学会, 東京, 2018年10月19-20日.
106. 厚東隆志: 糖尿病で目が見えなくなる!? 知っておきたい網膜症のこと. 杏林大学公開講演会, 三鷹, 2018年10月27日.
107. 山田昌和: 涙液と環境要因によるドライアイ. アイケアセミナー・イン東京, 東京, 2018年10月27日.
108. Hirakata A, Lai T, Cheung G, Ohno-Matsui K: Updates of Pathologic Myopia. American Academy of Ophthalmology 2018, USA, October.27th-30th, 2018.
109. 井上真: 術中OCT併用硝子体手術. 第3回山口レチナフォーラム, 山口, 2018年11月1日.
110. 北善幸: 最近の緑内障手術について. 千寿製薬社外講師勉強会, 三鷹, 2018年11月1日.
111. Okada AA: Imaging in Uveitis. Uveitis Symposium, 120th Annual Meeting of the Korean Ophthalmological Society, Korea, November 3rd, 2018.
112. 岡田アナベルあやめ: Medical Retinaとぶどう膜炎における生物学製剤療法: 眼科治療の未来. 第76回筑波TOC・第19回茨城県眼科医会フォーラム, つくば, 2018年11月5日.
113. 井上真: 症例から学ぶ硝子体手術「出会いはずっと突然に」. 第20回眼科手術寺子屋～硝子体手術を指す皆さんへ～, 東京, 2018年11月8日.
114. 井上真: 網膜硝子体手術update. 第61回東京多摩地区眼科集談会, 三鷹, 2018年11月10日.
115. 矢田長洋, 佐野公彦, 山田健司, 厚東隆志, 廣田和成, 伊東裕二, 井上真, 平形明人: 当院での裂孔原性網膜剥離の検討. 第61回東京多摩地区眼科集談会, 三鷹, 2018年11月10日.
116. 厚東隆志: 近視性牽引黄斑症のサージカルマネージメント. 第25回MICの会, 東京, 2018年11月12日.
117. 井上真: 中OCT併用硝子体手術. 第13回Nagasaki Ophthalmic Club, 長崎, 2018年11月16日.
118. 平形明人: 緑内障に合併する黄斑分離様所見と治療. 第8回札幌OCTセミナー, 札幌, 2018年11月18日.
119. 久須見有美, 重安千花, 松本杏奈, 藤井かんな, 山田昌和: 杏林アイセンターの感染性角膜炎の現状. 第20回西東京眼科フォーラム, 東京, 2018年11月21日.
120. 井上真: 中OCT併用硝子体手術. 静岡網膜硝子体セミナー, 沼津, 2018年11月22日.
121. 北善幸: 緑内障診断と治療のコツ. 第11回横須賀市眼科医会学術講演会, 横須賀, 2018年11月27日.
122. 井上真: SHARKSKIN使ってみました. 第23回信濃町網膜研究会, 東京, 2018年11月30日.
123. Kou R, Nakayama M, Okada AA, Shiramizu K, Hirakata A: Case report. 第3回Capital Retina Club, 東京, 2018年11月30日.
124. Yata N, Keino H, Okada AA, Hirakata A: Case presentation. 第3回Capital Retina Club, 東京, 2018年11月30日.
125. 山田昌和: ドライアイの診かた, 考えかた Update. 第181回宮崎県眼科医会講習会, 宮崎, 2018年12月1日.
126. Ohnaka M, Okada AA, Ohji M, Terano Y, Kobayashi M, Takahashi K, on behalf of ALTAIR investigators: Intravitreal aflibercept treat and extend dosing for wAMD: ALTAIR 96-week results. 第57回日本網膜硝子体学会, 京都, 2018年12月7-9日.
127. 岡田アナベルあやめ: 日本のAMD治療の現状と課題. 第57回日本網膜硝子体学会, 京都, 2018年12月7-9日.
128. 井上真: 進化する硝子体プローブ、何を選ぶ? 「手術デバイス、こだわりの選択」. 第57回日本網膜硝子体学会総会, 京都, 2018年12月7-9日.
129. 井上真: 網膜硝子体疾患の基本的治療戦略—From Surgical & Medical side—. PDRに対する硝子体手術の合併症とその予防. 第57回日本網膜硝子体学会総会, 京都, 2018年12月7-9日.
130. 山田健司, 佐野公彦, 井上真, 伊東裕二, 廣田和成, 厚東隆志, 平形明人: 当院での裂孔原性網膜剥離の再手術例の検討. 第57回日本網膜硝子体学会総会, 京都, 2018年12月7-9日.
131. 山田昌和: 角結膜疾患の薬物治療. 第70回愛媛県眼科集談会, 松山, 2018年12月9日.
132. Hirakata A: Should you perform vitrectomy or macular buckle for myopic traction maculopathy?. The 12th Congress of Asia-Pacific Vitreo-retina Society, Korea, December 14th-16th, 2018.
133. Hirakata A: Optic disc pit macular syndrome. The 12th Congress of Asia-Pacific Vitreo-retina Society, Korea, December 14th-16th, 2018.
134. Inoue M: Retinal detachment in highly myopic eyes. The 12th Congress of Asia-Pacific Vitreo-retina Society, Korea, December 14th-16th, 2018.
135. Uchida S, Inoue M, Koto T: Vitrectomy with subretinal injection of tissue plasminogen activator for massive subretinal hemorrhage. The 12th Congress of Asia-Pacific Vitreo-retina Society, Korea, December 14th-16th, 2018.
136. 平形明人: 近視性牽引性黄斑症の治療について. OTSUKA OPHTHALMOLOGY VIDEO LIVE TVフォーラム第2報, 東京, 2019年1月10日.
137. 厚東隆志: 消えたEPの謎. 第3回 VR Network, 東京, 2019年1月18日.
138. 中山真紀子: 杏林アイセンター黄斑外来の現状. 第3回AMD連携プログラム, 三鷹, 2019年1月24日.
139. 井上真: 術中OCTを駆使した硝子体手術. 第30回千葉臨床眼科フォーラム, 幕張, 2019年1月26日.
140. 北善幸: おさえておこう! 緑内障診断のコツ. 第36回長野県眼科フォーラム, 長野, 2019年1月26日.
141. 慶野博: ぶどう膜炎の薬物療法アップデート. 第19回眼炎症セミナー, 博多, 2019年2月2日.
142. 井上真: TREND from PAT survey 2018. Bayer講演会, いわき, 2019年2月5日.
143. 安藤良将, 重安千花, 久須見有美, 吉池信哉, 千葉知宏, 柴原純二, 山田昌和: Cogan's microcystic epithelial dystrophyの1例. 第43回日本角膜炎学会総会, 京都, 2019年2月8日.
144. 黄例穎, 重安千花, 久須見有美, 藤井かんな, 山田昌和: アマンタジンにより不可逆性の角膜内皮障害を生じた2例. 第43回日本角膜炎学会総会, 京都, 2019年2月8日.
145. 久須見有美, 重安千花, 松本杏奈, 藤井かんな, 山田昌和: アカントアメーバによる強角膜炎の2例. 第43回日本角膜炎学会総会, 京都, 2019年2月8日.
146. Inoue M: Surgical outcome of vitrectomy for full thickness macular hole with macular dehiscence-associated epiretinal proliferation. Vail Vitrectomy meeting, USA, February 9th-13th, 2019.
147. Koto T: Quantification of Physical Burden of 3D Heads-Up Surgery. Vail Vitrectomy meeting, USA, February 9th-13th, 2019.
148. 井上真: 眼底疾患 —見逃さないためのポイント—. 眼疾患の危険水域 —紹介のタイミングを逃さないために—. 第76回生涯教育講座, 東京, 2019年2月17日.
149. 北善幸: 再確認! 緑内障診断と治療. 第5回城西武蔵野眼科講演会, 東京, 2019年2月20日.

150. 岡田アナベルあやめ: Imaging in Uveitis. 第8回富山ぶどう膜炎治療研究会, 富山, 2019年2月22日.
151. 厚東隆志: 近視性牽引黄斑症のサージカルマネージメント. 第7回福岡Retina club, 福岡, 2019年2月22日.
152. 井上真: 網膜硝子体手術の進歩. あぼし眼科勉強会, 姫路, 2019年2月23日.
153. 厚東隆志: ベーシック糖尿病網膜症. 東多摩ロービジョンケアセミナー, 東京, 2019年2月27日.
154. 慶野博: 症例報告. 第39回ぶどう膜炎カンファレンス, 東京, 2019年3月1日.
155. 厚東隆志: 近視性牽引黄斑症のサージカルマネージメント. ROOKIES RETINA CLUB, 徳島, 2019年3月2日.
156. Nagai Y, Okada AA, Ohji M, Terano Y, Kobayashi M, Takahashi K, on behalf of ALTAIR investigators: Intravitreal aflibercept treat-and-extend dosing for wet age-related macular degeneration: ALTAIR 96-week results. the 34th Congress of Asia-Pacific Academy of Ophthalmology, Thailand, March 6th-9th, 2019.
157. Inoue M: What's new on Myopic Maculopathy Surgery. What's New for Macular Surgery. the 34th Congress of Asia-Pacific Academy of Ophthalmology, Thailand, March 6th-9th, 2019.
158. Inoue M: Intraoperative OCT. State-of-the-art Tips and Tricks. the 34th Congress of Asia-Pacific Academy of Ophthalmology, Thailand, March 6th-9th, 2019.
159. Kita Y, Hirakata A, Murai A, Saito T: Ability of RETeval-Determined Photopic Negative Response to Diagnose Glaucoma. the 34th Congress of Asia-Pacific Academy of Ophthalmology, Thailand, March 6th-9th, 2019.
160. Sano M, Kita Y: Ahmed glaucoma valve implantation for neovascular glaucoma associated with proliferative diabetic retinopathy. the 34th Congress of Asia-Pacific Academy of Ophthalmology, Thailand, March 6th-9th, 2019.
161. 北善幸: OCTの視神経乳頭解析を用いた緑内障の経過観察. 第52回東京緑内障談話会, 東京, 2019年3月9日.
162. Okada AA: Intravitreal aflibercept treat-and-extend dosing for wet age-related macular denegeration: ALTAIR 96-week results. Vision Academy General Meeting, the Netherlands, March 16th, 2019.
163. 山田昌和: コンタクトレンズとオキュラーサーフェス. 札幌眼科集談会, 札幌, 2019年3月16日.
164. 平形明人: 網膜剥離・網膜分離の治療と課題(臨眼特別講演から). 新・眼科診療アップデートセミナー2019 in Kyoto, 京都, 2019年3月24日.
165. 井上真: 眼底疾患—見逃さないためのポイント—. 眼疾患の危険水域 —紹介のタイミングを逃さないために—. 第76回生涯教育講座, 福岡, 2018年3月31日.
3. Takahashi H, Inoue M, Koto T, Itoh Y, Hirota K, Hirakata A: Inverted internal limiting membrane flap technique for treatment of macular hole retinal detachment in highly myopic eyes. *Retina* 38:2317-2326, 2018.
4. Xu X<sup>1,2</sup>, Fang Y<sup>1</sup>, Yokoi T<sup>1</sup>, Shinohara K<sup>1</sup>, Hirakata A, Iwata T<sup>3</sup>, Tsunoda K<sup>4</sup>, Jonas JB<sup>5</sup>, Ohno-Matsui K<sup>1</sup> (1Tokyo Medical and Dental University, 2Shanghai General Hospital, Shanghai Jiaotong University, 3National Hospital Organization Tokyo Medical Center, 4National Hospital Organization Tokyo Medical Center, 5Medical Faculty Mannheim of the Ruprecht-Karls-University of Heidelberg): Posterior staphylomas in eyes with retinitis pigmentosa without high myopia. *Retina*. 2018 doi: 10.1097/IAE.0000000000002180. [Epub ahead of print]
5. Kita Y, Holló G<sup>1</sup>, Murai A, Kita R, Saito T, Hirakata A (1Semmelweis University): Circumpapillary structure-function relationships with microperimetry and spectral domain optical coherence tomography in glaucoma: a pilot study. *Clin Ophthalmol* 12: 2535-2544, 2018.
6. Kurimori HY<sup>1</sup>, Inoue M, Hirakata A (1Santa Casa de São Paulo Medical School): Adjustments of haptics length for tilted intraocular lens after intrascleral fixation. *Am J Ophthalmol Case Rep*10:180-184, 2018.
7. Takahashi H<sup>1</sup>, Inoue M, Itoh Y, Koto T, Hirota K, Kita Y, Hirakata A (1 Tokyo Medical and Dental University, Graduate School of Medical and Dental Sciences): Macular dehiscence-associated epiretinal proliferation in eyes with full-thickness macular hole. *Retina*. 2018 doi: 10.1097/IAE.0000000000002366. [Epub ahead of print]
8. Ogasawara M<sup>1</sup>, Koizumi H<sup>2</sup>, Yamamoto A, Itagaki K<sup>1</sup>, Saito M<sup>1</sup>, Maruko I<sup>2</sup>, Okada AA, Iida T<sup>2</sup>, Sekiryu T<sup>1</sup>(1Department of Ophthalmology, Fukushima Medical University, 2Department of Ophthalmology, Tokyo Women's Medical University): Prognostic factors after aflibercept therapy for typical age-related macular degeneration and polypoidal choroidal vasculopathy. *Jpn J Ophthalmol* 62:584-591, 2018.
9. Aiso T<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>2</sup>, Ueda M<sup>1</sup>, Karita S<sup>3,4</sup>, Yokoyama T<sup>5</sup>, Takata S, Matsuki N, Kondo H<sup>6</sup>, Takizawa H<sup>5</sup>, Okada AA, Watanabe T<sup>2</sup>, Ohnishi H<sup>2</sup> (1Department of Medical Technology, Kyorin University School of Medicine, 2 Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, 3Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University School of Medicine, 4Department of Thoracic Surgery, JR Tokyo General Hospital, 5Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Serum levels of candidate mRNA diagnostic markers differ among the stages of non-small-cell lung cancer. *Oncol Lett* 16:6643-6651, 2018.
10. Rodriguez FJ<sup>1,2</sup>, Staurenghi G<sup>3</sup>, Gale R<sup>4,5</sup>(1Fundación Oftalmológica Nacional, 2Department of Ophthalmology, University of Rosario School of Medicine, 3University Eye Clinic, Department of Biomedical and Clinical Sciences 'Luigi Sacco', University of Milan, 4Department of Ophthalmology, York Teaching Hospital NHS Foundation Trust, 5Department of Health Sciences, University of York) Vision Academy Steering Committee (including Okada AA): The role of OCT-A in retinal disease management. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 256:2019-2026, 2018.
11. Keino H, Horie S<sup>1</sup>, Sugita S<sup>2</sup>(1Department of Ophthalmology and Visual Science, Tokyo Medical and

## 論文

1. Terasaki H<sup>1</sup>, Ogura Y<sup>2</sup>, Kitano S<sup>3</sup>, Sakamoto T<sup>4</sup>, Murata T<sup>5</sup>, Hirakata A, Ishibashi T<sup>6</sup>(1Nagoya University Graduate School of Medicine, 2Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, 3Tokyo Women's Medical University, 4Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, 5Shinshu University School of Medicine, 6Kyushu University Hospital): Management of diabetic macular edema in Japan: a review and expert opinion. *Jpn J Ophthalmol* 62:1-23, 2018.
2. Yokota R<sup>1</sup>, Hirakata A, Hayashi N, Hirota K, Rii T, Itoh Y, Orihara T, Inoue M(1Satsukikai Suzaki Kuroshio Hospital): Ultrastructural analyses of internal limiting

- Dental University Graduate School of Medical and Dental Sciences, <sup>2</sup>Laboratory for Retinal Regeneration, Center for Developmental Biology, Riken, Kobe): Immune Privilege and Eye-Derived T-Regulatory Cells. *J Immunol Res* 1679197, 2018. Doi: 10.1155/2018/1679197.
12. Shigeyasu C, Yamada M, Akune Y<sup>1</sup>, Fukui M<sup>1</sup> (National Tokyo Medical Center): The Effect of Rebamipide Ophthalmic Suspension on Ocular Surface Mucins in Soft Contact Lens Wearers. *Contact Lens Ant Eye* 41:357-361, 2018.
  13. Shigeyasu C, Yamada M, Aoki K<sup>1</sup>, Ishii Y<sup>1</sup>, Tateda K<sup>1</sup>, Yaguchi T<sup>2</sup>, Okajima Y<sup>1</sup>, Hori Y<sup>1</sup> (Toho University, <sup>2</sup>Chiba University): Metagenomic Analysis for Detecting *Fusarium solani* in a Case of Fungal Keratitis. *J Infect Chemother* 24:664-668, 2018.
  14. Vu CHV<sup>1</sup>, Kawashima M<sup>1</sup>, Yamada M, Suwaki K<sup>2</sup>, Uchino M<sup>1</sup>, Shigeyasu C, Hiratsuka Y<sup>3</sup>, Yokoi N<sup>4</sup>, Tsubota K<sup>1</sup>: Dry Eye Cross-Sectional Study in Japan Study Group (Keio University, <sup>2</sup>Santen Pharmaceutical Company, <sup>3</sup>Juntendo University, <sup>4</sup>Kyoto Prefectural University): Influence of Meibomian Gland Dysfunction and Friction-Related Disease on the Severity of Dry Eye. *Ophthalmology* 125:1181-1188, 2018.
  15. Niihata K<sup>1</sup>, Fukuma S<sup>1</sup>, Hiratsuka Y<sup>2</sup>, Ono K<sup>2</sup>, Yamada M, Sekiguchi M<sup>1</sup>, Otani K<sup>1</sup>, Kikuchi S<sup>1</sup>, Konno S<sup>1</sup>, Fukuhara S<sup>3</sup> (Fukushima Medical University, <sup>2</sup>Juntendo University, <sup>3</sup>Kyoto University): Association between vision-specific quality of life and falls in community-dwelling older adults: LOHAS. *PLoS One* 13:e0195806, 2018.
  16. Nagamoto T<sup>1</sup>, Mizuno Y<sup>1</sup>, Shigeyasu C, Fukui M<sup>1</sup>, Yamada M (National Tokyo Medical Center): Conjunctival eosinophilic masses with chronic eosinophilic pneumonia. *Cornea* 37:1326-1327, 2018.
  17. Akune Y<sup>1</sup>, Yamada M, Shigeyasu C (National Tokyo Medical Center): Determination of 5-Fluorouracil and Tegafur in Tear Fluid of Patients Treated with Oral Fluoropyrimidine Anticancer Agent, S-1. *Jpn J Ophthalmol* 62:432-437, 2018.
  18. Kato M<sup>1</sup>, Nitta K<sup>1</sup>, Kano Y<sup>1</sup>, Yamada M, Ishii N<sup>2</sup>, Hashimoto T<sup>2</sup>, Ohyama M<sup>1</sup> (Department of Dermatology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Dermatology, Kurume University School of Medicine): Case of phenylephrine hydrochloride-induced periorbital contact dermatitis with fulminant keratoconjunctivitis causing pseudomembrane formation. *J Dermatol* 45:e27-e28, 2018.
  19. Inoue S<sup>1</sup>, Kawashima M<sup>1</sup>, Hiratsuka Y<sup>2</sup>, Nakano T<sup>3</sup>, Tamura H<sup>4</sup>, Ono K<sup>2</sup>, Murakami A<sup>2</sup>, Tsubota K<sup>1</sup>, Yamada M (Keio University, <sup>2</sup>Juntendo University, <sup>3</sup>Jikei University, <sup>4</sup>Kyoto University): Assessment of physical inactivity and locomotor dysfunction in adults with visual impairment. *Sci Rep* 8:12032, 2018. Doi: 10.1038/s41598-018-30599-z.
  20. Shigeyasu C, Yamada M, Kawashima M<sup>1</sup>, Suwaki K<sup>2</sup>, Uchino M<sup>1</sup>, Hiratsuka Y<sup>3</sup>, Yokoi N<sup>4</sup>, Tsubota K<sup>1</sup> (Keio University, <sup>2</sup>Santen Pharmaceutical Company, <sup>3</sup>Juntendo University, <sup>4</sup>Kyoto Prefectural University): Quality of Life Measures and Health Utility Values among Dry Eye Subgroups. *Health Qual Life Outcomes* 16:170, 2018.
  21. Yaginuma S, Akune Y<sup>1</sup>, Shigeyasu C, Takano Y<sup>2</sup>, Yamada M (National Tokyo Medical Center, <sup>2</sup>Kawasaki Municipal Ida Hospital): Tear Protein Analysis in Presumed Congenital Alacrima. *Clin Ophthalmol* 12:2591-2595, 2018.
  22. 平形明人: 乳頭ビット黄斑症候群の診断と治療. 7年前の常識は現在の非常識! 臨床眼科増刊号: 250-255, 2018.
  23. 平形明人: 全身疾患に関係する眼科検査. 杏林医学会誌 49: 241-248, 2018.
  24. 山田昌和: 眼瞼下垂と眼球運動障害. 杏林医学会誌 49: 249-252, 2018.
  25. 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: 膠原病の眼合併症. 杏林医学会誌 49: 253-257, 2018.
  26. 井上真: 糖尿病の眼症状. 杏林医学会誌 特集 49: 259-263, 2018.
  27. 厚東隆志: 網膜血管疾患と全身病. 杏林医学会誌 特集 49: 265-268, 2018.
  28. 平形明人: 杏林アイセンターのロービジョン外来. 特集ロービジョンケアの過去・未来. あたらしい眼科35: 587-594, 2018.
  29. 岡田アナベルあやめ (編集): 加齢性疾患への対応Q&A. あたらしい眼科35: 2018.
  30. 山田昌和: 成人眼科検診の有用性, 実施可能性に関する研究. 医療情報学38: 166-167, 2018.
  31. 山田昌和: 結膜隆起病変. 眼科 60(増刊): 1201-1206, 2018.
  32. 山田昌和: 角膜障害をきたす全身薬. あたらしい眼科35: 1335-1338, 2018.
  33. 山田昌和: 白内障手術が高齢者のQOLに与える効果について教えてください. あたらしい眼科 35 (増刊): 174-177, 2018.
  34. 山田昌和: ドライアイと粘膜炎移行部. あたらしい眼科 35: 1661-1662, 2018.
  35. 慶野博: 生物学的製剤の使い方.ぶどう膜炎・強膜炎. 7年前の常識は現在の非常識!眼科診療の最新標準. 臨床眼科増刊号 72:290-294, 2018.
  36. 厚東隆志: 網膜・硝子体疾患手術手技バックリング手術. 7年前の常識は現在の日常識-眼科診療の最新標準. 臨床眼科増刊号 72:263-266, 2018.
  37. 慶野博: 前房内炎症.所見からみた診断の進め方. 主訴と所見からみた眼科common disease 眼科増刊号 60:1123-1129, 2018.
  38. 厚東隆志: 飛蚊症治療の最近の考え方.眼科 60: 817-823, 2018.
  39. 重安千花, 山田昌和: コンタクトレンズ装用とドライアイ. あたらしい眼科35: 899-905, 2018.
  40. 重安千花, 山田昌和: フザリウム眼感染症. 感染48: 216-220, 2018.
  41. 加藤悠: 保存版 超広角でみる眼底病変 診断のポイント, 超広角眼底カメラその利点と活用. 眼科グラフィック 7:692-698, 2018.
  42. 加藤悠, 厚東隆志: 眼科領域の最先端・近未来可視化手術, 3Dデジタル映像システムを用いたHeads-up Surgery. あたらしい眼科36:343-349, 2018.
  43. 望月司, 鴫沢亮, 佐野公彦, 江本宣暢, 折原唯史, 北善幸, 伊東裕二, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 岡田アナベルあやめ, 平形明人: 硝子体手術を施行した硝子体内注射後眼内炎の臨床的特徴と経過. 日眼会誌122: 912-919, 2018.
  44. 久保さえ子, 厚東隆志, 加藤悠, 井上真, 平形明人, 石田均<sup>1</sup> (杏林大・医・糖代謝内科学): 増殖糖尿病網膜症治療中に両眼の網膜中心動脈閉塞症を合併した一例. 眼科 60:851-856, 2018.
  45. 加藤悠, 厚東隆志: 眼内レンズ縫着術. 眼内レンズ偏位・脱臼に対する手術-最新版. 臨床眼科 増刊号 73:158-163, 2018.
  46. 山本雅, 重安千花, 久須見有美, 藤井かんな, 千葉知宏<sup>1</sup>, 長濱清隆<sup>1</sup>, 菅間博<sup>1</sup>, 山田昌和 (杏林大・医・病理学):

- ハードコンタクトレンズ装用者におけるScedosporium属による感染性角膜炎の1例. あたらしい眼科36 : 87-91, 2019.
47. 井上賢治<sup>1,2</sup>, 平塚義宗<sup>1,3</sup>, 加藤聡<sup>4</sup>, 小野眞史<sup>5</sup>, 久米川浩一<sup>6</sup>, 齋藤雄太<sup>7</sup>, 崎元暢<sup>8</sup>, 篠崎和美<sup>9</sup>, 須賀沈希<sup>10</sup>, 野田知子<sup>11</sup>, 野田実香<sup>12</sup>, 平形明人, 堀裕一<sup>13</sup>, 溝田淳<sup>14</sup>, 平山信隆<sup>1,15</sup>, 福田敏雅<sup>1,16</sup>, 福下公子<sup>1,17</sup>, 山口達夫<sup>1,18</sup> (1東京都眼科医会, 2井上眼科病院, 3順天堂大, 4東京大, 5日本医科大, 6東京慈恵会医科大, 7昭和大, 8日本大, 9東京女子医科大, 10東京医科歯科大, 11東京医科大, 12慶応義塾大, 13東邦大, 14帝京大, 15平山眼科医院, 16福田眼科医院, 17鳥山眼科医院, 18新橋眼科): 東京版スマートサイト「東京都ロービジョンケアネットワーク」の作成. 眼臨紀12:10-15,2019.
  48. Kita Y, Holló G<sup>1</sup>, Murai A, Kita R, Hirakata A (1Simmelweis University): Optical coherence tomography angiography findings of an optic disc melanocytoma in a glaucoma eye. *Int Ophthalmol* 39:677-682, 2019.
  49. Kita Y, Holló G<sup>1</sup>, Saito T, Murai A, Kita R, Hirakata A (1Simmelweis University): Circumpapillary microperimetry to detect glaucoma: a pilot study for sector-based comparison to circumpapillary retinal nerve fiber layer measurement. *Int Ophthalmol* 39:127-136, 2019.
  50. Storey PP<sup>1</sup>, Tauqeer Z<sup>2</sup>, Yonekawa Y<sup>2</sup>, Todorich B<sup>3</sup>, Wolfe JD<sup>4</sup>, Shah SP<sup>5</sup>, Shah AR<sup>6</sup>, Koto T, Abbey AM<sup>7</sup>, Morizane Y<sup>8</sup>, Sharma P<sup>9</sup>, Wood EH<sup>4</sup>, Morizane-Hosokawa M<sup>8</sup>, Pendri P<sup>5</sup>, Pancholy M<sup>1</sup>, Harkey S<sup>6</sup>, Jeng-Miller KW<sup>2</sup>, Obeid A<sup>1</sup>, Borkar DS<sup>1</sup>, Chen E<sup>6</sup>, Williams P<sup>7</sup>, Okada AA, Inoue M, Shiraga F<sup>8</sup>, Hirakata A, Shah CP<sup>9</sup>, Prenner J<sup>5</sup>, Garg S<sup>10</sup>; for the; Post-Injection Endophthalmitis (PIE) Study Group.( 1Wills Eye Hospital, Thomas Jefferson University, 2Harvard Medical School, 3Pennsylvania Retina Specialists, 4Oakland University William Beaumont School ofMedicine, 5Rutgers Robert Wood Johnson Medical School, 6Blanton Eye Institute, 7Texas Retina Associates, 8Okayama University Medical School, 9Tufts University School of Medicine, 10Mid Atlantic Retina, Wills Eye Hospital, Thomas Jefferson University): The impact of prefilled syringes on endophthalmitis following intravitreal injection of Ranibizumab. *Am J Ophthalmol* 199: 200-208, 2019.
  51. Kunita D, Inoue M, Koto T, Hirakata A: Retinal detachment associated with peripapillary staphylocoma imaged with swept source optical coherence tomography. *Retin Cases Brief Rep*13:25-29,2019.
  52. Nakayama M, Keino H, Watanabe T, Okada AA: Clinical features and visual outcomes of 111 patients with new-onset acute Vogt-Koyanagi-Harada disease treated with pulse intravenous corticosteroids. *Br J Ophthalmol* 103:274-278, 2019.
  53. Ando Y, Keino H, Nakayama M, Watanabe T, Okada AA: Clinical Features, Treatment, and Visual Outcomes of Japanese Patients with Posterior Scleritis. *Ocul Immunol Inflamm* 26:1-8, 2019. [Epub ahead of print]
  54. Watanabe T, Keino H, Nakayama K, Taki W, Echizen N<sup>1</sup>, Okada AA(1Department of Ophthalmology, St Luke's International Hospital): Clinical features of patients with diabetic anterior uveitis. *Br J Ophthalmol* 103:78-82, 2019.
  55. 山田昌和: 全身薬による眼障害、最近の話題から。東京都眼科医会246 : 2-6, 2019.
  56. 山田昌和: 全身薬による角膜障害。眼科61 : 119-123, 2019.
  57. 山田昌和: 結膜弛緩症。眼科グラフィック8 : 132-137, 2019.
  58. 北善幸: 緑内障診断のためのOCT読影。2, 黄斑部内層厚の評価。眼科 61 : 9-20, 2019.
  59. 重安千花<sup>1</sup>, 中島貴友<sup>1, 2</sup>, 慶野博, 池田佳介<sup>1,3</sup>, 山根みお<sup>3</sup>, 堀江大介, 朝戸裕<sup>1</sup>, 山田昌和 (1国立療養所多磨全生園, 2帝京大学視能矯正学科, 3慶應義塾大学院眼科学教室): Hansen病における眼後遺症と視機能障害の現状。日眼会誌123:51-57,2019.
- 著書**
1. Okada AA (分担執筆): Behçet's disease. In: *Ophthalmology, Fifth edition, M Yanoff, J Duker (eds.), Elsevier, London, 2018. p760-763.*
  2. 山田昌和 (分担執筆): ドライアイ判定基準. 図説コンタクトレンズ完全攻略, 小玉裕司編. メディカル葵出版, 2018. p 19-25.
  3. 山田昌和 (分担執筆): 点状表層角膜症ほか. 眼科疾患最新の治療2019-2021. 大橋裕一, 村上晶編. 南江堂, 2019. p 49-51.
  4. 井上真 (分担執筆): 眼底出血. 今日の治療指針2019. 医学書院, 2019. p1520-1521.
  5. 井上真 (分担執筆): 網膜細動脈瘤. 眼科疾患の最新治療2019-2021. 南江堂, 2019. p 243-244.
  6. 井上真 (電子メディア): Surgery: Vitrectomy with foveal sparing ilm peeling and cataract surgery for myopic retinoschisis. *Orbis Cybersight* (<https://cybersight.org/portfolio/surgery-vitrectomy-with-foveal-sparing-ilm-peeling-and-cataract-surgery-for-myopic-retinoschisis/>), 2018.
  7. 北善幸 (分担執筆): OCTで判断する黄斑部内層厚変化. 富田剛司編. 緑内障を見逃さない 眼底・OCTの見かた. 東京, 日本医事新報社, 2018. p 44-48.
  8. 北善幸 (分担執筆): OCT診断のピットフォール. 富田剛司編. 緑内障を見逃さない 眼底・OCTの見かた. 東京, 日本医事新報社, 2018. p 73-79.
  9. 北善幸 (分担執筆): 緑内障. 眼科スゴ技OCT・OCTA. 2. 小椋祐一郎, 瓶井資弘監修. 東京, メディカ出版, 2019. p 24-29.
  10. 松木奈央子: 学会印象記 ESCRS 2018. *VISION TIMES Vol 25 No.4*, 東京, 参天製薬株式会社, 2018. p26-27.
- 報告書**
1. 山田昌和 (分担研究者): 平成29年度厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業), 希少難治性角膜疾患の疫学調査報告書, 2018年5月.
  2. 山田昌和 (研究代表者): 平成29年度厚生労働省科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業), 成人眼科検診の有用性, 実施可能性に関する研究報告書, 2018年5月.
- その他**
1. 平形明人: 特集「眼科疾患と全身病」巻頭言. 杏林医学会誌 全身疾患と皮膚症状・眼科疾患と全身病, 東京, 杏林医学会 49 : 239, 2018.
  2. 平形明人: 理事会から. 日眼会誌122:429-430,2018.
  3. 平形明人: 談話室. 第30回日本眼科学会専門医認定試験をおえて. 日眼会誌. 122:612-614,2018.
  4. 平形明人 (取材協力): 眼の病気. 最新治療データで探す名医のいる病院2019. 東京, 医療新聞社, p297-299, 2018.
  5. 井上真 (パネリスト): 多焦点眼内レンズ特設セカンドオピニオン外来. 第33回JSCRS学術総会 (ランチョンセミナー), 東京, 2018年6月30日.
  6. 山田昌和: 第55回日本眼感染症学会主催, 東京, 2018年7月14-15日.
  7. 山田昌和: 第61回日本コンタクトレンズ学会主催, 東京, 2018年7月15-16日.

8. 井上真：Expert Panel Discussion. 9<sup>th</sup> Kanagawa Retina Forum, 横浜, 2018年7月27日.
9. 廣田和成：高齢化社会の糖尿病眼合併症. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会 ～チームで結ぶ 輪と和～ シンポジウム 座長：宇都宮一典, 平形明人. DITN No.478 東京, メディカルジャーナル:p4, 2018.
10. 岡田アナベルあやめ：(インタビュー)「健康・メディカル：両目が見えにくくなる原田病—早期治療が重要」八重山毎日新聞, 2018年11月20日.
11. 岡田アナベルあやめ：(インタビュー)「健康メモ・早期治療が重要：両目が見えにくくなる原田病」釧路新聞, 2018年12月30日.
12. 平形明人：評議員指名講演「生体イメージングと眼病理」巻頭言. 日眼会誌, 123:199-201, 2019.
13. 岡田アナベルあやめ：(インタビュー)「私たち世代の特病対策最前線」vol. 14, 毎日の発見, No. 182, 2019年3月.
14. Vanessa Caceres (include Shigeyasu C.): Focusing dry eye research with patient guidance. Study illuminates patient priorities (comment about dry eye). EyeWorld Magazine. January, 2019.
15. 厚東隆志：糖尿病網膜症の疾患と治療1. 医療教育研究所eラーニング講座.
16. 厚東隆志：糖尿病網膜症の疾患と治療2. 医療教育研究所eラーニング講座.
17. 厚東隆志：加齢黄斑変性の疾患と治療. 医療教育研究所eラーニング講座.
18. 安藤良将：第7回杏林医学会研究奨励賞.
- Allergy and Clinical Immunology), Germany, May 26th-30th, 2018.
11. 横井秀格, 児玉悟, 松本祐磨, 川田往嗣, 山中英敬, 瀧之上泰裕, 奥羽謙, 齋藤康一郎：Open septorhinoplastyの適応と工夫. 第119回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 横浜, 2018年5月30日—6月2日.
12. 唐帆健浩, 川原敬祐, 佐藤哲也, 齋藤康一郎：Presbyphagia (老人性嚥下)における嚥下咽頭期の特徴. 第119回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 横浜, 2018年5月30日—6月2日.
13. 齋藤康一郎：新型耳鼻咽喉ビデオスコープの有用性. 第119回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会(ブースセミナー), 横浜, 2018年5月30日—6月2日.
14. 齋藤康一郎：耳鼻咽喉科診療における感染制御. 第93回日本医療機器学会大会・学術集会(ランチョンセミナー), 横浜, 2018年5月31日—6月2日.
15. Miyamoto M, Nakagawa H, Watanabe I, Mato S, Nagase M, Matsumura G, Saito K : Novel Vocalization Model Using Human Larynx in Pyrrolidon-embalmed Cadaver. The Voice Foundation 47th Annual Symposium: Care of the Professional Voice, USA, May 30th-Jun 3rd, 2018.
16. Mato S, Miyamoto M, Watanabe I, Hayashi Y, Ishii T, Nakagawa H, Saito K : Factors to Predict the Impact of Voice Therapy on Vocal Fold Atrophy in Elderly. The Voice Foundation 47th Annual Symposium: Care of the Professional Voice, USA, May 30th-Jun 3rd, 2018.
17. Watanabe I, Miyamoto M, Nakagawa H, Saito K : Sequential Vocal Analysis of Pediatric Vocal Fold Nodules in Japanese. 14th Congress of the European Society of Pediatric Otorhinolaryngology (ESPO), Sweden, June 2nd-5th, 2018.
18. Miyamoto M, Saito K, Tomoda K : Management of unavoidable complications after tracheostomy in infants. 14th Congress of the European Society of Pediatric Otorhinolaryngology (ESPO), Sweden, June 2nd-5th, 2018.
19. 齋藤康一郎：音声障害を診る検査の基礎と応用. 東京都地方部会 第219回学術講演会・第44回総会(特別講演), 東京, 2018年6月16日.
20. 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 高戸良之, 品川喜代美, 齋藤康一郎：企業健診における花粉症症状と特異的IgE抗体価およびCCD抗原関係. 第67回日本アレルギー学会学術大会, 千葉, 2018年6月22—24日.
21. 池田哲也, 森山久美, 萬知子, 加賀あかり, 齋藤英昭, 松田剛明, 齋藤康一郎：周術期管理センターにおいて口腔評価を行うことで得られた事象. 日本外科代謝栄養学会第55回学術集会, 大阪, 2018年7月5—7日.
22. 齋藤康一郎, 宮本真：小児喉頭疾患のマネージメント. 第13回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会(教育セミナー), 横浜, 2018年7月12—13日.
23. 丸山啓介, 横井秀格, 吉田裕毅, 野口明男, 齋藤康一郎, 松村謙児, 塩川芳昭：経鼻的頭蓋底アプローチにおけるピロリドン固定cadaverの有用性. 第30回日本頭蓋底外科学会, 東京, 2018年7月12—13日.
24. 横井秀格：Extended transsphenoidal approach-鼻副鼻腔の解剖と頭蓋底へのcorridor作成- 第24回杏林大学脳神経外科額教室多摩微小解剖セミナー. 三鷹, 2018年7月27-30日.
25. 増田正次：高齢者の難聴. 第9回多摩杏林耳鼻科会, 調布, 2018年9月1日.
26. 加藤泰奈, 茂呂順久, 齋藤康一郎：菌性感染症が原因として考えられた側頭部腫瘍の1例. 第31回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会, 名古屋, 2018年9月13-14日.

## 耳鼻咽喉科学教室

### 講演

1. 唐帆健浩：嚥下造影検査の実際と観察のポイント. 第16回日本耳鼻嚥下障害講習会, 東京, 2018年4月1日.
2. 齋藤康一郎：音声障害の診断と治療. 久光製薬株式会社医薬情報担当者勉強会, 三鷹, 2018年4月10日.
3. 池田哲也：周術期口腔機能管理について. Meiji Seikaファーマ株式会社 社内講習会, 府中, 2018年4月24日.
4. 米山勇哉, 加賀あかり：当科における周術期管理導入とその成果. 第15回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 福岡, 2018年4月28-29日.
5. 加賀あかり, 米山勇哉：手術内容に特定した症例の周術期口腔ケアの有用性について. 第15回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 福岡, 2018年4月28-29日.
6. 増田正次：高齢者のめまい・ふらつき・難聴について知ろう！～健康に生きるために～. 第5回杏林医学会市民公開フォーラム, 三鷹, 2018年5月19日.
7. 横井秀格：アレルギー性鼻炎の診断と治療—最新の知見. 医学研究のUP-TO-DATE. 第345回順天堂医学会学術集会(特別講演), 東京, 2018年5月19日.
8. Saito K, Miyamoto M, Watanabe I, Nakagawa H : Office Based Endoscopic Green Laser Surgery against Laryngeal Papillomatosis. 12th Congress of the European Laryngological Society (ELS), UK, May 16th-19th, 2018.
9. Miyamoto M, Nakagawa H, Watanabe I, Saito K : High-Speed Digital Imaging of Unilateral Vocal Fold Paresis. 12th Congress of the European Laryngological Society (ELS), UK, May 16th-19th, 2018.
10. Matsumoto Y, Yokoi H, Saito K: Gastrin-releasing peptide (GRP) is involved in the establishment of allergic rhinitis in mice. EAACI Congress 2018 (European Academy of

27. 池田哲也: BMAを投与されている患者への歯科側の対応について. 第10回三鷹外科・整形外科医療連携セミナー, 三鷹, 2018年9月19日.
28. 茂呂順久: 実臨床における頭頸部癌治療. 実臨床における頭頸部癌治療に関する小野薬品工業㈱内研修会, 三鷹, 2018年9月20日.
29. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断と治療～最新の知見～. 第14回埼玉耳鼻咽喉科感染症・アレルギー研究会 (特別講演), 埼玉, 2018年9月20日.
30. 松本祐磨, 横井秀格, 池田哲也, 川田往嗣, 木村泰彰, 松田昌之, 齋藤康一郎: 副鼻腔炎における骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の関連について. 第57回日本鼻科学会総会・学術講演会, 旭川, 2018年9月27-29日.
31. 木村泰彰, 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 松田昌之, 齋藤康一郎: 鼻副鼻腔, 眼窩IgG4関連疾患の一例. 第57回日本鼻科学会総会・学術講演会, 旭川, 2018年9月27-29日.
32. 池田哲也, 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 齋藤康一郎: 骨代謝抑制剤関連顎骨壊死によると考えられた副鼻腔炎14例の臨床的検討～併用薬剤との関連について～. 第57回日本鼻科学会総会・学術講演会, 旭川, 2018年9月27-29日.
33. 松田昌之, 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 木村泰彰, 齋藤康一郎: 前頭洞原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の一例. 第57回日本鼻科学会総会・学術講演会, 旭川, 2018年9月27-29日.
34. 大原有紗, 石川牧子, 立石秀勝, 増田裕, 森永圭吾, 黒木一典, 船田さやか, 藤原正親, 菅間博, 佐藤大, 齋藤康一郎, 横山健一: 咽頭後間隙に生じたCastleman病の一例. 第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 福岡, 2018年10月5-17日.
35. 唐帆健浩: 嚥下機能評価方法update. 第40回日本臨床栄養学会総会・第39回日本臨床栄養協会総会第16回大連合大会 (教育講演), 東京, 2018年10月7日.
36. Watanabe I, Miyamoto M, Nakagawa H, Saito K: Ergonomic Advantage of Pistol Grip Endoscope in ENT practice. 122nd AAO-HNSF Annual Meeting & OTO EXPO, USA, October 7th-10th, 2018.
37. Saito K, Miyamoto M, Watanabe I, Nakagawa H: Green Laser Photocoagulation for Laryngo-Pharyngeal Papillomatosis. 122nd AAO-HNSF Annual Meeting & OTO EXPO, USA, October 7th-10th, 2018.
38. Miyamoto M, Watanabe I, Ohara A, Nakagawa H, Saito K: 3D Imaging of Vocalizing Larynx by Ultra High-Resolution Computed Tomography. 122nd AAO-HNSF Annual Meeting & OTO EXPO, USA, October 7th-10th, 2018.
39. 増田正次: 側頭骨解剖ならびに削開実習. 第28回日本耳科学会総会・学術講演会 (ハンズオンセミナーインストラクター), 大阪, 2018年10月6-8日.
40. 唐帆健浩: 摂食嚥下機能療法 (嚥下訓練, 口腔ケア). 第12回日本嚥下医学会主催嚥下機能評価研修会, 名古屋, 2018年10月28日.
41. 池田哲也, 里見貴士, 加賀あかり, 米山勇哉, 笠原由香, 近津大地, 齋藤康一郎: ビスフォスフォネート関連顎骨壊死とデノスマブ関連顎骨壊死では臨床所見が異なる. 第63回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2018年11月2-4日.
42. 加賀あかり, 池田哲也, 米山勇哉, 笠原由香, 近津大地, 齋藤康一郎: 周術期の大腸がん患者における口腔内刺激の効果. 第63回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2018年11月2-4日.
43. 甲能直幸: 思い出の手術. 第70回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会 (特別講演), 東京, 2018年11月8-9日.
44. 唐帆健浩: 嚥下指導と嚥下訓練. 第70回日本気管食道科学会総会・学術講演会, 東京, 2018年11月8-9日.
45. 齋藤康一郎: 外科的気道確保. 第70回日本気管食道科学会総会・学術講演会 (ハンズオンセミナー), 東京, 2018年11月8-9日.
46. 宮本真, 長瀬美樹, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎: NVP固定Cadaverを用いた臨床解剖. 第70回日本気管食道科学会総会・学術講演会, 東京, 2018年11月8-9日.
47. 橋本麻未, 宮本真, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 当院における甲狀腺筋麻痺4症例の検討. 第70回日本気管食道科学会総会・学術講演会, 東京, 2018年11月8-9日.
48. 木村泰彰, 宮本真, 渡邊格, 橋本麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 喉頭原発のMALTリンパ腫の2症例. 第70回日本気管食道科学会総会・学術講演会, 東京, 2018年11月8-9日.
49. 渡邊格, 宮本真, 橋本麻未, 岡部直太, 千葉宏宏, 柴原純二, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 喉頭に発生した神経鞘腫の2症例. 第70回日本気管食道科学会総会・学術講演会, 東京, 2018年11月8-9日.
50. 池田哲也: 杏林大学における周術期口腔管理の取り組み&三鷹市歯科医師会の先生方へのお願い. 三鷹, 2018年11月27日.
51. 池田哲也: これからの口腔ケア 清掃だけではダメ 口腔粘膜刺激を与えよう. 知って得する周術期管理, 東京, 2018年12月1日.
52. 渡邊格: 微生物学的検査(インフルエンザ等)における検体採取に必要な知識・技能・態度. 検体採取等における厚生労働省指定講習会, 東京, 2019年1月12-13日.
53. 松本祐磨: 味覚検査に必要な知識・技能・態度. 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会, 東京, 2019年1月12-13日.
54. 松本祐磨: 嗅覚検査に必要な知識・技能・態度. 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会, 東京, 2019年1月12-13日.
55. 横井秀格: アレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎の最新の話題・治療法. 国分寺市医師会学術講演会 (特別講演), 東京, 2019年1月30日.
56. 齋藤康一郎: 声の老化とその治療. 第144回世田谷区医師会「区民のための健康教室」, 東京, 2019年1月30日.
57. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断と治療～最新の知見～. 水鏡会学術講演会, 水戸, 2019年2月6日.
58. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断と治療～最新の知見～. 笛吹市医師会学術講演会, 笛吹, 2019年2月21日.
59. 横井秀格: 好酸球性副鼻腔炎の診断と治療. 第5回難病医療ネットワーク 医療従事者向け研修カリキュラム, 三鷹, 2019年2月28日.
60. 渡邊格, 宮本真, 橋本麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 披裂軟骨内内転術後の咽喉頭腫脹についての検討. 第31回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 久留米, 2019年3月7-8日.
61. 宮本真, 渡邊格, 橋本麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 一側声帯麻痺患者に対する超高精細CTでの術前後評価. 第31回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 久留米, 2019年3月7-8日.
62. 並木こずえ, 宮本真, 渡邊格, 橋本麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 甲状軟骨縦骨折2症例の治療経験. 第31回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 久留米, 2019年3月7-8日.
63. 橋本麻未, 宮本真, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 帯状疱疹ウイルスによる多発脳神経症状を呈した2症例. 第31回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 久留米, 2019年3月7-8日.
64. 横井秀格: 主な抗ヒスタミン剤の特徴と販売戦略?! その2. 大鵬薬品社内研修会, 東京, 2019年3月8日.
65. 宮本真, 渡邊格, 橋本麻未, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 当科専門外来での小児喉頭疾患の臨床検討. 第222回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会, 東京, 2019年3月23日.
66. 齋藤康一郎: 咽喉頭異常感と逆流性食道炎について. 大塚製薬社員向け講演会, 三鷹, 2019年3月26日.

## 論文

1. 増田正次：【老年医学（上）-基礎・臨床研究の最新動向-】高齢者の症候 聴覚障害. 日本臨床 76巻増刊5 老年医学（上）：597-601, 2018.
2. 増田正次：【聴覚障害の早期発見と支援体制】高齢者の聴覚障害への支援 健康寿命を延ばすために. 公衆衛生 82巻6号：460-466, 2018.
3. 横井秀格：【私はこうしている-鼻科手術編】鼻科手術全般鼻科手術のための局所解剖 頭蓋底. JOHNS 34巻9号：1097-1100, 2018.
4. Matsumoto Y, Yokoi H, Kimura T<sup>1</sup>, Matsumoto Y, Kawada M, Arae K<sup>2</sup>, Nakae S<sup>3</sup>, Ikeda T, Matsumoto K<sup>4</sup>, Sakurai H<sup>1</sup>, Saito K (1Dept.of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University of Medicine, 2Dept.of Immunology, Faculty of Health Science, Kyorin University, 3Laboratory of Systems Biology, Center for Experimental Medicine and Systems Biology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, 4Dept. of Allergy and Clinical Immunology, National Research Institute for Child Health and Development): Gastrin-releasing peptide (GRP) is involved in the establishment of allergic rhinitis in mice. Laryngoscope 128(11) : E377-E384, 2018. DOI: 10.1002/lary. 27394.
5. Yokoi H, Terado Y<sup>1</sup>, Fujiwara M<sup>1</sup>, Matsumoto Y, Ikeda T, Saito K (1 Dept. of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : Biphasic low-grade nasopharyngeal papillary adenocarcinoma: a case report and literature review. BMC Clin Pathol : 18:10, 2018.
6. Nagafuji H, Yokoi H, Ohara A<sup>1</sup>, Fujiwara M<sup>2</sup>, Takayama N<sup>3</sup>, Saito K (1Dept. of Radiology Kyorin University School of Medicine, 2Dept.of Pathology, Kyorin University School of Medicine, 3Second Dept. of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine) : Primary diffuse large B-cell lymphoma of the frontal sinus: A case report and literature review. Radiol Case Rep. 13(3):635-639, 2018.
7. Nagafuji H, Yokoi H, Fujiwara M<sup>1</sup>, Sato D, Saito K (1Dept. of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : Paraneoplastic limbic encephalitis associated with mixed olfactory neuroblastoma and craniopharyngioma: A case report and literature review. Medicine (Baltimore) 97(24) : e10932, 2018. DOI:10.1097/MD.
8. Higuchi S<sup>1,2</sup>, Kabeya Y<sup>3,4</sup>, Matsushita K<sup>5</sup>, Tachibana K<sup>6</sup>, Kawachi R<sup>7</sup>, Takei H<sup>6</sup>, Suzuki Y<sup>8</sup>, Abe N<sup>8</sup>, Imanishi Y<sup>9</sup>, Moriyama K<sup>10</sup>, Yorozu T<sup>10</sup>, Saito K, Sugiyama M<sup>8</sup>, Kondo H<sup>6</sup>, Yoshino H<sup>5</sup> (1Division of Cardiology, Department of Internal Medicine II, Kyorin University School of Medicine, 2Division of Cardiology, Department of Internal Medicine II, Kyorin University School of Medicine, 3Tokai University, 4Saiyu Clinic, 5Division of Cardiology, Department of Internal Medicine II, Kyorin University School of Medicine, 6Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University School of Medicine, 7Nihon University School of Medicine, 8Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, 9Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, 10Department of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine) : The study protocol for PREDICT AF RECURRENCE: a PRoSpEctive cohort stuDy of surveIllanCe for perioperaTive Atrial Fibrillation RECURRENCE in major non-cardiac surgery for malignancy. BMC Cardiovasc Disord. 18(1) : 127, 2018, DOI : 10.1186/s12872-018-0862-9.
9. 間藤翔悟<sup>1</sup>, 宮本真, 渡邊格, 林良幸<sup>1</sup>, 石井翼<sup>1</sup>, 中川秀樹, 齋藤康一郎 (1杏林大学病院・リハビリテーション科) : 声帯

- 萎縮に対するVocal Function Exercise (VFE) の効果に関する研究. 音声言語医 59巻4号 : 311-317, 2018.
10. 宮本真, 井原遥, 岩井大 : 気管食道妻処置後に生じた類白血病反応の1症例. 日本気食道会報 69巻3号 : 204-209, 2018.
  11. 唐帆健浩 : 嚥下障害の治療 リハビリテーションと外科的治療. 日耳鼻会報 121巻10号 : 1297-1302, 2018.
  12. 宮本真, 齋藤康一郎 : 小児喉頭疾患のマネージメント. 小児耳鼻 39巻3号 : 223-228, 2018.
  13. 増田正次 : 鼓室処置と耳管通気. 耳鼻・頭頸外科 90巻 : 306-309, 2018.
  14. 増田正次 : 加齢による難聴を放っておくと健康寿命が縮む!? 健康に生きるための補聴器装用のススメ. 杏林医学会雑誌 49巻 : 287-289, 2018.
  15. 武内朝子, 加藤峰幸, 下田由莉江, 唐帆健浩, 滝澤始, 大山学 : 頸部食道穿孔による嚥下障害を認めた抗TIF-1γ抗体陽性皮膚筋炎の1例. 臨皮 72巻7号 : 493-498, 2018.
  16. Kanzaki J<sup>1</sup>, Masuda M, Otsuki K<sup>1</sup> (1Keio University) : Recurrent infection-induced hearing deterioration of a patient with inner ear-specific steroid-dependent sensorineural hearing loss. B-ENT 15 : 215-221, 2018.
  17. Schilling C<sup>1</sup>, Stoeckli SJ<sup>2</sup>, Vigili MG<sup>3</sup>, de Bree R<sup>4</sup>, Lai SY<sup>5</sup>, Alvarez J<sup>6</sup>, Christensen A<sup>7</sup>, Cognetti DM<sup>8</sup>, D'Cruz AK<sup>9</sup>, Frerich B<sup>10</sup>, Garrel R<sup>11</sup>, Kohno N, Klop WM<sup>12</sup>, Kerawala C<sup>13</sup>, Lawson G<sup>14</sup>, McMahon J<sup>15</sup>, Sassoon I<sup>16</sup>, Shaw RJ<sup>17</sup>, Tvedskov JF<sup>7</sup>, von Buchwald C<sup>7</sup>, McGurk M<sup>1</sup> (1University College London Hospital, 2Kantonsspital St. Gallen, 3Ospedale San Carlo, 4UMC Utrecht, 5University of Texas, 6Cruces University Hospital, 7Rigshospitalet, 8Thomas Jefferson University Hospitals, 9Tata Memorial Hospital, 10University Medical Centre Rostock, 11University Hospital, Montpellier, 12Netherlands Cancer Institute/Antoni van Leeuwenhoek, 13The Royal Marsden NHS Foundation Trust, 14Université Catholique de Louvain, CHU UCL Namur, 15Southern General Hospital, 16Kings College London, 17University of Liverpool, Cancer Research Centre) : Surgical consensus guidelines on sentinel node biopsy (SNB) in patients with oral cancer. Head Neck. 2019, DOI : 10.1002/hed.25739.
  18. 唐帆健浩 : 摂食嚥下機能のスクリーニング検査 Up-to date. 耳鼻展望 62巻1号 : 12-18, 2019.
  19. 林良幸, 唐帆健浩 : 高齢者の嚥下評価および訓練時の誤嚥・窒息への安全対策. 嚥下医学 8巻1号 : 28-33, 2019.
  20. 唐帆健浩 : 【外来における嚥下のみかた】専門医療機関への紹介における留意点. JOHNS 35巻3号 : 341-342, 2019.

## 著書

1. 増田正次 : 今日の耳鼻咽喉科頭頸部外科治療指針 耳管機能検査. 第4版, 東京, 医学書院, 2018.105-108.
2. 齋藤康一郎 : 今日の耳鼻咽喉科頭頸部外科治療指針 喉頭ストロボコピー. 第4版, 東京, 医学書院, 2018.129-131.
3. 齋藤康一郎 : 今日の耳鼻咽喉科頭頸部外科治療指針 喉頭横隔膜症. 第4版, 東京, 医学書院, 2018.427-428.

## その他

1. 甲能直幸 [書評] : 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針, 第4版, 東京, 医学書院, 2018.
2. 齋藤康一郎 : かぜの際になぜ、声が嘎れるのか?, エキスパートが答える Best Answer, 杏林製薬(株) Kyorin Medical Bridge, 2018.
3. 横井秀格 : つぎの花粉症どうなる?, 朝日小学生新聞, 2018年11月13日.

## 産科婦人科学教室

## 講演

1. Tanigaki S, Nagata C, Iwashita M: Cesarean scar pregnancy: Is an operation unavoidable?. 雲南省医学会第8届第一次産医学分会学術会議, China, April 22, 2018.
2. Nagashima T, Ishida M, Tanaka K, Matsushima M, Matsuzawa Y, Izawa T, Furukawa S, Kobayashi Y, Iwashita M: Bone morphogenetic protein 4 (BMP4) is required for establishment of an adequate uterine decidualization and vascularization to support normal pregnancy. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
3. Kiuchi K, Hasegawa K, Suzuki A, Watanabe M, Kousaka N, Sakamoto T, Nishigaya Y, Kobayashi Y, Fukasawa I: The value of serum LDH, CRP, and D-dimer levels for differentiation among degenerated leiomyoma, variant type leiomyoma and leiomyosarcoma. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
4. Tanaka K, Matsushima M, Izawa T, Tanigaki S, Furukawa S, Kobayashi Y, Iwashita M: Effects of TNF- $\alpha$  & IGF-1 on proliferation and angiogenesis of BeWo cell. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
5. Toriumi R, Nagashima T, Matsuzawa Y, Kobayashi Y, Iwashita M: A comparative retrospective study between controlled hyperstimulation and mild-stimulation protocol for women with low AMH value. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
6. 渡邊百恵, 小林陽一, 三田静香, 福富俊之, 岩下光利: 卵巣内膜症嚢胞における薬剤抵抗性に関する新規バイオマーカーのプロテオミクスによる探索. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
7. 檜山知明, 池田仁恵, 信田政子, 柴田健雄, 三上幹男, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊, 榎本隆之, 片瀨秀隆: 本邦における子宮頸部円錐切除術14,832例の検討—円錐切除後妊娠例を中心に—「子宮頸部円錐切除術の実態調査」に関する小委員会(日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会)報告. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
8. 山本瑠美子, 三上幹男, 関谷健太郎, 寺川耕一, 樋口壽宏, 池田仁恵, 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊, 片瀨秀隆: 本邦における診断的円錐切除症例の検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
9. 谷垣伸治, 永田知映, 小澤伸晃, 芝田恵, 金子佳代子, 村島温子, 小林陽一, 岩下光利, 左合治彦: 妊娠中の母体プレドニゾロン投与による胎児・新生児免疫能への影響. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
10. 春名佑美, 谷垣伸治, 鳥海玲奈, 松澤由記子, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 塩酸リトドリン投与時の肝機能障害の危険因子. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
11. 村岡由真, 田中啓, 本田理真, 井澤朋子, 谷垣伸治, 小林陽一, 岩下光利: 母体の体型が自然な分娩開始時期に与える影響—母体肥満は、自然な分娩の開始を遅らせるか?. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
12. 本田理真, 田中啓, 村岡由真, 井澤朋子, 谷垣伸治, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 母体の体型が分娩進行に与える影響—母体肥満は分娩の進行を遅らせるか?. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
13. 岡愛子, 百村麻衣, 中山真恵, 渋谷英里子, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 妊婦における子宮頸部細胞診異常の検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
14. 竹森聖, 長内喜代乃, 井上亜結実, 佐藤泰紀, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 当院におけるpegfilgrastimの二次予防的投与の有用性についての検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
15. 北村亜也, 松島実穂, 大沢草宣, 富岡紀子, 井澤朋子, 長島隆, 谷垣伸治, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 胎盤遺残の管理方法についての検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
16. 矢坂美和, 池田仁恵, 平澤猛, 柴田健雄, 三上幹男, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊, 榎本隆之, 片瀨秀隆: 本邦における子宮頸部円錐切除術14832例の検討 — 切除断端陽性例を中心に —, 子宮頸部円錐切除術の実態調査に関する小委員会(日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会)報告. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
17. 古形祐平, 寺井義人, 田中良道, 大道正英, 池田仁恵, 三上幹男, 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊, 片瀨秀隆: 妊娠中子宮頸部円錐切除症例の後方視的解析, 子宮頸部円錐切除術の実態調査に関する小委員会(日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会)報告. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
18. 田中良道, 寺井義人, 古形祐平, 大道正英, 池田仁恵, 三上幹男, 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬智, 横山正俊, 片瀨秀隆: 分娩後1年以内の子宮頸部円錐切除症例の後方視的解析, 子宮頸部円錐切除術の実態調査に関する小委員会(日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会)報告. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
19. 内田季之, 金山尚裕, 川合健太, 向麻利, 鮫島浩, 大橋昌尚, 松澤聡史, 田中守, 松本直, 上塘正人, 田平達則, 小谷友美, 中野知子, 松原圭一, 内倉友香, 谷垣伸治, 水主川純, 藤田恭之: 内診指接着型胎児オキシメーターを用いた新規胎児モニタリング法の開発: 多施設共同研究. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
20. 片山紗弥, 澁谷裕美, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 当院における術後回復力強化(Enhanced Recovery After Surgery: ERAS)としての術前経口補水療法導入の試み. 公益社団法人日本産科婦人科学会第70回学術講演会, 仙台, 2018年5月10-13日.
21. 谷垣伸治: 人材確保とチーム医療/シミュレーション教育は、産科医療のブレークスルーとなるか. 第36回東京母性衛生学会, 東京, 2018年5月20日.
22. 對馬可菜, 鳥海玲奈, 谷垣伸治, 大沢草宣, 春名佑美, 北村亜矢, 松澤由記子, 田中啓, 松島実穂, 小林陽一, 岩下光利: 先天性サイトメガロウイルス感染症の1例から見えた課題. 第386回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2018年5月26日.
23. 岡愛子, 百村麻衣, 渋谷英里子, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 坂本穆彦, 鈴木淳, 小林陽一: 妊娠中の子宮頸部細胞診異常の検討. 第59回日本臨床細胞学会(春期大会), 札幌, 2018年6月1-3日.
24. 谷垣伸治: 妊娠中期の胎児超音波スクリーニング, 助産師外来で判ること、医師健診で求められること. 平成30年度前期山梨県産婦人科集談会, 甲府, 2018年6月8日.
25. 柳下玲子, 谷垣伸治, 齋藤將也, 山田研二, 田島泰宏, 小林陽一, 岩下光利: 胎児超音波検査にて総排泄腔遺残症の診断が可能であった1例. 日本超音波医学会第91回学術集会, 神戸, 2018年6月8-10日.

26. 谷垣伸治：外来デビュー講座 妊娠中期胎児超音波スクリーニング。第135回関東連合産科婦人科学会学術集会，東京，2018年6月16-17日。
27. 春名佑美，谷垣伸治，大沢草宣，鳥海玲奈，松澤由記子，井澤朋子，長島隆，小林陽一，岩下光利：当院の参加救急体制の变革。第135回関東連合産科婦人科学会総会，東京，2018年6月16-17日。
28. 佐藤泰紀，竹森聖，長内喜代乃，西ヶ谷順子，澁谷裕美，百村麻衣，松本浩範，岩下光利，小林陽一：子宮腺筋症の発生部位における臨床的意義の検討。第135回関東連合産科婦人科学会総会，東京，2018年6月16-17日。
29. 谷垣伸治，北村亜也，山田研二，田中啓，松島実穂，岩下光利，小林陽一：外来デビュー講座，妊娠中期胎児超音波スクリーニング。第135回関東連合産科婦人科学会総会，東京，2018年6月16-17日。
30. 谷垣伸治：TMA概論について。アレクシオンファーマ合同会社PNH・aHUS事業本部社内勉強会，東京，2018年6月25日。
31. 陣内実果，田中啓，戸田友美，松島実穂，松澤由記子，谷垣伸治，岩下光利，小林陽一：産後出血による産褥搬送における必要輸血料の予測因子：産科DICスコアの有用性。第379回四水会，東京，2018年6月27日。
32. 長内喜代乃，小林陽一，井澤朋子，岩下光利：ラメルテオンはエストロゲン受容体陽性子宮内膜癌の増殖・浸潤を抑制する。第19回ホルモンと癌研究会，仙台，2018年6月29-30日。
33. 谷垣伸治：内科医が知っておきたい産科。第2回内科プロバイダーコースbasic，東京，2018年6月30日。
34. 谷垣伸治：剥がしておきたい／話しておきたい癒着の話。第54回日本周産期・新生児医学会総会及び学術集会，東京，2018年7月8-10日。
35. 尾坂真，谷垣伸治，柳下康博，田中啓，松島実穂，松澤由記子，井澤朋子，小林陽一，岩下光利：体外受精による妊娠の周産期予後についての検討。第54回日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018年7月8-10日。
36. 對馬可菜，谷垣伸治，大沢草宣，竹森聖，北村亜也，鳥海玲奈，松澤由記子，田中啓，松島実穂，澁谷裕美，井澤朋子，長島隆，小林陽一，岩下光利：母体年齢と分娩歴が分娩様式に及ぼす影響についての検討。第54回日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018年7月8-10日。
37. 野口健朗，谷垣伸治，大沢草宣，竹森聖，北村亜也，鳥海玲奈，松澤由記子，田中啓，松島実穂，澁谷裕美，井澤朋子，長島隆，小林陽一，岩下光利：母体搬送症例の分析による医療資源の有効活用への提案。第54回日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018年7月8-10日。
38. 柳下康博，谷垣伸治，尾坂真，大沢草宣，竹森聖，北村亜也，鳥海玲奈，田中啓，松島実穂，松澤由記子，井澤朋子，長島隆，小林陽一，岩下光利：当院における逆搬送の検討。第54回日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018年7月8-10日。
39. 本田理貢，田中啓，井澤朋子，谷垣伸治，小林陽一，岩下光利：妊娠第3三半期に筋腫分娩した1例。第54回日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018年7月8-10日。
40. 田中啓，北村亜也，松島実穂，松澤由記子，井澤朋子，長島隆，谷垣伸治，小林陽一，岩下光利：母体インスリン抵抗性の上昇は、胎盤発育を促進し、胎盤機能を低下される。第54回日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018年7月8-10日。
41. 松島実穂，谷垣伸治，北村亜也，鳥海玲奈，田中啓，松澤由記子，井澤朋子，小林陽一：子宮筋腫核出術後妊娠の合併症発症予測についての検討。第54回日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018年7月8-10日。
42. 谷垣伸治：必ずわかる！できる！助産師が知っておきたい超音波検査。助産師が知っておきたい超音波セミナー（MCメディアカ出版），神戸，2018年7月21日。
43. 谷垣伸治：ハンズオンで学ぶ・気づく！帝王切開術における理想的な子宮縫合法？。千葉県周産期セミナー2018，千葉，2018年7月28日。
44. 渡邊百恵，澁谷裕美，西ヶ谷順子，松本浩範，小林陽一：腹腔鏡下子宮筋腫核出術後に悪性腫瘍との鑑別を要した子宮腺筋腫の1例。第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会，松江，2018年8月2-4日。
45. 小林陽一：チョコレート嚢腫の中で何が起きているのか～治療抵抗性・癌化に関する新しいバイオマーカーを求めて～。福井産婦人科医師連合第85回夏期臨床研修会，福井，2018年8月5日。
46. 渡邊百恵，石田愛美，小林陽一：ハイリスクな卵巣内膜症性嚢胞を選別する新規バイオマーカーの探索。第36回日本ヒト細胞学会学術集会，東京，2018年8月5日。
47. 村岡由真，澁谷裕美，渡邊百恵，西ヶ谷順子，百村麻衣，岩下光利，小林陽一：術前MRI画像で子宮頸部胃型粘液性癌と診断した一例。JSAWI 2018，淡路，2018年8月31日。
48. 安部美由紀，長内喜代乃，澁谷裕美，西ヶ谷順子，長濱清隆，百村麻衣，松本浩範，山下詠子，小林陽一，柴原純二：当院で経験した成人型顆粒膜細胞腫の典型例と非典型例の比較検討。JSAWI 2018，淡路，2018年8月31日。
49. 谷垣伸治：必ずわかる！できる！助産師が知っておきたい超音波検査。助産師が知っておきたい超音波セミナー（MCメディアカ出版），東京，2018年9月1日。
50. Watanabe M, Shibuya H, Nishigaya Y, Momomura M, Matsumoto H, Iwashita M, Koayashi Y: Sister Mary Joseph's noduleを契機に診断された子宮体癌の1例。第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会，17th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer society (IGCS 2018)，京都，2018年9月14-16日。
51. Osanai K: Anal Cancer Diagnosed During Follow-up of CIN and VIN. 17th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer society (IGCS 2018). Kyoto, September 14-16, 2018.
52. 谷垣伸治：助産師の行う超音波検査。東京母性衛生学会チーム医療推進助産師研修，東京，2018年9月15日。
53. Tanaka K, Kobayashi Y, Iwashita M: Synergistic Effects of Tumor Necrosis Factor- $\alpha$  and Insulin-Like Growth Factor-I On Bewo Cells Survival. International Federation of Placenta Associations (IFPA) 2018 Tokyo, Tokyo, September 21-24, 2018.
54. 野口健朗，澁谷裕美，村岡由真，渡邊百恵，西ヶ谷順子，百村麻衣，松本浩範，岩下光利，小林陽一：有茎性漿膜下筋腫の表在血管の破綻により腹腔内大量出血をみたした1例。第387回東京産科婦人科学会例会，東京，2018年9月29日。
55. 増田豊，町田治彦，渡邊正中，北村亜也，田中啓，谷垣伸治，小林陽一，黒木一典，立石秀勝，菊安俊哉，志賀久恵，横山健一，森永圭吾，岩元香保里，木下雄介：産科危機的出血のCT・DSA所見の検討。第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会，福岡，2018年10月5日。
56. 谷垣伸治：必ずわかる！できる！助産師が知っておきたい超音波検査。助産師が知っておきたい超音波セミナー（MCメディアカ出版），名古屋，2018年10月6日。
57. 谷垣伸治：急速遂娩への対応。第34回日本分娩研究会，新潟，2018年10月18日。
58. 安部美由紀，長内喜代乃，西ヶ谷順子，松澤由記子，小林陽一：治療に難渋した重複子宮、腔中隔合併骨盤臓器脱の1例。第33回日本女性医学会学術集会，岐阜，2018年11月3-4日。
59. 長内喜代乃，西ヶ谷順子，松澤由記子，澁谷裕美，百村麻衣，松本浩範，岩下光利，小林陽一：合併症のある過多月経、月

- 経困難症患者に対してレボノルゲストレルが有効であった症例. 第33回日本女性医学学会学術集会, 岐阜, 2018年11月3-4日.
60. 金田由香子, 三沢昭彦, 岡愛子, 宮崎典子, 井上慶, 村英三, 鈴木淳, 小林陽一: PIDとの鑑別診断に苦慮した虫垂穿孔の1例. 第33回日本女性医学学会学術集会, 岐阜, 2018年11月3-4日.
  61. 谷垣伸治: 妊娠初期の出生前診断とその後. 第65回埼玉KG会, 大宮, 2018年11月8日.
  62. Watanabe M, Shibuya H, Iwashita M, Kobayashi Y: A case of ovarian immature teratoma diagnosed after laparoscopic adnexectomy. The 19th Asia-Pacific Association for Gynecologic Endoscopy and Minimally Invasive Therapy Annual Congress. Indonesia, Nov. 8-11, 2018.
  63. 谷垣伸治: 妊娠関連TMAに対するTeam approach. 三多摩 Clinical excellence in TMA2018, 武蔵野, 2018年11月13日.
  64. 春名佑美, 百村麻衣, 渋谷英里子, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 坂本憲彦, 鈴木瞳, 田邊一成, 市川美穂, 岸本浩次, 鈴木淳, 長濱清隆, 柴原純二: 子宮頸部細胞診にて胃型粘液性癌が疑われた2症例. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2018年11月17日.
  65. 野口由香, 坂本憲彦, 岸本浩次, 水谷奈津子, 市川美穂, 田邊一成, 鈴木瞳, 川上真理子, 藤原正親, 長濱清隆, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 小林陽一, 柴原純二: 子宮外陰部・腔壁に発生した腺様嚢胞癌の1例. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2018年11月17日.
  66. 松島実穂, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 谷垣伸治, 小林陽一: 杏林における“働き方改革”〜個と組織、それぞれの変化〜. 第380回四水会, 東京, 2018年11月28日.
  67. 中山真恵, 松澤由記子, 富岡紀子, 北村亜也, 田中啓, 百村麻衣, 谷垣伸治, 岩下光利, 小林陽一: 生殖補助医療施行後に見後卵巣妊娠に至った1例. 第388回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2018年12月15日.
  68. 谷垣伸治: 広がる経腔超音波の臨床応用. 横浜市産婦人科医学会 平成30年度12月・月例研究会, 横浜, 2018年12月17日.
  69. 谷垣伸治: 現役医師による講演. 第3回東京都地域医療学生研修(3大学合同研修), 三鷹, 2018年12月17日.
  70. Takemori S, Tanigaki S, Matsushima M, Nishigaya Y, Iwashita M, Kobayashi Y: Obstetrics and gynecology simulation lecture for medical students and junior residents. 20th Congress of the Federation of Asia Oceania Perinatal Societies (FAOPS 2018), Philippines, Dec. 19, 2018.
  71. 谷垣伸治: ハンズオン, だからわかる! できる! 助産師が知っておきたい超音波検査. 助産師が知っておきたい超音波セミナー (MCメディア出版), 東京, 2019年1月20日.
  72. 松澤由記子, 谷垣伸治, 西ヶ谷順子, 小林陽一: 新規手術実施におけるシミュレーションの有用性と限界-EXITの1例から-. 第41回日本産婦人科手術学会, 東京, 2019年2月3日.
  73. 中野紗弓, 百村麻衣, 渋谷英里子, 春名佑美, 松本浩範, 岩下光利, 小林陽一: Peutz-Jeghers症候群に伴う子宮頸部胃型粘液性癌および輪状細管を伴う性索腫瘍の1例. 第389回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2019年2月16日.
  74. 小林陽一: 子宮頸がん診療に関するTips & Pitfall. 第28回山形県産婦人科腫瘍研究会, 山形, 2019年3月8日.
  75. 谷垣伸治: 今こそ切迫早産. 総合周産期母子医療センターセミナー, 福岡, 2019年3月8日.
  76. 谷垣伸治: 明日から活用できる安全管理, 妊産褥編. 東京都助産師会施設勤務部会企画講習会, 東京, 2019年3月15日.
  77. Machida H, Yamagami I, Kobayashi Y, Nagase S, Tabata T, Kaneuchi M, Ebina Y, Mikami M: Trends and characteristics of epithelial ovarian cancer in Japan: Jsgo-jsgo joint study. SGO 2019 Annual Meeting, USA, March 16, 2019.
  78. 谷垣伸治: 妊婦に対する超音波診断の知識と演習. 東京医療学院大学保健医学部看護学科超音波診断研修, 東京, 2019年3月16日.
- ### 論文
1. 谷垣伸治, 大沢草宣, 春名佑美, 鳥海玲奈, 松澤由記子, 岩下光利: CTGのお悩み解決Q&A. ペリネイタルケア 37(4):58-64, 2018.
  2. 野田清香, 金田由香子, 山田研二, 宮崎典子, 井上慶子, 木村英三, 鈴木淳, 百村麻衣, 小林陽一, 岩下光利 (立正佼成会附属佼成病院): 局所がIB期相当で血行性転移を呈した子宮体部高分化腺癌の1例. 東京産婦会誌 67(2):250-255, 2018.
  3. 大沢草宣, 長島隆, 富岡紀子, 北村亜也, 島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一, 岩下光利: 肺高血圧症合併妊娠の2例. 東京産婦会誌 67(2):354-357, 2018.
  4. 佐藤泰紀, 太田邦明<sup>1</sup>, 大石真希<sup>1</sup>, 吉田敬三<sup>1</sup>, 小林陽一, 白石悟<sup>1</sup>, 岩下光利 (那須赤十字病院): 婦人科腹腔鏡下手術時の体位に関する検討, 術後腕神経障害の発症経験から. 日産婦内視鏡会誌 34:139-142, 2018.
  5. 植山清香, 田中啓, 竹森聖, 鳥海玲奈, 山田研二, 井澤朋子, 古川誠志, 岩下光利: Reversible posterior leukoencephalopathy syndromeを伴った子癇発作後に Reversible cerebral vasoconstriction syndromeを合併した1例. 日周産期・新生児会誌 54(1):144-147, 2018.
  6. 佐藤泰紀, 長内喜代乃, 竹森聖, 渋谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 手術療法で良好な経過を得られた膀胱子宮内膜症の2例. 東京産婦会誌 67:499-504, 2018.
  7. Tanaka K, Watanabe M, Matsushima M, Matsuzawa Y, Izawa T, Nagashima T, Kobayashi Y, Iwashita M: Synergistic effects of tumor necrosis factor- $\alpha$  and insulin-like growth factor-I on survival of human trophoblast-derived BeWo cell line. Growth Horm IGF Res 41:34-41, 2018.
  8. Ebina Y<sup>1</sup>, Mikio M<sup>2</sup>, Nagase S<sup>3</sup>, Tabata T<sup>4</sup>, Kaneuchi M<sup>5</sup>, Tashiro H<sup>6</sup>, Mandai M<sup>7</sup>, Enomoto T<sup>8</sup>, Kobayashi Y, Katabuchi H<sup>9</sup>, Yaegashi N<sup>9</sup>, Udagawa Y<sup>10</sup>, Aoki D<sup>11</sup> (Kobe Graduate School of Medicine, <sup>2</sup>Tokai University School of Medicine, <sup>3</sup>Faculty of Medicine, Yamagata University, <sup>4</sup>Mie University Faculty of Medicine, <sup>5</sup>Otaru General Hospital, Faculty of Life Sciences, <sup>6</sup>Kumamoto University, <sup>7</sup>Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>8</sup>Niigata University School of Medicine, <sup>9</sup>Tohoku University Graduate School of Medicine, <sup>10</sup>Fujita Health University School of Medicine, <sup>11</sup>Keio University School of Medicine): Japan Society of Gynecologic Oncology guidelines 2017 for the treatment of uterine cervical cancer. Int J Clin Oncol 2018, <https://doi.org/10.1007/s10147-018-1351-y>.
  9. Tanaka K, Muraoka Y, Honda R, Izawa T, Tanigaki S, Kobayashi Y, Iwashita M: Significance of gestational weight gain in spontaneous onset of labor at term. J Obstet Gynaecol Res 44:1915-1921, 2018.
  10. 對馬可菜, 鳥海玲奈, 谷垣伸治, 春名佑美, 北村亜也, 田中啓, 松澤由記子, 岩下光利, 小林陽一: 先天性サイトメガロウイルス感染症の1例から見えた課題. 東京産婦会誌 67:748-751, 2018.
  11. 谷垣伸治, 中山真恵, 富岡紀子, 田中啓, 松澤由記子, 岩下光利, 小林陽一: ここは見逃すな! 症候からアプローチする母体合併症, 発熱. 産婦人科の実践 67:1065-1071, 2018.
  12. Nakamura M<sup>1</sup>, Umehara N<sup>2</sup>, Ishii K<sup>3</sup>, Sasahara J<sup>3</sup>, Kiyoshi K<sup>4</sup>, Ozawa K<sup>5</sup>, Tanaka K, Tanemoto T<sup>6</sup>, Ichizuka

- K<sup>1</sup>, Hasegawa J<sup>7</sup>, Ishikawa H<sup>8</sup>, Murakoshi T<sup>9</sup>, Sago H<sup>2</sup> (1>Showa University, 2>National Center for Child Health and Development, 3>Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health, 4>Hyogo Children's Hospital, 5>Miyagi Children's Hospital, 6>Jikei University Hospital, 7>St. Marianna University School of Medicine, 8>Kanagawa Children's Medical Center, 9>Seirei Hamamatus General Hospital): A poor long-term neurological prognosis is associated with abnormal cord insertion in severe growth-restricted fetuses. *J Perinat Med* 46:1040-1047, 2018.
13. Tanaka K, Watanabe M, Tanigaki S, Iwashita M, Kobayashi Y: Tumor necrosis factor- $\alpha$  regulates angiogenesis of BeWo cells via synergy of PlGF/VEGFR1 and VEGF - A/VEGFR2 axes. *Placenta* 74:24-27, 2018.
14. 富岡紀子, 澁谷裕美, 渡邊百恵, 松島実穂, 西ヶ谷順子, 井澤朋子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一岩下光利: 待機的治療を行った浸潤子宮頸癌合併妊娠の2例. *関東連合産科婦人科学会誌* 55: 505-510, 2018.
15. Nishi D<sup>1,2,3</sup>, Su KP<sup>4,5</sup>, Usuda K<sup>1,3</sup>, Pei-Chen Chang J<sup>4,5</sup>, Chiang YJ<sup>4</sup>, Chen HT<sup>4</sup>, Chien YC<sup>4</sup>, Guu TW<sup>4</sup>, Okazaki E<sup>3</sup>, Hamazaki K<sup>6</sup>, Susukida R<sup>3,7</sup>, Nakaya N<sup>8</sup>, Sone T<sup>9</sup>, Sano Y<sup>10</sup>, Ito H<sup>1</sup>, Isaka K<sup>1</sup>, Tachibana Y<sup>11</sup>, Tanigaki S, Suzuki T<sup>11</sup>, Hashimoto K<sup>12</sup>, Hamazaki T<sup>13</sup>, Matsuoka YJ<sup>1,14</sup> (1>Tokyo Medical University, 2>The University of Tokyo, 3>National Institute of Mental Health, 4>China Medical University Hospital, 5>King's College London, 6>Toyama University, 7>Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health, 8>Tohoku University, 9>Tohoku Fukushi University, 10>Toda Chuo Women's Hospital, 11>National Center for Child Health and Development, 12>Chiba University Center for Forensic Mental Health, 13>Toyama Janon Onsen Daini Hospital, 14>National Cancer Center Japan): The Efficacy of Omega-3 Fatty Acids for Depressive Symptoms among Pregnant Women in Japan and Taiwan: A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Trial (SYNCHRO: NCT01948596). *Psychother Psychosom.* 2018 Dec 12:1-3. doi: 10.1159/000495296.
16. 谷垣伸治: 助産師が超音波を学ぶ意義. *ペリネイタルケア* 38(1):12-16, 2019.
17. 松島実穂: 胸の正常・異常. *ペリネイタルケア* 38(1):25-30, 2019.
18. Nishigaya Y, Kobayashi Y, Matsuzawa Y, Hasegawa K<sup>1</sup>, Fukasawa I<sup>1</sup>, Watanabe Y<sup>2</sup>, Tokunaga H<sup>3</sup>, Yaegashi N<sup>3</sup>, Iwashita M (1>Dokkyo Medical University, 2>Tohoku Medical and Pharmaceutical University, 3>Tohoku University): Diagnostic value of combination serum assay of lactate dehydrogenase, D-dimer, and C-reactive protein for uterine leiomyosarcoma. *J Obstet Gynaecol Res* 45:189-194, 2019.
19. Nishi D<sup>1</sup>, Su KP<sup>2</sup>, Usuda K<sup>1</sup>, Chang JP<sup>2</sup>, Hamazaki K<sup>3</sup>, Ishima T<sup>4</sup>, Sano Y<sup>5</sup>, Ito H<sup>1</sup>, Isaka K<sup>1</sup>, Tachibana Y<sup>6</sup>, Tanigaki S, Suzuki T<sup>6</sup>, Hashimoto K<sup>4</sup>, Matsuoka YJ<sup>1</sup> (1>Tokyo Medical University, 2>China Medical University Hospital, 3>University of Toyama, 4>Chiba University Center for Forensic Mental Health, 5>Toda Chuo Women's Hospital, 6>National Center for Child Health and Development): Plasma estradiol levels and antidepressant effects of omega-3 fatty acids in pregnant women. *Brain Behav Immun.* 2019 Feb 15. pii: S0889-1591(18)31218-2. doi: 10.1016/j.bbi.2019.02.014.
20. Ogawa K<sup>1,2</sup>, Matsushima S<sup>1</sup>, Urayama KY<sup>1,3</sup>, Kikuchi N<sup>1</sup>, Nakamura N<sup>1</sup>, Tanigaki S, Sago H<sup>1,4</sup>, Satoh S<sup>5</sup>, Saito S<sup>6</sup>, Morisaki N<sup>1</sup> (1>National Center for Child Health and Development, 2>Tohoku University, 3>St Luke's International University, 4>Tohoku University, 5>Oita Prefectural Hospital, 6>University of Toyama): Association between adolescent pregnancy and adverse birth outcomes, a multicenter cross sectional Japanese study. *Sci Rep.* 2019 Feb 20;9(1):2365. doi: 10.1038/s41598-019-38999-5.
21. Makino S<sup>1,2</sup>, Takeda S<sup>1,2</sup>, Kondoh E<sup>1,3</sup>, Kawai K<sup>1,4</sup>, Takeda J<sup>2</sup>, Matsubara S<sup>1,5</sup>, Itakura A<sup>1,2</sup>, Sago H<sup>1,6</sup>, Tanigaki S, Tanaka M<sup>1,7</sup>, Ikeda T<sup>1,8</sup>, Kanayama N<sup>1,4</sup> (1>Japan Society of Obstetrics and Gynecology, 2>Juntendo University Faculty of Medicine, 3>Kyoto University, 4>Hamamatsu University School of Medicine, 5>Jichi Medical University, 6>National Center for Child Health and Development, 7>Keio University School of Medicine, 8>Mie University Graduate School of Medicine): National survey of uterine rupture in Japan: Annual report of Perinatology Committee, Japan Society of Obstetrics and Gynecology, 2018. *J Obstet Gynaecol Res.* 2019 Apr;45(4):763-765. doi: 10.1111/jog.13924. Epub 2019 Mar 10.
22. 谷垣伸治, 片山沙弥, 佐藤泰紀, 中山真恵, 富岡紀子, 植山清香, 北村亜也, 鳥海玲奈, 田中啓, 松島実穂, 松澤由記子: 院内助産・助産師外来における超音波検査. *周産期医学* 49(3):309-313, 2019.

### 著書

- 谷垣伸治, 芝田恵 (分担執筆): 膠原病と妊娠・授乳の基礎知識, 分娩時, 内科医のための基礎知識. 臨床医のための膠原病・リウマチ疾患と妊娠・授乳ハンドブック. 金子佳代子, 綿貫聡編. 東京, 南山堂, 2019. p.59-66.
- 芝田恵, 谷垣伸治 (分担執筆): 各疾患と妊娠・授乳, 妊娠合併症, 流産・早産. 臨床医のための膠原病・リウマチ疾患と妊娠・授乳ハンドブック. 金子佳代子, 綿貫聡編. 東京, 南山堂, 2019. p.223-228.
- 芝田恵, 谷垣伸治, 古屋仁美, 設楽理恵子, 入山高行 (分担執筆): 合併症を持つ女性の妊娠・妊娠中に見られる症状への対応. 女性の健康包括的支援のための診療ガイドブック. 東京, 東京大学医学部付属病院女性診療科・産科, 2019. p.63-82.
- 谷垣伸治 (単著): 超音波診断. 新版 助産師業務要覧 第3版 II 実践編 2019年版. 福井トシ子編. 東京, 日本看護出版協会, 2019. p.296-306.

### 報告書

- 上野昌江, 江原伯陽, 尾中志津香, 木内恵美, 佐藤拓代, 鈴鹿隆久, 谷垣伸治, 布施晴美: 小さく産まれた赤ちゃんへの保健指導のあり方に関する調査研究報告書. 平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業, 2019年3月.

### その他

- 田中啓: 第122回日本産科麻酔科学会学術集会大川賞受賞. 2018年11月22-23日.
- 谷垣伸治: Team STEEPSの基礎知識と演習, ファシリデータ. 平成30年度医療安全に関するワークショップ (関東甲信越厚生局). さいたま, 2018年12月5日.
- 谷垣伸治: 周産期ロールプレイ担当ファシリデータ. 第4回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会「ロールプレイ研修会」, 東京, 2018年12月15-16日.
- 谷垣伸治: さいたま市立高砂小学校第5学年 理科 特別授業「人のたんじょう」. さいたま, 2019年2月27日.

## 放射線医学教室

## 講演

- Gomyo M, Tsuchiya K, Machida H, Katase S, Ohara A, Tateishi H, Koyanagi M, Adachi T, Arai T, Yokoyama K: Demonstration of perforating arteries by ultra-high-resolution CT angiography. 第77回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2018年4月12-15日.
- 立石秀勝, 黒木一典, 町田治彦, 岩本敏彦, 荻安俊哉, 増田裕, 木下雄介, 渡邊正中, 志賀久恵, 湯田沙織, 横山健一: motion artifact の低減を目的とした dynamic density optimization の静脈系 IVR における有用性. 第77回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2018年4月12-15日.
- Ohara A, Machida H, Shiga H, Yamamura W, Arai T, Adachi T, Koyanagi M, Gomyo M, Hayashi M, Yokoyama K: Temporal Bone CT Evaluation of Middle Ear Cholesteatoma Using Ultra-high-resolution CT. The 77th Annual Meeting of the Japan Radiological Society, Yokohama, April 12th-15th, 2018.
- Nishikawa M, Machida H, Adachi T, Arai T, Yamamura W, Koyanagi M, Oda M, Kariyasu Y, Nitatori T, Yokoyama K: Clinical Usefulness of Ultra-high-resolution CT and Iterative Reconstruction for CT Virtual Bronchoscopy. The 77th Annual Meeting of the Japan Radiological Society, Yokohama, April 12th-15th, 2018.
- Shiga H, Machida H, Ohara A, Gomyo M, Kinoshita Y, Yamamura W, Arai T, Adachi T, Koyanagi M, Yokoyama K: Usefulness of Ultra-high-resolution CT for Improving Image Quality in Temporal Bone CT. The 77th Annual Meeting of the Japan Radiological Society, Yokohama, Japan, April 12th-15th, 2018.
- 町田治彦: 最近の心臓CT・MRIでわかること. 狛江市医師会学術講演会, 狛江, 2018年5月16日.
- Masuda Y, Kuroki K, Tateishi H, Kariyasu T, Kinoshita Y, Shiga H, Watanabe M, Nishikawa M, Yokoyama K: Efficacy of UAE using gelatin sponge particle for postpartum hemorrhage. The 47th annual meeting of the Japanese Society of Interventional Radiology, Tokyo, May 31-June 2, 2018
- 五明美穂: 「頭蓋内血管の“from A to Z”」～形態・動的・機能評価の基礎及び臨床応用から最近のTOPICSまで～. 第1回関東MR研究会・第41回SAITAMA MRI Conference合同特別講演会, 埼玉, 2018年6月23日.
- Machida H, Kuroki K, Adachi T, Yamamura W, Shiga H, Ohara A, Yokoyama K: Improved three-dimensional CT image quality of high contrast anatomies with an ultra-high-resolution CT scanner: initial clinical experience. Progress in Radiology 2018 (The 12th Symposium of the Japanese Scandinavian Radiological Society & the 15th Nordic Japan PACS Symposium), Norway, June 13th-15th, 2018
- 増田裕, 片瀬七朗, 立石秀勝, 荻安俊哉, 黒木一典, 志賀久恵, 渡邊正中, 横山健一, 藤原正親, 下山博明, 芝原純二: UAE後の持続性出血に対し単純子宮全摘術が選択された産後出血の一例, 第30回関東IVR研究会, 東京, 2018年7月7日.
- 荻安俊哉: 体幹部 MRI における deep learning reconstruction (DLR) の役割. 東京MRI研究会, 東京, 2018年7月14日.
- 町田治彦: 胸痛の画像診断. 吉祥寺画像診断セミナー, 武蔵野, 2018年7月21日.
- 横山健一: MRI対応型デバイスのアップデート. SCMR Japan WG Seminar 2018, 東京, 2018年8月4日.
- 五明美穂: 超高精細CTの特性を活かした中枢神経領域における当院での取り組みと臨床応用. Global Standard CT Symposium 2018, 東京, 2018年8月18日.
- Takahashi S, Gomyo M, Miyazaki I, Tsuchiya K, Kitamura M, Sueoka K, Yokoyama K: Basic study of T1 contrast in T1 weighted ultra-short TE sequence. 第46回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018年9月7-9日.
- Yoshioka T, Gomyo M, Miyazaki I, Tsuchiya K, Yokoyama K: Assessment of description and usefulness of ultra-short TE arterial spin labeling MR angiography using a self-made fluid phantom. 第46回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018年9月7-9日.
- Gomyo M, Tsuchiya K, Yoshioka T, Katase S, Ohara A, Miyazaki I, Yokoyama K: Assessment of postoperative cerebral aneurysm using MR angiography: comparison of 3D time-of-flight and ultra-short TE arterial spin labeling methods. 第46回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018年9月9日.
- 五明美穂: 脳神経領域におけるDeep Learningへの期待. 第46回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018年9月9日.
- Masuda Y, Tateishi H, Kariyasu T, Kuroki K, Kinoshita Y, Shiga H, Watanabe M, Yokoyama K: Ruptured duodenal varices successfully treated with balloon occluded retrograde obliteration (BRTO) through right gonadal vein. Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe, Portugal September 22th-25th, 2018.
- 横山健一: 心臓MRI 代表的疾患. (教育講演) 第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 福岡, 2018年10月5-7日.
- 増田裕, 町田治彦, 渡邊正中, 北村亜也, 田中啓, 谷垣伸治, 小林陽一, 黒木一典, 立石秀勝, 荻安俊哉, 志賀久恵, 横山健一, 森永圭吾, 岩元香保里, 木下雄介: 産科危機的出血のCT・DSA所見の検討. 第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 福岡, 2018年10月5-7日.
- 大原有紗, 石川牧子, 立石秀勝, 増田裕, 森永圭吾, 黒木一典, 船田さやか, 藤原正親, 菅間博, 佐藤大, 齋藤康一郎, 横山健一: 咽頭後間隙に発生したCastleman病の一例. 第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 福岡, 2018年10月5-7日.
- Machida H, Mochizuki J, Takaku H, Nishikawa M, Kariyasu T, Yokoyama K: Clinical applications of spectral cardiac CT in ischemic heart disease and various cardiomyopathies: what the radiologist needs to know. 104th Scientific Assembly and Annual Meeting Radiological Society of North America 2018, USA, November 25th-30th, 2018.
- 立石秀勝, 黒木一典, 町田治彦, 岩本敏彦, 荻安俊哉, 増田裕, 木下雄介, 渡邊正中, 志賀久恵, 湯田沙織, 横山健一: Clinical applications of dynamic density optimization in body digital angiography: what the radiologist needs to know. RSNA2018, USA, 2018年11月25-30日.
- Kariyasu T, Machida H, Koyanagi M, Fukushima K, Nishikawa M, Yamamura W, Arai T, Takahashi S, Shimizu Y, Shimomiya Y, Tsuboi M, Satoh T, Yokoyama K: Lung Subtraction Imaging by Single-energy CT for Evaluation of Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension Before and After Balloon Pulmonary Angioplasty. RSNA2018, USA. November 25th-30th, 2018.
- 町田治彦: Dual-energy CTの臨床的ポテンシャル. Advanced Imaging Seminar 2019, 東京, 2019年2月9日.
- Gomyo M, Tsuchiya K, Tajima T, Oya S, Shojima M, Matui T, Yokoyama K: Usefulness of Vessel Wall MR Imaging for Follow-up Study after Stent-assisted

Treatment of Intracranial Arterial Diseases. 第48回日本神経放射線学会, 久留米, 2019年2月14-16日.

28. 五明美穂: Deep Learningがもたらす高精細画像のインパクト. 第48回日本神経放射線学会, 久留米, 2019年2月14-16日.
29. 五明美穂, 土屋一洋: 出血性脳血管障害と頭蓋内血管壁イメージングの進歩. 第42回日本脳神経CI学会総会, 東京, 2019年3月1-2日.
30. 新井隆弘, 五明美穂, 土屋一洋, 小柳正道, 安達卓哉, 清水裕太, 中西章仁, 横山健一: 超高精細CTを用いた頭部3D-CTAにおける2048 matrix画像のトリミング再構成法の有用性. 第42回日本脳神経CI学会総会, 東京, 2019年3月1-2日.
31. 片瀬七朗: 胸腹部疾患の画像診断-救急外来での経験症例から. バイエル薬品社内勉強会, 東京, 2019年3月5日.

## 論文

1. 町田治彦: Dual energy CTの現状. インナービジョン 33:2-5, 2018.
2. Hen Y<sup>1</sup>, Takara A<sup>1</sup>, Iguchi N<sup>1</sup>, Utanohara Y<sup>1</sup>, Teraoka K<sup>1</sup>, Takada K<sup>1</sup>, Machida H, Takamisawa I, Takayama M<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>1</sup> (Sakakibara Heart Institute): High signal intensity on T2-weighted cardiovascular magnetic resonance image predicts life-threatening arrhythmic events in patients with hypertrophic cardiomyopathy patients. Circ J 82:1062-1069, 2018.
3. Hen Y<sup>1</sup>, Tsugu-Yagawa M<sup>1</sup>, Iguchi N<sup>1</sup>, Utanohara Y<sup>1</sup>, Takada K<sup>1</sup>, Machida H, Takara A<sup>1</sup>, Teraoka K<sup>1</sup>, Inoue K<sup>1</sup>, Takamisawa I<sup>1</sup>, Takayama M<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>1</sup> (Sakakibara Heart Institute): Prognostic value of cardiovascular magnetic resonance imaging for life-threatening arrhythmia detected by implantable cardioverter-defibrillator in Japanese patients with hypertrophic cardiomyopathy. Heart Vessels 33:49-57, 2018.
4. Abe H<sup>1</sup>, Iguchi N<sup>2</sup>, Utanohara Y<sup>2</sup>, Takada K<sup>2</sup>, Hen Y<sup>2</sup>, Machida H, Takeda N<sup>2</sup>, Sumiyoshi T<sup>2</sup> (The University of Tokyo, Sakakibara Heart Institute): Planimetry of the orifice area in aortic valve stenosis using phase-contrast cardiac magnetic resonance imaging. Int Heart J 59:77-80, 2018.
5. Takeuchi H<sup>1</sup>, Suzuki S<sup>2,3</sup>, Machida H, Ishikawa T<sup>3</sup>, Ueno E<sup>3</sup> (Fukujuji Hospital, Kitasato University, Tokyo Women's Medical University Medical Center East): Preliminary results: can dual-energy computed tomography help distinguish cardiogenic pulmonary edema and acute interstitial lung disease?. J Comput Assist Tomogr 42:39-44, 2018.
6. Masuda Y, Katase S, Yokoyama K: Traumatic pulmonary pseudocysts after blunt thoracic trauma: Case report. Japanese Journal of Diagnostic Imaging 36(2): 131-136, 2018.
7. 立石秀勝, 土屋一洋<sup>1</sup>, 五明美穂, 横山健一 (埼玉医科大学総合医療センター・放射線科): Multi-detector computed tomography(MDCT)を用いた脳腫瘍におけるCT perfusionおよびCT angiographyからの脳表画像の連続撮影に関する研究(原著論文). CI 研究 (0918-7073) 40(1):23-32, 2018.
8. 土岐真朗<sup>1</sup>, 仲田大輔<sup>2</sup>, 後藤知之<sup>1</sup>, 吉田翼<sup>1</sup>, 太田博崇<sup>1</sup>, 落合一成<sup>1</sup>, 権藤興一<sup>1</sup>, 渡邊俊介<sup>1</sup>, 倉田勇<sup>1</sup>, 岡野尚弘<sup>3</sup>, 小暮正晴<sup>4</sup>, 松木亮太<sup>4</sup>, 横山政明<sup>4</sup>, 立石秀勝, 鈴木裕<sup>4</sup>, 柴原純二<sup>5</sup>, 古瀬純司<sup>3</sup>, 杉山政則<sup>4</sup>, 森秀明<sup>1</sup>, 久松理一<sup>1</sup>: (1)杏林大・消化器内科, (2)東ソー(株), (3)杏林大・腫瘍内科, (4)杏林大・消化器外科, (5)杏林大・病理学): 新規膵臓癌診断マーカーである糖鎖修飾リボスクレアーゼ 1(RNase1)の有用性の検討(会議録). 膵臓(0913-0071)33(3):498, 2018.

9. 大原有紗, 土屋一洋<sup>1</sup> (埼玉医科大学総合医療センター・放射線科): 頭蓋底の腫瘍性病変. 臨床画像 34: 734-740, 2018.
10. 志賀久恵, 町田治彦, 辺泰樹<sup>1</sup>, 横山健一 (榊原記念病院・循環器内科): 心筋疾患. 臨床画像 34(4):134-148, 2018.
11. 西川真木子, 町田治彦, 渡邊正中, 立石秀勝, 荻安俊哉, 横山健一, 辺泰樹<sup>1</sup> (榊原記念病院・循環器内科): 胸部 X線写真: 心大血管病変. 一臨床所見 35:50-64, 2019.
12. 町田治彦: マルチモダリティによる心臓画像診断のトレンドー非侵襲的にどこまで迫れるか. インナービジョン 34:3-5, 2019.

## 著書

1. 五明美穂: 超高精細CTの特性を活かした中枢神経領域における当院での取り組みと臨床応用. インナービジョン 12月号 別冊付録, 2018.
2. 五明美穂: AI時代のMRI画像診断 脳神経領域におけるDeep Learningへの期待. 画像診断39(2), 東京, 学研メディカル秀潤社. 2019.
3. 大原有紗, 土屋一洋 (分担執筆): Chapter XI 頭蓋底の腫瘍性病変. 誰も教えてくれなかった! 頭蓋・顔面病変の画像診断. 土屋一洋編集. 東京, メジカルビュー社, 2019. p.124-140.

## その他

1. 受賞 Hidekatsu Tateishi: Education Exhibit Certificate of Merit RSNA 2018, CHICAGO, 2018年11月25-30日.
2. 受賞報告 立石秀勝: 月刊インナービジョン Vol.34 No.2.p63 2019年1月25日発行.

## 放射線腫瘍学教室

## 講演

1. Miyamoto T, Sawaki M, Yoshimura A, Fujisawa T, Kawamura M, Ebara T, Ando K, Eishima J, Tachibana H, Kodaira T, Kikumori T, Yanagita Y, Iwata H: Multicenter Phase II study of Intraoperative radiation therapy in early breast cancer in Japan. 10th INTERNATIONAL SOCIETY OF INTRAOPERATIVE RADIATION THERAPY (ISIRI) Conference, Germany, July 6th-7th, 2018.
2. Ando K, Akasaka H, Eishima J, Ebara T: Efficacy of in-room computed tomography-based brachytherapy for cervical cancer of uterine. AMERICAN BRACHYTHERAPY SOCIETY - 2018 ABS ANNUAL MEETING, USA, July 7th-9th, 2018.
3. Ando K, Eishima J, Ebara T: Comparison of clinical outcomes of patients with uterine cervical cancer between two-dimensional planning and computed tomography-based image-guided brachytherapy. The 3rd Annual Meeting Federation of Asian Organization for Radiation Oncology (FARO), Indonesia, September 6th-8th, 2018.
4. Eishima J, Ando K, Ebara T: Moderate hypofractionated intensity-modulated radiotherapy for localized prostate cancer. The 3rd Annual Meeting Federation of Asian Organization for Radiation Oncology (FARO), Indonesia, September 6th-8th, 2018.
5. 安藤謙, 赤坂博美, 永島潤, 江原威: 子宮頸癌における治療室内CTを用いた画像誘導小線源治療の有用性. 日本放射線腫瘍学会小線源治療部会, つくば, 2018年6月22-23日.
6. 江原威, 安藤謙, 永島潤, 今井久雄, 湊浩一, 解良恭一: 局所進行肺癌に対するカルボプラチン/nab-パクリタキセルの化学放射線療法第I相試験. 日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018年10月11-13日.

7. 安藤謙, 赤坂博美, 永島潤, 江原威: 子宮頸癌における治療室内CTを用いた画像誘導小線源治療の有用性. 日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018年10月11-13日.
8. 永島潤, 安藤謙, 江原威, 清水信明, 玉木義雄: 前立腺癌に対する中程度寡分割強度放射線治療 (64.4Gy/23回, 週3回法) の5年間の成績. 日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018年10月11-13日.
9. 安藤謙, 永島潤, 江原威: 子宮体癌に対するRotteアプリーターを用いたIGBTの初期治療成績. 日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018年10月11-13日.
10. 石田直哉, 安藤謙, 樋口雅則, 永島潤, 江原威, 佐々木保, 新垣理宜: 頭頸部IMRTにおいてマウスピース装着が固定精度に与える影響. 日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018年10月11-13日.
11. 小林真彩, 安藤謙, 石垣早百合, 中村和人, 永島潤, 江原威, 香取美智恵: 子宮頸癌同時化学放射線療法におけるシスプラチン投与が排便状況に与える影響. 日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018年10月11-13日.
12. 赤坂博美, 安藤謙, 福田淳子, 永島潤, 江原威, 茂木真由美: 乳房温存療法後照射患者の非アルコール性被膜スプレー塗布による放射線皮膚炎への影響. 日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018年10月11-13日.
13. 江原威: 肺癌の放射線治療. がん診療連携拠点病院勉強会, 太田, 2019年2月15日.
14. 福田淳子, 茂木真由美, 赤坂博美, 江原威: 頭頸部領域へ放射線療法を受ける通院患者の粘膜炎の症状マネジメントの課題. 福岡, 2019年2月23-24日.

## 論文

1. Saitoh JI<sup>1</sup>, Shirai K<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Kubo N<sup>1</sup>, Ebara T, Ohno T<sup>1</sup>, Minato K<sup>2</sup>, Saito R<sup>3</sup>, Yamada M<sup>4</sup>, Nakano T<sup>1</sup>; WORKING GROUP OF THE LUNG TUMOR (1Gunma University Heavy Ion Medical Center, 2Gunma Prefectural Cancer Center, 3National Hospital Organization Shibukawa Medical Center, 4Gunma University Graduate School of Medicine): A Phase I Study of Hypofractionated Carbon-ion Radiotherapy for Stage III Non-small Cell Lung Cancer. *Anticancer Res.* 38(2):885-891, 2018. DOI: doi:10.21873/anticancer.12298
2. Kaira K<sup>1</sup>, Ono A<sup>1</sup>, Kamide Y<sup>1</sup>, Sunaga N<sup>1</sup>, Koga Y<sup>1</sup>, Saitoh JI<sup>1</sup>, Shirai K<sup>1</sup>, Ebara T, Hisada T<sup>1</sup>, Ishizuka T<sup>2</sup> (1Gunma University Graduate School of Medicine, 2University of Fukui): Phase I dose escalation study of pemetrexed and concurrent thoracic radiation in elderly patients with non-squamous non-small-cell lung cancer. *J Radiat Res.* 60(2):228-233, 2019. DOI: 10.1093/jrr/rry058

## その他

1. 戸成綾子: 平成30年度がん看護研修会公開講演会. がん患者の相談者になる 放射線治療編, 杏林大学病院第一会議室 2018年9月1日.

## 麻酔科学教室

## 講演

1. 渡辺邦太郎, 森山久美, 澤田龍二, 徳嶺譲芳, 萬知子: 実験動物における短軸像平行法と短軸像交差法による大腿神経カテーテル留置の薬液の広がり方の違い. 日本区域麻酔学会第5回学術集会, 大阪, 2018年4月13-14日.
2. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオン・セミナー. 関東労災病院, 川崎, 2018年4月14日.
3. Yorozu T, Tokumine J, Moriyama K, Shiokawa Y: Predictive factors of the mechanical complications of central venous catheterization: a multivariate analyses of case records over five years at a university hospital. The

- 92<sup>nd</sup> International Anesthesia Research Society, USA, Apr 28, 2018.
4. 鶴澤康二: 気道確保における超音波の役割-気道管理に超音波は有効か?. 第65回日本麻酔科学会, 横浜, 2018年5月17日.
5. 中澤春政: 超音波ガイド下輪状甲状靭帯穿刺におけるシミュレーショントレーニングの有用性. 第65回日本麻酔科学会, 横浜, 2018年5月17日.
6. 徳嶺譲芳: 「中心静脈穿刺の合併症を防ぐ」リフレッシュコース (アドバンス). 日本麻酔科学会第65回学術集会, 横浜, 2018年5月17日.
7. 中澤春政, 辻大介, 田嶋佳代子, 鶴澤康二, 萬知子, 金木正夫: 重症熱傷に合併したミトコンドリア機能障害に対するCoenzyme Q10の効果の検討: マウス熱傷モデルを用いて. 第65回日本麻酔科学会, 横浜, 2018年5月17日.
8. 森山久美, 鈴木史絵, 萬知子: 周術期薬剤管理. 第65回日本麻酔科学会, 横浜, 2018年5月18日.
9. 本保晃, 坂本三樹, 丹保亜希仁, 釜田峰都: コラボレーション手術のコーディネーター. 第65回日本麻酔科学会, PBLD横浜, 2018年5月18日.
10. 森山潔, 吉田真里, 大川友之, 佐和貞治, 萬知子: 非人工呼吸関連肺炎患者における緑膿菌III型毒素分泌システムの発現. 第65回日本麻酔学会総会, 横浜, 2018年5月18日.
11. 渡辺邦太郎, 森山久美, 山科元範, 徳嶺譲芳, 萬知子: 神経障害モデルラットにおける神経障害性疼痛治療薬プレガバリンによるめまいの評価方法の検討. 日本麻酔学会第65回学術集会, 横浜, 2018年5月18日.
12. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオン・セミナー. 東大和病院, 東大和, 2018年6月2日.
13. Hakone M, Tokumine J, Matsushima H, Asao T, Kikuchi M, Tanaka K: Skill assessment of simulation training for ultrasound-guided central venous catheterization. The 5<sup>th</sup> World Congress on Vascular Access 2018, Denmark, June 21, 2018.
14. 萬知子: 外科系女性医師の研修・職場の課題とは? 女性麻酔科医の研修・職場の課題. 日本外科系連合学会第43回学術集会, 東京, 2018年6月22日.
15. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオン・セミナー. 済生会松阪総合病院, 松阪, 2018年6月29日.
16. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオン・セミナー. 中部ろうさい病院, 名古屋, 2018年6月30日.
17. 鶴澤康二: 重症病態におけるHESの役割について~動物実験から新たに分かったHESの局在性~. 周術期の輸液・栄養管理に関する3領域合同検討会 第4回 Advisory Board Meeting, 東京, 2018年7月1日.
18. 池田哲也, 森山久美, 萬知子, 加賀あかり, 齋藤英昭, 松田剛明, 齋藤康一郎: 周術期管理センターにおいて口腔評価を行うことで得られた事象. 日本外科代謝栄養学会第55回学術集会, 大阪, 2018年7月6日.
19. 徳嶺譲芳: 2018年度 第1回CVC研修会. 日本医療機能評価機構, 東京, 2018年7月6日.
20. 渡辺邦太郎, 森山久美, 鶴澤康二, 徳嶺譲芳, 鎮西美栄子: ラット神経絞扼モデルにおける、プレガバリンによるめまいに対する半夏白朮天麻湯の効果. 日本ペインクリニック学会第52回大会, 東京, 2018年7月19日.
21. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオン・セミナー. 豊見城中央病院, 豊見城, 2018年7月28日.
22. 鶴澤康二, 牛山明, 萬知子: 目標思考型輸液管理戦略の提言~重症病態下HES製剤投与による末梢循環環境からの考察~. 第4回輸液管理研究会, 東京, 2018年8月4日.
23. 徳嶺譲芳: 2018年度 第2回CVC研修会. 日本医療機能評価機構, 東京, 2018年8月17日.

24. 徳嶺譲芳：細径血管確保セミナー．杏林大学医学部麻酔科学教室，三鷹，2018年8月25日．
25. 松田伶奈，満田真吾，徳嶺譲芳，萬知子：中心静脈路が確保困難な患者で、末梢挿入型中心静脈カテーテルPICC挿入が可能だった1例．関東甲信越・東京支部第58回合同学術集会，東京，2018年9月1日．
26. 元山宏展，澤田龍治，横田泰佑，渡辺邦太郎，森山久美，鎮西美栄子：三叉神経鞘腫摘出術後に持続していた三叉神経痛に対してデュロキセチンが著効した症例．関東甲信越・東京支部第58回合同学術集会，東京，2018年9月1日．
27. 吉川貴紘，関口路子，安藤直朗，本保晃，小谷真理子，徳嶺譲芳：右内頸静脈カテーテルの予期せぬ薬液血管外漏出の1例．関東甲信越・東京支部第58回合同学術集会，東京，2018年9月1日．
28. 谷合誠一，伊藤準之助，森山久美，萬知子，吉野秀朗：非心臓手術の周術期における心血管イベントの発症の特徴．第66回日本心臓病学会学術集会，大阪，2018年9月7-9日．
29. 徳嶺譲芳：第126回CVC指導者養成コース．日本医学シミュレーション学会，秋田，2018年9月9日．
30. 徳嶺譲芳：第184回CVC実践セミナー．日本医学シミュレーション学会，秋田，2018年9月9日．
31. 中澤春政：今から始める周術期管理チーム．日本心臓血管麻酔学会第23回学術大会，東京，2018年9月14日．
32. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下観血的動脈圧ライン確保ハンズオン・セミナー．第23回日本心臓血管麻酔学会学術集会，東京，2018年9月15日．
33. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺プロフェッショナルコース．第23回日本心臓血管麻酔学会学術集会，東京，2018年9月15日．
34. 足立智，辻大介，神保一平，中澤春政，萬知子：重症下肢虚血に対し長時間の血行再建術(distal bypass)を硬膜外麻酔で管理した2例．日本心臓血管麻酔学会第23回学術大会，東京，2018年9月15日．
35. Ando T, Nakazawa H, Uzawa K, Yorozu T: The necessity of "double setup" preparation and simulation training for emergent cricothyroidotomy for patient with deviation of trachea. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists 2018, USA, Oct 15, 2018.
36. 徳嶺譲芳：PICCハンズオン・セミナー．板橋中央総合病院，東京，2018年10月27日．
37. 渡辺邦太郎：日本臨床麻酔学会第38回大会，末梢神経ブロックハンズオンセミナー，インストラクター，北九州，2018年11月1-3日．
38. 腰原末沙，神保一平，鯨島圭，鶴澤康二，徳嶺譲芳，萬知子：移動する咽頭異物に対して気道超音波が有効であった1例．日本臨床麻酔学会第38回大会，北九州，2018年11月2日．
39. 鶴澤康二：重症病態でのグリコカリックスの役割 ～大量出血アニマルモデルによる研究と臨床への架け橋～．日本臨床麻酔学会第38回大会，北九州，2018年11月2日．
40. 江間章悟，中澤春政，神山智幾，森山潔，徳嶺譲芳，萬知子：高度肥満患者の静脈路確保にMidlineが有効であった一例．日本臨床麻酔学会第38回大会，北九州，2018年11月3日．
41. 谷合誠一，長谷川浩，萬知子，神崎恒一：高齢者外科手術の周術期における高齢者総合機能評価(CGA)を用いたフレイル・サルコペニアの評価．第5回日本サルコペニア・フレイル学会大会，東京，2018年11月10日．
42. 横田泰佑，徳嶺譲芳，神保一平，神山智幾，森山久美，萬知子：静脈路確保困難のためミッドラインカテーテルを超音波ガイド下に留置した全身熱傷後の瘢痕ケロイド拘縮の1例．第47回杏林医学会総会，三鷹，2018年11月17日．
43. Khairul Idzam Bin Muslim, Moriyama K, Nakazawa H, Moriyama K, Chinzei M, Yorozu T: Communicating with foreign patients in Japan. 第47回杏林医学会総会，三鷹，2018年11月17日．
44. 徳嶺譲芳：中心静脈穿刺の致命的合併症：死に至るプロセスをくいとめる！：中心静脈穿刺がなぜ危ないのか？安全な中心静脈穿刺とは？．第80回日本臨床外科学会総会，東京，2018年11月23日．
45. 徳嶺譲芳：2018年度 第3回CVC研修会 日本医療機能評価機構．東京，2018年11月30日．
46. 徳嶺譲芳：ルートが取れない、どうする？．周術期管理セミナー，東京，2018年12月1日．
47. 中澤春政：始めよう！術後疼痛管理チームmultimodalでseamlessな鎮痛を目指して．周術期管理セミナー，東京，2018年12月1日．
48. Khairul Idzam, 本保晃：カイラル先生の周術期英会話．周術期管理セミナー，東京，2018年12月1日．
49. 森山久美：周術期管理センターの今．周術期管理セミナー，東京，2018年12月1日．
50. 徳嶺譲芳：第128回CVC指導者養成コース．日本医学シミュレーション学会，群馬，2018年12月16日．
51. 徳嶺譲芳：第188回CVC実践セミナー．日本医学シミュレーション学会，群馬，2018年12月16日．
52. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下PICC（ベーシック・コース）．国立病院機構災害医療センター，立川，2018年12月20日．
53. 徳嶺譲芳：第130回CVC指導者養成コース．日本医学シミュレーション学会，水戸，2018年12月22日．
54. 徳嶺譲芳：第190回CVC実践セミナー．日本医学シミュレーション学会，水戸，2018年12月22日．
55. 徳嶺譲芳：第129回CVC指導者養成コース．日本医学シミュレーション学会，群馬，2019年1月5日．
56. 徳嶺譲芳：第189回CVC実践セミナー．日本医学シミュレーション学会，群馬，2019年1月5日．
57. 徳嶺譲芳：2018年度 第4回CVC研修会．日本医療機能評価機構，東京，2019年1月11日．
58. 徳嶺譲芳：第2回CVCアップデートコース．第14回日本医学シミュレーション学会学術集会，高槻，2019年1月12日．
59. 徳嶺譲芳：第186回CVC実践セミナー．第14回日本医学シミュレーション学会学術集会，高槻，2019年1月12日．
60. 徳嶺譲芳：第30回周術期危機管理セミナー．第14回日本医学シミュレーション学会学術集会，高槻，2019年1月12日．
61. 本保晃：第30回周術期危機管理セミナー．第14回日本医学シミュレーション学会学術集会，高槻，2019年1月12日．
62. 谷合誠一，伊藤準之助，森山久美，萬知子，吉野秀朗：非心臓手術症例における生活習慣病危険因子の年齢別保有率と周術期心合併症の関係．第53回日本成人病(生活習慣病)学会，東京，2019年1月13日．
63. 本保晃：The effectiveness of SGA(i-gel) in obstetric anesthesia. 第13回気道管理シンポジウム，東京，2019年1月18日．
64. 鶴澤康二：周術期体液管理 最近の話題．チーム医療CE研究会東日本主催新春セミナー，東京，2019年1月20日．
65. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオン・セミナー．沖縄県立中部病院，うるま，2019年1月25日．
66. 徳嶺譲芳：PICCセミナー．諏訪中央病院，諏訪，2019年2月1日．
67. 森山潔：周術期医療と医療安全 事例検討会．周術期センター，5回日本医療安全学会学術総会，東京，2019年2月9日．
68. 徳嶺譲芳：第193回CVC実践セミナー．日本医学シミュレーション学会，諏訪，2019年2月9日．

69. 渡辺邦太郎 (座長) 櫻井裕之: 神経障害性疼痛治療薬によるめまいに対する半夏白朮天麻湯の効果について. 第36回杏林東洋医学研究会学術講演会, 三鷹, 2019年2月13日.
70. 徳嶺譲芳: エコーガイド下PICC・末梢静脈トレーニングセミナー. 第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 東京, 2019年2月15日.
71. 中澤春政: Difficult Airway Managementにおけるカプノメーターの役割と効果的なシミュレーショントレーニング. 神奈川麻酔科医会, 横浜, 2019年2月16日.
72. Khairul Idzam Bin Muslim, Moriyama K, Nakazawa H, Moriyama K, Tokumine J, Chinzei M, Yorozu T: Regional Anesthesia Fellowship Training in Malaysia. 多摩麻酔懇話会第30回大会, 東京, 2019年2月16日.
73. 徳嶺譲芳: 第191回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会, 静岡, 2019年2月23日.
74. 徳嶺譲芳: エコーガイド下ガイド下PICC・末梢静脈トレーニングセミナー. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019年3月3日.
75. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオン・セミナー(バーシック). 岡山大学病院麻酔科蘇生科, 岡山, 2019年3月8日.
76. 鶴澤康二: 過去-現在 Patient First Anesthesia とは? 15年前と比べて麻酔の質は向上したのか?. 東京・埼玉・多摩周術期循環モニタリングセミナー, 東京, 2019年3月9日.
77. 徳嶺譲芳: 第131回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会, 福島, 2019年3月23日.
78. 徳嶺譲芳: 第195回CVC実践セミナー, 日本医学シミュレーション学会, 福島, 2019年3月23日.
- (<sup>1</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>2</sup>Osaka University): The protective effects of nasal PcrV-CpG oligonucleotide vaccination against *Pseudomonas aeruginosa* pneumonia. *Microbiol Immunol*.62: 774-785,2018.
7. 田口敦子, 森山久美, 鈴木史絵, 萬知子: 手術中止理由からみる周術期管理センターの役割について. *日臨床会誌* 39(2):135-140, 2019.
8. 鶴澤康二, 渡辺邦太郎, 森山久美: 重症下肢虚血における再建術, 切断術時の麻酔管理. *杏林医会誌*. 50 (1) : 19-26. 2019.
9. Yokota T, Tokumine J, Lefor AK<sup>1</sup>, Hasegawa A, Yorozu T, Asao T<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Jichi Medical University, <sup>2</sup>Gunma University): Ultrasound-guided placement of a midline catheter in a patient with extensive postburn contractures: A Case report. *Medicine (Baltimore)*. 98(3): e14208, 2019. DOI: 10.1097/MD.000000000014208
10. Mitsuda S, Tokumine J, Matsuda R, Yorozu T, Asao T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Gunma University): PICC insertion in the sitting position for a patient with congestive heart failure: A case report. *Medicine (Baltimore)*. 98(6): e14413, 2019. DOI: 10.1097/MD.000000000014413
11. Katayama A, Nakazawa H, Tokumine J, Lefor AK<sup>1</sup>, Watanabe K, Asao T<sup>2</sup>, Yorozu T (<sup>1</sup>Jichi Medical University, <sup>2</sup>Gunma University): A high-fidelity simulator for needle cricothyrotomy training is not associated with increased proficiency compared with conventional simulators: A randomized controlled study. *Medicine (Baltimore)*. 98(8): e14665, 2019. DOI: 10.1097/MD.000000000014665
12. Saijo F<sup>1</sup>, Mutoh M<sup>1</sup>, Tokumine J, Odaka Y<sup>2</sup>, Hama H<sup>1</sup>, Namima T<sup>1</sup>, Shibahara M<sup>1</sup>, Tokumura H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tohoku Rosai Hospital, <sup>2</sup>University of Cincinnati Blue Ash College): Late fracture of Groshong ports: A report of the three cases. *J Vasc Access*. 129729819834512, 2019. DOI: 10.1177/1129729819834512
13. Nakazawa H, Ikeda K<sup>2</sup>, Shinozaki S<sup>1</sup>, Yasuhara S<sup>1</sup>, Yu YM<sup>1</sup>, Martyn JAJ<sup>1</sup>, Tompkins RG<sup>1</sup>, Yorozu T, Inoue S<sup>2</sup>, Kaneki M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Harvard Medical School, Massachusetts General Hospital, <sup>2</sup>Saitama medical University). Coenzyme Q10 protects against burn-induced mitochondrial dysfunction and impaired insulin signaling in mouse skeletal muscle. *FEBS Open Bio*. 2019 Jan 19;9(2):348-363. DOI: 10.1002/2211-5463.12580. eCollection 2019 Feb.

## 論文

1. 中澤春政, 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺に垣間見るトリックアートの世界. *Cardiovasc Anesth* 22(1):25-31, 2018.
2. Higuchi S<sup>1</sup>, Kabeya Y<sup>2</sup>, Matsushita K<sup>1</sup>, Tachibana K<sup>3</sup>, Kawachi R<sup>4</sup>, Takei H<sup>3</sup>, Suzuki Y<sup>5</sup>, Abe N<sup>2</sup>, Imanishi Y<sup>6</sup>, Moriyama K, Yorozu T, Saito K<sup>7</sup>, Sugiyama M<sup>5</sup>, Kondo H<sup>3</sup>, Yoshino H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Division of Cardiology, Department of Internal Medicine II, Kyorin University, <sup>2</sup>Tokai University, <sup>3</sup>Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University, <sup>4</sup>Nihon University, <sup>5</sup>Department of Surgery, Kyorin University, <sup>6</sup>Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, <sup>7</sup>Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University). The study protocol for PREDICT AF RECURRENCE: a PROspective cohort study of surveillance for perioperative Atrial Fibrillation RECURRENCE in major non-cardiac surgery for malignancy. *BMC Cardiovasc Disord* 18: 127.2018.
3. 森山潔: 集中治療室における感染サーベイランスと緑膿菌(会議録). 緑膿菌感染症研究会講義録 2018: 122-124, 2018.
4. Wada N, Tashima K, Motoyasu A, Nakazawa H, Tokumine J, Chinzei M, Yorozu T: Anesthesia for patient with anti-N-methyl-D-aspartate receptor encephalitis: A case report with a brief review of the literature. *Medicine (Baltimore)*. 97(50): e13651,2018. DOI: 10.1097/MD.000000000013651
5. Watanabe K, Tokumine J, Lefor AK<sup>1</sup>, Motoyasu A, Moriyama K, Yorozu T (<sup>1</sup>Jichi Medical University): A Shallow Angle Short-Axis Out-of-Plane Approach Reduces the Rate of Posterior Wall Injuries in Central Venous Catheterization: A Simulation Study. *Biomed Res Int*. eCollection 2018:4793174, 2018. DOI: 10.1155/2018/4793174
6. Naito Y<sup>1</sup>, Hamaoka S<sup>1</sup>, Kinoshita M<sup>1</sup>, Kainuma A<sup>1</sup>, Shimizu M<sup>1</sup>, Katoh H<sup>1</sup>, Moriyama K, Ishii KJ<sup>2</sup>, Sawa T

## 著書

1. 徳嶺譲芳, 松島久雄 (分担執筆): 1 超音波ガイド下中心静脈穿刺が標準手技となった理由. 特集 超音波ガイド下中心静脈穿刺: 理解と実践のための第一歩. 日本医事新報. 松島久雄監修. 東京, 日本医事新報社, 2018. 27巻4922号p27-32.
2. 徳嶺譲芳, 五十嵐寛 (分担執筆): 2 中心静脈穿刺の医療事故の遠因は教育にある! . 特集 超音波ガイド下中心静脈穿刺: 理解と実践のための第一歩. 日本医事新報. 松島久雄監修. 東京, 日本医事新報社, 2018. 27巻4922号p33-38.
3. 徳嶺譲芳, 湯浅晴之 (分担執筆): 3 超音波ガイド下中心静脈穿刺: ピットフォールと手技の実際, 特集 超音波ガイド下中心静脈穿刺: 理解と実践のための第一歩. 日本医事新報. 松島久雄監修, 東京, 日本医事新報社, 2018. 27巻4922号p39-46.
4. 徳嶺譲芳 (分担執筆): 中心静脈穿刺の致命的合併症を防ぐ新たな仕組み (3) 機械的合併症 (続き) 「カテーテルの迷入」. 医療安全レポート. 小泉俊三編集. 東京, 一般社団法人医療安全全国共同行動, 2018. No.13 p9-12.
5. 徳嶺譲芳, 安藤直朗 (分担執筆): 中心静脈穿刺の致命的合併症を防ぐ新たな仕組み (4) 「カテーテル関連血流感染」.

医療安全レポート. 小泉俊三編集. 東京, 一般社団法人医療安全全国共同行動, 2018. No.16 p7-8.

6. 萬知子, 鶴澤康二: 上手な覚醒のやり方. 麻酔科研修ノート改訂第3版. 稲田英一, 上村裕一, 土田英昭, 村川雅洋, 永井良三監修. 東京, 診断と治療社, 2018. P453-455.
7. Tokumine J, Lefor AK: Vascular Access and Hemodynamic Monitoring Part IX. Central Venous Access-Simulation Training (Lefor's Corner 28). Intensivist. Editon: Egi M, Ohshimo S, Yashuda H. Tokyo, MEDSi, 2018. vol 10 p476-479.
8. Ando T, Lefor AK, Tokumine J: Vascular Access and Hemodynamic Monitoring Part XII. Arterial Lines III: Ultrasound-guided radial artery catheterization. (Lefor's Corner 31). Intensivist. Editon: Makino J, Fujitani S. Tokyo, MEDSi, 2019. vol 11 p214-219.

#### その他

1. 渡辺邦太郎: 杏林医学会第7回研究奨励賞, 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
2. 鎮西美栄子: 平成30年度がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会集合研修企画責任者, 三鷹, 2018年11月3日.

#### 臨床検査医学教室

#### 講演

1. 小島洋平, 阿部展次, 大塚弘毅, 吉本恵理, 近藤恵里, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 大西宏明, 正木忠彦, 森俊幸, 渡邊卓, 杉山政則: 十二指腸腺腫・腺癌におけるSTK11の変異頻度. 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5-7日.
2. 牧野博, 忠岡太慶, 高橋桂子, 山本美里, 沼野井恵, 奥山貴洋, 石井隆浩, 須藤恵美, 小倉航, 岡崎ゆり子, 小島直美, 関口久美子, 高城靖志, 天木祥子, 細井健一郎, 山崎聡子, 大西宏明, 渡邊卓: Jra不適合妊娠が原因と考えられる胎児水腫をきたした一例. 第66回日本輸血・細胞治療学会総会, 宇都宮, 2018年5月24-26日.
3. 沼野井恵, 忠岡太慶, 高橋桂子, 山本美里, 奥山貴洋, 石井隆浩, 牧野博, 須藤恵美, 岡崎ゆり子, 小島直美, 関口久美子, 高城靖志, 山崎聡子, 大西宏明, 渡邊卓: 分泌型para-Bombay(ABmh)型の一例. 第66回日本輸血・細胞治療学会総会, 宇都宮, 2018年5月24-26日.
4. 花輪智子, 荒木光二, 大西宏明, 神谷茂, 松田剛明, 丹治保典, 宮永一彦: バクテリアファージのMRSA臨床分離株を用いた宿主域の決定. 第92回日本感染症学会学術講演会・第66回日本化学療法学会総会 合同開催, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
5. 米谷正太, 荒木光二, 吉田博昭, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸, 大西宏明: 当院におけるカンジダ血症の臨床的検討 B-Dグルカン値の視点から. 第92回日本感染症学会学術講演会・第66回日本化学療法学会総会 合同開催, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
6. 大西宏明: 非結核性抗酸菌症の最前線 新しく同定された非結核性抗酸菌 (*M.kyrorinense*を中心として). 第92回日本感染症学会学術講演会・第66回日本化学療法学会総会 合同開催, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
7. 米谷正太, 荒木光二, 井田陽子, 本間慎太郎, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸, 大西宏明, 渡邊卓: *Neisseria skkuensis*による感染性内膜炎の1例. 第92回日本感染症学会学術講演会・第66回日本化学療法学会総会 合同開催, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
8. 本間慎太郎, 米谷正太, 井田陽子, 荒木光二, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸, 大西宏明, 渡邊卓: 血液培養から *Clostridium tertium* が分離された2症例. 第92回日本感染症

学会学術講演会・第66回日本化学療法学会総会 合同開催, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.

9. 牧野博, 井田陽子, 本間慎太郎, 米谷正太, 荒木光二, 河合弘子, 西圭史, 佐野彰彦, 河合伸, 神谷茂, 大西宏明, 渡邊卓: 各種抗菌薬に耐性傾向を示す *Helicobacter cinaedi* が血液培養から検出された1例. 第92回日本感染症学会学術講演会・第66回日本化学療法学会総会 合同開催, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
10. 花輪智子, 荒木光二, 大西宏明, 神谷茂, 松田剛明: 2015、2016年に当院で分離されたMRSAの遺伝型および性状解析. 第92回日本感染症学会学術講演会・第66回日本化学療法学会総会 合同開催, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
11. 井田陽子, 米谷正太, 本間慎太郎, 荒木光二, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸, 大西宏明, 渡邊卓: 当院で分離された *Aeromonas* 属菌の薬剤感受性動向調査. 第92回日本感染症学会学術講演会・第66回日本化学療法学会総会 合同開催, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
12. 森山遥, 千葉直子, 白倉健世, 渡沙希, 坂本大典, 杉浦満喜, 大西宏明, 山崎聡子: 慢性骨髄性白血病の治療中にPure erythroid leukemia(AML-M6b)への急性転化を認めた一症例. 第19回日本検査血液学会学術集会, さいたま, 2018年7月21-22日.
13. 田中宏明, 柳井千穂, 石橋健一, 大西宏明, 大野尚仁: *Candida* 属臨床分離株を用いた菌体成分の熱水抽出物作成と性質の検討. 第62回日本医真菌学会総会・学術集会, 東京, 2018年9月8-9日.
14. 柳井千穂, 田中宏明, 石橋健一, 大西宏明, 三浦典子, 大野尚仁: *Candida* 細胞壁多糖画分の熱分解法を用いた可溶化法の検討. 第62回日本医真菌学会総会・学術集会, 東京, 2018年9月8-9日.
15. 高津和城, 山中大輔, 田中宏明, 大西宏明, 石橋健一, 安達禎之, 大野尚仁: *Candida* 菌体外可溶性多糖の検出. 第62回日本医真菌学会総会・学術集会, 東京, 2018年9月8-9日.
16. 森井健司, 大塚弘毅, 小林敬明, 上野貴之, 大西宏明, 中村浩之, 市村正一: 構造活性相関解析により得られた新規 HIF1 $\alpha$  転写活性阻害物質 GN44028 による骨肉腫治療法の開発. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018年10月11-12日.
17. 木崎直人, 大石知瑞子, 山崎聡子, 大西宏明, 渡邊卓, 園生雅弘: 浅腓骨神経電動検査における2-step法の有用性について. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8-10日.
18. 山崎聡子, 佐藤英樹, 佐藤徹, 大塚弘毅, 岸野智則, 大西宏明, 渡邊卓: 肺高血圧症患者における心音図を用いた肺性II音の計測. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
19. 佐藤英樹, 宮沢絵梨奈, 山崎聡子, 大塚弘毅, 岸野智則, 佐藤徹, 大西宏明, 渡邊卓: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症における経皮的肺動脈形成術前後の心電図変化について. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
20. 大塚弘毅, 大西宏明, 森井健司, 藤原正親, 小倉航, 松島早月, 山崎聡子, 岸野智則, 渡邊卓: 野生型マウスの自然発生肺癌のゲノム解析. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
21. 高木愛美, 米谷正太, 井田陽子, 本間慎太郎, 平尾千尋, 荒木光二, 関口久美子, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 血液培養から炭酸ガス要求性 *Escherichia coli* が検出された2症例. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
22. 千葉直子, 山崎聡子, 大西宏明: 関節リウマチの治療中に貧血、血小板減少、白血球増加を認めた症例. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
23. 小倉航, 大塚弘毅, 藤原正親, 田中良太, 横山琢磨, 関口久美子, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 細胞診陰性液性検体に

- おける高感度EGFR遺伝子変異検査の検討. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
24. 嶋森直子, 岸野智則, 森井健司, 岡部直太, 浦田毅, 山崎聡子, 大塚弘毅, 関口久美子, 高城靖志, 柴原純二, 大西宏明, 渡邊卓: 三相性の超音波画像を呈した高分子脂肪肉腫の一例. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
  25. 石関彩乃, 岸野智則, 原島敬一郎, 中島哲, 小椋さわの, 久我春菜, 政井悠希, 浦田毅, 山崎聡子, 大塚弘毅, 関口久美子, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 昼食後血流動態への朝食摂取の影響: 超音波による上腸間膜動脈と総頸動脈血流の評価. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
  26. 浦田毅, 岸野智則, 原島敬一郎, 関昌世, 福田直也, 橋本茂樹, 嶋森直子, 山崎聡子, 大塚弘毅, 関口久美子, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 腎動脈超音波血流計測値に対する食事摂取の影響. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
  27. 大西宏明: 「健診の質向上に向けて～問題点と対応～」採血時の問題点と対応. 日本総合健診医学会 第47回大会, 横浜, 2019年2月1日.
  28. 井田陽子, 米谷正太, 志村友梨, 平尾千尋, 高木愛美, 本間慎太郎, 荒木光二, 関口久美子, 大西宏明: *Candida dubliniensis*の薬剤感受性と臨床的背景の調査. 第30回日本臨床微生物学会学術集会, 東京, 2019年2月1-3日.

## 論文

1. 大西宏明: 【2018年12月施行の改正医療法等対応 検体検査の品質・精度確保の基準の手引き 臨床検査の新たな時代をいきぬくために!】検体検査の品質・精度確保に関する法整備の概要 医療機関における検体検査の品質・精度確保. *Medical Technology* 46(13): 1259-1264, 2018.
2. 安藤理恵<sup>1</sup>, 吉野浩<sup>1</sup>, 伊藤雄伍<sup>1</sup>, 杉本雅子<sup>1</sup>, 弦間友紀<sup>1</sup>, 大西宏明, 楊國昌<sup>1</sup> (杏林大・医・小児科学): 夏期に発症した急性一過性発作性寒冷色素尿症. *日本小児科学会雑誌* 122(5): 879-883, 2018.
3. 石井隆浩<sup>1</sup>, 小倉航<sup>1</sup>, 小島直美<sup>1</sup>, 関口久美子<sup>1</sup>, 高城靖志<sup>1</sup>, 大西宏明 (杏林大学医学部付属病院・臨床検査部): 判定に遺伝子検査が有用であったweak partial D type15 の1例. *医学検査* 67(5): 785-90, 2018.
4. Aiso T<sup>1</sup>, Ohtsuka K, Ueda M<sup>1</sup>, Karita S<sup>2,3</sup>, Yokoyama T<sup>4</sup>, Takata S<sup>4</sup>, Matsuki N<sup>5</sup>, Kondo H<sup>2</sup>, Takizawa H<sup>4</sup>, Okada A<sup>5</sup>, Watanabe T, Ohnishi H (Dept Med Technol, Fac Health Sci, Kyorin Univ, Dept Gen Thorac Surg, Kyorin Univ Sch Med, Dept Thorac Surg, JR Tokyo Gen Hosp, Dept Respir, Kyorin Univ Sch Med, Dept Ophthalmol, Kyorin Univ Sch Med): Serum levels of candidate microRNA diagnostic markers differ among the stages of non-small-cell lung cancer. *Oncol Lett* 16: 6643-51, 2018. DOI 10.3892/ol.2018.9464.
5. Kojima Y<sup>1</sup>, Ohtsuka K, Ohnishi H, Abe N<sup>1</sup>, Furuse J<sup>2</sup>, Watanabe T, Sugiyama M<sup>1</sup> (Dept Surg, Kyorin Univ Sch Med, Dept Med Oncol, Kyorin Univ Sch Med): APC:T1556fs and STK11 mutations in duodenal adenomas and adenocarcinomas. *Surg Today* 48: 765-72, 2018. DOI 10.1007/s00595-018-1649-4.
6. Higuchi S<sup>1</sup>, Kabeya Y<sup>2,3</sup>, Matsushita K<sup>1</sup>, Yamasaki S, Ohnishi H, Yoshino H<sup>1</sup> (Div Cardiol, Dept Intern Med II, Kyorin Univ Sch Med, Div Gen Intern Med, Dept Intern Med, Tokai Univ, Dept Home Care Med, Saiyu Clin): Urinary cast is a useful predictor of acute kidney injury in acute heart failure. *Sci Rep* 9(1):4352, 2019. doi: 10.1038/s41598-019-39470-1.
7. Kishino T<sup>1</sup>, Harashima K<sup>1</sup>, Hashimoto S<sup>1</sup>, Fukuta N<sup>1</sup>, Seki M<sup>1</sup>, Ohnishi H, Watanabe T, Otaki J<sup>1</sup> (Fac Health Sci,

- Kyorin Univ): Meal Ingestion and Hemodynamic Interactions Regarding Renal Blood Flow on Duplex Sonography: Potential Diagnostic Implications. *Ultrasound Med Biol* 44(9):2050-2054, 2018. doi: 10.1016/j.ultrasmedbio.2018.05.016.
8. Ishizeki A<sup>1,2</sup>, Kishino T<sup>1,2</sup>, Ogura S<sup>1,3</sup>, Kuga H<sup>1,4</sup>, Masai Y<sup>1,5</sup>, Harashima K<sup>1</sup>, Nakajima S<sup>1</sup>, Otaki J<sup>1</sup>, Ohnishi H, Watanabe T (Fac Health Sci, Kyorin Univ, Kyorin University Hospital, Seirei Hamamatsu Gen Hosp, Saitama City Hosp, Meirikai Chuo Gen Hosp): Influence of breakfast on hemodynamics after lunch - a sonographic evaluation of mesenteric and cervical blood flows. *Clin Physiol Funct Imaging* 39(3):226-229, 2019. doi: 10.1111/cpf.12556.
  9. Tanaka R<sup>1</sup>, Sakamoto N<sup>2</sup>, Suzuki H<sup>2</sup>, Tachibana K<sup>1</sup>, Ohtsuka K, Kishimoto K<sup>2</sup>, Fujiwara M<sup>2</sup>, Kamma H<sup>2</sup>, Shibahara J<sup>2</sup>, Kondo H<sup>1</sup> (Department of Surgery, Kyorin Univ Sch Med, Department of Pathology, Kyorin Univ Sch Med): Genotyping and cytomorphological subtyping of lung adenocarcinoma based on liquid-based cytology. *Diagn Cytopathol* 47(6): 564-570, 2019. doi: 10.1002/dc.24154.

## 総合医療学教室

## 講演

1. 倉井大輔, 田村仁樹, 皿谷健, 渡辺雅人, 石井晴之, 滝澤始: 肺炎球菌菌血症患者の特徴: 敗血症の基準を満たさない患者の予後について. 日本呼吸器学会, 大阪, 2018年4月27-29日.
2. 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一, 森秀明, 久松理一: ペニシリンアレルギー症例に対するボノプラザン、メロニダゾール、およびシタフロキサシン三剤併用 *H.pylori* 除菌療法の検討. 第104回日本消化器病学会総会, 東京, 2018年4月30日.
3. Hanawa T, Miyanaga K, Araki K, Ohnishi H, Kamiya S, Tanji Y, Matsuda T: Host ranges of phiSA012 and phiSA039 against methicillin resistant *Staphylococcus aureus* prevalent strains. The 5th World Congress on Targeting Infectious Diseases - Phage Therapy & Antibiotic Resistance, Italy, May 17th-18th, 2018.
4. 佐野彰彦: 当院におけるMRSA血流感染の診療状況. 第9回東京難治性感染症研究会, 東京, 2018年5月26日.
5. Suda T, Hirasawa A, Uechi T, Hirabuki K, Hata N, Sano Y, Matsuda T, Shibata S, Ogoh S: Cerebral Blood Flow Pulse is Influenced by Ascending Aortic Flow During Acute Hypotension. ACSM's 65th Annual Meeting, USA, May 29- June 2, 2018.
6. 倉井大輔: 黄色ブドウ球菌菌血症患者はqSOFA $\geq$ 2を満たすか? - 単施設後ろ向き研究 -. 第92回日本感染症学会学術講演会, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
7. 佐野彰彦, 西圭史, 吉田博昭, 米谷正太, 牧野博, 荒木光二, 井田陽子, 倉井大輔, 河合伸: 当院におけるカンジダ菌血症の臨床的検討 予後因子についての検討. 第92回日本感染症学会学術講演会 第66回日本化学療法学会総会 合同学会, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
8. 米谷正太, 荒木光二, 吉田博昭, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸, 大西宏明: 当院におけるカンジダ菌血症の臨床的検討 8-Dグルカン値の視点から. 第92回日本感染症学会学術講演会 第66回日本化学療法学会総会 合同学会, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
9. 西圭史, 吉田博昭, 米谷正太, 佐野彰彦, 河合伸: 当院におけるカンジダ菌血症の臨床的検討 ICTの支援と抗真菌薬の推移. 第92回日本感染症学会学術講演会 第66回日本化学療法学会総会 合同学会, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.

10. 吉田博昭,西圭史,米谷正太,倉井大輔,野彰彦,河合伸: 当院におけるカンジダ菌血症の臨床的検討 真菌性眼内炎の診断・治療の現状. 第92回日本感染症学会学術講演会 第66回日本化学療法学会総会 合同学会, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
11. 花輪智子, 荒木光二, 大西宏明, 神谷茂, 松田剛明: バクテリオファージのMRSA臨床分離株を用いた宿主域の決定. 第92回日本感染症学会学術講演会, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
12. 倉井大輔: マイコプラズマ肺炎の診療. 多摩臨床感染症研究会, 三鷹, 2018年6月2日.
13. 佐野彰彦: 当院におけるメボリズムの使用状況. 第1回ヌーカラ研究会, 東京, 2018年6月14日.
14. 園原和樹, 松塚翔司, 佐藤理恵, 須田広樹, 平林亜美, 長谷川浩, 神崎恒: 高齢入院患者における運転再開の現状について. 第60回老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
15. 新井さおり, 長谷川浩, 神崎恒, 大畑徹也, 稲田成作, 市村正一: ハイリスク高齢大腿骨近位部骨折患者に対する老年医学的アプローチの重要性. 第60回老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
16. 長谷川浩, 小原聡将, 永井久美子, 小柴ひとみ, 神崎恒: 大脳白質病変と体組成, 自律神経機能の関連の重要性. 第60回老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
17. 長谷川浩, 佐藤俊, 長田正史, 高附里江, 船曳茜, 宮本孝英, 輪千督高, 田中政道, 海老原孝枝, 神崎恒: 杏林大学病院における高齢者虐待症例の特徴と医師のかかわりについて. 第60回老年医学会学術集会, 京都, 2018年6月14-16日.
18. 杉原徳彦, 北村登, 佐野彰彦, 栗田富美子, 杉原壽彦: メボリズム投与後のピークフロー値を追跡し得た一例. 第67回日本アレルギー学会学術大会, 千葉, 2018年6月22-24日.
19. 長谷川浩: 高齢者の薬物療法. 老人保健施設管理医師総合診療研修会, 東京, 2018年6月30日.
20. 森英毅, 鈴木秀和, 小俣富美雄, 正岡建洋, 浅岡大介, 川上浩平, 水野滋章, 栗原直人, 永原章仁, 榊信廣, 伊藤慎芳, 川村洋, 河合隆, 徳永健吾, 高橋信一(東京HP研究会): 超高齢化社会における高齢者除菌の功罪 東京地区における*Helicobacter pylori*一次・二次除菌診療, 高齢者における除菌治療の現状(ワークショップ). 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会, 大分, 2018年6月30日.
21. 徳永健吾, 大崎敬子, 中村正彦, 田中昭文, 大森嘉彦, 米澤英雄, 岡本晋, 高橋信一, 神谷茂, 久松理一: 胃MALTリンパ腫におけるHHLO感染率および胃内マイクロビオータの検討. 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会, 大分, 2018年7月1日.
22. 長谷川浩: 認知症の確定診断に有用な検査法~治療につながる診断のポイント~. 調布市医師会学術集会, 調布, 2018年7月20日.
23. 徳永健吾: 内視鏡胃癌検診の現状と課題「ピロリ総除菌時代のLCIの有用性」. FUJIFILM MEDICAL SEMINAR 2018 in 吉祥寺, 武蔵野, 2018年8月2日.
24. 倉井大輔: ASTの活動と職種間連携の実際 医師の立場から. 10回私立医科大学感染対策協議会, 三鷹, 2018年9月1日.
25. 平吹一訓, 須田智也, 畑典孝, 佐野勇貴, 福家真理那, 植地貴弘, 平澤愛, 松田剛明, 柴田茂貴: 失神を繰り返す患者の左心室拡張能についての検討. 第73回日本体力医学会大会, 福井, 2018年9月7-9日.
26. 植地貴弘, 須田智也, 平吹一訓, 畑典孝, 福家真理那, 佐野勇貴, 平澤愛, 松田剛明, 柴田茂貴: 非心原性失神を繰り返す患者の左心室の形態学的特徴. 第73回日本体力医学会大会, 福井, 2018年9月7-9日.
27. 畑典孝, 平吹一訓, 須田智也, 佐野勇貴, 福家真理那, 植地貴弘, 平澤愛, 松田剛明, 柴田茂貴: 心拍変動解析を用いた定常時および非定常時の心臓自律神経機能の評価. 第73回日本体力医学会大会, 福井, 2018年9月7-9日.
28. 須田智也, 平吹一訓, 畑典孝, 佐野勇貴, 福家真理那, 植地貴弘, 平澤愛, 松田剛明, 柴田茂貴: 失神患者に対する24時間ホルター心電図を用いた非定常性自律神経機能評価. 第73回日本体力医学会大会, 福井, 2018年9月7-9日.
29. 長谷川浩: 高齢者総合機能評価. 老人保健施設管理医師総合診療研修会, 東京, 2018年9月15日.
30. 佐野彰彦: 当院のICT・AST活動について. DIコミュニケーションの会, 三鷹, 2018年9月20日.
31. 倉井大輔: 成人・高齢者におけるRSウイルス感染症の重要性. 第81回日本呼吸器学会・日本結核病学会 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部 秋季学術講演会 イブニングセミナー2, 長崎, 2018年10月5日.
32. 佐野彰彦: 教育セミナー 侵襲性カンジダ症の治療・診断 AFS活動を通じて見えてきたカンジダ血症に対する治療. 第67回日本感染症学会東日本地方学術集会 第65回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 東京, 2018年10月24-26日.
33. 西圭史, 吉田博昭, 田中宏明, 佐野彰彦, 倉井大輔, 篠原高雄, 河合伸: 第3世代セファロスポリン系経口抗菌薬の品目数削減による効果. 第67回日本感染症学会東日本地方学術集会 第65回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 東京, 2018年10月24-26日.
34. 吉田博昭, 西圭史, 篠原高雄, 佐野彰彦, 倉井大輔, 河合伸: ダプトマイシン使用症例における治療の現状. 第67回日本感染症学会東日本地方学術集会 第65回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 東京, 2018年10月24-26日.
35. 金澤悠, 倉井大輔: 軟部腫瘍が疑われた腋窩リンパ節結核の1例. 第67回日本感染症学会東日本地方学術集会, 東京, 2018年10月26日.
36. 長谷川浩: 救急医療の現場における診断から薬物治療まで(高齢者の特徴、問題点). 第9回小金井地域包括ケア講演会, 小金井, 2018年10月31日.
37. 倉井大輔: 耐性菌によるアウトブレイクを予防するための感染対策(治療を含め). 岩手県南感染症講演会, 岩手, 2018年11月6日.
38. 佐野彰彦: 当院のカンジダ血症の臨床的背景と予後因子についての検討. 関東深在性真菌症研究会, 東京, 2018年11月21日.
39. 野田祐司, 平吹一訓, 畑典孝, 須田智也, 佐野勇貴, 得津敬之, 柴田茂貴, 松田剛明: 動眼神経麻痺を主症状とした蝶形骨洞悪性リンパ腫の一例. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
40. 柳下康博, 畑典孝, 平吹一訓, 須田智也, 佐野勇貴, 得津敬之, 柴田茂貴, 松田剛明: 低体温症を伴った子宮筋腫(漿膜下筋腫)表在血管の破綻による出血性ショックの1例. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
41. 山本祐資, 須田智也, 平吹一訓, 畑典孝, 佐野勇貴, 得津敬之, 柴田茂貴, 松田剛明: 繰り返す意識障害で救急搬送され, 猪瀬型肝性脳症と診断した1例. 第46回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018年11月19-21日.
42. 佐野彰彦: 当院のカンジダ血症に対するAFS活動. 大日本住友社内講演, 東京, 2019年1月29日.
43. 中村昌太郎, 加藤元嗣, 岡田裕之, 伊藤公訓, 江崎幹宏, 小野尚子, 天貝賢二, 小林広幸, 徳永健吾, 松本主之: H.pylori陰性/除菌抵抗性MALTリンパ腫に対する高用量クラリスロマイシン単剤療法. 第15回日本消化管学会学術集会, 佐賀, 2019年2月1日.
44. 渡辺俊雄, 半田修, 杉山敏郎, 鈴木秀和, 児玉雅明, 稲葉知己, 岡田裕之, 加藤智恵子, 徳永健吾, 鳥居明, 間部克裕, 八木信明: 胃癌撲滅を達成する胃癌検診体制のこれから 全国除菌レジ

ストーリーの目的および意義. 第15回日本消化管学会学術集会, 佐賀, 2019年2月1日.

45. 西圭史, 吉田博昭, 本間慎太郎, 佐野彰彦, 倉井大輔, 河合伸: 第3世代セファロsporin系経口抗菌薬の使用削減に向けた取り組み. 第34回日本環境感染学会総会・学術集会, 神戸, 2019年2月22-23日.
46. Hirabuki K, Sugawara S, Funakoshi H, Suda T, Hata N, Sano Y, Shibata S, Hasegawa H, Matsuda T: A case of steakhouse syndrome due to superabsorbent polymer (SAP) ingestion in oldest-old (centenarian). The 35th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter (The 35th PPSA Japan Chapter), USA, February 28th–March 2nd.
47. Funakoshi S, Suda T, Hirabuki K, Hata N, Sano Y, Tokutsu T, Shibata S, Hasegawa H, Matsuda T: A Case of Portsystemic (Inose-Type) Encephalopathy due to Congenital SMV-IVC Shunt. The 35th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter (The 35th PPSA Japan Chapter), USA, February 28th–March 2nd.
48. 松田剛明: フェージ療法の現状. 日本薬学会第139年会, 千葉, 2019年3月20-23日.

## 論文

1. Miyoshi J<sup>1</sup>, Matsuoka K<sup>1</sup>, Yoshida A<sup>2</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Hisamatsu T<sup>1</sup>, Yajima T<sup>1</sup>, Inoue N<sup>1</sup>, Okamoto S, Iwao Y<sup>1</sup>, Ogata H<sup>1</sup>, Ueno F<sup>2</sup>, Hibi T<sup>3</sup>, Kanai T<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Ofuna Chuo Hospital, <sup>3</sup>Kitasato Institute Hospital): 5-Aminosalicylic acid aggravates colitis mimicking exacerbation of ulcerative colitis. *Intest Res* Oct;16(4): 635-640, 2018.
2. 長谷川浩: フレイルの臨床診断と脳ドック. *日本脳ドック学会報* 4(2): 9-13, 2018.
3. 長谷川浩: 【高齢者の救急医療】臨床に役立つQ&A 高齢者救急において高齢者総合機能評価 (CGA) はどう活用すべきですか?. *Geriatric Medicine* 56(10): 995-998, 2018.
4. 長谷川浩: サルコペニア・フレイルの臨床診断. *分子脳血管病* 17 (2): 113-117, 2018.
5. 井上慎一郎<sup>1</sup>, 長谷川浩<sup>1</sup>(杏林大・医・高齢医学): 【老年医学(上)―基礎・臨床研究の最新動向―】高齢者の症候 脱水と溢水. *日本臨牀* 76 (増刊5): 664-667, 2018.
6. 塩川芳昭<sup>1</sup>, 鳥居正剛<sup>2</sup>, 長谷川浩<sup>1</sup>(杏林大・医・脳神経外科学, <sup>2</sup>杏林大・医・脳卒中医学): 【高齢者における外科治療の意義と限界】脳神経外科手術の限界についての今日的考え方とは. *Geriatric Medicine* 56(4): 317-319, 2018.
7. 長谷川浩: 【Top Runner's View】大学病院が進める“高齢者のwell-being”追求の取り組み フレイルから最期まで, 納得の高齢者医療提供を目指して. *月刊Wisely* 39: 2-5, 2018.
8. 長谷川浩: 【Top Runner's View】多職種連携・地域連携の構築により高齢者を「地域で診る」社会目指す 各かていの実情に合わせた無理のない介護体制づくりを. *月刊Wisely* 40: 2-5, 2018.
9. Tsuruoka N<sup>1</sup>, Iwakiri R<sup>1</sup>, Sakata Y<sup>1</sup>, Fujimoto K<sup>1</sup>, Kamiya T<sup>1</sup>, Joh T<sup>1</sup>, Tokunaga K, Takahashi S<sup>1</sup>, Kinoshita Y<sup>1</sup>, Uchiyama K<sup>1</sup>, Naito Y<sup>1</sup>, Nagahara A<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>1</sup>, Chan FKL<sup>1</sup>, Hahm KB<sup>1</sup>, Kachintorn U<sup>1</sup>, Fock KM<sup>1</sup>, Syam AF<sup>1</sup>, Rani AA<sup>1</sup>, Sollano JD<sup>1</sup>, Zhu Q<sup>1</sup> (IGCS Study Group): Questionnaire-Based Survey on Gastrointestinal Bleeding and Management of Antithrombotic Agents during Endoscopy Among Asian Countries. *Digestion* 97(1):97-106, 2018.
10. 箕輪慎太郎<sup>1</sup>, 齋藤大祐<sup>1</sup>, 岡部直太<sup>2</sup>, 佐藤太龍<sup>1</sup>, 池崎修<sup>1</sup>, 三井達也<sup>1</sup>, 三浦みき<sup>1</sup>, 櫻庭彰人<sup>1</sup>, 林田真理<sup>1</sup>, 徳永健吾<sup>1</sup>, 戸成綾子<sup>3</sup>, 望月眞<sup>4</sup>, 柴原純二<sup>2</sup>, 森秀明<sup>1</sup>, 久松理一<sup>1</sup>(<sup>1</sup>杏林大・医・第三内科学, <sup>2</sup>杏林大・医・病理学, <sup>3</sup>杏林大・医・放射線科学, <sup>4</sup>帝京大学): 急性放射線性腸炎の1例 大腸内視

鏡検査と病理組織学的検査施行の勧告. *杏林医学会雑誌* 49: 229-233, 2018.

11. Inui T<sup>1</sup>, Watanabe M<sup>1</sup>, Nakamoto K<sup>1</sup>, Sada M<sup>1</sup>, Hirata A<sup>1</sup>, Nakamura M<sup>1</sup>, Honda K<sup>1</sup>, Ogawa Y<sup>1</sup>, Takata S<sup>1</sup>, Yokoyama T<sup>1</sup>, Saraya T<sup>1</sup>, Kurai D, Wada H<sup>2</sup>, Ishii H<sup>1</sup>, Takizawa H<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Department of Respiratory, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Juntendo University): Bronchial epithelial cells produce CXCL1 in response to LPS and TNF $\alpha$ : A potential role in the pathogenesis of COPD. *Exp Lung Res.* 44(7): 323-331, 2018.
12. Watanabe M<sup>1</sup>, Nakamoto K<sup>1</sup>, Inui T<sup>1</sup>, Sada M<sup>1</sup>, Honda K<sup>1</sup>, Tamura M<sup>1</sup>, Ogawa Y<sup>1</sup>, Yokoyama T<sup>1</sup>, Saraya T<sup>1</sup>, Kurai D, Ishii H<sup>1</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Department of Respiratory, Kyorin University School of Medicine): Serum sST2 levels predict severe exacerbation of asthma. *Respir Res.* 3:19(1):169, 2018.
13. Saraya T<sup>1</sup>, Ohkuma K<sup>1</sup>, Tsukahara Y<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>1</sup>, Kurai D, Ishii H<sup>1</sup>, Kimura H<sup>1</sup>, Goto H<sup>1</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Department of Respiratory, Kyorin University School of Medicine): Correlation between clinical features, high-resolution computed tomography findings, and a visual scoring system in patients with pneumonia due to *Mycoplasma pneumoniae*. *Respir Investig.* 56(4):320-32, 2018.
14. Saraya T<sup>1</sup>, Nunokawa H<sup>1</sup>, Ohkuma K<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>1</sup>, Sada M<sup>1</sup>, Inoue M<sup>1</sup>, Honda K<sup>1</sup>, Oda M<sup>1</sup>, Ogawa Y<sup>1</sup>, Tamura M<sup>1</sup>, Yokoyama T<sup>1</sup>, Kurai D, Kimura H<sup>2</sup>, Ishii H<sup>1</sup>, Goto H<sup>1</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Department of Respiratory, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup> National Institute of Infectious Diseases) A Novel Diagnostic Scoring System to Differentiate between *Legionella pneumophila* Pneumonia and *Streptococcus pneumoniae* Pneumonia. *Intern Med.* 1;57(17): 2479-2487, 2018.
15. Saraya T<sup>1</sup>, Kimura H<sup>2</sup>, Kurai D, Tamura M<sup>1</sup>, Ogawa Y<sup>1</sup>, Mikura S<sup>1</sup>, Sada M<sup>1</sup>, Oda M<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>1</sup>, Ohkuma K<sup>1</sup>, Inoue M<sup>1</sup>, Honda K<sup>1</sup>, Watanabe M<sup>1</sup>, Yokoyama T<sup>1</sup>, Fujiwara M<sup>3</sup>, Ishii H<sup>1</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Department of Respiratory, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup> National Institute of Infectious Diseases, <sup>3</sup> Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Clinical significance of respiratory virus detection in patients with acute exacerbation of interstitial lung diseases. *Respir Med.* 136:88-92, 2018.
16. Saraya T<sup>1</sup>, Ohkuma K<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>1</sup>, Mikura S<sup>1</sup>, Kobayashi F<sup>1</sup>, Aso J<sup>1</sup>, Nunokawa H<sup>1</sup>, Honda K<sup>1</sup>, Ogawa Y<sup>1</sup>, Tamura M<sup>1</sup>, Sada M<sup>1</sup>, Oda M<sup>1</sup>, Inoue M<sup>1</sup>, Yokoyama T<sup>1</sup>, Kurai D, Ishii H<sup>1</sup>, Kimura H<sup>2</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Department of Respiratory, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup> National Institute of Infectious Diseases): Diagnostic Value of Vascular Endothelial Growth Factor, Transforming Growth Factor- $\beta$ , Interleukin-8, and the Ratio of Lactate Dehydrogenase to Adenosine Deaminase in Pleural Effusion. *Lung* 196(2):249-254, 2018.
17. 倉井大輔: 首都直下地震発生時の在宅酸素療法患者の問題点病院における災害対策. *Medical Gases* 20: 29 -30, 2018.
18. 佐野彰彦: 症例解析から見る救命のポイント2 重症の血流感染症 1 カンジダ血症. 感染と抗菌薬 22 (1): 48-53, 2019.
19. 森英毅<sup>1</sup>, 鈴木秀和<sup>1</sup>, 小俣富美雄<sup>1</sup>, 正岡建洋<sup>1</sup>, 浅岡大介<sup>1</sup>, 川上浩平<sup>1</sup>, 水野滋章<sup>1</sup>, 栗原直人<sup>1</sup>, 永原章仁<sup>1</sup>, 榎信廣<sup>1</sup>, 伊藤慎芳<sup>1</sup>, 川村洋<sup>1</sup>, 河合隆<sup>1</sup>, 徳永健吾<sup>1</sup>, 高橋信一<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東京HP研究会): 東京地区における *Helicobacter pylori* 一次・二次除菌診療, 高齢者における除菌治療の現状. *日本ヘリコバクター学会誌* 20: 86-87, 2019.

20. 徳永健吾, 杉本光繁<sup>1</sup> (滋賀医大) : 超高齢化社会における高齢者除菌の功罪. 日本ヘリコバクター学会誌 20: 101, 2019.

## 著書

1. 倉井大輔(分担執筆): NPPV 呼吸器内科診療マニュアル. 「呼吸器内科」編集委員会. 東京, 科学評論社, 2018. p. 275-28.
2. 倉井大輔(分担執筆): マイコプラズマのマクロライド耐性は臨床上どの程度気をつける必要があるのか?. 梅澤俊彦. 東京, 日本医事新報, 2019. P.55.

## 報告書

1. 長谷川浩: 動的・静的脳画像、心拍変動を用いた新たな軽度認知機能低下高齢者の安全運転支援開発. 2018年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 研究代表者実施状況報告書.
2. 長谷川浩: 大脳白質病変と体組成、自律神経機能の関連の重要性. 2018年度 長寿医療研究開発費 分担研究報告書.

## その他

1. 長谷川浩: 「日本医師会医学講座」軽度認知障害(MCI)の早期発見に向けて. ラジオNIKKEI, 2018年9月25日.
2. 松田剛明, 花輪智子: シンポジウム「の話題, 多剤耐性菌への挑戦—バクテリオファージの感染症治療への応用—, 薬事日報, 発行日: 2019年3月15日.

## リハビリテーション医学教室

## 講演

1. 山田深: 脳卒中の最新リハビリ - 嚥下リハビリを含めて - 第23回東京都脳卒中市民公開セミナー, 八王子, 2018年5月12日.
2. 山田深: 宇宙での生活. 東京私立中学合同相談会, 東京, 2018年5月20日.
3. 安部佑, 山田深, 仁科彩子, 松田恭平, 野邊浩一朗, 岡島康友: 急性期病院における廃用症候群リハビリテーションの帰結. 第55回リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2018年6月28日.
4. 松田恭平, 山田深, 平野照之, 塩川芳昭, 岡島康友: 脳卒中急性期病棟におけるICFリハビリテーションコアセットの有用性の検討. 第55回リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2018年6月28日.
5. 山田深: ICUにおけるリハビリテーション医療の再構築. 第55回リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2018年6月29日.
6. 山田深: 宇宙飛行士の健康と生活. BumB東京スポーツ文化館宇宙講座, 東京, 2018年7月8日.
7. 山田深: 応用編 - 機能的自立度評価法の歴史的背景. 第12回看護師・コメディカルのための FIM講習会, 東京, 2018年7月22日.
8. 岡島康友: 教育研修講演 - 脳血管障害リハビリテーション. 第6回医師のための総合リハビリテーション講座, 東京, 2018年7月28日.
9. 山田深: 宇宙飛行士の生理的対策. 宇宙医学スタディツアー, 筑波, 2018年8月21日.
10. 松本愛結, 山田深, 岡島康友, 平野照之, 塩川芳昭: 血栓回収療法を行った90歳以上の高齢脳卒中患者における急性期リハ. 第69回日本リハビリテーション医学会関東地方会, 東京, 2018年9月30日.
11. 増田暁史, 山田深, 林光俊, 岡島康友: 活動量計を用いて経過を追ったアキレス腱断裂保存療法の一例. 第69回日本リハビリテーション医学会関東地方会, 東京, 2018年9月30日.
12. Yamada S: Updates on ICF use and implementation from

ASIA, Japan. WHO-FIC FDRG Annual Meeting 2018, Seoul, 25<sup>th</sup> October, 2018.

13. 山田深: 重力と脳の関係-宇宙医学とリハビリの視点から-. 首都圏脳卒中ネットワーク講演会, 相模原, 2018年11月6日.
14. 松田恭平, 植村修, 岡島康友: 脊髄損傷患者における抗コリン薬抵抗性神経因性膀胱に対するミラベグロン併用効果の検討. 第53回日本脊髄障害医学会, 名古屋, 2018年11月22日.
15. 速水聡, 山田深: 最近のISS長期滞在JAXA宇宙飛行士post-flightリハビリテーション. 第64回日本宇宙航空環境医学会大会, 成田, 2018年11月23日.
16. 山岸夢希, 小林啓一, 齊藤邦昭, 久米賢, 佐々木重嘉, 末松慎也, 岡村優真, 花山尚美, 宅貴美子, 山田深, 岡島康友, 塩川芳昭, 永根基雄: 膠芽腫の治療経過におけるQOL評価の意義. 第36回日本脳腫瘍学会学術集会, 小田原, 2018年12月3日.
17. 岡島康友: 基礎編 - 機能的自立度評価法の歴史的背景. 第18回看護師・コメディカルのためのFIM講習会, 三鷹, 2018年12月16日.
18. 山田深: 宇宙飛行士のリハビリテーション. 宇宙医学ワークショップ 人類の宇宙進出時に必要となる宇宙医学・生物学研究, 京都, 2019年1月11日.
19. 山田深: 宇宙飛行士の健康と生活. コズミックカレッジ北杜, 北杜, 2019年2月11日.
20. 山田深: ICFの実践~評価点の活用を探る~. 日本リハビリテーション医学会関東地方会専門医・認定臨床医生涯教育研修会, 笛吹, 2019年2月16日.
21. 山田深: 宇宙飛行士はどんなことをしているかな?. 金沢宇宙塾, 金沢, 2019年3月3日.
22. 山田深: 宇宙環境における生命と医学. 水戸子ども大学, 水戸, 2019年3月9日.
23. 山田深: 帰還した宇宙飛行士の体. 大人の宇宙環境講座, 東京, 2019年3月13日.
24. 山田深: リハビリテーション医学総論. 福祉用具専門相談員指定講習会, 東京, 2019年3月16日.
25. 城野喬史, 河野浩之, 鳥居正剛, 神山祐司, 天野達雄, 本田有子, 岡野晴子, 海野佳子, 山田深, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期病院の脳出血患者におけるFunctional independent measurement scores(FIMスコア)は発症3ヶ月後の臨床転帰予測に有用である. 第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019年3月21-23日.

## 論文

1. Kawano H<sup>1</sup>, Johno T<sup>1</sup>, Torii M<sup>2</sup>, Kamiyama H, Amano T<sup>1</sup>, Honda Y<sup>2</sup>, Okano H<sup>3</sup>, Unno Y<sup>1</sup>, Yamada S, Okajima Y, Shiokawa Y<sup>2</sup>, Hirano T<sup>1</sup> (1Department of Stroke and Cerebrovascular Kyorin University School of Medicine, 2Department of Neurosurgery Kyorin University School of Medicine, 3Department of Neurology Kyorin University School of Medicine): Predictable Value of Functional Independence Measure Differs between Anterior and Posterior Circulation Ischemic Strokes. Eur Neurol. 80(5-6):313-320, 2018.
2. 岡島康友: 古今東西 見逃せない研究論文書籍 - Early physical and occupational therapy in mechanically ventilated, critically ill patients: a randomised controlled trial. Jpn J Rehabil Med 55:701, 2018.

## 著書

1. 岡島康友(分担執筆): 第1章 医学総論. 言語聴覚士テキスト第3版. 東京, 医歯薬出版, 2018. p.1-7.

## 報告書

1. 山田深: ICFにおける評価尺度としての信頼性・妥当性検証. 厚生労働科学研究費補助(政策科学推進研究事業) 2018年度 分担研究報告書.

その他

1. 山田深:脳卒中理学療法士に期待すること-医師の立場から(オピニオン).理学療法MOOK22, 東京, 三輪書店, 2018年.
2. 山田深:脳梗塞リハビリテーション 早期からの離床が大切 障害が残っても生活機能の向上を(対談).くらしとからだ, テーミス, 東京, 2018年.
3. 岡島康友:扉一片麻痺の課題指向型リハビリテーションの潮流. 臨床リハビリテーション27(6):509, 2018.
4. 山田深:金井さん、地球人復帰大作戦中 平衡機能など回復(メディア出演). 朝日新聞DIGITAL, 2018年6月22日.
5. 山田深:金井宇宙飛行士の帰還後リハビリテーションプレス公開(メディア出演). 宇宙航空研究開発機構, 2018年6月25日.  
([http://iss.jaxa.jp/iss/jaxa\\_exp/kanai/news/180615\\_kana.html](http://iss.jaxa.jp/iss/jaxa_exp/kanai/news/180615_kana.html))
6. 山田深:こんなに動けないのが面白い—金井飛行士日本でリハビリ(メディア出演). 三菱電機 読む宇宙旅行, 2018年6月29日.  
([http://www.mitsubishielectric.co.jp/me/dspace/column/c1806\\_2.html](http://www.mitsubishielectric.co.jp/me/dspace/column/c1806_2.html))
7. 山田深:宇宙飛行士にリハビリ科医ができること. 日経メディカル電子版, 2018年7月27日.
8. 山田深:特集 筋萎縮性側索硬化症(巻頭言). Jpn J Rehabil Med 55 (7), p533, 2018.
9. 岡島康友:扉—人工呼吸器治療患者の早期リハビリテーション. 臨床リハビリテーション28(2):115, 2019.
10. 山田深:宇宙飛行士の健康管理術Ⅲ〜「健康長寿のヒントは、宇宙にある」〜(メディア出演). BS朝日, 2019年3月24日.
11. 山田深:金井飛行士の統合的なアーリー・リターン活動の達成(受賞). 宇宙航空研究開発機構平成30年度業績表彰(理事・部門長賞), 2019年3月27日.

リハビリテーション室  
(リハビリテーション医学教室)

講演

1. 児玉優太, 炭谷由計, 田中耕史, 水石裕, 廣瀬道宣, 須崎由香, 石飛実紀, 横山敏彦, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病症例の心理的負担度の変化に影響する因子の検討. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
2. 田中耕史, 炭谷由計, 児玉優太, 廣瀬道宣, 須崎由香, 石飛実紀, 横山敏彦, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病症例における変時性不全の存在とその臨床的背景の検討, 東京, 2018年5月24-26日.
3. 飛田和基, 合田あゆみ, 櫻井俊光, 増田桃子, 佐藤徹, 岡島康友:慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者においてmPAP正常化後の運動耐容能, QOLの検討. 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018年7月14-15日.
4. 飛田和基, 木村雅彦, 合田あゆみ, 佐藤徹, 岡島康友:肺高血圧症患者のQOLに影響を及ぼす因子の検討. 第2回日本呼吸・心血管・糖尿病理学療法学会合同学術大会, 横浜, 2018年7月16日.
5. 若林俊夫, 西田悠一郎, 清水大貴, 山田深: 投球パフォーマンスを引き起こしたサイドスロー投手について—メディカルチェックと投球動作分析からの考察—. 第44回日本整形外科学会スポーツ医学学会学術集会, 徳島, 2018年9月7-9日.
6. 池田光代, 山田深, 石田幸平, 岡島康友:脳卒中急性期におけるICFリハビリテーションセット評価の試み. 第42回日本作業療法学会, 名古屋, 2018年9月7-9日.
7. 村田裕康, 大畑徹也, 平さより, 児玉優太, 岡島康友:高エネルギー外傷患者のリハビリテーション帰結—転帰先に影

- 響する因子の検討. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
8. 佐久間大輝, 石田幸平, 森光代, 大畑徹也, 岡島康友:同側上肢3カ所に及ぶ高齢者多発骨折の治療経験. 第67回東日本整形災害外科学会, 秋田, 2018年9月21-22日.
  9. 宅美貴子, 小林啓一, 齊藤邦昭, 山田深, 鈴木亜希子, 塩川芳昭, 永根基雄, 岡島康友:中枢神経系原発悪性リンパ腫における初期治療の効果について-ADLと認知機能から-. 第42回日本高次脳機能障害学会学術集会, 神戸, 2018年12月6-7日.
  10. 石田幸平, 池田光代, 山田深, 岡島康友:急性期におけるくも膜下出血患者の機能回復. リハビリテーション機能評価研究会, 東京, 2019年1月12日.
  11. 境哲生, 岡島康友, 藤澤有祐三, 諸田真実:傾聴によるがん患者のせん妄と身体能力改善について. 第25回ホスピス・在宅ケア研究会全国大会inとから, 帯広, 2019年2月2-3日.
  12. 村田裕康, 飛田和基, 山田深, 平さより, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之:急性期脳卒中患者の栄養状態がADLに与える影響. 第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019年3月21-23日.

脳卒中医学教室

講演  
[国際学会]

1. Hirano T: The role of CT imaging in acute ischemic stroke. Asia Pacific Stroke Conference 2018, Indonesia, September 6th, 2018.
2. Hirano T: How to use advanced imaging to select patients for endovascular therapy?. Asia Pacific Stroke Conference 2018, Indonesia, September 8th, 2018.
3. Hirano T: The primary and secondary management of large artery disease. Asia Pacific Stroke Conference 2018, Indonesia, September 9th, 2018.
4. Kawano H, Hosaka M, Amano T, Okano H, Suzuki R, Honda Y, Torii M, Unno Y, Shiokawa Y, Hirano T: Subcutaneous heparin injection for cancer-associated stroke. 11th World Stroke Congress, Canada, October 17th, 2018.
5. Saito M, Kawano H, Suzuki R, Amano T, Torii M, Okano H, Unno Y, Shiokawa Y, Hirano T: 3D-CTA is useful to identify underlying cause of embolic stroke of undetermined source. 11th World Stroke Congress, Canada, October 17th, 2018.
6. Hill M, Olivot JM, Hirano T, Yoo A: Imaging selection – how will we reach a consensus on imaging selection? Future imaging to help selection: new physiologic information. 14th International Symposium on Thrombolysis, Thrombectomy and Acute Stroke Therapy, USA, October 22nd, 2018.

[国内学会]

1. 河野浩之, 保坂まり恵, 天野達雄, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 本田有子, 鳥居正剛, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 癌関連脳梗塞に対するヘパリン皮下注の現状. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月24日.
2. 岡野晴子, 天野達雄, 河野浩之, 鈴木理恵子, 海野佳子, 本田有子, 鳥居正剛, 塩川芳昭, 千葉厚郎, 平野照之: 抗リン脂質抗体症候群における脳卒中の検討. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月25日.
3. 天野達雄: 東京都多摩地区における急性期脳梗塞血管内治療の多施設共同登録研究(TREAT). 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月25日.

4. 海野佳子：「眼前にチカチカしたものが頻回に現れるのですがどうしらいいでしょうか?」。第59回日本神経学会学術大会，札幌，2018年5月26日。
5. 齋藤幹人，河野浩之，天野達雄，鳥居正剛，岡野晴子，海野佳子，塩川芳昭，平野照之：周産期に尾状核出血を伴った可逆性脳血管攣縮症候群の一例。第225回日本神経学会関東・甲信越地方会，東京，2018年6月2日。
6. 平野照之：脳出血後の抗血栓療法。第5回日本心血管脳卒中学会学術集会，東京，2018年6月15日。
7. 平野照之：ESUSの原因検索とその方法。第5回日本心血管脳卒中学会学術集会，東京，2018年6月15日。
8. 天野達雄：劇的な変化を遂げる血栓回収療法の現状。第5回日本心血管脳卒中学会学術集会，東京，2018年6月15日。
9. 松田恭平，山田深，平野照之，塩川芳昭，岡島康友：脳卒中急性期病棟におけるICFリハビリテーションコアセットの有用性の検討。第55回リハビリテーション医学会学術集会，福岡，2018年6月28日。
10. 平野照之：無症候性頸部頸動脈狭窄に対する内科治療。第27回日本脳ドック学会総会，盛岡，2018年6月29日。
11. 鳥居正剛，平野照之，塩川芳昭：抗血栓薬投与中での脳出血症例の予後検討。第27回日本脳ドック学会総会，盛岡，2018年6月29日。
12. 本田有子，河野浩之，野口明夫，丸山啓介，田村晃，齋藤勇，櫻井孝，平野照之，塩川芳昭：脳ドック受診者における脳体積率に影響する男女別因子の検討。第27回日本脳ドック学会総会，盛岡，2018年6月29日。
13. 丸岡響，岡野晴子，本田有子，天野達雄，鳥居正剛，河野浩之，海野佳子，平野照之：抗リン脂質抗体症候群を原疾患とする脳梗塞で，頭蓋内主幹動脈の限局性狭窄を認めた1例。第37回The Mt. Fuji Workshop on CVD，名古屋，2018年8月25日。
14. 丸岡響，河野浩之，岡野晴子，本田有子，鳥居正剛，天野達雄，海野佳子，平野照之：Opalski症候群と顔面神経麻痺を呈した延髄外側梗塞の1例。第226回日本神経学会関東・甲信越地方会，東京，2018年9月1日。
15. 松本愛結，山田深，岡島康友，平野照之，塩川芳昭：血栓回収療法を行った90歳以上の高齢脳卒中患者における急性期リハ。第69回日本リハビリテーション医学会関東地方会，東京，2018年9月30日。
16. 山下ひとみ，天野達雄，大森嘉彦，千葉知宏，柴原純二，平野照之：回収された血栓病理により心原性脳塞栓症が否定された一例。第21回日本栓子検出と治療学会，浦安，2018年10月6日。
17. 城野喬史，河野浩之，本田有子，天野達雄，岡野晴子，鳥居正剛，海野佳子，塩川芳昭，平野照之：Calcified Amorphous Tumorを塞栓源とした多発脳梗塞の1例。第21回日本栓子検出と治療学会，浦安，2018年10月6日。
18. 本田有子，岡村優真，飯島昌平，中西郁，山岸夢希，島田大輔，吉田裕毅，笹森寛生，鳥居正剛，丸山啓介，海野佳子，野口明男，平野照之，塩川芳昭：アミロイドアンギオパチーによる皮質下出血の手術症例の検討。日本脳神経外科学会第77回学術総会，仙台，2018年10月12日。
19. 平野照之：脳卒中専門医は脳卒中後てんかんをどう考えるか?：最新の知見から。第52回日本てんかん学会学術集会，横浜，2018年10月26日。
20. 天野達雄：Low DWI-ASPECTS症例に対する血栓回収療法の転帰予測因子。第34回日本脳神経血管内治療学会学術総会，仙台，2018年11月22日。
21. 天野達雄：急性血行再建療法の現状と課題。第36回日本神経治療学会学術集会，東京，2018年11月23日。
22. 丸岡響，河野浩之，岡野晴子，本田有子，鳥居正剛，天野達雄，海野佳子，平野照之：PCSK9阻害薬投与により血管閉塞が劇的に改善した急性期脳梗塞の1例。第36回日本神経治療学会学術集会，東京，2018年11月23日。
23. 平野照之：変貌する脳梗塞診療：T-REX。第36回日本神経治療学会学術集会，東京，2018年11月24日。
24. 齋藤幹人，河野浩之，天野達雄，鳥居正剛，岡野晴子，海野佳子，塩川芳昭，平野照之：3T MRIと脳血管造影のfusion画像による分子粥腫病の確診例。第227回日本神経学会関東・甲信越地方会，東京，2018年12月1日。
25. 河野浩之，綾野水樹，蛭沢志織，小松由佳，小河百合子，天野達雄，本田有子，鳥居正剛，岡野晴子，海野佳子，塩川芳昭，平野照之：院内発症脳卒中診療体制の再整備による診療過程と治療内容の変化 第一報。STROKE2019，横浜，2019年3月21日。
26. 綾野水樹，河野浩之，蛭沢志織，小松由佳，小河百合子，天野達雄，本田有子，鳥居正剛，岡野晴子，海野佳子，塩川芳昭，平野照之：院内発症脳卒中への初期対応に関する講習実施による看護師への教育効果。STROKE2019，横浜，2019年3月21日。
27. 河野由布子，河野浩之，蛭沢志織，綾野水樹，小松由佳，小河百合子，天野達雄，本田有子，海野佳子，岡野晴子，鳥居正剛，塩川芳昭，平野照之：院内発症脳卒中対応への取り組み 第一報—初期研修医の視点—。STROKE2019，横浜，2019年3月21日。
28. 徳岡健太郎，川村玲衣奈，陳佑佳，中山平，青木史絵，野川茂，太田貴裕，重田恵吾，天野達雄，上田雅之，松丸祐司，塩川芳昭，平野照之：2次医療圏ごとの急性期主幹動脈閉塞例の搬送実態調査～東京都多摩再開通治療レジストリー（TREAT）～。STROKE2019，横浜，2019年3月21日。
29. 太田貴裕，重田恵吾，天野達雄，上田雅之，松丸祐司，塩川芳昭，平野照之：大都市圏における急性主幹動脈閉塞症に対する血管内治療実態調査—TREAT中間報告—。STROKE2019，横浜，2019年3月21日。
30. 重田恵吾，太田貴裕，天野達雄，上田雅之，松丸祐司，塩川芳昭，平野照之：血栓回収術の直送群・転送群の転帰から見たこと—TREATから—。STROKE2019，横浜，2019年3月21日。
31. 阿部新，太田貴裕，上田雅之，天野達雄，重田恵吾，松丸祐司，塩川芳昭，平野照之：東京都脳卒中救急搬送体制から見た脳主幹動脈閉塞の血管内治療の実態～多摩地区血栓回収療法レジストリーより～。STROKE2019，横浜，2019年3月22日。
32. 弦切純也，太田貴裕，神保洋之，奥村栄太郎，重田恵吾，天野達雄，塩川芳昭，平野照之：頭蓋外内頸動脈閉塞症に対する発症6-24時間の機械的血栓回収術～東京都多摩地区血栓回収療法レジストリー～。STROKE2019，横浜，2019年3月22日。
33. 平野照之：テネクテプラーゼ静注に対する期待。STROKE2019，横浜，2019年3月22日。
34. 平野照之：もう一つのCAS：超高齢社会を迎えて。STROKE2019，横浜，2019年3月22日。
35. 鳥居正剛，河野浩之，岡野晴子，天野達雄，海野佳子，本田有子，平野照之，塩川芳昭：抗血栓薬投与中での脳出血症例の予後検討。STROKE2019，横浜，2019年3月22日。
36. 城野喬史，河野浩之，鳥居正剛，神山祐司，天野達雄，本田有子，岡野晴子，海野佳子，山田深，岡島康友，塩川芳昭，平野照之：急性期脳卒中中のFunctional independence measurement scoresは発症3ヵ月後の転帰予測に有用である。STROKE2019，横浜，2019年3月22日。
37. 齋藤幹人，河野浩之，天野達雄，岡野晴子，本田有子，鳥居正剛，海野佳子，塩川芳昭，平野照之：大動脈石灰化病変は，脳梗塞の原因となりうる非狭窄性動脈硬化病変と関連する。STROKE2019，横浜，2019年3月23日。

38. 平野照之: Don't Sleep Through Life ワルファリン関連出血に遭遇したら!. STROKE2019, 横浜, 2019年3月23日.
39. 河野浩之: 脳卒中画像診断の現状と今後の展開. 脳組織に基づく急性期脳梗塞の治療戦略. STROKE2019, 横浜, 2019年3月23日.
40. 蛭沢志織, 河野浩之, 綾野水樹, 小松由佳, 小河百合子, 天野達雄, 本田有子, 海野佳子, 岡野晴子, 鳥居正剛, 塩川芳昭, 平野照之: 院内発症脳卒中対応への取り組み 第一報—看護師への初期対応教育から見た課題—. STROKE2019, 横浜, 2019年3月23日.
41. 村田裕康, 飛田和基, 山田深, 平さより, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之: 急性期脳卒中患者の栄養状態がADLに与える影響. STROKE2019, 横浜, 2019年3月23日.
42. 平野照之: SCRNへの期待 ver.2. 第2回脳卒中リハビリテーション看護の将来を考える会, 久留米, 2019年3月29日.

【講演会・研究会】

1. 平野照之: DOACの進歩と進化～脳卒中専門医の視点～. プラザキサ発売7周年全国講演会, 東京, 2018年4月7日.
2. 平野照之: ここまできた脳梗塞治療 2018 update. 第3回神経治療研修会, 東京, 2018年4月8日.
3. 天野達雄: 多摩地区における急性期再開通治療の実態調査 (TREAT) サブ解析. 第10回Tama-FAST, 立川, 2018年4月13日.
4. 平野照之: パラダイムシフト Late vs Early. 会津医師会学会講演会, 会津若松, 2018年4月19日.
5. 平野照之: 潜因性脳梗塞へのアプローチ: ICM vs ESUS. 第6回北九州脈管と血栓塞栓症研究会, 北九州, 2018年4月24日.
6. 平野照之: 脳梗塞急性期治療の最前線と抗凝固療法. 心原性脳塞栓症マネージメントセミナー, 刈谷, 2018年4月25日.
7. 平野照之: 脳卒中事情2018: 治療と予防の最新動向. 新別府病院病診連携セミナー特別講演, 別府, 2018年4月26日.
8. 平野照之: 2018脳卒中事情: 規制緩和で広がる適応. Expert Forum on Stroke 2018, 富山, 2018年5月8日.
9. 平野照之: 究極のLDL-C低下療法と脳梗塞. Innovate STROKE LECTURE, 武蔵野, 2018年5月11日.
10. 平野照之: ESUSとは? 抗凝固療法への期待. CareNet 深掘り! 抗凝固薬トピックス, 東京, 2018年5月22日.
11. 平野照之: 脳卒中から身を守る こんなに進んだ治療と予防. 平成30年度杏林大学公開講演会, 三鷹, 2018年5月26日.
12. 齊藤幹人, 河野浩之, 天野達雄, 岡野晴子, 鳥居正剛, 海野佳子, 塩川芳昭, 平野照之: 周産期に尾状核出血を伴った可逆性脳血管攣縮の一例. 第38回三鷹ニューロ研究会, 多摩, 2018年5月31日.
13. 平野照之: 心房細動と認知症. 第11回ストップNO卒中エリアエキスパート会議, 大阪, 2018年6月2日.
14. 平野照之: 抗凝固剤の選択基準と使い方～私の場合～. 第441回葛飾区医師会循環器集談会, 東京, 2018年6月6日.
15. 平野照之: 超高齢社会ニッポンの抗凝固療法. 第5回田園都市Brain Conference, 横浜, 2018年6月11日.
16. 平野照之: 2018脳卒中事情: 規制緩和で広がる適応. 第6回Kumagaya Care AF, 熊谷, 2018年6月12日.
17. 平野照之: 抗凝固療法中の脳卒中への対応: 出血したら・再発したら. 抗凝固薬緊急対応研究会, 東京, 2018年6月22日.
18. 平野照之: 今, そこにある危機: 脳梗塞血栓溶解療法の将来. 第41回東循会, 東京, 2018年6月23日.
19. 平野照之: 脳梗塞の血圧管理 ～The lower “really” the better?～. 第6回生活習慣病研究会, 三島, 2018年6月28日.
20. 平野照之: 超高齢社会ニッポンの抗凝固療法. 西武抗凝固療法Up to Date, 所沢, 2018年7月18日.
21. 天野達雄: 血栓回収のガイドライン(最新版). 第11回Tama-

- FAST, 東京, 2018年7月20日.
22. 平野照之: 寝たきりからの護身術. 明日の高齢者医療を考える, 熊本, 2018年7月26日.
23. 河野浩之: 脳卒中後のてんかん. 大塚製薬株式会社社内研修会, 三鷹, 2018年7月26日.
24. 平野照之: 脳卒中治療のパラダイムシフト. MSD糖尿病代謝疾患領域社内学術研修・勉強会, 東京, 2018年7月27日.
25. 平野照之: 脳の薬剤知識と“薬によって異なる要注意点”の理解. 日総研セミナー, 東京, 2018年8月4日.
26. 平野照之: R2-D2: 脳梗塞治療の新潮流. イグザレトWEBカンファレンス, 東京, 2018年8月7日.
27. 平野照之: 今そこにある危機. Chikugo Neuro Intervention Seminar, 久留米, 2018年8月11日.
28. 天野達雄: まだ残された課題. Chikugo Neuro Intervention Seminar, 久留米, 2018年8月11日.
29. 平野照之: 脳卒中最新事情: 世界の潮流はlate time windowへ. 平成30年度熊本大学医学部同窓会(熊杏会)大分県支部総会, 大分, 2018年8月18日.
30. 平野照之: 心房細動と認知症. ストップ! NO卒中プロジェクト宮城エリアセミナー, 仙台, 2018年8月23日.
31. 平野照之: 2018脳卒中事情: 規制緩和で広がる適応. 福島脳卒中を考える会, 福島, 2018年9月3日.
32. 平野照之: 脳卒中と自動車運転. 警察庁平成30年度運転適性相談専科講義, 国分寺, 2018年9月4日.
33. 平野照之: Diffusion-perfusion mismatchをclinical-core mismatchでどう代用するか?. 脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2018, 神戸, 2018年9月15日.
34. 平野照之: 脳梗塞急性期の地域連携. 血管内治療と薬物療法の将来展望. 第14回姫路脳梗塞フォーラム, 姫路, 2018年9月21日.
35. 平野照之: 脳の薬剤知識と“薬によって異なる要注意点”の理解. 日総研セミナー, 福岡, 2018年9月22日.
36. 平野照之: 煙に巻かずに脳を守る話. チャンピックスイインターネットシンポジウム, 調布, 2018年9月28日.
37. 平野照之: 心房細動と認知症. ストップ! NO卒中プロジェクトエリア会議 in Shizuoka, 静岡, 2018年9月28日.
38. 平野照之: 心房細動と認知症. ストップ! NO卒中プロジェクトエリア会議 in 岐阜, 岐阜, 2018年10月5日.
39. 平野照之: 心房細動と認知症. ストップ! NO卒中プロジェクトエリア会議 in 茨城, つくば, 2018年10月15日.
40. 河野浩之: 悪性腫瘍関連脳梗塞と抗凝固療法. 4th KY stroke summit 特別講演, 東京, 2018年10月12日.
41. 平野照之: Time to drop or refinement. ESUSコンセプト: 終焉か? 再定義か? RESPECT ESUS試験座談会, Canada, 2018年10月19日.
42. 平野照之: 心房細動と認知症. ストップ! NO卒中プロジェクト in 信州, 松本, 2018年10月31日.
43. 平野照之: 潜因性脳梗塞へのアプローチ LINQ vs ESUS. 日本メドトロニック社内研修会, 東京, 2018年11月2日.
44. 平野照之: Tissue-based strategy: 脳梗塞治療の新潮流. 第27回グランヴィア脳血管セミナー, 大阪, 2018年11月8日.
45. 河野浩之: 脳卒中の診断と治療, 周辺症状について. エーザイ株式会社社内研修会, 三鷹, 2018年11月8日.
46. 平野照之: ESUS疾患概念は確立したか?. 世田谷循環器連携セミナー, 東京, 2018年11月15日.
47. 平野照之: ESUS疾患概念は今後どうなる?. Stroke Total Management Conference, 福岡, 2018年11月27日.
48. 平野照之: 過ぎたるは猶及ばざるが如し 脳梗塞急性期DAPTのポイント. ATIS Exchange Web, 東京, 2018年11月29日.

49. 平野照之：脳卒中から身を守る術。健康長寿講演会（三鷹市老人クラブ連合会），三鷹，2018年11月30日。
50. 平野照之：高齢心房細動患者における並存症の把握：Strokeの既往。Thrombocardiology Expert Camp，東京，2018年12月1日。
51. 平野照之：抗凝固療法はいつまで行うのか（フレイル/認知症/ポリファーマシーの観点から）：継続する立場から。Thrombocardiology Expert Camp，東京，2018年12月2日。
52. 平野照之：2018脳卒中事情：規制緩和で広がる適応。河田町神経内科抗凝固セミナー 2018，東京，2018年12月4日。
53. 平野照之：Tissue-based strategyによる脳梗塞治療：これからの課題。第41回山形県対脳卒中治療研究会，山形，2018年12月8日。
54. 天野達雄：杏林大学，変わりました。鹿児島脳血管内科の会 2019，鹿児島，2019年1月12日。
55. 平野照之：Tissue-based strategy：脳梗塞治療の新潮流。高齢者医療を勉強する会，蝦夷，2019年1月22日。
56. 河野浩之：止血・出血・血栓の病態，脳梗塞，静脈血栓症。平成30年度東京地裁ミニ研究会，東京，2019年1月24日。
57. 平野照之：潜在性脳梗塞への挑戦。Rhythm & Strokeセミナー in 秋田，秋田，2019年1月31日。
58. 平野照之：脳卒中から身を守るために今できること。脳卒中予防に関するシンポジウム，稲城，2019年2月2日。
59. 平野照之：脳卒中の連携治療～第百五号を睨んで。第14回東濃脳血管障害研究会，土岐，2019年2月14日。
60. 平野照之：脳卒中後てんかんのマネジメント。脳卒中後てんかんを考える会，久留米，2019年2月27日。
61. 平野照之：RE：脳卒中・循環器病対策基本法。第8回Hanshin Cerebral and Cardiovascular Conference，尼崎，2019年2月28日。
62. 平野照之：脳卒中・循環器病対策基本法が制定された今。第8回心原性脳塞栓症予防セミナー，熊本，2019年3月6日。
63. 天野達雄：ここまで良くなる脳梗塞血栓回収療法～杏林大学脳卒中センターの紹介～。Arrhythmia Network Conference in TAMA，東京，2019年3月6日。
64. 平野照之：脳卒中の病態と薬物療法。三鷹地区医薬連携講演会，三鷹，2019年3月7日。
65. 天野達雄：急性期脳虚血診療の最新の話題と多摩地区の取り組み。北多摩南部脳卒中ネットワーク研究会，東京，2019年3月8日。
66. 平野照之：脳卒中から身を守るために今できること。脳卒中の早期発見と予防に関するシンポジウム，東京，2019年3月9日。

## 論文

### [欧文学術誌]

1. Koizumi S<sup>1</sup>, Ota T<sup>1</sup>, Shigeta K<sup>2</sup>, Amano T, Ueda M<sup>1</sup>, Matsumaru Y<sup>3</sup>, Shiokawa Y<sup>4</sup>, Hirano T ( <sup>1</sup>Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, <sup>2</sup>National Hospital Organization Disaster Medical Center, <sup>3</sup>Tsukuba University, <sup>4</sup>Kyorin University Neurosurgery) : Onset to reperfusion time was not important in mechanical thrombectomy for elderly patients: A retrospective multicenter study in Tama area, Tokyo. *Cerebrovasc Dis* 46(1-2):89-96, 2018.
2. Ota T<sup>1</sup>, Shigeta K<sup>2</sup>, Amano T, Ueda M<sup>1</sup>, Hirano T, Matsumaru Y<sup>3</sup>, Shiokawa Y<sup>4</sup> ( <sup>1</sup>Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, <sup>2</sup>National Hospital Organization Disaster Medical Center, <sup>3</sup>Tsukuba University, <sup>4</sup>Kyorin University Neurosurgery) : Regionwide retrospective survey of acute mechanical thrombectomy in Tama, suburban Tokyo: a preliminary report. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 27(11):3350-3355, 2018.

3. Kawano H, Honda Y, Amano T, Okano H<sup>1</sup>, Suzuki R, Torii M<sup>2</sup>, Unno Y, Shiokawa Y<sup>2</sup>, Hirano T ( <sup>1</sup>Kyorin University Neurology, <sup>2</sup>Kyorin University Neurosurgery) : Subcutaneous Heparin Therapy for Patients with Cancer-Associated Stroke. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 28(2): 399-404, 2019.
4. Yasaka M<sup>1</sup>, Minematsu K<sup>2</sup>, Toyoda K<sup>2</sup>, Mori E<sup>3</sup>, Hirano T, Hamasaki T<sup>2</sup>, Yamagami H<sup>2</sup>, Nagao T<sup>4</sup>, Yoshimura S<sup>5</sup>, Uchiyama S<sup>6</sup>, for the RELAXED study group ( <sup>1</sup>Kyushu Medical Center, <sup>2</sup>National Cerebral and Cardiovascular Center, <sup>3</sup>Osaka University, <sup>4</sup>Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, <sup>5</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>6</sup>Sanno Medical Center) : Rivaroxaban administration after acute ischemic stroke: the RELAXED study. *PLOS ONE* 2019 14(2): e0212354, 2019.
5. Tsurukiri J<sup>1</sup>, Ota T<sup>2</sup>, Jimbo H<sup>1</sup>, Okumura E<sup>1</sup>, Shigeta K<sup>3</sup>, Amano T, Ueda M<sup>2</sup>, Matsumaru Y<sup>4</sup>, Shiokawa Y<sup>5</sup>, Hirano T ( <sup>1</sup>Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, <sup>2</sup>Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, <sup>3</sup>National Hospital Organization Disaster Medicine Center, <sup>4</sup>University of Tsukuba, <sup>5</sup>Kyorin University Neurosurgery) : Thrombectomy for stroke at 6 to 24 hours without perfusion CT software for patient selection. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 28(3): 774-781, 2019.
6. Kawano H, John T, Torii M<sup>1</sup>, Kamiyama H<sup>2</sup>, Amano T, Honda Y, Okano H<sup>3</sup>, Unno Y, Yamada S<sup>2</sup>, Okajima Y<sup>2</sup>, Shiokawa Y<sup>1</sup>, Hirano T ( <sup>1</sup>Kyorin University Neurosurgery, <sup>2</sup>Kyorin University Department of Rehabilitation Medicine, <sup>3</sup>Kyorin University Neurology) : Predictable value of Functional Independence Measure differs between anterior and posterior circulation ischemic strokes. *Eur Neurol* 2018;80(5-6): 313-320, 2019. DOI: 10.1159/000499132. Epub 2019.

### [和文学術誌]

1. 天野達雄，松本淑恵<sup>1</sup>，本田有子<sup>2</sup>，中西郁<sup>3</sup>，笹森寛生<sup>1</sup>，佐藤栄志<sup>1</sup>，塩川芳昭<sup>1</sup>，平野照之 ( <sup>1</sup>杏林大学医学部附属病院脳神経外科，<sup>2</sup>杏林大学医学部附属病院脳卒中科) : 脳底動脈閉塞に対する経上腕動脈アプローチでガイディングカテーテルを用いず吸引カテーテルとStent Retrieverを組み合わせた血栓回収療法。脳血管内治療 3(2):80-86, 2018.
2. 平野照之：TRAITをCTで見極める。脳卒中41(1):30-35, 2019.

### [総説]

1. 平野照之：超高齢社会の浮沈を握る脳卒中・認知症対策。糖尿病合併症 32(1):58-61, 2018.
2. 平野照之：新旧の抗血小板薬の違いは？。日本医事新報 4914:58, 2018.
3. 平野照之：抗血栓薬の進歩。血栓溶解薬 (t-PAを中心に)。日本臨牀 76(9):1577-1583, 2018.
4. 平野照之：ESUS (embolic stroke of undetermined source):update. 脳神経外科速報 28(9):889-895, 2018.
5. 平野照之：経静脈的血栓溶解療法は今後どうなるか？。JSA News 54:12-13, 2018.
6. 海野佳子：片頭痛を見逃さない極意；一次性頭痛の鑑別法。レジデント9月:31-39, 2018.
7. 河野浩之：大脳半球の広範な梗塞(一側，両側)。Brain Nursing 34(9):817-819, 2018.
8. 河野浩之：前大脳動脈領域梗塞(前大脳動脈閉塞)。Brain Nursing 34(9):820-822, 2018.
9. 河野浩之：中大脳動脈領域梗塞(中大脳動脈閉塞)。Brain Nursing 34(9):823-825, 2018.
10. 河野浩之：後大脳動脈領域梗塞(後大脳動脈閉塞)。Brain Nursing 34(9):826-828, 2018.

11. 平野照之: 脳卒中慢性期のリスク管理 高血圧. 臨牀と研究 95(10):1107-1112, 2018.
12. 海野佳子: あらたな指示が入るのはどんなとき?. Brain Nursing 34(11):6-7, 2018.
13. 河野浩之: ラクナ梗塞・アテローム血栓性脳梗塞患者の場合. Brain Nursing 34(11):982-986, 2018.
14. 平野照之: 脳梗塞再発予防. 総合リハビリテーション 47(1):77-80, 2019.
15. 河野浩之: 看護に生かせる脳の病態生理. 1日目. 脳卒中とは脳血管障害のこと. Brain Nursing 35(1):8, 2019.
16. 河野浩之: 看護に生かせる脳の病態生理. 2日目. 血栓が原因の脳梗塞. Brain Nursing 35(1):9, 2019.
17. 河野浩之: 看護に生かせる脳の病態生理. 3日目. 塞栓が原因の脳梗塞. Brain Nursing 35(1):10, 2019.
18. 河野浩之: 看護に生かせる脳の病態生理. 4日目. 血行力学的な虚血が原因の脳梗塞. Brain Nursing 35(1):11, 2019.
19. 河野浩之: 看護に生かせる脳の病態生理. 5日目. どんどん状態が悪くなる脳梗塞. Brain Nursing 35(1):12, 2019.
20. 河野浩之: 看護に生かせる脳の病態生理. 6日目. 脳梗塞なのに出血する. Brain Nursing 35(1):13, 2019.
21. 河野浩之: 看護に生かせる脳の病態生理. 7日目. 詰まった後に血流が再開する. Brain Nursing 35(1):14, 2019.
22. 平野照之: シロスタゾールの適応と使用法. Medicine 56(2):258-261, 2019.
23. 平野照之: 患者背景からDOACをいかに使い分けるか?. 薬局 70(3):62-68, 2019.
24. 河野浩之: 脳梗塞急性期の抗凝固療法. Cardio-Coagulation 6:27-33, 2019.

## 著書

1. 岩下達雄, 海野佳子(分担執筆): 神経症候8 眼が閉じない, 口から水がこぼれる(顔がおかしい). ブラッシュアップ神経症候 診察と診断のステップを究める. 鈴木則宏編. 東京, 中外医学社, 2018. p.144-150.
2. 平野照之(分担執筆): 脳梗塞. 名医のいる病院2019. 東京, 医療新聞社, 2018. p.215-226.
3. 平野照之(分担執筆): 脳血管障害の合併症(誤嚥性肺炎を中心に). 今日の治療指針2019. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編. 東京, 医学書院, 2019. pp.918-919.
4. 平野照之(分担執筆): DAPTの有効性と安全性. 脳卒中エキスパートシリーズ「抗血栓療法を極める」. 鈴木則宏監, 伊藤義彰編. 東京, 中外医学社, 2019. pp.97-108.
5. 平野照之(分担執筆): 脳卒中患者が来院したら一診断, 鑑別診断, 治療方針の決定, 検査計画法一. マスター脳卒中学. 田川皓一, 橋本洋一郎, 稲富雄一郎編. 東京, 西村書店, 2019. pp.3-10.
6. 平野照之(分担執筆): 脳卒中超急性期の画像診断一CTとMRI一. マスター脳卒中学. 田川皓一, 橋本洋一郎, 稲富雄一郎編. 東京, 西村書店, 2019. pp.33-40.
7. 河野浩之(分担執筆): 42 奇異性脳塞栓症. マスター脳卒中学. 東京, 西村書店, 2019. pp.302-307.
8. 河野浩之(分担執筆): 48 後部可逆性脳症症候群. マスター脳卒中学. 東京, 西村書店, 2019. pp.337-341.
9. 平野照之(分担執筆): 虚血コアのMR imaging. Annual Review神経2019. 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原聡, 塩川芳昭編. 東京, 中外医学社, 2019. pp.133-140.
10. 平野照之(分担執筆): 静注血栓溶解療法. 脳梗塞診療読本第3版. 豊田一則編. 東京, 中外医学社, 2019. pp.69-89.
11. 平野照之(分担執筆): 塞栓源の同定に苦慮した脳塞栓症67歳男性(ESUS). 症例から学ぶ 戦略的急性期脳卒中の診断と治療. 伊藤義彰編. 東京, 南山堂, 2019. pp.170-176.
12. 平野照之(分担執筆): 脳梗塞を繰り返し高度の白質病変を呈した症例 65歳女性(CADASIL). 症例から学ぶ 戦略的急性期脳卒中の診断と治療. 伊藤義彰編. 東京, 南山堂, 2019. pp.177-183.

## その他

1. 海野佳子: 体の声を聴く: 夏に行いたい血栓症対策とは. Fino 7月号インタビュー記事. 東京, 2018年.
2. 小室一成, 平野照之, 田口博基: 日々進化する新知見を実臨床にどう活かすか?. 文光堂Medical Practice座談会, 東京, 2018年11月5日.
3. 平野照之: 脳卒中後てんかん「潜在する患者は多い」. 薬事ニュース2018年(平成30年)12月21日 第4390号 p.6.
4. 峰松一夫, 内山真一郎, 平野照之, 矢坂正弘, 吉村紳一: 脳梗塞急性期における抗凝固療法を考える～超高齢社会の脳卒中治療とは～. Medical Tribune, Vol51, No27, pp4-5, 2018年12月27日.
5. 平野照之: 画像と解剖 見比べミニブック. 大阪, メディカ出版, 2018年.
6. 平野照之: 脳卒中から身を守るために. 検診&セルフチェックシリーズ. 東京, 東京法規出版, 2018年.

## 医学教育学教室

## 講演

1. 富田泰彦, 前田達浩: 脳神経外科医の認知症に関する研鑽と資格養成制度について-地域連携型認知症疾患医療センターの経験から-. 第2回日本脳神経外科認知症学会, 東京, 2018年6月23日.
2. 矢島知治, 岩下義明, 富田泰彦, 赤木美智男: レスター大学の語学学校を利用した医学英語教育の試み. 第50回日本医学教育学会大会, 東京, 2018年8月3日.
3. 富田泰彦, 赤木美智男, 矢島知治: 座学とシミュレーショントレーニングを併用したアナフィラキシーショックに関する研修. 第50回日本医学教育学会総会, 東京, 2018年8月4日.
4. 富田泰彦: 「正しく知ろう、認知症!」-早期発見、早期診断が大切です-. 東久留米市認知症講演会, 東久留米, 2019年3月1日.

## 論文

1. Tomita Y, Akagi M: Quantitative change in the knowledge base of medical undergraduate education - A chronological analysis of the standards of the National Examination for medical practitioners-. J Kyorin Med Soc 49(4): 277-286, 2018.
2. 富田泰彦: 特集 見直そう これからの救急卒前教育 その他の卒前救急教育 OSCEの現状と課題. 救急医学42(9): 1092-1096, 2018.
3. 矢島知治: 「研修医に求められる消化器診療のエッセンス」巻頭言『序』. レジデントノート増刊, 20(14): 2018.
4. 矢島知治: 「研修医に求められる消化器診療のエッセンス」病歴聴取. レジデントノート増刊, 20(14): 117-121, 2018.
5. 矢島知治: 「研修医に求められる消化器診療のエッセンス」腹部診察法. レジデントノート増刊20(14): 129-132, 2018.
6. 矢島知治: 炎症性腸疾患に合併する大腸癌の予防. 日本臨牀 2018年4月増刊号: 410-413, 2018.
7. 矢島知治: 「便秘と下痢の最前線-診断と治療のパラダイムシフト」下痢・便秘の診断・鑑別に役立つ検査. 診断と治療 106(7): 807-810, 2018.
8. 江頭説子: 派遣労働者の選抜機能としての「直接雇用」転換と労働者の選択. 大原社会問題研究所雑誌 718号: 3-21, 2018.

9. 江頭説子, 石黒眞里<sup>1</sup>, 田口久美子<sup>2</sup> (1明治学院大学, <sup>2</sup>和洋女子大学): 国際ジェンダー学会会員のキャリア形成とジェンダー研究・教育の課題. 国際ジェンダー学会誌 Vol.16: 60-80, 2018.
10. 岡本晋<sup>1</sup>, 赤木美智男, 富田泰彦, 江頭説子 (1杏林大・医・総合医療学): 医学部におけるキャリア教育 杏林大学医学部の取組. 杏林医学会雑誌 49 (1) : 51-63, 2018.
11. Tomita Y, Yagihashi H<sup>1</sup>, Eto S, Kato M<sup>2</sup> (1杏林大・外, <sup>2</sup>杏林大学医学部付属病院患者サービス室) : Constructing system of community involvement through children's community space. Kyorin University Journal 36 : 1-11, 2019.

## 著書

1. 矢島知治 (分担執筆) : 第112回医師国家試験問題解説. 東京, メディックメディア, 2018.

## その他

1. 赤木美智男: 杏林大学医学部付属病院 第27回指導医養成ワークショップ. ディレクター, 東京, 2018年6月1-2日.
2. 富田泰彦: 杏林大学医学部付属病院 第27回指導医養成ワークショップ. チーフタスクフォース, 東京, 2018年6月1-2日.
3. 矢島知治: 杏林大学医学部付属病院 第27回指導医養成ワークショップ. タスクフォース, 東京, 2018年6月1-2日.
4. 富田泰彦: 日本病院会 2018年度第2回臨床研修指導医養成講習会. タスクフォース, 東京, 2018年9月8-9日.
5. 矢島知治: 第15回専門医セミナー「ドクターガストロ～臨床推論からの消化器病学～」主催. 第351回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2018年9月22日.
6. 矢島知治: 第7回Academy of Crohn's & colitis Young Experts (ACE) 企画・司会. 東京, 2018年10月6日.
7. 赤木美智男: 杏林大学医学部付属病院 第28回指導医養成ワークショップ. ディレクター, 東京, 2018年10月26-27日.
8. 富田泰彦: 杏林大学医学部付属病院 第28回指導医養成ワークショップ. チーフタスクフォース, 東京, 2018年10月26-27日.
9. 矢島知治: 杏林大学医学部付属病院 第28回指導医養成ワークショップ. タスクフォース, 東京, 2018年10月26-27日.
10. 赤木美智男: 第24回小児科医のための臨床研修指導医講習会. タスクフォース, 千葉, 2019年1月11-13日.
11. 赤木美智男: 全国自治体病院協議会・全国国民健康保険診療施設協議会 第149回臨床研修指導医講習会. タスクフォース, 東京, 2019年1月18-20日.
12. 富田泰彦: 全国自治体病院協議会・全国国民健康保険診療施設協議会 第150回臨床研修指導医講習会. タスクフォース, 東京, 2019年2月16-17日.
13. 矢島知治: 第16回専門医セミナー「ドクターガストロ～臨床推論からの消化器病学～」を主催. 第353回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2019年2月23日.
14. 赤木美智男: 第1回公認心理師国家試験 試験委員長.
15. 富田泰彦: 第113回医師国家試験 試験委員.

## 解剖学教室 (肉眼解剖学)

## 講演

1. 長瀬美樹: メカノバイオロジと血圧調節. 第41回日本高血圧学会総会, 旭川, 2018年9月15日.
2. 長瀬美樹: 肥満高血圧の病態、臓器合併症の分子メカニズム. 第41回日本高血圧学会総会, 旭川, 2018年9月16日.

3. 長瀬美樹: 腎臓における性差: 疫学・統計学的視点からの捉え方. 第48回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2018年10月20日.
4. 高篠智, 灰塚嘉典, 北村修, 長瀬美樹, 松村譲児: 解剖実習体に対するホルマリンに代わる新しい固定液 (N-Vinyl-2-Pyrrolidone) について. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
5. 澤田月杜, 灰塚嘉典, 上野仁之, 松村譲児, 長瀬美樹: 総指伸筋における破格例の報告と支配神経の解析. 第124回日本解剖学会総会・全国学術集会, 新潟, 2019年3月27-29日.
6. 木本裕介, 松村譲児, 長瀬美樹: ピロリドン固定解剖体における腹腔鏡下内臓観察—腹腔鏡手術手技訓練への応用にむけて. 第124回日本解剖学会総会・全国学術集会, 新潟, 2019年3月27-29日.
7. 灰塚嘉典, 松村譲児, 長瀬美樹: ピロリドン固定マウスにおける関節可動域の測定. 第124回日本解剖学会総会・全国学術集会, 新潟, 2019年3月27-29日.
8. 鈴木菜穂, 灰塚嘉典, 上野仁之, 松村譲児, 長瀬美樹: 実習解剖体のピロリドン固定法における組織学的構造の観察. 第124回日本解剖学会総会・全国学術集会, 新潟, 2019年3月27-29日.
9. 長瀬美樹, 松村譲児: 腎糸球体や心血管におけるメカノ感受応答機構の解析. 第124回日本解剖学会総会・全国学術集会, 新潟, 2019年3月29日.

## 論文

1. 竹田扇<sup>1</sup>, 小田賢幸<sup>1</sup>, 鶴川眞也<sup>2</sup>, 吉川雅英<sup>3</sup>, 松村譲児, 鈴木崇根<sup>4</sup>, 小澤一史<sup>5</sup>, 社本憲俊<sup>1</sup>, 奥田佳介<sup>2</sup>, 高碩航<sup>3</sup>, 深谷一勤, 須澤綾友<sup>4</sup>, 島田春貴<sup>5</sup> (1山梨大, <sup>2</sup>名古屋市立大, <sup>3</sup>東京大, <sup>4</sup>千葉大, <sup>5</sup>日本医科大): これからの医学教育に求められるもの: 2018解剖学会ワークショップから. 解剖学雑誌 93 : 54-56, 2018.
2. Kawasaki T<sup>1</sup>, Shin M<sup>1</sup>, Kimura Y<sup>1</sup>, Umitsu Y<sup>2</sup>, Matsumura G, Yokochi F<sup>1</sup>, Okiyama R<sup>1</sup>, Taniguchi M<sup>1</sup>, Arai N<sup>2</sup> (1Tokyo Metropolitan Neurological Hospital, 2Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science): Topographic anatomy of the subthalamic nucleus localized by high-resolution human brain atlas superimposing digital images of cross-sectioned surfaces and histological images of microscopic sections from frozen cadaveric brains. J Clin Neurosci. 53: 193-202, 2018. DOI: 10.1016/j.jocn.2018.04.029
3. Ikezawa M<sup>1</sup>, Tajika Y<sup>1</sup>, Ueno H, Murakami T<sup>1</sup>, Inoue N<sup>2</sup>, Yorifuji H<sup>1</sup> (1Gunma University, 2Osaka University): Loss of VAMP5 in mice results in duplication of the ureter and insufficient expansion of the lung. Dev Dyn. 247(5): 754-762, 2018. DOI: 10.1002/dvdy.24618
4. Nishimoto M<sup>1</sup>, Ohtsu H<sup>2</sup>, Marumo T<sup>1</sup>, Kawarazaki W<sup>1</sup>, Ayuzawa N<sup>1</sup>, Ueda K<sup>1</sup>, Hirohama D<sup>1</sup>, Kawakami-Mori F<sup>1</sup>, Shibata S<sup>3</sup>, Nagase M, Isshiki M<sup>4</sup>, Oba S<sup>1</sup>, Shimosawa T<sup>5</sup>, Fujita T<sup>1</sup> (1The University of Tokyo, 2National Center for Global Health and Medicine, 3Teikyo University School of Medicine, 4Saitama Medical University, 5International University of Health and Welfare): Mineralocorticoid receptor blockade suppresses dietary salt-induced ACEI/ARB-resistant albuminuria in non-diabetic hypertension: a sub-analysis of evaluate study. Hypertens Res. 42(4): 514-521, 2019. DOI: 10.1038/s41440-018-0201-7

## 著書

1. 松村譲児 (監修) : 病気がみえるVol.9. 婦人科・乳腺外科 第4版. 東京, メディックメディア, 2018年.
2. 松村譲児 (監修) : 病気がみえるVol.10. 産科 第4版. 東京, メディックメディア, 2018年.

3. 長瀬美樹: 高血圧症の9割は原因が特定できない本態性である. カラー図解 人体の細胞生物学. 坂井建雄, 石崎泰樹編集. 東京, 日本医事新報社, 2018年. p. 250-251.
4. 長瀬美樹: 糸球体濾過膜が障害されると蛋白尿, 糸球体硬化が生じる. カラー図解 人体の細胞生物学. 坂井建雄, 石崎泰樹編集. 東京, 日本医事新報社, 2018年. p. 252-253.

#### 報告書

1. 長瀬美樹: 腎糸球体ポドサイトのメカノバイオロジーの解明と糸球体内圧評価法の開発. 革新的先端研究開発支援事業 (AMED) メカノバイオロジー機構の解明による革新的医療機器及び医療技術の創出 ソロタイプ (PRIME) 2018年度 研究報告書.

#### その他

1. 松村譲児: メメント・モリ 第4部「自分を遺す」② 献体 「全部つこうてくれ」 中日新聞 2018年4月27日.
2. 松村譲児: メメント・モリ 第4部「自分を遺す」総集編「恩返し」の献体: 東日本大震災の年最多」 中日新聞 2018年5月18日.
3. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第117回免疫グロブリン】. Tarzan 738: 84, 東京, マガジンハウス, 2018年.
4. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第118回前立腺】. Tarzan 739: 76, 東京, マガジンハウス, 2018年.
5. 松村譲児: 体と心 保健総合大百科2018・2016年度小学保健ニュース・心の健康ニュース収録 縮刷活用版 小学校編, 東京, 少年写真新聞社, 2018年. p. 29-30.
6. 長瀬美樹: 巻頭言 解剖学と腎臓研究. 腎と透析 86(2), 2019年.

#### 解剖学教室 (顕微解剖学)

#### 講演

1. 井出真太郎, 前澤善朗, Finer G, Scott R, Onay T, 竹本稔, 秋元義弘, Quaggin S, 横手幸太郎: 転写因子Tcf21は腎臓発生においてGdnf経路を介して尿管芽の分岐を制御する. 第55回日本臨床分子医学会学術集会, 京都, 2018年4月13-14日.
2. 坂本憲一, 竹本稔, 古市泰郎, 高橋恵, 秋元義弘, 山本雅, 石川崇広, 前澤善朗, 清水孝彦, 眞鍋康子, 藤井宣晴, 横手幸太郎: 新規筋衛星細胞発現遺伝子R3hdmlは筋衛星細胞の増殖能を制御し, 骨格筋の分化再生を促進する. 第91回日本内分泌学会学術総会, 宮崎, 2018年4月26-28日.
3. 三浦ゆり, 早川敦子, 津元裕樹, 岩本真知子, 福井浩二, 秋元義弘, 遠藤玉夫: 糖尿病モデルGoto-Kakizakiラット腎組織における線維化. 第66回質量分析総合討論会・日本プロテオーム学会2018年大会・9th AOHUPO合同大会, 吹田, 2018年5月15-18日.
4. 坂本憲一, 竹本稔, 古市泰郎, 高橋恵, 秋元義弘, 山本雅, 石川崇広, 前澤善朗, 清水孝彦, 眞鍋康子, 藤井宣晴, 横手幸太郎: 新規筋衛星細胞発現遺伝子R3hdmlは筋衛星細胞の増殖能を制御し, 骨格筋の分化再生を促進する. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
5. 井出真太郎, 前澤善朗, Finer G, Scott R, Onay T, 竹本稔, 秋元義弘, Quaggin S, 横手幸太郎: 糖尿病腎症における転写調節因子Tcf21の機能解析. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.
6. 秋元義弘: TEMによる免疫電顕: 包埋前染色法. ワークショップ「医学・生物学における免疫電子顕微鏡観察の応用」. 日本顕微鏡学会第74回学術講演会, 久留米, 2018年5月29-31日.

7. 井出真太郎, 前澤善朗, Finer G, Scott R, Onay T, 竹本稔, 秋元義弘, Quaggin S, 横手幸太郎: 転写因子Tcf21は尿管芽の分岐を制御し, 腎臓発生において必須である. 第61回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018年6月8-10日.
8. 羽田伊知郎, 西堀由紀野, 濱野翔, 高橋昌兵, 三上直朗, 小谷昌史, 木内善太郎, 福原大介, 宮東昭彦, 秋元義弘, 清水章, 楊國昌: 創薬研究に資するCrumbs2を足場とした新規ネフローゼモデルマウスの樹立. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 福島, 2018年6月29-30日.
9. 宮東昭彦: 画像解析によるデータ数値化の基礎. 第43回組織細胞化学講習会, 奈良, 2018年8月2-3日.
10. 秋元義弘: 標的物質の局在を電顕で見る包埋前染色法. 第29回電顕サマースクール2018, 松本, 2018年8月4-5日.
11. 菅原大介, 秋元義弘, 川上速人: マウス腸管におけるフコシル化糖タンパク質の免疫組織化学的検出. 第37回日本糖質学会年会, 仙台, 2018年8月28-30日.
12. 小川裕子, 糸田奈宝子, 高瀬祐実, 山崎悠希, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: 胃腸液中におけるヒト唾液exosomeの安定性. 第5回日本細胞外小胞学会, 広島, 2018年8月29-31日.
13. 尾崎友祥, 津元裕樹, 岩本真知子, 梅澤啓太郎, 福井浩二, 秋元義弘, 遠藤玉夫, 三浦ゆり: Sirtuin 1 (SIRT1)のO-GlcNAc修飾に関する研究. 第62回日本薬学会関東支部大会, 東京, 2018年9月15日.
14. 小川裕子, 伊藤芹奈, 池本守, 糸田奈宝子, 後藤芳邦, 辻本雅文, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来エキソソームの表面分子によるマクロファージ活性化機構の解析. 第62回日本薬学会関東支部大会, 東京, 2018年9月15日.
15. 藤平陽彦, 根岸・正原由紀, 秋元義弘, 川上速人, 船越陽子, 鈴木匡: 肝臓におけるNgly1の生理機能. 第91回日本生化学会大会, 京都, 2018年9月24-26日.
16. 秋元義弘, 楊國昌, 三浦ゆり, 津元裕樹, 岩本真知子, 戸田年総, 福富俊之, 菅原大介, 宮東昭彦, Hart GW, 川上速人: ラット腎臓におけるリン酸化アクチンと糖修飾アクチンの局在. 第59回日本組織細胞化学学会総会・学術集会, 宮崎, 2018年9月28-29日.
17. Fukui R, Suzuki D, Akimoto Y, Ushiyama A, Tanaka J, Kamijo R, Iijima T: Pulmonary edema induced by cognate anti-HLA antibody accompanies glycocalyx degradation. Anesthesiology 2018, USA, October 13th-17th, 2018.
18. Yoshida Y, Yamada A, Akimoto Y, Abe K, Kamijo R, Iijima T: Cdc42 expected to become target gene for control of vascular permeability. Anesthesiology 2018, USA, October 13th-17th, 2018.
19. 小川裕子, 糸田奈宝子, 辻本雅文, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来エキソソームの保存条件および体内条件における安定性の検討. 第11回中野医学会, 東京, 2018年10月28日.
20. 市川大, 深谷浩史, 大川聡, 提嶋真人, 川上速人, 中道一生, 宮田元: 緩徐進行性の経過が示唆された小脳・脳幹型進行性多巣性白質脳症の1剖検例. 第25回東北神経病理研究会, 秋田, 2018年11月10日.
21. 早川り子, 蔣池かおり, 森島正恵, 清水和彦, 北原修治, 川上速人, 藤枝弘樹, 江崎太一: MNU-誘発網膜変性モデルにおける脈絡膜毛細血管板の早期形態的变化について. 第11回Retinal Research Meeting, 東京, 2018年12月1日.
22. 小川裕子, 糸田奈宝子, 後藤芳邦, 辻本雅文, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来exosomeの表面分子の結合状態および免疫活性化の制御への関与. 第63回日本唾液腺学会総会, 東京, 2018年12月8日.
23. 秋元義弘: 糖修飾 (O-GlcNAc化) と糖尿病性腎症. 第47回腎臓研究会, 東京, 2019年1月19日.

24. Hayakawa R, Komoike K, Kawakami H, Morishima M, Shimizu K, Kitahara S, Fujieda H, Ezaki T: Choriocapillaris during MNU-induced photoreceptor cell degeneration in mice. 第6回研究交流セミナー (東京女子医大・早稲田大学), 東京, 2019年2月22日.
25. 小川裕子, 桑田奈宝子, 小林菜央, 高橋花菜子, 三浦里奈, 高瀬祐美, 山崎悠希, 池本守, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来exosomeの消化管内条件における安定性の検討. 日本薬学会第139年会, 千葉, 2019年3月20-23日.
26. 秋元義弘, 三浦ゆり, 福富俊之, 菅原大介, 宮東昭彦, Hart GW, 遠藤玉夫, 楊國昌, 川上速人: 糖尿病モデルGKラットの坐骨神経、網膜における糖修飾アクチンの局在. 第124回日本解剖学会総会・全国学術集会, 新潟, 2019年3月27-29日.
27. 菅原大介, 秋元義弘, 川上速人: 腸管杯細胞の分化成熟に伴う糖タンパク質の変化. 第124回日本解剖学会総会・全国学術集会, 新潟, 2019年3月27-29日.
28. 早川るり子, 蔣池かおり, 森島正恵, 清水和彦, 北原修治, 菊田幸子, 川上速人, 藤枝弘樹, 江崎太一: MNU-誘発網膜変性マウスモデルにおける脈絡膜毛細血管板内皮細胞の早期形態的变化とその意義. 第124回日本解剖学会総会・全国学術集会, 新潟, 2019年3月27-29日.

#### 平成29年度業績追加

1. 宮岡千尋, 花輪智子, 川上速人, 河野洋平, 青山隆夫, 神谷茂: ピロリ菌のバイオフィルム形成に対するppGpp欠損の影響. 日本薬学会第138年会, 金沢, 2018年3月25-28日.

#### 論文

1. Ide S<sup>1</sup>, Finer G<sup>1</sup>, Maezawa Y<sup>1</sup>, Onay T<sup>3</sup>, Souma T<sup>3</sup>, Scott R<sup>3</sup>, Ide K<sup>1</sup>, Akimoto Y, Li C<sup>4</sup>, Ye M<sup>3</sup>, Zhao X<sup>2,3</sup>, Baba Y<sup>1</sup>, Minamizuka T<sup>1</sup>, Jin J<sup>3</sup>, Takemoto M<sup>1,5</sup>, Yokote K<sup>1</sup>, Quaggin SE<sup>3</sup> (Chiba University, <sup>2</sup>Ann and Robert H. Lurie Children's Hospital of Chicago, <sup>3</sup>Northwestern University Feinberg School of Medicine, <sup>4</sup>Mount Sinai Hospital, <sup>5</sup>International University of Health and Welfare): Transcription factor 21 is required for branching morphogenesis and regulates the Gdnf-axis in kidney development. *J Am Soc Nephrol* 29: 2795-2808, 2018.
2. Goto Y<sup>1</sup>, Ogawa Y<sup>1</sup>, Tsumoto H<sup>2</sup>, Miura Y<sup>2</sup>, Nakamura TJ<sup>3</sup>, Ogawa K<sup>4</sup>, Akimoto Y, Kawakami H, Endo T<sup>2</sup>, Yanoshita R<sup>1</sup>, Tsujimoto M<sup>1</sup> (Teikyo-Heisei University, <sup>2</sup>Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>3</sup>Meiji University, <sup>4</sup>RIKEN): Contribution of the exosome-associated form of secreted endoplasmic reticulum aminopeptidase 1 to exosome-mediated macrophage activation. *Biochim Biophys Acta Mol Cell Res* 1865: 874-888, 2018.
3. Itoh K<sup>1</sup>, Akimoto Y, Kondo S<sup>2</sup>, Ichimiya T<sup>1</sup>, Aoki K<sup>3</sup>, Tiemeyer M<sup>3</sup>, Nishihara S<sup>1</sup> (Soka University, <sup>2</sup>The Graduate University for Advanced Studies, <sup>3</sup>The University of Georgia): Glucuronylated core 1 glycans are required for precise localization of neuromuscular junctions and normal formation of basement membranes on *Drosophila* muscles. *Develop Biol* 436: 108-124, 2018.
4. Yoshimura T<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>2,3</sup>, Kuramochi-Miyagawa S<sup>1</sup>, Takemoto N<sup>1</sup>, Shiromoto Y<sup>1</sup>, Kudo A, Kanai-Azuma M<sup>4</sup>, Tashiro F<sup>1</sup>, Miyazaki S<sup>1</sup>, Katanaya A<sup>5</sup>, Chuma S<sup>5</sup>, Miyazaki JI<sup>1</sup> (Osaka University, <sup>2</sup>Yale University, <sup>3</sup>Central Institute for Experimental Animals, <sup>4</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>5</sup>Kyoto University): Mouse GTSF1 is an essential factor for secondary piRNA biogenesis. *EMBO Rep* 19: e42054, 2018.
5. Hamano S<sup>1</sup>, Nishibori Y<sup>1</sup>, Hada I<sup>1</sup>, Mikami N<sup>1</sup>, Ito-Nitta N<sup>1</sup>, Fukuhara D<sup>1</sup>, Kudo A, Xiao Z<sup>2</sup>, Nukui M<sup>2</sup>, Patrakka J<sup>3</sup>, Tryggvason K<sup>2</sup>, Yan K<sup>1</sup> (Department of Pediatrics,

Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Karolinska Institute, <sup>3</sup>Karolinska University Hospital Huddinge): Association of crumbs homolog-2 with mTORC1 in developing podocyte. *PLoS One* 13: e0202400, 2018.

6. Ohara-Imaizumi M<sup>1</sup>, Aoyagi K<sup>1</sup>, Yamauchi H<sup>2</sup>, Yoshida M<sup>3</sup>, Mori MX<sup>4</sup>, Hida Y<sup>2</sup>, Tran HN<sup>4</sup>, Ohkura M<sup>5</sup>, Abe M<sup>6</sup>, Akimoto Y, Nakamichi Y<sup>1</sup>, Nishiwaki C<sup>1</sup>, Kawakami H, Hara K<sup>3</sup>, Sakimura K<sup>6</sup>, Nagamatsu S<sup>1,7</sup>, Mori Y<sup>4</sup>, Nakai N<sup>5</sup>, Kakei M<sup>3</sup>, Ohtsuka T<sup>2</sup> (Department of Biochemistry, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>University of Yamanashi, <sup>3</sup>Jichi Medical University, <sup>4</sup>Kyoto University, <sup>5</sup>Saitama University, <sup>6</sup>Niigata University, <sup>7</sup>Shinei-Diabetic-Clinic): ELKS/voltage-dependent Ca<sup>2+</sup> channel-β subunit module regulates polarized Ca<sup>2+</sup> influx in pancreatic β cells. *Cell Rep* 26: 1213-1226, 2019.

#### 著書

1. Miyamoto K, Ikehara Y, Ikehara S, Akimoto Y, Sakakita H, Ishikawa K, Ueda M, Ikeda J, Nakanishi H, Shimizu N, Shimizu T, Hori M: Cutting-edge technologies of bleeding control using nonthermal plasma—mechanism of blood coagulation and wound healing. In: *Plasma Medical Science*. 1st ed. Toyokuni S, Ikehara Y, Kikkawa F, Hori M, eds. Tokyo, Academic Press, 2018, Chapter 6.2, p.322-328.
2. Akimoto Y, Ikehara S, Yamaguchi T, Kim J, Kawakami H, Shimizu N, Hori M, Sakakita H, Ikehara Y: Chapter 6.4 Molecular morphological analysis of the effect of plasma irradiation on cells, tissue. In: *Plasma Medical Science*. 1st ed. Toyokuni S, Ikehara Y, Kikkawa F, Hori M, eds. Tokyo, Academic Press, 2018, p.336-345.
3. Tanaka A, Koga K, Kitazaki S, Akimoto Y, Ikehara Y: Chapter 7.2 General concepts of basic safety on plasma treatment. In: *Plasma Medical Science*. 1st ed. Toyokuni S, Ikehara Y, Kikkawa F, Hori M, eds. Tokyo, Academic Press, 2018, p.390-400.
4. 宮東昭彦, 川上速人: 画像解析によるデータ数値化の基礎. *組織細胞化学2018*. 日本組織細胞化学会編集, 東京, 学際企画, 2018, p.109-120.
5. 坂井建雄, 川上速人 (監訳): *ジュンケイラ組織学* 第5版 (原著14版). 東京, 丸善, 2018.
6. 川上速人 (翻訳): 第2章 細胞質. *ジュンケイラ組織学* 第5版 (原著14版). 坂井建雄, 川上速人監訳, 東京, 丸善, 2018, p.19-58.
7. 川上速人 (翻訳): 第4章 上皮組織. *ジュンケイラ組織学* 第5版 (原著14版). 坂井建雄, 川上速人監訳, 東京, 丸善, 2018, p.79-104.
8. 秋元義弘 (翻訳): 第5章 結合組織. *ジュンケイラ組織学* 第5版 (原書14版). 坂井建雄, 川上速人監訳, 東京, 丸善, 2018, p.105-132.
9. 宮東昭彦 (翻訳): 第20章 内分泌腺. *ジュンケイラ組織学* 第5版 (原書14版). 坂井建雄, 川上速人監訳, 東京, 丸善, 2018, p.443-470.
10. 川上速人 (監修協力): *病気が見えるvol.9 婦人科・乳腺外科* 第4版, 東京, メディックメディア, 2018.

#### その他

1. 秋元義弘, 川上速人: 杏林医学会第34回例会主催, 三鷹, 2018年11月27日. 「O-GlcNAc modification of protein: roles in neurodegenerative diseases and diabetes」 (演者Prof. Gerald W. Hart: Department of Biological Chemistry, Johns Hopkins University School of Medicine).
2. 解剖学教室 (顕微解剖学): 「本質を見抜く心構えを」医学部解剖学教室 川上速人教授の最終講義. 学園会報あんず No.440, 12-1月号, p.13, 2019.

統合生理学教室

講演

1. 小西一斉, 中島 剛, 佐野秀仁, 五十嵐一峰, 大森雅夫, 諸井威彦, 高橋雅人, 鈴木伸弥, 入江駿, 有安諒平, 大木紫, 市村正一: 錐体路と末梢神経の連合刺激によるヒト間接的皮質-脊髄路興奮の長期増強. 第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 神戸, 2018年4月12-14日.
2. Ohki Y: Sense of body ownership and EEG activities. Workshop "Advances in Embodied-Brain Systems Science and rehabilitation", EMBC2018, USA, 2018年7月17日.
3. Oouchida Y, Ortiz-Catalan M, Sudo T, Inamura T, Ohki Y, Izumi S: EMG Biofeedback Training Improves Motor Impairment of Mental Disease: A Case Study of Conversion Disorder. EMBC2018, USA, 2018年7月19日.
4. Ariyasu R, Nakajima T, Irie S, Suzuki S and Ohki Y: Color-specific plasticity of visual pathway to early visual cortices after the repetitive combined color vision and transcranial magnetic stimulation. 第41回日本神経科学大会, 神戸, 2018年7月26-29日.
5. Ohtsuka H, Suzuki S, Irie S, Ariyasu R, Komiyama T, Nakajima T: Modulation of intermuscular electromyogram coherences in human upper limb during natural manipulation task. 第41回日本神経科学大会, 神戸, 2018年7月26-29日.
6. Ohki Y, S Shibuya, S Unenaka: Virtual reality and its clinical application. Symposium "Virtual reality and its clinical application", 第41回日本神経科学大会, 神戸, 2018年7月28日.
7. 笹田周作, 石井智也, 遠藤隆志, 中島 剛, 小宮山伴与志: 脊髄直流電流刺激によるサイクリング位相依存的な皮膚反射の修飾. 第73回日本体医学会, 福井, 2018年 9月7-9日.
8. Nakajima T, Ohtsuka H, Irie S, Ariyasu R, Komiyama T, Ohki Y: Visual stimulation facilitates cervical interneuron systems mediating corticospinal excitation to motoneurons in arm muscles. Society for Neuroscience 2018, USA, 2018年11月3-7日.
9. Ohtsuka H, Suzuki S, Irie S, Ariyasu R, Komiyama T, Nakajima T: Enhancement of intermuscular electromyogram coherences in human upper limb during natural manipulation task. Society for Neuroscience 2018, USA, 2018年 11月3-7日.
10. Sasada S, Yamaguchi T, Ishi T, Nakajima T, Endoh T, Komiyama T: Involuntary changes in leg cycling cadence following transcutaneous spinal direct current stimulation. Society for Neuroscience 2018, USA, 2018年 11月3-7日.
11. 杉内友理子, 八木淳一, 篠田義一: 頸部腹側筋への左右6個の半規管からの入力様式とその中枢経路. 第77回日本めまい平衡医学総会, 山口, 2018年11月28-29日.
12. 渋谷賢, 畝中智志, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 大木紫: 身体化した偽の手の運動観察に伴う神経振動の変化: 遅延視覚フィードバックの影響. 第37回日本基礎心理学会, 川崎, 2018年11月30日-12月2日.
13. 中島剛: 運動機能再建に向けたヒト脊髄反射の話. 奈良女子大学スポーツサイエンスセミナー, 奈良, 2019年1月29日. (招待講演)
14. 中島剛: 脊髄損傷後の歩行機能再建に関わる神経リハビリテーション. 日本ボバース研究会 関東甲信越神ブロック成人部門合同症例発表会, 東京, 2019年2月16日. (特別講演)
15. 渋谷賢, 畝中智志, 嶋田総太郎, 大木紫: 身体所有感が人工手の運動観察時の神経振動に及ぼす影響. 第7回身体性システム領域全体会議, 花巻, 2019年2月28日-3月2日.

16. 中島剛: ヒト脊髄反射の神経生理学. BiNI Perspective Conference 2019, 東京, 2019年3月3日. (招待講演)
17. 大木紫: 脊髄可塑性の誘導と臨床への応用, 杏林大学理学療法学科Activity Reports 2019, 三鷹, 2019年3月13日.

論文

1. Omori M<sup>1</sup>, Shibuya S, Nakajima T, Endoh T<sup>2</sup>, Suzuki S<sup>3</sup>, Irie S, Ariyasu R, Unenaka S<sup>1</sup>, Sano H<sup>1</sup>, Igarashi K<sup>1</sup>, Ichimura S<sup>1</sup>, Ohki Y (<sup>1</sup>Dept Orthop Surg, <sup>2</sup> Uekusa Gakuen Univ, <sup>3</sup> Health Sci Univ of Hokkaido, <sup>4</sup>Hokusho Univ): Hand dexterity impairment in patients with cervical myelopathy: A new quantitative assessment using a natural prehension movement. Behav Neurol, 2018. DOI: 10.1155/2018/5138234
2. Shibuya S, Unenaka S<sup>1</sup>, Ohki Y (<sup>1</sup>Hokusho Univ): The Relationship between the virtual hand illusion and motor performance. Front Psychol, 2018. DOI: 10.3389/fpsyg.2018.02242
3. Shibuya H<sup>1</sup>, Eto C<sup>1</sup>, Suzuki M<sup>2</sup>, Imai R<sup>1</sup>, Yamashita A<sup>1</sup>, Nakano R<sup>1</sup>, Kawanabe S<sup>1</sup>, Yokota M<sup>1</sup>, Shibuya S (<sup>1</sup> Bunkyo Gakuin Univ, <sup>2</sup>Nippon Med Sch Hospital): Exploring the possibility of virtual reality in nursing skills education: A preliminary study using a first-person video. Open J Nurs 9: 163-172, 2019. DOI: 10.4236/ojn.2019.92015
4. Hamasaki S<sup>1</sup>, An Q<sup>1</sup>, Wen W<sup>1</sup>, Tamura Y<sup>1</sup>, Yamakawa H<sup>1</sup>, Unenaka S<sup>2</sup>, Shibuya S, Ohki Y, Yamashita A<sup>1</sup>, Asama H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Univ, <sup>2</sup> Hokusho Univ): Changes in the body representation of human upper limb as a function of the movement and visual hand position. JACIII 23(2): 196-208, 2019. DOI: 10.20965/jaciii.2019.p0196
5. 中島 剛, 小宮山伴与志: 歩行のヒト脊髄神経機構: 皮膚感覚による反射制御とその機能. 日本運動生理学雑誌 26巻 1号, 19-26, 2019. (依頼総説)

著書

1. 大木紫 (共著): 第2章 身体意識の脳科学. 身体性システムとリハビリテーションの科学 2 身体認知. 近藤敏之, 今水寛, 森岡周 (編). 東京, 東大出版会, 2018.p.33-65.

細胞生理学教室

講演

1. Inomata-Terada S, Tokushige S, Matsuda S, Hamada S, Tsuji S, Ugawa Y, Terao Y: Eye-hand coordination in hereditary spinocerebellar degeneration. The 31th ICCN, USA, May 5, 2018.
2. 寺田さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生: Eye-hand coordination in hereditary spinocerebellar degeneration. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月23日.
3. 徳重真一, 松本英之, 松田俊一, 寺田さとみ, 濱田雅, 辻省次, 宇川義一, 寺尾安生: Impaired top-down visual attention in Alzheimer's disease detected by visual scanning tasks. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月25日.
4. 杉山雄亮, 福田秀樹, 寺尾安生, 徳重真一, 星野恭子, 濱田雅, 宇川義一, 戸田達史: Tourette症候群におけるサッカー. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月25日.
5. 寺尾安生: パーキンソン病の眼球運動異常とDBSによる運動障害改善. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018年5月26日.
6. Mishima T, Fujiwara T, Kofuji T, Terao Y, Akagawa K: Involvement of syntaxin 1B in the fever-associated epilepsy syndromes: Behavioral and neuronal phenotype

of syntaxin 1B gene-ablated mice. FENS2018, Germany, July 7-11, 2018.

7. Kofuji T, Fujiwara T, Mishima T, Akagawa K : Role of syntaxin1 in glial cells on providing supportive functions for neurons through trophic support and transmitter uptake. FENS2018, Germany, July 7-11, 2018.
8. Fujiwara T, Kofuji T, Mishima T, Akagawa K : Syntaxin1B contributes to regulation of the dopaminergic system through GABA transmission in the CNS. FENS2018, Germany, July 7-11, 2018.
9. Terada-Inomata S, Tokushige S-I, Matsuda S, Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S, Terao Y : Eye-Hand coordination in hereditary spinocerebellar degeneration. 第41回神経科学大会, 神戸, 2018年7月26日.
10. 中山高宏, 福富俊之, 藤原智徳, 浜田博喜, 寺尾安生, 赤川公朗 : syntaxin 1A 遺伝子の神経特異的発現に関わる因子の抑制は異常行動を引き起こす. 第41回日本神経科学大会, 神戸, 2018年7月28日.
11. 本間元康, 寺尾安生 : Recalibration and consolidation of body image in illusionary environment. 第41回日本神経科学大会, 神戸, 2018年7月28日.
12. 古林俊晃, 沼田純希, 柿崎千穂, 尾張望実, 寺尾安生, 宇川義一 : オノマトペによる運動効率の変化の生理学的背景. Physiological background of the change in exercise efficiency by onomatopoeia. 第73回体力医学会, 福井, 2018年9月7日.
13. Inomata-Terada S, Tokushige S-I, Matsuda S, Hamada M, Tsuji S, Ugawa Y, Terao Y : The interaction of eye and hand movements in visual reaching task in hereditary spinocerebellar degeneration. Society for Neuroscience Annual Meeting 48, USA, Nov 5, 2018.
14. Terao Y, Tokushige S-I, Inomata-Terada S, Ugawa Y : Eye voice coordination in Parkinson's disease. Society for Neuroscience Annual Meeting 48, USA, Nov 6, 2018.
15. 徳重真一, 松本英之, 松田俊一, 寺田さとみ, 濱田雅, 辻省次, 宇川義一, 寺尾安生 : 視線解析を用いたアルツハイマー病の視覚注意障害の評価. 第48回臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月8日.
16. 寺田さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 辻省次, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生 : 純粋小脳型症状を呈する遺伝性脊髄小脳変性症における眼球と指の運動協調について. 第48回臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月9日.
17. 古林俊晃, 沼田純希, 柿崎千穂, 尾張望実, 寺尾安生, 宇川義一 : 同期タッピング課題による上下肢の運動の特異性. 第48回臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月9日.
18. 寺尾安生, 徳重真一, 寺田さとみ, 宇川義一 : 音読の際の視線と声の協調関係—パーキンソン病における検討—. 第48回臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018年11月9日.
19. 寺尾 安生 : Parkinson病を眼球運動から診る. つくばニューロサイエンスセミナー, 筑波, 2018年12月11日.
20. 寺尾安生, 徳重真一, 寺田さとみ, 宇川義一 : 眼球運動の速度波形から大脳基底核、小脳の機能異常を調べる—多系統萎縮症とパーキンソン病での検討—. 第21回日本ヒト脳機能マッピング学会, 東京, 2019年3月15日.
2. Matsumoto H<sup>1</sup>, Hanajima R<sup>2</sup>, Terao Y, Hamada M<sup>3</sup>, Shirota Y<sup>3</sup>, Yugeta A<sup>3</sup>, Nakatani-Enomoto S<sup>4</sup>, Hashida H<sup>1</sup>, Ugawa Y<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Japanase Red Cross Medical Center, <sup>2</sup>Tottori University, <sup>3</sup>The University of Tokyo, <sup>4</sup>Fukushima Medical University) : A significant correlation between cauda equina conduction time and cerebrospinal fluid protein in chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy. J Neurol Sci.15:384:7-9, 2018. doi : 10.1016/j.jns.2017.11.006.
3. Sasaki T<sup>1</sup>, Shirota Y<sup>1</sup>, Kodama S<sup>1</sup>, Togashi N<sup>1</sup>, Sugiyama Y<sup>1</sup>, Tokushige SI<sup>2</sup>, Inomata-Terada S, Terao Y, Ugawa Y<sup>3</sup>, Toda T<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Department of Neurology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Fukushima Medical University) : Modulation of motor learning by a paired associative stimulation protocol inducing LTD-like effects. Brain Stimul.11(6):1314-1321, 2018. doi: 10.1016/j.brs.2018.07.054.
4. Sasaki T<sup>1</sup>, Kodama S<sup>1</sup>, Togashi N<sup>1</sup>, Shirota Y<sup>1</sup>, Sugiyama Y<sup>1</sup>, Tokushige SI<sup>2</sup>, Inomata-Terada S, Terao Y, Ugawa Y<sup>3</sup>, Hamada M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup> Department of Neurology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Fukushima Medical University) : The intensity of continuous theta burst stimulation, but not the waveform used to elicit motor evoked potentials, influences its outcome in the human motor cortex. Brain Stimul.11(2):400-410, 2018. doi: 10.1016/j.brs.2017.12.003
5. Kurihara M<sup>1</sup>, Ishiura H<sup>1</sup>, Sasaki T<sup>1</sup>, Otsuka J<sup>1</sup>, Hayashi T<sup>1</sup>, Terao Y, Matsukawa T<sup>1</sup>, Mitsui J<sup>1</sup>, Kaneko J<sup>2</sup>, Nishiyama K<sup>2</sup>, Doi K<sup>1</sup>, Yoshimura J<sup>1</sup>, Morishita S<sup>1</sup>, Shimizu J<sup>1</sup>, Tsuji S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Kitasato University School of Medicine) : Novel De Novo KCND3 Mutation in a Japanese Patient with Intellectual Disability, Cerebellar Ataxia, Myoclonus, and Dystonia. Cerebellum. 17(2):237-242, 2018. doi: 10.1007/s12311-017-0883-4.
6. Ishiura H<sup>1</sup>, Doi K<sup>1</sup>, Mitsui J<sup>1</sup>, Yoshimura J<sup>1</sup>, Matsukawa MK<sup>1</sup>, Fujiyama A<sup>2</sup>, Toyoshima Y<sup>3</sup>, Kakita A<sup>3</sup>, Takahashi H<sup>3</sup>, Suzuki Y<sup>1</sup>, Sugano S<sup>1</sup>, Qu W<sup>1</sup>, Ichikawa K<sup>1</sup>, Yurino H<sup>4</sup>, Higasa K<sup>5</sup>, Shibata S<sup>1</sup>, Mitsue A<sup>1</sup>, Tanaka M<sup>6</sup>, Ichikawa Y<sup>6</sup>, Takahashi Y<sup>7</sup>, Date H<sup>1</sup>, Matsukawa T<sup>1</sup>, Kanda J<sup>1</sup>, Nakamoto FK<sup>1</sup>, Higashihara M<sup>8</sup>, Abe K<sup>9</sup>, Koike R<sup>10</sup>, Sasagawa M<sup>11</sup>, Kuroha Y<sup>10</sup>, Hasegawa N<sup>10</sup>, Kanesawa N<sup>12</sup>, Kondo T<sup>5</sup>, Hitomi T<sup>5</sup>, Tada M<sup>13</sup>, Takano H<sup>14</sup>, Saito Y<sup>15</sup>, Sanpei K<sup>16</sup>, Onodera O<sup>13</sup>, Nishizawa M<sup>17</sup>, Nakamura M<sup>18</sup>, Yasuda T<sup>19</sup>, Sakiyama Y<sup>20</sup>, Otsuka M<sup>21</sup>, Ueki A<sup>22</sup>, Kaida KI<sup>23</sup>, Shimizu J<sup>1</sup>, Hanajima R<sup>24</sup>, Hayashi T<sup>1</sup>, Terao Y, Inomata-Terada S, Hamada M<sup>1</sup>, Shirota Y<sup>1</sup>, Kubota A<sup>1</sup>, Ugawa Y<sup>25</sup>, Koh K<sup>26</sup>, Takiyama Y<sup>26</sup>, Ohsawa-Yoshida N<sup>1</sup>, Ishiura S<sup>1,27</sup>, Yamasaki R<sup>28</sup>, Tamaoka A<sup>29</sup>, Akiyama H<sup>30</sup>, Otsuki T<sup>31</sup>, Sano A<sup>18</sup>, Ikeda A<sup>5</sup>, Goto J<sup>32</sup>, Morishita S<sup>1</sup>, Tsuji S<sup>1,21</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>National Institute of Genetics, <sup>3</sup>Niigata University, <sup>4</sup>Kanazawa University, <sup>5</sup>Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>6</sup>Department of Neurology, Kyorin University, <sup>7</sup>National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>8</sup>Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, <sup>9</sup>Okayama University, <sup>10</sup>Nishi-Niigata Chuo National Hospital, <sup>11</sup>Toyosato Hospital, <sup>12</sup>National Hospital Organization Takasaki General Medical Center, <sup>13</sup>Niigata University, <sup>14</sup>Tachikawa General Hospital, <sup>15</sup>Sannocho Hospital, <sup>16</sup>Sado General Hospital, <sup>17</sup>Niigata Medical Center, <sup>18</sup>Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, <sup>19</sup>Kurashikinen Hospital, <sup>20</sup>Jichi Medical University, <sup>21</sup>International University of Health and Welfare, <sup>22</sup>Teikyo University, <sup>23</sup>National Defense Medical College, <sup>24</sup>Kitasato University, <sup>25</sup>Fukushima Medical University, <sup>26</sup>University of Yamanashi, <sup>27</sup>Doshisha University, <sup>28</sup>Kyushu University,

## 論文

1. Terao Y, Fukuda H<sup>1</sup>, Sugiyama Y<sup>2</sup>, Inomata-Terada S, Tokushige SI<sup>3</sup>, Hamada M<sup>2</sup>, Ugawa Y<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Segawa Memorial Neurological Clinic for Children, <sup>2</sup>University of Tokyo, <sup>3</sup>Department of Neurology, Kyorin University, <sup>4</sup>Fukushima Medical University) : Recording horizontal saccade performances accurately in neurological patients using electro-oculogram. J Vis Exp.13(133), 2018. doi:10.3791/56934.

- <sup>29</sup>University of Tsukuba, <sup>30</sup>Hiratsuka Hospital, <sup>31</sup>Epilepsy Hospital Bethel Japan, <sup>32</sup>International University of Health and Welfare Mita Hospital) : Expansions of intronic TTTCA and TTTTA repeats in benign adult familial myoclonic epilepsy. *Nat Genet.* 50(4):581-590, 2018. doi: 10.1038/s41588-018-0067-2.
7. Mitsutake A<sup>1</sup>, Matsukawa T<sup>1</sup>, Ishiura H<sup>1</sup>, Mitsui J<sup>1</sup>, Taira K<sup>1</sup>, Tokushige S-I<sup>1</sup>, Iwata A<sup>1</sup>, Terao Y, Shimizu J<sup>1</sup>, Sakai N<sup>2</sup>, Tsuji S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Osaka University) : A case of late-onset Krabbe disease which showed subacute progression of spastic paresis with bilateral spinal cord lesions. *Neurology and Clinical Neuroscience* 6(4):104-106, 2018.
  8. Kurihara M<sup>1</sup>, Bannai T<sup>1</sup>, Otsuka J<sup>1</sup>, Kawabe-Matsukawa M<sup>1</sup>, Terao Y, Shimizu J<sup>1</sup>, Tsuji S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo) : Optic neuropathy and decorticate-like posture as presenting symptoms of Bickerstaff's brainstem encephalitis: A case report and literature review. *Clinical Neurology and Neurosurg.* 173:159-162, 2018.
  9. Tokushige SI<sup>1</sup>, Terao Y, Matsuda S<sup>1</sup>, Furubayashi T<sup>2</sup>, Sasaki T<sup>1</sup>, Inomata-Terada S, Yugeta A<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup>, Tsuji S<sup>1</sup>, Ugawa Y<sup>3</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Tohoku Bunka Gakuen University, <sup>3</sup>Fukushima Medical University) : Does the clock tick slower or faster in Parkinson's Disease? - Insights gained from the synchronized tapping task. *Front Psychol.* 11(9):1178, 2018. doi: 10.3389/fpsyg.2018.01178.
  10. Honma M, Masaoka Y<sup>1</sup>, Koyama S<sup>2</sup>, Kuroda T<sup>1</sup>, Futamura A<sup>1</sup>, Shiromaru A<sup>1</sup>, Terao Y, Ono K<sup>1</sup>, Kawamura M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Showa University School of Medicine, <sup>2</sup>University of Tsukuba) : Impaired cognitive modification for estimating time duration in Parkinson's disease. *PLoS One.* 13(12):e0208956, 2018. doi: 10.1371/journal.pone.0208956.
  11. Tokushige SI<sup>1</sup>, Matsuda SI<sup>1</sup>, Oyama G<sup>2</sup>, Shimo Y<sup>2</sup>, Umemura A<sup>2</sup>, Sasaki T<sup>1</sup>, Inomata-Terada S, Yugeta A<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup>, Ugawa Y<sup>3</sup>, Tsuji S<sup>1</sup>, Hattori N<sup>2</sup>, Terao Y (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Juntendo University School of Medicine, <sup>3</sup>Fukushima Medical University) : Effect of subthalamic nucleus deep brain stimulation on visual scanning. *Clin Neurophysiol.* 129(11):2421-2432, 2018. doi: 10.1016/j.clinph.2018.08.003.
  12. Inomata-Terada S, Tokushige SI<sup>1</sup>, Matsuda SI<sup>1</sup>, Yugeta A<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup>, Ugawa Y<sup>2</sup>, Terao Y (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Fukushima Medical University) : Saccadic eye movements in spinocerebellar degeneration - correspondence to clinical manifestation. *Clin Neurophysiol.* 129(5):e37, 2018. doi: 10.1016/j.clinph.2018.02.096
  13. Inomata-Terada S, Tokushige SI<sup>1</sup>, Matsuda SI<sup>1</sup>, Hamada M<sup>1</sup>, Tsuji S<sup>1</sup>, Ugawa Y<sup>2</sup>, Terao Y (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Fukushima Medical University) : Eye-hand coordination in hereditary spinocerebellar degeneration. *Clin Neurophysiol.* 129(Suppl 1): e201-202. 2018. doi: 10.1016/j.clinph.2018.04.521
  14. Terao Y, Matsumoto H<sup>1</sup>, Matsuda SI<sup>2</sup>, Tokushige SI<sup>3</sup>, Inomata-Terada S, Hamada M<sup>4</sup>, Hanajima R<sup>5</sup>, Ugawa Y<sup>6</sup> (<sup>1</sup>Red Cross Medical Center, <sup>2</sup>NTT Medical Center Tokyo, <sup>3</sup>Department of Neurology, Kyorin University, <sup>4</sup>The University of Tokyo, <sup>5</sup>Tottori University, <sup>6</sup>Fukushima Medical University) : What does eye tracking tell us about neurological patients? *Clin Neurophysiol.* 129(5): e21. 2018. doi: 10.1016/j.clinph.2018.02.025
  15. Shiromaru-Sugimoto A<sup>1</sup>, Murakami H<sup>1</sup>, Futamura A<sup>1</sup>, Honma M, Kuroda T<sup>1</sup>, Kawamura M<sup>1,2</sup>, Ono K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Showa University School of Medicine, <sup>2</sup>Okusawa Hospital and Clinics) : The subjective perception of past, present and future time in patients with Alzheimer's disease: a qualitative study. *Neuropsychiatr Dis Treat.* 14: 3185-3192, 2018. doi: 10.2147/NDT.S186081
  16. Shozawa H<sup>1</sup>, Futamura A<sup>1</sup>, Saito Y<sup>1</sup>, Honma M, Kawamura M<sup>1,2</sup>, Miller MW<sup>3</sup>, Ono K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Showa University, <sup>2</sup>Okusawa Hospital and Clinics, <sup>3</sup>University of Tokyo) : Diagonistic apraxia: a unique case of corpus callosal disconnection syndrome and neuromyelitis optica spectrum. *Front Neurol.* 9: 653, 2018. doi: 10.3389/fneur.2018.00653
  17. Yoshiike T<sup>1</sup>, Honma M, Yamada N<sup>2</sup>, Kim Y<sup>1</sup>, Kuriyama K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>2</sup>Shiga University of Medical Science) : Effects of bright light exposure on human fear conditioning, extinction, and associated prefrontal activation. *Physiol Behav.* 194: 268-276, 2018. doi:10.1016/j.physbeh.2018.06.015
  18. Honma M : [Impairment of Cross-modality: A New Cognitive Dysfunction in Parkinson's Disease]. *Brain Nerve.* 70(11): 1157-1163, 2018. doi: 10.11477/mf.1416201160
  19. Hanajima R<sup>1,2</sup>, Tanaka N<sup>2</sup>, Tsutsumi R<sup>2</sup>, Shirota Y<sup>2</sup>, Shimizu T<sup>1,2</sup>, Terao Y, Ugawa Y<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Tottori University, <sup>2</sup>The University of Tokyo, <sup>3</sup>Fukushima Medical University) : Effect of caffeine on long-term potentiation-like effects induced by quadripulse transcranial magnetic stimulation. *Exp Brain Res.* 237(3): 647-651, 2019. doi: 10.1007/s00221-018-5450-9.
  20. Shirota Y<sup>1</sup>, Hanajima R<sup>1</sup>, Ohnami S<sup>1</sup>, Tsutsumi R<sup>1</sup>, Ugawa Y<sup>2</sup>, Terao Y (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Fukushima Medical University) : Supplementary motor area plays a causal role in automatic inhibition of motor responses. *Brain Stimul.* pii: S1935-861X(19)30081-6.2019. doi: 10.1016/j.brs.2019.03.002
- ### 著書
1. 寺尾安生 : 眼球運動でわかること。運動失調のみかた、考え方—小脳と脊髄小脳変性症—。宇川義一(編), 東京, 中外医学社, 2018. Pp. 135-146.
  2. 本間元康(分担執筆) : 身体性の認知研究法。基礎心理学実験法ハンドブック。日本基礎心理学会監修, 坂上貴之, 河原純一郎, 木村英司, 三浦佳世, 行場次朗, 石金浩史(編), 東京, 朝倉書店, 2018. 第4部第1章第5節, p.212-213.
  3. 寺尾安生(共著) : 脳・神経疾患。成人看護学[7]脳・神経疾患, 東京, 医学書院, 2018年.
- ### 報告書
1. 寺田さとみ, 宇川義一, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 寺尾安生 : 脊髄小脳変性症の眼と手の協調関係。厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業, 運動失調症の医療基盤に関する調査研究班 班会議, 東京, 2019年1月11日.
  2. 中山高宏 : BBB透過型エピゲノム作用薬による発達障害の新しい治療法の開発。公益財団法人 沖中記念成人病研究所研究補助金, 2018年度報告書.
  3. 中山高宏 : アルコール依存症治療における香料の効果に関する研究。公益財団法人 山崎香料振興財団研究補助金, 2018年度報告書.
- ### その他
1. 中山高宏, 濱田博喜 : アルコール依存症の予防及び/又は治療薬。特願2018-093573
  2. 中山高宏, 濱田博喜 : 依存症の予防及び/又は治療薬。特願2018-093576

## 生化学教室 (1)

### 講演

1. 山本隆史, 飯塚陽子, 藤田敏郎, 後藤田貴也: キヌレン酸代謝系が糖代謝制御に及ぼす影響. 第55回日本臨床分子医学学会学術集会, 京都, 2018年4月13-14日.
2. 山本隆史, 飯塚陽子, 藤田敏郎, 後藤田貴也: キヌレン酸代謝系介入による糖代謝制御に及ぼす影響. 第50回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 大阪, 2018年7月12-14日.

### 論文

1. 後藤田貴也: 高TG血症の遺伝子解析と遺伝的背景. 最新医学別冊 診断と治療のABC 138:28-36, 2018.
2. Takanashi M<sup>1</sup>, Kimura T<sup>1</sup>, Li C<sup>1</sup>, Tanaka M<sup>1</sup>, Matsuhashi A<sup>1</sup>, Yoshida H<sup>1</sup>, Noda A<sup>1</sup>, Xu P<sup>1</sup>, Takase S<sup>1</sup>, Okazaki S<sup>1</sup>, Iizuka Y<sup>1</sup>, Kumagai H<sup>1</sup>, Ikeda Y<sup>1</sup>, Gotoda T, Takahashi M<sup>2</sup>, Yagyu H<sup>2</sup>, Ishibashi S<sup>2</sup>, Yamauchi T<sup>1</sup>, Kadowaki T<sup>1</sup>, Liang G<sup>3</sup>, Okazaki H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University of Tokyo, <sup>2</sup>Jichi Medical University, <sup>3</sup>Texas Southwestern Medical Center): Critical Role of SREBP-1c Large-VLDL Pathway in Environment-Induced Hypertriglyceridemia of Apo AV Deficiency. *Arterioscler Thromb Vasc Biol* 39(3):373-386, 2019. DOI: 10.1161/ATVBAHA.118.31193

## 生化学教室 (2)

### 講演

#### 国際会議 招請講演

1. Ohara-Imaizumi M: Role of active zone protein ELKS in insulin exocytosis from pancreatic beta cells. *Forefront of Neurotransmitter Release and Calcium Channel Signaling*, Tokyo, July 7, 2018.
2. Ohara-Imaizumi M, Aoyagi K, and Ohtsuka T: Role of active zone protein ELKS in insulin secretion from pancreatic  $\beta$ -cell. 20th Anniversary Servier-IGIS Symposium France, March 28-31, 2019.

#### 国内会議 招請講演

1. 今泉美佳, 青柳共太, 吉田昌史, 飛田耶馬人, 大倉正道, 山内肇, 崎村建司, 中井淳一, 加計正文, 永松信哉, 大塚稔: アクティブゾーンタンパク質ELKSのインスリン分泌における役割. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018年5月24-26日.

#### 国内会議 講演

1. 青柳共太, 板倉誠, 福富俊之, 西脇知世乃, 中道洋子, 鳥居征司, 牧山智彦, 原田彰宏, 今泉美佳: VAMP7 regulates autophagosome formation by supporting Atg9a functions in pancreatic  $\beta$ -cells. 第91回日本生化学会大会, 京都, 2018年9月24-26日.

### 論文

1. Aoyagi K, Itakura M<sup>1</sup>, Fukutomi T<sup>2</sup>, Nishiwaki C, Nakamichi Y, Torii S<sup>3</sup>, Makiyama T, Harada A<sup>4</sup>, Ohara-Imaizumi M (<sup>1</sup>Kitasato University School of Medicine, <sup>2</sup>Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Gunma University, <sup>4</sup>Osaka University): VAMP7 regulates autophagosome formation by supporting Atg9a functions in pancreatic  $\beta$ -cells from male mice. *Endocrinology*, 159(1): 3674-3688, 2018. DOI: 10.1210/en.2018-00447.
2. Ohara-Imaizumi M, Aoyagi K, Yamauchi H<sup>1</sup>, Yoshida M<sup>2</sup>, Mori M X<sup>3</sup>, Hida Y<sup>1</sup>, Tran H N<sup>3</sup>, Ohkura M<sup>4</sup>, Abe M<sup>5</sup>, Akimoto Y<sup>6</sup>, Nakamichi Y, Nishiwaki C, Kawakami H<sup>6</sup>, Hara K<sup>2</sup>, Sakimura K<sup>5</sup>, Nagamatsu S<sup>7</sup>, Mori Y<sup>3</sup>, Nakai J<sup>4</sup>, Kakei M<sup>2</sup>, and Ohtsuka T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University of Yamanashi, <sup>2</sup>Jichi Medical University School of Medicine, <sup>3</sup>Kyoto University, <sup>4</sup>Saitama University, <sup>5</sup>Niigata University, <sup>6</sup>Department of Anatomy, Kyorin University School of

Medicine, <sup>7</sup>Shinei-Diabetic-Clinic): ELKS/Voltage-dependent Ca<sup>2+</sup> channel- $\beta$  Subunit Module Regulates Polarized Ca<sup>2+</sup> Influx in Pancreatic  $\beta$ -Cells. *Cell Reports*, 25(5):1213-1226, 2019. DOI: 10.1016/j.celrep.2018.12.106.

## 薬理学教室

### 講演

1. 山賀貴, 末弘淳一, 櫻井裕之: Induction of anti-apoptotic signaling via ATF4 confers resistance to the inhibition of essential amino acid transporter LAT1. 第91回日本薬理学会年会, 京都, 2018年7月1日.
2. 堅田智久, 櫻井裕之: アミノ酸トランスポーターslc7a5は脊索および眼の発生に必須である. 第12回XCIJ-MA研究集会, 東京, 2018年7月14日.
3. 堅田智久, 櫻井裕之: Xenopus slc7a5は脊索と眼の発生に必須である. 第41回日本分子生物学会年会, 横浜, 2018年11月29日.
4. 福富俊之, 木村徹, 安西尚彦, 櫻井裕之: 肝臓酪酸トランスポーターOAT7の相互作用タンパク質の同定. 第92回日本薬理学会年会, 大阪, 2019年3月14日.
5. 木村徹, 塚田愛, 福富俊之, 市田公美, 大槻純男, 櫻井裕之: 尿酸の傍細胞経路による輸送の分子メカニズム. 第92回日本薬理学会年会, 大阪, 2019年3月14日.
6. 堅田智久, 櫻井裕之: Xenopus slc7a5 is essential for notochord function and primary neurogenesis via sonic hedgehog signaling. 第92回日本薬理学会年会, 大阪, 2019年3月14日.
7. 田中弦, 福岡利仁, 櫻井裕之: イグラチモド投与による血清尿酸値降下の機序の検討. 第92回日本薬理学会年会, 大阪, 2019年3月14日.

### 論文

1. Aoyagi K<sup>1</sup>, Itakura M<sup>2</sup>, Fukutomi T, Nishiwaki C<sup>1</sup>, Nakamichi Y<sup>1</sup>, Torii S<sup>3</sup>, Makiyama T<sup>1</sup>, Harada A<sup>4</sup>, Ohara-Imaizumi M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Biochemistry, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Kitasato University, <sup>3</sup>Gunma University, <sup>4</sup>Osaka University): VAMP7 Regulates Autophagosome Formation by Supporting Atg9a Functions in Pancreatic  $\beta$ -Cells from Male Mice. *Endocrinology* 159:3674-3688, 2018.
2. Niikura M<sup>1</sup>, Inoue SI<sup>1</sup>, Fukutomi T, Yamagishi J<sup>2</sup>, Asahi H<sup>1</sup>, Kobayashi F<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Hokkaido University): Comparative genomics and proteomic analyses between lethal and nonlethal strains of *Plasmodium berghei*. *Exp Parasitol* 185:1-9, 2018.
3. Kimura T, Tsukada A<sup>1</sup>, Fukutomi T, Ichida K<sup>1</sup>, Ohtsuki S<sup>2</sup>, Sakurai H (<sup>1</sup>Tokyo University of Pharmacy and Life Science, <sup>2</sup>Kumamoto University): Urate Transport via Paracellular Route across Epithelial Cells. *Biol Pharm Bull* 42:43-49, 2019.
4. Srivastava S, Nakagawa K<sup>1</sup>, He X<sup>2</sup>, Kimura T, Fukutomi T, Miyauchi S<sup>3</sup>, Sakurai H, Anzai N<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Chiba University, <sup>2</sup>Tianjin University, <sup>3</sup>Toho University): Identification of the multivalent PDZ protein PDZK1 as a binding partner of sodium-coupled monocarboxylate transporter SMCT1 (SLC5A8) and SMCT2 (SLC5A12). *J Physiol Sci* 69:399-408, 2019.
5. Naito H<sup>1</sup>, Iba T<sup>1</sup>, Wakabayashi T<sup>1</sup>, Tai-Nagara I<sup>2</sup>, Suehiro JI, Jia W<sup>1</sup>, Eino D<sup>1</sup>, Sakimoto S<sup>1</sup>, Muramatsu F<sup>1</sup>, Kidoya H<sup>1</sup>, Sakurai H, Satoh T<sup>1</sup>, Akira S<sup>1</sup>, Kubota Y<sup>2</sup>, Takakura N<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Osaka University, <sup>2</sup>Keiko University): TAK1

Prevents Endothelial Apoptosis and Maintains Vascular Integrity. *Dev Cell* 48:151-166, 2019.

6. Katada T, Sakurai H: *Xenopus slc7a5* is essential for notochord function and eye development. *Mech Dev* 155:48-59, 2019.

### 病理学教室

#### 講演

- 菅間博：甲状腺癌診療における最近の進歩 甲状腺腫瘍の新WHO分類と日本の甲状腺癌の記述に関する通則との差異 (Difference between new WHO classification of thyroid tumors and Japanese general rules for the description of thyroid cancer)(英語). 第118回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018年4月5-7日.
- 三ツ間智也, 宮敏路, 中里陽子, 近藤晴彦, 菅間博, 平野浩一：甲状腺扁平上皮癌に対してレンパチニブを導入し治療継続している1例. 第91回日本内分泌学会学術総会, 宮崎, 2018年4月26-27日.
- 早川怜那, 千葉知宏, 三ツ間智也, 中里陽子, 近藤晴彦, 菅間博, 平野浩一：当院で経験した著明な気道狭窄を伴うPendred症候群疑いの1例. 第91回日本内分泌学会学術総会, 宮崎, 2018年4月26-27日.
- 北村真奈美, 上野貴之, 千葉知宏, 石坂欣大, 宮本快介, 伊坂泰嗣, 井本滋：乳癌組織におけるPgRMC1 (Progesterone Receptor Membrane Component1)の発現解析. 第26回日本乳癌学会学術総会, 京都, 2018年5月16-19日.
- Tada M, Ueno T, Chiba T, Ishizaka Y, Miyamoto K, Isaka H, Imoto S：Expression of PgRMC1 (Progesterone Receptor Membrane component 1) in breast cancer, *Kyoto Breast Cancer Consensus Conference 2018*, Kyoto, May 18th-19th, 2018.
- 橘啓盛, 三浦隼, 三ツ間智也, 清水麗子, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 武井秀史, 藤原正親, 菊安俊哉, 町田治彦, 横山健一, 近藤晴彦：肺癌画像診断における超高精細CTの有用性. 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会, 新潟, 2018年5月17-18日.
- 菅間博：小児甲状腺がん 小児甲状腺癌から解る甲状腺癌の発病機構. 第91回超音波医学会学術総会, 神戸, 2018年6月8-9日.
- 北村浩, 藤原正親, 柴原純二, 山内芳也, 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司：拡大肛門鏡検査によって発見されたHPV関連肛門管上皮内腫瘍の2例. 第106回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2018年6月16-17日.
- 八谷隆仁, 楠原光謙, 田邊秀聡, 新井健介, 神保陽子, 大野亜希子, 森秀明, 久松理一, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司, 岡部直太, 菅間博：診断に苦慮した非色素性悪性黒色腫の1例. 第106回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2018年6月16-17日.
- 田中麻理子, 山内直子, 柴原純二, 三角健人, 林玲匡, 有田淳一, 阪本良弘, 長谷川 潔, 深山正久：胆管がんにおける形態学的予後因子. 第107回日本病理学会総会, 札幌, 2018年6月21-23日.
- 岡部直太, 小林敬明, 千葉知宏, 大窪泰弘, 古瀬純司, 菅間博：食道悪性黒色腫に対するnivolumab治療中にリンパ球性下垂体炎を来した剖検症例の1例. 第107回日本病理学会総会, 札幌, 2018年6月21-23日.
- 吉池信哉, 有益優, 近藤凡子, 井本滋, 柴原純二, 菅間博：乳管内乳頭状腫瘍におけるアデニル酸シクラーゼ10の核内局在についての検討. 第107回日本病理学会総会, 札幌, 2018年6月21-23日.
- 三角健人, 林玲匡, 國土典弘, 柴原純二, 深山正久：肝内胆管癌におけるmiR-141/200cの発現検討および臨床病理学的解析. 第107回日本病理学会総会, 札幌, 2018年6月21-23日.
- 菅間博：甲状腺腫瘍新WHO分類 (第4版) 改定のポイント 甲状腺腫瘍の新WHO分類への本邦における対応. 第107回日本病理学会総会, 札幌, 2018年6月21-23日.
- 柳澤良晃, 田中良太, 藤原正親, 近藤晴彦：肺良性転移性平滑筋腫(Pulmonary Benign Metastasizing Leiomyoma)の1例. 第177回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2018年6月23日.
- 下山勇人, 長尾玄, 橋本佳和, 阿部展次, 杉山政則, 吉池信哉, 船田さやか, 長濱清隆, 藤原正親, 柴原純二：大動脈置換術後感染性人工血管瘤による人工血管食道瘻に対する1手術例. 第72回日本食道学会学術集会, 宇都宮, 2018年6月28-29日.
- 岡野尚弘, 松木亮太, 西岡真理子, 前園知宏, 河合桐男, 小林敬明, 鈴木裕, 長島文夫, 柴原純二, 杉山政則, 古瀬純司：切除不能腺癌における治療方針-conversion surgeryの是非-遠隔転移を有する腺癌における化学療法によるconversion surgery. 第49回日本膵臓学会大会, 和歌山, 2018年6月29-30日.
- 土岐真朗, 仲田大輔, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 倉田勇, 岡野尚弘, 小暮正晴, 松木亮太, 横山政明, 立石秀勝, 鈴木裕, 柴原純二, 古瀬純司, 杉山政則, 森秀明, 久松理一：新規膵臓癌診断マーカーである糖鎖修飾リボヌクレアーゼ1(RNase1)の有用性の検討. 第49回日本膵臓学会大会, 和歌山, 2018年6月29-30日.
- 徳永健吾, 大崎敬子, 中村正彦, 田中昭文, 大森嘉彦, 米澤英雄, 岡本晋, 高橋信一, 神谷茂, 久松理一：胃MALTリンパ腫におけるHHLO感染および胃内マイクロバイオータの検討. 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会, 大分, 2018年6月29日-7月1日.
- 渋谷幸見, 橘啓盛, 高橋俊博, 三浦隼, 三ツ間智也, 新井信晃, 田中良太, 須田一晴, 長島鎮, 宮敏路, 武井秀史, 近藤晴彦, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博：胸腺原発Mucinous adenocarcinomaの1例. 第182回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2018年7月7日.
- 岡岡智花, 横山琢磨, 齊藤正興, 福田のぞみ, 佐久間翔, 三倉直, 小川ゆかり, 田村仁樹, 石井晴之, 滝澤始, 藤原正親：扁平上皮癌成分の再発でT790M陽性を認めた腺扁平上皮肺癌の1例. 第182回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2018年7月7日.
- 廣川達也, 有益優, 山本浩之, 千葉知宏, 藤原正親, 菅間博：甲状腺乳頭癌におけるTERTプロモーター領域のrSNP(rs2853669)の検討. 第6回日本甲状腺病理学会総会・学術集会, 三鷹, 2018年7月7日.
- 有益優, 廣川達也, 長濱清隆, 千葉知宏, 藤原正親, 菅間博：BRAFK601Eの突然変異を伴った卵巣甲状腺腫から発生した甲状腺乳頭癌の1例. 第6回日本甲状腺病理学会総会・学術集会, 三鷹, 2018年7月7日.
- 平野拓, 千葉知宏, 住石歩, 菅間博：BRAF変異を検出した腺腫様結節の1例-NIFTPと比較して. 第6回日本甲状腺病理学会総会・学術集会, 三鷹, 2018年7月7日.
- 田島崇, 森井健司, 岡部直太, 柴原純二, 市村正一：当院における高分化型脂肪肉腫の治療成績. 第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 静岡, 2018年7月12-13日.
- 安部美由紀, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 長濱清隆, 百村麻衣, 松本浩範, 山下詠子, 小林陽一, 柴原純二：当院で経験した成人型顆粒膜細胞腫の典型例と非典型例の比較検討. 第19回JSAWI 2018 annual symposium, 淡路, 2018年8月31日-9月1日.
- 下田真史, 皿谷健, 大熊康介, 平田彩, 田村仁樹, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 藤原正親, 石井晴之, 滝澤始：肺炎を契機にカルタゲナー症候群と診断した高齢男性の1例. 第174回日本結核病学会関東支部学会・第231回日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 東京, 2018年9月1日.

28. 三倉直, 福田のぞみ, 小田未来, 本田絃二郎, 田村仁樹, 小川ゆかり, 渡辺雅人, 横山琢磨, 皿谷健, 岡部直太, 大窪泰弘, 藤原正親, 石井晴之, 滝澤始: 両側肺野に多発結節影を呈した急性好酸球性肺炎の1例. 第174回日本結核病学会関東支部学会・第231回日本呼吸器学会関東地方合同学会, 東京, 2018年9月1日.
29. 春日啓介, 高倉裕樹, 大熊康介, 三倉直, 小田未来, 本多紘二郎, 田村仁樹, 小川ゆかり, 横山琢磨, 皿谷健, 藤原正親, 石井晴之, 滝澤始: ステロイド不応性で、胸腔鏡下肺生検後に急性増悪を呈した剥離性間質性肺炎の一例. 第174回日本結核病学会関東支部学会・第231回日本呼吸器学会関東地方合同学会, 東京, 2018年9月1日.
30. 有益優, 廣川達也, 山本浩之, 千葉知宏, 藤原正親, 矢澤卓也, 菅間博: 甲状腺癌におけるTERTプロモーターのrSNPと点突然変異のレポーター遺伝子アッセイ. 第22回日本臨床内分泌病理学会学術総会, 徳島, 2018年9月21-22日.
31. 長濱清隆, 下山田博明, 千葉知宏, 鈴木裕, 小暮正晴, 松木亮太, 坂本良弘, 土岐真朗, 渡邊俊介, 柴原純二: 末梢神経腫瘍を合併した十二指腸乳頭部癌の一例. 第80回日本病理学会関東支部学術集会, 東京, 2018年9月22日.
32. 楠原光謙, 大野亜希子, 加藤敦士, 宮本尚彦, 八谷隆仁, 新井健介, 神保陽子, 森秀明, 久松理一, 磯谷一暢, 長濱清隆, 柴原純二: 内視鏡的に切除した直腸リンパ濾胞性ポリープの1例. 日本消化器病学会関東支部第351回例会, 東京, 2018年9月22日.
33. 荻原良太, 落合一成, 森久保拓, 北田修一, 徳永創太郎, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 権藤興一, 渡邊俊介, 土岐真朗, 山口康晴, 森秀明, 久松理一, 松木亮太, 鈴木裕, 坂本良弘, 長濱清隆, 下山田博明, 柴原純二: 自己免疫性膵炎に対するステロイド加療中に膵癌が判明した1例. 日本消化器病学会関東支部第351回例会, 東京, 2018年9月22日.
34. 岡村優真, 小林啓一, 齊藤邦昭, 島田大輔, 末松慎也, 千葉知宏, 柴原純二, 清水早紀, 塩川芳昭, 永根基雄: びまん性正中膠腫H3-K27M変異の臨床病理学的検討. 第36回日本脳腫瘍病理学会, 東京, 2018年9月25-27日.
35. 大原有紗, 石川牧子, 立石秀勝, 増田裕, 森永圭吾, 黒木一典, 船田さやか, 藤原正親, 菅間博, 佐藤大, 齋藤康一郎, 横山健一: 咽頭後間隙に生じたCastleman病の一例. 第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 福岡, 2018年10月5-7日.
36. 柴原純二: 脳腫瘍の病理診断 びまん性膠腫を中心に. 第2回希少がん病理診断講習会, 東京, 2018年10月6日.
37. Nagane M, Saito K, Shimizu S, Nozaki E, Kobayashi K, Kume S, Chiba T, Shibahara J, Shiokawa Y: Detailed analysis of mutation change after treatment in glioblastoma. 13th EANO Meeting 2018, Sweden, October 10th-14th, 2018.
38. 永根基雄, 小林啓一, 齊藤邦昭, 島田大輔, 末松慎也, 千葉知宏, 柴原純二, 塩川芳昭: びまん性正中膠腫H3-K27M変異の臨床病理学的検討. 第56回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018年10月18-20日.
39. 山室めぐみ, 村木直弘, 中野雄太, 杉田行平, 石原早織, 大橋敦希, 熊谷二郎, 長濱清隆, 藤澤一: Light chain proximal tubulopathy without crystal formation疑いの1例. 第48回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2018年10月20-21日.
40. 渡邊俊介, 土岐真朗, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 倉田勇, 岡野弘, 蓮江智彦, 中村健二, 鈴木裕, 柴原純二, 山口康晴, 古瀬純司, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: 膵充実性腫瘍に対するProCore 20Gの有用性と安全性の検討. 第96回日本消化器内視鏡学会総会, 神戸, 2018年11月1-4日.
41. 太田博崇, 渡邊俊介, 神林孔明, 北田修一, 後藤知之, 吉田翼, 落合一成, 権藤興一, 倉田勇, 蓮江智彦, 池内信人, 辻修二郎, 土岐真朗, 中村健二, 山口康晴, 高橋信一, 柴原純二, 阿部展次, 森秀明, 久松理一: 20mm以下の胃粘膜下腫瘍に対してもEUS-FNAは有用である. 第96回日本消化器内視鏡学会総会, 神戸, 2018年11月1-4日.
42. 渋谷幸児, 須田一晴, 宮敏路, 武井秀史, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 肋骨原発血管腫に対する胸腔鏡下腫瘍切除術. 第178回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2018年11月3日.
43. 小倉航, 大塚弘毅, 藤原正親, 田中良太, 横山琢磨, 関口久美子, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 細胞診陰性液性検体における高感度EGFR遺伝子変異検査の検討. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
44. 嶋森直子, 岸野智則, 森井健司, 岡部直太, 浦田毅, 山崎聡子, 大塚弘毅, 関口久美子, 高城靖志, 柴原純二, 大西宏明, 渡邊卓: 三相性の超音波画像を呈した高分化脂肪肉腫の一例. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
45. 大塚弘毅, 大西宏明, 森井健司, 藤原正親, 小倉航, 松島早月, 山崎聡子, 岸野智則, 渡邊卓: 野生型マウスの自然発生肺癌のゲノム解析. 第65回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018年11月15-18日.
46. 田中良太, 坂本憲彦, 鈴木瞳, 新井信晃, 橋啓盛, 岸本浩次, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 細胞採取・検体処理法の工夫と細胞像 呼吸器細胞診における細胞採取と検体処理法. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2018年11月17-18日.
47. 川上真理子, 岸本浩次, 坂本憲彦, 水谷奈津子, 市川美雄, 田邊一成, 鈴木瞳, 野口由香, 大森嘉彦, 藤原正親, 横山琢磨, 柴原純二: 気管支鏡検査でMethotrexate(MTX)関連リンパ増殖性疾患を疑った一例. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2018年11月17-18日.
48. 田邊一成, 坂本憲彦, 岸本浩次, 水谷奈津子, 市川美雄, 鈴木瞳, 野口由香, 川上真理子, 近藤凡子, 住石歩, 土岐真朗, 久松理一, 柴原純二: 胆汁細胞診で診断しえた胆管原発Small cell NECの1例. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2018年11月17-18日.
49. 野口由香, 坂本憲彦, 岸本浩次, 水谷奈津子, 市川美雄, 田邊一成, 鈴木瞳, 川上真理子, 藤原正親, 長濱清隆, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 小林陽一, 柴原純二: 子宮外陰部・腔壁に発生した腺様嚢胞癌の1例. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2018年11月17-18日.
50. 春名佑美, 百村麻衣, 渋谷英里子, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 坂本憲彦, 鈴木瞳, 田邊一成, 市川美雄, 岸本浩次, 鈴木淳, 長濱清隆, 柴原純二: 子宮頸部細胞診にて胃型粘液性癌が疑われた2症例. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2018年11月17-18日.
51. 岸本浩次, 坂本憲彦, 水谷奈津子, 市川美雄, 鈴木瞳, 野口由香, 川上真理子, 近藤凡子, 住石歩, 田邊一成, 大森嘉彦, 柴原純二: 悪性リンパ腫の亜型診断における細胞診の有用性 リンパ節細胞診における低悪性度B細胞性リンパ腫の組織型推定. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2018年11月17-18日.
52. 菅間博: 甲状腺腫瘍新WHO分類の細胞診へのインパクト 甲状腺腫瘍の新WHO分類の変更点. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2018年11月17-18日.
53. 石坂欣大, 麻賀創太, 伊坂泰嗣, 宮本快介, 千葉知宏, 上野貴之, 井本滋: 乳腺原発血管肉腫の1症例. 第80回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018年11月22-24日.
54. 小川ゆかり, 横山琢磨, 中島裕美, 佐久間翔, 小林史, 皿谷健, 藤原正親, 菅間博, 石井晴之, 滝澤始: 当院における原発性肺癌に合併した癌性髄膜炎患者の臨床的検討. 第59回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018年11月29-12月1日.
55. 高橋俊博, 田中良太, 三浦隼, 渋谷幸児, 三ツ間智也, 新井信晃, 須田一晴, 中里陽子, 橋啓盛, 長島鎮, 武井秀史, 高山信之, 岡部直太, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦:

- 当初胸腺腫が疑われた縦隔節外性MALTリンパ腫の1例. 第59回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018年11月29-12月1日.
56. 中野雄太, 村木直弘, 石原早織, 杉田行平, 大橋敦希, 山室めぐみ, 熊谷二郎, 長濱清隆, 森崇寧, 藤澤一: 腎機能障害は軽度であり高カルシウム尿症を認めなかったがDent病と診断し得た成人男性の1例. 第647回日本内科学会関東地方会, 東京, 2018年12月8日.
  57. 新井信晃, 高橋俊博, 橋啓盛, 近藤晴彦, 磯谷一暢, 藤原正親, 菅間博: 多発血管炎性肉芽腫症(従来のWegener肉芽腫症)の肺内結節に扁平上皮癌を認めた1例. 第183回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2018年12月15日.
  58. 松本龍貴, 宮川昌悟, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舩田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 大森嘉彦, 千葉知宏, 長濱清隆, 藤原正親, 菅間博, 柴原純二: 両側腎オンコサイトーマの一例. 第625回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2018年12月21日.
  59. 安藤良将, 重安千花, 久須見有美, 吉池信哉, 千葉知宏, 柴原純二, 山田昌和: Cogan角膜上皮ジストロフィの一例. 角膜カンファレンス2019, 京都, 2019年2月7-9日.
  60. 土屋博司, 遠藤英仁, 石井光, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 窪田博, 船田さやか, 下山田博明, 柴原純二: Swinging cardiac calcified amorphous tumorの成因に関する病理組織学的検討. 第49回日本心臓血管外科学会学術総会, 岡山, 2019年2月11-13日.
  61. 柴原純二: 脳腫瘍の病理診断 びまん性膠腫を中心に. 第4回希少がん病理診断講習会, 福岡, 2019年3月2日.
  62. 藤麻武志, 川村直弘, 關里和, 佐藤悦久, 西川かおり, 森秀明, 久松理一, 長濱清隆, 柴原純二: 非アルコール性脂肪肝炎に自己免疫性肝炎を合併した1例. 第649回日本内科学会関東地方会, 東京, 2019年3月2日.
  63. 新井信晃, 須田一晴, 高橋俊博, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 中里陽子, 橋啓盛, 長島鎮, 田中良太, 武井秀史, 宮敏路, 平野浩一, 近藤晴彦, 藤原正親, 菅間博: 当院における肺多形癌症例の検討. 第184回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2019年3月9日.
- exacerbation of interstitial lung diseases. *Respir Med.* 2018 Mar;136:88-92. DOI: 10.1016/j.rmed.2018.02.003
4. Furuse J<sup>1</sup>, Shibahara J, Sugiyama M<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Department of Medical Oncology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine): Development of chemotherapy and significance of conversion surgery after chemotherapy in unresectable pancreatic cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 25(5):261-268, 2018. DOI: 10.1002/jhbp.547
  5. Saraya T<sup>1</sup>, Fukuoka K<sup>2</sup>, Maruno H<sup>3</sup>, Komagata Y<sup>2</sup>, Fujiwara M, Kaname S<sup>2</sup>, Arimura Y<sup>2</sup>, Yamada A<sup>2</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Rheumatology and Nephrology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Orthopedics, Kyorin University School of Medicine): Tenosynovitis with Rice Body Formation Due to Mycobacterium Intracellulare Infection After Initiation of Infliximab Therapy. *Am J Case Rep.* 2018 Jun 7;19:656-662. DOI: 10.12659/AJCR.908785
  6. Nagafuji H<sup>1</sup>, Yokoi H<sup>1</sup>, Fujiwara M, Sato D<sup>1</sup>, Saito K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine): Paraneoplastic limbic encephalitis associated with mixed olfactory neuroblastoma and craniopharyngioma: A case report and literature review. *Medicine (Baltimore).* 2018 Jun;97(24):e10932. DOI: 10.1097/MD.00000000000010932
  7. Morikubo H<sup>1</sup>, Saito D<sup>1</sup>, Miura M<sup>1</sup>, Sato T<sup>1</sup>, Minowa S<sup>1</sup>, Ikezaki O<sup>1</sup>, Mitsui T<sup>1</sup>, Sakuraba A<sup>1</sup>, Hayashida M<sup>1</sup>, Fujiwara M, Tokunaga K<sup>1</sup>, Shibahara J, Mori H<sup>1</sup>, Masaki T<sup>2</sup>, Kawai S<sup>3</sup>, Hisamatsu T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Third Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine): An HIV-infected Patient with Confirmed Overlapping Complications of Severe Amebic Colitis and CMV Enteritis. *Intern Med.* 57(13):1855-1860, 2018. DOI: 10.2169/internalmedicine.0112-17
  8. Naganawa S<sup>1</sup>, Enooku K<sup>1</sup>, Tateishi R<sup>1</sup>, Akai H<sup>1</sup>, Yasaka K<sup>1</sup>, Shibahara J, Ushiku T<sup>1</sup>, Abe O<sup>1</sup>, Ohtomo K<sup>2</sup>, Kiryu S<sup>2</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>International University of Health and Welfare): Imaging prediction of nonalcoholic steatohepatitis using computed tomography texture analysis. *Eur Radiol.* 28(7):3050-3058, 2018. DOI: 10.1007/s00330-017-5270-5
  9. Uchino K<sup>1</sup>, Tateishi R<sup>1</sup>, Nakagomi R<sup>1</sup>, Fujiwara N<sup>1</sup>, Minami T<sup>1</sup>, Sato M<sup>1</sup>, Enooku K<sup>1</sup>, Nakagawa H<sup>1</sup>, Asaoka Y<sup>1</sup>, Kondo Y<sup>1</sup>, Shibahara J, Shiina S<sup>2</sup>, Koike K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Juntendo University): Serum levels of ferritin do not affect the prognosis of patients with hepatocellular carcinoma undergoing radiofrequency ablation. *PLoS One.* 13(7):e0200943, 2018. DOI:10.1371/journal.pone.0200943
  10. Gamou S<sup>1</sup>, Kataoka M<sup>2</sup>, Aimi Y<sup>3</sup>, Chiba T, Momose Y<sup>3</sup>, Isoe S<sup>2</sup>, Hirayama T<sup>2,3</sup>, Yoshino H<sup>3</sup>, Fukuda K<sup>2</sup>, Satoh T<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Kyorin University Center for Comprehensive Regional Collaboration, <sup>2</sup>Keio University, <sup>3</sup>Division of Cardiology, Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine): Genetics in pulmonary arterial hypertension in a large homogeneous Japanese population. *Clin Genet* 94(1):70-80, 2018. DOI: 10.1111/cge.13154
  11. Fujiwara N<sup>1</sup>, Nakagawa H<sup>1</sup>, Enooku K<sup>1</sup>, Kudo Y<sup>1</sup>, Hayata Y<sup>1</sup>, Nakatsuka T<sup>1</sup>, Tanaka Y<sup>1</sup>, Tateishi R<sup>1</sup>, Hikiba Y<sup>2</sup>, Misumi K<sup>1</sup>, Tanaka M<sup>1</sup>, Hayashi A<sup>1</sup>, Shibahara J, Fukayama M<sup>1</sup>, Arita J<sup>1</sup>, Hasegawa K<sup>1</sup>, Hirschfield H<sup>3</sup>,

## 論文

1. Iwashita T<sup>1</sup>, Nakai Y<sup>2</sup>, Mukai T<sup>3</sup>, Togawa O<sup>4</sup>, Matsubara S<sup>5</sup>, Hatano Y<sup>1</sup>, Hara A, Tanaka M<sup>2</sup>, Shibahara J, Fukayama M<sup>2</sup>, Isayama H<sup>2</sup>, Yasuda I<sup>6</sup> (<sup>1</sup>Gifu University, <sup>2</sup>The University of Tokyo, <sup>3</sup>Gifu Municipal Hospital, <sup>4</sup>Kanto Central Hospital, <sup>5</sup>Tokyo Metropolitan Police Hospital, <sup>6</sup>Teikyo University Mizonokuchi Hospital): A 19-Gauge Histology Needle Versus a 19-Gauge Standard Needle in Endoscopic Ultrasound-Guided Fine-Needle Aspiration for Solid Lesions: A Multicenter Randomized Comparison Study (GREATER Study). *Dig Dis Sci.* 63(4):1043-1051, 2018. DOI: 10.1007/s10620-018-4913-y
2. Nagafuji H<sup>1</sup>, Yokoi H<sup>1</sup>, Ohara A<sup>2</sup>, Fujiwara M, Takayama N<sup>3</sup>, Saito K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine): Primary diffuse large B-cell lymphoma of the frontal sinus: A case report and literature review. *Radiol Case Rep.* 2018 Apr 4;13(3):635-639. DOI: 10.1016/j.radcr.2018.03.008.
3. Saraya T<sup>1</sup>, Kimura H<sup>2</sup>, Kurai D<sup>1</sup>, Tamura M<sup>1</sup>, Ogawa Y<sup>1</sup>, Mikura S<sup>1</sup>, Sada M<sup>1</sup>, Oda M<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>1</sup>, Ohkuma K<sup>1</sup>, Inoue M<sup>1</sup>, Honda K<sup>1</sup>, Watanabe M<sup>1</sup>, Yokoyama T<sup>1</sup>, Fujiwara M, Ishii H<sup>1</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>National Institute of Infectious Diseases): Clinical significance of respiratory virus detection in patients with acute

- Hoshida Y<sup>3</sup>, Hirata Y<sup>1</sup>, Otsuka M<sup>1</sup>, Tateishi K<sup>1</sup>, Koike K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Asahi Life Foundation, <sup>3</sup>Icahn School of Medicine at Mount Sinaï): CPT2 downregulation adapts HCC to lipid-rich environment and promotes carcinogenesis via acylcarnitine accumulation in obesity. *Gut*. 67(8):1493-1504, 2018. DOI: 10.1136/gutjnl-2017-315193
12. Saraya T<sup>1</sup>, Light RW<sup>2</sup>, Fujiwara M, Takizawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Division of Allergy/Pulmonary/Critical Care Vanderbilt University Medical Center Nashville Tennessee): Diagnostic clue for pleural metastasis of malignant melanoma. *J Gen Fam Med*. 2018 Aug 27;19(6):217-218. DOI: 10.1002/jgf2.200
  13. Miura Y<sup>1</sup>, Kataoka M<sup>2</sup>, Chiba T, Inami T<sup>1</sup>, Yoshino H<sup>1</sup>, Satoh T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Division of Cardiology, Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Keio University) : Giant fold gastritis induced by epoprostenol infusion in patients with pulmonary arterial hypertension. *Circ J* 82(10):2676-2677, 2018. DOI: 10.1253/circj.CJ-18-0349
  14. Matsuki R<sup>1</sup>, Sugiyama M<sup>1</sup>, Yoshiike S, Shibahara J, Kogure M<sup>1</sup>, Yokoyama M<sup>1</sup>, Suzuki Y<sup>1</sup>, Abe N<sup>1</sup>, Masaki T<sup>1</sup>, Mori T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine): Spontaneous regression of colorectal liver metastasis. *Clin J Gastroenterol*. 11(4):263-267, 2018. DOI: 10.1007/s12328-018-0849-1
  15. Yokoi H<sup>1</sup>, Terado Y, Fujiwara M, Matsumoto Y<sup>1</sup>, Ikeda T<sup>1</sup>, Saito K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine): Biphasic low-grade nasopharyngeal papillary adenocarcinoma: a case report and literature review. *BMC Clin Pathol*. 2018 Oct 4;18:10. DOI: 10.1186/s12907-018-0076-1
  16. Iijima S<sup>1</sup>, Chiba T, Maruyama K<sup>1</sup>, Saito K<sup>1</sup>, Kobayashi K<sup>1</sup>, Yamagishi Y<sup>1</sup>, Shibahara J, Takayama N<sup>2</sup>, Shiokawa Y<sup>1</sup>, Nagane M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Neurosurgery, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine): Hepatosplenic  $\gamma\delta$  T Cell Lymphoma Involving the Brain. *World Neurosurg*. 118:139-142, 2018. DOI: 10.1016/j.wneu.2018.07.048
  17. Saraya T<sup>1</sup>, Fujiwara M, Kimura H<sup>2</sup>, Takei H<sup>3</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>National Institute of Infectious Diseases, <sup>3</sup>Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University School of Medicine): A 17-year-old woman with a solitary, mixed squamous cell and glandular papilloma of the bronchus. *Respirol Case Rep*. 2018 Nov 30;7(2):e00393. DOI: 10.1002/rcr2.393
  18. Ueno T<sup>1,2</sup>, Saji S<sup>3</sup>, Chiba T, Kamma H, Isaka H<sup>1</sup>, Itoh H<sup>1</sup>, Imi K<sup>1</sup>, Miyamoto K<sup>1</sup>, Tada M<sup>1</sup>, Sasano H<sup>4</sup>, Toi M<sup>5</sup>, Imoto S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Breast Surgery, School of Medicine, Kyorin University, <sup>2</sup>The Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, <sup>3</sup>Fukushima Medical University, <sup>4</sup>Tohoku University, <sup>5</sup>School of Medicine, Kyoto University): Progesterone receptor expression in proliferating cancer cells of hormone-receptor-positive breast cancer. *Tumour Biol*. Nov;40(10), 2018. DOI: 10.1177/1010428318811025
  19. Katsuragawa F<sup>1</sup>, Nagahama K, Naito S<sup>2</sup>, Tsuura Y<sup>1</sup>, Otani M<sup>1</sup>, Koide T<sup>1</sup>, Nishiyama S<sup>1</sup>, Yanagi T<sup>1</sup>, Nanamatsu A<sup>1</sup>, Aki S<sup>1</sup>, Aoyagi M<sup>1</sup>, Tanaka H<sup>1</sup>, Rai T<sup>2</sup>, Uchida S<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Yokosuka Kyosai Hospital, <sup>2</sup>Tokyo Medical and Dental University): Ruptured infected aneurysm of the thoracic aorta associated with tunneled dialysis catheter-related methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* bacteremia in a hemodialysis patient. *CEN Case Rep*. 2018 Nov;7(2):325-329. doi: 10.1007/s13730-018-0352-z
  20. Hiraide T<sup>1</sup>, Kataoka M<sup>1</sup>, Suzuki H<sup>1</sup>, Aimi Y<sup>2</sup>, Chiba T, Kanekura K<sup>3</sup>, Satoh T<sup>2</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Gamou S<sup>1</sup>, Kosaki K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Division of Cardiology, Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Tokyo Medical University): SOX17 mutations in Japanese patients with pulmonary arterial hypertension. *Am J Respir Crit Care Med* 198(9):1231-1233, 2018. DOI: 10.1164/rccm.201804-0766LE
  21. Tamura D<sup>1</sup>, Maeda D<sup>1</sup>, Halimi SA<sup>1</sup>, Okimura M<sup>1</sup>, Kudo-Asabe Y<sup>1</sup>, Ito S<sup>1</sup>, Sato N<sup>1</sup>, Shibahara J, Nanjo H<sup>1</sup>, Terada Y<sup>1</sup>, Goto A<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Akita University). Adenomatoid tumour of the uterus is frequently associated with iatrogenic immunosuppression. *Histopathology*. 73(6):1013-1022, 2018. DOI: 10.1111/his.13726
  22. Enooku K<sup>1</sup>, Kondo M<sup>1</sup>, Fujiwara N<sup>1</sup>, Sasako T<sup>1</sup>, Shibahara J, Kado A<sup>1</sup>, Okushin K<sup>1</sup>, Fujinaga H<sup>1</sup>, Tsutsumi T<sup>1</sup>, Nakagomi R<sup>1</sup>, Minami T<sup>1</sup>, Sato M<sup>1</sup>, Nakagawa H<sup>1</sup>, Kondo Y<sup>1</sup>, Asaoka Y<sup>1</sup>, Tateishi R<sup>1</sup>, Ueki K<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Yoshida H<sup>2</sup>, Moriya K<sup>1</sup>, Yotsuyanagi H<sup>1</sup>, Kadowaki T<sup>1</sup>, Fukayama M<sup>1</sup>, Koike K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Kawakita General Hospital): Hepatic IRS1 and  $\beta$ -catenin expression is associated with histological progression and overt diabetes emergence in NAFLD patients. *J Gastroenterol*. 53(12):1261-1275, 2018. DOI: 10.1007/s00535-018-1472-0
  23. Suzuki H<sup>1</sup>, Kataoka M<sup>1</sup>, Hiraide T<sup>1</sup>, Aimi Y<sup>2</sup>, Yamada Y<sup>1</sup>, Katsumata Y<sup>1</sup>, Chiba T, Kanekura K<sup>3</sup>, Isobe S<sup>1</sup>, Sato Y<sup>1</sup>, Satoh T<sup>2</sup>, Gamou S<sup>1</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Kosaki K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Division of Cardiology, Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Tokyo Medical University) : Genomic comparison with supercentenarians identifies RNF213 as a risk gene for pulmonary arterial hypertension. *Circ Genom Precis Med* 11(12):3002317, 2018. DOI: 10.1161/CIRCGEN.118.002317
  24. Oda M<sup>1</sup>, Saraya T<sup>1</sup>, Shirai T<sup>1</sup>, Ishikawa N<sup>1</sup>, Fujiwara M, Takizawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Multiple huge "cluster" and "galaxy" signs on chest radiography in a patient with pulmonary tuberculosis. *Respirol Case Rep*. 2019 Jan 25;7(3):e00398. DOI: 10.1002/rcr2.398
  25. Tanaka M<sup>1</sup>, Shibahara J, Ishikawa S<sup>2</sup>, Ushiku T<sup>1</sup>, Morikawa T<sup>3</sup>, Shinozaki-Ushiku A<sup>1</sup>, Hayashi A<sup>1</sup>, Misumi K<sup>1</sup>, Tanaka A<sup>1</sup>, Katoh H<sup>2</sup>, Sakuma K<sup>1</sup>, Kokudo T<sup>1</sup>, Inagaki Y<sup>1</sup>, Arita J<sup>1</sup>, Sakamoto Y<sup>4</sup>, Hasegawa K<sup>1</sup>, Fukayama M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>3</sup>NTT Medical Center Tokyo, <sup>4</sup>Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine): EVI1 expression is associated with aggressive behavior in intrahepatic cholangiocarcinoma. *Virchows Arch*. 474(1):39-46, 2019. DOI: 10.1007/s00428-018-2476-0
  26. Kurata A<sup>1</sup>, Saito A<sup>1</sup>, Hashimoto H<sup>2</sup>, Fujita K<sup>1</sup>, Ohno S<sup>1</sup>, Kamma H, Nagao T<sup>1</sup>, Kobayashi S<sup>3</sup>, Yamashina A<sup>1</sup>, Kuroda M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Medical University, <sup>2</sup>NTT Medical Center Tokyo, <sup>3</sup>Juntendo Koshigaya Hospital) : Difference in immunohistochemical characteristics between Takayasu arteritis and giant cell arteritis: it may be better to distinguish them in the same age. *Med Rheumatol*. 2019 Jan 21:1-10. DOI: 10.1080/14397595.2019.1570999
  27. Sasako T<sup>1</sup>, Ohsugi M<sup>1</sup>, Kubota N<sup>1</sup>, Itoh S<sup>1</sup>, Okazaki Y<sup>1</sup>, Terai A<sup>1</sup>, Kubota T<sup>1</sup>, Yamashita S<sup>2</sup>, Nakatsukasa K<sup>3</sup>, Kamura T<sup>3</sup>, Iwayama K<sup>4</sup>, Tokuyama K<sup>4</sup>, Kiyonari H<sup>5</sup>, Furuta Y<sup>5</sup>, Shibahara J, Fukayama M<sup>1</sup>, Enooku K<sup>1</sup>, Okushin K<sup>1</sup>, Tsutsumi T<sup>1</sup>, Tateishi R<sup>1</sup>, Tobe K<sup>6</sup>, Asahara

H<sup>2</sup>, Koike K<sup>1</sup>, Kadowaki T<sup>1</sup>, Ueki K<sup>1</sup> (1<sup>1</sup>The University of Tokyo, 2<sup>2</sup>Tokyo Medical and Dental University, 3<sup>3</sup>Nagoya University, 4<sup>4</sup>University of Tsukuba, 5<sup>5</sup>RIKEN Center for Life Science Technologies, 6<sup>6</sup>the University of Toyama): Hepatic Sdf211 controls feeding-induced ER stress and regulates metabolism. Nat Commun. 10(1):947, 2019. DOI: 10.1038/s41467-019-08591-6

28. Saraya T<sup>1</sup>, Fujiwara M, Mikura S<sup>1</sup>, Fukuda N<sup>1</sup>, Ishii H<sup>1</sup>, Takizawa H<sup>1</sup> (1<sup>1</sup>Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Answer Found in a Blowing Sound: Amphoric Breathing Due to Cyst Formation in Pulmonary Adenocarcinoma. Intern Med. 2019;58(3):423-425. DOI: 10.2169/internalmedicine.0623-17
29. Saraya T<sup>1</sup>, Tamura M<sup>1</sup>, Kasuga K<sup>1</sup>, Fujiwara M, Takizawa H<sup>1</sup> (1<sup>1</sup>Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Lung adenocarcinoma and anti-transcriptional intermediary factor 1-gamma positive dermatomyositis complicated with spontaneous oesophageal rupture. Respirol Case Rep. 2019 Feb 4;7(3):e00403. DOI: 10.1002/rcr.2.403
30. Tanaka R<sup>1</sup>, Sakamoto N, Suzuki H, Tachibana K<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>2</sup>, Kishimoto K, Fujiwara M, Kamma H, Shibahara J, Kondo H<sup>1</sup> (1<sup>1</sup>Department of Surgery, 2<sup>2</sup>Department of Clinical Laboratory) : Genotyping and cytological subtyping of lung adenocarcinoma based on liquid-based cytology. Diagn Cytopathol. 2019 Jun;47(6):564-570. DOI: 10.1002/dc.24154
31. 菅間博 : 小児甲状腺癌から解る甲状腺癌のPathogenesis. 日本小児血液・がん学会雑誌 54(5), 445-446, 2018.
32. 中西郁<sup>1</sup>, 河野浩之<sup>1</sup>, 天野達雄<sup>1</sup>, 大森嘉彦, 菅間博, 平野照之<sup>1</sup> (1<sup>1</sup>杏林大・医・脳卒中医学) : 回収した血栓により診断した感染性心内膜炎の1例. 臨床神経学, 58(1):35-40, 2018.
33. 吉池沙保里<sup>1</sup>, 福山雅大<sup>1</sup>, 長内喜代乃<sup>2</sup>, 大森嘉彦, 大山大<sup>1</sup> (1<sup>1</sup>杏林大・医・皮膚科学, 2<sup>2</sup>杏林大・医・産婦人科学) : Sertoli-Leydig細胞腫の摘出により症状の改善をみた女性型脱毛症の1例. 臨床皮膚科 72(6):451-456, 2018.
34. 菅野秀美<sup>1</sup>, 佐藤洋平<sup>1</sup>, 下田由莉江<sup>1</sup>, 早川順<sup>1</sup>, 大山大<sup>1</sup>, 下山田博明, 藤原正親, 布袋祐子<sup>2</sup> (1<sup>1</sup>杏林大・医・皮膚科学, 2<sup>2</sup>荻窪病院) : 寛解中にbasosquamous carcinomaが生じ腫瘍周囲のみに再燃した水疱性類天疱瘡の1例. 臨床皮膚科 72:513-517, 2018.
35. 伊藤有亜<sup>1</sup>, 福山雅大<sup>1</sup>, 早川順<sup>1</sup>, 千葉知宏, 柴原純二, 大山大<sup>1</sup> (1<sup>1</sup>杏林大・医・皮膚科学) : 局所再発とin-transit転移をきたした外陰部皮膚粘液癌の1例. 臨床皮膚科 72(8):629-633, 2018.
36. 箕輪慎太郎<sup>1</sup>, 齋藤大祐<sup>1</sup>, 岡部直太, 佐藤太龍<sup>1</sup>, 池崎修<sup>1</sup>, 三井達也<sup>1</sup>, 三浦みき<sup>1</sup>, 櫻庭彰人<sup>1</sup>, 林田真理<sup>1</sup>, 徳永健吾<sup>1</sup>, 戸成綾子<sup>2</sup>, 望月眞, 柴原純二, 森秀明<sup>1</sup>, 久松理一<sup>1</sup> (1<sup>1</sup>杏林大・医・第三内科, 2<sup>2</sup>杏林大・医・放射線腫瘍学) : 急性放射線性腸炎の1例 大腸内視鏡検査と病理組織学的検査施行の報告. 杏林医学会雑誌 49(3):229-233, 2018.
37. 柴原純二 : 臨床医のための神経病理再入門 びまん性膠腫 gradeII, III. Clinical Neuroscience. 37(1) : 8-9, 2019.
38. 山本唯<sup>1,2</sup>, 重安千花<sup>1</sup>, 久須美有美<sup>1</sup>, 藤井かんな<sup>1</sup>, 千葉知宏, 長濱清隆, 菅間博, 山田昌和<sup>1</sup> (1<sup>1</sup>杏林大・医・眼科学, 2<sup>2</sup>亀田総合病院) : ハードコンタクトレンズ装用者におけるScedosporium 属による感染性角膜炎の1例. あたらしい眼科 36(3):87-91, 2019.

## 著書

1. 藤原正親, 岡部直太, 菅間博 (分担執筆) : 甲状腺・副甲状腺 第6章 症例の実際 症例5 CASTLE/ITET. 癌診療指針のための病理診断プラクティス 内分泌腫瘍 甲状腺, 副腎. 青笹克之総編集, 長沼廣, 笹野公伸専門編集. 東京, 中山書店, 2018. p.227-230.

2. 藤原正親 (分担執筆) : 第3章 上皮組織・非上皮組織. 細胞診を学ぶ人のために 第6版. 坂本穆彦編集. 東京, 医学書院, 2019. P.16-25.

## 感染症学教室 (微生物学)

### 講演

1. Hanawa T, Miyanaga K, Araki K, Ohnishi H, Kamiya S, Tanji Y, Matsuda T: Host ranges of phiSA012 and phiSA039 against methicillin resistant *Staphylococcus aureus* prevalent strains. The 5th World Congress on Targeting Infectious Diseases - Phage Therapy & Antibiotic Resistance, Italy, May 17th-18th, 2018.
2. Osaki T: Antimicrobial therapy and *Clostridioides difficile* infection. The Joint Congress of the 7th Meeting of the Asian Organization for Mycoplasma and the 45th Meeting of the Japanese Society of Mycoplasma. Luncheon Seminar 2, Tokyo, May 18th-20th, 2018.
3. Kurata S, Kamiya S: *In vivo* and *in vitro* immune responses stimulated by *Mycoplasma pneumoniae*. The Joint Congress of the 7th Meeting of the Asian Organization for Mycoplasma and the 45th Meeting of the Japanese Society of Mycoplasma, Tokyo, May 18th-20th, 2018.
4. 花輪智子, 荒木光二, 大西宏明, 神谷茂, 松田剛明 : バクテリアファージのMRSA臨床分離株を用いた宿主域の決定. 第92回日本感染症学会学術講演会, 岡山, 2018年5月31日-6月2日.
5. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 田口晴彦, 神谷茂 : マウスを用いた肺炎マイコプラズマ菌体抗原によるTh2 chemokine産生誘導に関する検討. 第92回日本感染症学会総会, 岡山, 2018年5月31日 - 6月2日.
6. Yonezawa H, Osaki T, Kamiya S: An outer membrane protein, AlpA, affects AlpB expression and biofilm formation in *Helicobacter pylori*. 40th International Congress of the Society for Microbial Ecology and Diseases SOMED 2018 Congress. Hungary, June 18th-19th, 2018.
7. 徳永健吾, 大崎敬子, 中村正彦, 田中昭文, 大森嘉彦, 米澤英雄, 岡本晋, 高橋信一, 神谷茂, 久松理一 : 胃MALTリンパ腫におけるHHLO感染および胃内マイクロバイオータの検討. 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会, 大分, 2018年6月29日-7月1日.
8. 米澤英雄, 大崎敬子, 北条史, 神谷茂 : *Helicobacter pylori* 外膜タンパク質AlpBの多様性及び構造変化とバイオフィーム形成. 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会, 大分, 2018年6月29日 - 7月1日.
9. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 神谷茂 : 環境土壌および滅菌土壌内における*Helicobacter pylori*の生存性について. 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会, 大分, 2018年6月29日-7月1日.
10. Osaki T, Zaman C, Yonezawa H, Lin Y, Okuda M, Hojo F, Kikuchi S, Kamiya S: Intra-familial transmission of *Helicobacter pylori* in Japanese families-Influence of intestinal indigenous microbiota. The 15th Japan-Korea Joint Symposium on *Helicobacter* infection, Oita, June 30th, 2018.
11. 大崎敬子, 北条史, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂 : *Helicobacter pylori*感染鉄欠乏性貧血モデル動物の作出. 第52回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 川崎, 2019年1月25-26日.
12. 花輪智子 : ファージ療法が適応となる感染症について. 日本薬学会第139年会, 千葉, 2019年3月20-23日.

## 論文

1. Osaki T, Zaman C, Yonezawa H, Lin Y<sup>1</sup>, Okuda M<sup>1,2</sup>, Nozaki E<sup>3</sup>, Hojo F<sup>4</sup>, Kurata S, Hanawa T, Kikuchi S<sup>1</sup>, Kamiya S, (<sup>1</sup>Aichi Medical University, <sup>2</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>3</sup>Core Laboratory for Proteomics and Genomics, Kyorin University School of Medicine, <sup>4</sup>Graduate School of Medicine, Institute of Laboratory Animals, Kyorin University): Influence of Intestinal Indigenous Microbiota on Intrafamilial Infection by *Helicobacter pylori* in Japan. *Front Immunol.* 9: 287, 2018. DOI: 10.3389/fimmu.2018.00287.
2. Oka K<sup>1</sup>, Osaki T, Hanawa T, Kurata S, Sugiyama E<sup>1</sup>, Takahashi M<sup>1,2</sup>, Tanaka M<sup>2</sup>, Taguchi H<sup>3</sup>, Kamiya S (<sup>1</sup>Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., <sup>2</sup>Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences): Establishment of an Endogenous *Clostridium difficile* Rat Infection Model and Evaluation of the Effects of *Clostridium butyricum* MIYAIRI 588 Probiotic Strain. *Front Microbiol.* 9:1264. 2018. DOI: 10.3389/fmicb.2018.01264.
3. Ohshima T<sup>1,2</sup>, Osaki T, Yamamoto Y<sup>1</sup>, Asai S<sup>1</sup>, Miyachi H<sup>1</sup>, Kamiya S (<sup>1</sup>Tokai University, <sup>2</sup>Chiba Institute of Science): Evaluation of risk factors for *Clostridium difficile* infection based on immunochromatography testing and toxigenic culture assay. *J Clinical Microbiology* 2018 ; 56(12): e00555-18.
4. 大崎敬子, 神谷茂: *Helicobacter pylori*感染胃炎とマイクロバイオーム. *無菌生物*48(1): 35-36, 2018.
5. 北条史, 大崎敬子, 花輪智子, 米澤英雄, 蔵田訓, 神谷茂: 環境土壌および滅菌土壌内における *Helicobacter pylori* の生存性について. *無菌生物*48(2): 77-78, 2018.

## その他

1. 大崎敬子: 日本における *Helicobacter pylori* 感染症の診断と治療, *Helicobacter pylori* 感染症の診断のための臨床検体からの本菌検出法技術研修セミナー, ベトナム, 2018年8月5-12日.
2. 松田剛明, 花輪智子: シンポジウムの話題, 多剤耐性菌への挑戦—バクテリオファージの感染症治療への応用—. *薬事日報*, 発行日: 2019年3月15日.

### 感染症学教室 (寄生虫学)

## 講演

1. Niikura M, Inoue SI, Asahi H, Kobayashi F : Pathophysiology of rodent malaria during pregnancy. International Congress of Parasitology (ICOPA XIV), Korea, August 19th-24th, 2018.
2. Inoue SI, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F :  $\gamma\delta$  T cell-related protective immunity against *Plasmodium berghei*. International Congress of Parasitology (ICOPA XIV), Korea, August 19th-24th, 2018.
3. 新倉保, 井上信一, 朝日博子, 小林富美恵: 脂肪組織に関わる新たな妊娠マラリア病態発症機構の解明. 第26回分子寄生虫学ワークショップ&第16回分子寄生虫マラリアフォーラム合同大会, 松山, 2018年9月19-22日.
4. Inoue SI, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F, Yui K :  $\gamma\delta$  T cells modulate humoral immunity against *Plasmodium berghei* infection. 第71回日本寄生虫学会南日本支部大会・第68回日本衛生動物学会南日本支部大会 合同大会, 福岡, 2018年10月27-28日.

5. Inoue SI, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F, Yui K :  $\gamma\delta$  T cells regulate humoral immune responses against *Plasmodium berghei* infection. 第12回 寄生虫感染免疫研究会, 宮城, 2019年2月21-22日.
6. 新倉保, 朝日博子, 井上信一, 小林富美恵: 乳腺組織を基軸とした新たな妊娠マラリア病態発症機構の解明. 第88回日本寄生虫学会大会, 長崎, 2019年3月16-17日.
7. Inoue SI, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F, Yui K :  $\gamma\delta$  T cells modulate humoral immunity against *Plasmodium berghei* infection. 第88回日本寄生虫学会大会, 長崎, 2019年3月16-17日.

## 論文

1. Inoue SI, Niikura M, Asahi H, Kawakami Y<sup>1</sup>, Kobayashi F<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Azabu University) :  $\gamma\delta$  T cells modulate humoral immunity against *Plasmodium berghei* infection. *Immunology.* 155 (4): 519-532, 2018. DOI: 10.1111/imm.12997.

## その他

1. 新倉保: 寄生虫感染症の臨床ならびにその検査法. 第13回寄生虫検査法技術講習会, 東京, 2018年6月10日.
2. 新倉保: 第7回杏林医学会研究奨励賞 「IFNGR1 signaling is associated with adverse pregnancy outcomes during infection with malaria parasites」. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
3. 新倉保: 平成29年度医学部若手支援研究費 成果報告「マラリア原虫特異的代謝と妊娠中のマラリア病態重症化との関連を調べる」. *杏林医学会雑誌* 49 (4) : s25-27, 2018.
4. 新倉保: 杏林医学会 第7回研究奨励賞 受賞報告「妊娠マラリアの病態モデルを用いた胎盤組織傷害機構の解明」. *杏林医学会雑誌* 49 (4) : s29-30, 2018.

### 衛生学公衆衛生学教室

## 講演

1. Yoshida M, Mizuki N, Takeuchi M, Yamane T, Mizuki Y, Okada E: A large-scale, epidemiologic study of the influence of ultraviolet exposure on myopia progression. – A 5-year follow-up study approximately 460,000 Japanese patients'eyes-. ARVO 2018, USA, Apr 29th-May 3rd, 2018.
2. Okada E, Mizuki N, Takeuchi M, Yamane T, Mizuki Y, Yoshida M : A ten-year large-scale follow-up study into the number of prescription of single vision and bifocal contact lenses in Japan. –The result of analysis of approximately 590,000 eyes of Japanese patients. ARVO 2018, USA, Apr 29th-May 3rd, 2018.
3. Karita K, Iwata T, Murata K: Interpretation of heart variability of methylmercury neurotoxicity: A review. pptox VI, Tórshavn, Faroe Islands, May 27th-30th, 2018.
4. 小磯直人, 吉富悠騎, 浅井玲子, 祝原豊, 内丸仁, 鈴江毅, 佐野光, 杉山康司, 辻川比呂斗, 長津恒輝, 村田真一, 櫻井拓也, 白土健, 大野秀樹, 木崎節子, 長澤純一: 低酸素環境における生体負荷に対する心拍変動のDFA解析. 第38回日本登山医学会学術集会, 東京, 2018年6月2-3日.
5. Meguro A, Yoshida M, Okada E, Mizuki N: A large-scale, epidemiological study of refractive error. –A 5-year follow-up study approximately 230,000 Japanese patients'eyes. WOC 2018, Spain, June 16th-19th, 2018.
6. 菊田香苗: バンコク市の粒子状物質による大気汚染の健康影響-2000年前後の調査結果から-. 第32回人類生態学研究会, 東京, 2018年6月30日.
7. Shirato K, Takanari J, Koda T, Sakurai T, Ogasawara J, Ohno H, Kizaki T: ETAS\*50 prevents ultraviolet-B

- irradiation-induced reduction in heat shock protein 70 expression in normal human dermal fibroblasts. The 26th International Congress on Nutrition and Integrative Medicine (ICNIM2018), Sapporo, July 21st-22nd, 2018.
8. Alimu A, Takanari J, Shirato K, Ogasawara J: Treatment of Oligonol® attenuates levels of Acetyl-CoA Carboxylase, a rate limiting enzyme of lipogenesis, in 3T3-L1 preadipocytes. The 26th International Congress on Nutrition and Integrative Medicine (ICNIM2018), Sapporo, July 21st-22nd, 2018.
  9. 櫻井拓也: 脂肪組織から見る肥満・生活習慣病を克服する運動処方バイオロジカルエビデンス. 第26回日本運動生理学会大会, 泉南郡, 2018年7月28-29日.
  10. 石川守, 菅田慎一, 吉田正雄: がん検診に関する一考察～これまでのがん検診を振り返り、これからのがん検診を推める為に～. 第28回九州農村医学会, 鹿児島, 2018年8月11日.
  11. 櫻井拓也, 白土健, 小笠原準悦, 石橋義永, 井澤鉄也, 大石修司, 芳賀脩光, 大野秀樹, 木崎節子: 肥満によって増加するプロサイモニンαは脂肪細胞の分化を増強する. 第73回日本体力医学会大会, 福井, 2018年9月7-9日.
  12. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: マクロファージToll様受容体シグナル伝達における内因性O-結合型N-アセチルグルコサミンの役割. 第91回日本生化学会大会, 京都, 2018年9月24-26日.
  13. 小笠原準悦, アリムアミラ, 白土健, 吉岡英治, 西條泰明, 吉田貴彦: 成熟型3T3-L1脂肪細胞のヘキサクロシクロヘキサンへの暴露はインスリン抵抗性を誘導する. 第91回日本生化学会大会, 京都, 2018年9月24-26日.
  14. 鈴木彩香, 高井健太郎, 押切美鈴, 佐藤公美, 岳真一郎, 吉田正雄: カーテン大作戦～ポスター掲示によるカーテン開閉の習慣化への取り組み～. 第60回全日本病院学会in 東京, 東京, 2018年10月6-7日.
  15. 菊地なお美, 元部麻美, 金城純夏, 岳真一郎, 吉田正雄: 業務改善とスタッフの意識の変化～アンケート調査を用いた業務改善への取り組み～. 第26回日本慢性期医療学会, 鹿児島, 2018年10月11-12日.
  16. 原田まつ子, 林あつみ, 吉田正雄, 井上聡, 本尾友紀, 菊田香苗: エタノール摂取と亜鉛の栄養状態に関するラットを用いた実験研究. 第77回日本公衆衛生学会, 福島, 2018年10月24-26日.
  17. 吉田正雄, 岳真一郎, 太田由美, 越後史子: 喫煙習慣が眼圧値の変動に及ぼす影響～緑内障患者における禁煙の重要性～. 第12回日本禁煙学会学術総会, 高松, 2018年11月10-11日.
  18. 白土健, 櫻井拓也, 木本紀代子, 大野秀樹, 木崎節子: マクロファージの炎症性応答におけるO-結合型N-アセチルグルコサミンの役割. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.
  19. 菅田慎一, 杉山晶彦: 摂餌量のコントロールで糖尿病網膜症・腎症メダカを作出する. 第4回ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会, 東京, 2018年11月20日.
  20. 菊田香苗, 吉田正雄, 井上聡, 原田まつ子: 大気中微小粒子状物質の曝露による自律神経機能への影響－文献レビューと若年健常男性におけるパイロットスタディー. 第83回日本健康学会, 前橋, 2018年11月23-24日.
  21. 菅田慎一: メダカとその飼育方法を利用した糖尿病と合併症の研究へのアプローチ. 第41回日本分子生物学会年会, 横浜, 2018年11月28-30日.
  22. 菊田香苗, 村田勝敬: メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー. 環境省・重金属等による健康影響に関する総合的研究 平成30年度成果報告会, 東京, 2018年12月6日.
  23. 吉田正雄: 公衆衛生と医の倫理. 大和会「医の倫理研修」講演会, 武蔵村山, 2019年1月25日.
  24. 小風暁, 吉田正雄, 石川守, 菊田香苗, 落合裕隆, 白澤貴子, 吉本隆彦, 箕浦明, 佐藤正夫, 高島豊: 長寿関連ミトコンドリアDNA多型におけるコーヒー飲用と眼圧との関係解析. 第29回日本疫学会学術総会, 東京, 2019年1月30日-2月1日.
  25. 吉田正雄: 公衆衛生と医の倫理. 大和会「医の倫理研修」講演会, 東大和, 2019年1月31日.
  26. 白土健, 小宇田智子, 高成準, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 大野秀樹, 木崎節子: EASは紫外線による皮膚線維芽細胞のAktリン酸化を抑制してIL-6発現誘導を軽減する. 第89回日本衛生学会学術総会, 名古屋, 2019年2月1-3日.
  27. 白土健, 高成準, 小宇田智子, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 大野秀樹, 木崎節子: 紫外線による皮膚線維芽細胞のHSP70発現低下に対するEASの予防効果. 第89回日本衛生学会学術総会, 名古屋, 2019年2月1-3日.
  28. 菅田慎一, 吉田正雄, 菊田香苗: 水棲脊椎動物におけるマイクロプラスチックの生殖影響. 第89回日本衛生学会学術総会, 名古屋, 2019年2月1-3日.
  29. 小笠原準悦, アリムアミラ, 白土健, 吉田貴彦: 低分子化ポリフェノール複合体であるOligonolの添加は3T3-L1脂肪細胞の中性脂肪の蓄積を抑制する. 第89回日本衛生学会学術総会, 名古屋, 2019年2月1-3日.
  30. Shirato K, Ogasawara J, Sakurai T, Imaizumi K, Ohno H, Kizaki T: The role for O-linked N-acetylglucosamine cycling in macrophage Toll-like receptor signaling. The 9th Federation of Asian and Oceanian Physiological Societies Congress (FAOPS2019) in conjunction with the 96th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan. Kobe, March 28th-31st, 2019.
  31. Ogasawara J, Shirato K, Alimu A, Yoshida T: Habitual physical exercise attenuates classical brown adipose tissue mass in interscapular region. The 9th Federation of Asian and Oceanian Physiological Societies Congress (FAOPS2019) in conjunction with the 96th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan. Kobe, March 28th-31st, 2019.

## 論文

1. Karita K, Iwata T<sup>1</sup>, Maeda E<sup>1</sup>, Sakamoto M<sup>2</sup>, Murata K<sup>1</sup> (Akita University, <sup>2</sup>National Institute for Minamitama Disease): Assessment of Cardiac Autonomic Function in Relation to Methylmercury Neurotoxicity. *Toxics* 6(3):38, 2018. DOI: 10.3390/toxics6030038
2. Nomura K<sup>1</sup>, Karita K, Araki A<sup>2</sup>, Nishioka E<sup>3</sup>, Muto G<sup>4</sup>, Iwai-Shimada M<sup>5</sup>, Nishikitani M<sup>6</sup>, Inoue M<sup>7</sup>, Tsurugano S<sup>8</sup>, Kitano N<sup>9</sup>, Tsuji M<sup>10</sup>, Iijima S<sup>11</sup>, Ueda K<sup>12</sup>, Kamijima M<sup>13</sup>, Yamagata Z<sup>14</sup>, Sakata K<sup>15</sup>, Iki M<sup>16</sup>, Yanagisawa H<sup>17</sup>, Kato M<sup>18</sup>, Inadera H<sup>19</sup>, Kokubo Y<sup>20</sup>, Yokoyama K<sup>21</sup>, Koizumi A<sup>22</sup>, Otsuki T<sup>23</sup> (Akita University, <sup>2</sup>Hokkaido University, <sup>3</sup>National Defense Medical College, <sup>4</sup>Kitasato University, <sup>5</sup>National Institute for Environmental Studies, <sup>6</sup>Kyushu University, <sup>7</sup>Teikyo University, <sup>8</sup>The University of Electro-Communications, <sup>9</sup>Wakayama Medical University, <sup>10</sup>University of Occupational and Environmental Health, <sup>11</sup>Juntendo University, <sup>12</sup>Kyoto University, <sup>13</sup>Nagoya City University, <sup>14</sup>University of Yamanashi, <sup>15</sup>Iwate medical University, <sup>16</sup>Kindai University, <sup>17</sup>The Jikei University School of Medicine, <sup>18</sup>Nagoya University, <sup>19</sup>University of Toyama, <sup>20</sup>National Cerebral and Cardiovascular Center, <sup>21</sup>Juntendo University, <sup>22</sup>Kyoto Hokenkai, <sup>23</sup>Kawasaki Medical School): For making a declaration of countermeasures against the falling birth rate from the Japanese Society for Hygiene: summary of discussion in the working group on academic research strategy against an aging society with low birth rate. *Environmental Health and*

Preventive Medicine 24:14, 2019. DOI: 10.1186/s12199-019-0768-x

- Shirato K, Koda T<sup>1</sup>, Takanari J<sup>2</sup>, Sakurai T, Ogasawara J<sup>3</sup>, Imaizumi K<sup>4</sup>, Ohno H, Kizaki T (Tokyo Healthcare University, <sup>2</sup>Amino Up Chemical Co., Ltd, <sup>3</sup>Asahikawa Medical University, <sup>4</sup>Waseda University): Anti-inflammatory effect of ETAS®50 by inhibiting nuclear factor-κB p65 nuclear import in ultraviolet-B-irradiated normal human dermal fibroblasts. Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine 2018, Article ID:5072986, 2018. DOI: 10.1155/2018/5072986
- Shirato K, Koda T<sup>1</sup>, Takanari J<sup>2</sup>, Ogasawara J<sup>3</sup>, Sakurai T, Ohno H, Kizaki T (Tokyo Healthcare University, <sup>2</sup>Amino Up Chemical Co., Ltd, <sup>3</sup>Asahikawa Medical University): ETAS®50 attenuates ultraviolet-B-induced interleukin-6 expression by suppressing Akt phosphorylation in normal human dermal fibroblasts. Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine 2018, Article ID: 1547120, 2018. DOI: 10.1155/2018/1547120
- Shirato K, Takanari J<sup>1</sup>, Koda T<sup>2</sup>, Sakurai T, Ogasawara J<sup>3</sup>, Ohno H, Kizaki T (<sup>1</sup>Amino Up Chemical Co., Ltd, <sup>2</sup>Tokyo Healthcare University, <sup>3</sup>Asahikawa Medical University): A standardized extract of *Asparagus officinalis* stem prevents reduction in heat shock protein 70 expression in ultraviolet-B-irradiated normal human dermal fibroblasts: an *in vitro* study. Environmental Health and Preventive Medicine 23(1):40, 2018. DOI: 10.1186/s12199-018-0730-3
- Nagasawa J<sup>1</sup>, Sakurai T, Haga S<sup>2</sup>, Okada M<sup>3</sup>, Aita F<sup>4</sup>, Miura S<sup>5</sup>, Nakatani T<sup>6</sup>, Shirato K, Sato Y<sup>7</sup>, Ohno H<sup>8</sup>, Kizaki T (<sup>1</sup>Nihon University, <sup>2</sup>University of Tsukuba, <sup>3</sup>Aichi Bunkyo Women's College, <sup>4</sup>Edosaki Sohoh High School, <sup>5</sup>Kyoto Gakuen University, <sup>6</sup>Tenri University, <sup>7</sup>Aichi Mizuho College, <sup>8</sup>Social Medical Corporation, the Yamatokai Foundation): A Mild-Exercise Support Program and Its Affect on Physical Strength and Metabolic Improvement in the Elderly. Journal of Exercise, Sports & Orthopedics 6(1), 2019. DOI: 10.15226/2374-6904/6/1/00180
- Tonoyama Y<sup>1</sup>, Shinya M<sup>1</sup>, Toyoda A<sup>2</sup>, Kitano T<sup>3</sup>, Oga A<sup>4</sup>, Nishimaki T<sup>5</sup>, Katsumura T<sup>5</sup>, Oota H<sup>5</sup>, Wan MT<sup>6</sup>, Yip BWP<sup>6</sup>, Helen MOL<sup>6</sup>, Chisada S, Deguchi T<sup>7</sup>, Au DWT<sup>6</sup>, Naruse K<sup>8</sup>, Kamei Y<sup>8</sup>, Taniguchi Y (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>National Institute of Genetics, <sup>3</sup>Kumamoto University, <sup>4</sup>Yamaguchi University Graduate School of Medicine, <sup>5</sup>Kitasato University, <sup>6</sup>City University of Hong Kong, <sup>7</sup>National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), <sup>8</sup>National Institutes of Natural Sciences): Abnormal nuclear morphology is independent of longevity in a zmpste24-deficient fish model of Hutchinson-Gilford progeria syndrome (HGPS). Comp Biochem Physiol C Toxicol Pharmacol 209:54-62, 2018. DOI: 10.1016/j.cbpc.2018.03.006
- 村田勝敬<sup>1</sup>, 岩田豊人<sup>1</sup>, 前田恵理<sup>1</sup>, 荻田香苗 (<sup>1</sup>秋田大・院): 環境保健研究のジレンマ. 日衛誌73(2):148-155, 2018. DOI: 10.1265/jjh.73.148
- 荻田香苗, 北田真理<sup>1</sup> (<sup>1</sup>杏林大・総合政策): 諸外国における少子化対策-スウェーデン・フランス等の制度と好事例から学ぶ. 日衛誌 73(3):322-329, 2018. DOI: 10.1265/jjh.73.322
- 梅崎昌裕<sup>1</sup>, 荻田香苗 (<sup>1</sup>東京大): 感染症対策における防除と環境倫理. 公衆衛生83(3): 202-207, 2019.
- 野村恭子<sup>1</sup>, 荻田香苗, 荒木敦子<sup>2</sup>, 西岡笑子<sup>3</sup>, 武藤剛<sup>4</sup>, 岩井美幸<sup>5</sup>, 錦谷まりこ<sup>6</sup>, 井上まり子<sup>7</sup>, 鶴ヶ野しのぶ<sup>8</sup>, 北野

尚美<sup>9</sup>, 辻真弓<sup>10</sup>, 飯島佐知子<sup>11</sup>, 上田佳代<sup>12</sup>, 上島通浩<sup>13</sup>, 山縣然太郎<sup>14</sup>, 坂田清美<sup>15</sup>, 伊木雅之<sup>16</sup>, 柳澤裕之<sup>17</sup>, 加藤昌志<sup>18</sup>, 横山和仁<sup>4</sup>, 小泉昭夫<sup>19</sup>, 大槻剛巳<sup>20</sup> (<sup>1</sup>秋田大, <sup>2</sup>北海道大, <sup>3</sup>防衛医科大, <sup>4</sup>順天堂大, <sup>5</sup>国立環境研究所, <sup>6</sup>九州大, <sup>7</sup>帝京大, <sup>8</sup>電気通信大, <sup>9</sup>和歌山県立医科大, <sup>10</sup>産業医科大, <sup>11</sup>順天堂大・院, <sup>12</sup>京都大, <sup>13</sup>名古屋市立大・院, <sup>14</sup>山梨大・院, <sup>15</sup>岩手医科大, <sup>16</sup>近畿大, <sup>17</sup>東京慈恵会医科大, <sup>18</sup>名古屋大・院, <sup>19</sup>京都保健会, <sup>20</sup>川崎医科大): 日本衛生学会における少子化対策提言に向けて. 日本衛生学会少子化対策ワーキンググループによるとりまとめ. 日衛誌74: 18034, 2019. DOI:10.1265/jjh.18034

- 長澤純一<sup>1</sup>, 小磯直人<sup>2</sup>, 吉富悠騎<sup>2</sup>, 辻川比呂斗<sup>3</sup>, 杉山康司<sup>4</sup>, 祝原豊<sup>4</sup>, 長津恒輝<sup>4</sup>, 鈴江毅<sup>4</sup>, 内丸仁<sup>5</sup>, 櫻井拓也, 白土健, 大野秀樹, 木崎節子 (<sup>1</sup>日本大, <sup>2</sup>電気通信大・院, <sup>3</sup>順天堂大, <sup>4</sup>静岡大, <sup>5</sup>仙台大): 低酸素環境下の生体負担指標としての心拍変動DFA解析. 登山医学, 38: 26-35, 2018.

## 報告書

- 荻田香苗 (分担): 光化学オキシダント等大気汚染物質文献レビュー・光化学オキシダントの健康影響に関する文献調査報告書. 平成30年度環境省請負業務結果報告書, 日本エヌ・ユー・エス, 2019年3月.
- 荻田香苗 (分担): メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー; 「水俣病に関する総合的研究 (重金属等による健康影響に関する総合的研究)」。平成30年度環境省委託業務報告書, 2019年3月.
- 白土健: (第7回研究奨励賞受賞報告) 習慣的自発性運動はマクロファージのカスパーゼ-1の発現を高めてインターロイキン-18インターロイキン-18の分泌を増強する. 杏林医学会雑誌 49(4):S39-S40, 2018. [http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/kyorinms/journal/pdf/49/49\\_s39.pdf](http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/kyorinms/journal/pdf/49/49_s39.pdf)

## その他

- 荻田香苗: (巻頭言) アンコンシヤス・バイアスという見えない壁. 日本健康学会誌84(3):79-80, 2018.
- 吉田正雄: (巻頭言) ヒポクラテスの誓い. 日本健康学会誌85(2):65-66, 2019.
- 荻田慎一, 杉山晶彦[特許出願]: 糖尿病網膜症, 白内障及び/又は腎症モデル実験動物 (特願2018-173609). 認証日: 2018年9月18日.
- 白土健: (第7回杏林医学会研究奨励賞) 「Regular voluntary exercise potentiates interleukin-18 and interleukin-18 secretion by increasing caspase-1 expression in macrophages. Mediators of Inflammation 2017:9290416, 2017」, 2018年11月17日.
- 白土健: (第47回杏林医学会総会優秀賞) 「マクロファージの炎症性応答におけるO-結合型N-アセチルグルコサミンの役割」, 2018年11月17日.
- 吉田正雄: (ネットメディア出演) 期末前に要注意! 流行中のインフルエンザ. Chu-Moku, Chuo Media Alliance, 中央大学, 2018年11月28日.
- 荻田慎一: (2018年度JTP学術賞奨励賞) 「Ocular lesions in leptin receptor-deficient medaka (*Oryzias latipes*). Journal of Toxicologic Pathology, 31(1):65-72, 2018」, 2019年1月31日.

## 法医学教室

## 講演

- Takeichi T, Kitahiro M, Minabe S, Kitamura O, Zuka M: Expression of vesicular glutamate transporter 2 in the thalamus of depressive and non-depressive suicide victims. 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM), Fukuoka, June 5th-8th, 2018.

2. Kigasawa H, Takahashi K, Yoshida M, Takashino S, Kiryu K, Kitamura O : An autopsy case of traumatic splenic injury associated with liver cirrhosis and congestive splenomegaly. 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM), Fukuoka, June 5th-8th, 2018.
3. Takagi T, Yamada C, Nara A, Takashino S : An autopsy case of Potter sequence. 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM), Fukuoka, June 5th-8th, 2018.
4. Kiryu K, Takashino S, Yoshida M, Kigasawa H, Hirokawa T, Takahashi K, Kitamura O : An autopsy case of a neonate with anomalous origin of coronary arteries, bicuspid aortic valve, and ventricular septal defect. 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM), Fukuoka, June 5th-8th, 2018.
5. Kitahiro M, Takeichi T, Minabe S, Zuka M : Evaluation of proteinase activity of brain aneurysms using tissue culture media from forensic medicine samples. 第102次日本法医学会学術全国集会, 福岡, 2018年6月5-8日.
6. Zuka M, Takeichi T, Minabe S, Kitahiro M : A case of unusual death due to stinging by Hymenoptera vespidae. 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (IALM), Fukuoka, June 5th-8th, 2018.
7. 桐生京佳, 高篠智, 吉田昌記, 武市敏明, 高橋かすみ, 北村修: 油圧リフターによる挟圧外傷の1剖検例. 第87回日本法医学会学術関東地方集会, 東京, 2018年10月6日.
8. 塚正彦, 阿松翔, 濱野正嘉, 五十嵐義幸, 武市敏明, 北廣雅絵, 橋田真之介, 美邊暁: 浴槽内の高温水に接触した高齢女性の2死亡事例. 第40回日本法医学会学術中部地方集会, 新潟, 2018年10月13日.
9. 高篠智, 灰塚嘉典, 北村修, 長瀬美樹, 松村讓児: 解剖実習体に対するホルマリンに代わる新しい固定液(N-Vinyl-2-Pyrrolidone)について. 第47回杏林医学会総会, 三鷹, 2018年11月17日.

#### 論文

1. Kiryu K, Takeichi T, Kitamura O : An autopsy report of accidental burial in a beach sand hole. *Leg Med (Tokyo)*. Nov;35: 88-90, 2018.

#### 著書

1. 井濱容子, 小片守, 北村修 (分担執筆), 桐生京佳 (分担執筆), 高木徹也, 高篠智 (分担執筆), 長尾正崇, 林紀乃, 向井敏二, 山田良広, 佐藤喜宣監修: アトラス臨床法医学. 岩原香織 (編著), 都築民幸 (編著). 東京, 中外医学社, 2018.

#### その他

1. 高篠智: テレビ東京連続ドラマ「警視庁ゼロ係」エンバナーミソング監修 (第4回-第7回), 2018年8月24日-9月14日.
2. 北村修: 平成30年度東京都法医学ワークショップ (医学生向け) 主催, 東京, 2019年3月27日.

#### 共同研究施設 RI部門

#### 講演

1. Fujiwara T, Kofuji T, Mishima T, Akagawa K: Syntaxin1B contributes to regulation of the dopaminergic system through GABA transmission in the CNS. FENS2018, Germany, July 7th-11th, 2018.
2. Kofuji T, Fujiwara T, Mishima T, Akagawa K: Role of syntaxin1 in glial cells on providing supportive functions for neurons through trophic support and

transmitter uptake. FENS2018, Germany, July 7th-11th, 2018.

3. Mishima T, Fujiwara T, Kofuji T, Terao Y, Akagawa K: Involvement of syntaxin 1B in the fever-associated epilepsy syndromes: Behavioral and neuronal phenotype of syntaxin 1B gene-ablated mice. FENS2018, Germany, July 7th-11th, 2018.

#### フローサイトメトリー部門

#### 講演

1. 高橋良, 大山学: 免疫チェック・ポイント阻害薬および分子標的薬で皮膚障害を認められた進行期悪性黒色腫患者における免疫担当細胞プロファイルの変化とサイトカイン産生の評価: 免疫アレルギー疾患等実用化研究事業 (免疫アレルギー疾患実用化研究分野) 新規分子標的薬による皮膚障害の調査および重症化予防の研究. 平成30年度 第1回班会議, 東京, 2018年9月21日.
2. Sato Y, Takahashi R, Kimishima M, Yamazaki Y, Ohyama M: Development of a scoring system for the prediction of the outcome of intravenous corticosteroid pulse therapy in rapidly-progressive alopecia areata. *International Investigative Dermatology 2018, USA*, May 16th-19th, 2018.

#### 報告書

1. 高橋良: スティーブンス・ジョンソン症候群は、なぜマイコプラズマ肺炎に伴って発症するのか?. 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 科学研究費助成事業 研究成果 報告書.

#### 実験動物施設部門

#### 講演

1. 米澤英雄, 大崎敬子, 北条史, 神谷茂 : *Helicobacter pylori* 外膜タンパク質AlpBの多様性が及ぼす構造変化とバイオフィーム形成. 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会, 大分, 2018年6月29日 - 7月1日.
2. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 神谷茂 : 環境土壌および滅菌土壌内における *Helicobacter pylori* の生存性について. 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会, 大分, 2018年6月29日-7月1日.
3. Osaki T, Zaman C, Yonezawa H, Lin Y, Okuda M, Hojo F, Kikuchi S, Kamiya S: Intra-familial transmission of *Helicobacter pylori* in Japanese families-Influence of intestinal indigenous microbiota. The 15th Japan-Korea Joint Symposium on *Helicobacter* infection, Oita, June 30th, 2018.
4. 大崎敬子, 北条史, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂 : *Helicobacter pylori* 感染鉄欠乏性貧血モデル動物の作出. 第52回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 川崎, 2019年1月25-26日.

#### 論文

1. 北条史, 大崎敬子<sup>1</sup>, 花輪智子<sup>1</sup>, 米澤英雄<sup>1</sup>, 蔵田訓<sup>1</sup>, 神谷茂<sup>2</sup> (1杏林大・医・感染症学, 2杏林大・保) : 環境土壌および滅菌土壌内における *Helicobacter pylori* の生存性について. *無菌生物*48(2): 77-78, 2018.

## 生物学教室

### 講演

1. 大橋拓朗, 石川由希, 森本奈央, 栗崎健, 田中良弥, 上川内あづさ: ショウジョウバエにおける種特異的なコミュニケーションを実現するシグナル認識機構の進化. 日本進化学会第20回大会, 東京2018年8月22-25日.
2. Kato K, Awasaki T: Developmental robustness of *Drosophila* adult glial architecture. 17th European *Drosophila* neurobiology conference: Neurofly 2018, Poland, September 3-7th, 2018.
3. Tanaka R, Higuchi T, Kohatsu S, Sato K, Awasaki T, Yamamoto D: An attempt to identify the neurons that are responsible for species-specific behavior using the flip-out mosaicism The 13th Japanese *Drosophila* Research Conference, Kyoto, 2018年9月10-12日.
4. 栗崎健: ショウジョウバエ成虫脳グリア組織の可塑的発生. 「認識と形成」研究会2018, 名古屋, 2018年9月22日.
5. 栗崎健: 脳機能を支えるグリア組織網. 公開シンポジウム「昆虫脳コネクトーム研究の最前線」, 東京, 2018年12月3日.
6. Awasaki T: Diversity of temperature preference in *Drosophila* species. 第41回日本分子生物学会年会, 横浜, 2018年12月29日.

### 論文

1. Kudo A<sup>1</sup>, Awasaki T, Ishikawa Y<sup>1</sup>, Matsuo T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Univ. of Tokyo): piggyBac and phiC31 integrase-mediated transgenesis in *Drosophila* *prolongata*. *Genes Genet Syst.* 92(6):277-285, 2018.
2. Ren Q<sup>1</sup>, Awasaki T, Wang YC<sup>1</sup>, Huang YF<sup>1</sup>, Lee T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>HHMI, Janelia Research Campus) Lineage-guided Notch-dependent gliogenesis by *Drosophila* multi-potent progenitors. *Development* 145(11).pii: dev160127. 2018. doi: 10.1242/dev.160127.
3. Hirai K, Wang Z<sup>1</sup>, Miura K<sup>1</sup>, Hayashi T<sup>1</sup>, Awasaki T, Wada M, Keira Y<sup>2</sup>, Ishikawa HO<sup>2</sup>, Sawamura K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Univ. of Tsukuba, <sup>2</sup>Chiba University) : Genetic analyses of *Elys* mutations in *Drosophila* show maternal-effect lethality and interactions with *Nucleoporin* genes. *G3* 8(7):2421-2431, 2018. DOI: 10.1534/g3.118.200361

### その他

1. 栗崎健, 上川内あづさ: 公開シンポジウム「昆虫脳コネクトーム研究の最前線」主催, 東京, 2018年12月3日.

## 物理学教室

### 講演

1. 大谷宗久: カイラルソリトン存在下におけるgauged Wess-Zumino項. 日本物理学会2018年秋季大会, 松本, 2018年9月15日.
2. Tohyama M: Progress in density-matrix theory and applications. The 1st APCTP-TRIUMF Joint Workshop "Understanding Nuclei from Different Theoretical Approaches". Korea, Sept. 17, 2018.
3. 遠山満: 拡張RPAによる<sup>40</sup>Ca, <sup>48</sup>CaのE1, E2遷移強度の計算. 日本物理学会第74回年次大会, 福岡, 2019年3月17日.

### 論文

1. Tohyama M: Effects of ground-state correlations on dipole and quadrupole excitations of <sup>40</sup>Ca and <sup>48</sup>Ca. *Prog Theor Exp Phys* 2018: 043D02-1-12, 2018.

## 化学教室

### 講演

1. Suga K, Yamamoto S, Nishino M, Terao Y, Akagawa K, Ushimaru M: Effect of Chemical chaperone on ER-Golgi SNARE expression and Aβ peptide production in neuronal cells. 第61回日本神経化学会大会, 神戸, 2018年9月8日.
2. Nishino M, Suga K, Yamamoto S, Ushimaru M: Effect of ER and Golgi stress inducers on apoptotic cells assessed by Caspase3 activation using Time lapse imaging analyses. 第41回日本分子生物学会年会, 横浜, 2018年11月28日.
3. 小久保友絵, 中曽一裕, 須賀圭, 杉本温子, 渡辺匡史, 藤室雅弘: ヘルペスウイルス感染細胞から神経細胞傷害活性をもつユビキチンやα-シヌクレイン凝集物が産生される Herpes simplex virus-1 infection produces cytotoxic aggregates including ubiquitin and alpha-synuclein. 第139回日本薬学会年会, 幕張, 2019年3月21日.

### 論文

1. Takahashi T<sup>1</sup>, Minami S<sup>1</sup>, Tsuchiya Y<sup>1</sup>, Tajima K<sup>1</sup>, Sakai N<sup>1</sup>, Suga K, Hisanaga S<sup>1</sup>, Ohbayashi N<sup>2</sup>, Fukuda M<sup>3</sup>, Kawahara H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Metropolitan University, <sup>2</sup>University of Tsukuba, <sup>3</sup>Tohoku University): Cytoplasmic control of Rab family small GTPases through BAG6. *EMBO Rep.* e46794. (2019) doi: 10.15252/embr.201846794.

## 英語学教室

### 講演

1. 黒田航: 意味の社会性を意識した動詞の分類とその理論的含意. 日本認知科学会第35回大会, 茨木, 2018年8月30日-9月1日.
2. Kuroda K, Yokono H, Abe K, Tsuchiya T, Asao Y, Kobayashi Y, Kanamaru T, Tagawa T: Insights from a large scale web survey for Acceptability Rating Data for Japanese (ARDJ) project. 言語処理学会第25回年次大会, 名古屋, 2019年3月12-15日.

### 論文

1. Khan FA: Active learning: Learning human anatomy. *Journal of Policy Studies* 26:53-56, Shobi University, 2018.
2. Khan FA: E-portfolios for medical students. *Bulletin of Policy and Management* 32:123-126, Shobi University, 2018.
3. Khan FA: Assessment of an applied surgical anatomy module. *Journal of Informatics for Arts* 29:57-60, Shobi University, 2018.